

基礎看護学特講Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○川原 由佳里、細野 知子

■ 授業の目的

看護学とその実践における重要概念を、関連分野の知見を含め、分析検討する。また検討した関連概念を自己の実践事例と結びつけ説明することを通じて、看護実践の本質についての理解を深める。

■ 到達目標

1. 看護学における重要概念について理解し、重要性の理由を説明する。
2. 関心を寄せる概念を選び、関連分野を含むさまざまな知見をもとに分析検討する。
3. 概念を特徴づける属性を見極め、定義を形づくる。
4. 概念に関連が深い自身の看護経験事例(エピソード)を記述し、その概念を用いて意味づけ、説明する。
5. 上の理解に基づき看護実践の本質的特徴について議論する。

■ 学習の進め方

事前学習に基づくプレゼンテーション、討議で進める。前半では学生はテキストを要約し、討論のテーマを考える。後半では文献検討に基づき、概念分析を進める。

※原則、課題提出や遠隔授業(Glexa)でのオンデマンド型、TeamsやZoomを使用した同時双方向型またはその併用の方式で進める。

【事前学習】テキストを読んでくること。

【事後学習】ディスカッションの内容や授業での学びを振り返ること。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[なし分] 事後学修：[なし分]	自宅学習	全員
2	概念の理解：Benner現象学的人間論と看護より 1)ケア-気づかいと関心 何か誰かを気遣うことによって当の関心事・関心対象に巻き込まれ、自らの関心によって己れのありようを規定される存在としての人間の理解、人に援助を行い、受けるときの条件としての気遣いについて学ぶ。 事前学修：[なし分] 事後学修：[なし分]	自宅学習	全員
3	2)時間と空間：世界内存在、状況、時間性 その人にとっての有意義性の観点から構成されるとともに、その人の生き方を規定する世界のありようと、過去から影響を受け、未来へと己を投企する時間的存在としての人間理解について学ぶ。 事前学修：[なし分] 事後学修：[なし分]	自宅学習	全員
4	3)認識と存在：身体に根ざした知性 概念的思考こそが真の知性であるという考えから、熟達した行為のもとにある身体に根差した知性、すなわち意味を帯びた状況に反応するという身体的存在論的能力について学ぶ。	同時双方向型 発表・討論	全員
5	4)主観と客観：背景の意味 意味は主観的でも客観的でもなく、文化によって誕生の時から与えられ、その人にとって何が現実と見なされるかを決定する理解の様式であるという考えについて学ぶ。	同時双方向型 発表・討論	全員
6	5)主体性と受動性：状況づけられた自由 根源的自由という近代的人間観に反して、人間はそれぞれが置かれた状況のうちに意味をもつ何らかの可能性を見出し、選びとる存在であるとする考えについて学ぶ。	同時双方向型 発表・討論	全員
7	看護における概念分析 それぞれの関心のあるテーマにそって概念を選択する。概念選択の理由に基づき、概念分析の方向性を明確にする。	同時双方向型 発表・討論	全員
8	概念の検討：用語の意味と用法 関心のある概念を使用している文書を一般的文献から専門的文献まで幅広く探索し、意味や用法を集め、概念の意味の広がり、使用される文脈との関係を分析する。	同時双方向型 発表・討論	全員

No	内容	形式	教員
9	概念の検討：用語の意味と用法 関心のある概念を使用している文書を一般的文献から専門的文献まで幅広く探索し、意味や用法を集め、概念の意味の広がり、使用される文脈との関係を分析する。	同時双方向型 発表・討論	全員
10	概念の検討：関連する用語との区別 関心のある概念に類似する用語を集め、比較検討する。また関連する用語を集め、関心のある概念との関係性について分析する。	同時双方向型 発表・討論	全員
11	概念の検討：関連する用語との区別 関心のある概念に類似する用語を集め、比較検討する。また関連する用語を集め、関心のある概念との関係性について分析する。	同時双方向型 発表・討論	全員
12	概念の検討：属性の明確化 関心のある概念について、使用する文脈を想定しながら、概念の同定にかかわる本質的な属性を明らかにする。	同時双方向型 発表・討論	全員
13	概念の検討：先行要件と結果 関心のある概念の前提、文脈、先行要件、関連要因、媒介要因、帰結を明らかにする。	同時双方向型 発表・討論	全員
14	事例による概念の説明 関心のある概念の属性に照らし合わせながら、模範ケース、境界ケース、相反ケースを作成する。	同時双方向型 発表・討論	全員
15	事例による概念の説明 関心のある概念の属性に照らし合わせながら、模範ケース、境界ケース、相反ケースを作成する。	同時双方向型 発表・討論	全員

■ 教科書

- ①ベナー/ルーベル、難波卓志(訳)、現象学的人間論と看護、医学書院、1999年
②ウォーカー他、中木高夫他(訳)、看護における理論構築の方法、医学書院、2008年

■ 参考書、参考資料等

その都度紹介する。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特講義Ⅱ、Ⅲ、Ⅳおよび基礎看護学演習・実習での学習の基礎となります。

■ 成績評価の仕方

課題レポート 70% グループワーク等取り組み 30%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30-13:00 川原(447 研究室)

■ その他

HMNU100

基礎看護学特講Ⅱ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○高田 早苗

■ 授業の目的

本講義では、看護実践の基礎をなす知の一つである「倫理」を取り上げる。バイオテクノロジーが提起する問題を、人間の尊厳と人格の自律性の観点から読み解くクヴァンテの論理展開を学ぶことを通じて、看護における倫理的問題を粘り強く考え、解決していくための論理的思考を身に付ける。

■ 到達目標

1. 人間の尊厳に関する定言的価値と民主主義的、多元的価値の違いについて理解する。
2. 人間の尊厳と QOL 評価の両立可能性について議論することができる。
3. バイオテクノロジーが提起する問題を倫理的な観点から分析することができる。
4. 生命倫理の議論を読み解くことを通じて、倫理的な看護実践のための論理的思考を身につける。

■ 学習の進め方

本テキストは生命科学が提起する倫理的問題をとりあげ、多元主義的社会における自律・自由・正義・平等・人間の尊厳・プライバシー・連帯など価値の関係を読み解くとともに、生命科学を民主的にコントロールしてゆくことの重要性を考えるものです。履修者は毎回、授業でとりあげる章を事前に読んで出席してください。担当者は担当する章を読み、テキストの論理展開に注意しながら要約を作成し、授業で発表してください。発表後、出席者全員でテキストの内容理解の確認、討論を行います。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	発表・討論	高田
2	序論. 生命科学と民主主義的価値 生命科学の倫理的な両義性は、ときに価値相互のコンフリクトとして表れる。価値相互の関係について熟考するとともに、情報開示による世論および政治的な意思決定が必要となる理由について考える。	発表・討論	高田
3	第1章 人間の尊厳と QOL 評価との両立不可能性に反対して 多元主義的社会における人間の尊厳と QOL 評価の両立可能性について議論する。人格の自律を人間の尊厳という絶対的価値に従属させず、内在的価値を社会的個々人の事実的な好みによって廃棄もしないような倫理的態度について考える。	発表・討論	高田
4	第2章 着床前診断と幹細胞研究 人間の尊厳という概念の倫理的地位について。着床前診断やヒト ES 細胞を用いた研究を題材に、生命の評価とそれに基づく生命の選別、選別の背景にある優生学的態度や個人の選好、社会的財の比較考量、社会的連帯の危機について考える。	発表・討論	高田
5	第3章 政治的か倫理的か 倫理的論証の3つの立場、定言的論証、内在的論証、外在的論証を理解する。着床前診断の例を通じて、内在的論証と外在的論証は比較考量が可能だが、定言的な見解は比較考量不可能であることを理解する。	発表・討論	高田
6	第4章 生命科学と人格概念 人格とは何か。認知症の増加や集中治療医学の進歩を念頭に置き、もはや現実に人格の自律を保持する状況にない生の期間が訪れたとき、患者の自律的な意思を延長させることはどのようにして可能かを考える。	発表・討論	高田
7	第5章 クローニングと人格の同一性 人間のクローニングをめぐる、自己の遺伝的な情報を知ることと自律的な人生を送ることとの両立可能性、人格の交換不可能性やかけがえのなさへの欲求、つまりオリジナルや本物であることの欲求への脅かしについて議論する。	発表・討論	高田
8	第6章 自己一操作？ ドーピングなど直接本人によって企てられた自己操作の結果としての改良された認知、情緒、運動などの素質についてどのように倫理的に理解できるか。社会化と教育が人格の自律に不可欠な能力の成長を促進し、少なくとも妨害しないといえる根拠は何かについて議論する。	発表・討論	高田
9	第7章 情報を受けての同意・情報を受けての拒絶・情報の拒絶 着床前診断における「知らないで済む権利」は人格の自律性と両立するか。着床前診断にまつわる諸問題として血縁者の権利、ヒト胚の道徳的地位、病者と障がい者の尊厳、社会的連帯の問題を考える。	発表・討論	高田

No	内容	形式	教員
10	第8章 臨死介助 臨死介助の領域で医療行為の道徳的な境界線はどこに引かれるか。患者のみずからの死に対する権利、医療を施す側の立場からの職業倫理、非人間的な医療にならないことへの注意喚起の間の衝突について議論する。	発表・討論	高田
11	第9章 延長された自律 患者による事前指示の倫理的正当性はどのように確保されるか。人格の自律を自己自身の将来に向けられた実践的態度(気遣い <i>Sorge</i>)として捉えるとき、事前指示を行使することのリスクとそのための改善への要求について議論する。	発表・討論	高田
12	展望 多元主義的社会における人間の尊厳と人格の自律 人間の尊厳、QOL 評価、多元主義の3者を統一するために、倫理的自己理解がもつさまざまな側面について合理的な仕方でも相互に論じ合うことの価値を考察する。	発表・討論	高田
13	クヴァンテの「プラグマティズムの人間学」構想と生命医療倫理学の現在 加藤による解説をもとに、定言的な倫理とプラグマティズムの倫理、人格における自律と承認の2つの軸から、生命倫理におけるクヴァンテの思想的位置づけを確認する。	発表・討論	高田
14	まとめ	発表・討論	高田
15	まとめ	発表・討論	高田

■ 教科書

参考書の欄を参照。

■ 参考書、参考資料等

ミヒャエル・クヴァンテ、加藤泰史監訳、人間の尊厳と人格の自律、叢書ウニベルシタス 1024、法政大学出版局、2015年。貸出可能です(川原研究室)

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特講Ⅰ、Ⅲでの学びをもとに学習を深めます。

■ 成績評価の仕方

課題レポート 70% プレゼンテーション等取組み 30%

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問を受け付ける。非常勤のためにメールにて質問やご意見等を受けます。takada@redcross.ac.jp

■ その他

HMNU150

基礎看護学特講Ⅲ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○川原 由佳里、細野 知子

■ 授業の目的

量的、質的にかかわらずあらゆる科学的研究は、学問領域を超えたさまざまな認識論的前提、存在論的前提から影響を受けている。いずれにおいても、研究では確固とした理論的基盤、理論から導かれた明確な焦点、慎重に巧緻に組み立てられた方法論の展開、前提を自覚しながらの実施なくしては有意義な成果は望めない。本講義では、量的研究の基盤をなす実証主義的科学と、質的研究の基盤をなすポスト実証主義の諸学派を取り上げ、それぞれの中心概念と研究スタイルを理解することをめざす。

■ 到達目標

1. 量的研究の理論的前提をなす科学の方法および論点を理解する。科学理論の経験的基盤や論理的構造、理論転換のメカニズム等の科学の方法論的分析、科学と社会との関係、研究開発に伴う科学者の倫理的規範など。
2. 質的研究の理論的前提をなすポスト実証主義の諸学派(解釈学、構造主義、批判理論、ポストモダン)の中心概念と研究スタイルについて理解する。

■ 学習の進め方

2つのテキストを使用します。履修者は毎回、シラバスで示された該当箇所を事前に読んで出席してください。担当者は担当する章を読み、テキストの論理展開に注意しながら要約を作成し、授業で発表してください。発表後、出席者全員でテキストの内容理解の確認、討論を行います。

※原則、課題提出や遠隔授業方式(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)で進めます。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[なし分] 事後学修：[なし分]	自宅学習	全員
2	I 科学哲学 1. 「科学」という言葉/アリストテレス的自然観 古代・中世のアリストテレス的自然観における統一的原理の探求にみられる科学的探究の萌芽を理解する。 事前学修：[なし分] 事後学修：[なし分]	自宅学習	全員
3	I 科学哲学 2. 科学革命/科学の制度化 天動説から地動説への転換、ガリレオによる古代運動論の破砕、ニュートンによる天上と地上の運動法則の統一のプロセスまでの一連の科学革命の歴史から、科学におけるコスモスの崩壊、自然の数学化、機械論的自然観の成立について理解する。 事前学修：[なし分] 事後学修：[なし分]	自宅学習	全員
4	I 科学哲学 3. 科学の方法/科学の危機/論理実証主義と統一科学 演繹法と帰納法、物理学、数学、論理学における決定論および論理性の危機、科学の規範としての論理実証主義について理解する。	同時双方向型 発表・討論	全員
5	I 科学哲学 4. 批判的合理主義と反証可能性/知識の全体論と決定実験/パラダイム論と通約不可能性 反証可能性、知識の全体論、プラグマティックな科学論、クーンのパラダイム論争について考える。	同時双方向型 発表・討論	全員
6	I 科学哲学 5. 科学社会学の展開/科学の変貌と科学技術革命、科学技術の倫理 マーソンのテーゼ、科学技術の変貌と社会的制度化、先端科学技術とリスクの増大の問題をとりあげる。JザイマンのPLACEのもとに現代の科学者の行動様式、社会に対する倫理的責任について考える。	同時双方向型 発表・討論	全員

No	内容	形式	教員
7	Ⅱ 質的研究の理論的前提 1. ポスト実証主義の諸系譜と研究スタイル 1) 質的研究を行う場合のジレンマ 2) 技としての質的研究：研究の諸系譜とスタイル	同時双方向型 発表・討論	全員
8	Ⅱ 質的研究の理論的前提 2. 解釈的アプローチの系譜 1) シンボリック相互作用論 ブルーマー、ゴフマン、ベッカー	同時双方向型 発表・討論	全員
9	Ⅱ 質的研究の理論的前提 2. 解釈的アプローチの系譜 2) 解釈学 ハーバーマス、アスト、ヴォルフ、ガダマー	同時双方向型 発表・討論	全員
10	Ⅱ 質的研究の理論的前提 2. 解釈的アプローチの系譜 3) エスメソドロジー ガーフィンケル、サックス、ビットナー、シクレル	同時双方向型 発表・討論	全員
11	Ⅱ 質的研究の理論的前提 2. 解釈的アプローチの系譜 4) エスノグラフィ ギアーツ、ベネディクト	同時双方向型 発表・討論	全員
12	Ⅱ 質的研究の理論的前提 3. 批判的アプローチの系譜 1) 批判理論 アドルノ、フロム、ホルクハイマー、マルクーゼ、ハーバマス	同時双方向型 発表・討論	全員
13	Ⅱ 質的研究の理論的前提 3. 批判的アプローチの系譜 2) フェミニズム ミラー、ギリガン、スミス、アッカー、イリガライ、ウィードン	同時双方向型 発表・討論	全員
14	Ⅱ 質的研究の理論的前提 4. ポストがつくる諸学派の系譜 1) ポスト構造主義	同時双方向型 発表・討論	全員
15	Ⅱ 質的研究の理論的前提 5. まとめ 1) 質的研究における伝統と即興 2) 研究の質のコントロール：個々人の主体性 3) 研究の質のコントロール：ゲートキーパー 4) 質的研究をつくる喜び	同時双方向型 発表・討論	全員

■ 教科書

野家啓一、科学哲学への招待、ちくま学芸文庫、2015年
 ブシュカラ・プラサド、質的研究のための理論入門、ナカニシヤ出版、2020年

■ 参考書、参考資料等

D・メドウズ他、成長の限界、ダイヤモンド社、2007
 U・ベック、危険社会、法政大学出版会、1998
 藤垣裕子、専門知と公共性、東京大学出版会、2003
 吉見俊哉、夢の原子力、ちくま新書、2012
 ハンス・ヨナス、責任という原理、2000 他 授業中に随時紹介する。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特講義Ⅱ、Ⅳおよび基礎看護学演習・実習での学習の基礎となります。

■ 成績評価の仕方

課題レポート 70% プレゼンテーション等取組み 30%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原(447 研究室)

■ その他
HMNU101

基礎看護学特講Ⅳ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○川原 由佳里、細野 知子、石原 美和

■ 授業の目的

本講義では、時代や社会のニーズに応じた保健医療福祉に関わる法令、制度、政策の変革と、それが保健医療サービスの受け手や看護実践に及ぼす影響を学ぶ。これを通じて保健医療システムにおける看護の役割に影響する要因を構造的に分析し、ケアを可能にする制度・政策の方向性について考察する。

■ 到達目標

1. 保健医療の制度・政策の変化とそれがサービスの受け手に及ぼす影響を述べることができる。
2. 保健医療の制度・政策の変化とそれが看護実践に及ぼす影響を説明することができる。
3. 現代の保健医療ニーズと保健医療システムの課題、看護に期待される役割を考察することができる。
4. 看護に期待される役割を果たす上での制度・政策の課題を明らかにすることができる。
5. 上記の理解のもとに看護ケアを可能にする制度・政策の方向性について検討する。

■ 学習の進め方

講義、グループワークに基づくプレゼンテーション、ディスカッションを通じて学習を深める。

事前に必読文献を読み、レジメを用意して臨むこと。終了後はディスカッションのポイントについて振り返りを行うこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	川原・細野
2	看護制度の歴史の変遷	発表・討論	川原・細野
3	医療資格制度の構造	発表・討論	川原・細野
4	近年の准看護婦制度の政策過程	発表・討論	川原・細野
5	訪問看護制度の改革過程	発表・討論	川原・細野
6	看護政策の特徴と推進の課題	発表・討論	川原・細野
7	看護制度の課題と今後の方向性	発表・討論	川原・細野
8	制度変革のために	発表・討論	川原・細野
9	看護行政の実際	講義	石原
10	地域における保健医療福祉と看護職	講義	石原
11	ケアを可能にする制度施策に向けた検討 オリエンテーション	発表・討論	川原・細野
12	グループワーク(1)課題の明確化	発表・討論	川原・細野
13	グループワーク(2)課題と状況の分析	発表・討論	川原・細野
14	グループワーク(3)制度・施策の分析	発表・討論	川原・細野
15	グループワーク(4)提言の作成	発表・討論	川原・細野

■ 教科書

野村陽子、看護制度と政策、法政大学出版会 2015年

■ 参考書、参考資料等

授業中に随時紹介する。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特講Ⅰ、Ⅲでの学びをもとに学習を深めます。

■ 成績評価の仕方

課題レポート 70% グループワーク等取組み 30%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30-13:00 川原(447研究室)

■ その他

HMNU151

基礎看護学特別研究Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○川原 由佳里、細野 知子

■ 授業の目的

学生の関心領域を中心に、研究文献を購読したり批判的に検討したりしながら各人の研究の焦点を明確にする。これらの議論を通して研究方法や自己の探究する看護現象への理解を深め、研究可能なテーマを絞っていき、研究の進行をはかる。

■ 到達目標

1. 臨床場面での経験を振り返る。
2. 文献の抄読を通じてテーマに関する幅広い知識を身につける。
3. 研究論文のクリティークを通じて研究疑問に関する既存の知識、アプローチの実際を知る。
4. テーマに即した適切な研究アプローチについて検討する。
5. 研究課題を明確にする。

■ 学習の進め方

事前学習で用意したものについて、授業は各自の研究の進捗状況に応じて展開し、学生の関心に従い文献を選択し購読、議論を毎回行う。
【事前学習】 各自の関心領域について文献や自らの経験の振り返りをもとに、研究テーマに関する進行状況をプレゼンテーションする準備を行う。

【事後学習】 授業の内容を振り返り、課題を明確にし、取り組む。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	演習	川原・細野
2	研究疑問の明確化	演習	川原・細野
3	研究疑問の明確化	演習	川原・細野
4	研究疑問の明確化	演習	川原・細野
5	文献検討：データベースの使用と検索ワード	演習	川原・細野
6	文献検討：国内の研究論文の検索：良質な文献の選び方	演習	川原・細野
7	文献検討：国内の研究論文のクリティーク 調査研究	演習	川原・細野
8	文献検討：国内の研究論文のクリティーク 質的研究	演習	川原・細野
9	文献検討：国内の研究論文のクリティーク 量的研究	演習	川原・細野
10	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・細野
11	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・細野
12	文献検討：国内の研究論文のまとめ	演習	川原・細野
13	文献検討：国内の研究論文のまとめ	演習	川原・細野
14	文献検討：海外の研究論文の検索	演習	川原・細野
15	文献検討：海外の研究論文のクリティーク	演習	川原・細野
16	文献検討：海外の研究論文のクリティーク	演習	川原・細野
17	文献検討：海外の研究論文のまとめ	演習	川原・細野
18	研究課題の明確化 研究の背景に関する検討	演習	川原・細野
19	研究課題の明確化 文献レビューのまとめ	演習	川原・細野
20	研究課題の明確化 研究目的と課題の明確化	演習	川原・細野
21	研究課題の明確化 研究課題の意義と必要性の検討	演習	川原・細野
22	研究方法の検討 既存の研究アプローチの概観	演習	川原・細野
23	研究方法の検討 研究施設と研究参加者／研究参加者の募り方	演習	川原・細野
24	研究方法の検討 データ収集の方法	演習	川原・細野
25	研究方法の検討 データ分析の方法	演習	川原・細野
26	研究方法の検討 倫理的配慮	演習	川原・細野
27	研究計画書の作成	演習	川原・細野
28	研究計画書の作成	演習	川原・細野

No	内容	形式	教員
29	研究計画書の作成と発表	演習	川原・細野
30	研究計画書の作成と発表	演習	川原・細野

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

バーンズ&グローブ看護研究入門原著第7版、Suzan K.Grove 他、エルゼビアジャパン

■ フィードバックの仕方

参考書の出版年を記入してください。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究Ⅱ・Ⅲを通じて研究を進めます。

■ 成績評価の仕方

演習への参加度 30 % 課題の発表内容と方法 30 % レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原(447 研究室)

■ その他

HMNU180

基礎看護学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○川原 由佳里、細野 知子

■ 授業の目的

個々の研究を進めるなかで生じる疑問や課題について、文献やフィールドノートなどをもとにディスカッションを行い、自己の探求する看護現象への研究的アプローチと倫理的配慮について検討する。研究デザインに応じて、データ収集とデータ分析を実施する。

■ 到達目標

1. 研究実施に際して必要な倫理的配慮を検討する。
2. 関心のある看護現象を探求するためのフィールドを確保する。
3. 研究参加者となる可能性のある候補者への説明と同意のプロセスを経て、研究参加者を得る。
4. 研究デザインに応じて観察、面接、質問紙等の方法を用いてデータを収集する。
5. 研究デザインに応じてデータ分析を行なう。
6. スーパーバイズを受け妥当性・信頼性を確保しながら上記のデータ収集と分析を行なう。

■ 学習の進め方

授業は各自の研究の進捗状況に応じて展開し、学生の関心に従い文献を購読、あるいはフィールドワーク(FW)のデータについて議論を毎回行う。

【事前学習】研究テーマに関する進行状況をプレゼンテーションする準備を行う。

【事後学習】授業の内容を振り返り、課題を明確にし、取り組む。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	全員
2	研究倫理審査の実際 説明と自由意志に基づく同意	演習	全員
3	研究倫理審査の実際 研究参加者の脆弱性に対する倫理的配慮	演習	全員
4	研究倫理審査の実際 個人情報保護のための倫理的配慮	演習	全員
5	研究倫理審査の実際 研究に参加することによる不利益に対する配慮	演習	全員
6	研究倫理審査の実際 研究結果の還元	演習	全員
7	研究施設と研究参加者へのアプローチ	演習	全員
8	研究施設と研究参加者へのアプローチ	演習	全員
9	研究フィールドへの入り方：研究者の立場	演習	全員
10	研究フィールドへの入り方：研究者の立場	演習	全員
11	データ収集 研究フィールドの特徴の理解	演習	全員
12	データ収集 研究フィールドの特徴の理解	演習	全員
13	データ収集・データ分析の実際(研究デザインに応じて)	演習	全員
14	データ収集・データ分析の実際	FW	全員
15	データ収集・データ分析の実際	演習	全員
16	データ収集・データ分析の実際	FW	全員
17	データ収集・データ分析の実際	演習	全員
18	データ収集・データ分析の実際	FW	全員
19	データ収集・データ分析の実際	演習	全員
20	データ収集・データ分析の実際	FW	全員
21	データ収集・データ分析の実際	演習	全員
22	データ収集・データ分析の実際	FW	全員
23	データ収集・データ分析の実際	演習	全員
24	データ収集・データ分析の実際	FW	全員
25	データ収集・データ分析の実際	演習	全員
26	データ収集・データ分析の実際	FW	全員
27	データ収集・データ分析の実際	演習	全員

No	内容	形式	教員
28	データ収集・データ分析の実際	FW	全員
29	データ収集・データ分析の実際	演習	全員
30	データ収集・データ分析の実際	FW	全員

■教科書

なし

■参考書、参考資料等

バーンズ&グローブ看護研究入門原著第7版、Suzan K.Grove 他、エルゼビアジャパン

■フィードバックの仕方

参考書の出版年を記入してください。

■他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究Ⅰを履修していること。

■成績評価の仕方

演習への参加と自己の課題への取り組み 40% レポート 60%

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原(447 研究室)

■その他

HMNU280

基礎看護学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○川原 由佳里、細野 知子

■ 授業の目的

自己の研究課題に対し、それに適した研究活動を行い、研究論文を完成させることを通して研究遂行能力を高める。

■ 到達目標

1. 研究計画書にそってデータ収集、分析を行う。
2. 得られた結果に基づき考察を行い、それらを記述する。
3. 研究論文として完成させる。
4. 論文審査のプロセスを通して、自己の研究能力における課題を明確にすることができる。
5. 看護専門家あるいは看護研究、教育者として、今後どのようなキャリア形成を行うのか、自己の課題を明確にできる。

■ 学習の進め方

学生の学習課題を考慮して進める。特別研究Ⅲでは、ゼミでの意見交換あるいは自己の取り組みを通して、研究の最終段階として論文作成に至るプロセスを学ぶ。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	川原・細野
2	データの収集・分析	演習	川原・細野
3	データの収集・分析	FW	川原・細野
4	データの収集・分析	演習	川原・細野
5	データの収集・分析	FW	川原・細野
6	データの収集・分析	演習	川原・細野
7	データの収集・分析	FW	川原・細野
8	データの収集・分析	演習	川原・細野
9	データの収集・分析	FW	川原・細野
10	データの分析	演習	川原・細野
11	データの分析	演習	川原・細野
12	データの分析	演習	川原・細野
13	データの分析	演習	川原・細野
14	データの分析：結果の構成についての検討	演習	川原・細野
15	データの分析：結果の構成についての検討	演習	川原・細野
16	データの分析：結果の構成についての検討	演習	川原・細野
17	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・細野
18	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・細野
19	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・細野
20	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・細野
21	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・細野
22	研究論文の作成：考察	演習	川原・細野
23	研究論文の作成：考察	演習	川原・細野
24	研究論文の作成：考察	演習	川原・細野
25	研究論文の作成：考察	演習	川原・細野
26	研究論文の作成：全体構成の確認	演習	川原・細野
27	研究論文の作成：抄録の作成	演習	川原・細野
28	研究論文の審査	演習	川原・細野
29	研究論文の修正と発表に向けての準備	発表・演習	川原・細野
30	研究論文の発表、今後の研究課題の明確化	発表	川原・細野

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

バーンズ&グローブ看護研究入門原著第7版、Suzan K.Grove 他、エルゼビアジャパン

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究ⅠⅡを履修していること。

■ 成績評価の仕方

自己課題に対する取り組み 30 % 資料作成および発表内容 40 % 課題レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 高田学長室(1F) 川原(447 研究室)

■ その他

HMNU281

基礎看護学実習Ⅰ

単位：3単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○川原 由佳里、細野 知子

■ 授業の目的

基礎看護学領域の研究課題や研究方法を絞り込むにあたり、関心ある看護現場での看護実践を通してその看護現象についての理解を深める。

■ 到達目標

1. 看護場面での現象を観察することを通じて研究テーマを絞り込む。
2. 研究テーマに関する自らの経験を多角的な観点からとらえなおす。
3. 研究遂行にとって適切な研究施設を選択し、調整する。

■ 学習の進め方

学生の関心に合わせて、実習課題を明確にし、実習計画を作成する。計画にもとづき実習場所を選択・依頼し実習を行う。実習課題に基づき、実習での経験を考察し、当該現象についての理解を深めることで、自己の研究課題の明確化に繋げる。演習および実習。事前に実習計画を立案し、指導を受けたい点についてまとめたレジメを用意して臨むこと。終了後は指導のポイントについて振り返りを行うこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習期間：3週間。個々人の計画によりスケジュールを決定する。

実習場所：計画に応じて場所を選択する。

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

ウヴ・フリック：質的研究入門 人間の科学のための方法論、春秋社、新版

■ フィードバックの仕方

参考書の出版年を記入してください。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究Ⅰを履修していること。

■ 成績評価の仕方

実習計画書の作成 10% 実習への取り組み 60% レポート 30%

■ オフィスアワー・研究室等

火曜日の12:30-13:00 川原(447 研究室)

■ その他

HMNU181

基礎看護学実習Ⅱ

単位：3 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○川原 由佳里、細野 知子

■ 授業の目的

基礎看護学実習Ⅰに加え、さらに広範囲で複雑多様な看護現象を経験的に学ぶことに加え、関心のある看護現象を研究するための研究方法の可能性について実践を通して探求する。

■ 到達目標

1. 研究遂行にとって適切な研究施設を選択し、調整する。
2. 研究参加者・協力者にアプローチし、必要に応じて関係を築く。
3. 観察や面接し、質問紙等のアプローチを試し、洗練させる。
4. データを分析し、洗練させる。

■ 学習の進め方

学生の関心に合わせて、実習課題を明確にし、実習計画を作成する。計画にもとづき実習場所を選択・依頼し、実習を行う。実習課題に基づき、実習での経験を考察し、自己の研究課題と研究方法の明確化に繋げる。事前に実習計画を立案し、指導を受けたい点についてまとめたレジメを用意して臨むこと。終了後は指導のポイントについて振り返りを行うこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習期間：計画によって期間・スケジュールを決定する。

実習場所：計画に応じて場所を選択する。

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

バーンズ&グローブ看護研究入門 原著第7版、Susan K.Grove 他、エルゼビアジャパン

■ フィードバックの仕方

参考書の出版年を記入してください。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究Ⅰを履修していること。

■ 成績評価の仕方

実習計画書の作成 10% 実習への取り組み 60% レポート 30%

■ オフィスアワー・研究室等

火曜日の 12:30～13:30 川原(447 研究室)

■ その他

HMNU282

がん看護学特講Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○守田 美奈子、樋口 佳栄、高木 聡、熊坂 利夫、中根 実、古畑 善章、納富 理絵

■ 授業の目的

がんの増殖・転移等に関する分子生物学、遺伝学、疫学、病態生理学、診断と治療に関する最新の知見、臨床判断過程を学ぶ。それらを土台に、患者と家族の治療・療養生活を支援するための看護判断力を養う。

■ 到達目標

1. がんの増殖・転移、治療法や病態に関する最新の知見を元に、治療経過による病態生理学的変化を解釈、判断することができる。
2. がん治療に伴う薬剤使用の判断、投与後のモニタリング、生活調整等の看護アセスメント、判断を行うことができる。
3. 1, 2に基づき、看護として患者、家族の療養生活支援上の課題を明らかにすることができる。

■ 学習の進め方

1. 対面講義と遠隔講義を組み合わせて行う
2. 演習：学生によるプレゼンテーション・意見交換
3. 参考文献・資料の提示：授業で取扱う関連文献を紹介する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	【自宅学習課題> これまでに会ったがん患者について、以下の点を含めてレポートをまとめる。 1. はじめに：取り上げた理由を述べる。 2. 疾患について：診療ガイドラインを参照しながらまとめる。 3. 実践：自らの実践あるいはチームとしての実践について述べる。 4. 考察：1～3を通して、考えたこと、学んだことを述べる ※ A4 用紙3～4枚程度 ワードで作成する ※参考：がん診療ガイドライン(http://www.jsco-cpg.jp/ ；日本癌治療学会 HP) 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・樋口
2	自宅学習課題に取り組む 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・樋口
3	自宅学習課題に取り組む 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・樋口
4	1. 最新治療の動向と看護：消化器系のがんの病態・診断プロセスと治療 2. 最新治療の動向と看護：がんの病態・診断プロセスと治療(放射線治療含む) 3. 4月自宅学習課題プレゼンテーションとディスカッション 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	守田・樋口
5	最新治療の動向と看護：呼吸器系のがんの病態・診断プロセスと治療 1 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	古畑
6	最新治療の動向と看護：呼吸器系のがんの病態・診断プロセスと治療 2 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	古畑
7	最新治療の動向と看護：乳腺のがんの病態・診断プロセスと治療最新治療の動向と看護 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	古畑

No	内容	形式	教員
8	最新治療の動向と看護：造血器系のがんの病態・診断プロセスと治療 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	中根
9	化学療法に関する最新の知見 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	中根
10	がんの分子生物学 1 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	対面講義	高木
11	がんの分子生物学 2 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	対面講義	高木
12	がんの病理学的診断法 1 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	熊坂
13	がんの病理学的診断法 2 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	熊坂
14	がんにおける遺伝医療の動向と患者・家族への支援 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	納富
15	がんにおける遺伝医療の動向と患者・家族への支援 事前学修：[60分] 事前に配布する授業資料内容を読み、疑問点、関心を持ったトピックについてまとめる。 事後学修：[60分] 授業をもとに看護における臨床判断という視点から課題を明確化する。	同時双方向型	納富

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

日本臨床腫瘍学会編 (2018). 新臨床腫瘍学第 5 版. 南江堂.

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、コメントをつけてレポートの返却を通じて行う。後期開始時にポータルにて返却期間、場所を連絡する。

■ 他の授業科目との関連

病態生理学、臨床薬理学、フィジカルアセスメントなどの科目との関連が強いので、可能な範囲で履修することが望ましい。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション課題への取り組み 30 % 課題レポート 70 %

■ オフィスアワー・研究室等

随時、電子メールで質問を受け付ける。守田(morita@redcross.ac.jp)・

樋口(y.higuchi@redcross.ac.jp)

■ その他

HMCA100

がん看護学特講Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○守田 美奈子、樋口 佳栄、大西 秀樹、濱口 恵子

■ 授業の目的

がんとともに生きる人々とその家族の体験を深く理解し、全人的な看護を実践するための土台となる理論や概念を探究する。がん看護領域における諸現象を理論と対照しつつ考察し、看護実践のありかたや課題について考察する。

■ 到達目標

1. がんとともに生きる人々とその家族の体験理解の土台となる理論や概念を理解することができる。
2. がん看護領域における諸現象を理論と対照しつつ考察することができる。
- 3.1, 2 に基づき、看護実践や研究上の課題について自己の考えを明確化することができる。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：文献や研究論文をよみ、プレゼンテーションを行う。追加内容を講義する。
2. 意見交換：プレゼンテーション内容等について、質疑・討議を行う。
3. 参考文献・資料の提示：授業で取扱う関連文献を紹介し、各回のテーマについて学生がさらに学ぶことができるようにする。
4. 【事前学修】 授業前には、課題を調べ担当者は資料を作成する。
5. 【事後学修】 授業後は、課題の復習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	がん看護学の発展の歴史的経緯と動向 事前学修：[60 分] がん看護の発展、今日までの動向についてまとめ、疑問点、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60 分] 討議内容を要約し、今後の自分自身が取り組む課題を明確化する。	講義・討論	守田・樋口
2	がん看護と現象学的看護論：ペナー 事前学修：[60 分] テキストを読み、関連する実践経験、事例について A 4 用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60 分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	講義・討論	守田・樋口
3	がん看護と現象学的看護論：ペナー 事前学修：[60 分] テキストを読み、関連する実践経験、事例について A 4 用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60 分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	講義・討論	守田・樋口
4	がん患者・家族の体験理解：病いの意味論、ナラティブ・アプローチ 1. 事前学修：[60 分] テキストを読み、関連する実践経験、事例について A 4 用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60 分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	GW	守田・樋口
5	がん患者・家族の体験理解：病いの意味論、ナラティブ・アプローチ 2. 事前学修：[60 分] テキストを読み、関連する実践経験、事例について A 4 用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60 分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	GW	守田・樋口
6	がん患者・家族の体験理解：サイコオンコロジーの視点から 1 事前学修：[60 分] テキストを読み、関連する実践経験、事例について A 4 用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60 分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	講義・討論	大西
7	がん患者・家族の体験理解：サイコオンコロジーの視点から 2 事前学修：[60 分] テキストを読み、関連する実践経験、事例について A 4 用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60 分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	講義・討論	大西
8	がん患者・家族の体験理解：身体、自己概念 事前学修：[60 分] 取り扱う概念、理論に関連する実践経験、事例について A 4 用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60 分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	GW	守田・樋口

No	内容	形式	教員
9	がん看護の実践：危機理論 事前学修：[60分] 取り扱う概念、理論に関連する実践経験、事例について A 4用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	GW	守田・樋口
10	がん看護の実践：ストレス・コーピング理論 事前学修：[60分] 取り扱う概念、理論に関連する実践経験、事例について A 4用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	GW	守田・樋口
11	がん看護の実践：セルフケア理論 事前学修：[60分] 取り扱う概念、理論に関連する実践経験、事例について A 4用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	GW	守田・樋口
12	がん看護の実践：ソーシャル・サポート理論 事前学修：[60分] 取り扱う概念、理論に関連する実践経験、事例について A 4用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	GW	守田・樋口
13	がん看護領域における意思決定支援に関する理論・アプローチ 事前学修：[60分] 取り扱う概念、理論に関連する実践経験、事例について A 4用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	講義・討論	濱口
14	がん看護領域における倫理的問題を理解するための理論・アプローチ 事前学修：[60分] 取り扱う概念、理論に関連する実践経験、事例について A 4用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	講義・討論	濱口
15	がん看護実践における家族支援に関する理論・アプローチ 事前学修：[60分] 取り扱う概念、理論に関連する実践経験、事例について A 4用紙 1 枚にまとめてくる。 事後学修：[60分] 討議内容を要約し、疑問点、さらに深めたい点について明確化する。	GW	守田・樋口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

授業の開始時に紹介します。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、3月下旬までに、コメントを付けたレポートの返却を通して行います。返却期間、日時、方法はポータルにて連絡します。

■ 他の授業科目との関連

共通科目の「看護理論」の学習内容にもとづき、特にがん看護に必要な理論、概念内容を扱います。

■ 成績評価の仕方

課題の取り組み 50% 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

研究室：講義日の 12：15～13：00 守田(413 研究室)・樋口(411 研究室)

■ その他

HMCA150

がん看護学特講Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○吉田 みつ子、守田 美奈子

■ 授業の目的

がん治療によってもたらされた身体の器質的・機能的変化、心理社会的な影響を的確に判断するためのエビデンスを学ぶ。それらを踏まえ、がんリハビリテーションに関する諸理論とアプローチ、看護実践上の課題について学ぶ。

■ 到達目標

1. がん治療によってもたらされる短期的、長期的な身体の器質的・機能的変化、心理社会的な影響について理解する。
2. がんリハビリテーションに関する研究動向、実践経験等を元に、QOL 改善に向けた援助方法について考察することができる。
3. がんリハビリテーション看護に関する最近の研究動向、様々なエビデンスを元に、実践上の課題について考察することができる。

■ 学習の進め方

1. プレゼンテーション担当者は、テキストの指定箇所を要約・抜粋して、プレゼンテーションしてください。
2. プレゼンテーション担当者は、テキストの指定箇所の文中で紹介されている研究論文(末尾の文献リスト参照)から 1 本を選び、内容を紹介する。あるいは、関心をもった関連の研究論文 1 本を選び、内容を紹介してください。
3. 1. 2. を踏まえ、受講者間で、疑問点、確認したい点、臨床での実践経験の意味などについて話し合います。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	テキスト該当ページ(p.1~19)がん医療におけるリハビリテーションと看護の役割、がんリハビリテーション・サバイバーシップを読み、これまでの実践経験を踏まえ、がんのリハビリテーションと看護に関する課題についてA4サイズレポート用紙2~3枚でまとめてください。 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田吉田
2	同上 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田吉田
3	同上 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田吉田
4	オリエンテーション、がんリハビリテーション・サバイバーシップ等関連概念の検討 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
5	がん医療におけるリハビリテーションと看護の役割 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
6	治療後に機能障害を抱える患者・家族の体験と援助：肺がんのリハビリテーションと看護 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
7	治療後に機能障害を抱える患者・家族の体験と援助：消化器がん(大腸・胃・食道)のリハビリテーションと看護 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
8	治療後に機能障害を抱える患者・家族の体験と援助：乳がんのリハビリテーションと看護 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田

No	内容	形式	教員
9	治療後に機能障害を抱える患者・家族の体験と援助：造血管がんのリハビリテーションと看護 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
10	治療後に機能障害を抱える患者・家族の体験と援助：婦人科がんのリハビリテーションと看護 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
11	治療後に機能障害を抱える患者・家族の体験と援助：頭頸部がんのリハビリテーションと看護 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
12	治療後に機能障害を抱える患者・家族の体験と援助：泌尿器系がんのリハビリテーションと看護 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
13	終末期・緩和ケアにおけるリハビリテーションと看護 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
14	治療後に機能障害を抱える患者・家族の体験と援助：すい臓がん・肝臓がんのリハビリテーションと看護 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田
15	治療後に機能障害を抱える患者・家族の体験と援助：妊孕性を求める人々への支援 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	同時双方向型	守田吉田

■ 教科書

近藤まゆみ・久保五月(2019)がんサバイバーシップ. 第2版. 医歯薬出版株式会社. 辻哲也編集(2011)がんのリハビリテーションマニュアル. 医学書院.

■ 参考書、参考資料等

下記のほかにも授業時に紹介する。

辻 哲也編(2011)がんのリハビリテーションマニュアル 周手術期から緩和ケアまで. 医学書院.

K.D.Miller 編(2010)／勝俣範之監訳 がんサバイバー 医学書院

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーション・討議の進め方・内容については、各回ごとにフィードバックを行う。

■ 他の授業科目との関連

がん看護学特講Ⅳを履修する場合は本科目も受講しておくことを勧める。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション 50% 課題への取り組み 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の昼休み 守田(413 研究室) 吉田(448 研究室)

■ 受講上の注意事項

資料準備：プレゼンテーション資料、紹介する研究論文は Teams のファイルに挙げるか、受講者全委員にメールで添付してください。
COVID-19 の状況をみながら、がんリハビリテーションと看護実践の実際について、見学を希望したい施設等を調整します。

■ その他
HMCA101

がん看護学特講Ⅳ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○吉田 みつ子、守田 美奈子、遠藤 公久

■ 授業の目的

長期にわたり、サバイバーとして生きる患者・家族が、治療過程の身体的・心理社会的な種々の制約、苦悩の中で、可能な限り早期に復帰できるためのがんリハビリテーションの援助方法を学ぶ。

■ 到達目標

1. がんリハビリテーションが必要な患者および家族が抱える身体的・心理社会的制約、苦悩に関する研究動向を踏まえ、現状と課題を明らかにすることができる。
2. QOL 向上のための援助方法として、がんの病期に応じた身体的(運動療法)、心理社会的介入等(サポート・グループ、カウンセリング)、種々の支援方法に関する基礎的知識・技術について修得する。
3. 演習を通して、実際の援助、展開上の課題について考察し理解を深める。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：受講者がプレゼンテーションを行う。
2. 意見交換・共有：プレゼンテーション内容等について、全体討議を行う。
3. 参考文献・資料の提示：授業で取扱う関連文献を紹介し、学生がさらに探究できるようにする。
4. ロールプレイを通して、患者への訓練、教育的かわり、サポート・グループ、相談支援におけるスキルを検討する。
5. がん相談支援センター、患者サロン等を見学し、患者・家族支援の実際を理解する。
6. 事前学修：各回のテーマに即して関連文献に目を通す。
7. 事後学修：授業資料を見直し、関連文献を読む。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	がんリハビリテーションが必要な患者および家族が抱える身体的・心理社会的な種々の問題と特徴 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	守田・吉田
2	がんの病期に応じたアプローチとその特徴(予防期・回復期・維持期・緩和期) 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	守田・吉田
3	抗がん剤・放射線治療中の運動療法のエビデンスと実際(ロールプレイを含む) 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	守田・吉田
4	開胸・回復手術前後の呼吸リハビリテーションのエビデンスと実際(ロールプレイを含む) 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	守田・吉田
5	発声・嚥下に関するリハビリテーションのエビデンスと実際(ロールプレイを含む) 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	守田・吉田
6	言語障害・運動機能障害に関するリハビリテーションのエビデンスと実際(ロールプレイを含む) 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	守田・吉田
7	がん患者・家族の心理社会問題に対する援助方法論：カウンセリング技法 1 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	遠藤

No	内容	形式	教員
8	がん患者・家族の心理社会問題に対する援助方法論：カウンセリング技法 2 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	遠藤
9	がん患者・家族の心理社会問題に対する援助方法論：サポート・グループ 1 (目的・効果) 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	遠藤
10	// サポート・グループ 2 (グループの構成) 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分]	発表・討議	遠藤
11	// サポート・グループ 3 (グループのファシリテーション) 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	遠藤
12	// 自助グループ/患者会活動の理解と支援/NPO 団体等の活動の実際 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	遠藤
13	がん相談支援センター等における看護師の役割と課題 1：がん相談支援センター・患者サロン等の活動の実際(相談支援センター・患者サロン等の見学) 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	守田・吉田・遠藤
14	がん相談支援センター等における看護師の役割と課題 2：がん相談支援センター・患者サロン等の活動の実際(相談支援センター・患者サロン等の見学) 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	守田・吉田・遠藤
15	まとめ 事前学修：[60分] 授業全体を通して本分野における課題を挙げてくる。 事後学修：[60分] 討議内容をまとめ、自己の今後の課題を明確化する。	発表・討議	守田・吉田・遠藤

■ 教科書

近藤まゆみ・久保五月(2019)がんサバイバーシップ. 第2版. 医歯薬出版株式会社.

■ 参考書、参考資料等

下記のほかにも授業時に紹介する。

日本リハビリテーション医学会・がんのリハビリテーションガイドライン策定委員会編(2013). がんのリハビリテーションガイドライン. 金原出版株式会社.

伊藤義美(編)(2002). ヒューマンスティック・グループ・アプローチ. ナカニシヤ出版.

近藤喬一・久保紘章・石川到寛(1998). セルフヘルプ・グループの理論と展開. 中央法規.

野島一彦(2000). エンカウンター・グループのファシリテーション. ナカニシヤ出版.

Spiegel, D. & Classen, C. (2000). Group therapy for cancer patients: Research-based handbook of psychosocial care.

Basic Books. (朝倉隆司・田中祥子監訳 2003 がん患者と家族のためのサポート・グループ. 医学書院.)

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーション・討議の進め方・内容については、各回ごとにフィードバックを行う。

■ 他の授業科目との関連

がん看護学特講Ⅲと連動した内容となっている。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション 50% 課題への取り組み 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の昼休み 守田(413 研究室)吉田(448 研究室)遠藤(404 研究室)

■ その他

HMCA151

がん看護学特講V ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○吉田 みつ子、茅根 義和、小笠原 利枝

■ 授業の目的

生命を脅かす疾患の診断初期から治療期、再発転移、エンド・オブ・ライフ期にある患者・家族が抱える苦痛症状や苦悩を包括的に理解し、緩和するための諸理論とエビデンス、臨床判断過程について学ぶ。緩和ケアの提供システム、リソースの活用・展開、調整について学ぶ。

■ 到達目標

1. がん患者の苦痛について諸理論、諸概念、病態、症状緩和に関する最新の知見等をもとにアセスメントし、判断することができる。
2. 症状緩和のための薬物療法、理学療法、心理社会的介入、看護援助等の援助方法について、事例を通して検討することができる。
3. 緩和ケアにおける多職種によるチームアプローチ、活用可能なリソースを検討し、患者・家族の QOL 向上に向けた課題について明かにすることができる。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：受講者がプレゼンテーションを行う。
2. 意見交換・共有：プレゼンテーション内容等について、全体討議を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	緩和ケアの概念・背景と今日的課題(がん・非がんを含む) 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田
2	緩和ケアを要する患者の症状マネジメントに関する専門看護師の臨床判断とアプローチ 事前学修：[120 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、課題資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「講義」「討議」	小笠原
3	緩和ケアにおけるチーム医療、緩和ケアにおける専門看護師の活動 事前学修：[120 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、課題資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「講義」「討議」	小笠原
4	苦痛緩和における症状マネジメントに関する臨床判断と評価 事前学修：[120 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、各自の経験事例について分析す、資料を作成する。	「講義」「討議」	茅根
5	緩和ケアにおける症状マネジメントに関する臨床判断と評価 事前学修：[120 分] 授業時の発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	茅根
6	緩和ケアにおける疼痛マネジメントに関する理論とアプローチの実際 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田
7	緩和ケアにおける諸症状の緩和に関する理論とアプローチの実際：呼吸器系症状 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田
8	// : 消化器系症状 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田
9	// : 精神・神経学的症状 事前学修：[60 分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田

No	内容	形式	教員
10	緩和困難な複雑な事例への対応 1 (事例検討) 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田
11	緩和困難な複雑な事例への対応 2 (事例検討) 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田
12	全人的苦痛の理解とアプローチ：スピリチュアルペイン 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田
13	// : 家族・遺族へのケア 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田
14	// : 地域・在宅ケア・地域連携における課題 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田
15	// : 倫理的課題 事前学修：[60分] 授業でとりあげる内容に即して文献を読み、発表資料を作成、討議したい点を挙げる。 事後学修：[60分] 授業での討議を踏まえ、今後の課題を明確化する。	「発表」「討議」	吉田

■ 教科書

森田達也・白土明美(2015)死亡直前と看取りのエビデンス. 医学書院.
岸本寛史(2015)緩和ケアという物語. 創元社.

■ 参考書、参考資料等

日本緩和医療学会編 各種ガイドライン.

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、後期終了後にコメントを付けて返却する。返却期間、日時、方法はポータルにて連絡する。

■ 他の授業科目との関連

がん看護学特講Ⅲ・Ⅳと連動する。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション 50% 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の昼休み 吉田(448 研究室)

■ その他

HMCA152

がん看護学演習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄、嶋中 ますみ

■ 授業の目的

がん患者と家族の複雑な健康問題に対して、的確にアセスメントするための視点や分析方法、記述方法を学び、包括的な支援を提供するための援助方法論について学ぶ。それらを通し、がん看護専門看護師に求められる現象の理解、判断力、実践力の基盤を養う。

■ 到達目標

1. 身体・病い・経験に関する理論、ナラティブ・アプローチなどを土台に、事例を記述し、がん看護実践を表現するための方法論について考察することができる。
2. 患者・家族のがんに伴う様々な体験に適した援助方法について、文献等をもとに、援助方法のエビデンス、有効性や妥当性を検討することができる。(RCT 等、論文のクリティクに関するスキルを含む)
3. 看護援助方法の有効性・妥当性を検討するための研究方法、ケアの評価方法に関して理解する。
4. コンサルテーション、教育、調整、倫理調整など CNS の役割について理解する。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：受講者がプレゼンテーションを行う。
2. 意見交換・共有：プレゼンテーション内容等について、全体討議を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	がん看護実践を表現するための方法論の検討：各自の経験事例の記述と分析 1 自宅学習課題：①印象に残っている各自の実践事例経験を 1 例記述する ②取り上げた事例についてどのような実践上の課題が含まれているのか分析する ③①②について A 4 サイズ 2 枚にまとめ 5 月 13 日にディスカッションできるように資料を作成する 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
2	自宅学習課題に取り組む 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
3	自宅学習課題に取り組む 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
4	がん看護実践を表現するための方法論の検討：各自の経験事例の記述と分析 4 事前学修：[60 分] 前回の授業を踏まえ、事後学習した内容を A 4 用紙 2 枚程度にまとめてくる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を踏まえ、さらに事例記述を焦点化し、再記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
5	がんを患う身体・病い・経験に関する理論 1 事前学修：[60 分] がんと身体、病い経験に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60 分] 再度テキストを読み、各自の経験した事象と関連させ意見を A 4 用紙 1 枚程度にまとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
6	がんを患う身体・病い・経験に関する理論 2 事前学修：[60 分] がんと身体、病い経験に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60 分] 再度テキストを読み、各自の経験した事象と関連させ意見を A 4 用紙 1 枚程度にまとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
7	がんを患う身体・病い・経験に関する理論 3 事前学修：[60 分] がんと身体、病い経験に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60 分] 再度テキストを読み、各自の経験した事象と関連させ意見を A 4 用紙 1 枚程度にまとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口

No	内容	形式	教員
8	がんを患う身体・病い・経験に関する理論 4 事前学修：[60分] がんと身体、病い経験に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 再度テキストを読み、各自の経験した事象と関連させ意見を A 4用紙 1枚程度にまとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
9	ナラティブ・アプローチ 1 事前学修：[60分] ナラティブ・アプローチに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 再度テキストを読み、各自の経験した事象と関連させ意見を A 4用紙 1枚程度にまとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
10	ナラティブ・アプローチ 2 事前学修：[60分] ナラティブ・アプローチに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 再度テキストを読み、各自の経験した事象と関連させ意見を A 4用紙 1枚程度にまとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
11	ナラティブ・アプローチ 3 事前学修：[60分] ナラティブ・アプローチに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 再度テキストを読み、各自の経験した事象と関連させ意見を A 4用紙 1枚程度にまとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
12	ナラティブ・アプローチ 4 事前学修：[60分] ナラティブ・アプローチに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 再度テキストを読み、各自の経験した事象と関連させ意見を A 4用紙 1枚程度にまとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
13	がん患者・家族に対する看護実践(直接ケア)における課題 1 事前学修：[60分] がん患者・家族に対する看護実践上の課題について議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、関連する文献を 1つ選んで読む。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
14	がん患者・家族に対する看護実践(直接ケア)における課題 2 事前学修：[60分] がん患者・家族に対する看護実践上の課題について議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、関連する文献を 1つ選んで読む。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
15	がん患者・家族に対する看護実践(直接ケア)における課題 3 事前学修：[60分] がん患者・家族に対する看護実践上の課題について議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、関連する文献を 1つ選んで読む。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
16	がん患者・家族に対する看護援助方法に関する論文の検索・クリティーク 1 事前学修：[60分] がん患者・家族に対する看護援助方法に関する論文を検索、クリティークし発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
17	がん患者・家族に対する看護援助方法に関する論文の検索・クリティーク 2 事前学修：[60分] がん患者・家族に対する看護援助方法に関する論文を検索、クリティークし発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
18	がん患者・家族に対する看護援助方法に関する論文の検索・クリティーク 3 事前学修：[60分] がん患者・家族に対する看護援助方法に関する論文を検索、クリティークし発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
19	がん患者・家族に対する看護援助方法に関する論文の検索・クリティーク 4 事前学修：[60分] がん患者・家族に対する看護援助方法に関する論文を検索、クリティークし発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口

No	内容	形式	教員
20	がん看護専門看護師の役割と機能 1 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の役割と機能に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
21	がん看護専門看護師の役割と機能 2 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の役割と機能に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
22	がん看護専門看護師のコンサルテーションに関する役割 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の役割と機能に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
23	がん看護専門看護師の調整に関する役割 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の役割と機能に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
24	がん看護専門看護師の教育的機能 1 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の役割と機能に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
25	がん看護専門看護師の教育的機能 2 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の役割と機能に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
26	がん看護専門看護師の倫理調整に関する役割 1 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の役割と機能に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
27	がん看護専門看護師の倫理調整に関する役割 2 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の役割と機能に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、再度検討した文献を読みなおし、意見をまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
28	がん専門看護師の実践知 1 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の実践レポートを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、がん看護専門看護師の卓越性とは何かについて意見をまとめる。	講義	嶋中
29	がん専門看護師の実践知 2 事前学修：[60分] がん看護専門看護師の実践レポートを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、がん看護専門看護師の卓越性とは何かについて意見をまとめる。	講義	嶋中
30	まとめ 事前学修：[60分] これまでの授業を通して、疑問点や討議したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] がん看護専門看護師の役割開発について各自の考えをまとめる。	振り返り・討議	守田・吉田・樋口

■ 教科書

ベナー・ルーベル／難波卓志訳(1999)現象学的人間論と看護。医学書院。

井部俊子・大生定義監修(2015)専門看護師の思考と実践。医学書院。

日本がん看護学会監修(2016)がん看護の日常にある倫理。医学書院。

Hamric,A,B. 他/中村美鈴他監訳(2014/2017)。高度実践看護統合的アプローチ第5版。へるす出版。

■ 参考書、参考資料等

授業の中で紹介する。

■ フィードバックの仕方

課題への取り組み、プレゼンテーションに対するフィードバックは授業毎、授業時間中に行う。

■ 他の授業科目との関連

がん看護特講ⅠⅡⅢⅣⅤ、コンサルテーション論、看護倫理、看護教育論、看護管理論での学習内容と連動する。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション 50% 課題への取り組み 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:10～12:30 守田(413 研究室)吉田(448 研究室)樋口(411 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的に授業に参加することを期待します。

■ その他

HMCA180

がん看護学演習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄、渡邊 眞理

■ 授業の目的

緩和ケアを必要とする患者・家族が診断からエンド・オブ・ライフ期に至るまで、尊厳ある生活を送るために必要な包括的な援助方法（補完代替療法、悲嘆のケア、倫理的葛藤の調整等）について学ぶ。これらを達成する際に、がん看護専門看護師が果たす実践・相談・調整・倫理調整・教育の役割について探究する。

■ 到達目標

1. 緩和ケアが必要な患者・家族の実際の事例をもとに、健康問題の特性に応じた援助方法を検討、開発することができる。
2. 援助方法のアセスメント・判断においては、有効性や妥当性についてエビデンスに基づいた根拠を明示できる。
3. 薬物療法のみならず、理学療法、心理社会的介入、看護援助等の包括的な援助方法について検討することができる。
4. 実施したケアの妥当性・有効性を評価するための枠組み、視点を明示することができる。
5. 援助技術に関しては、学内演習等でスキルを身に付けることができる。
6. 多職種によるチームアプローチの中で、がん看護専門看護師としての役割を考察することができる。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：受講者がプレゼンテーション(事例検討・ロールプレイ・実技演習含む)を行う。
2. 意見交換・共有：プレゼンテーション内容等について、全体討議を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例の分析・包括的な援助方法の検討 1 (痛みのコントロール困難な事例) 課題：実習事例について1～7回のテーマを含めてまとめる 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
2	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例の分析・包括的な援助方法の検討 2 (症状コントロール困難な事例) 課題：実習事例について1～7回のテーマを含めてまとめる 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
3	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例の分析・包括的な援助方法の検討 3 (鎮静に関する意思決定を要する事例) 課題：実習事例について1～7回のテーマを含めてまとめる 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
4	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例の分析・包括的な援助方法の検討 4 (家族ケアに関する事例) 事前学修：[60分] 家族ケアに関して経験した困難事例を A 4用紙2枚程度に記述してくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、新たなアプローチとして検討した点を A 4用紙にまとめる。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
5	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例の分析・包括的な援助方法の検討 5 (在宅・地域連携に関する事例) 事前学修：[60分] 在宅・地域連携に関して経験した困難事例を A 4用紙2枚程度に記述してくる。 事後学修：[60分] 授業を踏まえ、新たなアプローチとして検討した点を A 4用紙にまとめる。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
6	がん医療における補完代替療法 1 (概論) 事前学修：[60分] がん医療における補完代替療法に関するテキストを読み討議したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 補完代替医療と看護との関連についての考えをまとめる。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口

No	内容	形式	教員
7	がん医療における補完代替療法 2 (症状緩和のための代替療法とそのエビデンス) 事前学修：[60分] 症状緩和のための補完代替療法について1つ取り上げ、A4用紙2枚程度にまとめる 事後学修：[60分] 補完代替療法を臨床で実践する場合の課題についてまとめる。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
8	リンパ浮腫のセルフケア支援 1 (理論) 事前学修：[60分] リンパ浮腫に関するテキストを読み、討議したい点をあげてくる。 事後学修：[60分] リンパ浮腫に対するケアを臨床で実践する場合の課題についてまとめる。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
9	リンパ浮腫のセルフケア支援 2 (方法) 事前学修：[60分] リンパ浮腫に関するテキストを読み、討議したい点をあげてくる。 事後学修：[60分] リンパ浮腫に対するケアを臨床で実践する場合の課題についてまとめる。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
10	緩和ケアが必要な患者・家族のケアにおける他職種との調整と実際 1 (施設内での連携) 事前学修：[60分] 他職種連携(施設内)における課題についてA4用紙1枚程度にまとめてくる。 事後学修：[60分] 他職種連携、調整のためのアプローチについてストラテジーについてまとめる。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
11	緩和ケアが必要な患者・家族のケアにおける他職種との調整と実際 2 (地域連携) 事前学修：[60分] 他職種連携(地域連携)における課題についてA4用紙1枚程度にまとめてくる。 事後学修：[60分] 他職種連携、調整のためのアプローチについてストラテジーについてまとめる。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
12	緩和ケアに関するスタッフへの教育指導企画立案 1 (ストレスマネジメントプログラム) 事前学修：[60分] ストレスマネジメントに関する理論、アプローチについてA4用紙2枚程度にまとめてくる。 事後学修：[60分] 教育指導立案に関するポイントをまとめる。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
13	緩和ケアに関するスタッフへの教育指導の実際・評価 2 事前学修：[60分] スタッフ教育における課題をA4用紙2枚程度にまとめてくる。 事後学修：[60分] 各自で取り組みたい教育指導のテーマ・内容・方法について検討し、記載する。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
14	緩和ケアに関するスタッフへの教育指導の実際・評価 3 事前学修：[60分] 各自で取り組む教育指導の教材を準備してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、教材・アプローチ方法を見直す。	発表・討議 同時双方向	守田・吉田・樋口
15	まとめ 事前学修：[60分] これまで学んだことを振り返り、疑問点、さらに深めたい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、自分の考えをまとめる。	振り返り 同時双方向	守田・吉田・樋口
16	緩和ケアチームの活動を通じたがん看護専門看護師の実践 1 事前学修：[60分] 緩和ケアチームにおけるがん専門看護師の専門性について討議したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 緩和ケアチームにおけるがん看護専門看護師の役割発揮について考えをまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
17	緩和ケアチームの活動を通じたがん看護専門看護師の実践 2 事前学修：[60分] 緩和ケアチームにおけるがん専門看護師の専門性について討議したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 緩和ケアチームにおけるがん看護専門看護師の役割発揮について考えをまとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
18	緩和ケアにおいて倫理調整が必要な問題とアプローチ 1 (鎮静) 事前学修：[60分] 緩和ケアにおける倫理調整に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような倫理調整が可能か検討し、まとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口

No	内容	形式	教員
19	緩和ケアにおいて倫理調整が必要な問題とアプローチ 2 (治療の差し控え) 事前学修：[60分] 緩和ケアにおける倫理調整に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような倫理調整が可能か検討し、まとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
20	緩和ケアにおいて倫理調整が必要な問題とアプローチ 3 (アドヴァンスト・ディレクティブ) 事前学修：[60分] 緩和ケアにおける倫理調整に関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような倫理調整が可能か検討し、まとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
21	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける家族・遺族へのアプローチ 1 (遺族ケアプログラム概要) 事前学修：[60分] エンド・オブ・ライフ・ケアにおける家族・遺族ケアに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような実践が可能か検討し、まとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
22	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける家族・遺族へのアプローチ 2 (サポート・グループ) 事前学修：[60分] エンド・オブ・ライフ・ケアにおける家族・遺族ケアに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような実践が可能か検討し、まとめる。	発表・討議・FW	守田・吉田・樋口
23	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける家族・遺族へのアプローチ 3 事前学修：[60分] エンド・オブ・ライフ・ケアにおける家族・遺族ケアに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような実践が可能か検討し、まとめる。	発表・討議・FW	守田・吉田・樋口
24	エンド・オブ・ライフ・ケアにおける家族・遺族へのアプローチ 4 事前学修：[60分] エンド・オブ・ライフ・ケアにおける家族・遺族ケアに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような実践が可能か検討し、まとめる。	発表・討議・FW	守田・吉田・樋口
25	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例に対するコンサルテーション 1 事前学修：[60分] 緩和ケアにおけるコンサルテーションに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような実践が可能か検討し、まとめる。	発表・討議・FW	守田・吉田・樋口
26	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例に対するコンサルテーション 2 事前学修：[60分] 緩和ケアにおけるコンサルテーションに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような実践が可能か検討し、まとめる。	発表・討議・FW	守田・吉田・樋口
27	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例に対するコンサルテーション 3 事前学修：[60分] 緩和ケアにおけるコンサルテーションに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような実践が可能か検討し、まとめる。	発表・討議・FW	守田・吉田・樋口
28	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例に対するコンサルテーションの実践知 1 事前学修：[60分] 緩和ケアにおけるコンサルテーションに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自が経験した事例をもとに、どのような実践が可能か検討し、まとめる。	講義	渡邊
29	緩和ケアが必要な複雑な健康問題を有する事例に対するコンサルテーションの実践知 2 事前学修：[60分] 緩和ケアにおけるコンサルテーションに関するテキストを読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：各自が経験した事例をもとに、どのような実践が可能か検討し、まとめる。	講義	渡邊

No	内容	形式	教員
30	まとめ 事前学修：[60分] これまでの授業を振り返り、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 各自の実践事例を振り返り、自己課題を明確化する。	振り返り・討議	守田・吉田・樋口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

授業の中で紹介する。

■ フィードバックの仕方

課題への取り組み、プレゼンテーションに対するフィードバックは授業毎、授業時間中に行う。

■ 他の授業科目との関連

がん看護学演習Ⅰ、がん看護学実習Ⅱ・Ⅲの内容と連動する。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション 50% 課題への取り組み 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:10～12:30 守田(413 研究室) 吉田(448 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的に授業に参加することを期待します。

■ その他

HMCA280

がん看護学特別研究 I

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄

■ 授業の目的

がん看護・緩和ケアに関する個々の研究課題を明確化し、それらを探究するための研究計画を立案する能力を養う。

■ 到達目標

1. 個々の実践上の経験を土台に、研究課題に関連する現象を言語化し、それらに関連する理論や文献についてクリティークを行うことができる。
2. 1 を通して、研究課題を明確化することができる。
3. 研究課題を明らかにするためにどのような研究方法が適切か吟味し、検討することができる。
4. 研究計画書を立案することができる。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：受講者が自分の課題の進捗状況に即して、プレゼンテーションを行う。研究方法論に関する文献購読においては、文献内容についてのプレゼンテーションを行う。
2. 意見交換・共有：ディスカッションのテーマ等を提示し、意見交換を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	着目する現象の明確化：各自の経験事例の記述と分析 課題：①現在、関心を寄せている研究のテーマに関して、自分自身の動機となった経験、出来事について記述する。②それらに関連するキーワードを挙げる。③キーワードを用いて、文献を検索する。文献は学会に掲載されているものから 1 本選定し読む。④①②③について、A4 サイズ 2 枚にまとめ、5 月 13 日にディスカッションできるように資料を作成する。 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
2	課題に取り組む 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
3	課題に取り組む 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
4	着目する現象の明確化：各自の経験事例の記述と分析 課題で作成した資料を用いたディスカッション 事前学修：[60 分] 関心を持つ現象について記述してくる。 事後学修：[60 分] 討議を踏まえ、自分の考え、疑問点、検討課題を整理して記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
5	着目する現象の明確化： 課題で作成した資料を用いたディスカッション 事前学修：[60 分] がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献を読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60 分] 討議を踏まえ、各自の関心に即して現象にアプローチするための方法論について考え、疑問点、検討課題を整理して記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
6	着目する現象の明確化： 課題で作成した資料を用いたディスカッション 事前学修：[60 分] がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献を読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60 分] 討議を踏まえ、各自の関心に即して現象にアプローチするための方法論について考え、疑問点、検討課題を整理して記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
7	がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献の講読 事前学修：[60 分] がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献を読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60 分] 討議を踏まえ、各自の関心に即して現象にアプローチするための方法論について考え、疑問点、検討課題を整理して記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口

No	内容	形式	教員
8	がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献の講読 事前学修：[60分] がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献を読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自の関心に即して現象にアプローチするための方法論について考え、疑問点、検討課題を整理して記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
9	がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献の講読 事前学修：[60分] がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献を読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自の関心に即して現象にアプローチするための方法論について考え、疑問点、検討課題を整理して記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
10	がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献の講読 事前学修：[60分] がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献を読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自の関心に即して現象にアプローチするための方法論について考え、疑問点、検討課題を整理して記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
11	がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献の講読 事前学修：[60分] がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献を読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自の関心に即して現象にアプローチするための方法論について考え、疑問点、検討課題を整理して記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
12	がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献の講読 事前学修：[60分] がんを患う身体・病い・経験に関する理論・研究方法論に関する文献を読み、議論したい点を挙げてくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自の関心に即して現象にアプローチするための方法論について考え、疑問点、検討課題を整理して記述する。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
13	がん看護・緩和ケア領域の看護研究の動向・課題 事前学修：[60分] がん看護・緩和ケア領域の看護研究の動向について検索し、現状と課題についてまとめてくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が関心をもつ現象を明らかにする意義について考え、まとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
14	がん看護・緩和ケア領域の看護研究の動向・課題 事前学修：[60分] がん看護・緩和ケア領域の看護研究の動向について検索し、現状と課題についてまとめてくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が関心をもつ現象を明らかにする意義について考え、まとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
15	がん看護・緩和ケア領域の看護研究の動向・課題 事前学修：[60分] がん看護・緩和ケア領域の看護研究の動向について検索し、現状と課題についてまとめる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が関心をもつ現象を明らかにする意義について考え、まとめる。	発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
16	着目する現象に関連する文献のクリティーク 事前学修：[60分] 各自が着目する現象に関連する文献を検索、文献リストを作成し、1編を選びクリティークする。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象と既存の知見との関連を検討し、まとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
17	着目する現象に関連する文献のクリティーク 事前学修：[60分] 各自が着目する現象に関連する文献を検索、文献リストを作成し、1編を選びクリティークする。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象と既存の知見との関連を検討し、まとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口

No	内容	形式	教員
18	着目する現象に関連する文献のクリティーク 事前学修：[60分] 各自が着目する現象に関連する文献を検索、文献リストを作成し、1編を選びクリティークする。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象と既存の知見との関連を検討し、まとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
19	着目する現象に関連する文献のクリティーク 事前学修：[60分] 各自が着目する現象に関連する文献を検索、文献リストを作成し、1編を選びクリティークする。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象と既存の知見との関連を検討し、まとめる。	発表・討議	守田・吉田・樋口
20	研究課題の明確化 事前学修：[60分] 各自が着目する現象について、研究疑問を記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象についてさらに検討し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
21	研究課題の明確化 事前学修：[60分] 各自が着目する現象について、研究疑問を記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象についてさらに検討し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
22	研究課題の明確化 事前学修：[60分] 各自が着目する現象について、研究疑問を記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象についてさらに検討し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
23	研究課題の明確化 事前学修：[60分] 各自が着目する現象について、研究疑問を記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象についてさらに検討し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
24	研究方法の検討 事前学修：[60分] 各自が着目する現象について、研究方法を記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象の研究方法をさらに検討・吟味し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
25	研究方法の検討 事前学修：[60分] 各自が着目する現象について、研究方法を記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象の研究方法をさらに検討・吟味し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
26	研究方法の検討 事前学修：[60分] 各自が着目する現象について、研究方法を記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、各自が着目する現象の研究方法をさらに検討・吟味し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
27	研究計画書の作成 事前学修：[60分] 研究計画書の動機・背景・研究目的までを記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、さらに検討・吟味し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
28	研究計画書の作成 事前学修：[60分] 研究計画書の方法・倫理的配慮までを記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、さらに検討・吟味し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
29	研究計画書の作成 事前学修：[60分] 研究計画書全体を記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、さらに検討・吟味し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
30	研究計画書の作成 事前学修：[60分] 研究計画書全体を記述してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、さらに検討・吟味し、記述する。	発表・討議	守田・吉田・樋口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

授業の中で紹介する。

■ フィードバックの仕方

提出された課題にコメントを付して返却する。返却は提出されたことを確認後、1週間以内にメールにて行う。

■ 他の授業科目との関連

共通科目の看護研究を土台に自身の研究領域についてのテーマを探求していく。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション 50% 課題への取り組み(研究の背景・文献検討・研究方法までをレポートにして提出) 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:10～12:30 守田(413 研究室) 吉田(448 研究室)樋口(411 研究室)

■ その他

HMCA181

がん看護学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄

■ 授業の目的

がん看護・緩和ケアに関する個々の研究課題について立案した研究計画に基づき、研究を実施する能力を養う。

■ 到達目標

1. 研究計画書に基づき、研究倫理審査を受け、倫理的配慮について検討し対応することができる。
2. フィールドとの調整や研究参加者等との調整等、研究遂行に必要な能力を培うことができる。
3. データを収集し、データの吟味、分析・解釈を行うことができる。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：受講者が自分の課題の進捗状況に即して、プレゼンテーションを行う。各自が必要に応じてフィールドワークを行う。
2. 意見交換・共有：ディスカッションのテーマ等を提示し、意見交換を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	課題 ①それぞれの進度に応じて 2020 年度の年間研究スケジュールを立案する 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
2	課題 ①それぞれの進度に応じて 2020 年度の年間研究スケジュールを立案する 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
3	課題 ①それぞれの進度に応じて 2020 年度の年間研究スケジュールを立案する 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田・樋口
4	研究課題に即した倫理的配慮の検討・研究倫理審査への申請 事前学修：[60分] 研究倫理申請書類を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、申請書類を修正、申請手続きを進める。	FW・発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
5	研究課題に即した倫理的配慮の検討・研究倫理審査への申請 事前学修：[60分] 研究倫理審査委員会への申請結果を検討し、修正点などを検討する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、申請書類を修正、申請手続きを進める。	FW・発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
6	フィールドワーク・データ収集に関する検討 事前学修：[60分] 研究協力施設、研究参加者の募集に向けたフィールドワークを行う。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究協力施設、研究参加者の募集手続きを進める。	FW・発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
7	フィールドワーク・データ収集に関する検討 事前学修：[60分] 研究協力施設、研究参加者の募集に向けたフィールドワークを行う。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究協力施設、研究参加者の募集手続きを進める。	FW・発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
8	フィールドワーク・データ収集に関する検討 事前学修：[60分] 研究協力施設、研究参加者の募集に向けたフィールドワークを行う。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究協力施設、研究参加者の募集手続きを進める。	FW・発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
9	フィールドワーク・データ収集に関する検討 事前学修：[60分] フィールドワーク：予備調査としてデータを収集してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、データ収集方法における課題を明確化する。	FW・発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
10	フィールドワーク・データ収集に関する検討 事前学修：[60分] フィールドワーク：予備調査としてデータを収集してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、データ収集方法における課題を明確化する。	FW・発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口
11	データの分析方法に関する検討 事前学修：[60分] 予備調査データを分析してくる。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、データ分析方法における課題を明確化する。	FW・発表・討議 同時双方向型	守田・吉田・樋口

No	内容	形式	教員
29	データの解釈に関する検討 事前学修：[60分] 本調査データを収集・分析し、解釈を深める。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、データ収集・分析・解釈をさらに進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
30	データの解釈に関する検討 事前学修：[60分] 本調査データを収集・分析し、解釈を深める。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、データ収集・分析・解釈をさらに進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

授業の中で紹介する。

■ フィードバックの仕方

毎回の授業終了時に課題への取り組み状況についてフィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

がん看護学特別研究Ⅰでの学びをさらに深めていく。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション 50% 課題への取り組み 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:10～12:30 守田(413 研究室) 吉田(448 研究室) 樋口(411 研究室)

■ その他

HMCA281

がん看護学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄

■ 授業の目的

がん看護・緩和ケアに関する個々の研究課題について論文を作成する能力を養う。

■ 到達目標

1. 研究計画書に即して収集したデータの分析に基づき、結果を記述する能力を培う。
2. 研究結果に基づき、考察を行う能力を培う。
3. 修士論文として研究を記述し、まとめることができる。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：受講者が自分の課題の進捗状況に即して、プレゼンテーションを行う。
2. 意見交換・共有：ディスカッションのテーマ等を提示し、意見交換を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
2	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
3	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
4	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
5	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
6	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
7	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
8	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
9	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
10	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
11	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
12	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口

No	内容	形式	教員
13	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
14	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
15	データの分析・解釈・記述に関する検討 事前学修：[120分] データを分析・解釈・記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータの分析・解釈・記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
16	考察に関する検討 事前学修：[120分] 考察の構成を検討し、見出しを作成してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の構成を吟味し、記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
17	考察に関する検討 事前学修：[120分] 考察を記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
18	考察に関する検討 事前学修：[120分] 考察を記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
19	考察に関する検討 事前学修：[120分] 考察を記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
20	考察に関する検討 事前学修：[120分] 考察を記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
21	論文全体の構成・執筆に関する検討 事前学修：[120分] 論文全体構成を検討し、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
22	論文全体の構成・執筆に関する検討 事前学修：[120分] 論文全体構成を検討し、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
23	論文全体の構成・執筆に関する検討 事前学修：[120分] 論文全体構成を検討し、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
24	論文全体の構成・執筆に関する検討 事前学修：[120分] 論文全体構成を検討し、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
25	論文全体の構成・執筆に関する検討 事前学修：[120分] 論文全体構成を検討し、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
26	論文全体の構成・執筆に関する検討 事前学修：[120分] 論文全体構成を検討し、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
27	論文全体の構成・執筆に関する検討 事前学修：[120分] 論文全体構成を検討し、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、記述を進める。	発表・討議	守田・吉田・樋口
28	研究論文発表会に向けてのプレゼンテーションの準備・検討 事前学修：[120分] プレゼンテーション用資料を作成してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、修正する。	発表・討議	守田・吉田・樋口
29	研究論文発表会に向けてのプレゼンテーションの準備・検討 事前学修：[120分] プレゼンテーション用資料を再吟味し、作成してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、修正する。	発表・討議	守田・吉田・樋口

No	内容	形式	教員
30	研究論文発表会に向けてのプレゼンテーションの準備・検討 事前学修：[120分] プレゼンテーション、質疑応答の準備をする。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに検討する。	発表・討議	守田・吉田・樋口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

授業の中で紹介する。

■ フィードバックの仕方

毎回の授業終了時にフィードバックを行う。

■ 他の授業科目との関連

がん看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを土台に、データの分析・考察、論文の執筆を行っていく。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション 50% 課題への取り組み 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:10～12:30 守田(413 研究室) 吉田(448 研究室) 樋口(411 研究室)

■ その他

HMCA282

がん看護学実習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：4 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄

■ 授業の目的

がん患者・家族への直接的なケア実践において、種々の症状・苦痛についてアセスメントし、エビデンスに基づき判断・対処する能力、療養上の支援を行うための看護判断能力、実践能力を培う。それらを通してがん看護専門看護師としての自己の課題を明確化する。

■ 到達目標

1. がん患者を受け持ち、全体的な視点からアセスメントし、看護過程を展開することができる。
2. がんに伴う痛み・諸症状について病態生理学、フィジカルアセスメント、診断学等のエビデンスに基づきアセスメントし、臨床薬理学、症状マネジメントの知識と技術をもとに対応することができる。
3. 1、2に基づき、受け持ち患者の治療・療養生活、看護実践の方向性について、チームメンバーと意見交換を行うことができる。
4. 患者・家族が体験する健康問題について、地域・在宅等の包括的な視点からアセスメントすることができる。
5. 自分の実践や思考過程、感情を言語化、記述し、看護実践を他者に伝え、吟味することができる。
6. チームメンバーと関係性を構築し、情報交換・意見交換を行い、看護実践を展開することができる。
7. 1～6 を通して、看護実践上の自己の課題を明確化し、看護専門看護師に必要な対人関係能力、コンサルテーション能力、調整能力について考えることができる。

■ 学習の進め方

1. 実習計画書の作成：自己の学習課題等を明確にし、実習の目標、内容、方法について計画する。
2. 実習指導者との打ち合わせを行う。
3. 病院実習：スタッフなど医療者が看護援助に困難を感じている患者・家族を担当し、看護計画の立案、実施、評価という一連の看護過程を展開、評価する。実習中は、実習指導者及び教員から随時、スーパービジョンを受ける。患者の病態、治療、痛み・症状等に関する診断、アセスメントの妥当性、マネジメント方法の適切性については、実習指導者(医師)からも助言を得る。実習指導者(医師)からの助言を得て医行為に関する判断とその根拠を踏まえ、看護判断の妥当性を明確にする。医師の診察同行見学、がんセンターへの出席、実習場のスタッフと意見交換、カンファレンス等に出席する。実習報告会では実習指導者、教員とともに、実習での学びを振り返り、ディスカッションを通して考察する。
4. 指導体制：
 - 1) 実習施設と大学との協議
実習開始前に、担当教員は実習施設の実習指導者と実習目的・方法について話し合いをもつ。実習期間中に何らかの問題が生じた場合、実習指導者、学生、担当教員で連絡をとり、随時、話し合いをもつ。実習中・終了後に、担当教員は実習施設の実習指導者および実習施設各部門の指導者と院生の実習の達成度について協議する機会を設ける。
 - 2) 担当教員及び実習指導者の役割
担当教員は、学内および実習場ラウンド時のスーパー・ヴィジョンを通して指導する。実習指導者は、学生の実習にあたって施設内の各部署との連携調整を行う。同時に、適宜、実習内容について助言する。
医師の役割と指導内容：受け持ち患者に対する診察時に同行見学、および週に1回指導し、病態、痛み・症状、鑑別診断、治療法の選択等に関する医学判断プロセスについて助言・ディスカッションする機会をもつ。
5. 評価面接：
学生が記録した実習自己評価表をもとに、学生と担当教員とで評価面接を行う。実習での学びと課題について振り返る機会とする。
6. 担当したケース2例以上について、看護過程を記録し、実践経過をまとめ、提出する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習期間：2021年2月1日(月)～3月5日(金) *最終週は評価・面接として学内にて実施する。

実習施設：日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

実習終了時に面談を行い、レポートおよび実習達成度についてフィードバックを行う。

■ 他の授業科目との関連

がん看護関連科目、共通科目 A および共通科目 B における学習内容を活用する。

■ 成績評価の仕方

実習への参加度 30% 実習記録 30% 課題レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中の 12:10～12:30：守田(413 研究室) 吉田(448 研究室)樋口(411 研究室)

■ 受講上の注意事項

実習にあたっては、各種感染症に対する抗体価を確認し、ワクチン接種が必要かどうか確認しておく。

■ その他

HMCA182

がん看護学実習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄

■ 授業の目的

がん看護専門看護師が果たすコーディネーション、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究の各々の役割の実際について、同行見学実習を通して学び、自己の課題を明確化する。

■ 到達目標

1. CNS の活動に同行し、コーディネーション、コンサルテーション、倫理調整、教育、研究の各役割について、実際にどのように展開されているのか理解する。
2. 同行する CNS が施設や部署の特性や状況に応じて、どのような役割を担い、遂行しているのか理解する。
3. 同行する CNS が担当する各々の事例を通して、CNS の役割について考察し理解を深める。
4. 上記を通して、今後の自己の課題を明確化することができる。

■ 学習の進め方

1. 実習計画書の作成：実習の目標、内容、方法について計画する。
2. 実習指導者との打ち合わせを行う。
3. 病院実習：CNS の活動に同行し、実践を見学する。見学した個別事象について、コーディネーション、コンサルテーション、教育、倫理調整役割に関して分析的に捉える。CNS の同行見学時には、チーム医療としてかかわる医師の病態、痛み・症状、鑑別診断、治療法の選択等に関する医学判断プロセスについて、適宜ディスカッションする機会をもち、CNS の役割・機能についてより理解を深める。
4. 指導体制：実習中は、臨床指導者及び教員から随時、スーパービジョンを受ける。実習報告会では指導者とともに、実習での学びを振り返り、ディスカッションを通して考察する。
5. 評価面接：学生が記録した実習自己評価表をもとに、学生と担当教員とで評価面接を行う。実習での学びと課題について振り返る機会とする。
6. 同行見学から学習した点について、まとめ、提出する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習期間：2020 年 8 月 31 日(月)～9 月 4 日(金)、 2020 年 9 月 28 日(月)～10 月 2 日(金)

実習施設：済生会横浜市南部病院、川崎市立井田病院

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

実習終了時に面談を行い、レポート及び実習達成度のフィードバックを行う。

■ 他の授業科目との関連

がん看護学実習Ⅰ、がん看護学演習Ⅰ、がん看護学演習Ⅱ、コンサルテーション論、看護倫理、看護教育論、看護管理論の学びを土台とする。

■ 成績評価の仕方

実習への参加度 30% 実習記録 30% 課題レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中の 12:10～12:30 守田(413 研究室) 吉田(448 研究室) 樋口(411 研究室)

■ 受講上の注意事項

実習にあたっては、各種感染症に対する抗体価を確認し、ワクチン接種が必要かどうか確認しておく。

■ その他

HMCA283

がん看護学実習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：4 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄

■ 授業の目的

複雑で困難な状況下にある患者・家族へのケア実践において、問題構造を分析的にとらえ、アプローチ方法についてエビデンスを明示、看護師、医師、多職種とともにチームで取り組む能力を培う。医学的判断を踏まえた看護判断に基づき、必要な調整、コンサルテーション、倫理調整、教育的関わり等について実践を通して考察し、専門看護師の役割と機能について自己の課題を明確化する。

■ 到達目標

1. がんに伴う痛み・諸症状について病態生理学、フィジカルアセスメント、診断学等のエビデンスに基づきアセスメントし、臨床薬理学、症状マネジメントの知識と技術をもとに対応することができる。より複雑で困難な状況にある患者・家族を全体的な視点からアセスメントし、看護実践を展開することができる。
2. 患者・家族のより複雑な健康問題について、地域・在宅等の包括的な視点からアセスメント、看護実践を展開することができる。
3. 実習上で生じている倫理的問題に対して、問題の明確化を図り、専門看護師としての倫理調整について展開し、考察できる。
4. スタッフのニーズを把握し、教育的介入が必要な点について検討し、教育的関わりを実践することができる。
5. 受け持ち患者への看護過程の展開を通して、スタッフとの連携を図り、専門看護師としての調整(コーディネーション)の役割、コンサルテーションの役割について理解し、考察できる。
6. がん医療における地域連携等について、受け持ち患者の看護実践や CNS の活動の見学を通して、その機能について学び、今後の実践への示唆を得ることができる。
7. 1～6 を通して、専門看護師の役割について、自己課題を明確化することができる。

■ 学習の進め方

1. 実習計画書の作成：関心のあるテーマやフィールドを選択し、実習の目標、内容、方法について計画する。
2. 実習指導者との打ち合わせを行う。
3. 病院実習：各自のテーマに即して、スタッフがケアに困難さを感じている患者・家族を担当し、これまで習得した知識、技術を土台にして看護過程を展開し、自己の看護実践を分析的に考察する。患者の病態、治療、痛み・症状等に関する診断、アセスメントの妥当性、マネジメント方法の適切性については、実習指導者(医師)からも助言を得る。実習指導者(医師)からの助言を得て医行為に関する判断とその根拠を踏まえ、看護判断の妥当性を明確にする。医師の診察同行見学、カンサーボードへの出席、実習場のスタッフとの意見交換、カンファレンス等に出席する。個別的なケアが展開できる看護実践能力に加え、専門看護師に求められるコンサルテーション、調整、教育、倫理調整などを意識し、指導者のスーパーバイズを受けながら計画し実践する。
4. 指導体制：
 - 1) 実習施設と大学との協議
実習開始前に、担当教員は実習施設の実習指導者と実習目的・方法について話し合いをもつ。実習期間中に何らかの問題が生じた場合、実習指導者、学生、担当教員で連絡をとり、随時、話し合いをもつ。実習中・終了後に、担当教員は実習施設の実習指導者および実習施設各部門の指導者と院生の実習の達成度について協議する機会を設ける。
 - 2) 担当教員及び実習指導者の役割
担当教員は、学内および実習場ラウンド時のスーパー・ヴィジョンを通して指導する。実習指導者は、学生の実習にあたって施設内の各部署との連携調整を行う。同時に、適宜、実習内容について助言する。
医師の役割と指導内容：受け持ち患者に対する診察時に同行見学、および週に 1 回指導し、病態、痛み・症状、鑑別診断、治療法の選択等に関する医学判断プロセスについて助言する。それらをもとに患者の療養支援を行うための支援方法について、助言・ディスカッションする機会をもつ。
5. 評価面接：学生が記録した実習自己評価表をもとに、学生と担当教員とで評価面接を行う。実習での学びと課題について振り返る機会とする。
6. 担当したケース、教育、調整等の実践事例について、実践経過をまとめ、提出する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習期間：2020 年 9 月 7 日(月)～9 月 25 日(金) *最終週は評価・面接として学内にて実施する。

実習施設：日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

実習終了時に面談を行い、レポート及び実習達成度についてフィードバックを行う。

■ 他の授業科目との関連

がん看護学実習Ⅰ、Ⅱを土台に、CNSの役割について自ら実践を通して学ぶ実習となる。

■ 成績評価の仕方

実習への参加度 30% 実習記録 30% 課題レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中の 12:10～12:30 守田(413 研究室) 吉田(448 研究室)樋口(411 研究室)

■ 受講上の注意事項

実習にあたっては、各種感染症に対する抗体価を確認し、ワクチン接種が必要かどうか確認しておく。

■ その他

HMCA284

小児看護学特講Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○江本 リナ

■ 授業の目的

子どもの成長・発達と生活環境を理解し、子どもと家族の相互作用や健康増進に不可欠な諸理論を探求する。さらに、時代の変化及び日本の文化の中でこれらの理論を応用する上での課題を探求する。

■ 到達目標

1. 子どもと家族の健康増進に関する諸理論について説明できる。
2. 諸理論と看護学との関係を説明することができる。
3. 関心領域に関連のある理論、概論、現象を分析し、課題を述べることができる。
4. 理論と既存の研究を用いて、子どもと家族への援助を考案することができる。

■ 学習の進め方

2020 年度は COVID-19 による影響のため同時双方向型の Teams を用いて授業を行う。

1. 関連文献や資料に基づき、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める。資料は前日までに配布する。
2. 授業内容に沿った事柄をより深く学習できるよう、授業概要または配布資料に参考資料を記す。

【事前学習】 授業概要または配布資料に記した文献リストにある関連資料に目を通し、要旨をノートにまとめる。

【事後学習】 授業内容をもとに自身の専門領域の視点から考察し、A4 用紙 1 枚にまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション／理論の説明	講義・討論	江本
2	発達理論(1)フロイト(自我)	発表・GW・討論	江本
3	発達理論(2)エリクソン	発表・GW・討論	江本
4	発達理論(3)ピアジェ	発表・GW・討論	江本
5	発達理論(4)ウィニコット	発表・GW・討論	江本
6	発達理論(5)ボウルビー	発表・GW・討論	江本
7	発達理論(6)総括	発表・GW・討論	江本
8	家族の理論(1)課題学習	演習	江本
9	家族の理論(2)総括	発表・GW・討論	江本
10	コーピングの理論	発表・GW・討論	江本
11	セルフケアの理論	発表・GW・討論	江本
12	ソーシャル・サポートの理論	発表・GW・討論	江本
13	子どもと家族をめぐる理論(1)課題学習	演習	江本
14	子どもと家族をめぐる理論(2)総括	発表・GW・討論	江本
15	子どもと家族をめぐる理論の応用と課題	発表・GW・討論	江本

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布し、随時授業で資料を配付する。

■ フィードバックの仕方

課題レポートはコメントを付し、後期開始後に返却する。

■ 他の授業科目との関連

この科目を基盤として、小児看護学特講Ⅱ～Ⅳ、小児看護学演習Ⅰ～Ⅲ、小児看護学実習Ⅰ～Ⅲが展開されます。

■ 成績評価の仕方

1. 自宅学習課題 25%
2. プレゼンテーション 25%
3. 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～12:50 および 授業終了後 30 分。

江本(419 研究室) emoto@redcross.ac.jp

■ その他
HNCS103

小児看護学特講Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

子どもの成長発達と生活環境を理解し、子どもと家族の健康を包括的に査定するための方略や技術・技法を学ぶ。観察法やインタビュー法、発達スクリーニング法を用いて子どもと家族に関する情報を収集し、子どもと家族への確に支援する為の方法を考案する。コミュニケーション技術や遊び、発達段階や状況に応じた適切なアプローチの仕方についても学ぶ。

■ 到達目標

1. 子どもの種々の行動課題について、同年齢の子どもと同様の発達段階にあるか否かをスクリーニングする方法を探求できる。
2. 子どもとのコミュニケーション技術や遊び、発達段階に応じたアプローチの仕方を発展させてスクリーニングできる。
3. 子どもと家族の潜在的な発達上の課題を発見して、子どもと家族への確に支援する為の方法を考案できる。

■ 学習の進め方

AL 科目

2020 年度は COVID-19 による影響のため同時双方向型の Teams を用いて授業を行う。

1. プレゼンテーション：観察法、インタビュー法、発達スクリーニング法について事前学習し、作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う。
2. フィールドワーク(FW)：事前学習した内容をもとにフィールド演習に取り組む。演習後は課題レポートを作成する。
 - (1)観察法(課題Ⅰ)：乳児、幼児、学童・思春期のいずれかの時期の子どもをテーマに沿って意図的に観察し、記録する。観察した記録をもとに、子どもの行動を分析し、考察する。
 - (2)インタビュー法(課題Ⅱ・Ⅲ)：幼児期の子どもと家族へ実際にインタビューを行い、記録する。インタビューした記録をもとに、コミュニケーションの特徴を導き出し、文献を引用して考察する。
 - (3)発達スクリーニング法(課題Ⅳ)：身近にいる乳幼児をひとり選び、観察やインタビューにより子どもの身体発育、精神機能の発達、日常生活、育児の方法、育児環境、家族のニーズなどの情報を収集する。情報をもとにパーセントイル図表、DENVER II (デンバー発達判定法)などを用いて発達を理解し、考察する。
 - (4)包括的発達の理解(課題Ⅴ)：乳幼児期の子どもと家族をひと組選び、身体発育状況、精神運動機能、育児の方法、日常生活、育児環境、健康管理の視点で包括的に発達を理解する。子どもと家族へ指導、助言が必要なこと、相談を受けたことへの対応について分析し、考察する。
3. ケース分析・討議(演習)：課題にそってまとめたレポートをもとに討議することで、学習をさらに深める。

【事前学習】授業前に提示する参考文献の関連頁に目を通して授業に臨む。また、課題Ⅳまでに、DENVER II -デンバー発達判定法-判定技術養成講習会(主催：公益社団法人日本小児保健協会)の受講を修了しておく。

【事後学習】授業資料を基に復習する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	討議	江本・山内
2	観察法(1)：技法	発表	江本・山内
3	観察法(2)：意図的観察 1	FW	江本・山内
4	観察法(3)：意図的観察 2	演習	江本・山内
5	インタビュー法(1)：技法	発表	江本・山内
6	インタビュー法(2)：家族へのインタビュー 1	FW	江本・山内
7	インタビュー法(3)：家族へのインタビュー 2	演習	江本・山内
8	インタビュー法(4)：子どもへのインタビュー 1	FW	江本・山内
9	インタビュー法(5)：子どもへのインタビュー 2	演習	江本・山内
10	発達スクリーニング法(1)：技法	発表	江本・山内
11	発達スクリーニング法(2)：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法, DENVER II 1	FW	江本・山内
12	発達スクリーニング法(3)：遠城寺式乳幼児分析的発達検査法, DENVER II 2	演習	江本・山内
13	子どもと家族の包括的発達の理解(1)	FW	江本・山内
14	子どもと家族の包括的発達の理解(2)	討議	江本・山内
15	まとめ	討議	江本・山内

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布するとともに、随時授業で資料を配付する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。課題レポートのフィードバックは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は小児看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、小児看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、小児看護学特別研究Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを学習する上での基盤となる科目である。

■ 成績評価の仕方

1. 課題レポート 50 % 2. プレゼンテーション 30 % 3. 討議への参加度 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30~12:50、および、授業終了後 30 分
江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■ その他

HMCF101

小児看護学特講Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○江本 リナ、山内 朋子、間所 利恵

■ 授業の目的

子どもと家族の置かれている状況を理解し、倫理的判断および臨床判断に基づいて分析し、小児看護学専門看護師としての援助方法を探求する能力を養う。

■ 到達目標

1. 文献を用いて、子どもと家族の人間としての尊厳を守るための法律・条約・倫理規範を説明できる。
2. 小児看護関連領域における倫理的判断および臨床判断を求められる状況を分析し、実践、コンサルテーション、コーディネーションを通じた援助方法を考案することができる。
3. 小児看護関連領域における、倫理にまつわる専門職としての役割を述べることができる。
4. 小児看護学領域の研究の動向を探求し、専門職としての役割などを述べるができる。

■ 学習の進め方

1. 関連文献や資料に基づき、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める。資料は前日までに配布する。
2. 授業容に沿った事柄をより深く学習できるよう、授業概要または配布資料に参考資料を記す。

【事前学習】授業概要または配布資料に記した文献リストにある関連資料に目を通し、要旨をノートにまとめる。

【事後学習】授業内容と自身の臨床に結びつけて、授業資料を基に復習する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[30 分] CNS の役割について調べ資料にまとめる 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	討論	江本・山内
2	組織分析と改善方法の探求 事前学修：[30 分] 組織分析について調べ資料にまとめる 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
3	小児看護実践における倫理に関する法律・条約・倫理規範 事前学修：[30 分] 倫理に関する法律・条約・倫理規範について調べ資料にまとめる 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
4	小児看護実践における倫理的諸課題 事前学修：[30 分] 小児看護における倫理的課題について調べ資料にまとめる 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
5	子どもと家族への援助方法と実践の分析(1)事例検討 事前学修：[30 分] 実践報告書を作成する 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
6	子どもと家族への援助方法と実践の分析(2)課題の探求 事前学修：[30 分] 実践報告書から分析したことを資料にまとめる 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
7	コンサルテーションの方法と実践の分析 事前学修：[30 分] コンサルテーション報告書を作成する 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
8	コーディネーションの方法と実践の分析 事前学修：[30 分] コーディネーション報告書を作成する 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
9	子どもと家族の倫理調整方法と実践の分析 事前学修：[30 分] 倫理調整報告書を作成する 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
10	小児看護における医療事故と倫理 事前学修：[30 分] 小児看護における医療事故を調べ資料にまとめる 事後学修：[30 分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内

No	内容	形式	教員
11	小児看護実践と研究における倫理 事前学修：[30分] 小児看護における研究倫理について調べ資料にまとめる 事後学修：[30分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
12	小児看護関連領域の研究の動向と課題(1)動向の探究 事前学修：[30分] 小児看護領域の研究動向を調べ資料にまとめる 事後学修：[30分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
13	小児看護関連領域の研究の動向と課題(2)課題の探究 事前学修：[30分] 小児看護領域の研究動向から課題を分析し資料にまとめる 事後学修：[30分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内
14	小児看護専門看護師の役割機能の探求(1)事例検討 事前学修：[30分] 小児看護 CNS の役割機能を調べ資料にまとめる 事後学修：[30分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内・間所
15	小児看護専門看護師の役割機能の探求(2)展望の探究 事前学修：[30分] 小児看護 CNS の展望について調べ資料にまとめる 事後学修：[30分] 授業内容を振り返る	発表・討論	江本・山内・間所

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

- (1)開講時、参考文献リストを配布し、随時授業で資料を配付する。
- (2)小児看護関連領域で活用されている倫理規範を参照する。

■ 他の授業科目との関連

この科目を基盤として、小児看護学特講Ⅳ、小児看護学演習Ⅰ、小児看護学演習Ⅲ、小児看護学実習Ⅲが展開されます。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 20%
2. 課題レポート 80%

■ オフィスアワー・研究室等

非常勤講師：授業終了後 30 分。

江本・山内：授業開講日の 12：30～12：50 および 授業終了後 30 分。江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■ その他

HMCF150

小児看護学特講Ⅳ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：前期

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

子どもと家族をとりまく保健医療・福祉・教育の諸制度や歴史を概観しつつ現状を分析し、小児看護における制度・政策・体制や小児医療環境の課題を明確化し、革新的方略を探求する。

■ 到達目標

1. 小児看護関連領域において、子どもと家族をとりまく保健医療・福祉・教育制度、政策、体制などについて説明できる。
2. 小児医療環境の課題を明確にし、それを改善する方略を考案することができる。
3. 小児看護の専門職者としての役割などを述べるができる。

■ 学習の進め方

2020 年度は COVID-19 による影響のため同時双方向型の Teams を用いて授業を行う。

1. 授業の展開：関連文献や資料に基づき、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める。
2. 参考資料の提示：授業内容に沿った事柄をより深く学習できるよう、授業概要または配付資料に参考資料を記す。

【事前学習】日本看護協会より発行している「専門看護師の資格認定の手引き」にある、専門看護師の役割・機能を参照し、要旨を A4 用紙 1 枚にまとめる。

【事後学習】子どもの権利条約と結びつけながら、授業資料を基に復習する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	発表・討議	江本・山内
2	子どもと家族をとりまく制度・政策・体制(1): 法律・制度・条約	発表・討議	江本・山内
3	子どもと家族をとりまく制度・政策・体制(2): 保健医療制度	発表・討議	江本・山内
4	子どもと家族をとりまく制度・政策・体制(3): 福祉制度	発表・討議	江本・山内
5	子どもと家族をとりまく制度・政策・体制(4): 教育制度	発表・討議	江本・山内
6	子どもと家族をとりまく制度・政策・体制(5): 診療報酬	発表・討議	江本・山内
7	子どもと家族をとりまく制度・政策・体制(6): 公的資源	発表・討議	江本・山内
8	小児医療環境の課題(1): 行政との連携	発表・討議	江本・山内
9	小児医療環境の課題(2): 子どもの在宅医療	発表・討議	江本・山内
10	小児医療環境の課題(3): 障がい児の医療	発表・討議	江本・山内
11	小児医療環境の課題(4): 虐待対策	発表・討議	江本・山内
12	小児医療環境の課題(5): 看護専門職者と政策	発表・討議	江本・山内
13	保健医療・福祉・教育などの状況をふまえた関連領域との連携を探る(1): 保健・医療	発表・討議	江本・山内
14	保健医療・福祉・教育などの状況をふまえた関連領域との連携を探る(2): 福祉	討議	江本・山内
15	保健医療・福祉・教育などの状況をふまえた関連領域との連携を探る(3): 教育	討議	江本・山内

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布するとともに、随時授業で資料を配付する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。課題レポートのフィードバックは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は小児看護学特別研究Ⅲを学習する上での基盤となる科目である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 20%
2. 課題レポート 80%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30~12:50、および、授業終了後 30 分。

江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■ 受講上の注意事項

発表資料等は、授業開講日の前日までに全員に配布すること。各自、資料に目を通し、当日の討議に臨むこと。

■ その他

HMCF200

小児看護学演習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○江本 リナ、山内 朋子、今井 庸子、小沢 浩、尾高 大輔、間所 利恵

■ 授業の目的

小児期に特有な病気について、病態生理、診断に必要な検査法とその解釈、治療過程、症状マネジメントなどの理解を深め、小児看護学の視点に立った身体・心理社会的な側面を含めた包括的な専門的ケアを探究する。

■ 到達目標

1. 小児期に特有な病気の病態生理について説明することができる。
2. 診断に必要な検査法とその解釈について説明することができる。
3. 検査結果の解釈に基づいた判断、治療過程、症状マネジメントについて説明することができる。
4. 小児看護学の視点に立った包括的な専門的ケアについて、自分の意見を述べることができる。

■ 学習の進め方

AL 科目

1. 講義：授業テーマに沿って、医師より病態理解・診断に必要な検査法と解釈・治療過程・症状マネジメントの重要なポイントの解説を受ける。
2. フィールドワーク(FW)：外来または病棟において医師の診察に同行し、見学や医師による解説を通して診断に至るプロセスを学ぶ。
 - ①医師の診察に同行する際、まず子どもと家族に許可を得る。
 - ②医師の一連の診察を見学する。
 - ③医師が子どもと家族へ説明している場に同席し、医師による診断プロセス、治療の判断などを聞く。
 - ④適宜医師に質疑し、医師による解説を受ける。
- ⑤ 1 日の同行を終了した後、同行したケースについてカンファレンスを行い、医師による病態、診断に必要な検査法と解釈、治療過程、症状マネジメントの解説を受けて振り返る。
3. ケース分析・討議(演習)：外来または病棟でフィールドワークをしたときのケースについて、病態・診断に必要な検査法と解釈・治療過程・症状マネジメントの理解とともに包括的アセスメント・分析を行い、看護の視点からこのケースが抱える課題を明確にする。ケース分析・討議(演習)では、各自、資料を準備して臨む。
4. プレゼンテーション(発表)：課題に沿って、作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う。
5. 課題レポート：小児期に特有な病気に罹患した子どもと家族の身体および心理社会的な側面を含めた包括的アセスメントの実践能力について振り返り、自己の課題を明らかにする。

【事前学習】関連した文献に目を通し、要旨をノートにまとめる。

【事後学習】小児看護学の視点に立って、授業資料を基に復習する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	江本、山内
2	子どもと家族の包括的アセスメントの概論	講義	江本、山内
3	急性期状況にある子どもと家族(1)：病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 1	講義	江本、山内、今井
4	急性期状況にある子どもと家族(2)：病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 2	講義	江本、山内、今井
5	急性期状況にある子どもと家族(3)：病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 3	FW	今井
6	急性期状況にある子どもと家族(4)：病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 4	FW	今井
7	急性期状況にある子どもと家族(5)：包括的アセスメント 1	発表・演習	江本、山内、尾高
8	急性期状況にある子どもと家族(6)：包括的アセスメント 2	発表・演習	江本、山内、尾高
9	慢性期状況にある子どもと家族(1)：病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 1	講義	江本、山内、小沢
10	慢性期状況にある子どもと家族(2)：病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 2	講義	江本、山内、小沢

No	内容	形式	教員
11	慢性期状況にある子どもと家族(3): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 3	FW	小沢
12	慢性期状況にある子どもと家族(4): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 4	FW	小沢
13	慢性期状況にある子どもと家族(5): 包括的アセスメント 1	発表・演習	江本、山内、間所
14	慢性期状況にある子どもと家族(6): 包括的アセスメント 2	発表・演習	江本、山内、間所
15	精神・神経症状のある子どもと家族(1): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 1	講義	江本、山内、小沢
16	精神・神経症状のある子どもと家族(2): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 2	講義	江本、山内、小沢
17	精神・神経症状のある子どもと家族(3): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 3	FW	小沢
18	精神・神経症状のある子どもと家族(4): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 4	FW	小沢
19	精神・神経症状のある子どもと家族(5): 包括的アセスメント 1	発表・演習	江本、山内
20	精神・神経症状のある子どもと家族(6): 包括的アセスメント 2	発表・演習	江本、山内
21	虐待の疑いがある子どもと家族(1): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 1	講義	江本、山内、今井
22	虐待の疑いがある子どもと家族(2): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 2	講義	江本、山内、今井
23	虐待の疑いがある子どもと家族(3): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 3	FW	今井
24	虐待の疑いがある子どもと家族(4): 病態理解・診断に必要な検査法と解釈と治療過程・症状マネジメント 4	FW	今井
25	虐待の疑いがある子どもと家族(5): 包括的アセスメント 1	発表・演習	江本、山内
26	虐待の疑いがある子どもと家族(6): 包括的アセスメント 2	発表・演習	江本、山内
27	小児期に特有な病気に罹患した子どもと家族の包括的専門ケア(1): 看護師の役割 1	発表・演習	江本、山内
28	小児期に特有な病気に罹患した子どもと家族の包括的専門ケア(2): 看護師の役割 2	発表・演習	江本、山内
29	小児期に特有な病気に罹患した子どもと家族の包括的アセスメントと専門ケアにおける今後の課題 1	発表・演習	江本、山内
30	小児期に特有な病気に罹患した子どもと家族の包括的アセスメントと専門ケアにおける今後の課題 2	発表・演習	江本、山内

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布するとともに、随時授業で資料を配付する。

■ 他の授業科目との関連

1 年次通年で開講されている小児看護学実習 I と相互に関連し合うため、常に関連させて学習を進めていくこと。

■ 成績評価の仕方

1. 演習への取り組み 50 % 2. プレゼンテーション 25 % 3. 課題レポート 25 %

■ オフィスアワー・研究室等

非常勤講師：演習終了後 30 分。

学内講師：演習開講日の 12:30～12:50、および、演習終了後 30 分。

江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■ その他

HMCF180

小児看護学演習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

臨床現場において、成長・発達のアセスメント、フィジカルアセスメントなどを通して子どもと家族の健康を包括的にアセスメントし、子どもの発達段階や状況に応じた適切な援助を探求する基礎的能力を養う。

■ 到達目標

1. 身近にいる健康な子どもを対象に、子どもの発達や身体のアセスメントを行うことができる。
2. 子どもと家族の健康に関する包括的な情報収集を行い、現象を捉え、分析し、包括的にアセスメントすることができる。
3. 子どもの発達段階や状況に応じた適切な援助を考案することができる。

■ 学習の進め方

AL 科目

2020 年度は COVID-19 による影響のため同時双方向型の Teams を用いて授業を行う。

1. プレゼンテーション(発表)

事前学習をし、作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う。

2. 成長および運動機能発達のアセスメント(講義)

子どもの成長および運動機能の発達をアセスメントする視点、その方法を学ぶ。

3. 成長および運動機能発達のアセスメント(フィールドワーク：FW)

身近にいる健康な子どもを 1 ケース選び、実際の子どもの生活を通じた成長評価を行い、運動機能発達のアセスメントを行う。

4. 成長および運動機能発達のアセスメント(ケース分析：演習、ディスカッション：討論)

フィールドワークで得られた情報を基に、成長・運動機能発達の総合的なアセスメントについてディスカッションする。

5. 系統的フィジカルアセスメント(講義)

子どもの系統的フィジカルアセスメントをどのように見ていくかについて、子どものフィジカルアセスメントの DVD やテキストを基に講義を行う。その際、「子どものフィジカルアセスメント チェックガイド・リスト」を参考にする。

6. 系統的フィジカルアセスメント(演習)

学内で、モデル人形・シミュレーター(Sim Junior)・模擬患者・ロールプレイなどを用いて系統的なフィジカルアセスメント技術を学ぶ。

7. 身体・心理社会的な包括的アセスメント(フィールドワーク：FW)

身近にいる健康な子どもを 1 ケース選び、「子どもと家族の包括的アセスメントのためのガイド」、「子どものフィジカルアセスメント チェックガイド・リスト」を用いて、成長・発達、運動機能、系統的フィジカルアセスメントを行い、発育状況、精神運動機能、育児の方法、日常生活、養育環境、健康管理の視点で包括的にアセスメントを行う。

8. 身体・心理社会的な包括的アセスメント(ケース分析：演習、ディスカッション：討論)

フィールドワークを基に現象を捉え、子どもと家族の包括的アセスメントについてディスカッションする。

【事前学習】 共通科目 B (特に小児のフィジカルアセスメント①・②)、小児看護学特講Ⅱの内容を活用し、自らの課題をノートにまとめる。

【事後学習】 配付資料を基に復習し、授業毎に提示する事後課題を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	全員
2	子どもの包括的アセスメント 1	発表	全員
3	子どもの包括的アセスメント 2	発表	全員
4	子どもの包括的アセスメント 3	発表	全員
5	子どもの成長および運動機能発達のアセスメント 1	講義	全員
6	子どもの成長および運動機能発達のアセスメント 2	講義	全員
7	子どもの成長および運動機能発達のアセスメント 3	FW	全員
8	子どもの成長および運動機能発達のアセスメント 4	FW	全員
9	子どもの成長および運動機能発達のアセスメント 5	演習・討論	全員
10	子どもの成長および運動機能発達のアセスメント 6	演習・討論	全員
11	子どもの系統的フィジカルアセスメント 1	講義	全員
12	子どもの系統的フィジカルアセスメント 2	講義	全員
13	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習①：全身状態 1	演習	全員

No	内容	形式	教員
14	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習①：全身状態 2	演習	全員
15	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習②：頭部・感覚器系 1	演習	全員
16	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習②：頭部・感覚器系 2	演習	全員
17	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習③：胸部(胸部・呼吸器系・循環器系) 1	演習	全員
18	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習③：胸部(胸部・呼吸器系・循環器系) 2	演習	全員
19	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習④：腹部(消化器系)・そけい部(泌尿器系) 1	演習	全員
20	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習④：腹部(消化器系)・そけい部(泌尿器系) 2	演習	全員
21	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習⑤：筋骨格・反射 1	演習	全員
22	子どもの系統的フィジカルアセスメント演習⑤：筋骨格・反射 2	演習	全員
23	子どもの痛みのアセスメント 1	発表	全員
24	子どもの痛みのアセスメント 2	発表	全員
25	子どもと家族の身体・心理社会的な包括的アセスメント 1	FW	全員
26	子どもと家族の身体・心理社会的な包括的アセスメント 2	FW	全員
27	子どもと家族の身体・心理社会的な包括的アセスメント 3	演習・討論	全員
28	子どもと家族の身体・心理社会的な包括的アセスメント 4	演習・討論	全員
29	子どもと家族の身体・心理社会的な包括的アセスメント：多職種との連携 1	発表	全員
30	子どもと家族の身体・心理社会的な包括的アセスメント：多職種との連携 2	発表	全員

■教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■参考書、参考資料等

開講時参考文献リスト、「子どもと家族の包括的アセスメントのためのガイド」、「子どものフィジカルアセスメント チェックガイド・リスト」を配布し、随時授業で資料を配付する。

■フィードバックの仕方

プレゼンテーション・課題のフィードバックは授業時に行う。

■他の授業科目との関連

この科目は、共通科目 B (特にフィジカルアセスメント)、小児看護学特講Ⅱの学習内容と相互に関連し合う。また、小児看護学演習Ⅰ、小児看護学実習Ⅰでは、この科目を基盤として、さらに発展した内容を扱う。

■成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50% 2. プレゼンテーション 50%

■オフィスアワー・研究室等

演習日の 12:30～12:50、および、演習終了後 30 分。
江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■その他

HMCF181

小児看護学演習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

急性期、慢性期、精神・神経症状、虐待など特定状況にある子どもの看護に関して、学生の専門性を考慮してテーマを選択し、文献学習を行い、既存の知識との関連性を考えて新たな知見を実践の中に応用できる基礎的能力を養う。

■ 到達目標

1. 小児看護学における特定状況での課題を明確にできる。
2. 関連する理論や文献のクリティークを行い、課題に対して研究的に解決する方法を検討することができる。
3. ケース分析を通して、特定状況の課題への援助に研究を活用することができる。
4. 学術的な観点から討議し、援助につなげるための研究の活用について、自分の意見を述べることができる。

■ 学習の進め方

AL 科目

1. プレゼンテーション(発表)

事前学習をし、作成した資料をもとにプレゼンテーションを行う。

2. ケース分析(演習)

これまでに経験した事例または学術誌に掲載されているケースを用いて、専門看護師の役割の視点から、特定状況にある子どもの援助方法およびその実際を分析する。

3. 課題の分析と研究活用

文献クリティークを通して特定状況に関連した課題を探求し、課題に対する援助に研究を活用する。

【事前学習】小児看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱの内容を活用し、自らの課題をノートにまとめる。

【事後学習】配付資料を基に復習し、授業毎に提示する事後課題を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	全員
2	子どもと家族を取り巻く社会状況における小児看護の課題 1	発表	全員
3	子どもと家族を取り巻く社会状況における小児看護の課題 2	発表	全員
4	子どもと家族を取り巻く社会状況における小児看護の課題 3	発表	全員
5	小児看護学における研究方法 1	発表	全員
6	小児看護学における研究方法 2	発表	全員
7	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(1): 急性状況にある子ども 1	演習	全員
8	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(1): 急性状況にある子ども 2	演習	全員
9	課題の分析と研究活用(1): 急性状況にある子ども 1	発表	全員
10	課題の分析と研究活用(1): 急性状況にある子ども 2	発表	全員
11	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(2): 慢性状況にある子ども 1	演習	全員
12	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(2): 慢性状況にある子ども 2	演習	全員
13	課題の分析と研究活用(2): 慢性状況にある子ども 1	発表	全員
14	課題の分析と研究活用(2): 慢性状況にある子ども 2	発表	全員
15	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(3): 重症心身障がいがある子ども 1	演習	全員
16	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(3): 重症心身障がいがある子ども 2	演習	全員
17	課題の分析と研究活用(3): 重症心身障がいがある子ども 1	発表	全員
18	課題の分析と研究活用(3): 重症心身障がいがある子ども 2	発表	全員
19	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(4): 在宅ケアを受けている子ども 1	演習	全員
20	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(4): 在宅ケアを受けている子ども 2	演習	全員
21	課題の分析と研究活用(4): 在宅ケアを受けている子ども 1	発表	全員
22	課題の分析と研究活用(4): 在宅ケアを受けている子ども 2	発表	全員
23	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(5): 虐待の疑いがある子ども 1	演習	全員
24	特定状況の課題に沿った援助方法及び実践(5): 虐待の疑いがある子ども 2	演習	全員

No	内容	形式	教員
25	課題の分析と研究活用(5): 虐待の疑いがある子ども 1	発表	全員
26	課題の分析と研究活用(5): 虐待の疑いがある子ども 2	発表	全員
27	小児看護学における今後の課題 1	発表	全員
28	小児看護学における今後の課題 2	発表	全員
29	まとめ: 子どもの最善の利益を目指す小児専門看護師の役割と課題 1	発表	全員
30	まとめ: 子どもの最善の利益を目指す小児専門看護師の役割と課題 2	発表	全員

■教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布するとともに、随時授業で資料を配付する。

■他の授業科目との関連

小児看護学特別研究Ⅱ・Ⅲは、この科目に基づき、さらに発展的に課題を探索していく。

■成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50% 2. プレゼンテーション 50%

■オフィスアワー・研究室等

演習日の 12:30~12:50、および、演習終了後 30 分。

江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■その他

HMCF182

小児看護学特別研究Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

小児看護学における研究課題を絞り込み、自己の研究課題を焦点化し、研究課題に取り組むための研究方法を探究する。

■ 到達目標

1. 関連理論や文献のクリティークができる。
2. 関連理論や文献を用いた文献検討ができる。
3. 小児看護学における自らの研究課題を明確にできる。
4. 自己の研究課題に取り組むための研究方法を検討できる。
5. 研究計画書を検討できる。
6. フィールドワーク方法を検討できる。

■ 学習の進め方

課題について資料を作成し、ゼミ形式にて討議する。

【事前学習】 発表資料を準備する。

【事後学習】 ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション		
2	研究疑問の明確化(1): 関心のある子どもと家族への臨床場面 1	演習	江本・山内
3	研究疑問の明確化(2): 関心のある子どもと家族への臨床場面 2	演習	江本・山内
4	研究疑問の明確化(3): 問いの発見	演習	江本・山内
5	研究疑問の明確化(4): 問いの洗練	演習	江本・山内
6	子どもと家族の看護に関連する文献検討(1): データベースの使用と検索ワード	演習	江本・山内
7	子どもと家族の看護に関連する文献検討(2): 国内外の研究論文の検索	演習	江本・山内
8	子どもと家族の看護に関連する国内の文献クリティーク(1): 調査研究	演習	江本・山内
9	子どもと家族の看護に関連する国内の文献クリティーク(2): 質的研究	演習	江本・山内
10	子どもと家族の看護に関連する国内の文献クリティーク(3): 量的研究	演習	江本・山内
11	子どもと家族の看護に関連する国内の研究論文のまとめ	演習	江本・山内
12	子どもと家族の看護に関連する海外の文献クリティーク(1): 調査研究	演習	江本・山内
13	子どもと家族の看護に関連する海外の文献クリティーク(2): 質的研究	演習	江本・山内
14	子どもと家族の看護に関連する海外の文献クリティーク(3): 量的研究	演習	江本・山内
15	子どもと家族の看護に関連する海外の研究論文のまとめ	演習	江本・山内
16	研究テーマの検討(1): 研究の背景に関する検討	演習	江本・山内
17	研究テーマの検討(2): 文献レビューのまとめ	演習	江本・山内
18	研究テーマの検討(3): 研究目的と課題の明確化	演習	江本・山内
19	研究テーマの検討(4): 研究課題の意義と必要性の検討	演習	江本・山内
20	研究方法論の検討(1): 既存の研究アプローチ	演習	江本・山内
21	研究方法論の検討(2): 研究施設と研究参加者	演習	江本・山内
22	研究方法論の検討(3): 研究参加者の募り方	演習	江本・山内
23	研究方法論の検討(4): データ収集と分析の方法	演習	江本・山内
24	研究における倫理的配慮(1): 子どもの権利	演習	江本・山内
25	研究における倫理的配慮(2): インフォームドアセント／コンセント	演習	江本・山内
26	研究における倫理的配慮(3): 研究参加者の脆弱性に対する配慮	演習	江本・山内
27	研究における倫理的配慮(4): 個人情報保護のための配慮	演習	江本・山内
28	研究における倫理的配慮(5): 研究参加における不利益に対する配慮	演習	江本・山内
29	研究計画書の検討(1): 研究計画書の書き方	演習	江本・山内

No	内容	形式	教員
30	研究計画書の検討(2): 研究計画書作成の実際	演習	江本・山内

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。課題レポートのフィードバックは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、小児看護学特講Ⅱ、小児看護学演習Ⅲの学習内容を基盤として展開される。また、小児看護学特別研究Ⅱ・Ⅲでは、この科目を基盤として、さらに発展した内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50% 2. 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30~12:50、および、授業終了後 30 分

江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■ その他

HMCF183

小児看護学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：前期

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

小児看護学において探求すべき研究を遂行するための基礎的なステップを理解し、実現可能な研究方法を探求する。

■ 到達目標

1. 自己の研究課題に取り組むためのフィールドワークを行うことができる。
2. フィールドワークをもとに研究課題と研究方法を明確にできる。
3. フィールドワークによるデータ収集および分析を検討できる。

■ 学習の進め方

課題について資料を作成し、Teams や Zoom を用いたゼミ形式にて討議する。

【事前学習】発表資料を準備する。

【事後学習】ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	フィールドワーク方法の検討(1): 研究倫理審査 1	演習	江本・山内
2	フィールドワーク方法の検討(2): 研究倫理審査 2	演習	江本・山内
3	フィールドワーク方法の検討(3): 研究倫理審査 3	演習	江本・山内
4	フィールドワーク方法の検討(4): 研究倫理審査 4	演習	江本・山内
5	フィールドワーク方法の検討(5): 研究施設へのアプローチ	演習	江本・山内
6	フィールドワーク方法の検討(6): 研究参加者へのアプローチ	演習	江本・山内
7	フィールドワークによるデータ収集方法の検討(1): フィールドの特徴の理解 1	演習	江本・山内
8	フィールドワークによるデータ収集方法の検討(2): フィールドの特徴の理解 2	演習	江本・山内
9	フィールドワークによるデータ収集方法の検討(3): 研究者の立場	演習	江本・山内
10	フィールドワークによるデータ収集方法の検討(4): データ収集 1	演習	江本・山内
11	フィールドワークによるデータ収集方法の検討(5): データ収集 2	FW	江本・山内
12	フィールドワークによるデータ収集方法の検討(6): データ収集 3	演習	江本・山内
13	フィールドワークによるデータ収集方法の検討(7): データ収集 4	FW	江本・山内
14	フィールドワークによるデータ収集方法の検討(8): データ収集 5	演習	江本・山内
15	フィールドワークによる収集データの分析と討議(1)	演習	江本・山内
16	フィールドワークによる収集データの分析と討議(2)	FW	江本・山内
17	フィールドワークによる収集データの分析と討議(3)	演習	江本・山内
18	フィールドワークによる収集データの分析と討議(4)	FW	江本・山内
19	フィールドワークによる収集データの分析と討議(5)	演習	江本・山内
20	フィールドワークによる収集データの分析と討議(6)	FW	江本・山内
21	フィールドワークによる収集データの分析と討議(7)	演習	江本・山内
22	フィールドワークによる収集データの分析と討議(8)	FW	江本・山内
23	フィールドワークによる収集データの分析と討議(9)	演習	江本・山内
24	フィールドワークによる収集データの分析と討議(10)	FW	江本・山内
25	フィールドワークによる収集データの分析と討議(11)	演習	江本・山内
26	フィールドワークによる収集データの分析と討議(12)	FW	江本・山内
27	フィールドワークによる収集データの分析と討議(13)	演習	江本・山内
28	フィールドワークによる収集データの分析と討議(14)	FW	江本・山内
29	フィールドワークによる収集データの分析と討議(15)	演習	江本・山内
30	まとめ	演習	江本・山内

■教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布する。

■フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。課題レポートのフィードバックは授業終了後に行う。

■他の授業科目との関連

この科目は、小児看護学特講Ⅱ・Ⅲ、小児看護学演習Ⅲ、小児看護学特別研究Ⅰの学習内容を基盤として展開される。また、小児看護学特別研究Ⅲでは、この科目を基盤として、さらに発展した内容を扱う。

■成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50% 2. 課題レポート 50%

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30~12:50、および、授業終了後 30 分
江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■その他

HMCF201

小児看護学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：後期

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

自己の研究課題に即した研究活動を行い、研究目的との整合性を維持し分析する能力を高める。

■ 到達目標

1. 自らの研究課題に即したデータ収集および分析ができる。
2. データ分析を通して、研究目的に即した研究結果を導きだすことができる。
3. 自らの研究課題に即した論文の考察ができる。
4. 論理性・整合性・一貫性をもった研究論文を作成することができる。
5. 学際的な観点から討議し、小児看護学の展望について自分の意見を述べるができる。

■ 学習の進め方

課題について資料を作成し、ゼミ形式にて討議する。

【事前学習】 発表資料を準備する。

【事後学習】 ゼミでの討議内容を踏まえて復習する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	フィールドワークによる収集データの分析と討議(1)	演習	江本・山内
2	フィールドワークによる収集データの分析と討議(2)	演習	江本・山内
3	フィールドワークによる収集データの分析と討議(3)	演習	江本・山内
4	フィールドワークによる収集データの分析と討議(4)	演習	江本・山内
5	フィールドワークによる収集データの分析と討議(5)	演習	江本・山内
6	フィールドワークによる収集データの分析と討議(6)	演習	江本・山内
7	データの分析(1): 研究結果の検討 1	演習	江本・山内
8	データの分析(2): 研究結果の検討 2	演習	江本・山内
9	データの分析(3): 研究結果の検討 3	演習	江本・山内
10	データの分析(4): 研究結果の検討 4	演習	江本・山内
11	データの分析(5): 結果の構成についての検討 1	演習	江本・山内
12	データの分析(6): 結果の構成についての検討 2	演習	江本・山内
13	データの分析(7): 結果の構成についての検討 3	演習	江本・山内
14	データの分析(8): 結果の構成についての検討 4	演習	江本・山内
15	データの分析(9): 考察の検討 1	演習	江本・山内
16	データの分析(10): 考察の検討 2	演習	江本・山内
17	データの分析(11): 考察の検討 3	演習	江本・山内
18	データの分析(12): 考察の検討 4	演習	江本・山内
19	データの分析(13): 考察の検討 5	演習	江本・山内
20	データの分析(14): 考察の検討 6	演習	江本・山内
21	論文作成の準備(1): 論文構成と内容の検討 1	演習	江本・山内
22	論文作成の準備(2): 論文構成と内容の検討 2	演習	江本・山内
23	論文作成の準備(3): 論文構成と内容の検討 3	演習	江本・山内
24	論文作成の準備(4): 論文構成と内容の検討 4	演習	江本・山内
25	論文作成の準備(5): 全体構成の確認	演習	江本・山内
26	論文作成の準備(6): 抄録の作成	演習	江本・山内
27	論文作成の準備(7): 審査に向けた準備	演習	江本・山内
28	論文作成の準備(8): 発表に向けた準備	演習	江本・山内
29	まとめ(1): 研究論文の修正	演習	江本・山内
30	まとめ(2): 今後の課題の明確化	演習	江本・山内

■教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布する。

■フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。課題レポートのフィードバックは授業終了後に行う。

■他の授業科目との関連

この科目は、小児看護学特講Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、小児看護学演習Ⅲ、小児看護学特別研究Ⅰ・Ⅱの学習内容を基盤として展開される。

■成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50% 2. 課題レポート 50%

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30~12:50、および、授業終了後 30 分。

江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■その他

HMCF250

小児看護学実習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

診断・治療実習

小児期に特有な病気の診断プロセスと治療方法を学び、医学的臨床判断能力に基づいた看護を探求する。

■ 到達目標

1. 小児期に特有な病気の診断プロセスと治療方法について述べるができる。
2. 10 例以上、小児に特有な病気の診断治療過程を見学実習し、また、系統的フィジカルアセスメントを実施し、医学的臨床判断に基づいて看護判断(子どもと家族の包括的アセスメント含む)が行える。
3. 見学実習を踏まえ、小児看護の専門職としての役割・機能について自分の意見を述べるができる。

■ 学習の進め方

1. 実習施設を選択、交渉する。

2. 実習

- ①主に外来診察室において、小児期に特有な病気の診断プロセスと治療までの医学的な診断治療過程を見学する。
- ②子どもと家族の了解のもと、医師の指導を得ながら子どもの系統的フィジカルアセスメントを実施する。
- ③系統的フィジカルアセスメントを行ったケースについて医師とカンファレンスをもち、医学的臨床判断および看護判断(子どもと家族の包括的アセスメント含む)についてディスカッションをする。
- ④子どもの疾患、年齢を考慮し、幅広いケースを選択する。
- ⑤ 10 例以上について、医学的臨床判断に基づいた看護判断(子どもと家族の包括的アセスメント含む)に関するレポートにまとめる。
- ⑥医師および他職種とのカンファレンスに参加する。

3. 適宜スーパービジョンを受ける。

- ①実習フィールドにおいて、適宜、実習指導者からスーパービジョンを受ける。

- ②指導教員に週 1 回程度、スーパービジョンを受ける。

【事前学習】 共通科目 B、小児看護学特講Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱの内容に目を通して自分の課題をノートにまとめる。

【事後学習】 実習で学んだことをレポートにまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習期間：集中的に 2 月～3 月に行う。

2. 実習日程：実習施設での実習は、1 日 8 時間× 2～3 週間程度、合計 90 時間以上(到達目標が達成するまで継続するものとする)

3. 実習施設：実習指導者となる医師が所属する施設

※詳細は実習要項を参照のこと

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

実習目的に沿って、必要資料を各自で探求する。

■ フィードバックの仕方

カンファレンスのフィードバックは実習時に行う。課題レポートのフィードバックは実習終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は小児看護学演習Ⅱに基づき、より発展的な内容を扱う。また、2 年次前期に開講される小児看護学実習Ⅲは、この科目に基づき、さらに発展的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 50 %
2. レポート(看護判断 10 例以上) 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習日の 12：30～12：50、および、実習終了後 30 分。

江本研究室(419 研究室)、山内(443 研究室)

■ その他

HMCF184

小児看護学実習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：4 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

小児看護専門看護師実習

臨床において、子どもと家族へ包括的な看護を実践する際に必要な、小児看護専門看護師が果たす実践・コンサルテーション(相談)・コーディネーション(調整)・倫理調整・教育の役割や機能を理解する。

■ 到達目標

1. 小児看護専門看護師の役割、機能について述べることができる。
2. 諸理論および研究を用いて、小児看護専門看護師の役割機能(実践・コンサルテーション・コーディネーション・倫理調整・教育)を考察することができる。
3. 看護実践上の自己の課題を明確化し、小児看護専門看護師に必要な能力について考察することができる。

■ 学習の進め方

1. 実習施設を選択、交渉する。
2. 適宜スーパービジョンを受ける。
 - ①実習フィールドにおいて、適宜、実習指導者からスーパービジョンを受ける。
 - ②指導教員に週 1 回程度、スーパービジョンを受ける。
3. 適宜カンファレンスを行う。

実習施設において適宜カンファレンスを行い、小児看護専門看護師、実習指導者、小児看護師、他の医療専門職者より助言やフィードバックを受ける。
4. レポート(小児看護専門看護師の役割機能)を提出する。

【事前学習】小児看護学特講Ⅰ・Ⅱ、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱでの学習内容に目を通して、自分の課題をノートにまとめる。
【事後学習】実習で学んだことをレポートにまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習期間：集中的に 7 月～9 月に行う。
 2. 実習日程：実習施設での実習は、1 日 8 時間× 4～5 週間程度、合計 180 時間以上(到達目標が達成するまで継続するものとする)
 3. 実習施設：実習指導者となる小児看護 CNS が所属する施設
- ※詳細は実習要項を参照のこと

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

実習目的に沿って、必要資料を各自で探求する。

■ フィードバックの仕方

カンファレンスのフィードバックは実習時に行う。課題レポートのフィードバックは実習終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

2 年次前期に開講される小児看護学実習Ⅲは、この科目に基づき、さらに発展的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 50%
2. レポート(小児看護専門看護師の役割機能) 50%

■ オフィスアワー・研究室等

実習日の 12:30～12:50、および、実習終了後 30 分。

江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■ その他

HMCF185

小児看護学実習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：4 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○江本 リナ、山内 朋子

■ 授業の目的

小児看護専門看護師実習

臨床において、子どもと家族へ直接的ケアを行いつつ、小児看護専門看護師に求められる実践・コンサルテーション(相談)・コーディネーション(調整)・倫理調整・教育の能力を修得する。

■ 到達目標

1. 複雑な健康上の課題を持つ子どもと家族へ、小児看護専門看護師の実践として「実践(直接的ケア)」を行い、5 例以上について実践を分析し、自己の課題を明確化する。
2. 複雑な健康上の課題を持つ子どもと家族へ、小児看護専門看護師の役割・機能である「相談」・「調整」・「倫理調整」・「教育」に関する実践を試み、それぞれ 2 例以上について実践を分析し、自己の課題を明確化する。

■ 学習の進め方

1. 実習施設を選択、交渉する。
2. 適宜スーパービジョンを受ける。
 - ①実習フィールドにおいて、適宜、実習指導者からスーパービジョンを受ける。
 - ②指導教員に週 1 回程度、スーパービジョンを受ける。
3. 適宜カンファレンスを行う。

実習施設において適宜カンファレンスを行い、小児看護専門看護師、実習指導者、小児看護師、他の医療専門職者より助言やフィードバックを受ける。
4. レポートを提出する。(実践、5 例以上)(相談・調整・倫理調整・教育、それぞれ 2 例以上)
【事前学習】 共通科目 A (コンサルテーション)、共通科目 B、小児看護学特講 I～IV、小児看護学演習 I～III、小児看護学実習 I・II での学習内容に目を通して、自分の課題をノートにまとめる。
【事後学習】 実習で学んだことをレポートにまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習期間：集中的に 7 月～9 月に行う。
2. 実習日程：実習施設での実習は、1 日 8 時間× 4～5 週間程度、合計 180 時間以上(到達目標が達成するまで継続するものとする)
3. 実習施設：実習指導者となる小児看護 CNS が所属する施設
※詳細は実習要項を参照のこと

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

実習目的に沿って、必要資料を各自で探求する。

■ フィードバックの仕方

カンファレンスのフィードバックは実習時に行う。課題レポートのフィードバックは実習終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、小児看護学特講 I・II・III、小児看護学演習 I・II・III、小児看護学実習 I・II の総括となる内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 30%
2. レポート「実践(直接的ケア)：5 例以上」 30%
3. レポート「相談・調整・倫理調整・教育：各課題 2 例以上」 40%(4 課題× 10%)

■ オフィスアワー・研究室等

実習日の 12：30～12：50、および、実習終了後 30 分。

江本(419 研究室)、山内(443 研究室)

■ その他

HMCF280

成人看護学特講Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○本庄 恵子

■ 授業の目的

成人期にある人々を理解するために必要な諸理論・方法を学び、ケアに生かす力を養う。
成人期にある人々へのケア方策を探求するための調査研究方法について学ぶ。

■ 到達目標

1. 成人期にある人々を理解するために必要な諸理論・方法について、理解を深める。
2. 成人期にある人々へのケアを、関連する理論を踏まえて検討することができる。
3. 成人期にある人々へのケア方策を探求するための調査研究方法について学ぶ。

■ 学習の進め方

AL

文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を事前に提示する。
*事前に提示する文献を読んで、授業に参加してください。
2. 各自の専門領域を踏まえて、プレゼンテーションを行い討議する。
*各回で討議した内容は、事後学修で各自の専門領域に照らし合わせて深めて、各自でノート等にまとめてください。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	本庄
2	成人の学習の特徴(その1)	講義	本庄
3	成人の学習の特徴(その2)	講義・演習	本庄
4	成人期にある人の行動を理解するための諸理論(その1)	講義	本庄
5	成人期にある人の行動を理解するための諸理論(その2)	演習・討論	本庄
6	成人期にある人の行動を理解するための諸理論(その3)	演習・討論	本庄
7	成人期にある人へのケアに関する研究(その1)	演習・討論	本庄
8	成人期にある人へのケアに関する研究(その2)	演習・討論	本庄
9	ケア方策を探求するための調査研究方法(その1)	講義	本庄
10	ケア方策を探求するための調査研究方法(その2)	演習・討論	本庄
11	ケア方策を探求するための調査研究方法(その3)	演習・討論	本庄
12	ケア方策を探求するための調査研究方法(その4)	演習・討論	本庄
13	成人期にある人とその家族への看護援助の方策(その1)	講義	本庄
14	成人期にある人とその家族への看護援助の方策(その2)	演習・討論	本庄
15	まとめ	討論	本庄

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

この授業は、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱの基盤となります。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20%
2. プレゼンテーション 40%
3. 最終レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待します。

■ その他

HMAD150

成人看護学特講Ⅱ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○本庄 恵子、三浦 英恵

■ 授業の目的

成人期にある人々の身体、心理社会的特性と包括的アセスメントについて学ぶ。アセスメントの基盤となる中範囲理論を学ぶ。

■ 到達目標

1. 成人期にある人々の身体、心理社会的特性を理解し、説明できる。
2. 包括的アセスメントについて理解し、新たなアセスメント枠組みを作ることができる。
3. アセスメントの基盤となる中範囲理論を理解し、説明することができる。

■ 学習の進め方

AL

文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を事前に提示する。
*事前に提示する文献を読んで、授業に参加してください。
2. 各自の専門領域での経験を踏まえたテーマを選び、プレゼンテーションを行う。
3. ディスカッションを通して、成人期にある人の包括的アセスメントについての学びを深める。
*各回で討議した内容は、事後学修で各自の専門領域に照らし合わせて深めて、各自でノート等にまとめてください。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	本庄・三浦
2	成人期の身体的な特性とアセスメント(その1)	講義	三浦
3	成人期の身体的な特性とアセスメント(その2)	演習	三浦
4	成人期の心理社会的な特性とアセスメント(その1)	講義	三浦
5	成人期の心理社会的な特性とアセスメント(その2)	演習	本庄
6	成人期にある人の包括的アセスメント(その1)	演習	本庄
7	成人期にある人の包括的アセスメント(その2)	演習	本庄
8	包括的アセスメントのための中範囲理論(その1)	演習・討論	本庄
9	包括的アセスメントのための中範囲理論(その2)	演習・討論	本庄
10	包括的アセスメントのための中範囲理論(その3)	演習・討論	本庄
11	包括的アセスメントのための中範囲理論(その4)	演習・討論	本庄
12	アセスメントを生かした看護援助(その1)	演習・討論	三浦
13	アセスメントを生かした看護援助(その2)	演習・討論	三浦
14	アセスメントを生かした看護援助(その3)	演習・討論	三浦
15	まとめ	討論	本庄・三浦

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

この授業は成人看護学演習Ⅰ・Ⅱの基盤となります。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20%
2. プレゼンテーション 40%
3. 最終レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:20~12:50。本庄(442 研究室) 三浦(444 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待します。

■ その他

HMAD100

成人看護学演習Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

成人期にある人とその家族を包括的にアセスメントし、看護ケアの方略を探求する。
成人を対象とした健康教育の方法を学び、看護ケアに生かす力を養う。

■ 到達目標

1. 成人期にある人とその家族を包括的にアセスメントする方法を考案できる。
2. 包括的アセスメントを取り入れた看護ケアの方略を検討できる。
3. 成人を対象とした健康教育の方法を学び、ケアに生かすことができる。

■ 学習の進め方

AL

先行研究、実践報告のレビューを行い、ゼミ形式にて討議する。ロールプレイングや演習も取り入れる。

1. 学びを深めるための参考文献を事前に提示する。
*事前に提示する文献を読んで、授業に参加してください。
2. 各自の関心領域に沿って、文献レビューと演習を組み立てる。
*各回で討議した内容は、事後学修で各自の専門領域に照らし合わせて深めて、各自でノート等にまとめてください。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	本庄・三浦・田中・住谷
2	成人期にある人の包括的アセスメント(事例分析 その1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
3	成人期にある人の包括的アセスメント(事例分析 その2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
4	成人期にある人の家族の包括的アセスメント技法(事例分析 その1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
5	成人期にある人の家族の包括的アセスメント技法(事例分析 その2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
6	成人期にある人の職業に関連する健康障害(文献検討 その1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
7	成人期にある人の職業に関連する健康障害(文献検討 その2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
8	成人期にある人の職業に関連する健康障害(事例分析 その1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
9	成人期にある人の職業に関連する健康障害(事例分析 その2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
10	成人期にある人の職業に関連する健康障害(事例分析 その3)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
11	成人期にある人への健康教育(文献検討 その1-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
12	成人期にある人への健康教育(文献検討 その1-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
13	成人期にある人への健康教育(文献検討 その2-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
14	成人期にある人への健康教育(文献検討 その2-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
15	成人期にある人への健康教育(ロールプレイ その1-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷

No	内容	形式	教員
16	成人期にある人への健康教育(ロールプレイ その1-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
17	成人期にある人への健康教育(ロールプレイ その2-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
18	成人期にある人への健康教育(ロールプレイ その2-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
19	成人期にある人への健康教育(ロールプレイ その2-3)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
20	成人期にある人の職場環境と健康の維持・増進(その1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
21	成人期にある人の職場環境と健康の維持・増進(その2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
22	成人期にある人の家庭での役割と健康の維持・増進(その1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
23	成人期にある人の家庭での役割と健康の維持・増進(その2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
24	成人期にある人の健康を脅かす要因(文献検討 その1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
25	成人期にある人の健康を脅かす要因(文献検討 その2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
26	成人期にある人の特性を踏まえた看護ケア方略(その1-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
27	成人期にある人の特性を踏まえた看護ケア方略(その1-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
28	成人期にある人の特性を踏まえた看護ケア方略(その2-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
29	成人期にある人の特性を踏まえた看護ケア方略(その2-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
30	まとめ [討論]	討論	本庄・三浦・田中・住谷

■教科書

指定しない

■参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

■フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■他の授業科目との関連

成人看護学特講Ⅰ・Ⅱの学びを生かすこと。

■成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20% 2. プレゼンテーション 40% 3. レポート 40%

■オフィスアワー・研究室等

月曜日の12:20~12:50。本庄(442 研究室) 三浦(444 研究室) 田中(449 研究室) 住谷(422 研究室)

■受講上の注意事項

主体的な参加を期待します。

■その他

HMAD180

成人看護学演習Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

成人期にある人への支援技術および評価方法に関して検討し、その実践を行う中で革新方略を探求する。

■ 到達目標

1. 成人期にある人への支援技術を修得する。
2. 成人期にある人の評価方法を習得する。
3. 専門領域での実践を行う上での革新方略を検討する。

■ 学習の進め方

AL

実際にフィールドにてデータを収集しながら、分析(解釈)と文献検討により課題を明確にしていくとともに、革新方略の計画を立てる。

1. 学びを深めるための参考文献を事前に提示する。
*事前に提示する文献を読んで、授業に参加してください。
2. 関心領域にあわせたフィールドを選び、フィールドワークを行う。
3. 関心領域における革新方略をプレゼンテーションし、討議する。
*各回で討議した内容は、事後学修で各自の専門領域に照らし合わせて深めて、各自でノート等にまとめてください。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	本庄・三浦・田中・住谷
2	成人期にある人の特性と支援技術の実際(学内演習 その1-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
3	成人期にある人の特性と支援技術の実際(学内演習 その1-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
4	成人期にある人の特性と支援技術の実際(学内演習 その2-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
5	成人期にある人の特性と支援技術の実際(学内演習 その2-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
6	成人期にある人への支援技術の実施(文献検討 その1-1)	文献検討	本庄・三浦・田中・住谷
7	成人期にある人への支援技術の実施(文献検討 その1-2)	文献検討	本庄・三浦・田中・住谷
8	成人期にある人への支援技術の実施(文献検討 その2-1)	文献検討	本庄・三浦・田中・住谷
9	成人期にある人への支援技術の実施(文献検討 その2-2)	文献検討	本庄・三浦・田中・住谷
10	成人期にある人への支援技術の実施(フィールドワーク その1-1)	FW	本庄・三浦・田中・住谷
11	成人期にある人への支援技術の実施(フィールドワーク その1-2)	FW	本庄・三浦・田中・住谷
12	成人期にある人への支援技術の実施(フィールドワーク その2-1)	FW	本庄・三浦・田中・住谷
13	成人期にある人への支援技術の実施(フィールドワーク その2-2)	FW	本庄・三浦・田中・住谷
14	成人期にある人への支援技術の実施(フィールドワーク その3-1)	FW	本庄・三浦・田中・住谷
15	成人期にある人への支援技術の実施(フィールドワーク その3-2)	FW	本庄・三浦・田中・住谷

No	内容	形式	教員
16	成人期にある人への支援技術の評価(文献検討 その1)	文献検討	本庄・三浦・田中・住谷
17	成人期にある人への支援技術の評価(文献検討 その2)	文献検討	本庄・三浦・田中・住谷
18	成人期にある人への支援技術の評価(フィールドワーク その1)	FW	本庄・三浦・田中・住谷
19	成人期にある人への支援技術の評価(フィールドワーク その2)	FW	本庄・三浦・田中・住谷
20	成人期にある人への支援技術の課題と可能性(ディスカッション その1)	討論	本庄・三浦・田中・住谷
21	成人期にある人への支援技術の課題と可能性(ディスカッション その2)	討論	本庄・三浦・田中・住谷
22	成人期にある人への支援技術の革新方略の計画立案(演習 その1-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
23	成人期にある人への支援技術の革新方略の計画立案(演習 その1-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
24	成人期にある人への支援技術の革新方略の計画立案(演習 その2-1)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
25	成人期にある人への支援技術の革新方略の計画立案(演習 その2-2)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
26	成人期にある人への支援技術の革新方略の計画立案(演習 その2-3)	演習	本庄・三浦・田中・住谷
27	成人期にある人への支援技術の革新方略の計画立案(ディスカッション その1)	討論	本庄・三浦・田中・住谷
28	成人期にある人への支援技術の革新方略の計画立案(ディスカッション その2)	討論	本庄・三浦・田中・住谷
29	成人期にある人への支援技術の革新方略の計画立案(ディスカッション その3)	討論	本庄・三浦・田中・住谷
30	まとめ	討論	本庄・三浦・田中・住谷

■教科書

指定しない

■参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

■フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■他の授業科目との関連

成人看護学特講Ⅰ・Ⅱの学びを生かすこと。

■成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20% 2. プレゼンテーション 40% 3. レポート 40%

■オフィスアワー・研究室等

月曜日の12:20~12:50。本庄(442 研究室) 三浦(444 研究室) 田中(449 研究室)住谷(422 研究室)

■受講上の注意事項

主体的な参加を期待します。

■その他

HMAD280

クリティカルケア看護学特講 I ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○三浦 英恵、岡田 彩子、本庄 恵子、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

1. クリティカル期にある人とその家族の体験を理解する。
2. クリティカル期にある人間の内的世界や存在の意味、身体と病いをめぐる人間の体験を考察し、看護援助方法を探求する。

■ 到達目標

1. クリティカル期にある人とその家族の体験を理解できる。
2. クリティカル期にある人間の内的世界や存在の意味、病いをめぐる人間の体験を考察することができる。
3. クリティカル期にある人と家族の体験を踏まえて、看護援助方法を検討することができる。

■ 学習の進め方

同時双方向型のオンライン環境での講義、ゼミ形式による担当者の発表と討議を中心に展開する。

1. 事前学修

各講義・討議に関連する参考書籍、文献を探し読んでおく。

6、8 回は発表担当者を決め、担当者は以下の資料を作成する。

①臨床での事例をまとめて、授業日前週に配布する。

②授業日までに講義で得た知識、理論などを活用しながら事例を振り返り、看護援助、介入の在り方を検討し、発表用資料を作成する。発表用資料はプレゼンテーションの当日に配布する。発表用資料の最後には、討議のテーマや論点を明示する。

③担当者以外の学生は事例をよく読み、授業に臨む。

12～14 回は発表担当者を決め、担当者は以下の資料を作成する。

①クリティカル期にある人とその家族の体験と看護ケアに関連した、関心のある領域の研究論文(英語)を検索して 1 つ選び、論文を要約して発表する。

②論文は発表の 1 週間前に配布する。発表用資料は当日に配布する。発表用資料の最後には、討議のテーマや論点を明示する。

2. 事後学修

講義資料、発表資料をよく読み復習する。

自分の発表や討議の内容を振り返り考察を深め、看護実践への活用可能性を論じ、レポートにまとめる(A4 用紙 5 枚程度)。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義・討議	三浦・岡田・住谷
2	クリティカル期にある人の病いの体験①クリティカル期、急性期、周手術期にある患者の病いの体験	講義・討議	三浦・岡田・住谷
3	クリティカル期にある人の病いの体験②病みの軌跡理論	講義・討議	本庄
4	クリティカル期にある人の家族の体験	討議	三浦・住谷
5	クリティカル期にある人々のアドボカシーと看護援助①アドボカシーと看護の役割	講義・討議	三浦・住谷
6	クリティカル期にある人々のアドボカシーと看護援助②	発表・討議	三浦・住谷
7	クリティカル期にある人々の意思決定・セルフケアと看護援助①意思決定・セルフケア理論	講義・討議	本庄
8	クリティカル期にある人々の意思決定・セルフケアと看護援助②	発表・討議	三浦・住谷
9	クリティカル期にある人々の全人的苦痛と全人的アプローチ①パリアティブケア	講義・討議	三浦・住谷
10	クリティカル期にある人々の全人的苦痛と全人的アプローチ②コンフォートケア	講義・討議	三浦・住谷
11	クリティカル期にある人々の全人的苦痛と全人的アプローチ③ケアリング	講義・討議	三浦・住谷
12	クリティカル期にある人とその家族の体験と看護ケアに関する文献抄読①	発表・討議	三浦・岡田
13	クリティカル期にある人とその家族の体験と看護ケアに関する文献抄読②	発表・討議	三浦・岡田
14	クリティカル期にある人とその家族の体験と看護ケアに関する文献抄読③	発表・討議	三浦・岡田
15	まとめ	講義・討議	三浦

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学特講Ⅱ～Ⅴの基本となる学習である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度(20%) 2. プレゼンテーション(40%) 3. レポート(40%)

■ オフィスアワー・研究室等

講義日の12:20～12:50。三浦(444 研究室) 本庄(442 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD101

クリティカルケア看護学特講Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○三浦 英恵、岡田 彩子、住谷 ゆかり、高橋 知彦、中島 千春、比田井 理恵、藤野 智子

■ 授業の目的

1. クリティカル状況での生理学的変化、ならびに生活行動、機能回復の状況を把握する観察枠組みについて学ぶ。
2. クリティカル状況にある人のフィジカルアセスメントを、看護援助に生かす力を養う。

■ 到達目標

1. クリティカル状況での生理学的変化、ならびに生活行動、機能回復の状況を把握する観察枠組みについて学ぶ。
2. クリティカル状況にある人のフィジカルアセスメントを、看護援助に生かす力を養う。

■ 学習の進め方

同時双方向型のオンライン環境での文献レビュー、プレゼンテーション、討議などを通して、主体的に学びを深める。

1. 事前学修

- ① 2～9 では、事前提示された課題について各自資料を準備して臨む。
- ② 10～14 では、文献等や臨床経験をもとに資料を作成し、討議の視点や課題を明確にして発表準備を行う。

2. 事後学修

- ①各発表・討議の資料をよく読み、復習する。
- ②討議内容を振り返り、クリティカル状況にある人のアセスメントや看護援助について考察を深める。
- ③学習内容を振り返り考察を深め、最終的にレポートをまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	三浦・岡田・住谷
2	循環器疾患患者のアセスメントと看護援助①	演習	三浦・岡田・住谷
3	循環器疾患患者のアセスメントと看護援助②	発表・討議	中島
4	呼吸器疾患患者のアセスメントと看護援助①	演習	三浦・住谷
5	呼吸器疾患患者のアセスメントと看護援助②	発表・討議	藤野
6	脳血管疾患患者のアセスメントと看護援助①	演習	三浦・住谷
7	脳血管疾患患者のアセスメントと看護援助②	発表・討議	高橋
8	外傷患者のアセスメントと看護援助①	演習	三浦・住谷
9	外傷患者のアセスメントと看護援助②	発表・討議	比田井
10	クリティカル状況にある人の体液管理に関するアセスメントと看護援助	発表・討議	三浦・住谷
11	クリティカル状況にある人の栄養に関するアセスメントと看護援助	発表・討議	三浦・住谷
12	クリティカル状況にある人の感染に関するアセスメントと看護援助	発表・討議	三浦・岡田・住谷
13	小児・高齢者の生体侵襲に関するアセスメントと看護援助	発表・討議	三浦・岡田・住谷
14	オンコロジーエマージェンシーに関するアセスメントと看護援助	発表・討議	三浦・岡田
15	まとめ	講義	三浦

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

「クリティカルケア看護学特講Ⅴ」での学びを活かすこと。

「クリティカルケア看護学実習Ⅱ」のアセスメント枠組みとして活用すること。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度(20%) 2. プレゼンテーション(40%) 3. レポート(40%)

■ オフィスアワー・研究室等

講義日の 12:20~12:50。 三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD102

クリティカルケア看護学特講Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○三浦 英恵、岡田 彩子、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

1. クリティカル期にある人々とその家族の衝撃的な体験とその反応について理解する。
2. 代表的な危機理論を学び、クリティカル期にある人々とその家族への看護援助方法を探求する。

■ 到達目標

1. クリティカル期にある人々とその家族の衝撃的な体験とその反応について理解を深める。
2. 代表的な危機理論を学び、クリティカル期にある人々とその家族への看護援助方法について検討できる。

■ 学習の進め方

発表と討議を含めて授業を展開する。

1. 事前学修

①臨床経験より、a 危機状態、b 高度なストレス状況にある患者・家族、c 悲嘆過程にある患者・家族の状況をまとめ、事例を作成する。事例は発表の前週までに配布する。

②事例を分析し発表用資料を作成する。発表資料には当時の介入、援助の実際について分析し、よりよい介入、援助方法の考察を含み、最後に討議のテーマや論点を明示すること。

2. 事後学修

a～c のいずれか一つを選び、プレゼンテーションと討議内容を振り返り考察を深め、レポートとして A4 用紙 5 枚程度にまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	三浦・住谷
2	危機理論 歴史的変遷と概要	講義	三浦・岡田・住谷
3	危機理論と危機モデル①	発表・討議	三浦・岡田・住谷
4	危機理論と危機モデル②	発表・討議	三浦・岡田・住谷
5	クリティカル期における危機的状況と看護援助①	発表・討議	三浦・住谷
6	クリティカル期における危機的状況と看護援助②	発表・討議	三浦・住谷
7	ストレス研究の歴史的概観と概要	講義	三浦・岡田・住谷
8	ストレス・コーピング理論①	発表・討議	三浦・岡田・住谷
9	ストレス・コーピング理論②	発表・討議	三浦・岡田・住谷
10	ストレス・コーピング理論と看護援助①	発表・討議	三浦・岡田・住谷
11	ストレス・コーピング理論と看護援助②	発表・討議	三浦・岡田・住谷
12	悲嘆理論	講義・討議	三浦・住谷
13	クリティカル期における悲嘆理論と看護援助①	発表・討議	三浦・住谷
14	クリティカル期における悲嘆理論と看護援助②	発表・討議	三浦・住谷
15	まとめ	討議	三浦・住谷

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学特講 I の学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度(20%) 2. プレゼンテーション(40%) 3. レポート(40%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20~12:50。 三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD151

クリティカルケア看護学特講Ⅳ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○三浦 英恵、岡田 彩子、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

クリティカル状況にある人とその家族の尊厳と選択、意思決定について理解し、倫理的課題を解決するための援助方略を習得する。

■ 到達目標

1. クリティカル期にある人とその家族の倫理的課題を分析し、介入の視点を見出すことができる。
2. クリティカル期にある人とその家族の意思決定を支える具体的支援を考えることができる。
3. クリティカルケア領域の多職種協働における看護師の倫理的葛藤を理解し、解決するための方略を考えることができる。

■ 学習の進め方

発表と討議を含めて展開する。

1. 事前学修

各回の発表担当者を決め、担当者は以下の資料を作成する。

- ①臨床での事例をまとめて、授業日前週に配布する。
- ②授業日までに講義で得た知識、理論などを活用しながら事例を振り返り、看護援助、介入の在り方を検討し、発表用資料を作成する。発表用資料はプレゼンテーションの当日に配布する。発表用資料の最後には、討論のテーマや論点を明示する。
- ③担当者以外の学生は事例をよく読み、授業に臨む。

2. 事後学修

自分の発表や討論の内容を振り返り考察を深め、レポートとして A4 用紙 5 枚程度にまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	三浦・住谷
2	クリティカル期にある人々とその家族の倫理的課題を分析するための基盤となる理論・概念・モデル	講義	三浦・住谷
3	クリティカル期にある人々とその家族の倫理的課題を分析するための基盤となる理論・概念・モデルを用いた事例分析①	発表・討議	三浦・住谷
4	クリティカル期にある人々とその家族の倫理的課題を分析するための基盤となる理論・概念・モデルを用いた事例分析②	発表・討議	三浦・住谷
5	クリティカル期にある人とその家族の選択と尊厳を支えるケア方略①	講義	三浦・住谷
6	クリティカル期にある人とその家族の選択と尊厳を支えるケア方略②	発表・討議	三浦・住谷
7	クリティカル期にある人とその家族の選択と尊厳を支えるケア方略③	発表・討議	三浦・住谷
8	クリティカルケア領域の多職種協働における倫理的葛藤①	講義	三浦・岡田・住谷
9	クリティカルケア領域の多職種協働における倫理的葛藤②	発表・討議	三浦・岡田・住谷
10	クリティカルケア領域の多職種協働における倫理的葛藤③	発表・討議	三浦・岡田・住谷
11	クリティカルケア領域における倫理に関連した海外文献レビュー①	発表・討議	三浦・岡田・住谷
12	クリティカルケア領域における倫理に関連した海外文献レビュー②	発表・討議	三浦・岡田・住谷
13	クリティカルケアにおける倫理的課題を解決するための方略①	発表・討議	三浦・岡田・住谷
14	クリティカルケアにおける倫理的課題を解決するための方略②	発表・討議	三浦・岡田・住谷
15	まとめ	討議	三浦・住谷

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

看護倫理の学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度(20%) 2. プレゼンテーション(40%) 3. レポート(40%)

■ オフィスアワー・研究室等

講義日の 12:20~12:50。 三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD152

クリティカルケア看護学特講Ⅴ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○三浦 英恵、住谷 ゆかり、伊地 俊介、齋藤 豊、林 宗博

■ 授業の目的

1. 急性、重症患者の病態生理と治療内容について理解し、患者・家族を中心とした看護援助を行うための基礎的知識を学ぶ。
2. 重症患者の身体侵襲に対する生体反応を学び、患者の身体変化に即した看護を実践する能力を養う。

■ 到達目標

クリティカルな状況にある人の病態生理と治療内容、処置について理解し、必要とされる看護実践について説明することができる。

■ 学習の進め方

同時双方向型のオンライン環境での専門家からの講義と事例検討を中心に進める。

1. 事前学修

- ① 2～13 では、事前提示された課題に対して発表・討議できるように、資料を準備して授業に臨む。
- ② 14～15 では、文献等を用いて資料を作成し、各自の臨床経験から討議の視点や課題を明確にして、プレゼンテーションを行う。
- ③ 討議を通して、急性・重症患者の病態生理と治療内容について理解し、患者の身体変化に即した看護を実践する能力を養う。

2. 事後学修

講義・討議内容を振り返り、病態生理と治療管理、看護実践について整理しておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	三浦・住谷
2	高度で集中的な治療を要する循環器疾患患者の事例検討	演習	三浦・住谷
3	高度で集中的な治療を要する患者の循環管理	講義・討議	齋藤
4	人工呼吸器装着中の患者の事例検討	演習	三浦・住谷
5	高度で集中的な治療を要する患者の呼吸管理	講義・討議	齋藤
6	高度で集中的な治療を要する脳血管疾患患者の管理	演習	三浦・住谷
7	高度で集中的な治療を要する脳血管疾患患者の管理	講義・討議	伊地
8	高度で集中的な治療を要する外傷患者の管理	演習	三浦・住谷
9	高度で集中的な治療を要する外傷患者の管理	講義・討議	林
10	高度で集中的な治療を要する患者の疼痛管理・鎮静の事例検討	演習	三浦・住谷
11	高度で集中的な治療を要する患者の疼痛管理・鎮静	講義・討議	林
12	多臓器不全患者の事例検討	演習	三浦・住谷
13	多臓器不全の治療と管理	講義・討議	齋藤
14	高度で集中的な治療を要する患者に必要とされる看護実践①	演習	三浦・住谷
15	高度で集中的な医療を要する患者に必要とされる看護実践②・まとめ	演習	三浦・住谷

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。筆記試験のフィードバックは、試験終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

「クリティカルケア看護学特講Ⅱ」の学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度(20%)
2. 筆記試験(80%)

■ オフィスアワー・研究室等

講義日の 12:20～12:50。 三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他
HMAD103

クリティカルケア看護学演習 I ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○三浦 英恵、住谷 ゆかり、関根 光枝

■ 授業の目的

クリティカル期にある人とその家族を、心身統一体として捉え、ケアとキュアが融合した看護ケアの方略を探求する。

■ 到達目標

1. クリティカル期にある人とその家族を、心身統一体として捉える方略を提案できる。
2. クリティカル期にある人とその家族に対する看護ケアの方略を探求することができる。

■ 学習の進め方

同時双方向型のオンライン環境でのシミュレーショントレーニング、文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を事前に提示する。
2. シミュレーションや事例展開を取り入れながらケアとキュアが融合した看護ケアの方略を探求する。
3. 各自の臨床経験での事例を用いて、アセスメントとケアの提案についてのプレゼンテーションを行う。
4. ディスカッションを通して、クリティカルの領域での課題について学びを深める。
5. 課題レポートを通して、課題に対する方略を検討する。

<事前学修>

事前提示された課題に対して発表・討議できるように、資料を準備して授業に臨む。演習では、文献等を用いて資料を作成し、各自の臨床経験から討議の視点や課題を明確にして、プレゼンテーションを行う。

<事後学修>

レポートにて学習内容を振り返り、考察を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	三浦・住谷
2	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：フィジカルアセスメント技法：基本的なフィジカルアセスメント①	演習	三浦・住谷
3	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：フィジカルアセスメント技法：基本的なフィジカルアセスメント②	演習	三浦・住谷
4	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：人工呼吸器装着患者のフィジカルアセスメント①	演習	三浦・住谷
5	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：人工呼吸器装着患者のフィジカルアセスメント②	演習	三浦・住谷
6	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：人工呼吸器装着患者のモニタリング①	演習	三浦・住谷
7	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：人工呼吸器装着患者のモニタリング②	演習	三浦・住谷
8	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：重症患者の生体情報モニタリング①	演習	三浦・住谷
9	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：重症患者の生体情報モニタリング②	演習	三浦・住谷
10	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：重症患者の生体情報モニタリング③	演習	三浦・住谷
11	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：シミュレーション① ICU での重症患者を想定した事例で、シミュレーターを用い包括的アセスメントを行った後、看護ケアを提案する	演習	三浦・住谷
12	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：シミュレーション② ICU での重症患者を想定した事例で、シミュレーターを用い包括的アセスメントを行った後、看護ケアを提案する	演習	三浦・住谷
13	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：シミュレーション③ ICU での重症患者を想定した事例で、シミュレーターを用い包括的アセスメントを行った後、看護ケアを提案する	演習	三浦・住谷
14	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：シミュレーション④ ICU での重症患者を想定した事例で、シミュレーターを用い包括的アセスメントを行った後、看護ケアを提案する	演習	三浦・住谷

No	内容	形式	教員
15	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：文献レビュー① クリティカルケア領域での患者の体験に関する論文を読み理解を深める	その他(文献検討)	三浦・住谷
16	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：文献レビュー② クリティカルケア領域での患者の体験に関する論文を読み理解を深める	その他(文献検討)	三浦・住谷
17	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：文献レビュー① クリティカルケア領域での患者の体験に関する論文をプレゼン後、討議する	発表・討議	三浦・住谷
18	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：文献レビュー② クリティカルケア領域での患者の体験に関する論文をプレゼンし、討議する	発表・討議	三浦・住谷
19	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：事例分析① ケアとキュアが融合できたと思われる事例、もしくはできなかった事例をあげ、分析する	発表・討議	三浦・住谷
20	クリティカルケアを受ける人の包括的アセスメント：事例分析② ケアとキュアが融合できたと思われる事例、もしくはできなかった事例をプレゼンし討議する	発表・討議	三浦・住谷
21	クリティカルケアを受ける人とその家族への援助：家族看護論からの検討①	講義	関根
22	クリティカルケアを受ける人とその家族への援助：家族看護論からの検討②	討議	三浦・住谷
23	クリティカルケアを受ける人とその家族への援助：家族看護論からの検討① Bad news の伝え方、もしくは伝えられた後を想定したロールプレイを行う	演習	三浦・住谷
24	クリティカルケアを受ける人とその家族への援助：家族看護論からの検討② Bad news の伝え方、もしくは伝えられた後を想定したロールプレイを行う	演習	三浦・住谷
25	クリティカルケアを受ける人とその家族への援助：家族看護論からの検討① クリティカルケア領域での家族看護に関する臨床事例をプレゼンし、討議する	演習	三浦・住谷
26	クリティカルケアを受ける人とその家族への援助：家族看護論からの検討② クリティカルケア領域での家族看護に関する臨床事例をプレゼンし、討議する	演習	三浦・住谷
27	クリティカルケアを受ける人とその家族への援助：家族看護論からの検討③ クリティカルケア領域での家族看護に関する臨床事例をプレゼンし、討議する	演習	三浦・住谷
28	クリティカルケアを受ける人とその家族への看護ケアの課題と方策①	討議	三浦・住谷
29	クリティカルケアを受ける人とその家族への看護ケアの課題と方策②	討議	三浦・住谷
30	まとめ	討議	三浦・住谷

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

FCCS 運営委員会 (2013). FCCS プロバイダーマニュアル 第 2 版. メディカルサイエンスインターナショナル.
 福井次矢, 井部俊子, 山内豊明 (監)(2015). ベイツ診察法日本語版. 第 2 版. メディカルサイエンスインターナショナル.
 坂中清彦 (2009). 換気モードとグラフィックモニタの見方・読み方トレーニングー人工呼吸器がなくても学べる. メディカ出版.

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学特講Ⅰ～Ⅳ、クリティカルケア看護学実習Ⅱ、フィジカルアセスメントの学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度(20%) 2. プレゼンテーション(40%) 3. レポート(40%)

■ オフィスアワー・研究室等

講義日の 12:20～12:50。 三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD104

クリティカルケア看護学演習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○三浦 英恵、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

クリティカルケアを受ける人とその家族を対象とし、痛みを含めた心身の苦痛から解放するケア、安楽に向けたケア方略について技術を修得する。

■ 到達目標

1. クリティカル期にある人々とその家族を対象とし、痛みを含めた心身の苦痛から解放するケアについて理解を深める。
2. クリティカル期にある人々とその家族に対する、安楽に向けたケア方略について理解を深める。

■ 学習の進め方

文献検討、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を、事前に提示する。
2. 文献検討や演習を通して痛みを含めた心身の苦痛から解放するケア、安楽に向けたケアが融合した看護ケアの方略を探求する。
3. 各自の臨床経験での事例を用いて、アセスメントとケアの提案についてのプレゼンテーションを行う。
4. ディスカッションを通して、クリティカルの領域での苦痛緩和における課題について学びを深める。
5. 課題レポートを通して、課題に対する方略を検討する。

<事前学修>

事前提示された課題に対して発表・討議できるように、資料を準備して授業に臨む。

演習では、文献等を用いて資料を作成し、各自の臨床経験から討議の視点や課題を明確にして、プレゼンテーションを行う。

<事後学修>

レポートにて学習内容を振り返り、考察を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	三浦・住谷
2	クリティカル期にある人のせん妄とそのケア① ICUでのせん妄に関する尺度をレビューし討議する	発表・討議	三浦・住谷
3	クリティカル期にある人のせん妄とそのケア② ICUでのせん妄に関する文献をレビューし討議する	発表・討議	三浦・住谷
4	クリティカル期にある人のせん妄とそのケア③ ICUでのせん妄に関する文献をレビューし討議する	発表・討議	三浦・住谷
5	クリティカル期にある人のせん妄とそのケア④ ICUでのせん妄に関する文献をレビューし討議する	発表・討議	三浦・住谷
6	クリティカル期にある人の鎮痛・鎮静管理① クリティカル期にある人の鎮痛・鎮静管理の文献をレビューし討議する	発表・討議	三浦・住谷
7	クリティカル期にある人の鎮痛・鎮静管理② クリティカル期にある人の鎮痛・鎮静管理の文献をレビューし討議する	発表・討議	三浦・住谷
8	クリティカル期にある人の鎮痛・鎮静管理③ クリティカル期にある人の鎮痛・鎮静管理の文献をレビューし討議する	発表・討議	三浦・住谷
9	クリティカル期にある人の鎮痛・鎮静管理④ ICUでの事例に基づき、鎮痛・鎮静管理におけるケア方略を提案する	発表・討議	三浦・住谷
10	身体拘束・不動状態にある人の状態と苦痛を緩和するケア ICUでの身体拘束ガイドラインや文献をレビューし討議する	発表・討議	三浦・住谷
11	身体拘束・不動状態にある人の状態と苦痛を緩和するケア ICUでの身体拘束ガイドラインや文献をレビューし討議する	発表・討議	三浦・住谷
12	身体拘束・不動状態にある人の状態と苦痛を緩和するケア ICUでの身体拘束事例を分析しケア方略を提案する	演習	三浦・住谷
13	身体拘束・不動状態にある人の状態と苦痛を緩和するケア ICUでの身体拘束事例を分析しケア方略を検討する	演習	三浦・住谷
14	クリティカル期にある人の全人的痛みとコンフォートケア① コルカバのコンフォート理論を読み討議する	発表・討議	三浦・住谷

No	内容	形式	教員
15	クリティカル期にある人の全人的痛みとコンフォートケア② コルカバのコンフォート理論を読み討議する	発表・討議	三浦・住谷
16	クリティカル期にある人の全人的痛みとコンフォートケア③ ICUでの事例に基づき、コンフォートケアの方略を提案する	演習	三浦・住谷
17	クリティカル期にある人の全人的痛みとコンフォートケア④ ICUでの事例に基づき、コンフォートケアの方略を提案する	演習	三浦・住谷
18	治療中止・差し控えと Comfort measures only ① 治療中止・差し控えに関する文献をレビューし討議する	文献検討	三浦・住谷
19	治療中止・差し控えと Comfort measures only ② 治療中止・差し控えに関する文献をレビューし討議する	文献検討	三浦・住谷
20	クリティカル期にある人とその家族の苦痛と安楽に向けたケア クリティカル領域での終末期医療のガイドラインや文献を検討し討議する	文献検討	三浦・住谷
21	クリティカル期にある人とその家族の苦痛と安楽に向けたケア クリティカル領域での終末期医療のガイドラインや文献を検討し討議する	文献検討	三浦・住谷
22	クリティカル期にある人の家族の苦痛と安楽に向けたケア① クリティカル領域での終末期医療に必要とされる考え方を検討する	演習	三浦・住谷
23	クリティカル期にある人の家族の苦痛と安楽に向けたケア② クリティカル領域での終末期医療に必要とされる考え方を検討する	演習	三浦・住谷
24	クリティカル期にある人の家族の苦痛と安楽に向けたケア③ クリティカル領域での終末期医療の事例を分析し、ケアの方略を提案する	演習	三浦・住谷
25	クリティカル期にある人の家族の苦痛と安楽に向けたケア④ クリティカル領域での終末期医療の事例を分析し、ケアの方略を提案する	演習	三浦・住谷
26	クリティカルケアにおける苦痛緩和に関する研究の動向と課題① クリティカル期にある人の鎮痛・鎮静管理の文献をレビューし討議する	演習	三浦・住谷
27	クリティカルケアにおける苦痛緩和に関する研究の動向と課題②	演習	三浦・住谷
28	クリティカルケアにおける苦痛緩和に関する研究の動向と課題③	演習	三浦・住谷
29	クリティカルケアにおける苦痛緩和に関する研究の動向と課題④	演習	三浦・住谷
30	まとめ	討議	三浦・住谷

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

Valerie Page / 鶴田良介 (2013). ICUのせん妄. 金芳堂.

日本集中治療医学会 J-PAD ガイドライン (2015). 日本版・集中治療室における成人重症患者に対する痛み・不穏・せん妄管理のための臨床ガイドライン. 総合医学社.

キャサリン・コルカバ / 太田喜久子 (2008). コルカバコンフォート理論—理論の開発過程と実践への適用. 医学書院.

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学特講Ⅰ～Ⅳ、クリティカルケア看護学実習Ⅱの学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度(20%) 2. プレゼンテーション(40%) 3. レポート(40%)

■ オフィスアワー・研究室等

講義日の12:20~12:50. 三浦(444研究室) 住谷(422研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD153

クリティカルケア看護学演習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：前期

○三浦 英恵、住谷 ゆかり、辻 守栄、手島 正美

■ 授業の目的

クリティカルケア領域における専門看護師の役割と、救命・救急看護、周手術期看護など各小領域の専門性ならびに看護ケアの専門性について理解する。

■ 到達目標

1. クリティカルケア領域における専門看護師の役割について説明できる。
2. サブスペシャリティ分野での対象者および家族に対する専門的な看護ケアが立案できる。
3. サブスペシャリティ分野での今日の課題と、それを改善する方略を具体的に述べるができる。

■ 学習の進め方

同時双方向型のオンライン環境での文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を、事前に提示する。
2. プレゼンテーションやディスカッションの時間を取り入れながら、クリティカルケア専門看護師の役割について学びを深める。
3. 各自のサブスペシャリティでの経験や演習を踏まえたテーマを選び、プレゼンテーションを行う。
4. ディスカッションを通して、サブスペシャリティの領域での課題について学びを深める。
5. 課題レポートを通して、課題に対する方略を検討する。

<事前学修>

事前提示された課題に対して発表・討議できるように、資料を準備して授業に臨む。

演習では、文献等を用いて資料を作成し、各自の臨床経験から討議の視点や課題を明確にして、プレゼンテーションを行う。

<事後学修>

レポートにて学習内容を振り返り、考察を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	三浦・住谷
2	クリティカルケア領域における専門看護師の役割①	講義	三浦・住谷
3	クリティカルケア領域における専門看護師の役割②	講義	三浦・住谷
4	クリティカルケア領域における専門看護師の理論的基盤：Harmric モデル① Harmric モデルの紹介と臨床や研究への応用について	講義	三浦・住谷
5	クリティカルケア領域における専門看護師の理論的基盤：Harmric モデル② Harmric モデルの紹介と臨床や研究への応用について	講義	三浦・住谷
6	クリティカルケア領域における専門看護師の理論的基盤：Synergy モデル① Synergy モデルの紹介と臨床や研究への応用について	講義	三浦・住谷
7	クリティカルケア領域における専門看護師の理論的基盤：Synergy モデル② Synergy モデルの紹介と臨床や研究への応用について	講義	三浦・住谷
8	クリティカルケア領域における専門看護師のコンサルテーション① コンサルテーションモデルの理解	演習	三浦・住谷
9	クリティカルケア領域における専門看護師のコンサルテーション② コンサルテーションモデルを使い、臨床事例における問題を明確化する	演習	三浦・住谷
10	クリティカルケア領域における専門看護師のコンサルテーション③ コンサルテーションモデルを使い、臨床事例における問題を明確化する	演習	三浦・住谷
11	クリティカルケア領域における専門看護師のコンサルテーション④ 臨床事例を分析し問題を明確化した後、方略を考える	演習	三浦・住谷
12	クリティカルケア領域における専門看護師の調整・協働調整が必要な複雑な事例を分析し討議する	演習	三浦・住谷
13	クリティカルケア領域における専門看護師の調整・協働 Team STEPPS (Team Strategies and Tools to Enhance Performance and Patient Safety) の枠組みを紹介し、実践にどのように活用できるか討議する	演習	三浦・住谷
14	クリティカルケア領域における専門看護師の教育的活動：臨床のニーズをどのように捉え、実際にどのような方略をたてて教育を行うか討議する	演習	三浦・住谷

No	内容	形式	教員
15	クリティカルケア領域における専門看護師の教育的活動：臨床のニーズをどのように捉え、実際にどのような方略をたてて教育を行うか討議する	演習	三浦・住谷
16	クリティカルケア領域における専門看護師の役割獲得：クリティカルケア領域で専門看護師の役割を獲得するための組織分析や組織のニーズのとらえかたを討議する	演習	三浦・住谷
17	クリティカルケア領域における専門看護師の役割獲得：クリティカルケア領域で専門看護師の役割を獲得するための組織分析や組織のニーズのとらえかたを討議する	演習	三浦・住谷
18	サブスペシャリティ分野の疾患と治療の理解：集中治療における看護など①	講義	手島
19	サブスペシャリティ分野の疾患と治療の理解：集中治療における看護など②	演習	三浦・住谷
20	サブスペシャリティ分野の疾患と治療の理解：救命・救急看護など①	講義	辻
21	サブスペシャリティ分野の疾患と治療の理解：救命・救急看護など②	演習	三浦・住谷
22	サブスペシャリティ分野の疾患と治療の理解：循環器看護など①	演習	三浦・住谷
23	サブスペシャリティ分野の疾患と治療の理解：循環器看護など②	演習	三浦・住谷
24	サブスペシャリティ分野での事例展開① サブスペシャリティ分野での実践事例をとりあげ、テーマを決めて分析し討議する。	演習	三浦・住谷
25	サブスペシャリティ分野での事例展開② サブスペシャリティ分野での実践事例をとりあげ、テーマを決めて分析し討議する。	演習	三浦・住谷
26	サブスペシャリティ分野での事例展開③ サブスペシャリティ分野での実践事例をとりあげ、テーマを決めて分析し討議する。	演習	三浦・住谷
27	サブスペシャリティ分野での事例展開④ サブスペシャリティ分野での実践事例をとりあげ、テーマを決めて分析し討議する。	演習	三浦・住谷
28	サブスペシャリティ分野での専門性の探求：コンピテンシーを伸ばすための研鑽 サブスペシャリティ分野で組織の質の向上をはかるためには、どのような方略が必要かを立案し討議する	演習	三浦・住谷
29	サブスペシャリティ分野での専門性の探求：コンピテンシーを伸ばすための研鑽 サブスペシャリティ分野で組織の質の向上をはかるためには、どのような方略が必要かを立案し討議する	演習	三浦・住谷
30	まとめ	討議	三浦・住谷

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

Hamric (2013). Advanced Practice Nursing: An Integrative Approach, 5e. Saunders.

井部俊子 (2015). 専門看護師の思考と実践. 医学書院.

川野雅資 (2017). コンサルテーションを学ぶ改訂版. クオリティケア.

Duffy (2016). Clinical Nurse Specialist Toolkit: A Guide for the New Clinical Nurse Specialist 2nd Edition. Springer.

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学実習Ⅱ、Ⅲの学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度(20%) 2. プレゼンテーション(40%) 3. レポート(40%)

■ オフィスアワー・研究室等

講義日の12:20~12:50。 三浦(444研究室) 住谷(422研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD200

クリティカルケア看護学特別研究Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○三浦 英恵、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

クリティカルケア看護の専門領域における課題について、文献検討や概念分析を行い、研究課題に相応しい研究方法を選択し、研究計画書作成する能力を身につける。

■ 到達目標

1. クリティカルケア看護の専門領域における課題について、文献検討や概念分析を行うことができる。
2. 研究計画書作成までのプロセスを踏むことができる。

■ 学習の進め方

同時双方向型のオンライン環境での先行研究、実践報告のレビュー、フィールドワークなどを通して、研究課題を見出す。研究課題に応じた研究方法を選択し、研究計画書を作成する。

<事前学修>

自分の研究課題の進捗状況に即して、プレゼンテーションの準備を行う。

<事後学修>

ゼミでのディスカッション、意見交換の内容を自分の研究課題や研究計画に活かす。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	演習	三浦・住谷
2	関心領域に関連する文献検討：看護領域(その1)	演習・討議	三浦・住谷
3	関心領域に関連する文献検討：看護領域(その2)	演習・討議	三浦・住谷
4	関心領域に関連する文献検討：看護領域(その3)	演習・討議	三浦・住谷
5	関心領域に関連する文献検討：看護領域(その4)	演習・討議	三浦・住谷
6	関心領域に関連する文献検討：周辺領域(その1)	演習・討議	三浦・住谷
7	関心領域に関連する文献検討：周辺領域(その2)	演習・討議	三浦・住谷
8	関心領域に関連する文献検討：周辺領域(その3)	演習・討議	三浦・住谷
9	研究課題に関連する概念分析(その1)	演習・討議	三浦・住谷
10	研究課題に関連する概念分析(その2)	演習・討議	三浦・住谷
11	研究課題に関連する概念分析(その3)	演習・討議	三浦・住谷
12	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その1)	演習・討議	三浦・住谷
13	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その2)	演習・討議	三浦・住谷
14	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その3)	演習・討議	三浦・住谷
15	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その4)	演習・討議	三浦・住谷
16	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その5)	演習・討議	三浦・住谷
17	研究テーマと目的の検討(その1)	演習・討議	三浦・住谷
18	研究テーマと目的の検討(その2)	演習・討議	三浦・住谷
19	研究の動機と背景の検討(その1)	演習・討議	三浦・住谷
20	研究の動機と背景の検討(その2)	演習・討議	三浦・住谷
21	研究方法論の検討(その1)	演習・討議	三浦・住谷
22	研究方法論の検討(その2)	演習・討議	三浦・住谷
23	研究方法論の検討(その3)	演習・討議	三浦・住谷
24	研究計画書(案)の作成(その1)	演習・討議	三浦・住谷
25	研究計画書(案)の作成(その2)	演習・討議	三浦・住谷
26	研究計画書(案)の作成(その3)	演習・討議	三浦・住谷
27	研究計画書(案)の作成(その4)	演習・討議	三浦・住谷
28	研究計画と倫理(その1)	演習・討議	三浦・住谷
29	研究計画と倫理(その2)	演習・討議	三浦・住谷

No	内容	形式	教員
30	まとめ	演習	三浦・住谷

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

毎回の授業時に関心領域の課題に関する資料、プレゼンテーション等についてフィードバックを行う。

■ 他の授業科目との関連

看護研究の学習内容の理解に基づき、発展的な内容を扱う。

2年次に開講されるクリティカルケア看護学特別研究Ⅱ、Ⅲの基礎的な学習となる。

■ 成績評価の仕方

関心領域に関する課題への取り組み 50% プレゼンテーション 50%

■ オフィスアワー・研究室等

毎週月曜日の 12:20~12:50。三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD181

クリティカルケア看護学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○三浦 英恵、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

クリティカルケア看護の専門領域における課題について、研究計画書を完成・洗練し、研究計画に基づくデータ収集を行い、研究実践能力を養う。

■ 到達目標

1. クリティカルケア看護の専門領域における課題について、研究計画書の作成と洗練を行う。
2. 研究計画に基づくデータ収集を行うことができる。

■ 学習の進め方

研究計画書の作成と洗練、データ収集に関して、同時双方向型のオンライン環境でのゼミ形式で授業を行う。

<事前学修>

自分の研究課題の進捗状況に即して、プレゼンテーションの準備を行う。

<事後学修>

ゼミでのディスカッション、意見交換の内容を自分の研究計画書の精練やデータ分析に活かす。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	演習	三浦・住谷
2	研究計画書の洗練：テーマ・目的(その1)	演習・討議	三浦・住谷
3	研究計画書の洗練：テーマ・目的(その2)	演習・討議	三浦・住谷
4	研究計画書の洗練：動機と背景(その1)	演習・討議	三浦・住谷
5	研究計画書の洗練：動機と背景(その2)	演習・討議	三浦・住谷
6	研究計画書の洗練：研究方法論(その1)	演習・討議	三浦・住谷
7	研究計画書の洗練：研究方法論(その2)	演習・討議	三浦・住谷
8	研究計画書の洗練：研究方法論(その3)	演習・討議	三浦・住谷
9	研究計画書の洗練：研究倫理(その1)	演習・討議	三浦・住谷
10	研究計画書の洗練：研究倫理(その2)	演習・討議	三浦・住谷
11	研究計画とサブストラクション(その1)	演習・討議	三浦・住谷
12	研究計画とサブストラクション(その2)	演習・討議	三浦・住谷
13	研究論文の作成：序論・目的・意義(その1)	演習・討議	三浦・住谷
14	研究論文の作成：序論・目的・意義(その2)	演習・討議	三浦・住谷
15	研究論文の作成：序論・目的・意義(その3)	演習・討議	三浦・住谷
16	研究論文の作成：方法論(その1)	演習・討議	三浦・住谷
17	研究論文の作成：方法論(その2)	演習・討議	三浦・住谷
18	研究論文の作成：方法論(その3)	演習・討議	三浦・住谷
19	研究計画に基づくデータの収集と分析(その1)	演習・討議	三浦・住谷
20	研究計画に基づくデータの収集と分析(その2)	演習・討議	三浦・住谷
21	研究計画に基づくデータの収集と分析(その3)	演習・討議	三浦・住谷
22	研究計画に基づくデータの収集と分析(その4)	演習・討議	三浦・住谷
23	研究計画に基づくデータの収集と分析(その5)	演習・討議	三浦・住谷
24	研究計画に基づくデータの収集と分析(その6)	演習・討議	三浦・住谷
25	研究計画に基づくデータの収集と分析(その7)	演習・討議	三浦・住谷
26	データ分析結果と先行研究の比較検討(その1)	演習・討議	三浦・住谷
27	データ分析結果と先行研究の比較検討(その2)	演習・討議	三浦・住谷
28	データ分析結果からみる研究のオリジナリティ(その1)	演習・討議	三浦・住谷
29	データ分析結果からみる研究のオリジナリティ(その2)	演習・討議	三浦・住谷
30	まとめ	演習	三浦・住谷

■教科書

指定なし

■参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■フィードバックの仕方

毎回の授業時に関心領域の課題に関する資料、プレゼンテーション等についてフィードバックを行う。

■他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学特別研究Ⅰの学習内容の理解に基づき、より発展的な内容を扱う。

クリティカルケア看護学特別研究Ⅲの基礎的な学習になる。

■成績評価の仕方

関心領域に関する課題への取り組み 50 % プレゼンテーション 50 %

■オフィスアワー・研究室等

毎週月曜日の 12 : 20 ~ 12 : 50。三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■その他

HMAD281

クリティカルケア看護学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○三浦 英恵、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

クリティカルケア看護の専門領域における研究計画に基づくデータ収集と分析を行い、研究論文を作成し、研究実践能力を養う。

■ 到達目標

1. クリティカルケア看護の専門看護領域における研究計画書に基づくデータ収集と分析を行う。
2. 研究論文を作成するまでの一連のプロセスを踏むことができる。

■ 学習の進め方

同時双方向型のオンライン環境での収集データの分析や、先行研究や知見との比較検討を通して、研究を考察する。
この内容を、ゼミ形式でのプレゼンテーションとの討議の中で深める。

<事前学修>

自分の研究課題の進捗状況に即して、プレゼンテーションの準備を行う。

<事後学修>

ゼミでのディスカッション、意見交換の内容を自分の分析や論文執筆に活かす。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	演習	三浦・住谷
2	データ分析結果のまとめ(その1)	演習・討議	三浦・住谷
3	データ分析結果のまとめ(その2)	演習・討議	三浦・住谷
4	データ分析結果のまとめ(その3)	演習・討議	三浦・住谷
5	研究成果の考察：関連する文献の検討(その1)	演習・討議	三浦・住谷
6	研究成果の考察：関連する文献の検討(その2)	演習・討議	三浦・住谷
7	研究成果の考察：関連する文献の検討(その3)	演習・討議	三浦・住谷
8	研究成果の考察：関連する文献の検討(その4)	演習・討議	三浦・住谷
9	研究成果の考察：実践への示唆(その1)	演習・討議	三浦・住谷
10	研究成果の考察：実践への示唆(その2)	演習・討議	三浦・住谷
11	研究論文の作成：結果(その1)	演習・討議	三浦・住谷
12	研究論文の作成：結果(その2)	演習・討議	三浦・住谷
13	研究論文の作成：結果(その3)	演習・討議	三浦・住谷
14	研究論文の作成：結果(その4)	演習・討議	三浦・住谷
15	研究論文の作成：結果(その5)	演習・討議	三浦・住谷
16	研究論文の作成：結果(その6)	演習・討議	三浦・住谷
17	研究論文の作成：考察(その1)	演習・討議	三浦・住谷
18	研究論文の作成：考察(その2)	演習・討議	三浦・住谷
19	研究論文の作成：考察(その3)	演習・討議	三浦・住谷
20	研究論文の作成：考察(その4)	演習・討議	三浦・住谷
21	研究論文の作成：考察(その5)	演習・討議	三浦・住谷
22	研究論文の作成：今後への示唆(その1)	演習・討議	三浦・住谷
23	研究論文の作成：今後への示唆(その2)	演習・討議	三浦・住谷
24	研究論文の作成：結論(その1)	演習・討議	三浦・住谷
25	研究論文の作成：結論(その2)	演習・討議	三浦・住谷
26	研究論文の作成：抄録(その1)	演習・討議	三浦・住谷
27	研究論文の作成：抄録(その2)	演習・討議	三浦・住谷
28	研究論文全体の洗練(その1)	演習・討議	三浦・住谷
29	研究論文全体の洗練(その2)	演習・討議	三浦・住谷
30	まとめ	演習	三浦・住谷

■教科書

指定なし

■参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■フィードバックの仕方

毎回の授業時に関心領域の課題に関する資料、プレゼンテーション等についてフィードバックを行う。

■他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを履修していること。

■成績評価の仕方

関心領域に関する課題への取り組み 50 % プレゼンテーション 50 %

■オフィスアワー・研究室等

毎週月曜日の 12 : 20 ~ 12 : 50。三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■その他

HMAD282

クリティカルケア看護学実習 I ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○三浦 英恵、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

急性・重症患者看護(Critical Care Nursing)専門看護師の活動を体験し、専門看護師としての6つの役割(実践、相談、調整、倫理調整、教育、研究)についての考えを深める。

■ 到達目標

1. 急性・重症患者看護専門看護師の活動の場において、急性・重症患者看護専門看護師の役割について説明できる。
2. 急性・重症患者看護専門看護師の活動の場において高度な専門的看護実践がどのように展開されているか説明できる。
3. 急性・重症患者看護専門看護師の組織における活動とその方略について説明できる。
4. 急性・重症患者看護専門看護師として自律的に活動する上での自己課題を明確にできる。

■ 学習の進め方

常時集中治療を受ける患者を相当数受け入れている、もしくは、ポストクリティカルケアを実施している施設にて実習を行う。実習の具体的な方法と事前・事後学習は以下の通りである。

1. 日々の実習での学びをフィールドノートに記載し、実習指導者および指導教員から適時、スーパー・ヴィジョンを受ける。記録の書式は、自身の課題や実習などに応じて学生自身が作成する。
2. 専門看護師に求められるクリティカル期の患者に必要な専門的かつ高度な看護実践能力に加え、相談、調整、倫理的調整、教育、研究について、急性・重症患者看護専門看護師の実践活動に同行し、その役割と機能の実際を見学し、記述して考察する。
3. 大学院生、急性・重症患者看護専門看護師、指導教員が参加する最終カンファレンスで実習での学びを発表し、ディスカッションを通してさらに学びを深める。
4. 実習で学んだ内容を課題レポートとしてまとめ、将来、急性・重症患者看護専門看護師として自律的に活動するうえでの自己の課題を明確化する。

COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン学習を活用する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

急性・重症患者看護専門看護師の実践活動に同行し、その役割と機能を学ぶ。実習期間は7月～9月等で、必要な期間実施する。実習場所は、常時集中治療を受ける患者を相当数受け入れている、もしくは、ポストクリティカルケアを実施している施設にて実習を行う。施設は、慶應義塾大学病院、聖マリアンナ医科大学病院、聖路加国際病院、成田赤十字病院、武蔵野赤十字病院から選択する(詳細は実習要項を参照のこと)。

実習指導者：急性・重症患者看護専門看護師；田村富美子(臨床教授)、中島千春(臨床教授)、藤野智子(臨床准教授)、高橋知彦、田山聡子、津田泰伸、堤晴奈、与都英美

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

最終カンファレンス終了後、プレゼンテーションした内容についてフィードバックを行う。課題レポートのフィードバックは、面談にて口頭およびコメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

1 年次前期に履修した共通科目 A・B、領域科目の授業の学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み(20%)
2. 最終カンファレンス(40%)
3. 課題レポート(40%)

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中の学内学習日は、オフィスアワーとする(9:00～18:00)。三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD182

クリティカルケア看護学実習Ⅱ-1 ※ CNS 科目

単位：3 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○三浦 英恵、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

クリティカル期の患者とその家族への看護実践を通して、急性・重症患者看護の専門家として求められる卓越した看護実践能力、およびチームの中で相談・調整・倫理的な問題の解決・教育的役割を果たす力を身につける。

■ 到達目標

1. クリティカル期の患者の身体的状態および心理社会的状態を適切にアセスメントし、専門的かつ高度な看護を実践することができる。
2. 専門的な看護を実践する中で、クリティカル期の患者の全人的苦痛を把握し、緩和するための看護援助が実施できる。
3. クリティカル期の患者とその家族に対して必要な看護援助を実践するために、看護過程を展開しながら実践した看護を評価し、ニーズに合ったよりよい看護援助の実施につなげることができる。

■ 学習の進め方

関心のあるテーマ・フィールドを選択し、実習目標・方法等を記載した実習計画書を提出する。実習計画書に基づき、実践の場での企画、実施、評価を行い、課題レポートを提出する。実習の具体的な方法、事前・事後学習は以下の通りである。

1. 日々の看護実践について、フィールドノートに記載し、実習指導者および指導教員から適時、スーパー・ヴィジョンを受ける。記録の書式は、課題に応じて学生自身が作成する。
2. 実習指導者の助言のもと、クリティカル期の患者の身体的状態および心理社会的状態を適切にアセスメントし、専門的かつ高度な看護を実践する。
3. クリティカル期の患者とその家族に対して必要な看護援助を実践するために、看護過程を展開しながら実践した看護を評価し、よりよい看護援助を実施する。
4. 急性・重症患者看護専門看護師に求められる相談、調整、教育などの役割と機能について、実習指導者および指導教員から適時スーパー・ヴィジョンを受けながら、看護職者を含むケアの提供者へ必要な教育を実践する。
5. 大学院生、急性・重症患者看護専門看護師、実習に関連する看護師や多職種、指導教員が参加する最終カンファレンスを企画し、実習での学びを発表する。ディスカッションを通して、学びを深める。
6. 実習で学んだことを記述・考察し、課題レポートとしてまとめ、実習全体を通して、専門看護師としての問題意識を深め、新たな看護方略の開発にむけた検討を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習計画に基づき、クリティカル期の患者とその家族に対する看護援助を行う。実習期間は1月～3月等で、必要な期間実施する。実習場所は、常時集中治療を受ける患者を相当数受け入れている、もしくは、ポストクリティカルケアを実施している施設にて実習を行う。施設は、慶應義塾大学病院、聖マリアンナ医科大学病院、成田赤十字病院から選択する(詳細は実習要項を参照のこと)。

実習指導者：急性・重症患者看護専門看護師；藤野智子(臨床准教授)、高橋知彦、田山聡子、津田泰伸、堤晴奈

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

最終カンファレンス終了後、プレゼンテーションした内容についてフィードバックを行う。実習計画書および課題レポートのフィードバックは、面談にて口頭およびコメントを付した資料の返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学実習Ⅰの学び、および、1年次前期・後期に履修した共通科目A・B、領域科目の授業の学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 実習計画書(20%)
2. 実習への取り組み(20%)
3. 最終カンファレンス(30%)
4. 課題レポート(30%)

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中の学内学習日は、オフィスアワーとする(9:00～18:00)。三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD183

クリティカルケア看護学実習Ⅱ-2 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○三浦 英恵、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

クリティカル期の患者とその家族への看護実践を通して、急性・重症患者看護の専門家として求められる卓越した看護実践能力、およびチームの中で相談・調整・倫理的な問題の解決・教育的役割を果たす力を身につける。

■ 到達目標

1. 看護職者とのケア提供者の教育的ニーズを見出し、教育的かわりを行うことができる。
2. 急性・重症患者看護の専門家として求められる相談、調整の役割を実践することができる。
3. 倫理的な問題の解決に取り組むことができる。

■ 学習の進め方

関心のあるテーマ・フィールドを選択し、実習目標・方法等を記載した実習計画書を提出する。実習計画書に基づき、実践の場での企画、実施、評価を行い、課題レポートを提出する。実習の具体的な方法、事前・事後学習は以下の通りである。

1. 日々の看護実践について、フィールドノートに記載し、実習指導者および指導教員から適時、スーパー・ヴィジョンを受ける。記録の書式は、課題に応じて学生自身が作成する。
2. 実習指導者の助言のもと、クリティカル期の患者の身体的状態および心理社会的状態を適切にアセスメントし、専門的かつ高度な看護を実践する。
3. クリティカル期の患者とその家族に対して必要な看護援助を実践するために、看護過程を展開しながら実践した看護を評価し、よりよい看護援助を実施する。
4. 急性・重症患者看護専門看護師に求められる相談、調整、教育などの役割と機能について、実習指導者および指導教員から適時スーパー・ヴィジョンを受けながら、看護職者を含むケアの提供者へ必要な教育を実践する。
5. 大学院生、急性・重症患者看護専門看護師、実習に関連する看護師や多職種、指導教員が参加する最終カンファレンスを企画し、実習での学びを発表する。ディスカッションを通して、学びを深める。
6. 実習で学んだことを記述・考察し、課題レポートとしてまとめ、実習全体を通して、専門看護師としての問題意識を深め、新たな看護方略の開発にむけた検討を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習計画に基づき、クリティカル期の患者とその家族に対する看護援助を行う。実習期間は 1 月～3 月等で、必要な期間実施する。実習場所は、常時集中治療を受ける患者を相当数受け入れている、もしくは、ポストクリティカルケアを実施している施設にて実習を行う。施設は、慶應義塾大学病院、聖マリアンナ医科大学病院、成田赤十字病院から選択する(詳細は実習要項を参照のこと)。

実習指導者：急性・重症患者看護専門看護師；藤野智子(臨床准教授)、高橋知彦、田山聡子、津田泰伸、堤晴奈

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

最終カンファレンス終了後、プレゼンテーションした内容についてフィードバックを行う。実習計画書および課題レポートのフィードバックは、面談にて口頭およびコメントを付した資料の返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学実習Ⅰの学び、および、1 年次前期・後期に履修した共通科目 A・B、領域科目の授業の学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 実習計画書(20%)
2. 実習への取り組み(20%)
3. 最終カンファレンス(30%)
4. 課題レポート(30%)

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中の学内学習日は、オフィスアワーとする(9:00～18:00)。三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

クリティカルケア看護学実習Ⅱ-1 と連動しているため、Ⅱ-1 を履修登録(あるいは修了)していることが履修条件となる。主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD184

クリティカルケア看護学実習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：3 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○三浦 英恵、住谷 ゆかり

■ 授業の目的

ポストクリティカル期から急性期リハビリテーション期のあらゆる病期にある患者とその家族に生じた問題に対して、急性・重症患者看護の専門家としての立場で問題解決に取り組む力を身につける。また、クリティカルケアの専門的知識・技術の向上、クリティカルケア看護におけるケアシステムの開発・向上および倫理的な課題に対して、研究的な視点で捉え取り組む力を身につける。

■ 到達目標

1. ポストクリティカル期から急性期リハビリテーション期のあらゆる病期にある患者とその家族に生じた問題に対して、急性・重症患者看護の専門家としての立場で問題解決に取り組むことができる。
2. 患者の回復が促進されるよう、看護チームメンバー、多職種、他部署との連携を図ることができる。
3. クリティカルケアの専門的知識・技術の向上、クリティカルケア看護におけるケアシステムの開発・向上および倫理的な課題に対して、研究的な視点で捉え取り組むことができる。

■ 学習の進め方

関心のあるテーマ・フィールドを選択し、ポストクリティカル期から急性期リハビリテーション期のあらゆる病期における患者の回復に向けた看護チームメンバー、多職種、他部署との連携を意識しながら専門的な実践能力を養う。実習の具体的な方法、事前・事後学習は以下の通りである。

1. 日々の看護実践について、フィールドノートに記載し、実習指導者および指導教員から適時、スーパー・ヴィジョンを受ける。記録の書式は、課題に応じて学生自身が作成する。
2. ポストクリティカル期から急性期リハビリテーション期のあらゆる病期にある患者と家族に最良の医療・看護が提供されるよう多職種で構成されるチーム間の連携をとり、医学的評価・判断に基づく集中治療・医療処置について学ぶ。
3. 急性・重症患者看護専門看護師が行う看護チームメンバー間、多職種間、他部署間の連携に関する活動に同行し、ポストクリティカル期から急性期リハビリテーション期のあらゆる病期に応じたケアとケアを統合した専門的な看護実践について学ぶ。
4. 大学院生、慢性疾患看護専門看護師、実習に関連する多職種(医師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど)、指導教員が参加する最終カンファレンスで、実習報告を行う。基本的な医学的評価・判断に基づく集中治療や医療処置の管理に関する、看護チームメンバー、多職種、他部署との連携と専門看護師の役割について、ディスカッションを通して、学びを深める。
5. 実習で学んだことを記述・考察し、実習レポートとしてまとめ、実習全体を通して、専門看護師としての問題意識を深め、今後のクリティカルケアの専門的知識・技術の向上にむけた検討を行う。
6. クリティカルケアの専門的知識・技術の向上、クリティカルケア看護におけるケアシステムの開発・向上などについて研究的な視点で考察を深め、新たな方略を探究する。

COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン学習を活用する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

看護チームメンバー、多職種、他部署との連携を通じて、ポストクリティカル期から急性期リハビリテーション期のあらゆる病期にある患者の変化に応じた、基本的な医学的評価・判断に基づく集中治療や医療処置の管理を含めたケアとケアを統合した看護支援を展開する。実習期間は 4 月～9 月等で、必要な期間実施する。実習場所は、常時集中治療を受ける患者を相当数受け入れている、もしくは、ポストクリティカルケアを実施している施設にて実習を行う。施設は、聖マリアンナ医科大学病院、聖路加国際病院から選択する(詳細は実習要項を参照のこと)。

実習指導者：急性・重症患者看護専門看護師；田村富美子(臨床教授)、中島千春(臨床教授)、藤野智子(臨床准教授)、津田泰伸、与都英美

■ 教科書

教科書は特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

最終カンファレンス終了後、プレゼンテーションした内容についてフィードバックを行う。課題レポートのフィードバックは、面談にて口頭およびコメントを付した資料の返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

クリティカルケア看護学実習Ⅰ・Ⅱの学び、および、1 年次・2 年次に履修した共通科目 A・B、領域科目の授業の学びを活かすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み(20%)
2. 最終カンファレンス(40%)
3. 課題レポート(40%)

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中の学内学習日は、オフィスアワーとする(9:00~18:00)。三浦(444 研究室) 住谷(422 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD283

慢性看護学特講Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○本庄 恵子、田中 孝美

■ 授業の目的

慢性病をもつ人の行動・心理に関する理論を学び、慢性病者の行動を理解する。

慢性病をもつ人の行動を理解したうえで、慢性病者と家族が抱える問題とその背景を学び、ケア方略を検討する。

■ 到達目標

1. 慢性病をもつ人の行動を理解するために必要な諸理論の理解を深める。
2. 慢性病をもつ人とその家族に対する看護ケアについて考察を深め、新たなケア方略を探究する。

■ 学習の進め方

文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を、事前に提示する。
2. プレゼンテーションやディスカッションの時間を取り入れながら、慢性病をもつ人の行動を理解するために必要な諸理論の理解を深める。
3. 各自のサブスペシャリティでの経験を踏まえたテーマを選び、プレゼンテーションを行う。
4. ディスカッションを通して、サブスペシャリティの領域で、慢性病をもつ人とその家族に対する看護ケアについて考察を深め、新たなケア方略を探究する。
5. 課題レポートを通して、慢性病をもつ人の体験をふまえた支援方法について学びを深める。

授業は、COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン授業を活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：慢性病をもつ人の行動の理解と看護ケア	講義	本庄・田中
2	慢性性とは何か(その 1)：病いのクロニシティ(慢性性)を生きることについて	講義	本庄・田中
3	慢性性とは何か(その 2)：サブスペシャリティからの考察	発表・討論	本庄・田中
4	人が慢性病をもつという体験(その 1)：病いの語りからみた慢性病者の体験	発表・討論	本庄・田中
5	人が慢性病をもつという体験(その 2)：社会的孤立とスティグマ	発表・討論	本庄・田中
6	慢性病をもつ人の行動の特徴(その 1)：病みの軌跡理論から	発表・討論	本庄・田中
7	慢性病をもつ人の行動の特徴(その 2)：病者役割行動の観点から	発表・討論	本庄・田中
8	慢性病をもつ人の行動を理解するための諸理論(その 1)：セルフケア	発表・討論	本庄・田中
9	慢性病をもつ人の行動を理解するための諸理論(その 2)：障害の受容過程	発表・討論	本庄・田中
10	慢性病をもつ人の行動を理解するための諸理論(その 3)：ストレス・コーピング	発表・討論	本庄・田中
11	慢性病をもつ人に関する研究(その 1)：病みの軌跡、慢性性などから選択	発表・討論	本庄・田中
12	慢性病をもつ人に関する研究(その 2)：障害の受容過程、ストレス・コーピングなどから選択	発表・討論	本庄・田中
13	慢性病をもつ人への看護援助の方略：サブスペシャリティでの看護援助方略の検討	発表・討論	本庄・田中
14	慢性病をもつ家族への看護援助の方略：サブスペシャリティでの看護援助方略の検討	発表・討論	本庄・田中
15	まとめ：慢性病をもつ人と家族の理解と支援方略における課題	発表・討論	本庄・田中

■ 教科書

アイリーン・モロフ・ラブキン&パメラ D. ラーセン(2002)／黒江ゆり子監訳(2007). クロニックイリネス人と病いの新たなかかわり. 医学書院.

■ 参考書、参考資料等

- 1 Larsen, P.(2016). Lubkin' s chronic Illness: Impact and Interventions 9th edition, Jones & Bartlett Learning.
- 2 Lubkin, I. & Larsen, P.(2002)／黒江ゆり子監訳(2007). クロニックイリネス 人と病いの新たなかかわり. 医学書院.
- 3 Strauss, A.(1984)／南裕子監訳(1987). 慢性疾患を生きる ケアとクオリティ・ライフの接点. 医学書院.
- 4 Woog, P.(ed.)(1992)／黒江ゆり子・市橋恵子・寶田穂訳(1995). 慢性疾患の病みの軌跡 コーピングとストラウスによる看護モデル. 医学書院.
- 5 Kleinman, A. (1988)／江口重幸・五木田紳・上野豪志訳(1996). 病いの語り 慢性の病いをめぐる臨床人類学. 誠信書房.
- 6 黒江ゆり子(2007). 病いのクロニシティ(慢性性)を生きることについての看護学的省察, 日本慢性看護学会誌, 1 (1), 3-9.
- 7 黒江ゆり子企画(2002). 焦点 慢性性と生活史に焦点を当てた看護学的研究—これからの慢性疾患研究に求められる視点, 看護研究, 35(4), 2-69.

- 8 Hyman, R. & Corbin, J. (eds) (2001). Chronic Illness Research and Theory for Nursing Practice. NY: Springer Publishing Company.
- 9 Corbin, J. & Strauss, A. (1988). Unending work and care. NY: Jossey-Bass Publishers.
- 10 本庄恵子監修執筆 (2015). セルフケア看護. ライフサポート社.
- 11 本庄恵子監修執筆 (2017). セルフケア支援ガイド. ライフサポート社.
- 12 野川道子・本庄恵子他 (2016). 慢性看護のコア・コンセプトⅠ 慢性看護に共通する核となる内容－学問領域からの検討－. 日本慢性看護学会誌, 特別号, 22-30.
- 13 Meleis, A. (ed)(2010). Transitions Theory: Middle-range and situation-specific theories in nursing research and practice. NY: Springer Publishing Company.
- 14 Meleis A.(2010) / 片田範子監訳 (2019). 移行理論と看護—実践、教育、研究—. 学研メディカル秀潤社.

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学特講・慢性看護学演習・慢性看護学実習・慢性看護学特別研究の基盤となる。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 %
2. プレゼンテーション 40 %
3. 最終レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD105

慢性看護学特講Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○本庄 恵子、田中 孝美、伊地 俊介、日吉 徹、中島 千春、宗村 文江、和田 由樹

■ 授業の目的

慢性病をもつ人の複雑な状態の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントを学ぶ。

■ 到達目標

1. 慢性病をもつ人の身体的側面のアセスメントの理解を深める。
2. 慢性病をもつ人の心理社会面のアセスメントの理解を深める。
3. 慢性病をもつ人の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントの理解を深める。

■ 学習の進め方

文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を、事前に提示する。
2. プレゼンテーションやディスカッションの時間を取り入れながら、慢性病をもつ人の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントを理解するために必要な諸理論の理解を深める。
3. 各自のサブスペシャリティでの経験を踏まえたテーマを選び、プレゼンテーションを行う。
4. ディスカッションを通して、サブスペシャリティの領域で、慢性病をもつ人の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントを行うための、新たな方略を探求する。
5. 課題レポートを通して、慢性病をもつ人の身体・心理社会面を含めた包括的アセスメントについて学びを深める。

授業は、COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン授業を活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：慢性病をもつ人の包括的なアセスメントの概要	講義	本庄・田中
2	慢性病をもつ人の身体面のアセスメント(その1)：慢性病をもつ人の全身状態のアセスメント、視診・打診・聴診でわかること	講義・発表・討論	田中
3	慢性病をもつ人の身体面のアセスメント(その2)：呼吸・循環等の看護アセスメント	講義・発表・討論	和田
4	慢性病をもつ人の身体面のアセスメント(その3)：神経障害・認知障害・皮膚障害等のアセスメント	講義	伊地・田中
5	慢性病をもつ人の主要な症状のアセスメント(その1)：疼痛・浮腫等の看護アセスメント	講義	中島・本庄
6	慢性病をもつ人の主要な症状のアセスメント(その2)：便秘・下痢・嘔吐等の看護アセスメント	講義・発表・討論	田中・本庄
7	慢性病をもつ人の薬物療法と症状マネジメント	講義・発表・討論	宗村・本庄
8	慢性病をもつ人の症状マネジメント：サブスペシャリティ領域に特有な症状に焦点をあてて	講義	日吉・本庄・田中
9	慢性病をもつ人の心理社会面のアセスメント(その1)：障害の受容過程からのアセスメント	講義・発表・討論	本庄・田中
10	慢性病をもつ人の心理社会面のアセスメント(その2)：病みの軌跡からのアセスメント	講義・発表・討論	本庄・田中
11	慢性病をもつ人の心理社会面のアセスメント(その3)：ストレス・コーピングからのアセスメント	講義・発表・討論	本庄・田中
12	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(その1)：サブスペシャリティ領域での包括的なアセスメント枠組みの検討	講義・発表・討論	田中・本庄
13	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(その2)：サブスペシャリティ領域での包括的なアセスメント枠組みの検討	講義・発表・討論	田中・本庄
14	包括的なアセスメントの課題：看護アセスメントと多職種連携	講義・発表・討論	本庄・田中
15	まとめ：慢性病をもつ人と包括的なアセスメントにおける課題	講義・発表・討論	本庄・田中

■教科書

井上智子監修(2013). 看護治療学の基本：医療による身体侵襲を「視る」「診る」「看る」新しい看護の知へ. ライフサポート社.

■参考書、参考資料等

- 1 Lubkin, I. & Larsen, P.(2002) / 黒江ゆりこ監訳 (2007). クロニックイリネス 人と病いの新たなかかわり. 医学書院.
- 2 Woog, P.(ed.)(1992) / 黒江ゆり子・市橋恵子・寶田穂訳 (1995). 慢性疾患の病みの軌跡 コービンとストラウスによる看護モデル, 医学書院.
- 3 小島操子 (2004). 看護における危機理論・危機介入. 金芳堂.
- 4 本庄恵子監修(2015). セルフケア看護. ライフサポート社.

■フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■他の授業科目との関連

慢性看護学演習Ⅰ・慢性看護学実習につなげる。

■成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 %
2. プレゼンテーション 40 %
3. 最終レポート 40 %

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)

■受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■その他

HMAD106

慢性看護学特講Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○田中 孝美、本庄 恵子、高津 咲恵子

■ 授業の目的

さまざまな変化する時期（発症予防から死に至るまで）に対応した慢性病の予防、診断・治療にともなう専門的看護支援、自己管理支援、リハビリテーション看護、ターミナルケアなどに関する理論と支援技術（アドボカシー、自己決定、症状マネジメント、患者教育など）と評価方法について学ぶ。

■ 到達目標

1. 慢性病のさまざまな変化する時期（発症予防から死に至るまで）に対応した支援に必要な諸理論の理解を深める。
2. 慢性病の予防、診断、治療にともなう専門的看護支援、自己管理支援、リハビリテーション看護、ターミナルケアなどに関する支援技術（アドボカシー、自己決定、症状マネジメント、患者教育など）の理解を深める。
3. 慢性病のさまざまな変化する時期に対応した支援技術とその評価方法を検討する。

■ 学習の進め方

文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を、事前に提示する。
2. プレゼンテーションやディスカッションの時間を取り入れながら、慢性病のさまざまな変化する時期に対応した支援の理解を深める。
3. 各自のサブスペシャリティでの経験を踏まえたテーマを選び、プレゼンテーションを行う。
4. ディスカッションを通して、サブスペシャリティの領域で、慢性病をもつ人とその家族への支援技術について学ぶ。
5. 課題レポートを通して、慢性病をもつ人へのさまざまな時期における予防、診断、治療にともなう専門的看護支援、自己管理支援、リハビリテーション看護、ターミナルケアなどの支援と評価について検討する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：慢性病をもつ人への支援に関する理論	講義	田中・本庄
2	慢性病のさまざまな時期（発症予防から死に至るまで）にある人と家族の特徴と、支援課題の検討	講義	田中・本庄
3	慢性病のさまざまな時期とそれに対応した支援(その1)：慢性病の予防	講義	田中・本庄
4	慢性病のさまざまな時期とそれに対応した支援(その2)：診断・治療にともなう専門的看護支援	講義・発表・討論	高津・本庄・田中
5	慢性病のさまざまな時期とそれに対応した支援(その3)：自己管理支援	講義・発表・討論	本庄・田中
6	慢性病のさまざまな時期とそれに対応した支援(その4)：リハビリテーション看護	講義・発表・討論	田中・本庄
7	慢性病のさまざまな時期とそれに対応した支援(その5)：ターミナルケア	講義・発表・討論	田中・本庄
8	慢性病をもつ人への支援技術(その1)：アドボカシー、意思決定	発表・討論	本庄・田中
9	慢性病をもつ人への支援技術(その2)：症状マネジメント、セルフマネジメント	発表・討論	本庄・田中
10	慢性病をもつ人への支援技術(その3)：患者教育	発表・討論	本庄・田中
11	慢性病をもつ人への支援技術(その4)：教育的アプローチのための学習理論	発表・討論	田中・本庄
12	慢性病をもつ人への支援技術(その5)：教育的アプローチの方法	発表・討論	田中・本庄
13	慢性病のさまざまな変化する時期に対応した支援技術とその評価方法(その1)：サブスペシャリティ領域での検討	発表・討論	本庄・田中
14	慢性病のさまざまな変化する時期に対応した支援技術とその評価方法(その2)：サブスペシャリティ領域での検討	発表・討論	田中・本庄
15	まとめ：慢性病のさまざまな変化する時期に対応した支援技術とその評価方法における課題	発表・討論	田中・本庄

■ 教科書

アイリーン・モロフ・ラブキン&パセラ D. ラーセン (2002)/黒江ゆり子監訳 (2007). クロニックイルネス人と病いの新たななかかわり. 医学書院.

■ 参考書、参考資料等

- 1 Bandura, A. (1995) /本明寛・春木豊・野口京子・山本多喜司訳 (1997). 激動社会の中の自己効力. 金子書房.

- 2 Cranton, P. (1992) /入江直子・豊田千代子・三輪健二訳 (2003) . おとなの学びを拓く 自己決定と意識変容をめざして. 鳳書房.
- 3 Cranton, P. (1992) /入江直子・三輪健二訳 (2004) . おとなの学びを創る 専門職の省察的实践をめざして. 鳳書房.
- 4 Deci, E., & Flaste, R. (1995) /桜井茂男監訳 (1999) . 人を伸ばす力 内発と自律のすすめ. 新曜社.
- 5 石井均 (2015) . 病を引き受けられない人々のケア. 医学書院.
- 6 岩本隆茂・坂野雄二 (1997) . 認知行動療法の理論と実際. 培風館.
- 7 黒田裕子監修 (2015) . 看護診断のためのよくわかる中範囲理論第 2 版. 学研メディカル秀潤社.
- 8 Lorig, K., Holman, H., Sobel, D., & Laurent, D. (2006) /日本慢性疾患セルフマネジメント協会 (2008) . 病気とともに生きる 慢性疾患のセルフマネジメント. 日本看護協会出版会.
- 9 松繁拓哉 (2010) . 「患者中心の医療」という言説—患者の「知」の社会学. 立教大学出版会.
- 10 坂野雄二 (1995) . 認知行動療法. 日本評論社.
- 11 Schon, D. (1983) /佐藤学・秋田喜代美 (2001) . 専門家の知恵 反省的实践家は行為しながら考える. ゆみる出版.
- 12 Whitman, N., Graham, B., Gleit, C., & Boyd, M. (1992) /安酸史子監訳 (1996) . ナースのための患者教育と健康教育. 医学書院.
- 13 Woog, P. (1992) /黒江ゆり子・市橋恵子・寶田穂訳 (1995) . 慢性疾患の病みの軌跡. 医学書院.

その他、授業時間内に随時、提示する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学演習Ⅱ・慢性看護学実習につなげる。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 %
2. プレゼンテーション 40 %
3. 最終レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20～12:50。 本庄 (442 研究室) 田中 (449 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD154

慢性看護学特講Ⅳ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○本庄 恵子、田中 孝美、関根 光枝

■ 授業の目的

慢性病をもつ人に適用される医療福祉の制度や体制とその革新的方策を学ぶ。

■ 到達目標

1. 慢性病をもつ人が利用できる医療・福祉制度や体制について理解を深める。
2. 慢性病をもつ人とその家族を取り巻く医療・福祉制度や体制の課題と、それを改善する方策を検討する。

■ 学習の進め方

文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を、事前に提示する。
2. プレゼンテーションやディスカッションの時間を取り入れながら、慢性病をもつ人が利用できる医療・福祉制度や体制の理解を深める。
3. 各自のサブスペシャリティでの経験を踏まえたテーマを選び、プレゼンテーションを行う。
4. ディスカッションを通して、サブスペシャリティの領域で、慢性病をもつ人とその家族を取り巻く医療・福祉制度の課題について学ぶ。
5. 課題レポートを通して、慢性病をもつ人に適用される医療・福祉制度や体制の課題に対する方策を検討する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：慢性病をもつ人に関する施策・制度について	講義	本庄・田中
2	慢性病をもつ人に適用される医療の制度と体制(その 1)：医療制度の現状と問題点の把握	講義・発表・討論	本庄・田中
3	慢性病をもつ人に適用される医療の制度と体制(その 2)：医療体制の現状と国際比較からみた制度の課題の把握	講義・発表・討論	本庄・田中
4	慢性病をもつ人に適用される福祉の制度と体制(その 1)：高齢者福祉や障害者福祉などの社会福祉制度の仕組みと構造の理解	講義・発表・討論	本庄・田中
5	慢性病をもつ人に適用される福祉の制度と体制(その 2)：福祉体制の現状と国際比較からみた体制の課題の把握	講義・発表・討論	本庄・田中
6	慢性病をもつ人に適用される医療・福祉の制度の中で働く医療職	講義・発表・討論	田中・本庄
7	慢性病をもつ人に適用される医療・福祉の制度の中で働く介護福祉職	講義・発表・討論	田中・本庄
8	慢性病をもつ人と家族が生活する地域における医療・福祉の連携とサービス提供のあり方	講義	関根・本庄・田中
9	慢性病をもつ人への医療・福祉制度や体制の課題(その 1)：短期入院と外来支援	講義・発表・討論	本庄・田中
10	慢性病をもつ人への医療・福祉制度や体制の課題(その 2)：在宅療養	講義・発表・討論	本庄・田中
11	慢性病をもつ人への医療・福祉制度や体制の課題(その 3)：学業・職業生活	講義・発表・討論	田中・本庄
12	慢性病をもつ人への医療・福祉制度や体制の課題(その 4)：終末期	講義・発表・討論	田中・本庄
13	慢性病をもつ人への医療・福祉制度や体制の革新方策(その 1)：外来と地域をつなぐ退院時多職種カンファレンス	講義・発表・討論	本庄・田中
14	慢性病をもつ人への医療・福祉制度や体制の革新方策(その 2)：地域中核病院と地域包括的ケアの取り組み	講義・発表・討論	本庄・田中
15	慢性病をもつ人と家族が質の高い生活を送り続けることを可能にする、医療・福祉制度や体制の革新方策に関する、サブスペシャリティ領域での検討	講義・発表・討論	本庄・田中

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

- 1 本庄恵子監修(2015). セルフケア看護. ライフサポート社.
- 2 島崎謙治(2011). 日本の医療—制度と政策. 東京大学出版会.
- 3 府川哲夫(2011). 保健医療福祉制度論. ミネルヴァ書房.
- 4 篠田道子(2009). ナースのための退院調整—院内チームと地域連携のシステムづくり. 日本看護協会出版会.
- 5 太田貞司他(2011). 地域包括ケアシステム—その考え方と課題. 光生社.
- 6 宇都宮宏子編(2009). 病棟から始める退院支援・退院調整の実践事例. 日本看護協会出版会.
- 7 数間恵子署(2017). The 外来看護—時代を超えて求められる患者支援. 日本看護協会出版会.

その他、授業時間内に随時、提示する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学実習につなげる。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 %
2. プレゼンテーション 40 %
3. 最終レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD155

慢性看護学特講Ⅴ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：前期

○田中 孝美、本庄 恵子、下村 晃子

■ 授業の目的

慢性病をもつ人の治療や療養環境(病棟、外来、居宅、職場など)を調整する方略について学ぶ。

慢性病をもつ人の質の高い生活に向けて、サポートネットワークづくりや社会資源の活用などの社会支援について学ぶ。

■ 到達目標

1. 慢性病をもつ人とその家族に対する倫理調整を含めた治療や療養環境の整備についての理解を深める。
2. 退院計画、退院調整に向けての連携方法について理解を深める。
3. 慢性病をもつ人とその家族を取り巻く治療や療養環境の課題と、それを改善する方略を検討する。
4. 慢性病をもつ人とその家族を取り巻く地域支援の課題と、それを改善する方略を検討する。

■ 学習の進め方

文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して、主体的に学びを深める。

1. 学びを深めるための参考文献を、事前に提示する。
2. プレゼンテーションやディスカッションの時間を取り入れながら、慢性病をもつ人と家族に関する倫理調整も含めた治療や療養環境の整備や、地域社会資源の活用などについて学びを深める。
3. 各自のサブスペシャリティでの経験を踏まえたテーマを選び、プレゼンテーションを行う。
4. ディスカッションを通して、サブスペシャリティの領域で、治療や療養環境の課題や地域支援の課題について学びを深める。
5. 課題レポートを通して、慢性病をもつ人の治療や療養環境の課題や地域支援の課題に対する方略を検討する。

授業は、COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン授業を活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：慢性病をもつ人に関わる施策・制度について	講義	本庄・田中
2	慢性病をもつ人の質の高い生活にむけての病棟・外来・地域の連携(その1)：文献検討から	講義・発表・討論	本庄
3	慢性病をもつ人の質の高い生活にむけての病棟・外来・地域の連携(その2)：サブスペシャリティから	講義・発表・討論	本庄・田中
4	慢性病をもつ人と家族の質の高い生活に向けての倫理調整(その1)：文献検討から	講義・発表・討論	田中
5	慢性病をもつ人と家族の質の高い生活に向けての倫理調整(その2)：サブスペシャリティから	講義・発表・討論	下村・本庄・田中
6	慢性病をもつ人の治療や療養環境：他職種チームでのアプローチ	講義・発表・討論	田中・本庄
7	慢性病をもつ人の治療や療養環境の調整：患者と家族間の調整	講義・発表・討論	田中・本庄
8	慢性病をもつ人の治療や療養環境の調整：多職種チーム内での連携と課題	講義・発表・討論	田中・本庄
9	地域包括ケアシステム(その1)：その基本的な考え方	講義・発表・討論	本庄・田中
10	地域包括ケアシステム(その2)：課題と解決に向けた方略	講義・発表・討論	本庄・田中
11	慢性病をもつ人の地域社会支援(その1)：外来・病棟・居宅・職場のつながり	講義・発表・討論	田中・本庄
12	慢性病をもつ人の地域社会支援(その2)：地域社会支援の調整の中で専門看護師が果たす役割	講義・発表・討論	本庄・田中
13	慢性病をもつ人の地域社会支援(その3)：課題と解決へ向けた方略	講義・発表・討論	本庄・田中
14	慢性病をもつ人と家族への治療・療養環境の課題と今後の方策：サブスペシャリティでの方策の検討	講義・発表・討論	本庄・田中

No	内容	形式	教員
15	慢性病をもつ人と家族への地域社会支援の課題と今後の方策：サブスペシャリティでの方策の検討	講義・発表・討論	本庄・田中

■教科書

指定なし

■参考書、参考資料等

- 1 本庄恵子監修(2015). セルフケア看護. ライフサポート社
 - 2 篠田道子(2009). ナースのための退院調整－院内チームと地域連携のシステムづくり. 日本看護協会出版会.
 - 3 太田貞司他(2011). 地域包括ケアシステム－その考え方と課題. 光生社.
 - 4 森山美智子編(2007). 慢性疾患ケアモデル. 中央法規出版.
 - 5 宇都宮宏子編(2009). 病棟から始める退院支援・退院調整の実践事例. 日本看護協会出版会.
 - 6 アイリーン・モロフ・ラブキン&パメラ D ラーセン著(2002)／黒江ゆりこ監訳(2007). クロニックイルネス 人と病いの新たななかかわり. 医学書院.
- その他、適宜紹介する。

■フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■他の授業科目との関連

慢性看護学演習Ⅱ・慢性看護学実習につなげる。

■成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 %
2. プレゼンテーション 40 %
3. 最終レポート 40 %

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20～12:50。 本庄 (442 研究室) 田中 (449 研究室)

■受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■その他

HMAD201

慢性看護学演習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○本庄 恵子、田中 孝美、福田 倫明、下村 晃子、宗村 文江、和田 由樹

■ 授業の目的

慢性病をもつ人の複雑な状態の身体・心理社会面を含めた包括的なアセスメント技能を修得する。

■ 到達目標

1. 慢性病をもつ人の身体的側面のアセスメントを実施できる。
2. 慢性病をもつ人の心理社会面のアセスメントを実施できる。
3. 慢性病をもつ人の身体・心理社会面を含めた包括的なアセスメントを実施できる。

■ 学習の進め方

先行研究、実践報告のレビューを行い、包括的なアセスメントについて、ゼミ形式にて討議する。ロールプレイングや実技演習を取り入れ、身体・心理社会面を含めた包括的なアセスメント技能を身につける。

1. 先行研究や実践報告のレビューを行い、事例分析する時間を取り入れながら、慢性病をもつ人の身体・心理社会面を含めた包括的なアセスメントを理解し実施する力を身につける。
2. 主要なアセスメント技法について、ロールプレイングや実技演習によって修得する。
3. サブスペシャリティの領域に特有な、慢性病をもつ人の身体・心理社会面を含めた包括的なアセスメントの技法を探究する。
4. 課題レポートを通して、慢性病をもつ人の身体・心理社会面を含めた包括的なアセスメントの実践能力を高めるための課題について学びを深める。

授業は、COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン授業を活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：慢性病疾患をもつ人の包括的なアセスメント	演習	本庄・田中
2	オリエンテーション：慢性病疾患をもつ人の包括的なアセスメント	演習	本庄・田中
3	慢性病をもつ人の身体的アセスメントの実施(聴診・打診・触診)	演習	和田・本庄・田中
4	慢性病をもつ人の身体的アセスメントの実施(聴診・打診・触診)	演習	和田・本庄・田中
5	慢性病をもつ人の身体的アセスメントの実施(セルフモニタリング：血糖自己測定など)	演習	宗村・本庄・田中
6	慢性病をもつ人の身体的アセスメントの実施(セルフモニタリング：血糖自己測定など)	演習	宗村・本庄・田中
7	慢性病をもつ人の身体的な看護アセスメントの実施(サブスペシャリティ領域での検討)	演習	本庄
8	慢性病をもつ人の身体的な看護アセスメントの実施(サブスペシャリティ領域での検討)	演習	本庄
9	慢性病をもつ人の心理社会面のアセスメントの技法(ナラティブ・アプローチその1)	演習	田中
10	慢性病をもつ人の心理社会面のアセスメントの技法(ナラティブ・アプローチその1)	演習	田中
11	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(ロールプレイ)：NANDA の枠組みを用いた包括的なアセスメントとその課題の明確化①	演習	本庄・田中
12	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(ロールプレイ)：NANDA の枠組みを用いた包括的なアセスメントとその課題の明確化①	演習	本庄・田中
13	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(ロールプレイ)：NANDA の枠組みを用いた包括的なアセスメントとその課題の明確化②	演習	本庄・田中
14	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(ロールプレイ)：NANDA の枠組みを用いた包括的なアセスメントとその課題の明確化②	演習	本庄・田中
15	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(ロールプレイ)：セルフケア能力質問紙(Self-Care Agency Questionnaire: SCAQ)を活用したアセスメントとその課題①	演習	本庄・田中
16	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(ロールプレイ)：セルフケア能力質問紙(Self-Care Agency Questionnaire: SCAQ)を活用したアセスメントとその課題①	演習	本庄・田中

No	内容	形式	教員
17	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(ロールプレイ):セルフケア能力質問紙(SCAQ)を活用したアセスメントとその課題②	演習	本庄・田中
18	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(ロールプレイ):セルフケア能力質問紙(SCAQ)を活用したアセスメントとその課題②	演習	本庄・田中
19	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(演習その1):サブスペシャリティ領域での包括的なアセスメント枠組みを活用した事例の分析①	演習	本庄・田中
20	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(演習その1):サブスペシャリティ領域での包括的なアセスメント枠組みを活用した事例の分析①	演習	本庄・田中
21	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(演習その2):サブスペシャリティ領域での包括的なアセスメント枠組みを活用した事例の分析②	演習	本庄・田中
22	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(演習その2):サブスペシャリティ領域での包括的なアセスメント枠組みを活用した事例の分析②	演習	本庄・田中
23	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(演習その3):サブスペシャリティ領域での包括的なアセスメント枠組みを活用した事例の分析③	演習	福田・本庄・田中
24	慢性病をもつ人の身体面・心理社会面を含めた包括的なアセスメント(演習その3):サブスペシャリティ領域での包括的なアセスメント枠組みを活用した事例の分析③	演習	福田・本庄・田中
25	慢性病をもつ人の複雑さを捉える包括的なアセスメントの今後の課題と可能性(病期に応じたアセスメント)	演習	本庄・田中
26	慢性病をもつ人の複雑さを捉える包括的なアセスメントの今後の課題と可能性(病期に応じたアセスメント)	演習	田中・本庄
27	慢性病をもつ人の複雑さを捉える包括的なアセスメントの今後の課題と可能性(多職種協働の方略)	演習	下村・本庄・田中
28	慢性病をもつ人の複雑さを捉える包括的なアセスメントの今後の課題と可能性(多職種協働の方略)	演習	下村・本庄・田中
29	まとめ:慢性病をもつ人の包括的なアセスメント技能を高めるうえでの課題	演習	本庄・田中
30	まとめ:慢性病をもつ人の包括的なアセスメント技能を高めるうえでの課題	演習	本庄・田中

■ 教科書

井上智子監修(2013). 新しい看護の知へ 看護治療学の基本:医療による身体侵襲を「視る」「診る」「看る」. ライフサポート社.

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学実習につなげる。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 40 % 2. 包括的なアセスメント枠組みの作成 30 % 3. 最終レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20~12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD107

慢性看護学演習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：前期

○本庄 恵子、田中 孝美、石橋 由孝、伊藤 麻紀、下村 晃子、宗村 文江

■ 授業の目的

慢性病をもつ人の発症から死に至るまでの間の変化に対応した支援技術および評価方法に関する実践的方略を探究する。
慢性病をもつ人の質の高い生活に向けて治療や療養環境および地域支援などを調整する方略を探究する。

■ 到達目標

1. 慢性病のさまざまな変化する時期(発症予防から死に至るまで)に対応した支援技術および評価方法の実際について理解を深める。
2. 慢性病のさまざまな変化する時期に対応した支援の方略を検討する。
3. 慢性病のさまざまな変化する時期に対応した支援を実施するための技能を身につける。
4. 慢性病をもつ人とその家族を取り巻く治療や療養環境の課題を改善する方略を検討する。
5. 慢性病をもつ人とその家族を取り巻く地域支援の課題を改善する方略を検討する。
6. 慢性病をもつ人が質の高い生活をするために、さまざまな変化する時期に対応した支援および調整の実際について検討する。

■ 学習の進め方

文献レビュー、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める。

フィールドにてデータを収集しながら課題を明確にし、革新方略を検討する。

1. 各自のサブスペシャリティでの経験を踏まえたテーマを選び、先行研究、実践報告のレビューを行う。
- 2.1 を踏まえ、プレゼンテーションやディスカッションを通して、慢性病のさまざまな変化する時期に対応した支援内容および調整方法を検討する。
3. フィールドワークを通して、サブスペシャリティの領域で、慢性病をもつ人とその家族への支援を計画する。
4. フィールドワークを通して、慢性病をもつ人の質の高い生活に向けて、治療や療養環境および地域支援を調整する方略を学ぶ。
5. 課題レポートを通して、慢性病をもつ人が質の高い生活をするために、さまざまな変化する時期に対応した支援および調整の実際について検討する。

授業は、COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン授業を活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	慢性病をもつ人への支援技術の実施(文献検討 1・フィールドワークの準備)：セルフケア支援をはじめとする慢性病をもつ人の支援技術を実施し評価する方略	演習	本庄・田中
2	慢性病をもつ人への支援技術の実施(文献検討 1・フィールドワークの準備)：セルフケア支援をはじめとする慢性病をもつ人の支援技術を実施し評価する方略	演習	本庄・田中
3	慢性病をもつ人への支援技術の実施(文献検討 2・フィールドワークの準備)：発症から死に至るまでの間の変化に応じた支援技術	演習	本庄
4	慢性病をもつ人への支援技術の実施(文献検討 2・フィールドワークの準備)：発症から死に至るまでの間の変化に応じた支援技術	演習	本庄
5	慢性病のさまざまな変化する時期とそれに対応した支援技術の実際(学内演習 1・フィールドワークの準備)：セルフケア支援等に関する支援技術をロールプレイで実施	演習	本庄
6	慢性病のさまざまな変化する時期とそれに対応した支援技術の実際(学内演習 1・フィールドワークの準備)：セルフケア支援等に関する支援技術をロールプレイで実施	演習	本庄
7	慢性病のさまざまな変化する時期とそれに対応した支援技術の実際(学内演習 2・フィールドワークの準備)：行動療法等を踏まえた支援技術をロールプレイで実施	演習	田中
8	慢性病のさまざまな変化する時期とそれに対応した支援技術の実際(学内演習 2・フィールドワークの準備)：行動療法等を踏まえた支援技術をロールプレイで実施	演習	田中
9	慢性病のさまざまな変化する時期とそれに対応した支援技術の実施(フィールドワーク 1)：予防期、慢性期、回復期にある人への生活支援についての技術と評価方法の探求	演習	伊藤・本庄・田中
10	慢性病のさまざまな変化する時期とそれに対応した支援技術の実施(フィールドワーク 1)：予防期、慢性期、回復期にある人への生活支援についての技術と評価方法の探求	演習	伊藤・本庄・田中
11	慢性病のさまざまな変化する時期とそれに対応した支援技術の実施(フィールドワーク 2)：急性増悪期、不安定期、下降期、終末期にある人への緩和ケア支援についての技術と評価方法の探求	演習	伊藤・本庄・田中

No	内容	形式	教員
12	慢性病のさまざまな変化する時期とそれに対応した支援技術の実施(フィールドワーク 2): 急性増悪期、不安定期、下降期、終末期にある人への緩和ケア支援についての技術と評価方法の探求	演習	伊藤・本庄・田中
13	慢性病をもつ人の質の高い生活に向けて治療や療養環境および地域支援などを調整する方略(文献検討・フィールドワークの準備): 外来支援等慢性病をもつ人への CNS の活動	演習	田中
14	慢性病をもつ人の質の高い生活に向けて治療や療養環境および地域支援などを調整する方略(文献検討・フィールドワークの準備): 外来支援等慢性病をもつ人への CNS の活動	演習	田中
15	慢性病をもつ人の質の高い生活に向けて治療や療養環境および地域支援などを調整する方略(フィールドワーク): CNS の実践をシャドウイングもしくは聞き取りを通じた探求	演習	田中・本庄
16	慢性病をもつ人の質の高い生活に向けて治療や療養環境および地域支援などを調整する方略(フィールドワーク): CNS の実践をシャドウイングもしくは聞き取りを通じた探求	演習	田中・本庄
17	慢性病をもつ人の家族支援の方略(文献検討・フィールドワークの準備): CNS の活動	演習	田中・本庄
18	慢性病をもつ人の家族支援の方略(文献検討・フィールドワークの準備): CNS の活動	演習	田中・本庄
19	慢性病をもつ人の家族支援の方略(フィールドワーク): CNS が行う家族支援をシャドウイングもしくは聞き取りを通じた学習	演習	下村・本庄・田中
20	慢性病をもつ人の家族支援の方略(フィールドワーク): CNS が行う家族支援をシャドウイングもしくは聞き取りを通じた学習	演習	下村・本庄・田中
21	慢性病をもつ人の地域社会支援の方略(文献検討・フィールドワークの準備): 退院時多職種カンファレンスなどの、病院と地域の連携についての実践事例	演習	田中・本庄
22	慢性病をもつ人の地域社会支援の方略(文献検討・フィールドワークの準備): 退院時多職種カンファレンスなどの、病院と地域の連携についての実践事例	演習	田中・本庄
23	慢性病をもつ人の地域社会支援の方略(フィールドワーク): 退院時多職種カンファレンスをしている施設で実施	演習	宗村・本庄・田中
24	慢性病をもつ人の地域社会支援の方略(フィールドワーク): 退院時多職種カンファレンスをしている施設で実施	演習	宗村・本庄・田中
25	慢性病をもちながら、さまざまな変化する時期に対応して、質の高い生活をするための支援および調整方法について(ディスカッション 1): 支援技術および評価方法	演習	田中・本庄
26	慢性病をもちながら、さまざまな変化する時期に対応して、質の高い生活をするための支援および調整方法について(ディスカッション 1): 支援技術および評価方法	演習	田中・本庄
27	慢性病をもちながら、さまざまな変化する時期に対応して、質の高い生活をするための支援および調整についての検討(ディスカッション 2): 治療や療養環境および地域支援	演習	石橋・本庄・田中
28	慢性病をもちながら、さまざまな変化する時期に対応して、質の高い生活をするための支援および調整についての検討(ディスカッション 2): 治療や療養環境および地域支援	演習	石橋・本庄・田中
29	まとめ: 慢性病をもつ人が質の高い生活をするために、さまざまな変化する時期に対応した支援および調整の実際と課題	演習	本庄・田中
30	まとめ: 慢性病をもつ人が質の高い生活をするために、さまざまな変化する時期に対応した支援および調整の実際と課題	演習	本庄・田中

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学実習につなげる。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 % 2. プレゼンテーション 40 % 3. 最終レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20~12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD202

慢性看護学特別研究 I

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵

■ 授業の目的

慢性看護の専門領域における課題について、文献検討や概念分析を行い、研究課題に相応しい研究方法を選択し、研究計画書作成する能力を身につける。

■ 到達目標

- ・慢性看護の専門領域における課題について、文献検討や概念分析を行うことができる。
- ・研究計画書作成までのプロセスを踏むことができる。

■ 学習の進め方

先行研究、実践報告のレビュー、フィールドワークなどを通して、研究課題を見出す。

研究課題に応じた研究方法を選択し、研究計画書を作成する。

【事前学修】事前にプレゼンテーションの準備をし、ゼミの中で討論を行う。

【事後学修】討論した内容は、研究計画書の洗練に生かす

授業は、COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン授業を活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	本庄・田中・河田
2	関心領域に関連する文献検討：看護領域(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
3	関心領域に関連する文献検討：看護領域(その2)	演習・討論	本庄・田中
4	関心領域に関連する文献検討：看護領域(その3)	演習・討論	本庄・田中
5	関心領域に関連する文献検討：看護領域(その4)	演習・討論	本庄・田中
6	関心領域に関連する文献検討：周辺領域(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
7	関心領域に関連する文献検討：周辺領域(その2)	演習・討論	本庄・田中・河田
8	関心領域に関連する文献検討：周辺領域(その3)	演習・討論	本庄・田中
9	研究課題に関連する概念分析(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
10	研究課題に関連する概念分析(その2)	演習・討論	本庄・田中・河田
11	研究課題に関連する概念分析(その3)	演習・討論	本庄・田中
12	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
13	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その2)	演習・討論	本庄・田中・河田
14	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その3)	演習・討論	本庄・田中
15	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その4)	演習・討論	本庄・田中
16	研究課題にふさわしい研究方法の検討(その5)	演習・討論	本庄・田中
17	研究テーマと目的の検討(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
18	研究テーマと目的の検討(その2)	演習・討論	本庄・田中
19	研究の動機と背景の検討(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
20	研究の動機と背景の検討(その2)	演習・討論	本庄・田中
21	研究方法論の検討(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田

No	内容	形式	教員
22	研究方法論の検討(その2)	演習・討論	本庄・田中・河田
23	研究方法論の検討(その3)	演習・討論	本庄・田中
24	研究計画書(案)の作成(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
25	研究計画書(案)の作成(その2)	演習・討論	本庄・田中
26	研究計画書(案)の作成(その3)	演習・討論	本庄・田中
27	研究計画書(案)の作成(その4)	演習・討論	本庄・田中
28	研究計画と倫理(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
29	研究計画と倫理(その2)	演習・討論	本庄・田中
30	まとめ	演習	本庄・田中・河田

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

看護研究の学習内容の理解に基づき、発展的な内容を扱います。

2年次に開講される慢性看護学特別研究Ⅱ、Ⅲの基礎的な学習になります。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20% 2. プレゼンテーション 40% 3. レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

毎週月曜日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)河田(446 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD185

慢性看護学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵

■ 授業の目的

慢性看護の専門領域における課題について、研究計画書を完成・洗練し、研究計画に基づくデータ収集を行い、研究実践能力を養う。

■ 到達目標

- ・慢性看護の専門領域における課題について、研究計画書の作成と洗練をおこなう。
- ・研究計画に基づくデータ収集を行うことができる。

■ 学習の進め方

研究計画書の作成と洗練、データ収集に関して、ゼミ形式で授業を行う。

慢性看護の専門領域における課題について、研究計画書の作成と洗練をおこなう。

研究計画に基づくデータ収集を行う。

【事前学修】事前にプレゼンテーションの準備をし、ゼミの中で討論を行う。

【事後学修】討論した内容は、研究計画書の洗練、および、データ収集に生かす。

授業は、COVID-19の感染リスクなどをふまえて、Teamsを用いた同時双方向型のオンライン授業を活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	演習	本庄・田中・河田
2	研究計画書の洗練：テーマ・目的(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
3	研究計画書の洗練：テーマ・目的(その2)	演習・討論	本庄・田中
4	研究計画書の洗練：動機と背景(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
5	研究計画書の洗練：動機と背景(その2)	演習	本庄・田中
6	研究計画書の洗練：研究方法論(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
7	研究計画書の洗練：研究方法論(その2)	演習・討論	本庄・田中
8	研究計画書の洗練：研究方法論(その3)	演習・討議	本庄・田中
9	研究計画書の洗練：研究倫理(その1)	演習・討議	本庄・田中・河田
10	研究計画書の洗練：研究倫理(その2)	演習・討議	本庄・田中
11	研究計画とサブストラクション(その1)	演習・討議	本庄・田中・河田
12	研究計画とサブストラクション(その2)	演習・討議	本庄・田中
13	研究論文の作成：序論・目的・意義(その1)	演習・討議	本庄・田中・河田
14	研究論文の作成：序論・目的・意義(その2)	演習・討議	本庄・田中・河田
15	研究論文の作成：序論・目的・意義(その3)	演習・討議	本庄・田中
16	研究論文の作成：方法論(その1)	演習・討議	本庄・田中・河田
17	研究論文の作成：方法論(その2)	演習・討議	本庄・田中・河田
18	研究論文の作成：方法論(その3)	演習・討議	本庄・田中
19	研究計画に基づくデータの収集と分析(その1)	演習・討議	本庄・田中・河田
20	研究計画に基づくデータの収集と分析(その2)	演習・討論	本庄・田中・河田

No	内容	形式	教員
21	研究計画に基づくデータの収集と分析(その3)	演習・討論	本庄・田中
22	研究計画に基づくデータの収集と分析(その4)	演習・討論	本庄・田中
23	研究計画に基づくデータの収集と分析(その5)	演習・討論	本庄・田中
24	研究計画に基づくデータの収集と分析(その6)	演習・討論	本庄・田中
25	研究計画に基づくデータの収集と分析(その7)	演習・討論	本庄・田中
26	データ分析結果と先行研究の比較検討(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
27	データ分析結果と先行研究の比較検討(その2)	演習・討論	本庄・田中
28	データ分析結果からみる研究のオリジナリティ(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
29	データ分析結果からみる研究のオリジナリティ(その2)	演習・討論	本庄・田中
30	まとめ	演習	本庄・田中・河田

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学特別研究Ⅰの学習内容の理解に基づき、より発展的な内容を扱います。

慢性看護学特別研究Ⅲの基礎的な学習になります。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 % 2. プレゼンテーション 40 % 3. レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

毎週月曜日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)河田(446 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD284

慢性看護学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵

■ 授業の目的

慢性看護の専門領域における研究計画に基づくデータ収集と分析を行い、研究論文作成を行い、研究実践能力を養う。

■ 到達目標

- ・慢性看護の専門領域における研究計画書に基づくデータ収集と分析を行う。
- ・研究論文を作成するまでの一連のプロセスを踏むことができる。

■ 学習の進め方

収集データの分析や、先行研究や知見との比較検討を通して、研究を考察する。
この内容を、ゼミ形式でのプレゼンテーションと討論のなかで、深める。

【事前学修】事前にプレゼンテーションの準備をし、ゼミの中で討論を行う。

【事後学修】討論した内容は、研究論文のまとめに生かす。

授業は、COVID-19の感染リスクなどをふまえて、Teamsを用いた同時双方向型のオンライン授業を活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	演習	本庄・田中・河田
2	データ分析結果のまとめ(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
3	データ分析結果のまとめ(その2)	演習・討論	本庄・田中・河田
4	データ分析結果のまとめ(その3)	演習・討論	本庄・田中
5	研究成果の考察：関連する文献の検討(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
6	研究成果の考察：関連する文献の検討(その2)	演習・討論	本庄・田中・河田
7	研究成果の考察：関連する文献の検討(その3)	演習・討論	本庄・田中
8	研究成果の考察：関連する文献の検討(その4)	演習・討論	本庄・田中
9	研究成果の考察：実践への示唆(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
10	研究成果の考察：実践への示唆(その2)	演習・討論	本庄・田中
11	研究論文の作成：結果(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
12	研究論文の作成：結果(その2)	演習・討論	本庄・田中・河田
13	研究論文の作成：結果(その3)	演習・討論	本庄・田中
14	研究論文の作成：結果(その4)	演習・討論	本庄・田中
15	研究論文の作成：結果(その5)	演習・討論	本庄・田中
16	研究論文の作成：結果(その6)	演習・討論	本庄・田中
17	研究論文の作成：考察(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
18	研究論文の作成：考察(その2)	演習・討論	本庄・田中・河田
19	研究論文の作成：考察(その3)	演習・討論	本庄・田中
20	研究論文の作成：考察(その4)	演習・討論	本庄・田中
21	研究論文の作成：考察(その5)	演習・討論	本庄・田中
22	研究論文の作成：今後への示唆(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田

No	内容	形式	教員
23	研究論文の作成：今後への示唆(その2)	演習・討論	本庄・田中
24	研究論文の作成：結論(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
25	研究論文の作成：結論(その2)	演習・討論	本庄・田中
26	研究論文の作成：抄録(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
27	研究論文の作成：抄録(その2)	演習・討論	本庄・田中
28	研究論文全体の洗練(その1)	演習・討論	本庄・田中・河田
29	研究論文全体の洗練(その2)	演習・討論	本庄・田中
30	まとめ	演習・討論	本庄・田中・河田

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学特別研究Ⅰ・Ⅱを履修していること。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20% 2. プレゼンテーション 40% 3. レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

毎週月曜日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)河田(446 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HMAD285

慢性看護学実習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵

■ 授業の目的

慢性疾患看護専門看護師の活動を体験し、専門看護師としての役割・機能について(実践、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育、研究)を学ぶ。

■ 到達目標

1. 慢性疾患看護専門看護師の活動の場において、高度な専門的看護実践がどのように展開されているか理解を深める。
2. 慢性疾患看護専門看護師の活動の場において、慢性疾患看護専門看護師の役割について理解を深める。
3. 慢性疾患看護専門看護師の組織における活動とその方略について理解を深める。
4. 慢性疾患看護専門看護師として自律的に活動するうえでの自己の課題を明確にする。

■ 学習の進め方

1. 日々の実習での学びをフィールドノートに記載し、実習指導者および指導教員から適時、スーパー・ヴィジョンを受ける。記録の書式は、自身の課題や実習などに応じて学生自身が作成する。
2. 個別的なケアが展開できる看護実践能力に加え、専門看護師に求められるコンサルテーション、調整、教育、研究、倫理的調整などについて、慢性疾患看護専門看護師の実践活動に同行し、その役割と機能の実際を見学し、記述して考察する。
3. 大学院生、慢性疾患看護専門看護師、指導教員が参加する最終カンファレンスで実習での学びを発表し、ディスカッションを通してさらに学びを深める。
4. 実習で学んだ内容を課題レポートとしてまとめ、将来、慢性疾患看護専門看護師として自律的に活動するうえでの自己の課題を明確化する。

学習は、COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン学習も活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

慢性疾患看護専門看護師の実践活動に同行し、その役割と機能を学ぶ。

実習期間：7 月～9 月等で、必要な期間実施する。

実習場所：慢性疾患看護専門看護師が活躍する慢性病者を看護する病棟・外来・地域などの場から選択する。施設は、大森赤十字病院、聖マリアンナ医科大学病院、東急病院、東京歯科大学市川総合病院、日本大学医学部附属板橋病院、日本赤十字社医療センター、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター等から選択する。(詳細は実習要項を参照のこと)

担当教員：本庄・田中・河田

■ 教科書

適宜紹介する。

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックを実習後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学特講・慢性看護学演習での学びをいかす。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 20 %
2. 最終カンファレンス 40 %
3. 課題レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

学内実習日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室) 河田(446 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD186

慢性看護学実習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：4 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵

■ 授業の目的

慢性疾患看護領域のなかで、実習企画から実践、評価までを行い、創造的な企画実践能力を養う。

既習の知識や技術を統合して包括的アセスメントを行い、慢性疾患をもつ人や家族の力を高める看護実践を展開する。

ケアを向上させるためのコンサルテーション・調整・教育に関する能力を身につける。

■ 到達目標

1. 慢性疾患看護専門看護師のサブスペシャリティの領域で、包括的アセスメントを実施し、対象者と家族の状況に合わせて専門的な看護実践を行うための計画をたてる。
2. 慢性疾患を持つ人と家族の意思を尊重し、その人たちのセルフケア能力を生かし高める看護実践を展開する。
3. 慢性疾患看護の実践を通して、必要に応じて新たな看護方略の導入を提案する。
4. 慢性疾患看護に携わる看護師に対して、場の状況に応じて、コンサルテーション、調整、教育を展開する。
5. 慢性疾患をもつ人や家族に最良の医療・看護が提供されるよう、医療・保健・福祉などにかかわる多職種・諸機関との連携をはかる。
6. 専門看護師としての問題意識を深め、新たな看護方略を考案する。

■ 学習の進め方

関心のあるテーマ・フィールドを選択し、実習目標・方法等(包括的アセスメント枠組みを含む)を記載した実習計画書を提出する。審査の後、実習計画書に従い、実践の場での企画、実施、評価を行い、課題レポートを提出する。

実習の具体的な方法は、以下の通りである。

1. 日々の看護実践について、フィールドノートに記載し、実習指導者および指導教員から適時、スーパー・ヴィジョンを受ける。記録の書式は、課題に応じて学生自身が作成する。
2. 場になじみながら、依頼があれば、個人および組織のダイナミクスの観点から問題をアセスメントしつつコンサルテーションを実践する。
3. 慢性疾患をもつ人や家族に最良の医療・看護が提供されるよう、医療・保健・福祉などにかかわる多職種・諸機関との連携をはかり、サポート体制を検討する。
4. 慢性疾患看護専門看護師が行っている院内の教育活動の企画・運営などに加わりながら、その教育的機能について学ぶ。1～3を踏まえ、実習の場において、必要なスタッフへの教育的働きかけを実践する。
5. 大学院生、慢性疾患看護専門看護師、実習に関連する看護師や多職種、指導教員が参加する最終カンファレンスを企画し、実習での学びを発表する。ディスカッションを通して、学びを深める。
6. 実習で学んだことを記述・考察し、課題レポートとしてまとめ、実習全体を通して、専門看護師としての問題意識を深め、新たな看護方略の開発にむけた検討を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

慢性疾患をもつ人や家族に対する看護援助を行う。

実習期間：1月～3月等で、必要な期間実施する。

実習場所：慢性疾患看護専門看護師が活躍する慢性病者を看護する病棟・外来・地域などの場から選択する。施設は、大森赤十字病院、聖マリアンナ医科大学病院、東急病院、東京歯科大学市川総合病院、日本大学医学部附属板橋病院、日本赤十字社医療センター、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター等から選択する。(詳細は実習要項を参照のこと)

担当教員：本庄・田中・河田

■ 教科書

適宜紹介する。

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックを実習後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学特講・慢性看護学演習・慢性看護学実習Ⅰでの学びをいかす。

■ 成績評価の仕方

1. 実習計画書 20 %
2. 企画・実施・評価内容(実習への取り組み) 20 %
3. 最終カンファレンス 30 %
4. 課題レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

学内実習日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)河田(446 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD187

慢性看護学実習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：4 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵

■ 授業の目的

慢性疾患をもつ人の生活の質の重視の観点から求められる、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について、実践を通して学ぶ。病棟—外来—地域とのつながりを意識し、慢性疾患をもつ人の発症から死に至るまでの間の変化に応じて、キュアとケアを統合した看護支援が提供できる。

■ 到達目標

1. 慢性疾患をもつ人の生活の質の重視の観点から求められる、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について、実践を通して理解する。
2. 慢性疾患をもつ人や家族に最良の医療・看護が提供されるよう、医師や薬剤師などの多職種や諸機関との連携をはかる。
3. 1、2 を踏まえて、慢性疾患看護専門看護師のサブスペシャリティの領域で、病棟—外来—地域とのつながりを意識して、慢性疾患をもつ人の発症から死に至るまでの間の変化に応じて、キュアとケアを統合させた専門的な看護実践を行うための計画をたてる。
4. フィールドである都市型高齢社会の特徴を踏まえ、慢性疾患をもつ人のサポートネットワークの課題の明確化や、保健医療職者と住民がつながり合いながら慢性疾患をもつ人を支える仕組みを検討する。
5. 3、4 の実践を通して、必要に応じて専門看護師として新たな看護方略を考案することができる。

■ 学習の進め方

関心のあるテーマ・フィールドを選択し、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理および病棟—外来—地域とのつながりを意識して、発症から死に至るまでの間の変化に応じた専門的な実践能力を養う。

実習の具体的な方法は、以下の通りである。

1. 日々の看護実践について、フィールドノーツに記載し、実習指導者および指導教員から適時、スーパー・ヴィジョンを受ける。記録の書式は、課題に応じて学生自身が作成する。
2. 慢性疾患をもつ人と家族に最良の医療・看護が提供されるよう、医師や薬剤師との連携をとり、医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理について学ぶ。
3. 慢性疾患看護専門看護師が行う病棟—外来—地域の連携に関する活動に同行し、慢性疾患の病期に応じてキュアとケアを統合した専門的な看護実践について学ぶ。
4. 大学院生、慢性疾患看護専門看護師、実習に関連する多職種(医師、薬剤師、栄養士、ソーシャルワーカーなど)、指導教員が参加する最終カンファレンスで、実習報告を行う。基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理に関する、医師や薬剤師などの多職種との連携と専門看護師の役割について、ディスカッションを通して、学びを深める。
5. 実習で学んだことを記述・考察し、実習レポートとしてまとめ、実習全体を通して、専門看護師としての問題意識を深め、新たな看護方法の開発にむけた検討を行う。

学習は、COVID-19 の感染リスクなどをふまえて、Teams を用いた同時双方向型のオンライン学習も活用する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

多職種連携や地域連携を通して、慢性疾患をもつ人の発症から死に至るまでの間の変化に応じて、基本的な医学的評価・判断に基づく薬物療法や医療処置の管理を含めたキュアとケアを統合した看護支援を展開する。

実習期間：4 月～9 月等で、必要な期間実施する。

実習場所：慢性疾患看護専門看護師が活躍する慢性病者を看護する病棟・外来・地域が連携している場から選択する。施設は、大森赤十字病院、聖マリアンナ医科大学病院、東急病院、東京歯科大学市川総合病院、日本大学医学部附属板橋病院、日本赤十字社医療センター、横浜市立脳卒中・神経脊椎センター、東京女子医科大学病院等から選択する。(詳細は実習要項を参照のこと)

担当教員：本庄・田中・河田

■ 教科書

適宜紹介する。

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックを実習後に行う。

■ 他の授業科目との関連

慢性看護学特講・慢性看護学演習・慢性看護学実習Ⅰ・慢性看護学実習Ⅱでの学びをいかす。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 20 %
2. 最終カンファレンス 40 %
3. 課題レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

学内実習日の 12:20～12:50。本庄(442 研究室) 田中(449 研究室)河田(446 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な取り組みを期待する。

■ その他

HMAD286

老年看護学特講Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○坂口 千鶴

■ 授業の目的

老年期に関する看護学や他領域の理論をもとに老年期にある人を全体論的に捉えることができ、その人の価値観や信念を尊重した看護を実現するために必要な倫理的看護判断と専門看護師としての機能(教育、相談、研究、調整、倫理的調整等)や役割について学ぶ。

■ 到達目標

1. 老年期に関する他の学問領域の理論的知識をもとに、「老い(Aging)」を様々な視点から説明することができる。
2. 看護理論をもとに看護学における「老い(Aging)」について全体論的に捉えることができる。
3. 看護理論をもとに高齢者の健康について全体論的に説明することができる。
4. 高齢者の価値観や信念を尊重した看護を実現するために必要な倫理的看護判断について説明できる。
5. 専門看護師として教育、相談、研究、調整、倫理的調整等の機能や役割について説明できる。

■ 学習の進め方

AL

- ・ 講義スケジュールの前半では、各講義のテーマに関連した文献をもとに約 60 分の講義(パワーポイント等を用いた資料、事例、実践報告等)を行い、残りの 30 分間は学生自ら関わった高齢者の事例をもとに討論を行う。
- ・ 講義スケジュールの後半では、参加学生を中心に高齢者の看護における倫理的課題に関連したテーマを選び、そのテーマに関する研究論文の文献検討を行い、その具体的な看護援助(教育、相談、調整、倫理的調整等も含めた)について発表する。
- ・ 事前学習では、文献リストをもとに各授業内容に関連した文献を熟読し、質問や意見等を考えて授業に望む。
- ・ 事後学習では、課題に関する文献検討を行い、発表資料を作成し、レポートとしてまとめる

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	授業のオリエンテーション/老い(Aging)とは(生物学的視点も含め)	講義・討論	坂口
2	心理学における老い(Aging)	講義・討論	坂口
3	社会学における老い(Aging)	講義・討論	坂口
4	看護学における老い(Aging)(1)	講義・討論	坂口
5	看護学における老い(Aging)(2)	講義・討論	坂口
6	看護学的視点における老年期の健康とは(1)	講義・討論	坂口
7	看護学的視点における老年期の健康とは(2)	講義・討論	坂口
8	高齢者の価値観と信念を尊重した倫理的看護判断とは(1)	講義・討論	坂口
9	高齢者の価値観と信念を尊重した倫理的看護判断とは(2)	講義・討論	坂口
10	高齢者の看護に関する倫理的課題(参加学生のプレゼンテーション)(1)	発表・討論	坂口
11	高齢者の看護に関する倫理的課題(参加学生のプレゼンテーション)(2)	発表・討論	坂口
12	高齢者の看護に関する倫理的課題(参加学生のプレゼンテーション)(3)	発表・討論	坂口
13	高齢者ケアにおける専門看護師としての機能と役割(1)	講義・討論	坂口
14	高齢者ケアにおける専門看護師としての機能と役割(2)	講義・討論	坂口
15	まとめ	討論	坂口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションにて文献リストを提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは後期の特講Ⅳの第 1 回目の授業にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は理論を中心した内容で、特講Ⅱの基礎となる。特講Ⅱではさらに具体的なアセスメントの内容となる。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 10%：授業における積極的発言等の取り組む姿勢
2. プレゼンテーション 30%：高齢者の看護に関する倫理的課題について選択し、その課題に関する文献検討等を十分行った上で(文献

に必ず英文文献を 2 編以上入れること)、専門看護師としての方策について発表する。

3. レポート 60 % : 上記の発表テーマについて、発表後の質疑応答をもとに修正し、A4 用紙(40 × 40) 5 枚程度(文献リストは含めない)にまとめ、講義が終了した 1 週間後に提出する。

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日の 18:00-18:30 坂口(414 研究室)

■ その他

HMGE100

老年看護学特講Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○坂口 千鶴

■ 授業の目的

老年期に関する看護学や他の学問領域の理論をもとに、高齢者とその環境との関係を理解し、老いによる環境との関係の変化を身体的、心理的、社会的側面から包括的にアセスメントできる能力を養う。

■ 到達目標

1. 老年期に関する看護学や他の学問領域の理論的知識をもとに、高齢者と環境との関係について説明できる。
2. 高齢者の老いや疾患による環境との関係の変化について説明できる。
3. 環境との関係の変化が高齢者の健康に及ぼす影響について説明できる。
4. 高齢者が自らの健康を目指す上での障害について全体論的視点で説明できる。

■ 学習の進め方

AL

1. 第 1 回目から第 3 回目は、看護実践の中で高齢者と環境との関係をどのようにパターンとして捉えるのかを、老年期に関する看護学や他の学問領域の理論的知識をもとに説明を行う。
2. 第 4 回から第 12 回については、各テーマに関連した文献を用いて 60 分程度の講義(研究、事例、実践報告等をもとに作成した資料の提示)を行い、残り 30 分間は学生自ら関わった事例をもとに具体的なアセスメント内容に関する討論を行う。
3. 第 13 回から第 15 回については、参加学生を中心に自ら関わった事例についてアセスメントを行った結果としての全体像とその健康問題について発表を行う。

- ・事前学習では、提示した文献リストをもとに各授業に関連した文献を熟読し、質問や意見等を考えて授業に臨む。
- ・事後学習では、今までに関わった経験のある高齢者の事例に関する発表資料を作成し、レポートとしてまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	授業のオリエンテーション/高齢者と環境との関係とは	講義・討論	坂口
2	高齢者と環境との関係を表すパターンの概念とは	講義・討論	坂口
3	高齢者と環境との関係を表すパターンの変化とは	講義・討論	坂口
4	高齢者の呼吸—循環パターンの変化	講義・討論	坂口
5	高齢者の栄養—代謝パターンの変化	講義・討論	坂口
6	高齢者の排泄パターンの変化	講義・討論	坂口
7	高齢者の活動—運動パターンの変化	講義・討論	坂口
8	高齢者の睡眠—休息パターンの変化	講義・討論	坂口
9	高齢者のコミュニケーションパターンの変化	講義・討論	坂口
10	高齢者の自己知覚—自己概念パターンの変化	講義・討論	坂口
11	高齢者の役割—関係パターンの変化	講義・討論	坂口
12	高齢者のセクシャリティー—生殖パターンの変化	講義・討論	坂口
13	高齢者の事例を用いたアセスメントと全体像(学生のプレゼンテーション)(1)	発表・討論	坂口
14	高齢者の事例を用いたアセスメントと全体像(学生のプレゼンテーション)(2)	発表・討論	坂口
15	高齢者の事例を用いたアセスメントと全体像(学生のプレゼンテーション)(3)	発表・討論	坂口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションにて文献リストを配布する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、後期科目特講Ⅳの第 1 回目の授業にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

特講Ⅰの内容を踏まえて具体的なアセスメントについて学び、その後特講Ⅲの看護実践につながっていく内容となっている。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 10 %：授業における積極的発言等の取り組む姿勢

2. プレゼンテーション 30 % : 自ら関わった経験のある事例について、この授業で紹介したアセスメントの枠組みをもとに分析し(他のアセスメントの枠組みの選択も可能)、健康問題を抽出する。さらにアセスメントの枠組みと健康問題に関する文献検討を行って(文献に必ず英文文献を 2 編以上入れること)考察し、発表を行う。

3. レポート 60 % : 上記の発表テーマについて、発表後の質疑応答をもとに修正し、A4 用紙(40 × 40) 5 枚程度(文献リストは含めない)にまとめ、講義が終了した 1 週間後に提出する。

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日の 18:00~18:30 坂口(414 研究室)

■ その他

HMGE101

老年看護学特講Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○千葉 京子

■ 授業の目的

複雑な健康問題を抱える高齢者やその家族が、自らの価値観や信念に基づきより健康的で質の高い生活がおくれるよう、倫理的・臨床的に高度な看護判断にもとづいて看護援助を実施、評価できる能力を養う。

■ 到達目標

1. 複雑な健康問題を抱える高齢者の価値観・信念に基づいた意思決定について説明できる。
2. 高齢者をケアする家族の価値観・信念に基づいた意思決定に関心をもち説明できる。
3. 高齢者やその家族の意思決定をもとにより健康な生活がおくれるよう、倫理的・臨床的な看護判断について説明できる。
4. 高齢者やその家族に対して提供できる高度な看護判断にもとづいた看護援助について説明できる。
5. 高齢者やその家族に対する看護援助の評価について説明できる。

■ 学習の進め方

授業の展開：講義と討論を行う。

1. 各回の内容に関連した文献をもとに 60 分程度の講義(作成資料、事例、実践報告等)を行う。残りの 30 分間は討論の時間とする。
2. 受講生の経験および興味関心を尊重して高齢者の健康問題に関連した内容を選定する。受講生はその内容に関する文献検討を行い、具体的な看護援助(教育、相談、調整等も含めた)について発表する。
3. 事前学修はオリエンテーションで提示した文献と各授業内容に関連した文献をもとに実践事例を含めて簡潔な資料を作成する。事後学修は討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション/複雑な健康問題を抱える高齢者とその家族の価値・信念に基づいた意思決定とは	講義・討論	千葉
2	複雑な健康問題を抱える高齢者とその家族の価値・信念を尊重した倫理的・臨床的な看護判断とは	講義・討論	千葉
3	呼吸障害のある高齢者とその家族への看護援助と評価	講義・発表・討論	千葉
4	循環障害のある高齢者とその家族への看護援助と評価	講義・発表・討論	千葉
5	摂食・嚥下障害のある高齢者と家族への看護援助と評価	講義・発表・討論	千葉
6	排泄障害のある高齢者と家族への看護援助と評価	講義・発表・討論	千葉
7	運動障害のある高齢者とその家族への看護援助と評価	講義・発表・討論	千葉
8	睡眠障害のある高齢者とその家族への看護援助と評価	講義・発表・討論	千葉
9	知覚・認知機能障害のある高齢者と家族への看護援助と評価	講義・発表・討論	千葉
10	コミュニケーション障害のある高齢者と家族への看護援助と評価	講義・発表・討論	千葉
11	役割や関係性への障害のある高齢者とその家族への看護援助と評価	講義・発表・討論	千葉
12	複雑な健康問題を抱えた高齢者とその家族への看護(学生のプレゼンテーション)(1)	発表・討論	千葉
13	複雑な健康問題を抱えた高齢者とその家族への看護(学生のプレゼンテーション)(2)	発表・討論	千葉
14	複雑な健康問題を抱えた高齢者とその家族への看護(学生のプレゼンテーション)(3)	発表・討論	千葉
15	まとめ:複雑な健康問題を抱えた高齢者とその家族への看護と CNS としての活動	講義・討論	千葉

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションで文献リストを提示する。
毎回、作成した資料を配布する。

■ フィードバックの仕方

レポート提出後、2週間以内にコメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

1年次前期開講の「老年看護学特講Ⅰ」「老年看護学特講Ⅱ」で学習した内容に基づき、より発展的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 20%
2. プレゼンテーション：今まで関わってきた複雑な健康問題を抱える高齢者とその家族について、文献検討等(文献に必ず英文文献を2編以上入れること)を十分行った上で、その看護援助(指導、相談、調整等も含めて)と評価について発表 30%
3. レポート：上記の発表テーマについて、発表後の質疑応答をもとに修正し、A4用紙(40×40)5枚程度(文献リストは含めない)にまとめ、講義が終了した1週間後に提出 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の18:00~18:30、千葉(429 研究室)で質問を受け付ける。

■ その他

HMGE150

老年看護学特講Ⅳ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○坂口 千鶴

■ 授業の目的

国内外の高齢者医療保健福祉制度・政策をもとに、我が国の高齢者に対する政策・制度の現状と課題を明らかにし、高齢者やその家族がより健康的で質の高い生活をおくれるよう、サポートシステムにおける他職種との連携を通して、看護専門職者として課題に対する可能な対策を立案できる能力を養う。

■ 到達目標

1. 国内学の高齢者に関する諸医療保健福祉制度・政策等について説明できる。
2. 日本の高齢者医療保健福祉制度の在り様と課題について説明できる。
3. 高齢者とその家族を支えるサポートシステムについて理論を用いて説明できる。
4. サポートシステムにおける看護師の役割と他職種との連携の在り方を説明できる。
5. 高齢者への政策・制度における課題に対して、看護専門職としての具体的な対策を立案できる。

■ 学習の進め方

AL

- ・講義スケジュールの第 1 回から第 5 回、第 9 回から第 12 回は、各講義のテーマに関連した文献をもとに 60 分適度の講義(パワーポイント等を用いた資料、事例、実践報告等)を行い、残りの 30 分間は質疑応答の時間とする。
- ・講義スケジュールの第 6 回から第 8 回、第 13 回から第 15 回は、参加学生を中心に高齢者とその家族の健康問題に関連したテーマを選び、そのテーマに関する文献検討を行い、政策・制度上の課題とその対策(教育、相談、調整等も含めた)について発表する。
- ・事前学習では、提示した文献リストをもとに各授業内容に関連した文献を熟読し、質問や意見等を考えて授業に望む。
- ・事後学習では、テーマを選び関連する文献検討を十分行った上で発表資料を作成し、レポートとしてまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	授業のオリエンテーション/時代の変遷に伴う高齢者の制度・政策について	講義・討論	坂口
2	諸外国における高齢者医療保健福祉制度と政策の概観(1)	講義・討論	坂口
3	諸外国における高齢者医療保健福祉制度と政策の概観(2)	講義・討論	坂口
4	日本における高齢者医療保健福祉制度と政策の現状と課題の分析(1)	講義・討論	坂口
5	日本における高齢者医療保健福祉制度と政策の現状と課題の分析(2)	講義・討論	坂口
6	日本における高齢者とその家族への政策・制度における課題(学生のプレゼンテーション)(1)	発表・討論	坂口
7	日本における高齢者とその家族への政策・制度における課題(学生のプレゼンテーション)(2)	発表・討論	坂口
8	日本における高齢者とその家族への政策・制度における課題(学生のプレゼンテーション)(3)	発表・討論	坂口
9	高齢者とその家族を支えるサポートシステム(ソーシャル・サポート)の理論的背景(1)	講義・討論	坂口
10	高齢者とその家族を支えるサポートシステム(ソーシャル・サポート)の理論的背景(2)	講義・討論	坂口
11	サポートシステムにおける看護師の役割と他職種との連携(1)	講義・討論	坂口
12	サポートシステムにおける看護師の役割と他職種との連携(2)	講義・討論	坂口
13	高齢者及び家族のサポートシステムをもとにした課題への対策(学生の発表と質疑応答)(1)	発表・討論	坂口
14	高齢者及び家族のサポートシステムをもとにした課題への対策(学生の発表と質疑応答)(2)	発表・討論	坂口
15	高齢者及び家族のサポートシステムをもとにした課題への対策(学生の発表と質疑応答)(3)	発表・討論	坂口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションにて文献リストを提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、翌年度の特別研究Ⅱの第 1 回目にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

特講Ⅰ～Ⅲ、演習Ⅰ、実習Ⅰの学びを踏まえて高齢者に関する制度・政策における課題を検討し、実習Ⅱの実践につなげていく。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20 % : 授業における積極的発言等の取り組み姿勢

2. プレゼンテーション 30 % : 高齢者とその家族の健康問題について選択し、文献検討等を(文献に必ず英文文献を 2 編以上入れること)を十分行った上で、政策・制度上の課題と対策について(指導、相談、調整も含めて)発表を行う(30 分)
3. レポート 50 % : 上記の発表テーマについて、発表後の質疑応答をもとに修正し、A4 用紙(40 × 40) 5 枚程度(文献リストは含めない)にまとめ、講義が終了した 1 週間後に提出する。

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日の 18:00~18:30 坂口(414 研究室)

■ その他

HMGE151

老年看護学演習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○坂口 千鶴、千葉 京子

■ 授業の目的

認知症高齢者に関する看護学や他の学問領域の理論や概念をもとに、認知症高齢者とその環境との関係を理解し、認知症による環境との関係の変化を身体的、心理的、社会的側面から包括的にアセスメントできる能力を養う。また、認知症高齢者とその家族がより健康的で質の高い生活をおくれるよう、専門看護師としての機能や役割について学び、倫理的・臨床的に高度な看護判断に基づいた看護援助を実施できる能力を養う。

■ 到達目標

1. 認知症高齢者に関する看護学や他の学問領域の理論や概念をもとに、高齢者と環境との関係について説明できる。
2. 認知症や老いによる環境との関係の変化を身体的、心理的、社会的側面から包括的にアセスメントできる。
3. 認知症高齢者の価値観・信念に基づいた意思決定について理解し、高齢者の健康を目指す上での障害について全体論的視点で説明できる。
4. 認知症高齢者を支える家族の価値観・信念に基づいた意思決定について説明できる。
5. 認知症高齢者とその家族が彼らの意思決定を踏まえてより質の高い生活をおくれるよう、倫理的・臨床的看護判断に基づいた看護援助と専門看護師としての機能や役割について説明できる。

■ 学習の進め方

AL

・演習スケジュールの前半では、認知症高齢者に関する看護学や他の学問領域の理論とその主要な概念について国内外の文献検討を行う。次に、認知症高齢者とその環境との関係を表すパターンの変化とそのアセスメントに関する文献検討を通して、認知症高齢者が日常生活で直面する課題を明確化し、その看護援助について考える。さらに、具体的な認知症高齢者の事例を用いてアセスメントを行い、健康上の課題を導き出し、実際にケアプランを立案する。

・演習スケジュールの後半では、認知症高齢者を支える家族に対して専門的看護の理論や概念に関する文献検討を通してアセスメントし、認知症高齢者を支える家族が抱えている課題を明らかにし、その看護援助について検討する。さらに、その看護援助を実施する際の専門看護師としての機能や役割についても検討する。

・事前学習では、提示した文献リストをもとに各授業内容に関連した文献を熟読し、質問や意見等を考えて授業に望む。

・事後学習では、今まで関わった経験の認知症の高齢者に関する事例について、十分文献検討を行った上でレポートにまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	演習のオリエンテーション/認知症高齢者に関する他の学問領域の理論と概念	講義・討論	坂口
2	認知症高齢者に関する看護学における理論と概念(1)	講義・討論	坂口
3	認知症高齢者に関する看護学における理論と概念(2)	講義・討論	坂口
4	認知症高齢者と環境との関係を表すパターン・アセスメント(1)	講義・討論	坂口
5	認知症高齢者と環境との関係を表すパターン・アセスメント(2)	講義・討論	坂口
6	認知症高齢者の呼吸—循環パターンの変化	演習	坂口・千葉
7	認知症高齢者の栄養と代謝パターンの変化	演習	坂口・千葉
8	認知症高齢者の排泄パターンの変化	演習	坂口・千葉
9	認知症高齢者の活動—運動パターンの変化	演習	坂口・千葉
10	認知症高齢者の睡眠—休息パターンの変化	演習	坂口・千葉
11	認知症高齢者の知覚—認知パターンの変化	演習	坂口・千葉
12	認知症高齢者のコミュニケーション・パターンの変化	演習	坂口・千葉
13	認知症高齢者の自己知覚—関係パターンの変化	演習	坂口・千葉
14	認知症高齢者のセクシャリティと生殖パターンの変化	演習	坂口・千葉
15	認知症高齢者の事例を用いたアセスメントと全体像(1)	発表・討論	坂口・千葉
16	認知症高齢者の事例を用いたアセスメントと全体像(2)	発表・討論	坂口・千葉
17	認知症高齢者への看護における倫理的課題とその対応(1)	演習	坂口
18	認知症高齢者への看護における倫理的課題とその対応(2)	演習	坂口
19	認知症高齢者の事例を用いたケアプラン(1)	発表・討論	坂口・千葉
20	認知症高齢者の事例を用いたケアプラン(2)	発表・討論	坂口・千葉

No	内容	形式	教員
21	認知症高齢者を支える家族の理論に基づいたアセスメント(1)	講義・討論	坂口・千葉
22	認知症高齢者を支える家族の理論に基づいたアセスメント(2)	講義・討論	坂口・千葉
23	認知症高齢者を支える家族が直面する課題と支援(1)	演習	坂口・千葉
24	認知症高齢者を支える家族が直面する課題と支援(2)	演習	坂口・千葉
25	急性期ケアが必要な認知症高齢者とその家族への支援	演習	坂口
26	慢性期ケアが必要な認知症高齢者とその家族への支援	演習	坂口
27	終末期ケアが必要な認知症高齢者とその家族への支援	演習	坂口
28	医療保健福祉システムにおける認知症高齢者とその家族(1)	演習	坂口
29	医療保健福祉システムにおける認知症高齢者とその家族(2)	演習	坂口
30	専門看護師としての機能と役割について	演習	坂口

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーション時に文献リストを提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、後期科目演習Ⅱの第1回目の授業にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

特講Ⅰ、Ⅱにおける理論とアセスメントの枠組みを踏まえて認知症高齢者への看護を考え、実習Ⅰの中で具体的な実践を行うための内容となっている。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20%：授業における積極的発言等の取り組む姿勢
2. 文献検討と事例検討の発表内容：30%
3. レポート 50%：今までに関わった認知症高齢者とその家族の具体的な事例を挙げ、高齢者とその環境との関係を表すパターンの変化をアセスメントし、その看護援助と看護援助を実施する際の専門看護師としての機能と役割について、A4用紙(40×40)5枚程度(文献リストは含めない)にまとめ、授業が終了した1週間後に提出する。

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日 18:00～18:30 坂口(414 研究室)・千葉(429 研究室)

■ その他

HMGE102

老年看護学演習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○坂口 千鶴、千葉 京子

■ 授業の目的

老年期に生じやすい疾患の慢性期にある高齢者に関する看護学や他の学問領域の理論や概念をもとに、慢性期にある高齢者とその環境との関係を理解し、慢性疾患による環境との関係の変化を身体的、心理的、社会的側面から包括的にアセスメントできる能力を養う。また、慢性期にある高齢者とその家族がより健康的で質の高い生活をおくれるよう、専門看護師としての機能や役割について学び、倫理的・臨床的に高度な看護判断に基づいた看護援助を実施できる能力を養う。

■ 到達目標

1. 老年期に生じやすい疾患の慢性期にある高齢者に関する看護学や他の学問領域の理論や概念をもとに、高齢者と環境との関係について説明できる。
2. 慢性疾患や老いによる環境との関係の変化を身体的、心理的、社会的側面から包括的にアセスメントできる。
3. 慢性期にある高齢者の価値観・信念に基づいた意思決定について理解し、健康を目指す上での障害について全体論的視点で説明できる。
4. 慢性期にある高齢者を支える家族の価値観・信念に基づいた意思決定について説明できる。
5. 慢性期にある高齢者とその家族が彼らの意思決定を踏まえてより健康的で質の高い生活がおくれるよう、倫理的・臨床的看護判断に基づいた看護援助と専門看護師としての機能や役割について説明できる。

■ 学習の進め方

AL

・演習スケジュールの前半では、慢性期にある高齢者に関する看護学や他の学問領域の理論とその主要な概念について国内外の文献検討を行う。次に、慢性期にある高齢者とその環境との関係を表すパターンの変化とそのアセスメントに関する文献検討を通して、高齢者が日常生活で直面する課題を明確化し、その看護援助について検討する。さらに、具体的な慢性期にある高齢者の事例を用いてアセスメントを行い、課題を導きだし、実際にケアプランを立案する。

・演習スケジュールの後半では、慢性期にある高齢者を支える家族に対して専門的看護の理論や概念に関する文献検討を通してアセスメントし、慢性期にある高齢者を支える家族が抱えている課題を明らかにし、高齢者の医療保健福祉システムを踏まえて看護援助を実施する際の専門看護師としての機能や役割について検討する。

・事前学習では、提示した文献リストをもとに各授業に関連した文献を熟読し、質問や意見を考えて授業に臨む。

・事後学習では、今までに関わった慢性期にある高齢者の事例について、文献検討を十分行った上でレポートとしてまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	演習のオリエンテーション/慢性期にある高齢者に関する他の学問領域の理論と概念	講義・討論	坂口
2	慢性期にある高齢者に関する看護学における理論と概念(1)	講義・討論	坂口
3	慢性期にある高齢者に関する看護学における理論と概念(2)	講義・討論	坂口
4	慢性期にある高齢者と環境との関係を表すパターン・アセスメント(1)	講義・討論	坂口
5	慢性期にある高齢者と環境との関係を表すパターン・アセスメント(2)	講義・討論	坂口
6	慢性期にある高齢者の呼吸—循環パターンの変化	演習	坂口・千葉
7	慢性期にある高齢者の栄養と代謝パターンの変化	演習	坂口・千葉
8	慢性期にある高齢者の排泄パターンの変化	演習	坂口・千葉
9	慢性期にある高齢者の活動—運動パターンの変化	演習	坂口・千葉
10	慢性期にある高齢者の睡眠—休息パターンの変化	演習	坂口・千葉
11	慢性期にある高齢者の知覚—認知パターンの変化	演習	坂口・千葉
12	慢性期にある高齢者のコミュニケーション・パターンの変化	演習	坂口・千葉
13	慢性期にある高齢者の自己知覚—関係パターンの変化	演習	坂口・千葉
14	慢性期にある高齢者のセクシャリティと生殖パターンの変化	演習	坂口・千葉
15	慢性期にある高齢者の事例を用いたアセスメントと全体像(1)	発表・討論	坂口・千葉
16	慢性期にある高齢者の事例を用いたアセスメントと全体像(2)	発表・討論	坂口・千葉
17	慢性期にある高齢者への看護における倫理的課題とその対応(1)	講義・討論	坂口
18	慢性期にある高齢者への看護における倫理的課題とその対応(2)	演習	坂口
19	慢性期にある高齢者の事例を用いたケアプラン(1)	演習	坂口・千葉

No	内容	形式	教員
20	慢性期にある高齢者の事例を用いたケアプラン(2)	演習	坂口・千葉
21	慢性期にある高齢者を支える家族に関する理論と概念(1)	講義・討論	坂口
22	慢性期にある高齢者を支える家族に関する理論と概念(2)	演習	坂口
23	慢性期にある高齢者を支える家族のアセスメント(1)	演習	坂口・千葉
24	慢性期にある高齢者を支える家族のアセスメント(2)	演習	坂口・千葉
25	慢性期にある高齢者を支える家族が直面する課題(1)	演習	坂口・千葉
26	慢性期にある高齢者を支える家族が直面する課題(2)	演習	坂口・千葉
27	医療保健福祉システムにおける慢性期にある高齢者とその家族への支援(1)	演習	坂口
28	医療保健福祉システムにおける慢性期にある高齢者とその家族への支援(2)	演習	坂口
29	慢性期にある高齢者とその家族への看護における専門看護師としての機能と役割について(1)	演習	坂口
30	慢性期にある高齢者とその家族への看護における専門看護師としての機能と役割について(2)	演習	坂口

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションにて文献リストを提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、翌年全前期科目特別研究Ⅱの第1回目の授業にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

特講Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの内容を踏まえて、慢性期にある高齢者の看護について学び、実習Ⅱでより実践的な学習を行う。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20%：授業における積極的発言等の取り組み姿勢
2. 文献検討と事例検討の発表内容 30%
3. レポート 50%：今までに関わった慢性期にある高齢者とその家族の具体的な事例を挙げ、高齢者とその環境との関係を表すパターンの変化をアセスメントし、その看護援助と看護援助を実施する際の専門看護師としての機能と役割について、A4用紙(40×40)5枚程度(文献リストは含めない)にまとめ、授業が終了した1週間後に提出する。

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日の 18:00～18:30 坂口(414 研究室)・千葉(429 研究室)

■ その他

HMGE152

老年看護学演習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○坂口 千鶴、千葉 京子、岡部 慎吾、小野 啓資、小杉 雅英、五関 善成、山元 智穂、和田 奈美子

■ 授業の目的

老年期に発生頻度の高い疾患や症候群とその検査・治療(薬物療法も含む)について理解するとともに、検査、治療(薬物療法も含む)の高齢者への影響を査定できる高度な看護判断能力を養う。

■ 到達目標

1. 老年期に発生頻度の高い疾患や症候群について説明できる。
2. 老年期に発生頻度の高い疾患や症候群に関する検査・治療(薬物療法も含む)について説明できる。
3. 疾患や症候群に関する検査・治療(薬物療法も含む)の高齢者への影響についてアセスメントできる。
4. 検査・治療(薬物療法も含む)を受ける高齢者への看護援助を実施できる。

■ 学習の進め方

AL

- ・前期の演習では、老年期に発生頻度の高い疾患や症候群に関する文献(研究論文も含む)を通して、その検査・治療(薬物療法も含む)について理解するとともに、検査・治療の高齢者への影響とその看護についての課題を明確にし、各項目についての演習計画書を作成する。
- ・後期の演習では、様々な医療現場での臨床講義を通して、高齢者が抱える疾患や症候群とその検査、治療(薬物療法も含む)について理解し、それらの検査や治療(薬物療法も含む)が高齢者にとってどのような影響を及ぼすのかをアセスメントし、その看護援助について検討する。その際、医師や老人看護専門看護師よりアドバイスを頂き、さらに検討を深めていく。
- ・事前学習では、提示した文献リストをもとに各授業内容に関連した文献を熟読し、質問や意見等を考えて授業に望む。
- ・事後学習では、演習において発表資料の作成と、臨床講義で学んだ内容をレポートにまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	授業のオリエンテーション/老年期に発生頻度の高い疾患・症候群の概要	演習	坂口・千葉
2	老年期における呼吸器疾患の特徴と課題	演習	坂口・千葉
3	呼吸器疾患に関する検査・治療の高齢者への影響と看護	演習	坂口・千葉
4	老年期における循環器疾患の特徴と課題	演習	坂口・千葉
5	循環器疾患に関する検査・治療の高齢者への影響と看護	演習	坂口・千葉
6	老年期における運動器系疾患の特徴と課題	演習	坂口・千葉
7	運動器系疾患に関する検査・治療の高齢者への影響と看護	演習	坂口・千葉
8	老年期における消化器系疾患の特徴と課題	演習	坂口・千葉
9	消化器系疾患に関する検査・治療の高齢者への影響と看護	演習	坂口・千葉
10	老年期における運動器疾患の特徴と課題	演習	坂口・千葉
11	運動器疾患に関する検査・治療の高齢者への影響と看護	演習	坂口・千葉
12	老年期における脳神経疾患の特徴と課題	演習	坂口・千葉
13	脳神経疾患に関する検査・治療の高齢者への影響と看護	演習	坂口・千葉
14	各フィールドでの演習における計画書の作成(1)	演習	坂口・千葉
15	各フィールドでの演習における計画書の作成(2)	演習	坂口・千葉
16	老年期における呼吸器疾患とその検査・治療(1)	臨床での演習	小野
17	老年期における呼吸器疾患とその検査・治療(2)	臨床での演習	小野
18	老年期における呼吸器疾患の検査・治療とその看護(学内)	演習	坂口・千葉
19	老年期における循環器疾患とその検査・治療(1)	臨床での演習	平井
20	老年期における循環器疾患とその検査・治療(2)	臨床での演習	平井
21	老年期における循環器疾患の検査・治療とその看護(学内)	演習	坂口・千葉
22	老年期における運動器系疾患の検査・治療	臨床での演習	小杉
23	老年期における消化器系疾患の検査・治療	臨床での演習	山元
24	老年期における運動器系・消化器系疾患の検査・治療とその看護(学内)	演習	坂口・千葉
25	老年期における脳神経疾患(脳血管障害)の検査・治療(1)	演習	岡部
26	老年期における脳神経疾患(パーキンソン病)の検査・治療(2)	演習	岡部

No	内容	形式	教員
27	老年期における脳神経疾患の検査・治療とその看護(学内)	演習	坂口・千葉
28	老年期における脳神経疾患(認知症)とその検査・治療	臨床での演習	和田
29	老年期における脳神経疾患による運動機能障害とその検査・治療	臨床での演習	和田
30	老年期における脳神経疾患とその看護(学内でのまとめ)	演習	坂口・千葉

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションにて文献リストを提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、翌年前期科目特別研究Ⅱの第1回目の授業にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

病態生理学、フィジカルアセスメント、臨床薬理学を踏まえて関連づけながらこの科目の内容を学ぶ。この内容はさらに実習Ⅰ、Ⅱに継続して引き継がれていく。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 10%：授業における積極的発言等の取り組む姿勢
2. 演習計画書 30%：文献検討の内容をもとに、老年期に多く発生する疾患あるいは症候群に関する各課題を選び、後期の演習に関する計画書を作成する。
3. レポート 60%：自らの看護実践と文献検討を通して、さらに臨床講義で得た疾患や症候群とその検査・治療(薬物療法)に関する知識をもとに、高齢者に必要な看護について A4 用紙(40 × 40) 5 枚 × 4 領域=20 枚程度(文献リストは別にして)にまとめ、授業が終了した 2 週間後に提出する。

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日の 18:00~18:30 坂口(414 研究室)・千葉(429 研究室)

■ その他

HMGE180

老年看護学特別研究Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○坂口 千鶴、千葉 京子

■ 授業の目的

老年看護学領域で関心のあるテーマに沿って文献レビューを行い、研究計画書作成を念頭にデータ収集方法やデータ分析方法について学ぶ。

■ 到達目標

1. 関心のあるテーマに関連する研究文献をデータベースを用いて検索することができる。
2. 検索した研究論文のクリティークを行うことができる。
3. 関心のあるテーマに関する文献レビューをまとめることができる。
4. 文献検討をもとに、研究目的、研究方法について検討し、研究計画書を完成できる。

■ 学習の進め方

AL

・授業スケジュールの前半は、文献検索、文献クリティーク、文献レビューの方法に関する説明を行い、その後学生が主体的に実施しながら進めていく。授業スケジュールの後半では、研究計画書の作成に関する説明を行い、その後学生が主体的に計画書完成に向けて進めていく。

- ・事前学習では、事前に自らが関心のあるテーマに関する研究文献、また研究方法に関する文献等も必ず読んでおく。
- ・事後学習では、提出資料について指摘を受けた点を修正し、必要な文献についても確認しておく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション / 研究の動機について	演習	坂口・千葉
2	研究の疑問と文献検索	演習	坂口・千葉
3	研究の疑問と文献検索	演習	坂口・千葉
4	老年看護に関する質的研究文献のクリティーク	演習	坂口・千葉
5	老年看護に関する質的研究文献のクリティーク	演習	坂口・千葉
6	老年看護に関する量的研究文献のクリティーク	演習	坂口・千葉
7	老年看護に関する量的研究文献のクリティーク	演習	坂口・千葉
8	文献検討をもとに研究テーマと目的の検討	演習	坂口・千葉
9	文献検討をもとに研究テーマと目的の検討	演習	坂口・千葉
10	研究におけるデータ収集方法の検討	演習	坂口・千葉
11	研究におけるデータ収集方法の検討	演習	坂口・千葉
12	研究におけるデータ分析方法の検討	演習	坂口
13	研究におけるデータ分析方法の検討	演習	坂口
14	予備調査用の研究計画書の作成	演習	坂口・千葉
15	予備調査用の研究計画書の作成	演習	坂口・千葉
16	研究計画書における倫理的配慮	演習	坂口
17	研究計画書における倫理的配慮	演習	坂口・千葉
18	計画書に添付する資料作成	演習	坂口・千葉
19	計画書に添付する資料作成	演習	坂口・千葉
20	予備調査 研究計画書の倫理審査への提出	演習	坂口
21	予備調査 研究計画書の倫理審査への提出	演習	坂口
22	文献検討の再検討	演習	坂口
23	文献検討の再検討	演習	坂口・千葉
24	研究計画書の倫理審査再提出	演習	坂口・千葉
25	研究計画書の倫理審査再提出	演習	坂口
26	予備調査によるデータ分析 (1)	演習	坂口
27	予備調査によるデータ分析 (2)	演習	坂口・千葉

No	内容	形式	教員
28	予備調査によるデータ分析 (3)	演習	坂口・千葉
29	本研究計画書の作成	演習	坂口・千葉
30	本研究計画書の倫理審査の提出準備	演習	坂口・千葉

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションの際に提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、本科目の授業最終時に、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

研究方法論と同時進行で学んでいき、特別研究Ⅱで本研究に向けてフィールドワークを行っていく。

■ 成績評価の仕方

授業への参加度 20 % プレゼンテーション 20 % 研究計画書作成 60 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日の 18:00～18:30 坂口(414 研究室)・千葉(429 研究室)

■ その他

HMGE181

老年看護学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○坂口 千鶴、千葉 京子

■ 授業の目的

自ら立案した研究計画書に沿って、募った参加者からデータを収集し、収集したデータを分析できる能力を養う。

■ 到達目標

1. 研究計画書に沿ってデータを収集することができる。
2. 収集したデータを研究計画書に沿って分析することができる。
3. 得られた結果をもとに研究テーマや研究目的を再検討することができる。
4. 研究のテーマに関する文献検討を再度行い論文としてまとめることができる。

■ 学習の進め方

AL

・授業スケジュールの前半では、研究計画書をもとにデータを収集し、その内容を詳細に検討し、選択した分析方法を用いてデータの分析を行う。授業スケジュールの後半では、分析結果を踏まえて、必要であれば文献検討を再度行い、本研究としてのテーマ、研究目的を再検討する。

・事前学習では、得られたデータを丁寧に何度も読み込み、研究計画書に沿って分析を主体的に進めていく。また、自らの研究テーマに関する研究文献、また研究方法に関する文献を熟読しておく。

・事後学習では、指摘された内容を修正し、必要な文献で確認しておく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション / 研究の実施について	演習	坂口・千葉
2	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
3	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
4	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
5	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
6	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
7	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
8	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
9	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
10	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
11	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
12	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
13	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
14	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
15	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
16	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
17	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
18	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
19	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉

No	内容	形式	教員
20	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
21	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
22	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
23	フィールドにてデータ収集	フィールドワーク	坂口・千葉
24	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
25	得られたデータの分析	発表・討論	坂口・千葉
26	分析結果の記述	発表・討論	坂口・千葉
27	分析結果の記述	発表・討論	坂口・千葉
28	分析結果の記述	発表・討論	坂口・千葉
29	文献検討から倫理的配慮までの論文完成	演習	坂口・千葉
30	文献検討から倫理的配慮までの論文の完成	演習	坂口・千葉

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーション時に提示する

■ フィードバックの仕方

レポート等のフィードバックは、本科目の最終授業時にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

老年看護学特別研究Ⅰで作成した研究計画書に沿ってデータを収集、分析する。その分析結果をもとに特別研究Ⅲで修士論文を作成する。

■ 成績評価の仕方

授業への参加度 10 % プレゼンテーションの内容 40 % 文献検討から研究方法までの論文の作成 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日 18:00～18:30 坂口(414 研究室)・千葉(429 研究室)

■ その他

HMGE280

老年看護学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○坂口 千鶴、千葉 京子

■ 授業の目的

自ら立案した研究計画書に即してデータ収集と分析を行う中で、自己の研究課題を探究し、論文として完成させる。

■ 到達目標

1. 自ら立案した研究計画書をもとにデータを収集できる。
2. 研究計画書をもとに得られたデータを分析できる。
3. 研究目的にそって分析した結果を論文として記述できる。
4. 分析した結果について文献検討をもとに考察でき、その内容を論文として記述できる。
5. 最終的に修士論文として完成できる。

■ 学習の進め方

AL

- ・ 授業スケジュールの前半では、各自の研究計画書に即してデータ収集と分析を行いながら、その内容の妥当性を検討していく。授業スケジュールの後半では、分析結果を論文として記述し、その結果を踏まえて考察を行い、修士論文として完成させる。
- ・ 事前学習では、データの分析結果を文章として記述しながら、主体的に学習を進めていく。また、考察に活かすために自らの研究テーマに関する研究文献等を熟読する。
- ・ 事後学習では、指摘された内容を修正し、関連する文献等で確認する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション / 分析結果の最終検討	演習	坂口
2	データの分析結果の記述 第1ドラフト作成	発表・討論	坂口
3	データの分析結果の記述 第1ドラフト修正	発表・討論	坂口・千葉
4	データの分析結果の記述 第1ドラフト再修正	発表・討論	坂口・千葉
5	データの分析結果 第2ドラフト作成	発表・討論	坂口・千葉
6	データの分析結果 第2ドラフト修正	発表・討論	坂口・千葉
7	データの分析結果 第2ドラフト再修正	発表・討論	坂口・千葉
8	データの分析結果の記述 完成	発表・討論	坂口・千葉
9	分析結果をもとに考察の記述 第1ドラフト作成	発表・討論	坂口
10	分析結果をもとに考察の記述 第1ドラフト修正	発表・討論	坂口
11	分析結果をもとに考察の記述 第1度ドラフト再修正	発表・討論	坂口
12	分析結果をもとに考察の記述 第2ドラフト作成	発表・討論	坂口
13	分析結果をもとに考察の記述 第2ドラフト修正	発表・討論	坂口
14	分析結果をもとに考察の記述 第2ドラフト再修正	発表・討論	坂口
15	分析結果をもとに考察の記述 考察完成	発表・討論	坂口・千葉
16	抄録の作成	発表・討論	坂口・千葉
17	抄録の完成	発表・討論	坂口・千葉
18	形式的条件の確認	発表・討論	坂口・千葉
19	形式的条件の確認	発表・討論	坂口
20	修士論文の提出準備	発表・討論	坂口
21	修士論文の提出準備	発表・討論	坂口
22	修士論文：序論から研究方法の修正	発表・討論	坂口
23	修士論文：序論から研究方法の修正	発表・討論	坂口・千葉
24	修士論文：結果の修正	発表・討論	坂口・千葉
25	修士論文：結果の修正	発表・討論	坂口・千葉
26	修士論文：結果の修正	発表・討論	坂口・千葉
27	修士論文：考察の修正	発表・討論	坂口・千葉

No	内容	形式	教員
28	修士論文：考察の修正	発表・討論	坂口・千葉
29	修正論文：形式的条件の確認	発表・討論	坂口・千葉
30	修正論文の完成	発表・討論	坂口・千葉

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションの際に提示する

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、本科目の最終授業時にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

研究方法論、看護理論等を参考に、特別研究Ⅰ、Ⅱの内容をもとに発展的に研究を実施し、論文として記述する科目である。

■ 成績評価の仕方

授業への参加度 10 %、プレゼンテーションの内容 40 %、修士論文 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日 18:00～18:30 坂口(414 研究室)・千葉(429 研究室)

■ その他

HMGE281

老年看護学実習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：5 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○坂口 千鶴、千葉 京子

■ 授業の目的

認知症高齢者とその家族に関する健康問題について、疾患やその検査、治療(薬物療法も含めて)の影響を考慮に入れた看護活動計画を立案、実施できる能力を養うとともに、専門看護師としての教育、相談、研究、調整(倫理的調整も含む)等の機能や役割についても学ぶ。

■ 到達目標

1. 自らの課題に関連した認知症高齢者を対象に、看護の理論的枠組みを用いて、身体的、精神的、社会的機能のアセスメント、および検査、治療、薬物の影響を査定することによって健康問題を明らかにできる。
2. 明らかとなった健康問題をもとに、倫理的視点も踏まえながら、認知症高齢者がそれぞれの価値観・信念に基づいて充実した生活がおくれるよう看護援助を実践できる。
3. 家族看護に関する理論的枠組みをもとに、認知症高齢者とその家族が直面する問題を明らかにし、家族全体のニーズに応じた看護援助が実践できる。
4. 認知症高齢者とその家族に対して、研究成果の活用を通して質の高い生活がおくれるよう、他職種との連携をもとにしたサポートシステムの活用と調整(倫理的調整も含め)に参加することで、専門看護師としての役割と機能について学ぶ。
5. 認知症高齢者とその家族への看護に関する看護職者等からの相談に対して、専門看護師としての計画立案、実施、評価に参加することで、その役割と機能について学ぶ。
6. 認知症高齢者とその家族、そしてかかわる看護師に対して、専門看護師としての教育活動の企画、運営、評価に参加することで、その役割と機能について学ぶ。
7. 実習を通して、認知症高齢者とその家族がおかれている現状について深く理解し、自らの看護実践を振り返る中で明らかとなった課題について研究的視点に立って探求していくことができる。

■ 学習の進め方

1. 実習計画書の作成：認知症高齢者に関する課題に沿って実習場所を選定し、実習計画を立案する。
2. 認知症高齢者とその家族への看護において、スタッフが看護援助に困難を感じている 3 事例を受け持ち、病態生理、検査・治療も含めた情報のアセスメントをもとに看護計画を立案する。その際、担当医の診察、回診にも参加し、担当医からのアドバイスを受ける。
3. 受け持った高齢者や家族が直面する問題に対して、専門看護師とともに教育活動や相談、他職種も含めた連携や調整、倫理調整等に関わり、研究成果の活用を通しての看護実践に参加する。
4. 面接評価：実習中の中間時期で実習の振り返りを行い、実習終了時に実習目標の達成度を判定し、今後の課題を明らかにする。実習中は実習指導者と担当教員によって適宜スーパービジョンを受ける。
 - ・事前学習では、自らの臨床経験に基づいて認知症高齢者その家族に関する課題について文献検討を行い、今までの講義や演習で学んだ内容を踏まえて実習に臨む。
 - ・事後学習では、実習で担当した 3 事例について発表資料を作成し、レポートとしてまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習期間：1 年次の前期授業が終了する 7 月下旬から 8 月、9 月から後期授業が始まる 10 月上旬、または 2 月から 3 月上旬を中心に約 6 週間とする。

実習場所：病院、訪問看護ステーション

実習時間：原則として 8:30~17:00 (実習施設の勤務時間帯に合わせて調整する)

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

なし

■ 他の授業科目との関連

特講Ⅰ、Ⅱ、演習Ⅰをもとに看護実践について学び、実習Ⅱでは専門看護師として機能や役割も含めて実践していく。

■ 成績評価の仕方

1. 実習計画書の立案 20 %
2. 実習の取り組み(態度・姿勢、担当患者との関わり、スタッフへのプレゼンテーションとコンサルテーション、記録内容等を含めた総合的評価 50 %
3. 報告書 3 事例 30 %：自らの課題に沿って文献検討を行った上で、各 3 事例への看護実践について、A4 用紙(40 × 40) 5 枚程度(文献リストは含めない)にまとめる。

■ オフィスアワー・研究室等

毎週 1 回帰校する木曜日の 12:30~13:00 坂口(414 研究室)・千葉(429 研究室)

■ その他
HMGE182

老年看護学実習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：5 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：通年

○坂口 千鶴、千葉 京子

■ 授業の目的

老年期に生じやすい疾患の慢性期にある高齢者やその家族に関する健康問題について、疾患やその検査、治療(薬物療法も含む)の影響を考慮に入れて研究成果も活用した看護活動計画を立案、実施でき、さらに専門看護師として教育、相談、調整(倫理調整も含む)等を実施できる能力を養う。

■ 到達目標

1. 自らの課題に関連した何らかの疾患の慢性期にある高齢者を対象に、看護の理論的枠組みを用いて身体的、精神的、社会的機能のアセスメントおよび検査、治療、薬物の影響を査定することによって健康問題を明らかにできる。
2. 明らかとなった健康問題をもとに、倫理的視点も踏まえながら、慢性期にある高齢者がそれぞれの価値観・信念に基づいて充実した生活がおくれるよう看護援助を実践できる。
3. 家族看護に関する理論的枠組みをもとに、慢性期にある高齢者とその家族が直面する問題を明らかにし、家族全体のニーズに応じた看護援助を実践できる。
4. 慢性期にある高齢者とその家族に対して、研究成果の活用を通して質の高い生活がおくれよう、他職種との連携をもとにしたサポートシステムの活用と調整(倫理的調整も含め)を実施できる。
5. 慢性期にある高齢者とその家族への看護に関する看護職者等からの相談に対して、専門看護師としての計画立案、実施、評価ができる。
6. 慢性期にある高齢者とその家族、関わる看護師や他職種に対して、専門看護師としての教育活動の企画、運営、評価ができる。
7. 実習を通して、慢性期にある高齢者とその家族がおかれている現状について深く理解し、また、自らの看護実践を振り返る中で明らかとなった課題について研究的視点に立って探求することができる。

■ 学習の進め方

1. 実習計画書の作成：何らかの疾患の慢性期にある高齢者に関する自らの課題に沿って実習場所を選定し、実習計画を立案する。
2. 看護実践：何らかの疾患の慢性期にある高齢者とその家族への看護において、スタッフが看護援助に困難を感じている 3 事例を受け持ち、病態生理、検査・治療も含め情報のアセスメントをもとに看護計画を立案する。その際、担当 医の診察、回診にも参加し、担当医からのアドバイスを受ける。さらに、看護援助については、十分に行った文献検討 討をもとに研究成果を活かした内容を検討する。
3. 慢性期にある高齢者とその家族への看護に関する看護職者等からの相談、患者やその家族、関わる看護師や他職種への教育活動、他職種との連携や調整、倫理調整等を実施する。
4. 面接評価：実習中の中間時期で実習の振り返りを行い、実習終了時に実習目標の達成度を判定し、今後の課題を明らかにする。実習中は実習指導者と担当教員によって適宜スーパービジョンを受ける。
 - ・事前学習では、自らの臨床経験に基づいて慢性期における高齢者とその家族に関する課題について文献検討を行い、今までの講義や演習で学んだ内容を踏まえて実習に臨む。
 - ・事後学習では、実習で担当した 3 事例に関する発表資料を作成して、レポートにまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習期間：1 年次の 2 月～3 月及び 2 年次の 6 月から 7 月を中心にした約 6 週間

実習場所：病院・訪問看護ステーション

実習時間：原則として 8:30～17:00 (実習施設の勤務時間帯に合わせて調整する)

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

なし

■ 他の授業科目との関連

特講Ⅰ～Ⅳ、演習Ⅰ～Ⅲ、実習Ⅰの内容を踏まえて統合的な実践を行う。

■ 成績評価の仕方

1. 実習計画書の立案 20 %
2. 実習の取り組み(態度・姿勢、担当患者との関わり、スタッフへのプレゼンテーションとコンサルテーション、記録内容等を含めた総合的評価 50 %
3. 報告書 3 事例 30 %：自らの課題に沿って文献検討を行った上で、各 3 事例への看護実践について、A4 用紙(40 × 40) 5 枚程度(文献リストは含めない)にまとめる。

■ オフィスアワー・研究室等

毎週 1 回帰校する木曜日の 12:30～13:00 坂口(414 研究室)・千葉(429 研究室)

■ その他
HMGE183

精神保健看護学特講 I ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○小宮 敬子

■ 授業の目的

人間の身体・認知・感情・行動・対人関係にあらわれる精神健康上の問題を、心理・社会・身体の3側面からアセスメントする視点と方法およびその根拠となる理論を学ぶ。

■ 到達目標

1. 人間の身体・認知・感情・行動・対人関係にあらわれたさまざまな症状を見極め、説明できる。
2. さまざまな問題に内在する心理的葛藤の構造を説明できる。
3. 不安とその防衛機制について説明できる。
4. パーソナリティの障害のタイプと特徴について説明できる。
5. 無意識のコミュニケーションの概念を理解し、その体験を言語化できる。

■ 学習の進め方

学生が、テーマ毎に関連文献や資料を収集して読みこみ、プレゼンテーションを行う。それに基づいてディスカッションを行い、さらに問題意識を深めていく。各自が、自分の研究テーマの発見および探究につなげていく。

※原則、課題提出や遠隔授業方式(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)で進める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：精神障害の説明モデル－ illness と disease	発表と討論	小宮
2	医学的モデルによるアセスメント①知覚/思考/自我意識の障害	発表と討論	小宮
3	医学的モデルによるアセスメント②感情の障害	発表と討論	小宮
4	医学的モデルによるアセスメント③意識/知能/記憶の障害	発表と討論	小宮
5	医学的モデルによるアセスメント④身体に現れた精神的葛藤と不安…身体化の病理	発表と討論	小宮
6	医学的モデルによるアセスメント⑤身体疾患に随伴する精神症状	発表と討論	小宮
7	心理学モデルによるアセスメント①不安と防衛機制	発表と討論	小宮
8	心理学モデルによるアセスメント②ライフサイクルと自己の発達課題	発表と討論	小宮
9	心理学モデルによるアセスメント③パーソナリティ障害	発表と討論	小宮
10	心理学モデルによるアセスメント④観察の方法としての共感：無意識のコミュニケーション	発表と討論	小宮
11	心理－社会的モデルによるアセスメント①心的外傷とその影響	発表と討論	小宮
12	心理－社会的モデルによるアセスメント②発達障害/認知症における基本症状と周辺症状の考え方	発表と討論	小宮
13	心理－社会的モデルによるアセスメント③「生きにくさ」と「レジリエンス」のアセスメント	発表と討論	小宮
14	心理－社会的モデルによるアセスメント④家族の病理と個人の病理	発表と討論	小宮
15	まとめ	討論	小宮

■ 教科書

使用しない。その都度、必要な文献、資料の提示をする。

■ 参考書、参考資料等

適宜、提示もしくは配布する。

■ フィードバックの仕方

レポートは、コメントをつけて返却します。ポータル、メールで連絡します。

■ 他の授業科目との関連

特になし。

■ 成績評価の仕方

レポート(50%)、ディスカッションへの貢献(30%)、プレゼンテーション(20%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 18:00~18:30。教室にて。

■ 受講上の注意事項

参考書に提示した図書をあらかじめ熟読しておくこと。具体的な事例を思い浮かべながら、積極的に討論に参加すること。

■ その他

HMMN100

精神保健看護学特講Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○堀井 湖浪、岡島 美朗

■ 授業の目的

精神科におけるさまざまな治療技法について学ぶ。さらに精神健康上の問題を持つ人々とその家族をひとつの全体性をもつユニットとして理解し、専門的な看護援助を実践するための諸理論と方法を学ぶとともに、システムアプローチの基本を身につける。

■ 到達目標

1. 精神科におけるさまざま治療技法について、説明できる。
2. 精神保健上の問題を持つ人々とその家族を理解するための諸理論を説明できる。
3. 精神保健上の問題をもつ人々とその家族への専門的な看護援助を実践するために必要な諸理論を説明できる。
4. システムアプローチの理論と方法を説明できるとともに、それに沿った介入を探求することができる。

■ 学習の進め方

授業は Teams で行う。精神科治療とその技法に関する文献や資料を読み、講義、プレゼンテーション、ディスカッション、事例の検討などを通して、精神科における治療とケアの方法を学ぶ。

事前学習：授業で取り上げられるテーマについて文献を読む。

事後学習：テーマに関連する実践事例を記述する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	臨床現場で関わったことのある家族について、事例の概要、アセスメント内容、関わりの実際、実践上の課題を A4 用紙 3～4 枚程度にまとめる。	自宅学修	堀井
2	臨床現場で関わったことのある家族について、事例の概要、アセスメント内容、関わりの実際、実践上の課題を A4 用紙 3～4 枚程度にまとめる。	自宅学修	堀井
3	臨床現場で関わったことのある家族について、事例の概要、アセスメント内容、関わりの実際、実践上の課題を A4 用紙 3～4 枚程度にまとめる。	自宅学修	堀井
4	オリエンテーション…精神科における治療	同時双方向型	堀井
5	精神科における治療技法(2)薬物療法①－基本的な考え方向と精神薬の種類	同時双方向型	堀井
6	精神科における治療技法(3)薬物療法②－向精神薬を用いる際の留意点	同時双方向型	堀井
7	認知行動療法	同時双方向型	堀井
8	クライアント中心療法とカウンセリング	同時双方向型	堀井
9	グループダイナミクスの理論	同時双方向型	堀井
10	集団精神療法のさまざまな技法	同時双方向型	堀井
11	家族療法の理論と技法	同時双方向型	堀井
12	システムアプローチの実際	同時双方向型	堀井
13	リフレクションの技法－プロセスレコード	同時双方向型	堀井
14	精神科における治療技法(1)精神療法	対面授業	岡島
15	精神科における治療技法(4)環境療法・社会療法	対面授業	岡島

■ 教科書

使用しない。関連文献リストを提示する。

■ 参考書、参考資料等

尾崎紀夫・三村将・水野雅文・村井俊哉(2018). 標準精神医学. 医学書院.

医療情報科学研究所編(2014). 薬がみえる Vol.1. メディックメディア.

近藤喬一・鈴木純一編(1999). 集団精神療法ハンドブック. 金剛出版.

日本家族研究・家族療法学会編(2013). 家族療法テキストブック. 金剛出版.

そのほか、適宜関連文献を提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、後期ガイダンス期間中に 427 研究室にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行います。返却日程はポータルで連絡するので受け取りに来ること。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講 I およびⅢ・Ⅳとともに、精神保健看護学演習、精神保健看護学実習の基礎的な学習になります。

■ 成績評価の仕方

レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの貢献(20%)

■ オフィスアワー・研究室等

随時、電子メールで質問を受け付けます。

■ 受講上の注意事項

受け身で受講するのではなく、積極的に討論に参加してください。

■ その他

HMMN101

精神保健看護学特講Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○鷹野 朋実

■ 授業の目的

慢性期にある精神障害者の回復を支援するための方法論として、セルフケアモデルとストレングスモデルを比較しながら、精神看護の社会的視点を身につける

■ 到達目標

1. 慢性期の精神障害者の日常生活上の困難を説明できる。
2. 精神障害者の回復を支援するための方法論を複数、説明できる。
3. 精神障害者を支援する方法として、セルフケアモデルとストレングスモデルを比較検討することができる。
4. 精神障害者の生活と支援の方法を理解するために、社会的視点を身につけることができる。

■ 学習の進め方

関連文献や資料に基づき、講義、プレゼンテーション、ディスカッション、事例の検討を通して、慢性期の精神障害者を支援するための方法論を探索する。

【事前学修】次回授業テーマに即した文献を読み込み、疑問点を A4 用紙 1 枚以内にまとめておく。

【事後学修】授業配布資料をもとに、関連資料や参考文献等を読み、理解をさらに深めておく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義と討論	鷹野
2	慢性疾患を病むことの意味	講義と討論	鷹野
3	精神障害の社会学(1)逸脱とスティグマ	講義と討論	鷹野
4	精神障害の社会学(2)精神科病院という場と、生活の場	講義と討論	鷹野
5	精神障害の社会学(3)リカバリーという考え方	講義と討論	鷹野
6	ソーシャルインクルージョンと地域ケア	発表と討論	鷹野
7	セルフケアモデル	発表と討論	鷹野
8	ストレングスモデル	発表と討論	鷹野
9	セルフケアモデルとストレングスモデルとの比較	発表と討論	鷹野
10	ソーシャル・サポートとネットワーク理論	発表と討論	鷹野
11	当事者運動と当事者研究	発表と討論	鷹野
12	レジリエンスとエンパワメント	発表と討論	鷹野
13	在宅生活への支援	発表と討論	鷹野
14	事例検討	討論	鷹野
15	まとめ	討論	鷹野

■ 教科書

使用しない。

■ 参考書、参考資料等

A.Rapp 他著／田中英樹監訳 (2008)、ストレングスモデル、第 1 版、金剛出版。

宮本真巳(1996)、セルフケアを援助する、第 1 版、日本看護協会出版会。

Ragins Mark 著／前田ケイ訳 (2005)、リカバリーへの道、第 1 版、金剛出版。

その他の参考書等については、適宜、授業内に提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートは、後期の 3 月中にコメントをつけて返却する。受講学生にはメール・ポータルで連絡するので鷹野研究室まで取りに来ること。

■ 他の授業科目との関連

特になし。

■ 成績評価の仕方

レポート(50%)、プレゼンテーション(30%)、ディスカッションへの貢献(20%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 12:30~13:00、18:00~18:30。鷹野研究室(428)。随時、電子メールでの質問も受け付ける(t-takano@redcross.ac.jp)。

■ 受講上の注意事項

本科目は、CNS科目(専門分野:精神看護)です。
テーマに積極的な関心をもって取り組むことを期待します。

■ その他

HMMN150

精神保健看護学特講Ⅳ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○鷹野 朋実

■ 授業の目的

日本、イギリス、イタリア、アメリカなどの精神医療保健福祉に関する歴史の変遷、様々な制度やシステムを比較しながら、精神保健看護のあり方について探求する。

■ 到達目標

1. 時代や文化、社会の価値規範などが、精神の健康問題の顕在化やその対応に及ぼす影響について説明できる。
2. 現在の精神保健サービスと社会のつながりを理解し、看護職者が担う機能と役割について関心をもつことができる。
3. 変化する精神障害者の保健医療福祉システムにおいて、看護職を含む専門職各種が果たすべき機能と役割について理解することができる。

■ 学習の進め方

自己学習の課題学習レポートは、Word 形式で作成し、メール添付にて提出すること。第 3 回目以降の講義はオンデマンド型と同時双方向型をミックスさせて展開する。学生が各自でテーマに沿った文献・資料を収集して発表し、それをもとに討論する。

【事前学習】 次回の授業テーマに即した文献を読み込み、発表資料を作成する。

【事後学習】 授業配布資料をもとに、関連資料や参考文献等を読み、理解をさらに深めておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	精神障害と法	自宅学習	鷹野
2	精神保健福祉法の歴史	自宅学習	鷹野
3	精神保健医療福祉の諸側面	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
4	精神障害の現状と国際比較	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
5	精神障害とスティグマ	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
6	精神保健福祉法と入院制度	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
7	精神障害者の生活支援制度	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
8	精神科リハビリテーションの概念と社会療法	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
9	セルフヘルプ・グループと地域ケア・システム	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
10	精神障害者の人権とアドボカシー	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
11	精神保健医療福祉にかかわるさまざまな職種とチーム医療	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
12	産業保健とメンタルヘルス	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野

No	内容	形式	教員
13	学校保健とメンタルヘルス	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
14	精神保健看護の新しい動き	オンデマンド型 と同時双方向型 のミックス	鷹野
15	精神保健医療における看護の展望	同時双方向型	鷹野

■ 教科書

特に使用しません。

■ 参考書、参考資料等

新福尚隆・浅井邦彦、改訂・世界の精神保健医療 (2009)、第 2 版、へるす出版。

Thornicraft, Graham 著／青木省三・諏訪浩監訳 (2012)、精神障害者差別とは何か、第 1 版、日本評論社。

中村治、洛北岩倉と精神医療 (2013)、第 1 版、世界思想社。

■ フィードバックの仕方

課題学習(1 回目と 2 回目授業)については、レポートのフィードバックは、翌週の授業日までにメール添付にてコメントを付して返却する。最終レポートについては、後期科目精神保健看護学演習Ⅳの第 1 回目の授業にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講Ⅰ、Ⅱで学んだ精神科看護ケアを実際に展開していく上で、必要不可欠となる医療及び福祉の諸制度の理解を深める内容を取り扱います。

■ 成績評価の仕方

1. 授業での発表内容 30 % 2. 討論への貢献度 30 % 3. 課題学習レポート 10 %、4. 最終レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12 : 30～12 : 50、18 : 00～18 : 30、鷹野朋実(428 研究室)

■ 受講上の注意事項

本科目は、CNS 科目(専門分野：精神看護)です。

授業においては、自ら調べてプレゼンテーションをすることも重要ですが、授業中に疑問に思ったことや感じたことを率直に発言することも大切なことです。ぜひ、積極的に討論に参加して下さい。

■ その他

HMMN102

精神保健看護学演習 I ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○小宮 敬子、鷹野 朋実、堀井 湖浪、古城門 靖子

■ 授業の目的

精神健康上の問題を抱えた人々へのさまざまな精神療法的アプローチについて、援助者側の問題を分析し、専門的な看護援助関係の構築を探求する。

■ 到達目標

1. 精神保健看護学実習 I～IVのフィールドでの対象との精神療法的かかわりを振り返り、言語化することができる。
2. 対象者とのかかわりの中で体験した感情を精神力動的に分析し、その意味を解釈することができる。
3. 対象者との関係に影響をおよぼす環境との相互作用について、精神力動的およびシステム論的視点から捉え、出来事の文脈をたどり説明することができる。
4. ピア研究者からのフィードバックを受け、自分や対象に何が起きていたかについてリフレクションすることができ、自らの傾向性やこれまで気づけなかった葛藤についての洞察を言語化することができる。

■ 学習の進め方

演習は以下の 1～4 のプロセスを循環的に進めていく。

1. フィールドノーツをもとに、フィールドで観察したことについて報告し、参加者から率直なフィードバックを得る。
2. フィールドで体験した感情を振り返り(リフレクション)、それがどのような文脈で生じたのか、どのような意味があるのかについて話し合う。
3. フィールドで観察した現象について概念化するとともに、それを説明する理論と照らし合わせながら、何が起きたかを明確にしていく。
4. 演習での討論を通して得られた解釈や仮説を次の FW で検証して、その結果をフィールドノーツの記録し、次回の演習で報告する。

事前学習：フィールドノーツの記録。

事後学習：検討されたことを整理していく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：FW とデブリーフィングについて	講義	小宮・鷹野・堀井・古城門
2	前半期のフィールドノーツの検討ーフィールド特性と患者の概要	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
3	前半期のフィールドノーツの検討ーフィールド特性と患者の概要	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
4	前半期のフィールドノーツの検討ーフィールド特性と患者の概要	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
5	前半期のフィールドノーツの検討ーフィールド特性と患者の概要	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
6	前半期のフィールドノーツの検討ーフィールド特性と患者の概要	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
7	前半期のフィールドノーツの検討ーフィールド特性と患者の概要	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
8	前半期のフィールドノーツの検討ーフィールド特性と患者の概要	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
9	前半期のフィールドノーツの検討ーフィールド特性と患者の概要	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
10	前半期のフィールドノーツの検討ーフィールド特性と患者概要	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
11	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
12	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
13	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門

No	内容	形式	教員
14	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
15	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
16	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
17	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
18	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
19	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
20	中間期のフィールドノーツの検討ーフィールドに特徴的な現象と患者への関心	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
21	後半期のフィールドノーツの検討ー患者との対人関係の様相	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
22	後半期のフィールドノーツの検討ー患者との対人関係の様相	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
23	後半期のフィールドノーツの検討ー患者との対人関係の様相	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
24	後半期のフィールドノーツの検討ー患者との対人関係の様相	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
25	後半期のフィールドノーツの検討ー患者との対人関係の様相	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
26	後半期のフィールドノーツの検討ー患者との対人関係の様相	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
27	後半期のフィールドノーツの検討ー患者との対人関係の様相	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
28	後半期のフィールドノーツの検討ー患者との対人関係の様相	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
29	後半期のフィールドノーツの検討ー患者との対人関係の様相	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
30	まとめ	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門

■ 教科書

使用しない。適宜、必要な文献、資料を提示する。

■ 参考書、参考資料等

適宜、提示する。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを同時に受講していること。

■ 成績評価の仕方

1. フィールドノーツ(50%) 2. 討論への参加(30%) 3. リフレクション(20%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30~13:00、18:00~18:30。

鷹野研究室(428)、堀井研究室(427)、古城門研究室(412)

■ 受講上の注意事項

Be Yourself !

■ その他

HMMN180

精神保健看護学演習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子、大内 衆衛、田中 直樹、渡辺 純一

■ 授業の目的

精神保健看護の基盤となる理論や先行研究を通して学んだ専門知識を活用しながら、精神保健看護上の問題を抱える個人に対する精神的な関わりについて探求する。また、自身の看護実践の振り返りを通して、自己洞察を深める。

■ 到達目標

1. 精神保健看護の場におけるさまざまな問題をアセスメントし、問題解決に向けて具体的な援助方法を考え、その計画を立てることができる。
2. さまざまなケアが提供されている場での継続的な実践を通して、患者との関係がどのように展開するのか、そこに治療場の文化や構造がどのように影響するのかを分析しつつ、患者理解・自己理解を深めることができる。
3. 自分と患者との関わりについて、相互対話的コミュニケーションの視点に基づいて分析し、評価することができる。

■ 学習の進め方

前半は、精神保健看護分野に関連する先行研究と実践報告の文献レビューを行い、ゼミ形式にてディスカッションする。

後半は、それまでに得た知見を活用し、入院中及び地域で生活する精神障害者への看護について、ケースカンファレンスを行う。

【事前学習】関連文献を読み込み、及び担当分の発表資料を作成する。

【事後学習】ゼミで検討されたこと、疑問に思ったことを調べておく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	小宮・鷹野・堀井・古城門
2	治療場の構造に関する文献レビューとディスカッション①	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
3	治療場の構造に関する文献レビューとディスカッション②	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
4	精神保健看護に関する文献レビューとディスカッション①	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
5	精神保健看護に関する文献レビューとディスカッション②	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
6	患者の病理と治療者の病理に関する文献レビューとディスカッション①	発表・討論	大内・小宮・鷹野・堀井・古城門
7	患者の病理と治療者の病理に関する文献レビューとディスカッション②	発表・討論	大内・小宮・鷹野・堀井・古城門
8	個人・集団精神療法に関する文献レビューとディスカッション①	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
9	個人・集団精神療法に関する文献レビューとディスカッション②	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
10	治療的環境に関する文献レビューとディスカッション	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
11	地域で生活する精神障害者への看護援助に関する文献レビューとディスカッション①	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
12	地域で生活する精神障害者への看護援助に関する文献レビューとディスカッション②	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
13	精神保健看護についての倫理に関する文献レビューとディスカッション①	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
14	精神保健看護についての倫理に関する文献レビューとディスカッション②	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
15	入院中の精神障害をもつ患者への看護についてのケースカンファレンスー慢性期その1ー	講義・討論	渡辺・鷹野

No	内容	形式	教員
16	入院中の精神障害をもつ患者への看護についてのケースカンファレンス－慢性期その2－	講義・討論	渡辺・鷹野
17	入院中の精神障害をもつ患者への看護についてのケースカンファレンス－慢性期その3－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
18	入院中の精神障害をもつ患者への看護についてのケースカンファレンス－身体合併症その1－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
19	入院中の精神障害をもつ患者への看護についてのケースカンファレンス－身体合併症その2－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
20	入院中の精神障害をもつ患者への看護についてのケースカンファレンス－身体合併症その3－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
21	入院中の精神障害をもつ患者への看護についてのケースカンファレンス－困難患者その1－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
22	入院中の精神障害をもつ患者への看護についてのケースカンファレンス－困難患者その2－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
23	地域の場で生活する精神障害者への支援についてのケースカンファレンス－通所サービスを利用中の事例その1－	講義・討論	田中・小宮・鷹野
24	地域の場で生活する精神障害者への支援についてのケースカンファレンス－通所サービスを利用中の事例その2－	講義・討論	田中・小宮・鷹野
25	地域の場で生活する精神障害者への支援についてのケースカンファレンス－家族との関係が難しい事例その1－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
26	地域の場で生活する精神障害者への支援についてのケースカンファレンス－家族との関係が難しい事例その2－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
27	地域の場で生活する精神障害者への支援についてのケースカンファレンス－家族との関係が難しい事例その3－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
28	地域の場で生活する精神障害者への支援についてのケースカンファレンス－訪問看護の対象事例その1－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
29	地域の場で生活する精神障害者への支援についてのケースカンファレンス－訪問看護の対象事例その2－	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
30	まとめ	まとめ	小宮・鷹野・堀井・古城門

■教科書

使用しない。

■参考書、参考資料等

適宜、提示する。

■フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、3月8日～19日の期間に、コメントを付したレポートの返却によって行う。返却の具体的な日時については3月1日にポータルサイト、メールにて連絡する。

■他の授業科目との関連

精神保健看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを同時に受講していること。

■成績評価の仕方

ディスカッションへの参加(40%)、プレゼンテーション(30%)、レポート(30%)

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30～13:00、18:00～18:30。
鷹野研究室(428)、堀井研究室(427)、古城門研究室(412)

■受講上の注意事項

本科目は、CNS科目(専門分野:精神看護)です。
主体的な参加を期待する。ディスカッションでは、疑問に思ったことや感じたことを率直に発言してほしい。

■その他

HMMN181

精神保健看護学演習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子、下平 美智子

■ 授業の目的

精神障害を抱えながら、その人らしい生活を送るための具体的な支援の方法について学ぶ。グループ療法、住居や就労に関する支援や自助グループ、電話相談などに関する研究の動向を踏まえて、援助方法を探求する。

■ 到達目標

1. 精神障害者の生活を支えるための具体的支援の方法にどのようなものがあるか、現在の研究の動向を説明できる。
2. 地域で暮らす精神障害者に対して、具体的支援の方法をさまざまな場面で展開できる。

■ 学習の進め方

1. 精神障害者の生活を支える具体的支援に関する、現在の研究の動向を把握する。
2. 実際の事例に基づき、その事例のアセスメントを深め、適切な援助方法の検討、開発を行う。
3. 面接やグループ療法の技法については、学内演習でスキルを身につける。

事前学習：精神障害者の生活支援に関する事前学習として、「べてるの家の「当事者研究」」は必ず一読しておくこと。

事後学習：発表時に指摘されたことや質問されたこと、討論内で疑問に思ったことは調べておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーションー生活援助とは	講義と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
2	精神障害者の生活支援の方法に関する研究の動向(1)	文献レビューと討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
3	精神障害者の生活支援の方法に関する研究の動向(2)	文献レビューと討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
4	事例の展開(1)精神障害者が直面する生活上の課題の明確化	発表と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
5	事例の展開(2)精神障害者の生活支援のためのアセスメントとケアプラン	発表と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
6	事例の展開(3)精神障害者の生活支援の評価	発表と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
7	事例の展開(4)住居についての支援	発表と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
8	事例の展開(5)就労についての支援	発表と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
9	事例の展開(6)対人関係についての支援ーグループワークの視点から	発表と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
10	事例の展開(7)自助グループについての支援	発表と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
11	地域のサポート・ネットワーク形成に関する理論と実際	講義と討論	下平
12	さまざまな社会資源の連携と調整に関する理論と実際	講義と討論	下平
13	訪問看護の理論と実際(1)	発表と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
14	訪問看護の理論と実際(2)	発表と討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
15	まとめ	討論	小宮・鷹野・堀井・古城門

■ 教科書

使用しない。

■ 参考書、参考資料等

浦河べてるの家(2005). べてるの家の「当事者研究」. 第1版. 医学書院.

その他は適宜、関連文献を提示する。

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを同時に受講していること。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション及び事例提供(50%)、ディスカッションへの貢献(50%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30~13:00、18:00~18:30。

鷹野研究室(428)、堀井研究室(427)、古城門研究室(412)

■ 受講上の注意事項

事例に沿って、積極的に取り組んでほしい。

■ その他

HMMN182

精神保健看護学演習Ⅳ ※ CNS 科目

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子

■ 授業の目的

災害など、緊急事態における当事者と救援者のメンタルヘルスに関する理論と援助方法を学ぶ。

■ 到達目標

1. ストレス、危機、防衛機制、PTSD、二次的外傷性ストレスの概念と理論を理解し、説明することができる。
2. 暴力や事故、災害などによるトラウマがメンタルヘルスに及ぼす影響について理解し、説明することができる。
3. 暴力や事故の被害者、災害時の被災者への関わりにおいて人権を擁護するために求められる具体的配慮について、説明することができる。
4. 災害時の被災者、救援者に必要なメンタルヘルス支援方法や必要な看護援助について、具体的に提示できる。

■ 学習の進め方

1. 各テーマについて各自が調べてきた内容の発表、討論を行い、緊急事態におけるメンタルヘルスの理論や援助方法を探求する。
2. ストレスマネジメント、リラクゼーションや、適宜取り入れるロールプレイ演習などで実際に体験し、必要な技能を身につける。

【事前学習】授業の各テーマについて、提示された参考文献や関連文献を読み込み、発表資料を作成する。

【事後学習】授業にて作成した資料、配布された資料をもとに復習し、理解が十分でないところについては自己学習をしておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	演習ガイダンス／危機理論	講義・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
2	危機的状況と介入	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
3	PTSD と二次的外傷性ストレス	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
4	ストレスとストレスマネジメント	演習・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
5	リラクゼーション 呼吸法、筋弛緩法、イメージ法	演習・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
6	暴力とトラウマ① いじめ・虐待・ドメスティックバイオレンス(DV)	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
7	暴力とトラウマ② 犯罪被害者と家族、加害者と家族	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
8	暴力とトラウマ③ 感情マネジメント、トラウマケアプログラム	演習・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
9	暴力とトラウマ④ 事例に基づいた討論	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
10	惨事ストレスケア① 緊急事態ストレス	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
11	惨事ストレスケア② 緊急事態ストレスの査定と危機介入の原理	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
12	惨事ストレスケア③ 緊急事態ストレスへの具体的介入法	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
13	惨事ストレスケア④ 惨事ケアに関わる援助者の反応	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
14	惨事ストレスケア⑤ 二次的外傷性ストレスの対処	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門
15	惨事ストレスケア⑥ 事例に基づいた討論	発表・討論	小宮・鷹野・堀井・古城門

■ 教科書

使用しない。

■ 参考書、参考資料等

Everly,G S. & Mitchell.JT. 著／飛鳥井望他訳 (2004). 惨事ストレスケア. 第 1 版. 誠信書房.

Stamm.B. H. 編著／小西聖子監訳 (2003). 二次的外傷性ストレス. 第 1 版. 誠信書房.

Mitchell J T. & Everly G S. 著／高橋祥友訳 (2002). 緊急事態ストレス・PTSD 対応マニュアル. 第 1 版. 金剛出版.

その他の参考書・関連文献等は、授業内に提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、最終授業日のレポート以外は本科目の次々回授業日に、コメントを付したレポート返却を通じて行う。なお、最終授業日に課したレポートは、2 年次前期科目「精神保健看護学特別研究Ⅱ」の第 1 回授業にて返却する。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを同時に受講していること(もしくは履修済)が望ましいです。

■ 成績評価の仕方

1. 授業での発表内容 25 % 2. 討論への参加 25 % 3. 演習への取り組み 30 %、4. レポート 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12 : 30～12 : 50、18 : 00～18 : 30。

鷹野朋実研究室(428)、堀井湖浪研究室(427)、古城門靖子研究室(412)

■ 受講上の注意事項

本科目は CNS 科目(専門分野：精神看護)です。

演習、討論への参加を通して様々な体験をしてもらいたいと考えています。授業には積極的に参加して下さい。

この授業では、授業においてレポートを 4 回作成してもらいます。レポートは、レポートを課された授業日から 1 週間以内に、担当教員まで提出して下さい。

■ その他

HMMN183

精神保健看護学特別研究Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○鷹野 朋実、小宮 敬子

■ 授業の目的

論文作成に向けて、自らの問題意識を焦点化しながら、研究課題および方法論の明確化を図る。

■ 到達目標

1. みずからの研究疑問に基づき、研究テーマを明確にすることができる。
2. 研究テーマに沿った、もっとも適切な研究方法を選択することができる。
3. 研究計画書を作成し、それに沿ってデータ収集と分析を行っていくことができる。

■ 学習の進め方

毎回、ゼミで研究作業の成果を報告し、研究指導教員とともに話し合いながら検討する。

【事前学習】日本の精神医療の現状に関する知識を蓄えておく。

【事後学習】ゼミで指摘されたことや質問されたこと、疑問に思ったことを、調べておく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	小宮・鷹野
2	研究テーマと方法論の明確化－その1	演習	小宮・鷹野
3	研究テーマと方法論の明確化－その2	演習	小宮・鷹野
4	研究テーマと方法論の明確化－その3	演習	小宮・鷹野
5	研究テーマと方法論の明確化－その4	演習	小宮・鷹野
6	研究テーマと方法論の明確化－その5	演習	小宮・鷹野
7	研究テーマと方法論の明確化－その6	演習	小宮・鷹野
8	研究テーマと方法論の明確化－その7	演習	小宮・鷹野
9	研究テーマと方法論の明確化－その8	演習	小宮・鷹野
10	研究テーマと方法論の明確化－その9	演習	小宮・鷹野
11	研究テーマと方法論の明確化－その10	演習	小宮・鷹野
12	研究フィールドの選定－その1	演習	小宮・鷹野
13	研究フィールドの選定－その2	演習	小宮・鷹野
14	研究フィールドの選定－その3	演習	小宮・鷹野
15	研究フィールドの選定－その4	演習	小宮・鷹野
16	予備調査の計画書作成－その1	演習	小宮・鷹野
17	予備調査の計画書作成－その2	演習	小宮・鷹野
18	予備調査の計画書作成－その3	演習	小宮・鷹野
19	予備調査の計画書作成－その4	演習	小宮・鷹野
20	予備調査の計画書作成－その5	演習	小宮・鷹野
21	予備調査でのデータ収集－その1	演習	小宮・鷹野
22	予備調査でのデータ収集－その2	演習	小宮・鷹野
23	予備調査でのデータ収集－その3	演習	小宮・鷹野
24	予備調査でのデータ収集－その4	演習	小宮・鷹野
25	予備調査でのデータ収集－その5	演習	小宮・鷹野
26	予備調査でのデータ収集－その6	演習	小宮・鷹野
27	研究計画書の作成－その1	演習	小宮・鷹野
28	研究計画書の作成－その2	演習	小宮・鷹野
29	研究計画書の作成－その3	演習	小宮・鷹野
30	研究計画書の作成－その4	演習	小宮・鷹野

■教科書

特になし。

■参考書、参考資料等

特になし。

■フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、2年次科目「精神保健看護学特別研究Ⅱ」の初回授業時に、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■他の授業科目との関連

特になし。

■成績評価の仕方

文献検討およびレポート…50 %

ディスカッション…50 %

■オフィスアワー・研究室等

授業日の12：30～13：00、18：00～18：30。鷹野研究室(428)にて質問を受け付ける。

■その他

HMMN184

精神保健看護学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：前期

○小宮 敬子、鷹野 朋実

■ 授業の目的

研究テーマを絞り、予備調査のデータ収集を進めながら、研究計画書を作成し、さらに問題を明確化していくための検討を行う。

■ 到達目標

1. 研究計画書を作成し、倫理審査にも合格することができる。
2. 計画書に沿ってデータ収集と分析を行いながら、必要な修正を行っていくことができる。

■ 学習の進め方

研究の進捗状況をそのつど報告し、データ収集および分析を進める。

※原則、課題提出や遠隔授業方式(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)で進める。

【事前学習】精神保健看護学に関する最新研究動向をあらかじめ調べておくこと。

【事後学習】ゼミで指摘されたことや質問されたこと、疑問に思ったことについては、調べておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	小宮・鷹野
2	本調査の実施に向けての具体的準備	演習	小宮・鷹野
3	本調査の実施に向けての具体的準備	演習	小宮・鷹野
4	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
5	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
6	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
7	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
8	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
9	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
10	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
11	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
12	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
13	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
14	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
15	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
16	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
17	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
18	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
19	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
20	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
21	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
22	データ収集と同時平行して、得られたデータの解釈・分析を行う。	演習	小宮・鷹野
23	得られたデータを深めるための文献検討を改めて行う。	演習	小宮・鷹野
24	得られたデータを深めるための文献検討を改めて行う。	演習	小宮・鷹野
25	得られたデータを深めるための文献検討を改めて行う。	演習	小宮・鷹野
26	得られたデータを深めるための文献検討を改めて行う。	演習	小宮・鷹野
27	得られたデータを深めるための文献検討を改めて行う。	演習	小宮・鷹野
28	得られたデータを深めるための文献検討を改めて行う。	演習	小宮・鷹野
29	得られたデータを深めるための文献検討を改めて行う。	演習	小宮・鷹野
30	得られたデータを深めるための文献検討を改めて行う。	演習	小宮・鷹野

■ 教科書

特になし。

■ 参考書、参考資料等

特になし。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学関連の、特講、演習、実習を同時に受講していること。

■ 成績評価の仕方

研究計画書の作成…50 %

フィールドノート…30 %

ディスカッション…20 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 18：00～18：30。鷹野研究室(428)

精神保健看護学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：後期

○小宮 敬子、鷹野 朋実

■ 授業の目的

学位論文執筆に向けて、研究テーマの洗練とデータの分析および考察を進める。

■ 到達目標

1. これまでに得られたデータの分析結果を論述することができる。
2. 結果の解釈を深め、考察の視点を明らかにすることができる。
3. 文献を用いて考察を深めることができる。

■ 学習の進め方

毎回、ゼミで研究作業の成果を報告し、研究指導教員とともに話し合いながら検討する。

事前学習：自分の研究テーマに関連した文献検討を済ませておくこと。

事後学習：ゼミで指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについては、調べておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	得られたデータを結果としてまとめる。	討論	小宮・鷹野
2	得られたデータを結果としてまとめる。	討論	小宮・鷹野
3	得られたデータを結果としてまとめる。	討論	小宮・鷹野
4	得られたデータを結果としてまとめる。	討論	小宮・鷹野
5	得られたデータを結果としてまとめる。	討論	小宮・鷹野
6	得られたデータを結果としてまとめる。	討論	小宮・鷹野
7	得られたデータを結果としてまとめる。	討論	小宮・鷹野
8	得られたデータを結果としてまとめる。	討論	小宮・鷹野
9	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する。	討論	小宮・鷹野
10	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する。	討論	小宮・鷹野
11	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する。	討論	小宮・鷹野
12	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する。	討論	小宮・鷹野
13	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する。	討論	小宮・鷹野
14	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する。	討論	小宮・鷹野
15	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める。	討論	小宮・鷹野
16	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める。	討論	小宮・鷹野
17	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める。	討論	小宮・鷹野
18	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める。	討論	小宮・鷹野
19	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める。	討論	小宮・鷹野
20	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める。	討論	小宮・鷹野
21	文献検討を再検討し、洗練させる。	討論	小宮・鷹野
22	文献検討を再検討し、洗練させる。	討論	小宮・鷹野
23	文献検討を再検討し、洗練させる。	討論	小宮・鷹野
24	文献検討を再検討し、洗練させる。	討論	小宮・鷹野
25	文献検討を再検討し、洗練させる。	討論	小宮・鷹野
26	文献検討を再検討し、洗練させる。	討論	小宮・鷹野
27	論文全体の推敲	討論	小宮・鷹野
28	論文全体の推敲	討論	小宮・鷹野
29	論文全体の推敲	討論	小宮・鷹野
30	論文全体の推敲	討論	小宮・鷹野

■教科書

特になし。

■参考書、参考資料等

特になし。

■他の授業科目との関連

特になし。

■成績評価の仕方

1. 研究の進行に関するレポート 50 % 2. 討論への貢献 50 %

■オフィスアワー・研究室等

授業日の 18 : 00~18 : 30。教室にて。

■その他

HMMN250

精神保健看護学実習 I ※ CNS 科目

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪

■ 授業の目的

精神保健看護学特講 I、II、IV、精神保健看護学演習 I～II で学んだ諸理論と技法を踏まえて、精神障害を抱えるクライアント及びその家族への高度専門的看護実践について参加観察体験を通して学び、専門看護師の役割機能について探求するとともに、自らの課題も明らかにする。

■ 到達目標

1. 精神科医療施設における専門看護師の活動への参加観察を通して学んだ専門看護師の役割と機能について説明できる。
2. 各自の問題意識と関心に沿って実習を深めながら、高度専門的看護実践を行う上での自らの課題を言語化できる。
3. 精神科における専門看護師の役割とその機能について、治療の場の構造や文化、スタッフ同士の人間関係も踏まえながら考察し、レポートにまとめることができる。

■ 学習の進め方

1. 精神科医療施設の専門看護師から、その役割と機能についてのオリエンテーションを受ける。
2. 専門看護師の活動とともに参加しながら、高度実践・相談・教育・調整などの専門看護師の役割について、体験を通して学ぶ。
3. 専門看護師とともにカンファレンスを実施し、専門看護師の活動についての理解を深める。
4. 実習の最終日のカンファレンスで、専門看護師の役割と機能について学習したこと、及びその実践を行う上での自己の課題について発表し、ディスカッションを通して、考察を深める。

【事前学習】専門看護師の役割、機能について文献を読む。

【事後学習】フィールドノーツの記載。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習場所：公益財団法人 井之頭病院
2. 実習期間：臨地実習は、1 年次の 9 月 2 週間(うち施設での実習は 5 日間)
3. 学内演習：1 年次の 8 月に、実習施設の精神看護専門看護師から「精神看護師の役割・機能」の講義を受け、ディスカッションを行う。
4. 実習時間：原則として 8 時 45 分～16 時 45 分、ただし施設の状況に合わせて変更することもありうる。

■ 教科書

特に指定しない。参考書を提示する。

■ 参考書、参考資料等

武井麻子(2005). 精神看護学ノート, 医学書院.

井部俊子・大生定義(2015). 専門看護師の思考と実践, 医学書院.

日本専門看護師協議会(2012). 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 日本看護協会出版会.

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、レポート提出後 3 週間以内に、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。返却可能な日程は、ポータルで連絡するので受け取りに来ること。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講 I・II・IV および精神保健看護学演習 I～II を履修していること。

■ 成績評価の仕方

実習への取り組み 30 %、カンファレンスへの貢献度 20 %、レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

堀井(427 研究室)で、学内実習日の 12:30～13:00、18:00～18:30。実習中は、随時、電子メールにて相談を受け付ける。

■ 受講上の注意事項

参加観察を主とするが、そこから自らの関心や問題意識を深めていくこと。

■ その他

HMMN185

精神保健看護学実習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○鷹野 朋実、小宮 敬子、古城門 靖子

■ 授業の目的

精神科医療施設において、精神科診断と精神科における治療と看護の実践について、見学・参加を通して学び、精神看護の専門看護師としてのより専門的な高度実践能力を身につける。

■ 到達目標

1. 精神科医療における診断法と治療法について、系統的に整理して記述することができる。
2. 精神科薬物療法で用いられる薬剤について、各々のメリット、デメリット、留意点について説明することができる。
3. 受け持ち患者に関する診断、実施されている治療及び看護と、自らの実習体験を統合して、レポートを作成することができる。

■ 学習の進め方

1. 入院患者を 2～3 名受け持ち、精神保健指定医である担当医から診断と治療に関する説明を受ける。
2. 医師の診察場面に立ち会うほか、病棟でフィールドワークを行いながら患者と関わり、精神症状や治療効果のアセスメントを行い、担当医師、担当教員のスーパービジョンを受ける。なお、フィールドワークについては、フィールドノートに記録する。
3. 担当教員による週 1 回以上のスーパービジョンを受けながら、実習を進める。
4. 実習最終日には、受け持ち患者の事例発表を行い、指導者(担当医、病棟看護師)および担当教員との討論を通して事例についての洞察を深める。

【事前学習】教科書を熟読し、DSM-Vにおける診断基準 1～6 について要点をノートにまとめておく。

【事後学習】受け持ち患者の精神科診断について DSM-Vを用いて記載し、ケースレポートにまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習場所：以下の 3 施設のいずれかの病院にて実習します。なお、実習場所は各学生の進捗やこれまでの看護経験など個人の状況も考慮して決定します。
 - ・医療法人社団正慶会栗田病院
 - ・医療法人社団翠会陽和病院
 - ・国家公務員共済組合連合会東京共済病院
2. 実習期間：原則として、1 年次の 2～3 月の 2 週間(4 日/週× 2 週間の 8 日間)。ただし、実習期間については、各学生の進捗、必要に応じて期間を変更する場合があります。
3. 実習時間：8：30～16：30 を原則とします。なお、実習の詳細については後日、オリエンテーション時に説明します。

■ 教科書

中井久夫・山口直彦著(2004). 看護のための精神医学. 第 2 版. 医学書院

■ 参考書、参考資料等

日本精神神経学会監修(2014). DSM-5 精神疾患の診断・統計マニュアル. 第 1 版. 医学書院

その他の参考書については適宜、提示もしくは配付する。

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、2 年次前期科目精神保健看護学特別研究Ⅰの第 1 回目の授業にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、精神保健看護学演習Ⅱを同時に受講している(もしくは履修済み)ことが望ましいです。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 25 %
2. 実習記録 20 %
3. ケース発表 15 %
4. ケースレポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習日の 18：00～18：30、学内実習日の 12：20～12：50

鷹野朋実研究室(428)、古城門靖子研究室(412)

■ 受講上の注意事項

本科目は、CNS 科目(専門分野：精神看護)です。

受講にあたっては、つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていく姿勢をもって積極的に臨んで下さい。

■ その他

HMMN186

精神保健看護学実習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：4 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子

■ 授業の目的

精神科医療施設あるいは地域ケア施設において、精神障害をもつクライアントとのかかわりを通して、クライアントを全人的に理解するとともに、ケアの道具としての自らの傾向や特性を知り、精神看護の専門看護師としてのあり方および実践能力を身につける。

■ 到達目標

1. 精神科医療あるいは地域ケアの現場で、クライアントと自分との心理的距離を測りながらかかわり、さまざまな活動に参加できる。
2. 日々のかかわりや活動の中で起きてくるクライアントや自己の感情や欲求に気づき、言語化することができる。
3. 実習の場で体験したこと、観察したことをありのまま記録することを通して何が起きていたのかを振り返って吟味し、その意味について考えることができる。
4. クライアントの抱える「生きにくさ」と「レジリエンス」を見きわめ、説明することができる。
5. クライアントの「生きにくさ」と「レジリエンス」に及ぼす人間関係や社会の環境要因について分析、説明できる。
6. 援助者としての自己の傾向や特性に気づき、それがケアに及ぼす影響について考察することができる。
7. ケアの場における倫理的問題について考え、建設的な提案ができる。

■ 学習の進め方

1. 日勤帯に実習するが、基本的に通常の業務は行わず、自由にクライアントとかかわったり、さまざまなプログラムに参加したりしながら、クライアントやスタッフと相互交流する。
2. 実習の場で体験したことは適宜メモにとり、実習終了後なるべく速やかに、メモをもとに想起しながらフィールドノーツにまとめる。
3. 気になった場面については、プロセスレコードの形式で記録してもよい。
4. とくに受け持ちは決めないが、とくにかかわりたいと思うクライアントについては、実習指導者や受け持ちスタッフと相談の上、定期的にかかわることができる。
5. 実習指導者やその場の管理者と相談の上、自ら活動プログラムを企画し、実践することもできる。その際、他のスタッフや部署などとのコーディネーションは、自ら責任を持って行う。
6. フィールドノーツなどの記録をもとに、指導教員や臨床指導者などのエキスパートからスーパービジョンを受ける。
7. 学内では、フィールドノーツをもとに発表を行い、教員および他の学生と討論を通して実習での体験を深める。

【事前学習】クリニカルゼミの内容を吟味する。

【事後学習】フィールドノーツの記載。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習場所：公益財団法人井之頭病院、医療法人社団正慶会栗田病院、医療法人社団欣助会吉祥寺病院等の中から、各自の実習課題や目的に添って、1 か所を選択する。
2. 実習期間：原則として、9 月から 12 月までの 4 ヶ月間、毎週木曜日(全 17 日)。ただし、実習施設との相談により、設定の変更はありうる。
3. 実習時間：原則として、日勤帯とする。実習の詳細については後日、オリエンテーション時に説明する。

■ 教科書

武井麻子他著(2019). 系統看護学講座：精神看護学②精神看護の展開. 第 5 版. 医学書院.

■ 参考書、参考資料等

参考図書については適宜、提示する。

■ フィードバックの仕方

実習記録が次回の授業のプレゼンテーション資料となるため、記録についてのフィードバックは原則として実習直後の授業時に口頭で行う。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを同時に受講していること。

■ 成績評価の仕方

1. 記録 40 %、2. クライアントとのかかわり 20 %、3. 自己への気づき 20 %、4. 問題への取り組み方 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

学内実習日の 12:30~13:00、18:00~18:30。

鷹野研究室(428)、堀井研究室(427)、古城門研究室(412)。

実習中は、随時、電子メールにて相談を受け付ける。

■ 受講上の注意事項

本科目は、CNS 科目(専門分野：精神看護)です。

つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。

■ その他

HMMN187

精神保健看護学実習Ⅳ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子

■ 授業の目的

精神科医療施設において、慢性期にある精神障害を抱えるクライアントとのかかわりを通して、クライアントの回復を促進する、慢性期の精神看護の専門看護師としての実践能力を身につける。

■ 到達目標

1. 日々のかかわりや活動の中で起きてくる慢性期にあるクライアントや自己の感情に気づき、言語化することができる。
2. 精神科医療あるいは地域ケアの現場で、慢性期にあるクライアントとのかかわりを通して、クライアントがかかえる課題について、身体的、精神的、社会的観点から、総合的にアセスメントすることができる。
3. 明らかになったクライアントの課題をもとに、倫理的視点を踏まえて、その人らしさを尊重しつつ、回復を促進するような専門的な看護援助を実践できる。
4. 精神科医療施設あるいは地域ケア施設において、他職種と連携を取りながら、クライアントのサポート・ネットワークを形成する方向での支援を立案することができる。
5. 実習を通して、慢性期にある精神障害を抱えるクライアントが置かれた状況について理解を深めるとともに、自らの看護実践を振り返り、明らかになった課題について研究的な視点から探求することができる。

■ 学習の進め方

1. 自らの課題に沿って、実習の目標、内容、方法について計画する。
2. 自らの関心や問題意識に沿って、複数の問題を抱えた慢性期にあるクライアント 3 事例を担当し、これまで習得した知識や技法にもとづき、専門的看護援助を実践する。
3. クライアントとのかかわりの中で観察したことや自らの実践、フィールド全体の状況について、詳細なフィールドノーツに記録するとともに、アセスメントとケアプランの立案も適宜、行う。
4. フィールドノーツなどの記録をもとに、指導教員や実習指導者からスーパービジョンを受ける。

【事前学習】クリニカルゼミの内容を吟味しておく。

【事後学習】フィールドノーツの記載。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習期間：原則として、2 年次の 4 月から 6 月までの 2 ヶ月間、毎週木曜日(全 8 日)。
2. 実習場所：公益財団法人 井之頭病院他。実習場所は 1 年次後期に決定する。
3. 実習時間：原則として、日勤帯(8 時 45 分～16 時 45 分)とする。ただし、実習施設との相談により、設定の変更はありうる。実習の詳細については後日、オリエンテーション時に説明する。

■ 教科書

武井麻子他著(2019). 系統看護学講座：精神看護学①精神看護の基礎. 第 5 版. 医学書院.

武井麻子他著(2019). 系統看護学講座：精神看護学②精神看護の展開. 第 5 版. 医学書院.

■ 参考書、参考資料等

適宜、参考図書を提示する。

■ フィードバックの仕方

実習の記録が次回の授業のプレゼンテーション資料となるため、記録についてのフィードバックは原則として実習直後の授業時に口頭にて行う。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを受講していること。

■ 成績評価の仕方

1. 記録…40 %、2. クライアントとのかかわり…20 %、3. アセスメント…20 %、4. 問題への取り組み方…20 %

■ オフィスアワー・研究室等

学内実習日の 12 : 30～13 : 00、18 : 00～18 : 30。

鷹野研究室(428)、堀井研究室(427)、古城門研究室(412)。

実習中は、随時、電子メールにて相談を受け付ける。

■ 受講上の注意事項

本科目は、CNS 科目(専門分野：精神看護)です。

つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。

■ その他
HMMN280

精神保健看護学実習Ⅴ ※ CNS 科目

単位：1 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子

■ 授業の目的

精神保健看護の専門的立場で、対応困難な精神保健看護上の問題を抱える事例に対するコンサルテーション・コーディネーションの実践を通して、精神専門看護師に必要な実践能力を培う。

■ 到達目標

1. コンサルテーションモデルを活用し、対応困難な精神保健看護上の問題を抱える事例のアセスメント、適切な看護援助について計画を立案できる。
2. 実習施設におけるケースカンファレンスにおいて、上記の1について、アサーティブに意見を提示し、同時に病棟スタッフとの討論を促進することができる。
3. さまざまな職種とのコーディネーションが必要な事例に関して、組織全体のアセスメントを行い、援助方法について立案し、提示できる。

■ 学習の進め方

1. 精神専門看護師の助言に基づいて、コンサルテーションおよびコーディネーションのニーズが高く、実習期間内に現実的に対応可能な事例をそれぞれ1事例ずつ、計2事例、選定する。
2. 担当医および受持ち看護師をはじめとする病棟スタッフからの情報収集、カルテからの情報収集、患者との関わりを通して、何が問題なのかについてアセスメントを進める。並行して、組織の全体状況を把握するため、病棟におけるさまざまな場面への参加観察を通して、アセスメントを深め、実習指導者のスーパービジョンを受けながら援助方法について立案する。
3. 実習期間中に、実習指導者、病棟スタッフ、教員が参加するケースカンファレンスを開催し、事例に関するアセスメントおよび援助方法について報告し、討論を行う。そこで得られた意見にもとづき、さらに洗練させる。

【事前学習】教科書を熟読し、コンサルテーション及びコーディネーションについて要点をノートにまとめておく。

【事後学習】受け持った患者の事例を、ケースレポートにまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習場所：日本赤十字社医療センター等
2. 実習期間：2年次の9月（うち施設での実習は5日間）
3. 実習時間：原則として、日勤帯（8時30分～16時30分）。ただし施設の状況に合わせて、変更することもありうる。
実習の詳細については、後日、オリエンテーション時に説明する。

■ 教科書

アントン・オブホルツァー、ヴェガ・ザジェ・ロバーツ編／武井麻子監訳／榎 恵子、他訳(2013). 組織のストレスとコンサルテーション対人援助サービスと職場の無意識. 第1版. 金剛出版.

■ 参考書、参考資料等

1. 日本専門看護師協会監修 宇佐美しおり・野末聖香編集(2009). 精神看護スペシャリストに必要な理論と技法. 第1版. 日本看護協会出版会.
2. Ann B. Hamric, PhD, RN, FAAN, Charlene M. Hanson, EdD, RN, CS, FNP, FAAN, Mary Fran Tracy, PhD, RN, CCNS, FAAN and Eileen T. O'Grady (2014) Advanced Practice Nursing, 5th Edition. Saunders.

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ及び精神保健看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを受講していること。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み…40%
2. 発表・討論…30%
3. レポート…30%

■ オフィスアワー・研究室等

毎週1回、実習の振り返りの中で質問を受け付けるほか、学内実習日の12:30～13:00、18:00～18:30。

鷹野研究室(428)、堀井研究室(427)、古城門研究室(412)。

随時、電子メールでの質問や相談を受け付ける。

■ 受講上の注意事項

つねに問題意識を失わず、多角的な面からその問題について考えていくこと。

■ その他

HMMN281

地域・在宅看護学特講Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ、中島 朋子

■ 授業の目的

在宅療養者の看護計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程を展開する。療養上複雑で多様な課題を持ち保健医療福祉支援の必要な在宅療養者とその家族、およびこれらの人々を支える保健医療福祉に携わるケア提供者に対して、在宅療養者への看護過程の展開に活用できる理論やモデルを応用して、セルフケア、家族、生活環境をアセスメントし、倫理的判断・臨床的判断を総合して問題解決方法を提案し、効果的な看護実践が実施できる。その際の効果的なコミュニケーションについて、理解し、実践することができる。

■ 到達目標

1. 在宅療養者の看護計画の立案と実践・評価を含めた在宅看護過程が展開できる。
2. 在宅療養者への看護過程の展開に活用できる理論やモデルを応用して、セルフケア、家族、生活環境をアセスメントできる。
3. 療養上複雑で多様な課題を持つ療養者等の保健医療福祉支援を必要とする在宅療養者とその家族及びケア提供者について、倫理的判断・臨床的判断を総合して問題解決方法を提案することができる。
4. 看護実践を行う際の基本となる効果的なコミュニケーションについて理解し、学習したコミュニケーションスキルを用いて、効果的な問題解決を行うための看護実践が実施できる。

■ 学習の進め方

本授業は、講義及び演習形式で行う。地域で展開される在宅療養者とその家族の事例検討を行いながら発表と討議を行い、学びを統合してレポート作成を行う。

※原則、課題提出や遠隔授業方式(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)を進める。

【事前学習】在宅看護過程について学習して望む

【事後学習】在宅看護過程の特徴や具体的な解決方を考察する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、在宅看護過程の基本特性①	講義・演習	石田・井口・吉川・月野木
2	在宅看護過程の基本特性②	講義・演習	石田・井口
3	在宅看護課程の基盤となる在宅医療福祉に関する制度や資源①	講義・演習	石田・井口
4	在宅看護過程の基盤となる在宅医療福祉に関する制度や資源②	講義・演習	石田・井口
5	在宅看護の倫理的課題	講義・演習	石田・井口
6	在宅看護場面における倫理的臨床的課題に基づく臨床的判断	講義・演習	石田・井口
7	多職種の役割理解とコミュニケーション①	講義・演習	石田・井口
8	多職種の役割理解とコミュニケーション②	講義・演習	石田・井口
9	事例検討①：複数疾患をもち機能低下の見られる高齢二人暮らしの療養者	演習	石田・井口
10	事例検討①：複数疾患をもち機能低下の見られる高齢二人暮らしの療養者	演習	石田・井口
11	事例検討②：早期退院を希望する医療依存度の高い多職種連携の必要な一人暮らしの療養者	演習	石田・井口
12	事例検討②：早期退院を希望する医療依存度の高い多職種連携の必要な一人暮らしの療養者	演習	石田・井口
13	事例検討③：家族の介護放棄や虐待が疑われる、意思決定能力が低い療養者	演習	石田・井口
14	事例検討③：家族の介護放棄や虐待が疑われる、意思決定能力が低い療養者	演習	石田・井口
15	在宅看護における多職種連携	講義	中島

■ 教科書

各自の興味・関心に応じた書物や文献を使用するため、教科書は用いない

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する

■ フィードバックの仕方

レポートはコメントをつけて、後期科目第 1 回目の授業に返却する

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学演習Ⅰ～Ⅳ、地域・在宅看護学実習Ⅰ～Ⅲの基礎的な学習となる

■ 成績評価の仕方

授業の取り組み 50 %、レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:30。石田(432)、井口(452)、吉川(425)、月野木(424)

■ 受講上の注意事項

講義受講、事例検討の発表と討議への積極的な参加と意欲的自主的な学びを期待します。

■ その他

HMCH100

地域・在宅看護学特講Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○井口 理、石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ、関根 光枝

■ 授業の目的

多様な健康レベルの人の在宅移行可能性を推進するために、関連する保健医療福祉の諸制度や歴史を概観し、質の高い在宅看護を提供するために必要な知識であるケアマネジメント、関係機関・職種の役割と関係性を学ぶ。幅広い在宅看護における活動の展望を見据え、地域における活動の現状の分析を行い、生活の質を重視した退院支援・調整、地域のネットワーク構築方法や制度について深く学習する。

■ 到達目標

1. 多様な健康レベルの人の在宅生活に関わる保健医療システムの現状と課題を広い視点から捉え探求する能力を身につける。
2. 地域に生活する人々をありのままに認め、在宅移行可能性を推進する方策を倫理観をもとに探求する能力を身につける。
3. 保健医療福祉システムにおける各領域の役割を理解し、各専門職や地域住民との連携、協働および、システムにおける自身の役割を發揮する能力を身につける。

■ 学習の進め方

授業の展開：本授業では、内容ごとに講義、発表、討議を取り入れて行う。地域における実践、研究能力を高めるため、世の中の出来事を反映した事例、文献等を使用しながら発表と討議を行う。

※原則、課題提出や遠隔授業方式(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)で進める。

【事前学習】地域包括ケアシステムについて学習して臨む

【事後学習】社会背景によって変化してきた在宅ケアニーズと、対応する対策や制度を関連付けて学習する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、地域における看護活動の歴史	講義・討論	石田・井口・吉川・月野木
2	地域における保健医療福祉の構造と課題	発表・討論	石田・井口
3	在宅療養生活を支える地域の社会資源の役割と課題 1：在宅療養に直接関わる人と機関(訪問看護・リハビリ職・介護・ケアマネジャー)	発表・討論	石田・井口
4	在宅療養生活を支える地域の社会資源の役割と課題 2：医療機関、退院支援部門	発表・討論	関根
5	在宅療養生活を支える地域の社会資源の役割と課題 3：行政機関(障害者自立支援法、難病対策、介護保険などの制度で利用可能なサービスとシステム)	発表・討論	石田・井口
6	在宅療養生活を支える地域の社会資源の役割と課題 4：療養者家族の背景と資源(NPO・学校保健・産業保健・セルフヘルプグループ)	講義・討論	石田・井口
7	活動の展開 1：対象の現状と理解	発表・討論	石田・井口
8	活動の展開 2：人権尊重と権利保障	発表・討論	石田・井口
9	活動の展開 3：診療報酬と介護保険制度①	講義	石田・井口
10	活動の展開 4：診療報酬と介護保険制度②	講義・討論	石田・井口
11	活動の展開 5：ケアマネジメント①	発表・討論	石田・井口
12	活動の展開 6：ケアマネジメント②	発表・討論	石田・井口
13	個別ケアから地域包括ケアシステム①	発表・討論	石田・井口
14	個別ケアから地域包括ケアシステム②	発表・討論	石田・井口
15	まとめと展望	討論	石田・井口・吉川・月野木

■ 教科書

各自の興味・関心に応じた書物や文献を使用するため、教科書は特に指定しない

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する

■ フィードバックの仕方

レポートはコメントをつけて、後期科目第 1 回目の授業に返却する

■ 他の授業科目との関連

この科目は在宅看護専門看護師課程の必修科目となっている

■ 成績評価の仕方

授業への取り組み 50 %、レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:10 石田(432)、井口(452)、吉川(425)、月野木(424)

■ 受講上の注意事項

活動の展開 3・4 診療報酬と介護保険制度については、外部講師のもとで学習・討論する

■ その他

HMCH101

地域・在宅看護学特講Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○吉川 悦子、井口 理、石田 千絵、月野木 ルミ、秋山 正子

■ 授業の目的

在宅療養者の健康と生活に活用できる理論やモデルを用いて、生活、医療、福祉の視点からアセスメントし、健康・生活課題を明らかにする能力を養う。また、セルフケア能力への働きかけ、支持的サポートネットワークの構築、その人らしくあり続けることへの支援のあり方を考える。

■ 到達目標

1. 課題や研究に取り組むための基礎的能力として理論やモデルの活用、検討をすることができる。
2. 地域で暮らす療養者、家族を対象に、様々な支援者と展開する看護活動における様々な課題を広い視点から捉え、解決に向けて探求することができる。

■ 学習の進め方

各回、発表と討論を行う。学生が各回のテーマに即して国内外の研究や文献について分析し発表資料を作成する。学生の発表をもとに全員で討論する。

【事前学習】 地域・在宅・公衆衛生看護に関連する理論やモデルの基礎知識を学習して臨む。

【事後学習】 各回で学んだモデルや理論を比較していき、利点や課題について整理する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション・理論とは何か	講義、討論	吉川
2	在宅療養者の健康状態をアセスメントする尺度：栄養、清潔、移動、排泄、呼吸、精神状態、ADL	発表、討論	吉川・石田・月野木・井口
3	セルフケアの理論	発表、討論	吉川
4	ICF モデル	発表、討論	吉川
5	生活環境アセスメントのモデル	発表、討論	吉川
6	ソーシャルサポートの理論	発表、討論	吉川
7	ソーシャル・キャピタル	発表、討論	秋山・吉川・石田・月野木・井口
8	PDCA サイクルに基づく活動	発表、討論	吉川
9	在宅における看護診断モデル	発表、討論	吉川
10	最終発表に向けての中間発表・ミニ概念分析	発表、討論	吉川・石田・月野木・井口
11	最終発表に向けての中間発表・ミニ概念分析	発表、討論	吉川・石田・月野木・井口
12	諸外国の在宅看護モデル(1)	発表、討論	吉川・石田・月野木・井口
13	諸外国の在宅看護モデル(2)	発表、討論	吉川・石田・月野木・井口
14	最終発表：ミニ概念分析	発表、討論	吉川・石田・月野木・井口
15	最終発表：ミニ概念分析	発表、討論	吉川・石田・月野木・井口

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

鈴木和子・渡辺裕子(2012)家族看護学—理論と実践、日本看護協会出版会／アン・マリナー・トメイ、マーサ・レイラ・アリグッド(編)・都留伸子(訳) (2004) 看護理論家とその業績、医学書院／金川克子・田高悦子(編) (2011) 地域看護診断 第2版、東京大学出版会／大川弥生 (2004) 介護保険サービスとリハビリテーション—ICF に立った自立支援の理念と技法、中央法規出版／その他として各理論に関連する図書や論文を講義の中で紹介する

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、次年度授業開講までにコメントを付したレポートの個別返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学演習Ⅰ～Ⅱ、地域・在宅看護学実習Ⅰ～Ⅲの基礎的な学習となる

■ 成績評価の仕方

1. 発表(資料とプレゼンテーション) 60%、 2. 授業への取り組み 20% 3. 概念分析レポート 20%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30～12:50。吉川(425)

■ その他

HMCH150

地域・在宅看護学特講Ⅳ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○井口 理、石田 千絵、月野木 ルミ、吉川 悦子、中島 朋子、宮崎 和加子

■ 授業の目的

在宅看護の効果と根拠を考え、ケアの質の評価方法とケア効果を高める方略を、研究的手法を用いて探求する。
訪問看護事業所の開設、効率的な管理・運営および経営戦略について学ぶ。
さらに、地域包括ケアシステムにおける訪問看護の役割を広く探求する。

■ 到達目標

1. 在宅看護の質の評価方法や質改善の方法について研究的手法を用いて検討し、政策提言を含めて今後の方向性を提案 できる。
2. 安定した質の高い訪問看護事業所の管理・運営方法について検討し、提案できる。
3. 地域包括ケアシステムの現状と課題をふまえ、訪問看護及び CNS としての役割を考えることができる。

■ 学習の進め方

各回、発表と討論を行う。学生が各回のテーマに即して国内外の研究や施策の動向等について分析し発表資料を作成する。学生の発表をもとに全員で討論する。事後学習として、授業で学んだことに関する文献等の確認を行い学びを深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[90 分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	講義	井口・石田
2	在宅看護の効果と研究方法(1) 事前学修：[90 分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田
3	在宅看護の効果と研究方法(2) 事前学修：[90 分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田
4	在宅ケアの質管理(1)：日本の在宅ケアの質の評価方法 事前学修：[90 分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田
5	在宅ケアの質管理(2)：諸外国の在宅ケアの質の評価方法 事前学修：[90 分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田
6	在宅ケアの質管理(3)：質管理と質改善 事前学修：[90 分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田
7	訪問看護事業所の管理・運営(1)：財務管理 事前学修：[90 分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田
8	訪問看護事業所の管理・運営(2)：人材育成 事前学修：[90 分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田・吉川・月野木
9	訪問看護事業所の管理・運営(3)：情報管理と安全管理 事前学修：[90 分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田・吉川・月野木
10	訪問看護事業所の開設と経営戦略(1) 事前学修：[90 分] 自分の考える訪問看護事業所開設企画案を考え、発表資料をまとめる 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	宮崎・井口・石田・吉川・月野木
11	訪問看護事業所の開設と経営戦略(2) 事前学修：[90 分] 自分の考える訪問看護事業所開設企画案を考え、発表資料をまとめる 事後学修：[90 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	宮崎・井口・石田・吉川・月野木

No	内容	形式	教員
12	訪問看護事業所の管理・運営・経営戦略 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田・吉川・月野木
13	地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割(1) 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	井口・石田・吉川・月野木
14	地域包括ケアシステムにおける在宅看護の役割(2) 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討論	中島・井口・石田・吉川・月野木
15	総括 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	講義、発表、討論	井口・石田・吉川・月野木

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

日本訪問看護財団(2012). 新版訪問看護ステーション開設・運営・評価マニュアル第2版. 日本看護協会出版会.

■ フィードバックの仕方

各授業回で行うプレゼンテーション後に、配布資料およびプレゼンテーションに関する評価内容を直接フィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学実習Ⅲの基礎的な学習となる。

■ 成績評価の仕方

1. 発表(資料とプレゼンテーション) 70% 2. 授業への取り組み 30%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30~13:00 石田(432)、吉川(425)、月野木(424)

■ 受講上の注意事項

わかりやすい資料作成とプレゼンテーションを心がけ、発表担当者は十分な準備の上発表に臨んでください。また活発なディカッションができるように、十分に予習して臨んでください。

■ その他

HMCH151

地域・在宅看護学特講V

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○月野木 ルミ、井口 理、石田 千絵、吉川 悦子

■ 授業の目的

公衆衛生看護における実践、研究及び教育能力を高めるための諸理論を学び、事例検討や既存の研究のクリティークによって公衆衛生の視点から広く地域における保健活動や教育の現状を分析し、広く学修する。専門職としてのキャリアを可視化する諸理論についても学び、これからのキャリアや役割について考える。

■ 到達目標

1. 公衆衛生看護分野における実践について広い視点から捉え説明できる
2. 人々の健康な暮らしを支える制度や資源の現状と課題と対策について説明できる
3. 日本の保健医療福祉システムと公衆衛生看護の役割について先を見通し説明できる

■ 学習の進め方

授業は、講義・討議形式で行い、学生が公衆衛生看護分野における実践活動について整理し文献とあわせ作成した資料を提示してプレゼンテーションを行い、それをもとに討議する。適宜、歴史的資料や様々な実践記録資料を参照し、公衆衛生看護および保健師の役割やキャリアについて検討する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション(公衆衛生看護の諸側面) 事前学修：[90分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	講義	全員
2	日本の公衆衛生看護活動の歴史 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
3	公衆衛生看護活動を支える理論1 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
4	公衆衛生看護活動を支える理論2 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
5	公衆衛生看護活動における社会資源と連携1 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
6	公衆衛生看護活動における社会資源と連携2 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
7	公衆衛生看護活動の現状と課題1 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
8	公衆衛生看護活動の現状と課題2 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
9	公衆衛生看護教育の変遷 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
10	諸外国における公衆衛生看護1 事前学修：[90分] 自分のテーマに関連する論文を読み、発表資料をまとめる 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
11	諸外国における公衆衛生看護2 事前学修：[90分] 自分のテーマに関する論文を読み、発表資料をまとめる 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員

No	内容	形式	教員
12	公衆衛生看護実践と研究の融合 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
13	公衆衛生看護職としてのキャリアをデザインする 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
14	学習する組織 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表・討論	全員
15	まとめ：討議 事前学修：[90分] 各自のテーマに関わる国内外の文献を読み発表資料を作成する 事後学修：[90分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	全員

■ 教科書

特に使用しない

■ 参考書、参考資料等

エリザベス・Tアンダーソンら編、金川克子、早川和生監訳(2007). コミュニティ・アズ・パートナー. 医学書院

■ フィードバックの仕方

各授業回のプレゼンテーション後に、配布資料およびプレゼンテーションに関する評価内容を直接フィードバックする

■ 他の授業科目との関連

公衆衛生看護領域(行政・産業・学校)を専門とする学生向けの科目です

■ 成績評価の仕方

1. 発表内容 70% 2. 授業への取り組み 30%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30~13:00 月野木(424)、石田(432)、吉川(425)

■ その他

HMCH152

地域・在宅看護学演習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ、山口 潔

■ 授業の目的

医療的ケアの必要な療養者の医療処置、看護、療養者・家族への指導、多職種連携に関する実践方法及び課題について、文献検討やフィールドワークを通じて明らかにする。また、エビデンスに基づいた高度な看護実践を展開するための方略について探求する。

■ 到達目標

1. 医療的ケアの方法とそのエビデンスについて説明できる
2. 医療的ケアが必要な療養者と家族へのケア方法と課題について説明できる。
3. 医療的ケアが必要な療養者と家族について、健康や生活に関する理論やモデル、倫理的視点などから包括的にアセスメントし、看護を考えることができる。
4. 既存の研究やフィールドワークを通して、高度な看護実践を展開するための方略を検討し提案することができる。

■ 学習の進め方

医療的ケアの必要な療養者への看護に関する文献検討を行い、資料を作成し討論する。文献検討・討論及び自身のこれまでの看護実践をもとに課題を設定し、フィールドワークを行う。フィールドワークを通して学んだことをもとに討論し、考察を深め、レポートを作成する。

【事前学習】 医療ケアの必要な対象者への看護について学習して臨む

【事後学習】 フィールドワークの事例を文献を用いて検討しまとめる

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	石田・井口
2	医療的ケア(人工呼吸器、中心静脈栄養、褥瘡など)の方法や効果に関する研究のまとめ①	演習	石田・井口・吉川・月野木
3	医療的ケア(人工呼吸器、中心静脈栄養、褥瘡など)の方法や効果に関する研究のまとめ②	演習	石田・井口・吉川・月野木
4	医療的ケア(人工呼吸器、中心静脈栄養、褥瘡など)の方法や効果に関する研究のまとめ③	演習	石田・井口・吉川・月野木
5	医療的ケア(人工呼吸器、中心静脈栄養、褥瘡など)の方法や効果に関する研究のまとめ④	演習	石田・井口・吉川・月野木
6	医療的ケアの必要な療養者と家族へのケアに関する文献検討①	演習	石田・井口・吉川・月野木
7	医療的ケアの必要な療養者と家族へのケアに関する文献検討②	演習	石田・井口・吉川・月野木
8	医療的ケアの必要な療養者と家族へのケアに関する文献検討③	演習	石田・井口
9	医療的ケアの必要な療養者と家族へのケアに関する文献検討④	演習	石田・井口
10	発表と討議、フィールドワークの目標設定①	演習	石田・井口
11	発表と討議、フィールドワークの目標設定②	演習	石田・井口
12	フィールドワーク1：複数の医療ニーズをもち家族介護力のあるつ事例①	演習	山口
13	フィールドワーク1：複数の医療ニーズをもち家族介護力のあるつ事例②	演習	石田・井口
14	フィールドワーク1：複数の医療ニーズをもち家族介護力のあるつ事例③	演習	石田・井口
15	フィールドワーク1：複数の医療ニーズをもち家族介護力のあるつ事例④	演習	石田・井口
16	フィールドワーク1：複数の医療ニーズをもち家族介護力のあるつ事例⑤	演習	石田・井口
17	フィールドワーク2：医療処置が必要だが家族介護力が低い事例①	演習	石田・井口
18	フィールドワーク2：医療処置が必要だが家族介護力が低い事例②	演習	石田・井口
19	フィールドワーク2：医療処置が必要だが家族介護力が低い事例③	演習	石田・井口
20	フィールドワーク2：医療処置が必要だが家族介護力が低い事例④	演習	石田・井口
21	フィールドワーク2：医療処置が必要だが家族介護力が低い事例⑤	演習	石田・井口
22	フィールドワーク3：医療処置が必要な独居生活者の事例①	演習	石田・井口

No	内容	形式	教員
23	フィールドワーク3：医療処置が必要な独居生活者の事例②	演習	石田・井口
24	フィールドワーク3：医療処置が必要な独居生活者の事例③	演習	石田・井口
25	フィールドワーク3：医療処置が必要な独居生活者の事例④	演習	石田・井口
26	フィールドワーク3：医療処置が必要な独居生活者の事例⑤	演習	石田・井口
27	文献検討と事例のまとめ①	演習	石田・井口
28	文献検討と事例のまとめ②	演習	石田・井口
29	発表と討議、まとめ①	演習・発表	石田・井口・吉川・月野木
30	発表と討議、まとめ②	演習・発表	石田・井口・吉川・月野木

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

演習発表時に直接フィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学実習Ⅰの基礎的な学習となる

■ 成績評価の仕方

1. 取り組み 50%、 2. 発表資料とレポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:00。フィールドワーク中は、メールや電話で随時対応。石田(432)、井口(○)、吉川(425)、月野木(424)

■ その他

HMCH180

地域・在宅看護学演習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ、秋山 正子

■ 授業の目的

終末期における的確なニーズの把握とケア実践方法、緩和ケアによる QOL の向上および家族支援の方法と課題について、経過時期、ライフステージ別に文献検討やフィールドワークを通じて明らかにする。また、エビデンスに基づいた高度な看護実践を展開するための方略について探求する。

■ 到達目標

1. 終末期にある療養者の症状緩和の方法とそのエビデンスについて説明できる。
2. 終末期にある療養者や家族の心理社会的支援、意思決定支援とチームケアのあり方について説明できる。
3. 既存の研究やフィールドワークを通して、経過時期別、ライフステージ別のニーズ及びケア方法について考えることができる。

■ 学習の進め方

終末期にある療養者と家族に関する文献検討を行い、資料を作成し討論する。文献検討・討論及び自身のこれまでの看護実践をもとに課題を設定し、フィールドワークを行う。フィールドワークを通して学んだことをもとに討論し、考察を深め、レポートを作成する。

【事前学習】終末期における在宅看護に関する文献をまとめる

【事後学習】フィールドワークを通して学んだ内容と文献を統合し記述する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	石田、井口
2	終末期にある療養者の症状緩和についてのエビデンスのまとめ(疼痛、呼吸困難、食欲不振など)①	演習	石田、井口
3	終末期にある療養者の症状緩和についてのエビデンスのまとめ(疼痛、呼吸困難、食欲不振など)②	演習	石田、井口
4	終末期にある療養者の症状緩和についてのエビデンスのまとめ(疼痛、呼吸困難、食欲不振など)③	演習	石田、井口
5	終末期にある療養者の症状緩和についてのエビデンスのまとめ(疼痛、呼吸困難、食欲不振など)④	演習	石田、井口
6	終末期にある療養者と家族へのケアについての文献検討(意思決定支援を含む)①	演習	石田、井口
7	終末期にある療養者と家族へのケアについての文献検討(意思決定支援を含む)②	演習	石田、井口
8	終末期にある療養者と家族へのケアについての文献検討(意思決定支援を含む)③	演習	石田、井口
9	終末期にある療養者と家族へのケアについての文献検討(意思決定支援を含む)④	演習	石田、井口
10	文献検討の発表と討議、 フィールドワークの目標設定①	演習	石田、井口、吉川、月野木
11	文献検討の発表と討議、 フィールドワークの目標設定②	演習	石田、井口、吉川、月野木
12	フィールドワーク1：終末期患者を支える居場所①	講義・演習	秋山
13	フィールドワーク1：終末期患者を支える居場所②	講義・演習	秋山
14	フィールドワーク1：終末期患者を支える居場所③	演習	石田、井口、吉川、月野木
15	フィールドワーク1：終末期患者を支える居場所④	演習	石田、井口、吉川、月野木
16	フィールドワーク1：終末期患者を支える居場所⑤	演習	石田、井口
17	フィールドワーク2：(各自の目的に沿って設定)①	演習	石田、井口
18	フィールドワーク2：(各自の目的に沿って設定)②	演習	石田、井口
19	フィールドワーク2：(各自の目的に沿って設定)③	演習	石田、井口
20	フィールドワーク2：(各自の目的に沿って設定)④	演習	石田、井口
21	フィールドワーク2：(各自の目的に沿って設定)⑤	演習	石田、井口
22	文献検討のまとめ①	演習	石田、井口、吉川、月野木

No	内容	形式	教員
23	文献検討のまとめ②	演習	石田、井口、吉川、月野木
24	フィールドワークと文献検討の統合①(ケアの工夫や時期別のニーズ整理、看護計画、実践方法、意思決定支援等)	演習	石田、井口
25	フィールドワークと文献検討の統合②(ケアの工夫や時期別のニーズ整理、看護計画、実践方法、意思決定支援等)	演習	石田、井口
26	フィールドワークと文献検討の統合③(ケアの工夫や時期別のニーズ整理、看護計画、実践方法、意思決定支援等)	演習	石田、井口
27	フィールドワークと文献検討の統合④(ケアの工夫や時期別のニーズ整理、看護計画、実践方法、意思決定支援等)	演習	石田、井口
28	フィールドワークと文献検討の統合⑤(ケアの工夫や時期別のニーズ整理、看護計画、実践方法、意思決定支援等)	演習	石田、井口
29	発表、討論、まとめ①	演習・発表	石田、井口、吉川、月野木
30	発表、討論、まとめ②	演習・発表	石田、井口、吉川、月野木

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

演習テーマにもとづいた資料や文献を適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

演習発表の際に、直接フィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学実習Ⅱの基礎的な学習となる

■ 成績評価の仕方

1. 取り組み 50%、 2. レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:00。フィールドワーク中は、メールや電話で随時対応。石田(432)、吉川(425)、月野木(424)

■ 受講上の注意事項

1. フィールドワーク 1：終末期患者を支える居場所①～⑤は、マギーズ東京で実施する。
2. フィールドワーク 1については別途レポート作成をし、マギーズ東京の秋山先生にも提出する。

■ その他

HMCH181

地域・在宅看護学演習Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ、鈴木 央

■ 授業の目的

在宅における終末期ケアや医療的ケアを必要とする症候について、診断・治療(検査方法、処置、対症療法、薬物療法等)を学び、在宅療養者が安全で安楽な生活を送ることができるためのキュアとケアを統合した高度な看護実践能力を養う。

■ 到達目標

1. 終末期ケアや医療的ケアを必要とする症候について、診断・治療(検査方法、処置、対症療法、薬物療法等)について説明できる。
2. 急変時や症状出現時に対して初期対応ができる。
3. 在宅療養者とその家族の生活を含めて、治療方法の妥当性や適用性についてアセスメントし、実践方法を考えることができる。

■ 学習の進め方

在宅療養支援に必要な様々な病態に関する診断・治療方法等について講義をうける。さらに、具体的な事例をもとに必要な診断・治療方法を考える演習を行う。キュアとケアの統合の観点から、効果的なチーム医療の実践方法についてディスカッションする。

【事前学習】終末期ケアや医療的ケアの看護について復習して臨む

【事後学習】終末期ケアや医療的ケアの診断・治療を看護にどの様に活かすか考察する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	石田・井口
2	在宅における終末期の診断・治療・症状管理①	演習	鈴木・石田・井口・吉川・月野木
3	在宅における終末期の診断・治療・症状管理②	講義	鈴木・石田・井口・吉川・月野木
4	在宅における褥瘡・皮膚疾患の診断・治療・症状管理①	演習	石田・井口・吉川・月野木
5	在宅における褥瘡・皮膚疾患の診断・治療・症状管理②	講義	鈴木・石田・井口・吉川・月野木
6	在宅における認知症の診断・治療・症状管理①	演習	石田・井口・吉川・月野木
7	在宅における認知症の診断・治療・症状管理②	講義	鈴木・石田・井口・吉川・月野木
8	在宅における呼吸器・循環器疾患の診断・治療・症状管理①	演習	石田・井口・吉川・月野木
9	在宅における呼吸器・循環器疾患の診断・治療・症状管理②	講義	鈴木・石田・井口・吉川・月野木
10	在宅における神経難病の診断・治療・症状管理①	演習	石田・井口・吉川・月野木
11	在宅における神経難病の診断・治療・症状管理②	講義	鈴木・石田・井口・吉川・月野木
12	フィールドワーク1：診断・治療・症状管理のアセスメント①	演習	石田・井口
13	フィールドワーク1：診断・治療・症状管理のアセスメント②	演習	石田・井口
14	フィールドワーク1：診断・治療・症状管理のアセスメント③	演習	石田・井口
15	フィールドワーク1：診断・治療・症状管理のアセスメント④	演習	石田・井口
16	フィールドワーク1：診断・治療・症状管理のアセスメント⑤	演習	石田・井口
17	フィールドワーク1：診断・治療・症状管理のアセスメント⑥	演習	石田・井口

No	内容	形式	教員
18	フィールドワーク2：診断・治療・症状管理におけるチームケア①	演習	石田
19	フィールドワーク2：診断・治療・症状管理におけるチームケア②	演習	石田
20	フィールドワーク2：診断・治療・症状管理におけるチームケア③	演習	石田
21	フィールドワーク2：診断・治療・症状管理におけるチームケア④	演習	石田
22	フィールドワーク2：診断・治療・症状管理におけるチームケア⑤	演習	石田
23	フィールドワーク2：診断・治療・症状管理におけるチームケア⑥	演習	石田・井口
24	フィールドワーク3：診断、治療、症状管理における看護①	演習	井口
25	フィールドワーク3：診断、治療、症状管理における看護②	演習	井口
26	フィールドワーク3：診断、治療、症状管理における看護③	演習	井口
27	フィールドワーク3：診断、治療、症状管理における看護④	演習	井口
28	フィールドワーク3：診断、治療、症状管理における看護⑤	演習	井口
29	フィールドワーク3：診断、治療、症状管理における看護⑥	演習	石田・井口
30	まとめ、発表、討論	演習・発表	石田・井口

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

演習の発表時に直接フィードバックする

■ 他の授業科目との関連

本科目の学びを地域・在宅看護学実習Ⅲ(Ⅲ-1)へ活用する。

■ 成績評価の仕方

1. 取り組み 50%、 2. レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:00。フィールドワーク中はメールや電話で随時対応。石田(432)、井口(○)、吉川(425)、月野木(424)

■ 受講上の注意事項

フィールドワークは医院で連日実施し、講義・演習は、週に一度、6～7限の開講とする。実施日時は、講師と院生との調整で決定する。

■ その他

HMCH182

地域・在宅看護学演習Ⅳ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○井口 理、石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ、秋山 正子、宮崎 和加子

■ 授業の目的

公衆衛生看護における実践の基礎となる地域診断を行い、地域特性を明らかにし、問題解決策を検討することで、地域づくりの視点を養う

■ 到達目標

1. 地域アセスメントの方法を知り、実際に地域診断を行うことができる。
2. 地域の特性と課題に対し、地域の問題を解決する方法を検討することができる。
3. 地域特性に応じて看護が関わられる内容を具体的に考えることができる。

■ 学習の進め方

フィールドワークを通して、都内と地方の特性に応じた地域づくりの実践を学ぶ。さらに、地域を選択して地域診断を行い、課題解決の方策を検討し、発表、討論を通して学びを深める。

【事前学習】コミュニティ・アズ・パートナーモデルについて学習する

【事後学習】地域包括ケアシステムに寄与する訪問看護師の可能性を考察する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	石田・井口
2	地域診断①	講義	石田・井口
3	地域診断②	講義	石田・井口
4	フィールドワーク1：都内における地域づくり①	講義、演習	秋山
5	フィールドワーク1：都内における地域づくり②	演習	石田・井口
6	フィールドワーク1：都内における地域づくり③	演習	石田・井口
7	フィールドワーク1：都内における地域づくり④	演習	石田・井口
8	フィールドワーク1：都内における地域づくり⑤	演習	石田・井口
9	フィールドワーク2：地方における地域づくり①	講義・演習	宮崎
10	フィールドワーク2：地方における地域づくり②	講義・演習	宮崎
11	フィールドワーク2：地方における地域づくり③	演習	石田
12	フィールドワーク2：地方における地域づくり④	演習	石田
13	フィールドワーク2：地方における地域づくり⑤	演習	石田
14	フィールドワーク3：地方における地域づくり①	演習	石田
15	フィールドワーク3：地方における地域づくり②	講義	宮崎・石田
16	フィールドワーク3：地方における地域づくり③	演習	宮崎・石田
17	フィールドワーク3：地方における地域づくり④	演習	宮崎・石田・吉川・月野木
18	フィールドワーク1～3のまとめ、発表、討論	演習、討論	石田・吉川・月野木
19	フィールドワーク1～3のまとめ、発表、討論	演習、討論	石田・吉川・月野木
20	フィールドワーク4：地域診断①	演習	石田・井口
21	フィールドワーク4：地域診断②	演習	石田・井口
22	フィールドワーク4：地域診断③	演習	石田・井口
23	フィールドワーク4：地域診断④	演習	石田・井口
24	フィールドワーク4：地域診断⑤	演習	石田・井口
25	フィールドワーク4：地域診断⑥	演習	石田・井口
26	フィールドワーク4：地域診断⑦	演習	秋山・石田・吉川・月野木

No	内容	形式	教員
27	フィールドワーク4：地域診断⑧	演習	石田・吉川・月野木
28	発表、討論、まとめ①	演習、発表	石田・吉川・月野木
29	発表、討論、まとめ②	演習、発表	石田・吉川・月野木
30	総括	発表、討論	石田・吉川・月野木

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する

■ フィードバックの仕方

演習発表時に直接フィードバックする

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学実習Ⅴの基礎的な学習となる。また、看護師の視野を拡大できる発展的な内容となる。

■ 成績評価の仕方

1. 演習発表 50 % 2. レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12：30～13：00 石田(432)、吉川(425)、月野木(424)フィールドワーク中は、メールや携帯電話で適宜対応する。

■ 受講上の注意事項

1. フィールドワーク1は、暮らしの保健室(新宿区)で実施する。
2. フィールドワーク2・3は、だんだん会(北杜市)で2日連続で実施する。費用は自費とする。宿泊も通学も可能。
3. フィールドワーク毎に、レポート作成をし、暮らしの保健室の秋山先生とだんだん会の宮崎先生にも提出する。

■ その他

HMCH183

地域・在宅看護学特別研究Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

地域包括ケア推進における各職種の役割を踏まえ、地域・在宅看護学における課題を、既存の研究やフィールドワークを通して明らかにする。その中から自らの研究課題及び研究方法を検討し、専門職としての探究能力を養う。

■ 到達目標

1. 地域・在宅看護学における様々な課題を文献検討やフィールドワークから整理し論理的に説明することができる。
2. 地域・在宅看護学における自らの研究課題について、背景や研究の意義をふまえて焦点化することができる。
3. 課題解決に向けて研究能力や実践方法を探求する姿勢を身につけることができる。

■ 学習の進め方

既存の研究やフィールドワークから課題を設定し、資料を作成し、討議する。

【事前学習】 関心のあるテーマに関わる論文を読む

【事後学習】 自分自身の研究に活かせる内容を考察する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	全員
2	地域・在宅看護学領域の文献検討と討論①	発表・討論	全員
3	地域・在宅看護学領域の文献検討と討論②	発表・討論	全員
4	地域・在宅看護学領域の文献検討と討論③	発表・討論	全員
5	地域・在宅看護学領域の文献検討と討論④	発表・討論	全員
6	地域・在宅看護学領域の文献検討と討論⑤	発表・討論	全員
7	地域・在宅看護学領域の文献検討と討論⑥	発表・討論	全員
8	地域・在宅看護学領域の文献検討と討論⑦	発表・討論	全員
9	地域・在宅看護学領域の文献検討と討論⑧	発表・討論	全員
10	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討と明確化①	発表・討論	全員
11	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討と明確化②	発表・討論	全員
12	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討と明確化③	発表・討論	全員
13	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討と明確化④	発表・討論	全員
14	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討と明確化⑤	発表・討論	全員
15	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討と明確化⑥	発表・討論	全員
16	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討と明確化⑦	発表・討論	全員
17	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討と明確化⑧	発表・討論	全員
18	研究課題の明確化①	発表・討論	全員
19	研究課題の明確化②	発表・討論	全員
20	研究課題の明確化③	発表・討論	全員
21	研究課題の明確化④	発表・討論	全員
22	研究課題の明確化⑤	発表・討論	全員
23	研究方法の検討①	発表・討論	全員
24	研究方法の検討②	発表・討論	全員
25	研究方法の検討③	発表・討論	全員
26	研究方法の検討④	発表・討論	全員
27	研究計画書の作成①	発表・討論	全員
28	研究計画書の作成②	発表・討論	全員
29	研究倫理審査書の作成①	発表・討論	全員
30	研究倫理審査書の作成②	発表・討論	全員

■教科書

特になし

■参考書、参考資料等

適宜提示する

■フィードバックの仕方

ゼミ資料について、適宜フィードバックする

■他の授業科目との関連

地域・在宅看護学特別研究Ⅱの基礎的な学習となる

■成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50%、 2. 研究計画書 50%

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:00。石田 (432)、吉川 (425)、月野木 (424)

■受講上の注意事項

1. 修士2年と合同で実施する。修士2年からアドバイスをもらいつつ学習をすすめながら、自分自身の経験や気づきを修士2年生に伝える。
2. 1回/月は博士からアドバイスを受けることができる合同ゼミとする。

■その他

HMCH184

地域・在宅看護学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

地域看護学・在宅看護学における各自の研究課題について探求し、研究能力を育成する。

■ 到達目標

修士論文の完成をめざし、研究計画書に沿って、データ収集、分析をすすめる。

■ 学習の進め方

演習、討議

【事前学習】自分自身が明らかにしたいテーマを明らかにする

【事後学習】自分の研究に活かせる内容を考察する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	調査の準備①	発表、討議	全員
2	データ収集①	発表、討議	全員
3	データ収集②	発表、討議	全員
4	データ収集③	発表、討議	全員
5	データ収集④	発表、討議	全員
6	データ収集、データ分析①	発表、討議	全員
7	データ収集、データ分析②	発表、討議	全員
8	データ収集、データ分析③	発表、討議	全員
9	データ収集、データ分析④	発表、討議	全員
10	データ収集、データ分析⑤	発表、討議	全員
11	データ収集、データ分析⑥	発表、討議	全員
12	データ収集、データ分析⑦	発表、討議	全員
13	データ収集、データ分析⑧	発表、討議	全員
14	データ収集、データ分析⑨	発表、討議	全員
15	データ収集、データ分析⑩	発表、討議	全員
16	データ収集、データ分析⑪	発表、討議	全員
17	データ収集、データ分析⑫	発表、討議	全員
18	データ収集、データ分析⑬	発表、討議	全員
19	データ収集、データ分析⑭	発表、討議	全員
20	データ収集、データ分析⑮	発表、討議	全員
21	データ収集、データ分析⑯	発表、討議	全員
22	データ収集、データ分析⑰	発表、討議	全員
23	データ収集、データ分析⑱	発表、討議	全員
24	データ収集、データ分析⑲	発表、討議	全員
25	データ収集、データ分析⑳	発表、討議	全員
26	データの分析、整理①	発表、討議	全員
27	データの分析、整理②	発表、討議	全員
28	データの分析、整理③	発表、討議	全員
29	データの分析、整理④	発表、討議	全員
30	まとめ	発表、討議	全員

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

随時、紹介する

■ フィードバックの仕方

ゼミ資料について、ゼミ内外で直接フィードバックする

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学特別研究Ⅰの終了が履修要件

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み、プレゼンテーション 50 %、 2. 研究の洗練度 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:00。石田(432)、吉川(425)、月野木(424)

■ 受講上の注意事項

1. 修士 1 年と合同で実施する。後輩指導を通して学習を深める。
2. 1 回/月は博士からアドバイスを受けることができる合同ゼミとする。

■ その他

HMCH280

地域・在宅看護学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

自らが焦点化した研究課題に基づいて、収集したデータの分析方法・整理と解釈を行い、論文としてまとめていくための研究能力を育成する。

■ 到達目標

1. 地域・在宅看護学における研究課題に基づいて収集したデータを分析する。
2. データの整理とその解釈を行い、結果と考察を記述する。
3. 論文の全体構成を考える。
4. データと倫理の整合性について考える。
5. 論文作成を行う。
6. 論文発表の準備を行う。

■ 学習の進め方

演習、発表、討議

【事前学習】自分自身の課題を明確にして臨む

【事後学習】討論の内容を自分の研究に活かす

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	データ収集、分析、整理	発表・討議	全員
2	データの整理、分析と討議①	演習・発表・討議	全員
3	データの整理、分析と討議②	演習・発表・討議	全員
4	データの整理、分析と討議③	演習・発表・討議	全員
5	データの整理、分析と討議④	演習・発表・討議	全員
6	データの整理、分析と討議⑤	演習・発表・討議	全員
7	データの整理、分析と討議⑥	演習・発表・討議	全員
8	データの解釈と討議①	演習・発表・討議	全員
9	データの解釈と討議②	演習・発表・討議	全員
10	データの解釈と討議③	演習・発表・討議	全員
11	データの解釈と討議④	演習・発表・討議	全員
12	データの解釈と討議⑤	演習・発表・討議	全員
13	データの解釈⑥/考察と討議①	演習・発表・討議	全員
14	データの解釈⑦/考察と討議②	演習・発表・討議	全員
15	データの解釈⑧/考察と討議③	演習・発表・討議	全員
16	考察と討議④	演習・発表・討議	全員

No	内容	形式	教員
17	考察と討議⑤	演習・発表・討議	全員
18	考察と討議⑥	演習・発表・討議	全員
19	考察と討議⑦	演習・発表・討議	全員
20	考察と討議⑧	演習・発表・討議	全員
21	論文の全体構成の討議①	演習・発表・討議	全員
22	論文の全体構成の討議②	演習・発表・討議	全員
23	論文の全体構成の討議③	演習・発表・討議	全員
24	論文の全体構成の討議④	演習・発表・討議	全員
25	論文作成①	演習・発表・討議	全員
26	論文作成②	演習・発表・討議	全員
27	論文作成③	演習・発表・討議	全員
28	論文作成④	演習・発表・討議	全員
29	論文発表①	演習・発表・討議	全員
30	論文発表②	演習・発表・討議	全員

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

随時、紹介する

■ フィードバックの仕方

ゼミ資料は、ゼミの内外で直接フィードバックする

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学特別研究ⅠとⅡを終えていることが履修要件である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み、プレゼンテーション 50 %、 3. 論文の洗練度、発表準備の洗練度 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:00。石田(432)、吉川(425)、月野木(424)

■ 受講上の注意事項

1. 考察のために、改めて新しい国内外の文献も読む
2. 1回/月に修士1年と博士との合同ゼミの場とする

■ その他

HMCH281

地域・在宅看護学実習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：3 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

医療的ケアが必要な療養者と家族へのケアの実践を通し、卓越した実践、連絡調整、倫理的問題の調整の能力を高める。医療処置の管理、リスク管理(感染、褥瘡、転倒など)についてのアセスメントや看護実践能力を習得する。また、医療と介護を含むチームケアの向上のための連携、教育、相談における在宅看護専門看護師としての能力を習得する。さらに、看護実践に対する分析を通し、研究的視点から在宅看護専門看護師としての役割を探究する。

■ 到達目標

1. 医療的ケアが必要な療養者と家族への看護実践を臨床的判断・倫理的判断に基づき分析できる。
2. 医療的ケアが必要な療養者と家族に対し、ケアとキュアを融合した包括的アセスメント、ケアマネジメント、医療処置の管理やリスク管理のための高度な看護実践ができる。
3. 倫理的問題について分析し、解決方法を提案できる。
4. 関連機関との調整、社会資源の開発、継続看護などのネットワークの構築に関する高度な実践能力を習得する。
5. 質の高い在宅チームケアを提供するための看護職及び他職種への教育や相談活動方法を理解できる。
6. 看護実践の向上のために必要な研究課題について考えることができる。

■ 学習の進め方

自己の実習課題を明確化して実習施設と相談しながら実習計画を立案する。実習を通して、実習指導者(専門看護師や認定看護師、訪問看護事業所管理者など)及び大学教員のスーパービジョンを受ける。実習では、医療的ケアの必要な療養者と家族を担当し、包括的アセスメント、ケアの実践、他職種との連絡調整、倫理的調整などを実践する。事例検討や勉強会など看護師等への教育活動の企画から実施までの過程に参加する。また、看護師や他職種からの相談業務を実習指導者の指導を受けながら実践する。

【事前学習】医療処置、リスク管理について学習して臨む

【事後学習】実習で学んだ内容や疑問を国内外の文献を用いて考察する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習施設：原則として指定の訪問看護ステーション

実習時期：3 週間程度の実習を8～9月に実施する。具体的な実習時期は、実習施設と相談して決定する。

学習内容：複数の事例の同行訪問・見学をし、ケアの実際を学ぶ。また、担当事例において、アセスメントやケア、他職種への連絡調整など主体的に実施する。事例検討会を立案、実施し、ケアを評価する(詳細は実習要項を参照)。また、CNS の役割や地域への貢献についても考察する。

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

適宜提示する

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学特講Ⅰ～Ⅲ、地域・在宅看護学演習Ⅰの学習内容の理解に基づき、より発展的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 50%、
2. レポート・実習記録 50%

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中の 12：30～13：00。臨地実習中は、メールや電話で随時対応する。石田(432)、吉川(425)、月野木(424)

■ その他

HMCH185

地域・在宅看護学実習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：3 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

終末期ケアが必要な療養者と家族へのケアの実践を通し、卓越した実践、連絡調整、倫理的問題の調整の能力を高める。身体面・心理面・社会面・精神面を包括的にアセスメントし QOL を高めるための看護実践能力を習得する。また、医療と介護を含むチームケアの向上のための連携、教育、相談における在宅看護専門看護師としての能力を習得する。さらに、看護実践に対する分析を通し、研究的視点から在宅看護専門看護師としての役割を探求する。

■ 到達目標

1. 終末期ケアが必要な療養者と家族への看護実践を臨床的判断・倫理的判断に基づき分析できる。
2. 終末期ケアが必要な療養者と家族に対し、ケアとキュアを融合した包括的アセスメント、ケアマネジメント、身体・心理・社会・精神面のアセスメントに基づいた QOL 向上のための高度な看護実践ができる。
3. 倫理的問題について分析し、解決方法を提案できる。
4. 関連機関との調整、社会資源の開発、継続看護などのネットワークの構築に関する高度な実践能力を習得する。
5. 質の高い在宅チームケアを提供するための看護職及び他職種への教育や相談活動方法を理解できる。
6. 看護実践の向上のために必要な研究課題について考えることができる。

■ 学習の進め方

自己の実習課題を明確化して実習施設と相談しながら実習計画を立案する。実習を通して、実習指導者(専門看護師や認定看護師、訪問看護事業所管理者など)及び大学教員のスーパービジョンを受ける。実習では、終末期ケアの必要な療養者と家族を担当し、包括的アセスメント、ケアの実践、他職種との連絡調整、倫理的調整などを実践する。事例検討や勉強会など看護師等への教育活動の企画から実施までの過程に参加する。また、看護師や他職種からの相談業務を実習指導者の指導を受けながら実践する。

【事前学習】終末期に関わる医療と看護について学習して臨む

【事後学習】実習で学んだ内容や疑問を国内外の文献を用いて考察する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習施設：原則として指定の訪問看護ステーション。

実習時期：3 週間程度の実習を行う。具体的な実習時期は、実習施設と相談して決定する。

学習内容：複数の事例の同行訪問・見学をし、ケアの実際を学ぶ。また、担当事例において、アセスメントやケア、他職種への連絡調整など主体的に実施する。事例検討会を立案、実施し、ケアを評価する(詳細は実習要項を参照)。また、死を間近にした当人や残された家族を地域で支える仕組みについても考察する。

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

適宜提示する。

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学特講Ⅰ～Ⅲ、地域・在宅看護学演習Ⅱの学習内容の理解に基づき、より発展的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 50%、
2. レポート・実習記録 50%

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中の 12:30～13:00。臨地実習中は、メールや電話で随時対応する。石田(432)、吉川(425)、月野木(424)

■ その他

HMCH186

地域・在宅看護学実習Ⅲ-1 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

在宅看護領域における実践、他機関・多職種との連絡調整、倫理的問題の調整の能力を高めることを目指して、実習を行う。この実習では、病院内の退院支援・退院調整部門において、退院後も医療的ケアや終末期ケアを必要とする入院患者とその家族を受け持ち、在宅移行に向けた高度な看護実践を行う。また、在宅療養生活支援における多職種他機関によるチーム医療の展開に参加し、在宅看護専門看護師として連携・調整に関わりながら在宅医療のチームアプローチが促進できるような能力を養う。

■ 到達目標

1. 病院に入院中の患者のうち、退院後も医療的ケアや終末期ケアを必要とする入院患者とその家族に対して、包括的なアセスメントを行い、それに基づいて退院支援計画を立案・実施・評価することができる。
2. 患者やその家族の特性やニーズに応じた、病院内外の各専門職との連絡・調整方法を理解する。
3. 医療的ケアや終末期ケアが必要な在宅療養者に対する診断・治療・症状管理の一連の過程を理解する。
4. 在宅療養者の問題の早期発見から症状管理、及び QOL 向上のためのチームアプローチ方法について提案できる。
5. 在宅移行期や在宅チーム医療において生じる倫理的問題を理解し、その解決方法について提案できる。

■ 学習の進め方

退院支援部門では、患者・家族への退院支援の実際や、病院内外の調整業務を見学し、実際のアプローチ方法を学ぶ。さらに、医療的ケアや終末期ケアを必要とする入院患者と家族を担当し、退院計画の立案・実施・評価を行う。診療所(訪問診療)では、医師の訪問診療に他職種(薬剤師、地域包括支援センター、歯科、介護施設など)による支援の場、担当者会議などの会議に参加し、医療的ケアや終末期医療における症状管理、意思決定支援、多職種連携のあり方を学ぶ。

【事前学習】 チーム医療について、学習して臨む

【事後学習】 実習で学んだ内容や疑問を国内外の文献を用いて考察する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

病院の退院支援・退院調整部門 ②訪問診療を実施している医療機関

スケジュール：①②各 1 週間程度の実習を行う。

具体的な時期は、施設と相談して決定するが、目安は5月中旬～6月中旬である。

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

適宜提示する。

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学特講Ⅱ～Ⅳ、地域・在宅看護学演習Ⅰ～Ⅳの学習内容の理解に基づき、より発展的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 50%、2. レポート・実習記録 50%

■ オフィスアワー・研究室等

学内実習日の 12:30～13:00。石田 (432)、吉川 (425)、月野木 (424)

■ その他

HMCH282

地域・在宅看護学実習Ⅲ-2 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

訪問看護事業所の効果的な管理・運営、訪問看護サービスの質改善方法について理解し、組織マネジメントのための実践能力を習得する。

■ 到達目標

1. 訪問看護事業所の管理・運営の実践について分析できる。
2. 訪問看護事業所の開設・経営から評価までの各段階を理解し、地域特性を踏まえた経営戦略を考えることができる。
3. 看護の質を、ストラクチャー・プロセス・アウトカムの側面から評価する方法を理解する。
4. 看護の質に関する現状の課題を分析し、改善への方略を検討することができる。
5. 地域包括ケアシステムにおける訪問看護及び専門看護師の役割を考えることができる。

■ 学習の進め方

退院支援部門では、患者・家族への退院支援の実際や、病院内外の調整業務を見学し、実際のアプローチ方法を学ぶ。さらに、医療的ケアや終末期ケアを必要とする入院患者と家族を担当し、退院計画の立案・実施・評価を行う。診療所(訪問診療)では、医師の訪問診療に他職種(薬剤師、地域包括支援センター、歯科、介護施設など)による支援の場、担当者会議などの会議に参加し、医療的ケアや終末期医療における症状管理、意思決定支援、多職種連携のあり方を学ぶ。

また、訪問看護ステーションの管理・運営、ケアの質管理の課題と管理についても学習する。

【事前学習】 チーム医療や訪問看護ステーションの管理運営について、学習して臨む

【事後学習】 実習で学んだ内容や疑問を国内外の文献を用いて考察する

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

訪問看護ステーション

スケジュール：2 週間程度の実習を行う。

具体的な時期は、施設と相談して決定するが、7 月中を目安とする。

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

最終カンファレンスで直接口頭でフィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

地域・在宅看護学特講Ⅱ～Ⅳ、地域・在宅看護学演習Ⅰ～Ⅳの学習内容の理解に基づき、より発展的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 50%、2. レポート・実習記録 50%

■ オフィスアワー・研究室等

学内実習日の 12:30～13:00。石田 (432)、吉川 (425)、月野木 (424)

■ その他

HMCH283

看護教育学特講Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○佐々木 幾美

■ 授業の目的

看護学教育について基本的な原理、教育制度、教育史、教育内容及び方法等の視点から分析する。また、関心のある教育現象や問題の事実から「看護教育学」の研究領域、研究対象を検討し考察を深める。

■ 到達目標

1. 看護学教育にかかわる教育法規を述べることができる。
2. 日本の看護教育制度の歴史の変遷と特色を述べるができる。
3. 諸外国の看護教育制度の歴史の変遷と特色を述べるができる。
4. 日本と諸外国の高度実践看護師の教育制度について述べるができる。
5. 日本の看護学教育の現状と課題について考察することができる。

■ 学習の進め方

1. 授業について

Glexa と Teams を活用した授業を行う。

(1) 講義

授業で使用する講義資料は Glexa にアップロードするので、事前に配信される講義資料をダウンロードして読み、事前課題に取り組む。授業は Teams で同時双方向型の授業を行う。説明の後に質疑応答やディスカッションを行い、理解を深める。授業後に事後課題に取り組む。

通信環境の問題で Teams に参加できない場合には、Glexa によるオンデマンド型の授業とする。質問事項へのフィードバックは Glexa もしくはメールで行う。

- ・事前課題：講義資料に目を通し、疑問に思ったことを Glexa にて提出する。提出期限は授業前週の金曜日とする。
- ・事後課題：授業の中で考えたことについて、A4 用紙 800～1600 字にまとめて Glexa にて提出する。提出期限は次回授業の前日とする。

(2) 発表(プレゼンテーション)

プレゼンテーション担当者は、使用するレジュメ資料を前週の木曜日までに Teams にアップロードする(アップロードができない場合には佐々木まで相談する)。

参加者はアップロードされた資料を事前に読んでおく。授業は Teams で同時双方向型の授業を行う。説明の後に質疑応答やディスカッションを行い、理解を深める。授業後に事後課題に取り組む。

- ・事後課題：授業の中で考えたことについて、A4 用紙 800～1600 字にまとめて Glexa にて提出する。提出期限は次回授業の前日とする。

(3) まとめ

各自が事前課題として、これまで学習した内容から、看護学教育とその課題について、疑問に思ったことや考えたことを、1600～3200 字程度にまとめて Glexa にて提出する。提出期限は授業前週の金曜日とする。

授業では各自がその内容を Teams で共有しながら発表し、ディスカッションを行い、理解を深める。授業後、その内容をもとに、レポート課題に取り組む。

2. 自宅学習課題について

自宅学習課題については、2020 年 5 月 15 日までに Glexa で提出する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自宅学習課題	自宅学習	佐々木
2	自宅学習課題	自宅学習	佐々木
3	自宅学習課題	自宅学習	佐々木
4	オリエンテーション	講義・討論	佐々木
5	看護学教育とは	講義・討論	佐々木
6	看護教育制度と教育法規	講義・討論	佐々木
7	日本の看護教育制度の歴史の変遷及びその特色と課題①	講義・討論	佐々木
8	日本の看護教育制度の歴史の変遷及びその特色と課題②	講義・討論	佐々木
9	日本の高度実践看護師の教育制度①	講義・討論	佐々木
10	日本の高度実践看護師の教育制度②	発表・討論	佐々木
11	諸外国の看護教育制度の歴史の変遷及びその特色と課題①	発表・討論	佐々木
12	諸外国の看護教育制度の歴史の変遷及びその特色と課題②	発表・討論	佐々木
13	諸外国の高度実践看護師の教育制度①	発表・討論	佐々木

No	内容	形式	教員
14	諸外国の高度実践看護師の教育制度②	発表・討論	佐々木
15	看護学教育とその課題	発表・討論	佐々木

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

看護行政研究会編(2020). 令和2年度版看護六法, 新日本法規.
その他の参考文献は、随時提示する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

看護教育制度を扱う点で、看護教育学特講Ⅱ～Ⅵまでの基盤となる科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度および事前・事後課題の提出 30 % 2. プレゼンテーションへの取組 30 % 3. レポート課題 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問、相談を受け付ける。それ以外には、メールにて随時、質問、相談を受け付ける。
メールは i-sasaki@redcross.ac.jp まで。必要時には Teams を設定する。

■ 受講上の注意事項

看護教育に関する行政の動きや法規に基づいた解釈を行うが、その基礎となる明治以降の社会の動きや歴史について学習を進めておく
とよい。

■ その他

HMNE100

看護教育学特講Ⅱ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

教育方法の基礎的理論を学習し、それを実際の看護教育現象に適用する場合の問題や課題を考察する。授業設計・授業分析について学び、講義・演習・実習指導について理解を深める。

■ 到達目標

1. 看護教育方法と看護教育評価の視点を述べることができる。
2. 教育技術・教育技法を考慮しながら、授業設定をし学習指導案を作成できる。
3. 実習指導のあり方について考察することができる。

■ 学習の進め方

1. 授業について

Glaxa と Teams を活用した遠隔授業を行う。

(1) Glaxa によるオンデマンド型授業

事前に教員から配信される講義資料を読み、それについて具体的な事象と結びつけながら理解を深める。事後課題を作成して期日までに必ず提出する。事後課題のフィードバックは、2回のオンデマンド型授業を終えた後、Teams による授業で行う。

・事後課題：授業の中で疑問に思ったこと、考えたことについて、A4 用紙 800～1600 字にまとめて Glaxa にて提出する。

(2) Teams による同時双方向型授業

事後課題で提出した疑問点や考えたことについて、ディスカッションを行う。それぞれの学生が体験してきたことを共有して学習を深める。

(3) Glaxa と Teams を併用した同時双方向型授業

事前に教員から配信される講義資料を読み、それについて事前課題に取り組む。授業は Teams で同時双方向型の授業を行う。事前課題で出された内容の質疑応答やディスカッションを行い、理解を深める。事後課題を作成して期日までに必ず提出する。

・事前課題：講義資料を読み、疑問に思ったことや話し合いたいことを A4 用紙 800 字以内で Glaxa にて提出する。Teams の各回フォルダにもアップする。

・事後課題：授業の中で疑問に思ったこと、考えたことについて、A4 用紙 800～1600 字にまとめて Glaxa にて提出する。

* オンデマンド型授業については、事後課題提出までに受講すること。双方向型授業については、時間割どりに開催する予定である。

2. 自宅学習課題について

2020 年 5 月 12 日(火) 12:00 までに提出すること。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自宅学習課題	自宅学習	佐々木・西田
2	自宅学習課題	自宅学習	佐々木・西田
3	自宅学習課題	自宅学習	佐々木・西田
4	オリエンテーション	Glaxa オンデマンド型授業	佐々木・西田
5	教育方法の概念と理論	Glaxa オンデマンド型授業	佐々木・西田
6	看護教育方法の視点①：教えることと学ぶこと	Glaxa オンデマンド型授業	佐々木・西田
7	これまでの内容に関する質疑応答、ディスカッション	Teams 双方向型授業	佐々木・西田
8	看護教育方法の視点②：わかることとできること	Glaxa と Teams の併用双方向型授業	佐々木・西田
9	教材研究	Glaxa と Teams の併用双方向型授業	佐々木・西田
10	授業設計と学習指導案の作成	Glaxa と Teams の併用双方向型授業	佐々木・西田

No	内容	形式	教員
11	教育技術、教育技法	Glexa と Teams の併用 双方向型授業	佐々木・西田
12	看護学教育評価	Glexa と Teams の併用 双方向型授業	佐々木・西田
13	臨地実習指導論：実習の位置づけと意義、学習環境としての条件	Glexa と Teams の併用 双方向型授業	佐々木・西田
14	実習指導の実際	Glexa と Teams の併用 双方向型授業	佐々木・西田
15	看護教育方法に関するまとめ	Glexa と Teams の併用 双方向型授業	佐々木・西田

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

参考文献については、随時提示する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特講Ⅵを受講する上での基礎的な知識を提供します。看護教育学実習Ⅰの基盤となる科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業の参加度および事前・事後課題の提出 40 % 2. レポート課題 60 %

■ オフィスアワー・研究室等

随時、Glexa およびメールで受け付ける。メールの場合は、佐々木(i-sasaki@redcross.ac.jp)、西田(t-nishida@redcross.ac.jp)まで。

■ 受講上の注意事項

看護基礎教育における教育方法だけでなく、継続教育でプログラムを企画・運営する上でも役立つ基本的な考え方を学ぶことができます。

■ その他

HMNE101

看護教育学特講Ⅲ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○西田 朋子

■ 授業の目的

- ・主に看護継続教育に応用するために、キャリアに関する諸理論や考え方を理解する。
- ・成人学習に関する諸理論や考え方を学び、看護学教育が展開される場(基礎教育・継続教育)に応用する基礎的能力を養う。

■ 到達目標

1. キャリアの概念について理解し、自らのキャリアを振り返ることを通して、看護継続教育における具体的なキャリア開発について検討することができる。
2. 成人学習者の特徴を理解し、説明することができる。
3. 成人学習者を支援する者の役割と学習環境を理解し、説明することができる。
4. キャリアおよび成人学習に関する考え方をもち、看護学教育を受ける対象者(看護学生・看護職者)に対するよりよい教育体制や学習環境について検討することができる。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：講義および学生のプレゼンテーション、討議により学びを深める。
プレゼンテーション担当者は課題内容(初回授業で提示)をまとめてプレゼンテーションを行う。
2. 参考資料の提示：授業内容に沿った文献を提示する。
3. 履修のために必要な事前・事後学習は、次の通り。
事前学習：文献の所定の場所を読み、討議に備える。
事後学習：授業資料と文献を読み直し、自身の経験と結びつける。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：生涯学習からみた看護学教育	講義	西田
2	成人学習者とその特徴：ノールズのアンドラゴジー	発表・討議	西田
3	キャリアと看護学教育①	講義・討議	西田
4	キャリアと看護学教育②	演習	西田
5	キャリアダイナミクスを基盤とした自己のキャリア分析①	演習	西田
6	キャリアダイナミクスを基盤とした自己のキャリア分析②	演習	西田
7	看護学教育におけるキャリア開発の現状と課題	演習	西田
8	成人学習理論①リフレクション	討議	西田
9	成人学習理論②リフレクション	講義・討議	西田
10	成人学習理論③経験学習	講義・討議	西田
11	成人学習理論④経験学習	講義・討議	西田
12	成人学習理論⑤状況的学習論	講義・討議	西田
13	成人学習理論⑥まとめ	講義・討議	西田
14	成人学習者の学びを支援・促進する支援者の役割と環境	講義・討議	西田
15	成人学習者の学びを支援する看護学教育の課題と展望	発表・討議	西田

■ 教科書

特定の教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

文献は、授業開始時および授業中に適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

レポートへのコメント

■ 他の授業科目との関連

- ・前期に開講されている看護教育論をより発展させた内容となります。履修した方は、その学びを思い出してください。
- ・これまでに自分が受けてきた(もしくは提供してきた)、看護学教育(基礎教育・継続教育)のことを思い出して臨んでください。

■ 成績評価の仕方

①授業への参加度 20%、②プレゼンテーション 30%、③レポート 50%(キャリア分析 20%、最終レポート 30%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 12:30～13:00：西田研究室(435 研究室)

■ 受講上の注意事項

提示した文献は、プレゼンターだけでなく受講者全員が読んだうえで参加し、討議できるような準備をして臨んでください。
この授業では、自分自身のキャリアの分析にも取り組みます。

■ その他

HMNE150

看護教育学特講Ⅳ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○佐々木 幾美

■ 授業の目的

教育経営の基礎理論を通して、看護学教育の目的を達成するための教育環境の整備について、看護学教育機関の具体的な運営等を学び、さらに看護学教育の現状の分析と課題を明らかにする。

■ 到達目標

1. 組織の構造と機能について説明できる。
2. 学校組織と学校経営について説明できる。
3. 学校経営と経営参加について説明できる。
4. 組織におけるリーダーシップについて考察できる。
5. 学校経営の視点から看護学教育の課題について考察することができる。

■ 学習の進め方

学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいてディスカッションし、学習を深める。

授業内容及びスケジュールについては、学生の希望及び反応により、漸次修正する。

事前学習：授業のテーマに沿った文献を精読する。資料を作成し発表を行う。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについて確認をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	佐々木
2	教育法と関係法規にみる相互の関係	講義・討論	佐々木
3	高等教育としての看護学教育とその政策①	講義・討論	佐々木
4	高等教育としての看護学教育とその政策②	講義・討論	佐々木
5	組織の構造と機能①	発表・討論	佐々木
6	組織の構造と機能②	発表・討論	佐々木
7	学校組織と学校経営①	発表・討論	佐々木
8	学校組織と学校経営②	発表・討論	佐々木
9	学校経営と経営参加①	発表・討論	佐々木
10	学校経営と経営参加②	発表・討論	佐々木
11	組織におけるリーダーシップ論(人的管理・教師論)	発表・討論	佐々木
12	専門職組織としての大学	発表・討論	佐々木
13	大学教育のガバナンス	発表・討論	佐々木
14	学校経営の視点からみる現代の看護学教育の課題①	発表・討論	佐々木
15	学校経営の視点からみる現代の看護学教育の課題②	発表・討論	佐々木

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

看護行政研究会編(2020).2020年度版看護六法, 新日本法規.

参考文献は、随時提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特講Ⅰを履修してから受講の方が学習はスムーズですが、受講していない場合は相談ください。

看護教育学特講Ⅴ、看護教育学特講Ⅵと相互に関連する科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20%
2. プレゼンテーション内容 40%
3. レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 18:10～19:00. 佐々木(436 研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp まで。

■ その他
HMNE151

看護教育学特講Ⅴ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

教職の意義及び教師の役割、教師の職務内容をはじめ教育上の諸課題について、その方向性・展望などを考察する。教師に求められる資質能力とあわせ、今後特に教師に求められる具体的資質と能力とは何かについて、時代の変化に伴う社会的要求に基づき議論する。

■ 到達目標

1. 教職の意義と役割について述べるができる。
2. 専門職としての看護教員について考察することができる。
3. 看護教員に求められる資質能力について述べるができる。
4. 看護教員の職務内容と役割について述べるができる。
5. 看護教員の養成教育の現状と課題について述べるができる。

■ 学習の進め方

看護教員が抱える困難については、自己の経験した事例を紹介しながら、ディスカッションを進める。

学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいてディスカッションし、学習を深める。

授業計画及びスケジュールについては、学生の希望及び反応により、漸次修正する。

事前学習：授業のテーマに沿った文献を精読する。資料を作成し発表を行う。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについて確認をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	佐々木、西田
2	看護教員が抱える困難①	発表・討論	佐々木、西田
3	看護教員が抱える困難②	発表・討論	佐々木、西田
4	教育観と教職観	発表・討論	佐々木、西田
5	教職の意義と役割	発表・討論	佐々木、西田
6	専門職としての教師	発表・討論	佐々木、西田
7	教員の資質能力	発表・討論	佐々木、西田
8	看護の専門性	発表・討論	佐々木、西田
9	看護教員の職務内容と役割①	発表・討論	佐々木、西田
10	看護教員の職務内容と役割②	発表・討論	佐々木、西田
11	看護教員の養成教育の歴史的変遷	発表・討論	佐々木、西田
12	看護教員の養成教育の現状と課題	発表・討論	佐々木、西田
13	看護教員の研修、FD 活動	発表・討論	佐々木、西田
14	看護教員の評価	発表・討論	佐々木、西田
15	まとめ	討論	佐々木、西田

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

参考文献は、随時提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特講Ⅳ、看護教育学特講Ⅵと相互に関連した科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20%
2. プレゼンテーション内容 40%
3. レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:00。佐々木(436 研究室)、西田(435 研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp (佐々木)または t-nishida@redcross.ac.jp (西田)まで。

■ 受講上の注意事項

将来のキャリアとして、教員を考えている方は履修をお勧めします。

■ その他

HMNE152

看護教育学特講Ⅵ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○佐々木 幾美

■ 授業の目的

教育課程とは何か、誰がどのような手順で編成するのか、教師が果たすべき役割は何かなどの基本的課題を踏まえて、教育課程の編成と運用について、実践事例に基づき具体的に考察する。経験カリキュラムと教科カリキュラムに代表されるカリキュラムの基礎理論を理解する。また保健師助産師看護師学校養成所指定規則における教育の基本的な方向性を理解し、教育課程への影響について考察する。

■ 到達目標

1. 教育課程の定義や意義を述べることができる。
2. カリキュラムの基礎理論について説明することができる。
3. 教育課程編成の基本原則と原則を述べることができる。
4. 看護教育課程を実際に立案することができる。
5. 教育課程の評価について考察することができる。

■ 学習の進め方

学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいてディスカッションし、学習を深める。また、カリキュラム開発の実際として、グループワークにより、看護大学または看護専門学校のカリキュラムを作成するという課題を行う。

授業内容およびスケジュールについては、学生の希望および反応により、漸次修正する。

事前学習：授業のテーマに沿った文献を精読する。資料を作成し発表を行う。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについて確認をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	佐々木
2	教育課程の意義	講義・討論	佐々木
3	教育課程と法律	講義・討論	佐々木
4	カリキュラムの基礎理論	発表・討論	佐々木
5	教育課程(カリキュラム)編成の基本原則と原則①	発表・討論	佐々木
6	教育課程(カリキュラム)編成の基本原則と原則②	発表・討論	佐々木
7	教育課程の運営と評価①	発表・討論	佐々木
8	教育課程の運営と評価②	発表・討論	佐々木
9	カリキュラム開発の実際①：グループワーク	演習	佐々木
10	カリキュラム開発の実際②：グループワーク	演習	佐々木
11	カリキュラム開発の実際③：グループワーク	演習	佐々木
12	カリキュラム開発の実際④：グループワーク	演習	佐々木
13	カリキュラム開発の実際⑤：発表	発表・討論	佐々木
14	教育課程開発における今日的課題	発表・討論	佐々木
15	まとめ	討論	佐々木

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

看護行政研究会編(2020)．2020年度版看護六法，新日本法規。

参考文献については、随時提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特講Ⅰ、看護教育学特講Ⅱを履修してから受講する方が学習はスムーズですが、受講していない場合は相談ください。

看護教育学特講Ⅳ、看護教育学特講Ⅴと相互に関連する科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20%
2. プレゼンテーション内容 40%
3. 課題への取り組み・レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30～13:00。佐々木(436研究室)。メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jpまで

■ その他
HMNE153

看護教育学演習

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

看護教育学領域の研究課題について、国内外の文献レビューを行い、自らの研究課題に関連する研究の特徴とその課題を考察することができる。

■ 到達目標

1. 文献レビューの方法について説明することができる。
2. 手順に従って自分の研究課題に関連する研究論文を検索・入手することができる。
3. 研究論文の情報を一覧表に整理することができる。
4. 一覧表に整理した個々の研究を評価し、その情報を比較・対比することができる。
5. 自分の研究課題に関連する研究の特徴およびその課題を記述することができる。

■ 学習の進め方

文献レビューの方法に関する講義と演習により進める。

演習では学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいてディスカッションし、学習を深める。

授業内容及びスケジュールについては、学生の希望及び反応により、漸次修正する。

事前学習：自分の研究課題に沿った文献検索を行い、文献を精読する。資料を作成し発表を行う。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについて確認をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	佐々木・西田
2	文献レビュー・文献検索方法等について①	演習	佐々木・西田
3	文献レビュー・文献検索方法等について②	発表・討議	佐々木・西田
4	文献レビューとは・文献レビューの方法	発表・討議	佐々木・西田
5	文献の検索方法・文献整理の方法	発表・討議	佐々木・西田
6	関心領域の文献検索	演習	佐々木・西田
7	関心領域の文献検索結果①	発表・討議	佐々木・西田
8	関心領域の文献検索結果②	発表・討議	佐々木・西田
9	文献の要約①	発表・討議	佐々木・西田
10	文献の要約②	発表・討議	佐々木・西田
11	文献クリティークの方法①	発表・討議	佐々木・西田
12	文献クリティークの方法②	発表・討議	佐々木・西田
13	文献クリティーク	演習	佐々木・西田
14	文献クリティークの結果①	発表・討議	佐々木・西田
15	文献クリティークの結果②	発表・討議	佐々木・西田
16	文献クリティークの結果③	発表・討議	佐々木・西田
17	文献クリティークの結果④	発表・討議	佐々木・西田
18	関心領域の文献レビュー①	演習	佐々木・西田
19	関心領域の文献レビュー②	演習	佐々木・西田
20	関心領域の文献レビュー③	発表・討議	佐々木・西田
21	関心領域の文献レビュー④	演習	佐々木・西田
22	関心領域の文献レビュー⑤	演習	佐々木・西田
23	関心領域の文献レビューの記述①	発表・討議	佐々木・西田
24	関心領域の文献レビューの記述②	発表・討議	佐々木・西田
25	関心領域の文献レビューの記述③	発表・討議	佐々木・西田
26	関心領域の文献レビューの記述④	発表・討議	佐々木・西田
27	関心領域の文献レビューの記述⑤	発表・討議	佐々木・西田

No	内容	形式	教員
28	文献レビューの総括①	発表・討議	佐々木・西田
29	文献レビューの総括②	発表・討議	佐々木・西田
30	文献レビューの総括③	発表・討議	佐々木・西田

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書、参考資料等

大木秀一 (2013). 文献レビューの基本. 医歯薬出版株式会社

黒田裕子 (2017). 黒田裕子の看護研究 Step by Step 第 5 版. 医学書院

Burns, N. & Grove, S.K. (2005)/黒田裕子・中木高夫・小田正枝・逸見功監. 訳 (2015). バーンズ&グローブ看護研究入門原著第 7 版—実施・評価・活用—. エルゼビア・ジャパン.

Polit, D.F. & Beck, C.T. (2004)/近藤潤子監訳 (2010). 看護研究原理と方法第 2 版. 医学書院.

■ 他の授業科目との関連

特別研究の基盤となる科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20% 2. プレゼンテーション内容 40% 3. レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 12:30～13:00。佐々木(436 研究室)、西田(435 研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp (佐々木)、t-nishida@redcross.ac.jp (西田)まで。

■ その他

HMNE180

看護教育学特別研究Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

看護教育学の専門領域に関する重要課題を中心に、基礎的・応用的に文献学習を行うとともに、研究方法の基礎を修練し、自己の問題意識から研究課題を明確化しながら、研究計画の作成をする。

■ 到達目標

1. 看護学教育に関する、自らの今までの経験を振り返ることができる
2. 経験の振り返り等から、研究可能なテーマを見出すことができる
3. テーマに関連した文献検討や文献講読を行い、テーマに関連する周辺領域の理解を深め、説明することができる。

■ 学習の進め方

ゼミナール形式(学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学習を深める)。

授業内容及びスケジュールについては、学生の希望及び反応により、漸次修正する。

事前学習：研究課題に至る背景、問題意識を整理し、研究方法を選択し、計画書を作成する。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたことについて修正を加える。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	ガイダンス	講義	佐々木・西田
2	問題意識の明確化	演習	佐々木・西田
3	問題意識の明確化	演習	佐々木・西田
4	問題意識の明確化	演習	佐々木・西田
5	問題意識の明確化	演習	佐々木・西田
6	問題意識の明確化	演習	佐々木・西田
7	問題意識の明確化	演習	佐々木・西田
8	問題意識の明確化	演習	佐々木・西田
9	文献検討	演習	佐々木・西田
10	文献検討	演習	佐々木・西田
11	文献検討	演習	佐々木・西田
12	文献検討	演習	佐々木・西田
13	文献検討	演習	佐々木・西田
14	文献検討	演習	佐々木・西田
15	研究課題の検討・設定	演習	佐々木・西田
16	研究課題の検討・設定	演習	佐々木・西田
17	研究課題の検討・設定	演習	佐々木・西田
18	研究課題の検討・設定	演習	佐々木・西田
19	研究方法の検討	演習	佐々木・西田
20	研究方法の検討	演習	佐々木・西田
21	研究方法の検討	演習	佐々木・西田
22	研究方法の検討	演習	佐々木・西田
23	研究方法の検討	演習	佐々木・西田
24	研究方法の検討	演習	佐々木・西田
25	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
26	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
27	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
28	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
29	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
30	研究計画書作成	演習	佐々木・西田

■教科書

特になし

■参考書、参考資料等

参考文献は、随時提示する。

■他の授業科目との関連

看護教育学特別研究Ⅱ、看護教育学特別研究Ⅲの基盤となる科目です。

■成績評価の仕方

1. 授業参加度 40% 2. プレゼンテーション内容 60%

■オフィスアワー・研究室等

授業日の 12:30～13:00。佐々木(436 研究室)、西田(435 研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp (佐々木)または t-nishida@redcross.ac.jp (西田)まで。

■その他

HMNE181

看護教育学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

自己の研究課題の明確化にむけ、研究計画に基づいた具体的な研究方法の精練を図るため、あるいは研究を進める中で生ずる疑問や課題の解決のための討論を展開し、研究展開を推進する。フィールド調査から得られたデータを分析し、研究課題についての考察を深める。

■ 到達目標

自らの課題の沿った研究方法を明らかにし、研究の実施、結果の分析、評価及び考察をすることができる。

■ 学習の進め方

ゼミナール形式(学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学習を深める)。

授業内容及びスケジュールについては、学生の希望及び反応により、漸次修正する。

事前学習：研究計画書を作成する。それに基づいて収集したデータを資料として整理する。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたことについて修正を加える。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	ガイダンス	講義	佐々木・西田
2	研究計画書の修正	演習	佐々木・西田
3	研究計画書の修正	演習	佐々木・西田
4	研究計画書の修正	演習	佐々木・西田
5	研究計画書の修正	演習	佐々木・西田
6	研究計画書の修正	演習	佐々木・西田
7	研究計画書の修正	演習	佐々木・西田
8	研究計画書の修正	演習	佐々木・西田
9	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
10	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
11	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
12	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
13	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
14	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
15	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
16	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
17	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
18	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
19	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
20	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
21	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
22	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
23	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
24	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
25	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
26	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
27	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
28	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
29	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田
30	フィールドワーク・データ収集の経過報告およびデータの検討	演習	佐々木・西田

■教科書

特になし

■参考書、参考資料等

参考文献は、随時提示する。

■他の授業科目との関連

看護教育学特別研究Ⅰの学習に基づいて展開する科目です。

看護教育学特別研究Ⅲの基盤となる科目です。

■成績評価の仕方

1. 授業参加度 40% 2. プレゼンテーション内容 60%

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:00。佐々木(436 研究室)、西田(435 研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp または t-nishida@redcross.ac.jp まで。

■その他

HMNE280

看護教育学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

研究計画に基づき実施した調査結果をデータを分析し、結果の記述および考察を深める。

■ 到達目標

看護学教育に関連する社会状況を把握したうえで、専門的立場から看護学教育の現状について探究し、提言することができる。

■ 学習の進め方

ゼミナール形式(学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学習を深める)。

授業内容及びスケジュールについては、学生の希望及び反応により、漸次修正する。

事前学習：収集したデータを整理し分析をし、論文として作成する。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたことについて修正を加える。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	ガイダンス	講義	佐々木・西田
2	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
3	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
4	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
5	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
6	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
7	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
8	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
9	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
10	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
11	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
12	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
13	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
14	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
15	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
16	データ分析・フィールドワーク分析	演習	佐々木・西田
17	分析結果の記述	演習	佐々木・西田
18	分析結果の記述	演習	佐々木・西田
19	分析結果の記述	演習	佐々木・西田
20	分析結果の記述	演習	佐々木・西田
21	分析結果の記述	演習	佐々木・西田
22	分析結果の記述	演習	佐々木・西田
23	分析結果の記述	演習	佐々木・西田
24	分析結果の記述	演習	佐々木・西田
25	考察および論文作成	演習	佐々木・西田
26	考察および論文作成	演習	佐々木・西田
27	考察および論文作成	演習	佐々木・西田
28	考察および論文作成	演習	佐々木・西田
29	考察および論文作成	演習	佐々木・西田
30	考察および論文作成	演習	佐々木・西田

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

参考文献は、随時提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特別研究Ⅰおよび看護教育学特別研究Ⅱの学習に基づいて展開する科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 40% 2. プレゼンテーション内容 60%

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 12:30～13:00。佐々木(436 研究室)、西田(435 研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp または t-nishida@redcross.ac.jp まで。

■ その他

HMNE281

看護教育学実習Ⅰ

単位：3単位 履修年次：1年次 開講期：通年

〇佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

看護教育学の講義および演習の中から、特に、教育方法の領域である臨床指導方法について、自ら課題を見だし、指導の実際を通して探究することを目的とする。実習目標については、目的に鑑み、各自のこれまでの経験を振り返って設定する。

■ 到達目標

1. 実習という授業の位置づけを考慮し、その特徴を把握して、説明できる。
2. 現代学生の特性をふまえ、学生を理解し、指導上の留意点や工夫を考察できる。
3. 学生に必要な関わりについて考え、効果的な指導を身につける。
4. 実習環境を整えるうえでの、教員としての指導役割、また、臨床側(指導者、師長、病棟スタッフ)と役割分担について考察できる。
5. 看護実習指導を通して、既習の理論や文献を活用して理解を深め、自らの臨床指導上の課題を述べることができる。

■ 学習の進め方

臨床実習指導法に関する教育実習として位置付ける。

1. 事前学修

実習計画書を作成する。自己の学習課題等を明確にし、実習の目標、内容、方法について計画する。

2. 事前オリエンテーションへの参加

看護基礎教育の学生に対して学内で実施されるオリエンテーションに参加し、実習の概要や学生に向けたオリエンテーションの実際、指導者間の調整等を理解する。

3. 病棟実習

実習スケジュールについては、学生の実習スケジュールに準ずる(原則として、カンファレンス、ケース発表などにも参加する)。詳細については、実習オリエンテーション時に説明する。

4. 中間・最終報告会

自ら設定した実習目的、目標に沿って実習での学びを振り返り考察する。

5. 事後学修

自ら設定した実習目標の中で、興味・関心・疑問を持った事象や実習指導上の問題・課題等に焦点を当て、報告会での議論等を参考にしながら文献を活用して論理的にまとめ、提出する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

看護基礎教育の場における臨地実習1クール(3週間)の中で行う

実習期間：3週間

実習場所(予定)：日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院、大森赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院のいずれか

■ 教科書

特に指定はしない

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介するが、看護教育学特講Ⅱで紹介された文献を参考書として活用すること。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特講Ⅱでの学習を実際に展開する科目です。また、看護教育学特講Ⅳ～Ⅵの基盤となる科目になります。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み(実習記録を含む) 40%
2. プレゼンテーション内容 20%
3. レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

実習前後1週間の12:30~13:00。佐々木(436研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp または t-nishida@redcross.ac.jp まで。

■ その他

HMNE182

看護教育学実習Ⅱ

単位：3単位 履修年次：1・2年次 開講期：通年

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

看護教育学に関連した領域で、自ら設定した課題や疑問、関心のある現象について探究すること、また研究内容や方法の可能性について検討することを目的とする。

■ 到達目標

1. 看護学教育の諸理論を看護学教育の現場に応用することができる。
2. 自ら設定した課題や疑問、関心のある現象に関して探究するための方法を具体化することができる。
3. 自ら設定した課題や疑問、関心のある現象に関して実践的に解決するための方略を見出すことができる。

■ 学習の進め方

1. 事前学修：各自の実習目的、目標に沿って、実習場所や実習計画を決定する。受け入れ施設の担当者の方と連絡相談をし調整する。
2. 施設実習：調整が整った実習計画に基づいて実施する。実習期間中に何らかの問題が生じた場合、施設の担当者、学生、教員で連絡をとり、随時、話し合いをもつ。
3. 事後学習：実習内容に関する分析結果をレポートにまとめ、提出する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

個々人の計画により、決定する。

■ 教科書

特に指定はしない。

■ 参考書、参考資料等

自ら設定した課題や疑問、関心のある現象に関連する書籍等

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特講Ⅰ～Ⅵ、看護教育学演習の学習を実践的に学ぶ科目です。特別研究の基盤となる科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み(実習記録を含む) 50%
2. レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

実習前後 1 週間の 12:30～13:00。佐々木(436 研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp まで。

■ その他

HMNE183

看護管理学特講Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○安部 陽子

■ 授業の目的

看護管理学の理論基盤である組織行動学について学習し、組織内で人々が示す行動や態度に関する研究および実践への理論の適用を探究する。

■ 到達目標

- ・組織行動学の諸理論を説明することができる。
- ・組織行動学の諸理論を用いて問題事例を分析することができる。

■ 学習の進め方

事前学習：履修者は第1回目の授業で提示される、各回の必読文献を読んで組織行動学の理論を学習する。その後、同じく第1回目の授業で提示される、課題を行う。

授業中：組織行動学の理論を用いてテーマ別に提示された事例を分析・討議する。

事後学習：授業中に提示された課題を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	組織行動学とは何か	講義・演習・オンデマンド型	安部
2	態度	講義・演習・オンデマンド型	安部
3	パーソナリティー	講義・演習・オンデマンド型	安部
4	感情	演習・オンデマンド型	安部
5	認知過程	演習・オンデマンド型	安部
6	ダイバーシティ	演習・オンデマンド型	安部
7	モチベーション	演習・オンデマンド型	安部
8	グループとチーム	演習・オンデマンド型と同時双方向型のミックス	安部
9	コミュニケーション	演習・オンデマンド型	安部
10	リーダーシップ	演習・オンデマンド型	安部
11	パワーと政治	演習・オンデマンド型と同時双方向型のミックス	安部
12	対立	演習・オンデマンド型と同時双方向型のミックス	安部
13	組織構造	演習・オンデマンド型と同時双方向型のミックス	安部

No	内容	形式	教員
14	組織文化	演習・オンデマンド型と同時双方向型のミックス	安部
15	組織変革	演習・オンデマンド型と同時双方向型のミックス	安部

■ 教科書

Robbins, S. P., & Judge, T. A. (2017). Essentials of Organizational Behavior: Global Edition. Essex, England: Pearson Education.

■ 参考書、参考資料等

Robbins, S. P. (2005). /高木晴夫 (2009). 組織行動のマネジメント. 東京：ダイヤモンド社.

■ フィードバックの仕方

授業中に担当教員が課題へのフィードバックを行う。

レポートは採点后 5 週間以内を目安にコメントをつけて返却する。詳細はポータルで連絡する。

■ 他の授業科目との関連

看護管理特講Ⅲの基礎となる概念を学習する。

■ 成績評価の仕方

1. 発表 20 % 2. 課題への取り組み 60 % 3. レポート 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

原則として金曜日 12:20-12:40

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HMNM100

看護管理学特講Ⅱ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○安部 陽子

■ 授業の目的

保健医療福祉を取り巻く環境の急激な変化，すなわち疾病構造の変化，少子高齢化，経済環境の変化，意識の多様化，国際化等の中にある看護政策について分析・提言を行い，看護師として政策過程に参画する方法とその実際について学ぶ。

■ 到達目標

- ・自己の体験と，現在看護を取り巻く政策・政治の状況を関連付けることができる
- ・日本における政策の変遷と政策決定過程および政治過程を説明することができる
- ・看護職が，政策過程へ参画することの意義を認めることができる

■ 学習の進め方

事前学習：履修者には「教科書」の欄にあるとおり，第1回目の授業で各授業の前に読んでくる資料のリストを提示する。履修者はその資料を読んで看護政策立案のための仕組みと過程を学習し，基本的な看護政策に関する知識を得る。また，授業中に提示された課題を行う。

授業中：テーマ別に発表を行い，それをもとにクラスで討議をする。フィールドトリップ等による演習も行う。具体的な手順については第1回の授業で説明する。

事後学習：授業中に提示された課題を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	看護をとりまく政策・政治の状況	講義・演習	安部
2	政治過程への参画の実際：検討会等の傍聴	フィールドトリップ	安部
3	政策過程と政治過程	発表・討議	安部
4	政策過程への参画の実際：要望書の作成①	ロールプレイ・討議	安部
5	看護職者と政策	発表・討議	安部
6	保健師助産師看護師法とその課題	発表・討議	安部
7	看護師等の人材確保に関する法律とその課題	発表・討議	安部
8	看護教育の在り方	発表・討議	安部
9	政策過程への参画の実際：要望書の作成②	ロールプレイ・討議	安部
10	診療報酬とその課題	発表・討議	安部
11	地域包括ケアシステムと看護師の役割	発表・討議	安部
12	政治過程への参画の実際：経験者からの学び	講義	ゲストスピーカー・安部
13	政策過程への参画の実際：要望書の作成③	フィールドトリップ	安部
14	チーム医療と特定看護師	発表・討議	安部
15	参画事例の発表と討議	発表・討議	安部

■ 教科書

第1回目の授業で各授業の前に読んでくる資料のリストを提示する。

■ 参考書、参考資料等

なし

■ フィードバックの仕方

課題のフィードバックを授業中に行う。

■ 他の授業科目との関連

なし

■ 成績評価の仕方

1. 課題への取り組み 80 % 2. 討議の参加度 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が掲載された資料を配布する。

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HMNM150

看護管理学特講Ⅲ

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○古川 祐子

■ 授業の目的

課題を解決するために、既存のシステムのみならず新たなシステムを構築し、マネジメントできる方策について考察する。

■ 到達目標

- ・看護管理の基本となる諸理論及び看護管理過程について説明することができる。
- ・看護管理の本質と機能を探求し、看護管理者に求められる役割と責務について自分の意見を述べることができる。
- ・看護管理の視点からみた CNS 活用モデルについて自分の意見を述べるができる。

■ 学習の進め方

事前課題：授業前に提示された文献を読み、各回のテーマについての発表・討議の準備をする。

テーマは看護管理に関する概念・理論の中からテーマを選択する。詳細は第1回の授業で説明する。

授業中：看護管理をめぐる課題を創造的に探究する視点で討議を行う。

事後課題：授業中に提示された各回の課題を行い、授業内容に関する理解を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	看護管理概論	オンデマンド型	古川
2	看護管理者教育	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 講義・演習	古川
3	看護組織論	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
4	看護サービスマネジメント	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
5	看護安全・リスクマネジメント	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
6	看護における人的資源活用論①ー看護専門職のキャリア開発、人材育成、活用	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
7	看護における人的資源活用論②ー看護管理と労働法令、人事システムと賃金体系	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
8	看護情報管理論	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
9	看護経営・経済論	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川

No	内容	形式	教員
10	医療福祉の経営①	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
11	医療福祉の経営②	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
12	看護制度・政策論	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
13	アウトカムマネジメント	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
14	CNS 活用モデル	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
15	看護コンサルテーション	オンデマンド型・同時双方向型ミックス 講義・討議	古川

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第1巻 ヘルスケアシステム論. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第2巻 看護サービスの質管理. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第3巻 人材管理論. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第4巻 組織管理論. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第5巻 経営資源管理論. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 別巻 看護管理基本資料集. 日本看護協会出版会.
Eleanor J.Sullivan, Phillip J.Decker, (2017),Effective Leadership & Management in Nursing
AnneW.Wojner (2001)/井部俊子(2003). アウトカム・マネジメント. 日本看護協会出版会

■ フィードバックの仕方

コメント付きのレポートを返却する。

■ 他の授業科目との関連

看護管理学実習Ⅰの基盤となる。

■ 成績評価の仕方

1. クラスの参加度(20%)、2. 課題の取り組み(30%)、3. 最終レポート(50%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問を受け付ける。古川(556 研究室)

■ 受講上の注意事項

発表者は討議を深められるよう工夫する。発表者以外の履修者も文献や資料を事前に読み活発な討議に参加する。

■ その他

HMNM101

看護管理学特講Ⅳ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○古川 祐子、阪口 博政、渡邊 亮

■ 授業の目的

医療機関の管理者は、その運営状況を常に把握しておく必要があり、その指標となるのが財務・会計システムである。看護職者が医療機関の管理者として経営に参画する中、経営の指標ともなる財務・会計システムの知識を得ることは必須となる。そこで、これら財務・会計に関する基礎知識の習得および分析能力を養い、看護管理過程において経営の視点を統合できることを目的とする。

■ 到達目標

- ・ 経営的視点から、医療施設の現状を分析することができる。
- ・ 分析をもとに、看護経営戦略を立案することができる。

■ 学習の進め方

事前学習： 病院経営に関する資料を用意し、プレゼンテーションと討議の準備を行う。用意する資料についての詳細な説明は授業中に行う。

授業中： この授業では基本的な知識の理解及びプレゼンテーションと討議への適切なアドバイスを受けるための講師を招聘する。履修者は講師の講義を聞き、専門的な知識を身につける。また、病院経営に関する事例を用いたケース分析を行い、看護管理過程のシミュレーションを含めたプレゼンテーションと討議を行う。担当教員は授業の2日前までに、講義資料等を受講者に配布し活発な討議ができる環境を整える。

事後学習： 授業中に提示された課題を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	ガイダンス ケース分析①－ケース分析とは	講義	古川
2	病院経営・財務環境	講義	阪口
3	財務諸表の見方	講義	阪口
4	指標分析	講義	阪口
5	責任センター別管理会計①－管理会計とは	講義	阪口
6	責任センター別管理会計②－マネジメント・コントロールと責任センター	講義	渡邊
7	原価計算	講義	渡邊
8	BSC	講義	渡邊
9	社会の変化と医療・看護管理の動向(学術集会または専門職能団体等の検討会への参加)	フィールド・トリップ	古川
10	ケース分析②－ケース分析方法	発表・討議 講義	古川
11	ケース分析の実際①－医療施設の経営分析	発表・討議	古川
12	ケース分析の実際②－医療施設の経営戦略	発表・討議	古川
13	ケース分析の実際③－医療施設の経営戦略の提案	発表・討議	渡邊・古川
14	看護管理者の経営戦略①	講義・演習	古川
15	看護管理者の経営戦略②－医療施設の看護経営戦略の立案	発表・討議	古川

■ 教科書

夏休み前に提示予定

■ 参考書、参考資料等

井部俊子監修. 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第5巻 経営資源管理論. 日本看護協会出版会.

■ フィードバックの仕方

採点后、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

医療経済学と関連する。

■ 成績評価の仕方

1. 授業の参加度 20% 2. 課題の取り組み 30% 3. レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に教室で質問を受け付ける。 古川(556 研究室)

■ 受講上の注意事項

発表者以外の履修者も事前に資料を読み活発な討議に参加する。

■ その他

HMNM151

医療経済学

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○古川 祐子

■ 授業の目的

- (1)日本の医療制度が直面している問題を医療経済学という「ツール」を使って理解する。
- (2)看護にかかわる現実的な諸問題を医療経済学の視点から探求する。

■ 到達目標

- ・保健医療福祉システムについて、医療経済学の視点から説明することができる。
- ・看護にかかわる現実的な諸問題について、医療経済学の視点から意見を述べるができる。

■ 学習の進め方

事前課題：教科書の欄にある「河口洋行，医療経済学，日本評論社，2015」のどのページのどの回を読んでくるかを、第1回目の授業で教員が履修者に提示する。履修者は各回の授業前に、提示されたページを読み、医療制度と医療経済学の基礎理論を学習する。また、授業中に提示された各回の事前課題を行う。

授業中：発表者を中心に討議を行う。

事後課題：授業中に提示された各回の事後課題を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	経済理論の基礎(1)	オンデマンド型 演習	古川
2	ガイダンス・経済理論の基礎(2)	オンデマンド型 講義・演習	古川
3	医療制度の枠組みと政策課題	オンデマンド型 発表・討議	古川
4	医療における情報の非対称性	オンデマンド型 発表・討議	古川
5	医療サービスと自由競争	オンデマンド型 発表・討議	古川
6	かかりつけ医－エイジェンシー問題	オンデマンド型 発表・討議	古川
7	病床規制－供給者誘発需要仮説	オンデマンド型 発表・討議	古川
8	社会的入院	オンデマンド型 発表・討議	古川
9	公的医療保険はなぜ必要か	オンデマンド型 発表・討議	古川
10	保険償還の仕組みと経済的誘因	オンデマンド型 発表・討議	古川
11	混合診療解禁のメリット・デメリット	オンデマンド型 発表・討議	古川
12	医師不足・看護師不足	オンデマンド型 発表・討議	古川
13	臨床で経験した看護の課題(医療経済学の視点から)	オンデマンド型 演習	古川
14	終末期医療	オンデマンド型 発表・討議	古川
15	わが国の医療提供体制の展開	オンデマンド型・同時双方向 型ミックス 発表・討議	古川

■教科書

河口洋行、医療経済学、日本評論社、2015

■参考書、参考資料等

初回の授業で提示する。

■フィードバックの仕方

採点后、レポートを返却する。

■他の授業科目との関連

看護管理学特講Ⅳの基盤となる。

■成績評価の仕方

1. クラスの参加度(20%)、2. 発表内容(30%)、3. 最終レポート(50%)

■オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問を受ける。古川(556 研究室)

■受講上の注意事項

上記のとおり、教科書の欄にある「河口洋行、医療経済学、日本評論社、2015」のどのページをどの回に読んでくるかを、第1回目の授業で教員が履修者に提示する。発表者は討議が深められるよう工夫する。発表者以外の履修者も提示されたページを事前に読み活発な討議に参加する。

■その他

HMNM102

病院管理論

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○古川 祐子、寛 淳夫、加藤 明子、山本 康弘

■ 授業の目的

- (1)病院管理の基本となる基礎理論を学習する。
- (2)施設設計から見た病院管理について学習する。
- (3)病院創りを構想する。

■ 到達目標

- ・病院管理の基礎理論について説明できる。
- ・患者の安全・満足、多職種の効果的役割遂行、医療機器等の有効活用、法令遵守等さまざまな要求を実現するための施設設計について自分の意見を述べるができる。

■ 学習の進め方

事前課題： 授業前に提示された課題を行い、各回のテーマについての発表・討議の準備をする。詳細は第1回目の授業で説明を行う。

授業中： 病院管理の基礎理論に関するテーマについて発表と討議を行う。施設計画からみた病院管理については、専門家による講義を中心に学習を進める。

事後課題： 授業中に提示された課題を行い、授業内容に関する理解を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	ガイダンス、病院管理学概論	講義	古川
2	診療情報管理(1)－診療情報管理の基礎理論	講義	山本
3	診療情報管理(2)－診療情報管理の課題	講義・演習	山本
4	病院労務管理(1)－労務管理に関する法令	講義	加藤
5	病院労務管理(2)－病院における人事労務管理	講義・演習	加藤
6	病院管理と施設計画・全体計画(1)	講義	寛
7	病院管理と施設計画・全体計画(2)	講義	寛
8	世界の病院建築 病棟部門計画(1)－病棟部門計画の構成要素	講義	寛
9	病棟部門計画(2)－病棟部門の施設計画	講義	寛
10	施設環境と患者安全(感染管理・安全対策)	講義	寛
11	病院における物品管理	講義	古川
12	病院施設見学	フィールド・トリップ	古川
13	病院創り(1)－病院施設設計計画	演習	古川
14	病院創り(2)－病院施設設計案の作成	事前発表・討議	古川
15	病院創り(3)－病院施設設計案の発表	発表・討議	寛、古川

■ 教科書

事前に提示

■ 参考書、参考資料等

事前に提示

■ フィードバックの仕方

採点后、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

看護管理学特講Ⅳと関連している。

■ 成績評価の仕方

1. クラスの参加度 20%
2. 発表内容 30%
3. 最終レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に教室で質問を受け付ける。 古川(556 研究室)

■ 受講上の注意事項

教科書および参考書・参考資料等の欄に「事前に提示」と記載されているように、この科目では第 1 回目の授業の前に履修予定者に対して各回の必読文献・参考文献のリストを提示する。発表者以外の履修者も、このリストに提示された各回の文献や資料を事前に読み活発な討議に参加する。

■ その他

HMNM152

看護管理学演習

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○安部 陽子、古川 祐子

■ 授業の目的

地域の特性に合致した保健・医療・福祉関係事業の計画・展開・評価を行う。このことにより、地域特性に即したサービスの創造についての理解を深める。

■ 到達目標

- ・ 地域のアセスメントにより保健・医療・福祉の課題を抽出することができる
- ・ 課題に合致した事業を計画することができる
- ・ 計画した事業を展開することができる
- ・ 展開した事業を評価することができる
- ・ 事業の計画・展開・評価を報告書にまとめることができる

■ 学習の進め方

グループで情報収集、課題抽出、課題の解決案の作成・展開・評価を行う

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	地域のアセスメント	演習	安部、古川
2	地域のアセスメント	演習	安部
3	地域のアセスメント	演習	安部
4	地域のアセスメント	演習	安部
5	地域のアセスメント	演習	安部
6	地域のアセスメント	演習	安部、古川
7	事業計画の立案	演習	安部
8	事業計画の立案	演習	安部
9	事業計画の立案	演習	安部
10	事業計画の立案	演習	安部
11	事業計画の立案	演習	安部
12	事業計画の立案	演習	安部、古川
13	事業計画の展開	演習	安部
14	事業計画の展開	演習	安部
15	事業計画の展開	演習	安部
16	事業計画の展開	演習	安部
17	事業計画の展開	演習	安部
18	事業計画の展開	演習	安部、古川
19	事業の評価	演習	安部
20	事業の評価	演習	安部、古川
21	事業の評価	演習	安部
22	事業の評価	演習	安部、古川
23	事業の評価	演習	安部
24	事業の評価	演習	安部、古川
25	事業の計画・展開・評価に関する報告書作成	演習	安部
26	事業の計画・展開・評価に関する報告書作成	演習	安部、古川
27	事業の計画・展開・評価に関する報告書作成	演習	安部
28	事業の計画・展開・評価に関する報告書作成	演習	安部、古川
29	事業の計画・展開・評価に関する報告書作成	演習	安部
30	事業の計画・展開・評価に関する報告書作成	演習	安部、古川

■教科書

なし

■参考書、参考資料等

佐伯和子.(2018). 地域保健福祉活動のための地域看護アセスメントガイド(第2版). 医歯薬出版株式会社.
川上富雄.(2017). 地域アセスメント: 地域ニーズ把握の技法と実際. 学文社.

■フィードバックの仕方

提出後 8 週間以内を目安として、コメント付きの報告書を返却する。返却可能な時間はポータル等で連絡するので受け取りにくること。

■他の授業科目との関連

看護管理学特講Ⅳ、看護管理学実習Ⅰ・Ⅱの基礎的な学習となる。

■成績評価の仕方

1. 地域のアセスメント (20%)、2. 事業計画 (20%)、3. 事業の展開 (20%)、4. 事業の評価 (20%)、5. 報告書 (20%) により評価する。

■オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が記載された資料を配布する。

■受講上の注意事項

なし

■その他

HMNM180

看護管理学特別研究 I

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○安部 陽子、古川 祐子

■ 授業の目的

看護管理学領域の研究課題について、文献レビューを行う。

■ 到達目標

- ・文献レビューの方法について説明することができる。
- ・手順に従って自分の研究課題に関連する研究論文を検索・入手することができる。
- ・研究論文の情報を一覧表に整理することができる。
- ・一覧表に整理した個々の研究について、評価表を用いて評価をすることができる。
- ・一覧表に整理した個々の研究の情報を比較・対比することができる。
- ・自分の研究課題に関連する研究の特徴および知識のギャップを記述することができる。

■ 学習の進め方

文献レビューの方法に関する講義と演習により進める。

初回授業で配布する資料にしたがって事前・事後学習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義・同時双方 向型	安部
2	文献レビューの方法	演習・同時双方 向型	安部
3	文献検索の手法	演習・同時双方 向型	安部
4	文献検索の手法	演習・同時双方 向型	安部
5	文献検索の手法	演習・同時双方 向型	安部
6	文献検索の手法	演習・同時双方 向型	安部
7	検索した文献の整理	演習・同時双方 向型	安部
8	検索した文献の整理	演習・同時双方 向型	安部
9	検索した文献の整理	演習・同時双方 向型	安部
10	検索した文献の整理	演習・同時双方 向型	安部
11	検索した文献の整理	演習・同時双方 向型	安部
12	研究の特徴の把握	演習・同時双方 向型	安部
13	研究の特徴の把握	演習・同時双方 向型	安部
14	研究の特徴の把握	演習・同時双方 向型	安部
15	研究の特徴の把握	演習・同時双方 向型	安部
16	レビュー・マトリックスの作成(英文献)： 個人ワーク	演習	安部
17	レビュー・マトリックスの作成(英文献)： グループワーク	演習	安部、古川

No	内容	形式	教員
18	レビュー・マトリックスの修正： 個人ワーク	演習	安部、古川
19	文献の特徴と知識のギャップの把握(文献の特徴)： グループワーク	演習	安部、古川
20	文献の特徴と知識のギャップの把握(文献の特徴)： 個人ワーク	演習	安部、古川
21	文献の特徴と知識のギャップの把握(知識のギャップ)： グループワーク	演習	安部、古川
22	文献の特徴と知識のギャップの把握(知識のギャップ)： 個人ワーク	演習	安部、古川
23	文献の特徴と知識のギャップの把握(前回提出資料の修正)： グループワーク	演習	安部、古川
24	文献の特徴と知識のギャップの把握(グループワークでの討議を受けての修正)： 個人ワーク	演習	安部、古川
25	文献の特徴と知識のギャップの把握(修正した資料に関する討議)： グループワーク	演習	安部、古川
26	文献の特徴と知識のギャップの記述： 個人ワーク	演習	安部、古川
27	文献の特徴と知識のギャップの記述： グループワーク	演習	安部、古川
28	文献の特徴と知識のギャップの記述(グループワークを受けての記述の修正)： 個人ワーク	演習	安部、古川
29	文献の特徴と知識のギャップの記述(修正した記述に関する討議)： グループワーク	演習	安部、古川
30	文献の特徴と知識のギャップの記述(最終版の作成)： 個人ワーク	演習	安部、古川

■ 教科書

Garrard, J. (2010)/安部陽子訳(2012). 看護研究のための文献レビュー： マトリックス方式. 医学書院.

■ 参考書、参考資料等

木下是雄著 「理科系の作文技術」(中公新書)

■ 他の授業科目との関連

看護管理学特別研究Ⅰで行った文献レビューをもとに看護管理学特別研究Ⅱで研究計画を作成する。
看護管理学特別研究Ⅲでは、看護管理学特別研究Ⅱで作成した研究計画に沿って研究を実施する。

■ 成績評価の仕方

1. 討議への参加度(25%)、2. 発表(25%)、3. レポート(50%)により評価する。

■ オフィスアワー・研究室等

原則として金曜日 12:20-12:50

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HMMN181

看護管理学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○安部 陽子、古川 祐子

■ 授業の目的

看護管理学の研究課題について、研究計画書を作成する。

■ 到達目標

- ・看護学の発展や課題の解決に焦点を当てた研究の背景・意義を記述することができる
- ・具体的かつ実現可能な研究目的、研究疑問、仮説を計画することができる
- ・研究目的、研究疑問、仮説に合致した研究方法を計画することができる
- ・研究対象者の尊厳と権利を擁護するための配慮について計画することができる
- ・学問的な誠実さ(academic integrity)の重要性に気づくことができる

■ 学習の進め方

研究計画立案に関する演習により進める。

初回授業で配布する資料にしたがって事前・事後学習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究の背景・意義・目的： グループワーク	演習・同時双方向型	安部、古川
2	研究の背景・意義・目的： 個人ワーク	演習・同時双方向型	安部
3	研究の背景・意義・目的(修正案)： グループワーク	演習・同時双方向型	安部
4	研究の背景・意義・目的(修正案の修正)： 個人ワーク	演習・同時双方向型	安部
5	研究デザイン： グループワーク	演習・同時双方向型	安部
6	研究デザイン： 個人ワーク	演習・同時双方向型	安部
7	研究デザイン(修正案)： グループワーク	演習・同時双方向型	安部、古川
8	研究デザイン(修正案の修正)： 個人ワーク	演習・同時双方向型	安部
9	研究の対象者： グループワーク	演習・同時双方向型	安部
10	研究の対象者： 個人ワーク	演習・同時双方向型	安部
11	研究の対象者(修正案)： グループワーク	演習・同時双方向型	安部
12	研究の対象者(修正案の修正)： 個人ワーク	演習・同時双方向型	安部
13	データ収集方法： グループワーク	演習・同時双方向型	安部
14	データ収集方法： 個人ワーク	演習・同時双方向型	安部
15	データ収集方法(修正案)： グループワーク	演習・同時双方向型	安部、古川
16	データ収集方法(修正案の修正)： 個人ワーク	演習	安部
17	データ収集方法(修正案の修正)： グループワーク	演習	安部、古川
18	データ収集方法(インタビュー等、データ収集の練習1回目)： 個人ワーク	演習	安部

No	内容	形式	教員
19	データの分析方法： グループワーク	演習	安部、古川
20	データの分析方法(練習で収集したデータの分析)： 個人ワーク	演習	安部
21	データの分析方法(練習で収集したデータの分析)： グループワーク	演習	安部
22	データの分析方法(インタビュー等、データ収集の練習 2 回目)： 個人ワーク	演習	安部
23	研究計画書の作成： グループワーク	演習	安部、古川
24	研究計画書の作成： 個人ワーク	演習	安部
25	研究計画書の発表： グループワーク	演習	安部、古川
26	権利擁護と研究倫理審査： 個人ワーク	演習	安部
27	権利擁護と研究倫理審査： グループワーク	演習	安部、古川
28	権利擁護と研究倫理審査(前回提出資料の修正)： 個人ワーク	演習	安部
29	権利擁護と研究倫理審査(前回提出資料の修正)： グループワーク	演習	安部、古川
30	研究倫理審査書類の発表： グループワーク	演習	安部、古川

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

Grove, S. K., Burns, N., & Gray, J. R. (2013)/黒田裕子・中木高夫・逸見功監訳 (2015). パーンズ&グローブ看護研究入門. エルゼビア.
文部科学省・厚生労働省. (2017). 人を対象とする医学系研究に関する倫理指針. 著者.

■ フィードバックの仕方

採点后に、コメント付のレポートを返却する。

■ 他の授業科目との関連

看護管理学特別研究Ⅰで行った文献レビューをもとに看護管理学特別研究Ⅱで研究計画を作成する。
看護管理学特別研究Ⅲでは、看護管理学特別研究Ⅱで作成した研究計画に沿って研究を実施する。

■ 成績評価の仕方

授業の参加度 30 %、発表内容 40 %、レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が記載された資料を配布する。

■ その他

HMNM280

看護管理学特別研究Ⅲ

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○安部 陽子、古川 祐子

■ 授業の目的

研究計画書に基づいて研究を実施する。

■ 到達目標

- ・ 研究計画の手順に従って研究参加者を募集することができる
- ・ 倫理的配慮のもとに研究参加希望者から研究参加の同意を得ることができる
- ・ 研究計画の手順に従って研究参加者からデータを収集することができる
- ・ 研究計画の手順に従ってデータの分析ができる
- ・ データの分析結果を研究目的、研究疑問、または仮説に対応する形で研究結果として記述することができる
- ・ 研究結果を文献レビューの内容等と比較・対比し、結果の解釈、実践への示唆、研究の限界を記述することができる
- ・ 研究の背景から考察までを研究論文の形で統合することができる

■ 学習の進め方

研究計画の進行状況に伴う発表・討議により進める。

研究計画書に基づき研究を進め、進捗に応じて資料を作成する。

授業中に得た示唆を活かし、研究を進める。

授業中に得た示唆を活かし、論文執筆を進める。

授業の初回に配布する資料に従って事前・事後学習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	参加者の募集・データの収集	演習・同時双方 向型	安部、古川
2	参加者の募集・データの収集	演習・同時双方 向型	安部
3	参加者の募集・データの収集	演習・同時双方 向型	安部
4	参加者の募集・データの収集	演習・同時双方 向型	安部
5	参加者の募集・データの収集	演習・同時双方 向型	安部
6	参加者の募集・データの収集	演習・同時双方 向型	安部
7	データの分析	演習・同時双方 向型	安部
8	データの分析	演習・同時双方 向型	安部
9	データの分析	演習・同時双方 向型	安部
10	データの分析	演習・同時双方 向型	安部、古川
11	データの分析	演習・同時双方 向型	安部
12	データの分析	演習・同時双方 向型	安部
13	結果の記述	演習・同時双方 向型	安部
14	結果の記述	演習・同時双方 向型	安部

No	内容	形式	教員
15	結果の記述	演習・同時双方 向型	安部
16	結果の記述	演習	安部、古川
17	結果の記述	演習	安部
18	結果の記述	演習	安部
19	考察の記述	演習	安部
20	考察の記述	演習	安部
21	考察の記述	演習	安部、古川
22	考察の記述	演習	安部、古川
23	考察の記述	演習	安部、古川
24	考察の記述	演習	安部、古川
25	研究全体の統合、修正	演習	安部、古川
26	研究全体の統合、修正	演習	安部、古川
27	研究全体の統合、修正	演習	安部
28	研究全体の統合、修正	演習	安部
29	研究全体の統合、修正	演習	安部
30	研究全体の統合、修正	演習	安部、古川

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

Grove, S. K., Burns, N., & Gray, J. R. (2013)/黒田裕子・中木高夫・逸見功監訳 (2015). バーンズ&グローブ看護研究入門. エルゼビア.

■ フィードバックの仕方

授業で提出された研究の成果物について適宜フィードバックを返す。

■ 他の授業科目との関連

看護管理学特別研究Ⅰで行った文献レビューをもとに看護管理学特別研究Ⅱで研究計画を作成する。

看護管理学特別研究Ⅲでは、看護管理学特別研究Ⅱで作成した研究計画に沿って研究を実施する。

■ 成績評価の仕方

討議への参加度(30%)、発表(40%)、研究の成果物(30%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が記載された資料を配布する。

■ その他

HMMN281

看護管理学実習Ⅰ

単位：3単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○安部 陽子、古川 祐子

■ 授業の目的

・今後の看護管理者に求められる人的資源管理、経営管理、地域連携等についての課題・問題解決能力を育成する。

■ 到達目標

- ・実践の場から課題・問題解決に必要な情報を収集することができる。
- ・収集した情報のアセスメントにより課題・問題を抽出することができる。
- ・課題・問題に対する解決策を立案することができる。
- ・解決策の根拠となる資料を提示することができる。
- ・解決策を関連する人々に提案することができる。
- ・提案の内容を文書にまとめることができる。

■ 学習の進め方

- ・実習施設で2週間フィールドワークを行う。
- ・実習内容に関する分析結果についてスーパービジョンを受ける。
- ・実習カンファレンスで課題・問題解決過程について発表する。
- ・レポートを作成する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

- ・ガイダンス
- ・実習計画の作成
- ・実習の調整
- ・実習
- ・スーパービジョン
- ・実習カンファレンス
- ・実習報告

■ 教科書

指定しない。

■ 参考書、参考資料等

指定しない。

■ フィードバックの仕方

採点后、コメント入りのレポートを返却する。

■ 他の授業科目との関連

他の看護管理領域の科目と総合的に関連している。

■ 成績評価の仕方

実習計画書 (30%)、実習内容 (30%)、実習報告 (40%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業の初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が記載された資料を配布する。

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HMNM182

看護管理学実習Ⅱ

単位：3 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○安部 陽子、古川 祐子

■ 授業の目的

看護管理学に関連した領域で研究課題および実践課題について探求する。

■ 到達目標

- ・看護管理領域の研究課題・実践課題について説明することができる。
- ・看護管理領域の研究課題・実践課題に対応するための方策について説明することができる。

■ 学習の進め方

・学生は看護管理研究または看護管理実践の課題に基づいて実習場所を決定し 2 週間のフィールドワークを行い、実習内容に関する分析結果をレポートにまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

- ・ガイダンス
- ・実習計画書の作成
- ・実習場所の調整
- ・実習
- ・実習の報告

■ 教科書

指定しない。

■ 参考書、参考資料等

指定しない。

■ フィードバックの仕方

採点后、コメント入りのレポートを返却する。

■ 他の授業科目との関連

他の看護管理領域の科目と総合的に関連している。

■ 成績評価の仕方

実習計画書 (30%)、実習内容 (30%)、実習報告 (40%)

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が記載された資料を配布する。

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HMNM183

国際看護学特講 I

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○野口 眞貴子、内木 美恵、織方 愛

■ 授業の目的

グローバル社会の進展のもと、国境を越え広域的に起こる健康課題に対し、医療保健専門職者としてどのようにかかわることができるのかを探求する。

国際的な視野で世界の保健医療福祉の歴史を踏まえた現状を理解し、国際看護学の課題を検討する。また、国際赤十字・国連機関・NGO などが実施する国際保健政策及び国際開発協力活動について考察する。

■ 到達目標

グローバル社会における国際保健医療・看護について理解し、世界に健康課題への取り組みを看護の視点を踏まえ説明できる。

国際赤十字を中心とする国際的な人道援助・救済活動団体及び UNHCR・WHO などの国連機関が策定した、人道援助・救済活動に従事する者に不可欠の知識(具体的には人道検証・Code of Conducts・医療衛生等についての Minimum Standard)について基本的な理解を得る。そのために、現在の国際社会を理解するための「国際関係論」に関する基礎的知識及び赤十字社その他の国際的人道援助機関が国際活動を行う際の基礎となっている「国際人道法」の基礎的な論理・枠組についても理解を深める。また現在日本赤十字社をはじめとして、国際的に医療・看護救済活動を展開している各国の主要な赤十字社が採用している救済システム ERU(Emergency Response Unit)の現状、ERU ハンドブックの内容についても理解を深め、実際の救済の現場に赴いた看護職が、救済の法的・組織的枠組全体をとらえられる能力を得て、指導的行動・立場をとれる基礎的知識・論理を習得する。また世界的な視野の中で保健・医療を俯瞰できる能力を得る。

■ 学習の進め方

AL

1. ゼミナール形式(学生のプレゼンテーションに基づいてグループディスカッションし、学習を深める)

2. 授業内容、スケジュールは学生の学習課題により調整する。

3. 学習内容に応じたシミュレーションを適宜行う。

事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。

事後学習：授業の復習・授業時不明だった点を調べてまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	国際看護学、国際保健医療学の概念	発表・討論	野口
2	国際看護学と日本の保健医療看護	発表・討論	野口
3	国際保健医療学の理論：人間の安全保障、潜在能力、人間的発展	発表・討論	野口
4	国際人道法の基礎的枠組	発表・討論	内木
5	世界の健康課題	発表・討論	織方
6	世界の健康課題と格差是正にむけた戦略	発表・討論	野口
7	日本の保健医療制度と国際比較(経済・人口動態・医療人材)	発表・討論	織方
8	スフィア・プロジェクト	発表・討論	内木
9	国連機関・NGO の役割、歴史的進展	発表・討論	野口
10	国際機関、国際赤十字の国際保健医療活動	発表・討論	野口
11	日本の国際保健医療戦略および緊急援助	発表・討論	野口
12	緊急対応ユニット(Emergency Response Unit : ERU)	発表・討論	内木
13	国際看護学の課題と展望：国際協働による看護活動	発表・討論	野口
14	世界健康課題と保健政策、保健戦略	発表・討論	野口
15	持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals ; SDGs) 達成のための国際看護学の役割	発表・討論	野口

■ 教科書

資料を配布する

■ 参考書、参考資料等

Sphere Association (2018). The Sphere Handbook 2018. file:///C:/Users/0437.REDCROSS/Downloads/Sphere-Handbook-2018-EN.pdf

Robin Geiss, Andreas Zimmermann, and Stefanie Haumer 編 (2017). Humanizing the Laws of War: The Red Cross and the Development of International Humanitarian Law. Cambridge University Press.

■ フィードバックの仕方

提出したレポートのフィードバックは、提出後4週間以内に403研究室もしくは後期科目国際看護学特講Ⅲの授業にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目国際看護学特講Ⅰは、国際看護学特講Ⅱ・Ⅲ・Ⅳとあわせ、国際看護学領域の必修科目である。

■ 成績評価の仕方

授業への取組み 10 %，課題資料・発表内容 30 %，課題レポート 60 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-12:50

野口(403 研究室)・内木(406 研究室)・織方(554 研究室)

■ その他

H MID100

国際看護学特講Ⅱ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○野口 眞貴子、内木 美恵、織方 愛

■ 授業の目的

グローバルヘルスの概要と国際協力の環境を理解し、世界の人びとの健康を包括的にアセスメントする方略・技術を学ぶ。関連領域との連携・協働のなかで、看護専門職としての役割を明らかにする。

■ 到達目標

1. グローバルヘルスの定義と国際協力の環境を理解する
2. 世界の人びとの健康を包括的にアセスメントする方略・技術を理解できる。
3. 世界の人びとの健康を包括的にアセスメントし、支援方法を考えることができる
4. 関連領域の学問を探求し、専門職としての役割を説明することができる。

■ 学習の進め方

AL

1. ゼミナール形式(学生のプレゼンテーションに基づいてグループディスカッションし、学習を深める)
2. 授業内容、スケジュールは学生の学習課題により調整する。
3. 学習内容に応じたシミュレーションを適宜行う。

事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。

事後学習：授業の復習・授業時不明だった点を調べてまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	グローバルヘルスの定義, 歴史的経緯	発表・討論	野口
2	国際看護とグローバルヘルス	発表・討論	野口
3	健康の決定要因と環境：安全な水、保健衛生設備	発表・討論	野口
4	健康の測定指標	発表・討論	織方
5	保健医療ニーズの把握と研究	発表・討論	野口
6	疾病負荷の動向	発表・討論	内木
7	健康・教育・貧困の相互関係	発表・討論	織方
8	健康格差是正にむけた国際保健政策の歴史と変遷	発表・討論	野口
9	保健医療経済とヘルスケア	発表・討論	野口
10	国際保健医療サービスに関する理論と実際	発表・討論	野口
11	保健医療システムとユニバーサル・ヘルス・カバレッジ(Universal Health Coverage : UHC)	発表・討論	野口
12	文化と健康	発表・討論	内木
13	健康信念と健康行動, 行動変容に向けた保健医療戦略	発表・討論	野口
14	疾病負荷	発表・討論	内木
15	グローバルヘルスにおける多職種協働	発表・討論	野口

■ 教科書

Richard Skolnik (2015). Global Health 101 (Essential Public Health). Yale, School of Public Health, New Haven, Connecticut.

Karen Glanz, Barbara K. Rimer, and K. Viswanath 編 (2015). Health Behavior: Theory, Research, and Practice. Jossey-Bass.

■ 参考書、参考資料等

Sphere Association (2018). The Sphere Handbook 2018. file:///C:/Users/0437.REDCROSS/Downloads/Sphere-Handbook-2018-EN.pdf

■ フィードバックの仕方

提出したレポートのフィードバックは、提出後4週間以内に403研究室もしくは後期科目国際看護学特講Ⅲの授業にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目国際看護学特講Ⅱは、国際看護学特講Ⅰ・Ⅲ・Ⅳとあわせ、国際看護学領域の必修科目である。

■ 成績評価の仕方

授業への取組み 10%, 課題資料・発表内容 30%, 課題レポート 60%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-12:50

野口(403 研究室)・内木(406 研究室)・織方(554 研究室)

■ その他

HMID101

国際看護学特講Ⅲ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○野口 眞貴子、内木 美恵、織方 愛

■ 授業の目的

世界の健康格差の是正のため、国・年代によって異なる健康課題にアプローチすべく、疾病構造を客観的にとらえ、各健康課題について学ぶ。

■ 到達目標

1. 世界の疾病構造を把握するための方略・技術を理解できる。
2. 疾病構造と対策を説明することができる。

■ 学習の進め方

AL

1. セミナール形式(学生のプレゼンテーションに基づいてグループディスカッションし、学習を深める)
2. 授業内容、スケジュールは学生の学習課題により調整する。
3. 学習内容に応じたシミュレーションを適宜行う。

事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。

事後学習：授業の復習・授業時不明だった点を調べてまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	世界の疾病構造	発表・討論	野口
2	カントリープロフィール	発表・討論	内木
3	疾病負荷：健康課題①環境関連疾患	発表・討論	織方
4	疾病負荷：健康課題②栄養	発表・討論	野口
5	疾病負荷：健康課題③女性と健康	発表・討論	野口
6	疾病負荷：健康課題④女性の健康：ケーススタディ	発表・討論	野口
7	疾病負荷：健康課題⑤子どもの健康(思春期含む)	発表・討論	野口
8	疾病負荷：健康課題⑥感染性疾患	発表・討論	野口
9	疾病負荷：健康課題⑦感染性疾患：ケーススタディ	発表・討論	野口
10	疾病負荷：健康課題⑧非感染性疾患	発表・討論	野口
11	疾病負荷：健康課題⑨非感染性疾患：ケーススタディ	発表・討論	野口
12	疾病負荷：健康課題⑩事故(不慮の傷害)	発表・討論	野口
13	疾病負荷：将来の展望(高齢化)	発表・討論	野口
14	疾病負荷：将来の展望(気候変動)	発表・討論	野口
15	疾病負荷：将来の展望(政治・経済・社会)	発表・討論	野口

■ 教科書

Richard Skolnik (2015). Global Health 101 (Essential Public Health) .Yale, School of Public Health, New Haven, Connecticut.

Karen Glanz, Barbara K. Rimer, and K. Viswanath 編 (2015). Health Behavior: Theory, Research, and Practice. Jossey-Bass.

■ 参考書、参考資料等

Sphere Association (2018). The Sphere Handbook 2018. file:///C:/Users/0437.REDCROSS/Downloads/Sphere-Handbook-2018-EN.pdf

■ フィードバックの仕方

提出したレポートのフィードバックは、提出後4週間以内に403研究室にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目国際看護学特講Ⅲは、国際看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅳとあわせ、国際看護学領域の必修科目である。

■ 成績評価の仕方

授業への取組み 10%、課題資料・発表内容 30%、課題レポート 60%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-12:50

野口(403 研究室)・内木(406 研究室)・織方(554 研究室)

■ その他

HMID150

国際看護学特講Ⅳ

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○野口 眞貴子、内木 美恵、織方 愛

■ 授業の目的

世界の健康格差の是正のために、看護職として身につけておくべき方略・技術について学ぶ。

■ 到達目標

1. 安全に国際協力を行うための方略・技術を理解できる。
2. プロジェクトサイクルマネジメント(PCM)の方略を説明することができる。

■ 学習の進め方

AL

1. ゼミナール形式(学生のプレゼンテーションに基づいてグループディスカッションし、学習を深める)
2. 授業内容、スケジュールは学生の学習課題により調整する。
3. 学習内容に応じたシミュレーションを適宜行う。

事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。

事後学習：授業の復習・授業時不明だった点を調べてまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	国際援助機関における危機管理	発表・討論	野口
2	リスクマネジメント, Mitigating Risk (回避、軽減)	発表・討論	野口
3	赤十字要員の危機管理(Staying Alive)	発表・討論	内木・織方
4	危機管理：ケーススタディ①地域別の危機管理	発表・討論	野口
5	危機管理：ケーススタディ②脅威別の安全管理	発表・討論	野口
6	危機管理：安全確保の方策	発表・討論	野口
7	PCM (Project Cycle Management)手法の概要	発表・討論	野口
8	PCM：計画立案と分析ステップ	発表・討論	野口
9	PCM：計画立案と PDM (Project Design Matrix)	発表・討論	野口
10	PCM：計画立案と PO (Plan of Operation) 活動計画表の作成	発表・討論	野口
11	PCM：モニタリング手法	発表・討論	野口
12	PCM：評価手法	発表・討論	野口
13	PCM：改善策への発展	発表・討論	野口
14	プロジェクト開発、運営管理の実際：ケーススタディ① 母子保健計画	発表・討論	野口
15	プロジェクト開発、運営管理の実際：ケーススタディ② 感染性疾患計画	発表・討論	野口

■ 教科書

David Lloyd Roberts (2006). Staying Alive. ICRC. <https://shop.icrc.org/staying-alive-safety-and-security-guidelines-for-humanitarian-volunteers-in-conflict-areas-2687.html>

■ 参考書、参考資料等

Sphere Association (2018). The Sphere Handbook 2018. file:///C:/Users/0437.REDCROSS/Downloads/Sphere-Handbook-2018-EN.pdf

■ フィードバックの仕方

提出したレポートのフィードバックは、提出後4週間以内に 406 研究室にて、コメントを付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目国際看護学特講Ⅳは、国際看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとあわせ、国際看護学領域の必修科目である。

■ 成績評価の仕方

授業への取組み 10 %、課題資料・発表内容 30 %、課題レポート 60 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-12:50

内木(406 研究室)・野口(403 研究室)・織方(554 研究室)

■ その他
HMID151

災害看護学特講Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛

■ 授業の目的

1. 災害に対する知識を深め、災害が人々の健康や生活に与える影響、そして災害看護の対象である被災者の健康問題やこころの問題について探求する。
2. 災害時要援護者の避難行動や避難生活に対する実態をふまえ、援助方法を探求する能力を養う。

■ 到達目標

1. 災害の特徴、人々の生活や環境に与える影響、倫理的問題について理解できる。
2. 災害看護の対象者である被災者の特徴、特に要援護者について理解できる。
3. 災害サイクルに伴い、被災者の疾病構造の変化について理解できる。
4. 災害サイクルに伴い、被災者のこころの変化について理解できる。

■ 学習の進め方

AL

1. ゼミナール形式(学生のプレゼンテーションに基づいてディスカッションし、学習を深める)
 2. 授業内容、スケジュールは学生の学習課題により調整する。
 3. 学習内容に応じたシミュレーションを適宜行う。
- 履修のために必要な事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。
履修のために必要な事後学習：授業の復習をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、災害の定義、災害の種類	自宅学習・課題 提出	内木
2	近年における日本および世界の災害発生と被害状況：自然災害、人為災害、紛争災害、難民	自宅学習・課題 提出	内木
3	過去の災害史に視る災害発生の特徴と被害状況	自宅学習・課題 提出	野口
4	放射能災害が人々の健康や生活に与える影響と倫理的問題	web で双方向型 授業 (teams)	内木
5	災害の種類別疾病構造	web で双方向型 授業 (teams)	野口
6	災害と被災者のこころの変化	web で双方向型 授業 (teams)	内木
7	災害医療とは、今日的課題	web で双方向型 授業 (teams)	野口
8	災害関連の法的・制度的視点からみた災害現場状況	web で双方向型 授業 (teams)	織方
9	法制度の改定にみる災害時の要配慮者の定義	web で双方向型 授業 (teams)	野口
10	災害時の各要配慮者の特徴、避難行動及び避難生活における今日的課題① 1)高齢者 2)精神疾患患者	web で双方向型 授業 (teams)	内木
11	災害時の各要配慮者の特徴、避難行動及び避難生活における今日的課題② 3)子供と母親、子供と父親	web で双方向型 授業 (teams)	内木
12	災害時の各要配慮者の特徴、避難行動及び避難生活における今日的課題③ 4)ハンディキャップ、難病を抱えた人々 5)慢性疾患を抱えた人々	web で双方向型 授業 (teams)	内木
13	避難所時における要援護者の支援判断とその基準に関する理論	web で双方向型 授業 (teams)	内木

No	内容	形式	教員
14	災害時要援護者の実態と対応における課題	web で双方向型 授業 (teams)	内木
15	要援護者トリアージのシミュレーション	web で双方向型 授業 (teams)	内木

■ 教科書

随時紹介する。

■ 参考書、参考資料等

浦田喜久子編集 系統看護看護学講座 統合分野 災害看護学・国際看護学 第4版 医学書院(2019)

内閣府編集 防災白書 令和元年版 日経印刷(2019)

国連国際防災戦略事務局(UNISDR)国連世界防災白書 2013 United Nations (2013)

津久井進 大災害と法 岩波新書(2012)

岡本正 災害復興法学の体系: リーガル・ニーズと復興政策の軌跡 KDDI 総合研究所叢書(2018)

ビヴァリー・ラファエル 著, 石丸正翻訳 災害の襲うとき——カタストロフィの精神医学【新装版】 みすず書房; 新装版(2016)

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、国際・災害看護学演習Ⅰ、Ⅱ

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーションの内容 50 % 2. 課題レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)、織方(554 研究室)

■ その他

HMID102

災害看護学特講Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛、河嶋 譲

■ 授業の目的

1. 災害サイクルや活動現場、被災者特性に応じた災害看護活動に必要な知識、判断力、技術、行動力を習得する。
2. 倫理的判断をふまえ、実践的に看護援助できる能力を養う。
3. 今日の災害看護活動から捉えた現状と課題を捉え、看護活動に生かす能力を養う。

■ 到達目標

1. 災害サイクルに伴う看護の特徴および役割、倫理的問題について理解する。
2. 活動現場に伴う看護の特徴や役割、倫理的問題について理解する。
3. 災害発生時、CSCATTT の視点から被災病院や災害現場における看護師の役割について理解する。
4. トリアージの意義と方法について理解する。
5. 被災者のこころのケアについて、コミュニケーションスキルから理解する。
6. 救援者のストレスと対処について理解する。
7. 災害看護の理論と現場の実態から、今日的な災害看護の課題を捉え活動に生かす。

■ 学習の進め方

1. ゼミナール形式(学生のプレゼンテーションに基づいてディスカッションし、学習を深める)
 2. 机上シミュレーション、演習、ロールプレイなど参加型方式を適宜取り入れ、そこからの学びを言及し理解を深める。
 3. 事例検討を通して、研究的に探究する。
 4. 授業内容、スケジュールは学生の学習課題により調整する。
- 履修のために必要な事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。
履修のために必要な事後学習：授業の復習をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、災害サイクルに伴う看護活動、看護活動上の倫理とは	講義・討論	内木
2	危機的状況の災害現場から捉える看護活動、各活動現場に必要な倫理的判断	講義・討論	内木
3	災害発生時、被災病院における看護の役割－ CSCATTT の視点から(映像シミュレーション)－	講義・討論	野口
4	災害発生時、避難所における看護の役割、地域との連携、連携上の倫理的判断	講義・討論	内木
5	災害中期、仮設住宅における生活の視点から捉える看護の役割、被災者の生活と倫理的対応	講義・討論	内木
6	トリアージの意義と方法、トリアージ時の倫理的配慮	講義・討論	野口
7	映像トリアージ、危機的疾患とは	講義・討論	野口
8	シミュレーションによるトリアージの実演(ふるい分けと優先度法)	講義・討論	織方
9	フィジカルアセスメントと応急処置	講義・討論	織方
10	災害復興期の復興住宅における生活の視点から捉える看護援助と倫理的判断	講義・討論	内木
11	避難所におけるパブリックヘルス	講義・討論	内木
12	災害時におけるトイレ問題と対策	講義・討論	野口
13	災害時における迅速地域アセスメントと地域保健の展開	講義・討論	内木
14	被災者のこころに寄り添うケアと倫理的対応	講義・討論	河嶋
15	救援者のストレスと倫理的対応	講義・討論	河嶋

■ 教科書

随時紹介する。

■ 参考書、参考資料等

災害看護学特講Ⅰに掲載した参考書

佐々木勝 医療従事者のための災害対策アプローチガイド 改訂版 KK 新興医学出版社(2015)東京

国井修編 災害時の公衆衛生 第1版 南山堂(2012)東京

村口至, 末永カツ子編 3・11 大震災と公衆衛生の再生－宮城県の保健師のとりくみ 自治体研究社(2019)東京

大友康裕 標準多数傷病者対応 MCLS テキスト ぱーそん書房(2014)東京

国立精神・神経医療センター, ケア・宮崎, 公益財団法人プラン・ジャパン

(翻訳)/WHO 心理的応急処置(Psychological First Aid : PFA) 国立精神・神経医療センター(2011)東京

https://saigai-kokoro.ncnp.go.jp/pdf/who_pfa_guide.pdf

アメリカ国立子どもトラウマティックストレス・ネットワーク, アメリカ国立 PTSD センター「サイコロジカル・ファーストエイド実施の手引き第2版」兵庫県こころのケアセンター訳, 2009年3月. <http://www.j-hits.org/>

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅰ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ、国際・災害看護学演習Ⅰ、Ⅱ

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーションの内容 50 % 2. 課題レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12:10~13:10

野口(403 研究室) 内木(406 研究室) 織方(554 研究室)

■ 受講上の注意事項

文献だけでなく、災害や災害看護に関する新聞・報道 TV 等からタイムリーに情報を得ていく。

■ その他

HMID152

災害看護学特講Ⅲ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○内木 美恵、野口 眞貴子、菅野 太郎、舎利倉 幸香

■ 授業の目的

1. 人間の災害に対する認知や避難行動に影響する情報をふまえて、危機意識の視点から被災者特性について探求する。
2. 個人・家族・地域・医療機関における防災・減災、被害対応、備えに向けた支援活動能力を養う。
3. 災害サイクル静穏期の防災活動について災害看護の視点から、看護職として地域とどう連携してゆくかを探究する。

■ 到達目標

1. 人間が防災や被害対応時にとる行動を、人間の危機管理意識の構造から理解する。
2. 防災意識を高め、防災行動力を強化するための対応策を理解する。
3. 災害サイクル静穏期における看護の役割について、地域住民との連携から理解する。
4. 継続教育における災害看護コーディネーターの育成について、その要素、方法などについて理解する。

■ 学習の進め方

1. 人間の危機意識の構造については、認知工学システム論の科目内非常勤講師が 5 回担当する。
2. 地域防災の企画・運営については、本学と武蔵野市で共催している地域防災セミナーの中で行う。
3. 継続教育については、日赤 DMAT や看護協会が主催している災害支援ナースの研修、病院主催の研修について実態調査し発表する。
4. 災害看護コーディネーターの育成方法として、シミュレーションコンテンツの開発を行う。

履修のために必要な事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。

履修のために必要な事後学習：授業の復習をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、災害の種類と個人・家族・地域・被災者の特徴	自宅学習・課題提出	内木
2	危機の種類、危機対応の要素に応じた被災者の特性	自宅学習・課題提出	内木
3	人間が遭遇する災害発生時の危機と危機意識、反応	web で双方向型授業 (teams)	内木
4	危機からの脱出、避難行動	web で双方向型授業 (teams)	内木
5	避難生活において被災者の危険回避行動	web で双方向型授業 (teams)	内木
6	看護職による災害看護の対象者にふりかかる危機の認識と対応	web で双方向型授業 (teams)	内木
7	被災病院における看護職の情報・判断・行動	web で双方向型授業 (teams)	舎利倉
8	災害時の IPW インター・プロフェSSIONAL・ワーク I	web で双方向型授業 (teams)	内木
9	防災体制の基本、地域防災の意義、法律との関係	web で双方向型授業 (teams)	野口
10	地域防災の具体的な取り組みと看護の役割：地域住民及び行政との連携	web で双方向型授業 (teams)	内木
11	官民学で取り組む地域防災の実例	web で双方向型授業 (teams)	舎利倉
12	地域における指定避難所の備えのしくみ	web で双方向型授業 (teams)	内木
13	災害史・社会情勢の変遷からの防災対策と災害看護の役割	web で双方向型授業 (teams)	野口
14	大学防災・企業防災	web で双方向型授業 (teams)	内木

No	内容	形式	教員
15	帰宅困難者に対する行政及び自主防災組織の対応	web で双方向型 授業 (teams)	内木

■ 教科書

随時紹介する。

■ 参考書、参考資料等

1. 災害看護学特講 I,II の紹介参考書
2. 災害時における看護の力・組織の力 平成 24 年度版看護白書 日本看護協会 日本看護協会出版会(2012)
3. 防災・減災の人間科学 初版 矢守克也他 新曜社(2012)
4. 会社を守る防災マニュアルの作り方 新版 山根義信 マネジメント社(2011)
5. 近畿災害対策まちづくり支援機構編 防災・減災・復旧・復興 Q&A: 大災害被災者支援の経験から 東方出版(2018)東京
7. 大阪自治体問題研究所・自治体問題研究所編 豪雨災害と自治体 防災・減災を考える 自治体研究社(2019)東京
8. 酒井多加志 地図から読み解く自然災害と防災(減災) 近代消防社(2019)東京

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ・Ⅴ 演習Ⅰ・Ⅱ

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーションの内容 50 %
2. 課題レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)

■ 受講上の注意事項

東日本大震災、2018 年西日本豪雨、2019 年東日本豪雨における中長期の被災地の変化、支援活動、防災・減災等について TV や新聞記事等から情報収集し、授業に臨んで下さい。

■ その他

HMD103

災害看護学特講Ⅳ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○内木 美恵、野口 眞貴子、角田 敦彦、永井 幸寿、松本 賢芳、舎利倉 幸香

■ 授業の目的

1. 災害に関連する法律・制度等を理解し、災害看護の視点から被災者の救護活動や生活再建等に連動する支援活動に生かす能力を育成する。
2. 災害サイクル別における種々の災害現場において、他職種との連携支援システムや看護コーディネーターの役割を構築できる能力を育成する。

■ 到達目標

1. 基本的な災害関係の法律、制度について理解する。
2. 災害看護活動に関連する法律を、どの場面でのように活用できるか、具体的に考えることができる。
3. 災害看護活動上、他職種との連携の意義について理解できる。
4. 他職種との連携について、具体的にどう展開するか理解できる。
5. 災害看護のリーダーの役割とその背景について説明できる。
6. 災害看護のコーディネーターの役割と背景について説明できる。

■ 学習の進め方

1. ゼミナール形式で授業を行う。
 2. 参加学生で授業担当を決定し、プレゼンを行う。
 3. 災害発生に伴う事象に対し、法律の面から事例検討を行う。
 4. 法律専門家からコメントを頂く。
 5. 連携については、シミュレーションを行う。
- 履修のために必要な事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。
履修のために必要な事後学習：授業の復習をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、災害関連の法律、政令、制度とは、看護職が災害関連の法律を学ぶ意味	講義・討論	内木
2	主な災害関連の法律	講義・討論	永井
3	災害関連死関連の法律と対応政策の課題	講義・討論	永井
4	災害情報に関する法律	講義・討論	永井
5	被災者復興支援法	講義・討論	永井
6	国家危機状態宣言に関する法律、救済者関連の法律	講義・討論	永井
7	東日本大震災後の立法、災害に関する政策提言の検討	講義・討論	永井
8	被災地における公衆衛生面のアセスメント、緊急課題	講義・討論	内木
9	救護活動・支援活動における連携システムの構築	講義・討論	松本
10	エンゴストロームの活動論を用いた連携上の問題と解決策	講義・討論	松本
11	災害急性期の救護活動及び中長期の支援活動における CNS の相談役割	講義・討論	舎利倉
12	災害急性期の救護活動における災害医療コーディネーターの相談役割に伴う課題	講義・討論	松本
13	救護活動におけるロジスティック	講義・討論	角田
14	救護活動における行動規範	講義・討論	角田
15	救護活動におけるスフィアプロジェクト	講義・討論	角田

■ 教科書

随時紹介する。

■ 参考書、参考資料等

1. 大規模災害を迎え撃つために ～自治体における防災体制整備のノウハウ～、佐藤喜久二、内外出版社 2014.
2. 災害対策基本法改正ガイドブック—平成 24 年及び平成 25 年改正一、災害対策法制研究会、大成出版社、2014.
3. DisasterABC コースガイドブック-病院内全職員による地域密着型災害対応訓練をめざして地域密着型の病院災害訓練、有嶋拓郎・東岡宏明、中山書店、2011.

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ 国際・災害看護学演習Ⅰ・Ⅱ

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーションの内容：50% 2. 課題レポート：50%

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12：10～13：10

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)

■ 受講上の注意事項

災害や災害看護に関する今日的課題について、文献だけでなく、新聞や報道 TV 等からも情報を得ておく。

■ その他

HMID153

災害看護学特講V ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：前期

○内木 美恵、野口 眞貴子、角田 敦彦、織方 愛、山澤 将人、舎利倉 幸香

■ 授業の目的

災害救援の活動現場における行政・住民組織・他職種・ボランティア等との連携・協働・必要時組織化の重要性を理解し、シミュレーション等でリーダーシップを発揮することができる。また災害サイクルの各期における専門職の連携と他職種の連携についても学ぶ。

■ 到達目標

1. 災害救援の活動現場における各職種間の連携及び協働について説明できる。
2. 災害現場における行政、住民組織の役割・機能について説明できる。
3. 災害ボランティアの種類、役割・機能について説明できる。
4. 災害時における他職種とは、その連携について事例を持って説明できる。
5. 各職種別の組織的マネジメントについて説明できる。
6. 災害医療現場における連携と協働について、CSCA3T の視点から説明できる。
7. 避難所における連携と協働について、避難所アセスメントの視点から説明できる。
8. 被災地病院の初動体制における院内及び院外における同職、他職種との連携について、クラスターアプローチの視点から説明できる。
9. 仮設住宅における関連職種との連携について、生活再建の視点から説明できる。
10. 災害発生時における地域保健の視点からみた職種との連携について説明できる。
11. 災害看護コーディネーターの役割と背景について説明できる。

■ 学習の進め方

AL

1. ゼミナール形式で授業を行う。
2. 参加学生で授業担当を決定し、プレゼンを行う。
3. 災害発生に伴う事象に対し、専門職の連携と他職種の連携の面から事例検討を行う。
4. 連携については、シミュレーションを行う。

履修のために必要な事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。

履修のために必要な事後学習：授業の復習をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、連携・協働の概念	web で双方向型 授業 (teams)	内木
2	国際救援活動現場における国際機関、被災地行政、各種ボランティアの役割と機能	web で双方向型 授業 (teams)	角田
3	支援側と受援側の立場の相違と歩み寄りの原則	web で双方向型 授業 (teams)	角田
4	災害時の IPW インター・プロフェSSIONAL・ワーク II	自宅学習・課題 提出	内木
5	IPW の事例ワーク①	自宅学習・課題 提出	内木
6	IPW の事例ワーク②	自宅学習・課題 提出	内木
7	IPW の事例ワーク③	web で双方向型 授業 (teams)	内木
8	IPW の事例ワークの発表	web で双方向型 授業 (teams)	内木
9	災害医療現場における連携と協働、CSCA3T の視点からシミュレーション	web で双方向型 授業 (teams)	山澤
10	9 について発表	自宅学習・課題 提出	山澤
11	避難所の立ち上げ時における連携と協働、災害時公衆衛生面のアセスメントの視点から、シミュレーション	web で双方向型 授業 (teams)	内木

No	内容	形式	教員
12	11 について発表	web で双方向型 授業 (teams)	内木
13	仮設住宅における関連職種との連携	web で双方向型 授業 (teams)	内木
14	災害急性期の救護活動における災害看護コーディネーターの連携・協働の役割と課題	自宅学習・課題 提出	山澤
15	各災害サイクルにおける CNS の連携・協働の役割と課題	web で双方向型 授業 (teams)	舎利倉

■ 教科書

授業の際に提示する。

■ 参考書、参考資料等

稲継裕昭 東日本大震災大規模調査から読み解く災害対応-自治体の体制・職員の行動- 第一法規株式会社 (2018)
市川宏雄, 中邨章 災害発生時における自治体組織と人のマネジメント 第一法規株式会社 (2018),
公立大学連携地区防災教室ワークブック編集委員会; 大阪市立大学都市防災教育研究センター (編集) コミュニティ防災の基本と実践
大阪公立大学共同出版会 (2018)

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ 国際・災害看護学演習Ⅰ、Ⅱ

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーションの内容 50 % 2. 課題レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)、織方(554 研究室)

■ 受講上の注意事項

文献とともに、災害及び災害看護に関する報道からも情報を得ておきましょう。

■ その他

HMID200

国際・災害看護学演習Ⅰ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛

■ 授業の目的

1. 看護実践に関する演習や文献検討を通し、災害時要援護者が抱える問題について、解決に向かう看護実践を実施できる能力を養う。
2. 地域防災や病院防災に関する演習や文献検討を通し、災害看護の視点から具体的に展開できる能力を養う。
3. 災害看護教育に関する演習や文献検討を通し、具体的な取り組みを展開できる能力を養う。

■ 到達目標

1. 災害時要援護者が抱える問題を明確化し、対応策について行動できる。
2. 地域防災について、災害看護の視点から対応策を立案し、一部を行動化できる。
3. 病院防災について、看護の視点から対応策を立案し、一部を行動化できる。
4. 災害看護教育のあり方を理解した上でプログラムを立案し、一部を実施できる。

■ 学習の進め方

AL

1. 各自のテーマに基づき、文献学習を行う。
 2. 事例検討と発表
 3. 地域防災セミナーの企画と運営、フィールドワークにて実施する。
 4. 病院防災訓練の企画と運営
 5. 災害看護継続教育プログラムの立案と一部実施
- 履修のために必要な事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。
履修のために必要な事後学習：授業の復習をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、災害時の要配慮者を取り巻く環境と健康障害、ケアの事例検討① 事前学修：[90 分] 要配慮者の環境と健康障害の事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
2	災害時の要配慮者を取り巻く環境と健康障害、ケアの事例検討② 事前学修：[90 分] 要配慮者の環境と健康障害ケアの事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
3	災害時の要配慮者を取り巻く環境と健康障害、ケアの事例検討③ 事前学修：[90 分] 要配慮者の避難所での課題を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
4	災害時の要配慮者を取り巻く環境と健康障害、ケアの事例検討④ 事前学修：[90 分] 要配慮者の介護に関する課題を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表	野口・内木・織方
5	災害時の要配慮者シミュレーションの企画① 事前学修：[90 分] 災害時の要配慮者のトリアージについて文献で調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
6	災害時の要配慮者シミュレーションの企画② 事前学修：[90 分] 災害時の要配慮者のトリアージについての教材で調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
7	災害時の要配慮者机上シミュレーションの実施 事前学修：[90 分] 避難行動要支援者の避難に関する課題を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習	野口・内木・織方
8	地域防災の視点から地域特性アセスメントの検討 事前学修：[90 分] 地域防災の視点から地域特性アセスメントを 2018 年西日本豪雨を事例に調べて記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
9	避難所アセスメント、避難所体験 事前学修：[90 分] 避難所アセスメントを 2018 年西日本豪雨を事例に調べて記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習	野口・内木・織方

No	内容	形式	教員
10	災害時の要配慮者に関するフィールド体験等を通し、得られたデータの検討① 事前学修：[90 分] 現時点での避難所の見学が可能な地域と災害状況を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
11	災害時の要配慮者に関するフィールド体験等を通し、得られたデータの検討② 事前学修：[90 分] 災害慢性期の災害時の要配慮者への支援を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
12	要配慮者に関連した法律の事例検討① 事前学修：[90 分] 要配慮者(避難所)に関連した法律の事例を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
13	要配慮者に関連した法律の事例検討② 事前学修：[90 分] 要配慮者(仮設住宅)に関連した法律の事例を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
14	要配慮者に関する先行研究の検討① 事前学修：[90 分] 要配慮者(避難所)に関する先行研究を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
15	要配慮者に関する先行研究の検討② 事前学修：[90 分] 要配慮者(仮設住宅)に関する先行研究を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
16	地域防災関連の法制度の検討① 事前学修：[90 分] 地域防災関連(減災・防災関連)の法制度について調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
17	地域防災関連の法制度の検討② 事前学修：[90 分] 地域防災関連(避難・避難所関連)の法制度について調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
18	地域防災セミナーの企画運営に参加① 事前学修：[90 分] 地域防災セミナーの企画に関係する文献を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	FW	野口・内木・織方
19	地域防災セミナーの企画運営に参加② 事前学修：[90 分] 地域防災セミナーの企画運営の注意点について調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	FW	野口・内木・織方
20	病院防災に関する事例検討 事前学修：[90 分] 自身の病院の病院防災に関して調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
21	放射能災害に関する事例検討 事前学修：[90 分] 放射能災害に関する事例を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
22	病院防災マニュアルの作成① 事前学修：[90 分] 自身の病院の病院防災マニュアルのポイントと織課題を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
23	病院防災マニュアルの作成② 事前学修：[90 分] 自身の病院の病院防災マニュアルの改善点を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
24	病院初動対応アクションカードの作成① 事前学修：[90 分] アクションカードについて調べてくる 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
25	病院初動対応アクションカードの作成② 事前学修：[90 分] 自身の病院(勤務していた病棟)のアクションカードを作成してくる 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
26	病院防災訓練の企画運営 事前学修：[90 分] 今年度の自身の病院の病院防災訓練について調べて記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習	野口・内木・織方

No	内容	形式	教員
27	放射能災害訓練の企画運営 事前学修：[90 分分] 放射能災害訓練に関する事例をまとめ現状を記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習	野口・内木・織方
28	放射能災害訓練評価方法 事前学修：[90 分分] 放射能災害訓練に関する文献検討を行い課題を記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
29	災害看護継続教育に関する文献検討① 事前学修：[90 分分] 災害の CNS について活動事例をまとめ記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
30	災害看護継続教育に関する文献検討② 事前学修：[90 分分] 災害の CNS の役割について自身の考えを記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方

■ 教科書

特に指定していない。必要な図書の情報提供や研究室に保管している図書の貸し出しは行う。

■ 参考書、参考資料等

特に指定していない。必要な図書の情報提供や研究室に保管している図書の貸し出しは行う。

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・演習Ⅱ

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーション内容及び発表能力 50 % 2. 課題レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12:10~13:10

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)、織方(554 研究室)

■ 受講上の注意事項

地域防災や病院防災、災害看護継続教育の現状を理解するために、実際に展開されている活動に参加することも学習方法の一つとして位置づけます。

■ その他

HMID180

国際・災害看護学演習Ⅱ ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：2 年次 開講期：通年

○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛

■ 授業の目的

1. 災害看護実践に関する演習や文献検討を通し、各サイクル別における看護援助を展開できる能力を養う。
2. 災害に関連する各法律や制度についての事例検討や文献検討を通し、災害時の事象について法律の視点から解釈し、看護活動に活用できる能力を養う。

■ 到達目標

1. 各災害サイクルにおける看護の特性について理解できる。
2. 各災害サイクルにおける看護の特性をふまえ、演習の場面で実践する。
3. 主な災害に関する法律について理解できる。
4. 法律の視点から、被災者の生活や健康に関する事例について解釈できる。
5. 4 について看護の視点に繋げることができる。

■ 学習の進め方

AL

1. 個人ワークとして文献検討を行う。
2. 学生のプレゼンテーションに基づいてディスカッションし、学習を深めるゼミナール形式で展開する。
3. 適宜フィールドワークを行う。
4. 得られたデータの分析については、参加者全員が参加し、妥当性を深める。
5. 適宜、プレゼンテーションを行う。

履修のために必要な事前学習：授業前には各回の内容について調べてくる。

履修のために必要な事後学習：授業の復習をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、災害急性期の看護援助に関する文献検討① 事前学修：[90 分] 災害急性期(救護班)の看護援助に関する文献事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
2	災害急性期の看護援助に関する文献検討② 事前学修：[90 分] 災害急性期(避難所)の看護援助に関する文献事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
3	災害急性期の看護援助に関するシミュレーション①被災病院の看護職の対応 事前学修：[90 分] 被災病院の看護職の対応の事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論・フィールドワーク	野口・内木・織方
4	災害急性期の看護援助に関するシミュレーション②フィジカルアセスメント 事前学修：[90 分] 災害現場での重症者のフィジカルアセスメントについて記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
5	災害中長期の支援活動に関する文献検討① 事前学修：[90 分] 災害中長期(仮設住宅)の支援活動事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
6	災害中長期の支援活動に関する文献検討② 事前学修：[90 分] 災害中長期(みなし仮設住宅)の支援活動事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
7	災害中長期の支援活動に関するシミュレーション① 事前学修：[90 分] 仮設住宅訪問時の観察について事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習・フィールドワーク	野口・内木・織方
8	災害中長期の支援活動に関するシミュレーション②仮設住宅の訪問 事前学修：[90 分] 仮設住宅居住者向けの交流会に関する事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習	野口・内木・織方
9	災害静穏期における文献検討① 事前学修：[90 分] 災害静穏期(企業防災)の事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方

No	内容	形式	教員
10	災害静穏期における文献検討② 事前学修：[90 分] 災害静穏期(大学防災)の事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
11	こころのケアに関する文献検討① 事前学修：[90 分] こころのケアに関して支援者の態度を文献を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
12	こころのケアに関する文献検討② 事前学修：[90 分] こころのケアに関して支援者ケアを文献を調べ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
13	同上ロールプレイ検討① 事前学修：[90 分] こころのケアに関して支援者の態度について事例から課題を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習	野口・内木・織方
14	同上ロールプレイ検討② 事前学修：[90 分] こころのケアに関して支援者ケアを事例から課題を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習	野口・内木・織方
15	同上ロールプレイ発表 事前学修：[90 分] 支援者、被災者役を決めて、避難所でのこころのケアのシナリオを作成する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表	野口・内木・織方
16	災害関連の法律に関する演習のねらいと方法 事前学修：[90 分] 災害関連の法律の課題を調べて記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
17	災害情報に関する法律について事例検討① 事前学修：[90 分] 災害情報(テレビ)に関する法律の事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
18	災害情報に関する法律について事例検討② 事前学修：[90 分] 災害情報(ネット)に関する法律の事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
19	災害情報に関する法律について事例検討③ 事前学修：[90 分] 災害情報に関する法律の課題を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
20	災害情報に関する法律について事例検討プレゼンテーション 事前学修：[90 分] 自身の興味がある災害情報に関する法的課題を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表	野口・内木・織方
21	被災者支援法に関する事例検討① 事前学修：[90 分] 被災者支援法をまとめ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
22	被災者支援法に関する事例検討② 事前学修：[90 分] 被災者支援法のうち義援金に関する事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
23	被災者支援法に関する事例検討③ 事前学修：[90 分] 被災者支援法のうち原発災害の事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
24	被災者支援法に関する事例検討プレゼンテーション 事前学修：[90 分] 被災者支援法うち住宅再建に関する事例を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表	野口・内木・織方
25	国家的危機宣言に関する事例検討① 事前学修：[90 分] 日本の国家的危機宣言を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
26	国家的危機宣言に関する事例検討② 事前学修：[90 分] 国家的危機宣言時の国民がとる行動について記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方

No	内容	形式	教員
27	災害関連死に関する基本的知識と情報 事前学修：[90 分分] 災害関連死の定義を調べ記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論・フィールドワーク	野口・内木・織方
28	災害関連死に関する事例検討① 事前学修：[90 分分] 阪神淡路大震災時の災害関連死の事例を記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木・織方
29	災害関連死に関する事例検討② 事前学修：[90 分分] 興味にがある災害における災害関連死事例を記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口、内木、織方
30	災害関連死に関する事例検討プレゼンテーション 事前学修：[90 分分] 災害関連死に関する課題を記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表	野口、内木、織方

■ 教科書

特に指定していない。必要な図書の情報提供や研究室に保管している図書の貸し出しはする。

■ 参考書、参考資料等

特に指定していない。必要な図書の情報提供や研究室に保管している図書の貸し出しはする。

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、国際・災害看護学演習Ⅰ

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーション内容と発表能力 50 % 2. 課題レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12:10~13:10

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)

■ 受講上の注意事項

既習による知見を活かしながら、実践能力を高める。

■ その他

H MID280

国際・災害看護学特別研究Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛

■ 授業の目的

災害看護学領域や国際看護学領域の重要課題を中心に文献学習を行なうとともに、各自の研究課題の明確化を図り、研究計画書の作成を進める。

■ 到達目標

1. 災害看護学や国際看護学領域の各自の研究課題に関する文献学習を行うことができる。
2. 文献学習を基盤にディスカッションを通し研究課題を見出せる。
3. 研究命題が明確となる。
4. 研究計画書を作成することができる。
5. 必要な人材のアドバイスを積極的に受ける。

■ 学習の進め方

1. 災害看護学や国際看護学領域の各自の研究課題に関する文献学習を行う。
2. 各自の研究課題に関する文献の抄録などを作成、授業時に提示する。
3. 文献学習、書くこと、発表することを基盤に討論を中心に授業を進める。
4. フィールドワークを実施する。
5. 授業を通して研究命題が見出せたら、関連するフィールドで実習を行なう。
6. 実習終了後は授業時間で報告を行い、修士論文のテーマ設定につなげていく。
7. 可能な限り院生1、2年生合同の授業日程を調整する。

履修のために必要な事前学習：プレゼンテーション資料を用意する。

履修のために必要な事後学習：資料の修正をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、各自の希望する研究テーマの紹介 事前学修：[120分] 自身の災害に関して気になる点についてまとめて記述する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
2	各自の希望する研究テーマの紹介 事前学修：[120分] 前回のゼミを活かし自身の災害に関して気になる点の理由を記述する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	内木・野口・織方
3	興味あるトピックスの発表と共有化 事前学修：[120分] 災害看護の現状を事例などを調べ記述する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	発表・討論	内木・野口・織方
4	興味あるトピックスの発表と共有化 事前学修：[120分] 災害看護の課題の事例で調べ記述する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
5	文献の紹介、文献検索と文献検討の方法、クリテークの方法、リストの作成 事前学修：[120分] 文献検討の方法について書籍を読みまとめ、記述してくる 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
6	文献の紹介、文献検索と文献検討の方法、クリテークの方法、リストの作成 事前学修：[60分] 自身の災害に関して気になる点のキーワードを記述する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
7	国際・災害看護学領域の文献検討の発表と討議 事前学修：[120分] 自身の災害に関して気になる点その理由を記述する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	発表・討論	内木・野口・織方
8	国際・災害看護学領域の文献検討の発表と討議 事前学修：[120分] 自身の災害に関して気になる点について文献検討し記述する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	発表・討論	内木・野口・織方
9	国際・災害看護学領域の文献検討の発表と討議 事前学修：[120分] 前回のゼミを活かし、検索テーマを決めて文献検討し記述する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	発表・討論	内木・野口・織方

No	内容	形式	教員
10	国際・災害看護学領域の文献検討の発表と討議 事前学修：[120 分] 前回のゼミを活かし、検索テーマを決めて文献検討し記述する 事後学修：[60 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	発表・討論	内木・野口・織方
11	国際・災害看護学領域の文献検討の発表と討議 事前学修：[120 分] 自身がこれまで行った文献検討の結果をまとめ記述する① 事後学修：[60 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	発表・討論	内木・野口・織方
12	国際・災害看護学領域の文献検討の発表と討議 事前学修：[120 分] 自身がこれまで行った文献検討の結果をまとめ記述する② 事後学修：[60 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	発表・討論	内木・野口・織方
13	研究命題に即したフィールドワークの企画検討 事前学修：[60 分] テーマを決めて、何を研究したいのか記述する 事後学修：[60 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
14	研究命題に即したフィールドワークの企画検討 事前学修：[60 分] テーマに沿ったフィールドワークの場所を記述する 事後学修：[60 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
15	フィールドワーク 事前学修：[60 分] 施設への依頼、日程表を作成する 事後学修：[60 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	FW	内木・野口・織方
16	フィールドワーク 事前学修：[30 分] フィールドワークの目的を方法う、注意点を記述する 事後学修：[120 分] フィールドノーツを記述する	FW	内木・野口・織方
17	フィールドワーク 事前学修：[30 分] フィールドワークの目的を方法う、注意点を記述する 事後学修：[120 分] フィールドノーツを記述する	FW	内木・野口・織方
18	フィールドワーク 事前学修：[30 分] フィールドワークの目的を方法う、注意点を記述する 事後学修：[120 分] フィールドノーツを記述する	FW	内木・野口・織方
19	フィールドワーク 事前学修：[30 分] フィールドワークの目的を方法う、注意点を記述する 事後学修：[120 分] フィールドノーツを記述する	FW	内木・野口・織方
20	フィールドワーク 事前学修：[30 分] フィールドワークの目的を方法う、注意点を記述する 事後学修：[120 分] フィールドノーツを記述する	FW	内木・野口・織方
21	研究課題の明確化 事前学修：[120 分] フィールドノーツをまとめ記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、課題を明確にする	討論	内木・野口・織方
22	研究課題の明確化 事前学修：[60 分] 研究テーマと選んだ理由を記述する 事後学修：[60 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
23	研究課題の明確化 事前学修：[120 分] 研究テーマの背景を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
24	研究課題の明確化 事前学修：[120 分] 研究の目的を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
25	研究計画書作成 事前学修：[120 分] 行いたい研究方法とその理由を記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
26	研究計画書作成 事前学修：[120 分] 自身が行いたい研究に沿った研究対象について記述する 事後学修：[30 分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方

No	内容	形式	教員
27	研究計画書作成 事前学修：[120 分分] 自身が行いたい研究に沿ったデータ収集方法を記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
28	研究計画書作成 事前学修：[120 分分] 自身が行いたい研究に関するデータ分析方法について記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
29	研究計画書作成 事前学修：[120 分分] 自身が行いたい研究に関する倫理的配慮について記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方
30	研究計画書作成 事前学修：[120 分分] 規程の用紙に研究計画書として記述する 事後学修：[30 分分] ゼミでの討論内容を要約し、不足していることを補う	討論	内木・野口・織方

■ 教科書

特に指定していませんが、必要な図書の情報提供や研究室に保管している図書の貸し出しは致します。

■ 参考書、参考資料等

ノーマン・K. デンジン (編集), イヴォンナ・S. リンカン (編集). (2006). 質的研究ハンドブック 1 巻: 質的研究のパラダイムと眺望. 北大路書房.

Susan K, Grove PhD RN ANP-BC GNP-BC, and Nancy Burns PhD RN FCN FAAN. (2012). The Practice of Nursing Research: Appraisal, Synthesis, and Generation of Evidence, 7e. Saunders.

Julian P. T. Higgins, Sally Green 編. (2008). Cochrane Handbook for Systematic Reviews of Interventions. Wiley.

木下 是雄. (1981). 理科系の作文技術. 中央公論新社.

American Psychological Association. (2009). Publication Manual of the American Psychological Association.

■ 他の授業科目との関連

看護研究、国際看護学特講 I～IV、災害看護学特講 I～IV

■ 成績評価の仕方

1. 作成した抄録の内容及びプレゼンテーションの内容 50 % 2. 課題レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12 : 10～13 : 10

内木(406 研究室)、織方(554 研究室)

■ 受講上の注意事項

文献検討とともに、タイムリーに災害に関する新聞記事等から情報収集することも必要です。

■ その他

HMID181

国際・災害看護学特別研究Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：前期

○野口 眞貴子、内木 美恵

■ 授業の目的

国際・災害看護学特別研究Ⅰと連動する。1年次に引き続き、各自の研究課題を明確にし、研究計画書に基づいて研究を進める。研究過程で生じた疑問や問題をディスカッションし、研究課題を探究する。

■ 到達目標

1. 研究課題の検討をゼミ形式で行なう。
2. 研究デザインの検討を重ね、研究計画書を作成する。
3. 倫理的観点での検討を行なう。
4. フィールドワークでデータ収集する。

■ 学習の進め方

1. 学生のプレゼンテーションに基づいてディスカッションし、学習を深めるゼミナール形式で展開する。
 2. スケジュールは修士論文の計画に沿って、また授業内容、院生の学習課題により調整する。
 3. 可能な限り院生1、2年生合同の日程を調整する。
 4. 研究計画書が確定後、倫理審査委員会での採択後、フィールドでの研究活動に取り組む。
- 履修のために必要な事前学習：プレゼンテーション資料を用意する。
履修のために必要な事後学習：資料の修正をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[20分] 関心がある研究テーマをA4半分から1枚程度に記述する 事後学修：[30分] 関心がある研究テーマをノートを用いてブレインストーミングする	討論	野口・内木
2	研究計画、デザインの検討 事前学修：[30分] マインドマッピングを作成する 事後学修：[30分] マインドマッピングを修正する	討論	野口・内木
3	研究計画、デザインの検討 事前学修：[20分] 関心があるテーマの研究デザインをA41枚にまとめる 事後学修：[20分] 討論をうけ、関心があるテーマの研究デザインを修正する	討論	野口・内木
4	研究計画、デザインの検討 事前学修：[30分] 研究デザインについて調べ、A41枚にまとめる 事後学修：[30分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
5	研究計画書の検討、作成 事前学修：[20分] 関心があるテーマの研究目的を記述する 事後学修：[20分] 関心があるテーマの研究目的を修正する	討論	野口・内木
6	研究計画書の作成 事前学修：[20分] 関心があるテーマの修正した研究目的を達成する研究デザインを記述する 事後学修：[20分] 関心があるテーマの修正した研究目的を達成する研究デザインを修正する	討論	野口・内木
7	研究計画書の作成 事前学修：[20分] 関心があるテーマの修正した研究テーマの文献をひとつ読み、内容を理解する 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
8	研究計画書の作成 事前学修：[20分] 関心があるテーマの修正した研究テーマの文献をひとつ読み、内容を理解する 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
9	倫理的課題、倫理的配慮に関する検討 事前学修：[30分] 関心があるテーマの倫理的課題をA41枚以内にまとめる 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木

No	内容	形式	教員
10	倫理的課題、倫理的配慮に関する検討 事前学修：[30分] 関心があるテーマの倫理的課題を明確化し、A41枚にまとめる 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
11	研究デザインの再検討、研究計画の総括 事前学修：[30分] 関心があるテーマの研究計画書のアウトラインを作成する 事後学修：[30分] 関心があるテーマの研究計画書のアウトラインを修正する	討論	野口・内木
12	研究実施にむけた準備、調整 事前学修：[30分] 関心があるテーマの研究方法を検討する 事後学修：[20分] 関心があるテーマの研究方法の概略を修正する	討論	野口・内木
13	研究実施にむけた準備、調整 事前学修：[30分] 研究のプロトコールを作成する 事後学修：[30分] プロトコールを修正する	討論	野口・内木
14	研究の実施：データ収集 事前学修：[20分] データ収集時の倫理的配慮を箇条書きにする 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
15	研究の実施：データ収集 事前学修：[20分] データ収集での課題を箇条書きにする 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
16	研究の実施：データ収集 事前学修：[20分] データ収集での課題を箇条書きにする 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
17	研究の実施：データ収集 事前学修：[20分] データ収集での課題を箇条書きにする 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
18	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[20分] データクリーニングの手順を理解する 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
19	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[20分] データ分析の進捗を報告できるようにまとめる 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
20	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[20分] データ分析の進捗を報告できるようにまとめる 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
21	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：データ分析の進捗を報告できるようにまとめる 事後学修：討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
22	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[20分] データ分析の進捗を報告できるようにまとめる 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
23	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[20分] データ分析の進捗を報告できるようにまとめる 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
24	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[20分] データ分析の進捗を報告できるようにまとめる 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
25	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[20分] データ分析の進捗を報告できるようにまとめる 事後学修：討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
26	研究の実施：データ収集、分析、中間総括 事前学修：[30分] これまでの研究過程、進捗状況を要約する 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木

No	内容	形式	教員
27	研究の実施：データ収集、分析、中間総括 事前学修：[30分] データ分析結果を要約する 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
28	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[30分] データ分析結果を要約する 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
29	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[30分] データ分析結果を要約する 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
30	研究の実施：データ収集、分析 事前学修：[30分] データ分析結果を要約する 事後学修：[20分] 討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木

■ 教科書

特に指定していませんが、必要な図書の情報提供や研究室に保管している図書の貸し出しは致します。

■ 参考書、参考資料等

佐藤郁哉. (2013). フィールドワークの技法. 新曜社.

ピーター・H・ロッシ他(2005). プログラム評価の理論と方法 初版. 日本評論社.

舟島なをみ. (2015). 看護実践・教育のための測定用具ファイル 第3版. 医学書院.

ノーマン・K. デンジン (編集), イヴォンナ・S. リンカン (編集). (2006). 質的研究ハンドブック 1 巻: 質的研究のパラダイムと眺望. 北大路書房.

Stephen B. Hulley, Steven R Cummings MD 他. 木原雅子, 木原正博訳. (2014). 医学的研究のデザイン 研究の質を高める疫学的アプローチ 第4版. メディカルサイエンスインターナショナル.

田中 智之, 小出 隆規, 安井 裕之. (2018). 科学者の研究倫理 化学・ライフサイエンスを中心に. 東京化学同人.

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーション、レポート課題については、講義時間内で評価、対応する。

■ 他の授業科目との関連

国際・災害看護学特別研究Ⅰ・Ⅲ、災害看護学特講Ⅳ(災害に関する法制度)、災害看護学特講Ⅴ(多職種連携)、看護研究

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーションの内容と発表能力 50% 2. 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12:10~13:10

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)

■ その他

HMD201

国際・災害看護学特別研究Ⅲ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：後期

○野口 眞貴子、内木 美恵

■ 授業の目的

国際・災害看護学特別研究Ⅱと連動する。研究計画書に基づいて研究を進める。フィールド調査(研究Ⅱ)で得たデータを分析し、研究課題の考察を深める。

■ 到達目標

1. フィールドワークで収集したデータ分析を行ない、その妥当性、信頼性を高める。
2. 研究課題の探求と考察を深化させる。
3. 研究プロセスと結果を適切に論文にまとめることができる。

■ 学習の進め方

1. 学生のプレゼンテーションに基づいてディスカッションし、学習を深めるゼミナール形式で展開する。
 2. スケジュールは修士論文の計画に沿って、また授業内容、学生の学習課題により調整する。
 3. フィールドワークによって得られたデータの分析については、参加者全員が参加し、妥当性を高める。
 4. 可能な限り、修士1年生と2年生は合同の授業時間と設定する。
2年生の取組は、1年生の動機づけとして大変参考になることを説明する。
- 履修のために必要な事前学習：プレゼンテーション資料を用意する。
履修のために必要な事後学習：資料の修正をする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
2	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
3	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
4	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
5	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
6	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
7	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
8	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
9	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
10	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木

No	内容	形式	教員
11	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
12	データ分析結果の検討、討議 事前学修：[20分] データ分析の進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
13	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察の視点を簡条書きする 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
14	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察の視点を簡条書きする 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
15	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察内容の論理を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
16	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察内容の論理を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
17	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察内容の論理を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
18	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察内容の論理を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
19	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察内容の論理を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
20	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
21	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
22	考察の妥当性、整合性、論理性の検討、討議 事前学修：[20分] 考察全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
23	学位論文全体に関する検討、討議 事前学修：[20分] 論文各部の内容を簡条書きにする 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
24	学位論文全体に関する検討、討議 事前学修：[20分] 論文各部の記述したい内容を簡条書きにする 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
25	学位論文全体に関する検討、討議 事前学修：[20分] 論文各部の記述したい内容を簡条書きにする 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
26	学位論文全体に関する検討、討議 事前学修：[20分] 論文各部の記述したい内容を簡条書きにする 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
27	学位論文全体に関する検討、討議 事前学修：[20分] 論文各部の記述したい内容を簡条書きにする 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木

No	内容	形式	教員
28	学位論文全体に関する検討、討議 事前学修：[20分] 論文各部の記述したい内容を箇条書きにする 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
29	学位論文全体に関する検討、論文発表、投稿に関する検討 事前学修：[20分] 当該研究テーマに即した学会を調べる 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木
30	学位論文全体に関する検討、論文発表、投稿に関する検討 事前学修：[20分] 投稿規定の疑問点を明確化する 事後学修：[20分] 討論結果より、自己の課題を明確化する	討論	野口・内木

■ 教科書

特に指定していませんが、必要な図書の情報提供や研究室に保管している図書の貸し出しは致します。

■ 参考書、参考資料等

佐藤郁哉.(2013). フィールドワークの技法. 新曜社.

ピーター・H・ロッシ他(2005). プログラム評価の理論と方法 初版. 日本評論社.

舟島なをみ.(2015). 看護実践・教育のための測定用具ファイル 第3版. 医学書院.

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーション、レポート課題については、講義内で評価、対応する。

■ 他の授業科目との関連

看護研究、国際・災害看護学特別研究Ⅰ、Ⅱ

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーションの内容と発表能力 50% 2. 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12:10~13:10

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)

■ その他

HMID250

国際・災害看護学実習 I -1 ※ CNS 科目

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○内木 美恵、野口 真貴子

■ 授業の目的

本実習は、災害中長期における被災者の健康・生活支援活動を通して、災害看護の CNS に求められる 6 つの能力「高度実践」、「連絡調整」、「倫理調整」、「教育」、「相談」、「研究」の必要性や具体的な活動と各能力を認識する。被災地での慢性期・復興期における災害看護の展開を実践し、被災者に対する支援活動のあり方を探求する。

■ 到達目標

1. 支援組織のマネジメントシステムを理解する。
2. 被災者の健康上の課題について分析し、看護の役割を明確にする。
3. 慢性期・復興期における被災地での疾病構造を理解し、対応できる。
4. 被災者の身体的・心理的・社会的健康状態をアセスメントし、適切に評価する。
5. 被災者に対するケアリングの意味を考察し、実践する。
6. ハイリスクとされる被災者への継続支援のあり方を考察する。

■ 学習の進め方

AL

1. 東日本大震災の被災地を訪問し、現地の支援組織の担当者から、現状について情報得る。
2. 被災者を実際に訪問し、被災者の身体的・心理的・社会的健康状態を把握するための方法や内容を学ぶ。履修のために必要な事前学習：授業前には実習場所の概要を調べてくる。
履修のために必要な事後学習：実習内容のまとめをする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習場所と時期
中長期支援活動実習 I は、前期に東日本大震災で被災した宮城県気仙沼市面瀬仮設住宅で行う。
2. 実習対象者
仮設住宅に居住する住民組織と支援活動を行っている団体。当該団体と管轄行政の承諾後、連絡調整の下で計画立案し進めていく。
詳細は後日、説明を行う。
3. 履修に必要な実習時間：45 時間 1 単位
4. 仮設住宅で生活する住民の健康・生活上の看護ニーズから、被災者に寄り添う支援活動を立案し、実施する。その際、現場の看護職や自治会長との連絡調整、住民の倫理的配慮について調整を行う。
5. 仮設住宅で生活する住民を支援する組織団体、行政の会議に参加し、住民および支援の現状を把握する。
6. 仮設住宅で生活する被災者を訪問、身体的・心理的・社会的健康状態をアセスメントを行い、健康状態を評価する。

■ 教科書

特に指定しないが、必要な図書の情報提供や研究室の図書の貸し出しは可能

■ 参考書、参考資料等

特に指定しないが、必要な図書の情報提供や研究室の図書の貸し出しは可能

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講 I、III、国際・災害看護学演習 I、国際・災害看護学実習 I-2

■ 成績評価の仕方

1. 実習での一連の連取り組みとプレゼンテーション内容 70 %
2. 最終課題レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習前後の日程 12：10～13：10

野口(403 研究室)、内木(406 研究室) m-naiki@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

1. 日程については、自己の学習計画と調整する。
2. 現場指導者との人間関係を良好に保つ努力と同時に、計画立案については、率直に協議する。
3. 実習対象者にとって何が必要かを中心にアセスメントし、指導者との連絡調整を怠りなく、活動していく。
4. 必要時、指導教員に連絡をとる。

■ その他

HMID182

国際・災害看護学実習 I -2 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○内木 美恵、野口 眞貴子

■ 授業の目的

本実習は、中長期支援活動実習 I に引き続き、災害中長期における被災者の健康・生活支援活動を通して、災害看護の CNS に求められる 6 つの能力「高度実践」、「連絡調整」、「倫理調整」、「教育」、「相談」、「研究」の必要性を理解し、具体的な活動を計画、実践できる。

1. 中長期支援活動実習 I の活動から、被災地域の行政への支援や他組織とのかかわりを学び、災害看護における連携の意義を探究する。
2. 被災地での支援や連携の実際から、具体的な課題を見出し、慢性期・復興期における災害看護の在り方について新たな示唆を得る。

■ 到達目標

1. 避難している被災者に対する受け入れ地域の行政の支援を理解する。
2. 避難している被災者と受け入れシステムへの支援の実際を学び考察する。
3. 被災した地域の保健医療システムへの支援の実際を学び考察する。
4. 被災した地域のコミュニティ再建への支援活動を考察できる。
5. 被災者同士の“絆”をつなぎ、健康生活立て直しへの支援活動を考察できる。
6. 支援者のストレスを軽減する実際を学び、デヒュージング・デフリーフィングの意味を考察できる。

■ 学習の進め方

AL

東日本大震災で被災した宮城県、岩手県、福島県における仮設住宅で中長期支援活動を展開しながら、被災者支援のあり方と、支援者の多職種連携のあり方について、前期 I の実習に引き続き 2 単位の实習を展開する。

履修のために必要な事前学習：授業前には実習場所の概要を調べてくる。

履修のために必要な事後学習：実習内容のまとめをする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習場所(A、B、C から 1 カ所を選択)
A 宮城県気仙沼市面瀬仮設住宅 B 岩手県下閉伊郡山田町仮設住宅 C 福島県の避難者を受け入れている仮設住宅
2. 実習対象者：各仮設住宅に居住する住民組織と支援活動を行っている団体。
当該団体と管轄行政の承諾後、連絡調整の下で、計画立案し進めていく。詳細は後日、説明を行う。
3. 履修に必要な実習時間：90 時間 2 単位
4. 仮設住宅で生活する住民の健康・生活上の看護ニーズから、被災者に寄り添う支援活動を立案し、実施する。
その際、現場の看護職や自治会長との連絡調整、住民の倫理的配慮について調整を行う。
5. 仮設住宅で生活する住民を支援する組織団体、行政の会議に参加し、住民および支援の現状を把握する。
6. 仮設住宅で生活する被災者を訪問し、身体的・心理的・社会的健康状態をアセスメントし、健康状態を評価する。
7. 被災住民を支援する組織団体や行政と連携を図り、健康生活立て直しへの支援活動について提言を行う。
8. 被災者同士の“絆”をつなぎ、コミュニティ再建を図るためのプログラムを企画し、被災住民支援組織団体・行政へ提言する。
9. コミュニティ再建プログラムを実践するため、被災住民支援組織団体・行政と連携を図り、実現に向けての会議に参加する。
10. コミュニティ再建プログラムを実践し、評価して、地域へフィードバックする。

■ 教科書

教科書の指定はない

■ 参考書、参考資料等

適宜指示する

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講 I, II, III, IV、国際・災害看護学演習 I、国際・災害看護学実習 I-1・III

■ 成績評価の仕方

1. 実習一連の取り組みと実習中のプレゼンテーション内容 70 %
2. 課題提出レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習前後の日程 12：10～13：10

野口(403 研究室)、内木(406 研究室) m-naiki@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

1. 日程については、自己の学習計画と調整する。
2. 現場指導者との人間関係を良好に保つ努力と同時に、計画立案については、率直に協議する。
3. 実習対象者にとって何が必要かを中心にアセスメントし、指導者との連絡調整を怠りなく、活動していく。
4. 必要時、指導教員に連絡をとる。

■ その他
HMID183

国際・災害看護学実習Ⅱ-1 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：通年

○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛

■ 授業の目的

実習Ⅱでは、講義や演習での学び、実習Ⅰでの経験知をふまえ、①救急車同乗を通して急性期における緊急時の対応や救命活動、②救命救急センターでの急性期における看護実践以上2カ所の実習を通して、総合的に災害看護の専門看護師に必要な6つの能力「高度実践」、「連絡調整」、「倫理調整」、「教育」、「相談」、「研究」を修得するために、主体的に現場の中で情報、判断、行動力を駆使し取り組む。

■ 到達目標

<救急車同乗実習>

1. 救急車の搬送システム、救急車内の構造や資機材の使用法、救急救命士の役割について説明できる。
2. 救急患者が置かれている環境、フィジカルアセスメント、心の状態、倫理的問題についてアセスメントすることができる。
3. 救命センターや救急外来との連携について、実情から課題を見出すことができる。救急車を利用する上での、住民側の問題やその社会的背景について考察できる。
4. 災害発生時における消防署の役割、広域搬送システム、救急隊員の教育訓練等について知識を得ることができる。

<救命救急センター実習>

1. 救命センターにおける構造、設備の特性、医療職の構成等について説明できる。
2. 救命センターに搬送される救急患者の疾病構造と救急医療対応について説明できる。
3. 救急隊員及び救急医療チーム等の他職種連携における課題について考察できる。
4. 救急医療における救急看護師の役割について、救急患者のケア、救急患者の視点から捉えた倫理的問題について、実際から考察できる。
5. 災害発生時における救命センターの役割、具体的な活動について説明できる。

■ 学習の進め方

AL

<救急車同乗実習>

1. 実習先である東京消防庁武蔵野消防署の同意は得ている。詳細は後日
2. 実習時間 45 時間 1 単位 救急車同乗時間 8:30～21:00 実習日数は院生と相談の上決定する。
3. 実習については、救急救命士の指導下で行う。
4. 施設の実習に関する情報収集後、自ら実習方法について交渉し、日程調整等を決定する。

<救命救急センター実習>

1. 実習先は武蔵野赤十字病院救命センターを予定している。詳細は別紙にて
2. 実習時間 45 時間 1 単位 13:00～21:00 を予定しているが、16:00～翌 8:00 の時間帯も検討している。
3. 指導者は実習指導者救命センターの救急看護認定看護師となる予定
4. 施設の実習に関する情報収集後、自ら実習方法について交渉し、日程調整や時間帯等を決定する。

履修のために必要な事前学習：授業前には実習場所の概要を調べてくる。

履修のために必要な事後学習：実習内容のまとめをする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

<共通>

1. 対象機関と直接交渉し、実習日程を調整し、必要な参加日数を決定する。
2. 院生自身が具体的な実習目標を設定、更に実習内容や方法の計画立案し、担当教員に提出し承諾を得た後、実習先との連絡調整に入る。
3. 各実習の進め方を参考に、具体的な方法、内容を計画立案していく。

■ 教科書

教科書の指定はない

■ 参考書、参考資料等

適宜指示する

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、国際・災害看護学演習Ⅰ・Ⅱ、国際・災害看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

■ 成績評価の仕方

1. 実習の一連の連取り組みと実習中のプレゼンテーション 70 %
2. 課題レポート：30 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習前後の日程 12:10～13:10

内木(406 研究室) m-naiki@redcross.ac.jp、織方(554 研究室) a-ogata@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

学生自身がフィールドを確保している場合、【授業の目的】に合致した内容で【実習の目的と目標】を掲げて担当教員に提出し、許可の下、実践する。

1. 日程については、自己の学習計画と照合し割り出す。
2. 現場指導者との人間関係を良好に保つ努力と同時に、計画立案については、率直に協議する。
3. 実習対象者の傷病者にとって何が必要かを中心にアセスメントし、指導者との連絡調整を怠りなく、活動していく。
4. 必要時、指導教員に連絡をとる。

■ その他

HMID184

国際・災害看護学実習Ⅱ-2 ※ CNS 科目

単位：1 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：通年

○内木 美恵、野口 真貴子

■ 授業の目的

実習Ⅱでは、講義や演習での学び、実習Ⅰでの経験知をふまえ、病院防災における看護活動の実習を通して、総合的に災害看護の専門看護師に必要な6つの能力「高度実践」、「連絡調整」、「倫理調整」、「教育」、「相談」、「研究」を修得するために、主体的に現場の中で情報、判断、行動力を駆使し取り組む。

■ 到達目標

1. 病院防災の企画・運営に関わり、病院防災の活動計画および、静穏期における看護の役割を探求する。
2. 病院の復興・企画・運営について協議される場に参加し、管理運営のあり方を学ぶ。
3. 病院防災に参加し、役割の一部を担い、評価を行って、病院防災における看護の役割を検証する。
4. 病院防災の実践を通し、災害発生時の入院患者の安全確保、被災した住民への対応、指示系統のあり方について考察する。

■ 学習の進め方

AL

1. 実習場所（下記の病院から選択する）
 - ・横浜市立みなと赤十字病院
 - ・東京都支部管轄の赤十字病院
 - ・石巻赤十字病院
 - ・牧田総合病院
2. 実習時間 45 時間 1 単位
3. 上記施設の実習に関する情報収集後、自ら実習方法について交渉し、日程調整等を決定する。
4. 病院の防災会議に参加し、防災訓練の一部を企画・運営、病院との協働により実施する。
5. 防災訓練実施後には実施内容の評価、考察し、病院への提言を行う。
6. 災害拠点病院が支援する地区医師会や地域基幹病院との相談会議に参加する。

履修のために必要な事前学習：授業前には実習場所の概要を調べてくる。

履修のために必要な事後学習：実習内容のまとめをする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 対象機関と直接交渉し、実習日程を調整し、必要な参加日数を決定する。
2. 院生自身が具体的な実習目標を設定、更に実習内容や方法の計画立案し、担当教員に提出し承諾を得た後、実習先との連絡調整に入る。
3. 各実習の進め方を参考に、具体的な方法、内容を計画立案していく。

■ 教科書

特に指定しないが、必要な図書の情報提供や研究室の図書の貸し出しは可能

■ 参考書、参考資料等

特に指定しないが、必要な図書の情報提供や研究室の図書の貸し出しは可能

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、国際・災害看護学演習Ⅰ・Ⅱ、災害看護学実習Ⅰ・Ⅱ-1・Ⅲ

■ 成績評価の仕方

1. 実習一連の取り組み及びプレゼンテーション 70 %
 2. 課題レポート 30 %
- 合計 100 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習前後の日程 12：10～13：10

内木(406 研究室) m-naiki@redcross.ac.jp、野口(403 研究室) m-noguchi@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

1. 日程については、自己の学習計画と調整する。
2. 現場指導者との人間関係を良好に保つ努力と同時に、計画立案については、率直に協議する。
3. 実習対象者の傷病者にとって何が必要かを中心にアセスメントし、指導者との連絡調整を怠りなく、活動していく。
4. 必要時、指導教員に連絡をとる。

■ その他

HMID185

国際・災害看護学実習Ⅲ-1 ※ CNS 科目

単位：3 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：通年

○内木 美恵、野口 眞貴子

■ 授業の目的

開発途上国の災害多発地域における地域防災保健活動の現場に赴き、被災地や支援者との語らい及び防災支援活動の実践を通して、災害看護の CNS 専門看護師に必要な 6 つの能力の習得を目指す。

■ 到達目標

1. 開発途上国の災害特性や地域特性をふまえ、対策としての地域防災機構、防災ボランティアの育成、住民の防災意識や対策、防災や災害対応における看護職の役割などについて理解する。
2. 災害多発地域が抱える保健医療問題点と社会・政治・文化などを多角的視点から捉え、保健医療福祉システムや保健医療資源の課題について理解する。
3. 自然災害多発国としての各国から、防災・減災対策について国際支援を受けながら、先進的な取り組みがなされている歴史や現状について理解する。
4. 実習を通して、地域防災保健活動における災害看護の CNS 専門看護師に必要な 6 つの能力について整合し考察する。

■ 学習の進め方

AL

国外での実習として、バングラデシュ赤新月社が管轄する災害多発地域の母子保健センターを拠点に、災害が一般住民の生活に与える影響と防災ボランティアの育成状況等について、支援活動しながら実習を行う。

履修のために必要な事前学習：授業前には実習場所の概要を調べてくる。

履修のために必要な事後学習：実習内容のまとめをする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 指導者はバングラデシュ赤新月社の実習担当者、母子保健センターの准助産師が行う。
2. 実習時間 135 時間 3 単位
3. バングラデシュ国の医療概況を把握し、同国の保健医療問題、保健医療制度、看護制度・看護の役割について情報収集する。
4. バングラデシュ国赤新月社の防災事業内容・活動状況の実際、赤十字/赤新月社活動の国際ネットワークについて情報収集する。
5. 地域防災実習サイトにおける地域特性、災害特性、ハザードエリア、住民の生活と防災意識、自助、共助について情報収集する。
6. 地域防災実習サイトにおける准助産師の役割、防災ボランティアの活動やその育成方法等について情報収集を行う。
7. 3～6 をふまえ、住民の防災意識や防災対応、避難行動等に関するアセスメントを行い、防災に関する准助産師の役割から住民の課題を抽出し、対策について指導者や防災ボランティアと協議する。
8. 7 をふまえ、指導者や防災ボランティアと協働し、住民を対象に防災セミナーを開催する。
9. 一連をふまえ、看護職や防災ボランティア等と共に、今後の課題、継続性について協議する。
10. 使用した資料の活用方法等について、申し送りを行う。
11. 日程、詳細については後日連絡する。

■ 教科書

教科書の指定はない

■ 参考書、参考資料等

適宜指示する

■ 他の授業科目との関連

国際看護学Ⅰ・Ⅱ、災害看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、国際・災害看護学演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-2

■ 成績評価の仕方

1. 実習への一連の取り組み及び実習中のプレゼンテーション 70 %
2. 課題レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)、織方(554 研究室)

■ 受講上の注意事項

1. 日程については、自己の学習計画と調整する。
2. メールを通して相手国の現場指導者との人間関係を良好に保つ努力と同時に、計画立案については率直に協議する。
3. 実習対象者にとって何が必要かを中心にアセスメントし、指導者との連絡調整を怠りなく活動していく。
4. 必要時、指導教員に連絡をとる。

■ その他

HMID186

国際・災害看護学実習Ⅲ-2 ※ CNS 科目

単位：1 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：通年

○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛

■ 授業の目的

国内における官民学で取り組んでいる地域防災活動の実習を通して、住民組織や行政とのかかわりから、災害看護の CNS 専門看護師に必要な「連携調整」や「高度実践」能力の習得を目指す。

■ 到達目標

1. 官学民で取り組んでいる地域防災活動の意義や方法について理解する。
2. 具体的な地域防災活動の企画運営について、住民のニーズをふまえる必要性について理解する。
3. 行政、住民との連携・協働の実態を通して、防災の基本である自助、共助、公助の視点から考察する。
4. 地域防災活動を通して、地域防災活動における災害看護の CNS 専門看護師に必要な 6 つの能力について、整合し考察する。

■ 学習の進め方

AL

1. 武蔵野地域防災活動ネットワークの活動として、武蔵野市が実習の拠点となる。
2. 官学民で取り組んでいる地域防災活動の一環として、武蔵野地域防災活動ネットワークが主催する活動企画運営会議に参加する。
3. 地域防災セミナーで、防災講話及びシミュレーションのファシリテーターとして担う。
4. 武蔵野市が主催する防災計画検討会議にオブザーバーとして参加する。

履修のために必要な事前学習：授業前には実習場所の概要を調べてくる。

履修のために必要な事後学習：実習内容のまとめをする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 地域防災活動のスケジュールを把握し、参加日程や活動内容等について、実習計画書を提出する。
2. 訪問面談についての日程調整は院生が行う。
3. 連携組織としての東京都支部救護課、武蔵野市防災安全部、自主防災組織等を訪問し、活動内容や連携等の実際について情報収集や話し合いを通して、自助・共助・公助との連携について現状と課題を見出す。

■ 教科書

特に指定しないが、必要な図書の情報提供や研究室の図書の貸し出しは可能

■ 参考書、参考資料等

特に指定しないが、必要な図書の情報提供や研究室の図書の貸し出しは可能

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ、国際・災害看護学演習Ⅰ・Ⅱ、国際・災害看護学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ-1

■ 成績評価の仕方

1. 実習一連の取り組み及び実習中のプレゼンテーション 70 %
2. 課題レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習前後の日程 12：10～13：10

内木(406 研究室) m-naiki@redcross.ac.jp、織方(554 研究室) a-ogata@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

1. 日程については、自己の学習計画と調整する。
2. 現場指導者との人間関係を良好に保つ努力と同時に、計画立案については、率直に協議する。
3. 実習対象者にとって何が必要かを中心にアセスメントし、指導者との連絡調整を怠りなく、活動していく。
4. 必要時、指導教員に連絡をとる。

■ その他

H MID187

英語講読Ⅰ

単位：1単位 履修年次：1・2年次 開講期：前期

○川崎 修一

■ 授業の目的

- (1)英語の論文を正確に読む。
- (2)概要を簡潔にまとめる。

■ 到達目標

- (1)英語の文献を正確に読めるようになる。
- (2)概要を簡潔にまとめられるようになる。

■ 学習の進め方

Polit & Beck (2014) Essentials of Nursing Research, Part 1 Overview of nursing Research and Its Role in evidence-Based Practice を精読します。授業は3部構成です。

第1部：指定された英文を読み、その概要を理解しているか確認し、解説、質疑応答を行います。

第2部：英文を、細部まで検討しながら解説します。

第3部：授業内容の確認テストを行います。

【事前学習】授業前には、配布されたプリント英文の指定された箇所を読んでくる。

【事後学習】授業中に指摘された重要事項を確認しておく。課題を仕上げる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	Introduction to Nursing Research in an Evidence-Based Practice [1] の要約を Glaxa に Word 形式で提出	自宅学習	川崎
2	Introduction to Nursing Research in an Evidence-Based Practice [2] の要約を Glaxa に Word 形式で提出	自宅学習	川崎
3	Introduction to Nursing Research in an Evidence-Based Practice [3] の要約を Glaxa に Word 形式で提出	自宅学習	川崎
4	Fundamentals of Evidence-Based Nursing Practice [1] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
5	Fundamentals of Evidence-Based Nursing Practice [2] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
6	Fundamentals of Evidence-Based Nursing Practice [3] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
7	Key Concepts and Steps in Qualitative Research [1] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
8	Key Concepts and Steps in Qualitative Research [2] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
9	Reading and Reviewing Research Evidence in the Literature [1] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
10	Reading and Reviewing Research Evidence in the Literature [2] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
11	Reading and Reviewing Research Evidence in the Literature [3] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎

No	内容	形式	教員
12	Reading and Reviewing Research Evidence in the Literature [4] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
13	英語タイトルの書き方 [1] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
14	英語タイトルの書き方 [2] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎
15	REVIEW 事前学修：[30分] 1～14回の課題プリントに目を通し理解度を確認する。 事後学修：[30分] 全てのポイントを復習する。	Teams での同 時双方向型	川崎

■ 教科書

授業で配布します。

■ 参考書、参考資料等

必要な場合は教室で提示します。

■ フィードバックの仕方

Glaxa の Report に各回の課題の添削をフィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

英語講読Ⅱの内容を理解するための基礎的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

QUIZ (10回) : 90%

授業参加度 : 10%

■ オフィスアワー・研究室等

川崎(402 研究室)。水曜日 10 : 40 - 12 : 10、13 : 10 - 14 : 40 Teams で受け付ける。

■ その他

HMCS100

英語講読Ⅱ

単位：1単位 履修年次：1・2年次 開講期：後期

○川崎 修一

■ 授業の目的

- (1) 英語の論文を正確に読む。
- (2) 概要を簡潔にまとめる。

■ 到達目標

- (1) 英語の文献を正確に読めるようになる。
- (2) 概要を簡潔にまとめられるようになる。

■ 学習の進め方

Polit & Beck (2014) Essentials of Nursing Research, Part 2/3 を精読します。授業は3部構成です。

第1部：指定された英文を読み、その概要を理解しているか確認し、解説、質疑応答を行います。

第2部：英文を、細部まで検討しながら解説します。

第3部：授業内容の確認テストを行います。

【事前学習】 授業前には、配布されたプリント英文の指定された箇所を読んでくる。

【事後学習】 授業中に指摘された重要事項を確認しておく。課題を仕上げる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	Research Problems, Research Questions, and Hypotheses [1] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
2	Research Problems, Research Questions, and Hypotheses [2] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
3	Research Problems, Research Questions, and Hypotheses [3] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
4	Finding and Reviewing Research Evidence in the Literature [1] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
5	Finding and Reviewing Research Evidence in the Literature [2] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
6	Finding and Reviewing Research Evidence in the Literature [3] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
7	Theoretical and Conceptual Frameworks [1] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
8	Theoretical and Conceptual Frameworks [2] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
9	Qualitative Designs and Approaches [1] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
10	Qualitative Designs and Approaches [2] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
11	Qualitative Designs and Approaches [3] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎

No	内容	形式	教員
12	Qualitative Designs and Approaches [4] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
13	英語タイトルの書き方 [1] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
14	英語タイトルの書き方 [2] 事前学修：[30分] 英文を読んで内容をノートに要約する。 事後学修：[30分] 授業で指摘されたポイントを復習する。	講義・演習	川崎
15	REVIEW 事前学修：[30分] 1～14回の課題プリントに目を通し理解度を確認する。 事後学修：[30分] 全てのポイントを復習する。	講義・演習	川崎

■ 教科書

授業で配布します。

■ 参考書、参考資料等

必要な場合は教室で提示します。

■ フィードバックの仕方

QUIZのフィードバックは授業最終日に行います。

■ 他の授業科目との関連

英語講読Ⅱの内容を理解するための基礎的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

QUIZ (13回) : 90%

授業参加度 : 10%

■ オフィスアワー・研究室等

川崎(402研究室)。水曜日 10:40 - 12:10、13:10 - 14:40

■ その他

HMCS150

人間総合講座

単位：2 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：前期

○井上 明宏、遠藤 公久、川崎 修一、川崎 洋平、渋谷 真樹、角田 敦彦

■ 授業の目的

看護学は学際的な学問であり、看護専門教育の基盤としてリベラルアーツ(教養)の重要性が益々増している。本科目は、看護の対象となる人間を総合的に理解するとともに、さらに豊かな人間性を高めるために開講されるものである。今年度は「論理と感性」について様々な分野の視点から学ぶ。

■ 到達目標

論理的思考ができる。

各分野における論理と感性およびその特性について説明できる。

人間の営みを論理と感性の両面から考えることができる。

■ 学習の進め方

複数の担当教員が専門あるいは周辺の領域におけるトピックスを紹介しながら、講義するとともに、適宜演習あるいは討論を交える。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 生命科学研究における論理と感性－その1 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習 Glexa 上に課題 提出	井上明宏
2	生命科学研究における論理と感性－その2 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習 Glexa 上に課題 提出	井上明宏
3	心理学における論理と感性－その1 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習 Glexa 上で課題 レポートに取り 組み、提出する。	遠藤公久
4	心理学における論理と感性－その2 事前学修：事前課題を取り組み授業に参加する。 事後学修：配布資料について振り返り、次回の授業の準備をする。	オンデマンド型	遠藤公久
5	心理学における論理と感性－その3 事前学修：事前課題を取り組み授業に参加する。 事後学修：配布資料について振り返り課題を整理する。	オンデマンド型	遠藤公久
6	言語の論理と感性－その1 事前学修：配付プリントを読み、要点を A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：納得できた点・疑問が残る点を記述し、次回の授業で確認する。	同時双方向型	川崎修一
7	言語の論理と感性－その2 事前学修：配付プリントを読み、要点を A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：納得できた点・疑問が残る点を記述し、次回の授業で確認する。	同時双方向型	川崎修一
8	言語の論理と感性－その3 事前学修：配付プリントを読み、要点を A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：疑問が残る点を記述し、Glexa で担当教員に確認する。	同時双方向型	川崎修一
9	教育学における論理と感性－その1	オンデマンド型 Glexa 上の講義 資料を閲覧し、 指定の動画を視 聴した上で、課 題レポートに取り 組み、提出す る。	渋谷真樹

No	内容	形式	教員
10	教育学における論理と感性—その2	オンデマンド型 Glexa 上の講義資料を閲覧し、指定の動画を視聴した上で、課題レポートに取り組み、提出する。	渋谷真樹
11	教育学における論理と感性—その3	オンデマンド型 Glexa 上の講義資料を閲覧し、指定の動画を視聴した上で、課題レポートに取り組み、提出する。	渋谷真樹
12	共生社会と感性—その1	オンデマンド型 Glexa 上の講義資料を閲覧・学習し、講義内容に関する質問・コメントを提出する。	角田敦彦
13	共生社会と感性—その2	オンデマンド型 Glexa 上の講義資料を閲覧・学習し、講義内容に関する質問・コメントを提出する。	角田敦彦
14	データサイエンス(数学×統計学的思考)—その1	オンデマンド型 Glexa 上で課題レポートに取り組み、提出する。	川崎洋平
15	データサイエンス(数学×統計学的思考)—その2	オンデマンド型 Glexa 上で課題レポートに取り組み、提出する。	川崎洋平

■ 教科書

必要に応じて資料を配付する。

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

全授業回終了後に、トピックを1つ選んでレポートを執筆し、提出する。該当する担当教員の任意により、コメントを記載して返却する。

■ 他の授業科目との関連

他の授業科目との直接的な関連はない。

■ 成績評価の仕方

1. 4月在宅課題レポート 14% 2. 授業への取り組み 26% 3. 最終レポート 60%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20~12:50 井上(409 研究室)、遠藤公久(405 研究室)、川崎修一(402 研究室)、角田(410 研究室)、渋谷(404 研究室)、川崎洋平(407 研究室)

■ 受講上の注意事項

看護学専攻と国際保健助産学専攻の学生が同時に受講する。

■ その他

HMCS101 / HNCS102

看護科学特講

単位：2 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：後期

○筒井 真優美

■ 授業の目的

「科学とは何か」「看護科学とは何か」の問いから、看護科学の課題を探求する。

■ 到達目標

1. 看護科学とは何かについて説明できる。
2. 看護科学と科学、看護理論等の関係性について理解できる。
3. 看護科学における自分の課題について述べるができる。

■ 学習の進め方

課題について、資料を作成し討議する。

【事前学習】発表資料を準備する。

【事後学習】授業での討議内容を踏まえ、自己の課題を明確化する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	看護科学とは何か(オリエンテーションを含む)	講義	筒井
2	看護科学の発展	講義	筒井
3	科学とは何か、哲学とは何か(1)	講義・発表・討 論	筒井
4	科学とは何か、哲学とは何か(2)	講義・発表・討 論	筒井
5	科学論の変遷	講義・発表・討 論	筒井
6	科学と看護科学との関係	講義・発表・討 論	筒井
7	看護理論の変遷	講義・発表・討 論	筒井
8	看護理論と看護科学との関係	講義・発表・討 論	筒井
9	看護、看護学、看護科学の関係(1)	講義・発表・討 論	筒井
10	看護、看護学、看護科学の関係(2)	講義・発表・討 論	筒井
11	看護科学における倫理的課題(1)	講義・発表・討 論	筒井
12	看護科学における倫理的課題(2)	講義・発表・討 論	筒井
13	学会、雑誌、書物から概観する看護科学の発展	講義・発表・討 論	筒井
14	看護科学の発展と将来(1)	講義・発表・討 論	筒井
15	看護科学の発展と将来(2)	講義・発表・討 論	筒井

■ 教科書

特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

筒井真優美編(2015). 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院.

授業時間に参考文献一覧を提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護(科)学の基礎となる科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50 % 2. 課題のプレゼンテーション 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に教室で質問を受け付ける

メールアドレス：tsutsui@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

授業を楽しみ、自由に意見を述べ、他者と対話する。

■ その他

HMCS151

情報科学特講

単位：2 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：後期

○川崎 洋平

■ 授業の目的

1. 看護学研究に必要な統計学の方法について学ぶ。
2. 研究デザインやデータの特性に適した統計手法の選び方について学ぶ。
3. 変数間の関連性から現象のメカニズムや因果関係を推測する統計手法について学ぶ。
4. 統計ソフト SPSS の使用法を学ぶ。
5. 解析結果の解釈について学ぶ。

■ 到達目標

1. 統計手法の概念を説明できる。
2. データ解析の結果を解釈できる。
3. 研究目的・研究デザイン・データの特性に応じて適切な統計手法を選択できる。
4. 看護学の仮説を統計モデルで表現できる。
5. 統計ソフトの出力から分析結果を読みとり、解釈できる。

■ 学習の進め方

生物統計学の講義及び統計ソフト SPSS を用いたデータ解析の演習を行なう。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

下記の内容は、授業の進行度によって変更(追加・削除)する可能性があります。

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、統計の基礎(データと確率分布) 事前学修：[30分] 量的研究の過程について A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：[30分] 授業を振り返り、ひとつの論文を対象に研究過程を記述する。	講義	川崎 洋平
2	推定と仮説検定(1): 統計学的仮説について 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義	川崎 洋平
3	推定と仮説検定(2): パラメトリック検定とノンパラメトリック検定 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義	川崎 洋平
4	相関と回帰 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義	川崎 洋平
5	分散分析と多重比較 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義	川崎 洋平
6	多変量解析(重回帰分析、ロジスティック回帰分析) 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義	川崎 洋平
7	生存時間解析 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義	川崎 洋平
8	疫学研究・観察研究・介入研究での統計学 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義	川崎 洋平
9	基礎統計量と区間推定、2つの母平均の差の検定、ウィルコクソンの順位和検定 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義・演習	川崎 洋平
10	対応のある2つの母平均の差の検定、ウィルコクソンの符号付順位検定、1元配置の分散分析と多重比較、クラスカル・ウォリスの検定 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義・演習	川崎 洋平

No	内容	形式	教員
11	独立性の検定、2つの母比率の差の検定 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義・演習	川崎 洋平
12	共分散分析、2元配置の分散分析 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義・演習	川崎 洋平
13	単回帰分析、重回帰分析 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義・演習	川崎 洋平
14	主成分分析、判別分析 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義・演習	川崎 洋平
15	ロジスティック回帰分析 等 事前学修：[30分] 前回までの復習(用語の確認、計算法の確認) 事後学修：[30分] 配付資料を読み返す。	講義・演習	川崎 洋平

■教科書

1. 講義での資料は必要に応じて配付をする。
2. 演習用教科書：石村 貞夫, 石村 光資郎(2018年). SPSS による統計処理の手順. 第8版. 東京図書.

■参考書、参考資料等

1. 山田 浩, 大野 ゆう子(2018年). 薬学・看護学・保健学に役立つ生物統計・疫学・臨床研究デザインテキストブック. メディカルパブリケーションズ.
2. 石村 貞夫, 石村 光資郎(2016年). SPSS による多変量データ解析の手順. 第5版. 東京図書.
3. 対馬 栄輝(2018年). SPSS で学ぶ医療系多変量データ解析. 第2版. 東京図書.

■フィードバックの仕方

試験のフィードバックは、試験実施後3週間以内に〇〇〇研究室にて、口頭での解説または解説資料の配布を通じて行う。

■他の授業科目との関連

「情報科学特講」は共通科目「看護研究」における量的研究方法を発展させた内容を扱う。

■成績評価の仕方

レポート90%、授業への取り組み10%

■オフィスアワー・研究室等

質問は講義中、講義前後の時間、以下のオフィスアワーで受け付ける。

オフィスアワー：〇〇曜日〇〇時～〇〇時、〇〇〇研究室

■その他

HMCS152

赤十字概論Ⅱ(国際人道法含)

単位：2単位 履修年次：1・2年次 開講期：前期

○角田 敦彦

■ 授業の目的

国際赤十字・赤新月運動の歴史、活動、理念の学びを通して人間として、また人道を実現する医療人に相応しい人間的資質を養う。

■ 到達目標

- ・ 国際赤十字・赤新月運動(日本赤十字社を含む)の歴史、理念、活動について理解し、説明できる。
- ・ 赤十字と国際人道法の基本原則、赤十字標章の正しい使い方等について理解し説明できる。
- ・ 人道と人権の概念の理解し、看護等の場で人間を尊重した行動を実践できる。
- ・ 学習した内容を元に他者に赤十字の概要を説明できる。

■ 学習の進め方

- ・ PPT スライド等の教材を使用したオンデマンドの講義を中心に進めます。
- ・ 資料閲覧のほか、フォーラム機能を使った意見交換を交えて展開します。積極的な発言を期待します。
- ・ 発言は受講者全員で共有し、これに対するコメントや発展的な質問など歓迎します。
- ・ 必要に応じて教員からコメントしていきます。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自宅学習課題 事前学修：(Youtube など)インターネット上に公開されている、赤十字の歴史・活動に関する動画を3本以上閲覧し、関心を持ったトピックについて初回の対面授業で発表できるよう準備す。(発表の形式は A4 用紙に閲覧した動画のタイトル、URL、内容を簡潔にまとめ、感想や今後深めたい内容について記述し提示する)	自宅学習	角田
2	自宅学習課題 事前学修：(Youtube など)インターネット上に公開されている、赤十字の歴史・活動に関する動画を3本以上閲覧し、関心を持ったトピックについて初回の対面授業で発表できるよう準備す。(発表の形式は A4 用紙に閲覧した動画のタイトル、URL、内容を簡潔にまとめ、感想や今後深めたい内容について記述し提示する)	自宅学習	角田
3	自宅学習課題 事前学修：(Youtube など)インターネット上に公開されている、赤十字の歴史・活動に関する動画を3本以上閲覧し、関心を持ったトピックについて初回の対面授業で発表できるよう準備す。(発表の形式は A4 用紙に閲覧した動画のタイトル、URL、内容を簡潔にまとめ、感想や今後深めたい内容について記述し提示する)	自宅学習	角田
4	19世紀の社会と思想・アンリ・デュナンと赤十字の創設 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
5	佐野常民と日本赤十字社の創立 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
6	ICRC、赤十字社連盟、各国赤十字社 赤十字国際会議 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
7	日本赤十字社の組織と活動 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
8	赤十字運動の原則と人道支援 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
9	赤十字運動の基本原則の適用と実際 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田

No	内容	形式	教員
10	国際人道法の基礎知識：戦争の歴史と国際人道法 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
11	現代の武力紛争と国際人道法 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
12	赤十字標章の意味と適正使用の方法 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
13	国際人道法の履行確保 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
14	世界の人道支援機関とその行動規範 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
15	グローバル世界と赤十字(まとめ) 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田

■ 教科書

講義資料は Glexa に掲載しています。ダウンロードしたり、各自が必要に応じてプリントアウトするなどして授業に取り組んでください。

■ 参考書、参考資料等

①アンリー・デュナン／(訳)木内利三郎、第5版、「ソルフェリーノの思い出」、日本出版普及会、1994年 ②その他、日本赤十字社、ICRC の刊行物、ウェブサイトなど。

■ フィードバックの仕方

レポートの返却は、採点后 7 日目以降 21 日以内に Glexa 上で行う。返却の具体的な日時等はポータルで周知する。

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講 IV、V の基礎的な学習の一部となります。

■ 成績評価の仕方

①授業への取組み 30% ②試験又は課題レポートの提出 70%

■ オフィスアワー・研究室等

開講期間中の①水曜日 ② 12:30~13:00 ③ 410 研究室

■ 受講上の注意事項

授業で使用する PPT は著作権上、この授業に限っての利用とします。

ダウンロードは可能ですが、二次使用等不特定な対象への配布は厳に禁止します。

■ その他

HMCS102 / HNCS100

教育学概論

単位：2単位 履修年次：1・2年次 開講期：前期

○渋谷 真樹

■ 授業の目的

この授業では、教育学の基礎理論を学びます。

教育学を概観することを通して、看護教育実践の基礎となる考え方や知識・能力を培うことを目的とします。

■ 到達目標

- 1 教育の思想、歴史、方法、制度の重要事項について、簡潔に説明できる。
- 2 教育学における基本的な知見を、自らの職業生活で活用できる。
- 3 教育をめぐる課題について、自ら問いをもち、探究することができる。

■ 学習の進め方

Glexa での、オンデマンド型の遠隔授業です。

Glexa に資料を提示しますので、指定された期間内で都合のよい時間に各自で学習してください。

毎回、課題がありますので、期間内に Glexa で提出してください。それをもって出席とみなします。

また、Glexa 内に受講生間で意見交流する場を設けますので、積極的に参加してください。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	①教育とは何か自分なりに定義する。 ②教育と看護が共通する点について、自分の考えを述べる。 A 4で1枚程度でまとめ、WORD または PDF で提出 事前学修：[なし分] 事後学修：[なし分]	自宅学習	渋谷
2	①教育とは何か自分なりに定義する。 ②教育と看護が共通する点について、自分の考えを述べる。 A 4で1枚程度でまとめ、WORD または PDF で提出 事前学修：[なし分] 事後学修：[なし分]	自宅学習	渋谷
3	①教育とは何か自分なりに定義する。 ②教育と看護が共通する点について、自分の考えを述べる。 A 4で1枚程度でまとめ、WORD または PDF で提出 事前学修：[なし分] 事後学修：[なし分]	自宅学習	渋谷
4	教育とは何か 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
5	教育の歴史 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
6	教育の思想 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
7	教育の方法 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
8	教育の制度 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
9	教師の専門性と省察 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷

No	内容	形式	教員
10	キャリア教育と生涯学習 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
11	グローバル化と教育 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
12	現代の教育的課題 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
13	教育学の可能性①：自らの職業生活での活用 事前学修：[60分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
14	教育学の可能性②：自らの職業生活での活用 事前学修：[60分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷
15	ふりかえり・まとめ 事前学修：[30分] Glexa ページの資料を読んで課題に取り組んでください。 事後学修：[30分] 受講後に、感想・質問があれば書き込んでください。	オンデマンド型	渋谷

■ 教科書

教科書は使用しません。

授業中に関連資料を配布します。

■ 参考書、参考資料等

木村元・小玉重夫・船橋一男(2019年)『教育学をつかむ [改訂版]』有斐閣

■ フィードバックの仕方

毎回の課題や書き込みには、随時 Glexa 上でコメントするとともに、授業に反映させます。

最終レポートも、Glexa 上でフィードバックします。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学系の科目の基礎に位置づく科目です。

■ 成績評価の仕方

授業への取り組み(78%)：毎回の授業での課題から、授業内容の理解と意欲を評価します。各6点で13回提出、計78点です。

最終レポート(22%)：教育に関する問いについて、どのくらい多角的に考察し(12点)、論理的に表現できるか(10点)を評価します(計22点)。

最終的には、受講の状況と成果を総合的に判断して評価しますので、Glexa 上の配点と異なることがあります。

■ オフィスアワー・研究室等

授業に関する質問や意見は、毎回の課題に記してください。eメール m-shibuya@redcross.ac.jp でもけっこうです。

■ その他

HMCS103

学習心理学

単位：2単位 履修年次：1・2年次 開講期：前期 対応DP：「1」探求 「2」成長 「3」関係

○遠藤 公久

■ 授業の目的

学習に関わる心理学の基礎的理論(学習理論、動機づけ理論など)について基礎知識を身につけ、実際の学習効果をあげるために必要な教育や援助について考える。「学ぶ」とはどういうことか、「わかる」とはどういうことか、「やる気」を高めるためにはどうしたらよいか、などについて理解を深める。

■ 到達目標

1. 学習と学びの違いを理解し、学習から学びに移行するために何が必要か考察できる。
2. わかるとはどういうことか、その認知過程について理解できる。
3. やる気(意欲)のメカニズムについて理解し、そのために必要な援助について明らかにすることができる。

■ 学習の進め方

1. 前週に配布された学習または学びの資料(テーマ別)をもとに、ディスカッションを深める。
 2. 学期末には、各人が興味をもったテーマに関する論文を選択し、クリティークした結果を発表する。
- ※原則、課題提出や遠隔授業方式(Glexaでのオンデマンド型、TeamsやZoomを使用した同時双方向型またはその併用)で進める。

【事前学習】毎回資料を配布しますので、それを必ず読んでください。

「学ぶとは」「わかるとは」「意欲とは」に強く興味をもっている人は、関連書を読んでおくことが望ましい。

【事後学習】授業で学んだことについて理解を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[10分] シラバスに目を通しておく 事後学修：[10分] 配布資料に目を通しておく	双方向型	遠藤
2	学習の基礎理論 1：心理学における学習理論の歴史 事前学修：[10分] 事前に配布された資料に目を通しておく 事後学修：[10分] 授業後に配布された資料に目を通して疑問や意見をまとめておく	双方向型	遠藤
3	学習の基礎理論 2：学習理論の諸説 事前学修：[10分] 事前に配布された資料に目を通しておく 事後学修：[10分] 授業後に配布した資料に目を通して疑問や意見をまとめておく	双方向型	遠藤
4	学習と「学び」1：「学び」の基礎 事前学修：[60分] 授業に配布された資料を読んで疑問や意見をまとめておく 事後学修：[60分] 授業に配布された資料を読んで疑問や意見をまとめておく	双方向型	遠藤
5	学習と「学び」2：わかるとはどういうことか 事前学修：[60分] 授業に配布された資料を読んで疑問や意見をまとめておく 事後学修：[60分] 授業に配布された資料を読んで疑問や意見をまとめておく	双方向型	遠藤
6	学習と「学び」3：できるということはどういうことか 事前学修：[60分] 授業に配布された資料を読んで疑問や意見をまとめておく 事後学修：[60分] 授業に配布された資料を読んで疑問や意見をまとめておく	双方向型	遠藤
7	意欲 1：動機づけの基本的考え方 1 事前学修：[15分] 事前に配布された資料に目を通しておく 事後学修：[15分] 授業に配布された資料に目を通して疑問や意見をまとめておく	双方向型	遠藤
8	意欲 2：動機づけの基本的考え方 2 事前学修：[15分] 授業に配布された資料に目を通しておく 事後学修：[15分] 授業に配布された資料に目を通して疑問や意見をまとめておく	双方向型	遠藤
9	意欲 3：「やる気」を考える(意欲と帰属、コンピテンス) 事前学修：[15分] 授業に配布された資料に目を通しておく 事後学修：[15分] 授業に配布された資料に目を通して疑問や意見をまとめておく	双方向型	遠藤
10	批判的思考 事前学修：[15分] 授業に配布された資料に目を通しておく 事後学修：[15分] 授業に配布された資料に目を通して疑問や意見をまとめておく	双方向型	遠藤

No	内容	形式	教員
11	発表とディスカッション1 事前学修：[60分] 自分以外に人が選択した資料を読んでおく(自分の発表準備) 事後学修：[60分] 自分以外に人が選択した資料を読んでおく(自分の発表準備)	双方向型	遠藤
12	発表とディスカッション2 事前学修：[60分] 自分以外に人が選択した資料を読んでおく(自分の発表準備) 事後学修：[60分] 自分以外に人が選択した資料を読んでおく(自分の発表準備)	双方向型	全員
13	発表とディスカッション3 事前学修：[60分] 自分以外に人が選択した資料を読んでおく(自分の発表準備) 事後学修：[60分] 自分以外に人が選択した資料を読んでおく(自分の発表準備)	双方向型	全員
14	発表とディスカッション4 事前学修：[60分] 自分以外に人が選択した資料を読んでおく(自分の発表準備) 事後学修：[60分] 自分以外に人が選択した資料を読んでおく(自分の発表準備)	双方向型	全員
15	発表とディスカッション5 事前学修：[60分] 自分以外に人が選択した資料を読んでおく(自分の発表準備) 事後学修：[10分] 授業全体について復讐しておく	双方向型	全員

■教科書

毎回資料を配布するため不要です。

■参考書、参考資料等

①「学び」の認知科学事典(大修館書店)佐伯胖監修、2010年 ②学習意欲の理論(金子書房)鹿毛雅治、2013年、③状況に埋め込まれた学習(産業図書)レイブ&ウェンガー 佐伯胖訳 1993年 ④他配布資料

■他の授業科目との関連

教育学概論、学生理解、そして看護教育学などの授業の基礎的な学習になる。

■成績評価の仕方

1. 授業取り組み 40% 2. 課題発表 60%

■オフィスアワー・研究室等

Glexa や teams で常時質問等を受け付ける。

■その他

HMCS104

学生理解

単位：2単位 履修年次：1・2年次 開講期：後期

○遠藤 公久

■ 授業の目的

本講座では、大学生のアイデンティティを青年期の発達の特徴からとらえること、教師としての学生との関わりをリーダーシップ論からとらえること、そして学生一人一人の個性を理解し、学生の抱えがちな諸問題について、カウンセリング的支援について考える。

■ 到達目標

1. 生涯発達心理学的な視点から青年期という発達期を捉える（現代青少年の価値観にも触れる）。
2. 教師と学生の人間関係をダイナミックな相互作用過程として捉える。
3. 個人差と個性の違いを理解する。
4. 教師として必要な学生理解のためのカウンセリングの基本的理論や技法を身につける。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：講義と討論を通して、現代青少年の理解を深める。
とくに、看護を志す学生とそうでない学生に共通する諸特徴、また看護を志す学生ならではの諸特徴など焦点をあてる。
2. 参考資料の提示：毎回テーマに即した資料を配布する。
3. 学期末には、各人が興味をもったテーマに関わる論文を選択し、クリティークを発表する。
【事前学習】日々の学生の指導に悩み、より理解を深めたいと思い、自分なりに関連書を読んでおくことが望ましい。
事前に配布した資料には目を通しておき、無名な点や自分の意見をまとめておく。
【事後学習】授業で学んだことについて理解を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	青年期の発達心理学的な諸特徴 1：生涯発達の視点から 事前学修：[10分] シラバスに目を通しておく 事後学修：[15分] 配布資料に目を通しておく	講義・討論	遠藤
2	青年期の発達心理学的な諸特徴 2：内面世界へ(不安や孤独感、アイデンティティ etc.) 事前学修：[15分] 配布資料に目を通して疑問や意見をまとめておく 事後学修：[60分] 配布資料を読んで疑問や意見をまとめておく	講義・討論	遠藤
3	青年期の発達心理学的な諸特徴 3：人間関係から(交友関係、「いじめ」経験 etc.) 事前学修：[15分] 配布資料に目を通して疑問や意見をまとめておく 事後学修：[60分] 配布資料を読んで疑問や意見をまとめておく	講義・討論	遠藤
4	教師－学生関係 1：教師側の認知過程(認知過程、期待効果) 事前学修：[15分] 配布資料に目を通して疑問や意見をまとめておく 事後学修：[15分] 配布資料に目を通して疑問や意見をまとめておく	講義・討論	遠藤
5	教師－学生関係 2：教師のリーダーシップ(学級集団への働きかけ) 事前学修：[15分] 配布資料に目を通して疑問や意見をまとめておく 事後学修：[15分] 配布資料に目を通して疑問や意見をまとめておく	講義・討論	遠藤
6	教師－学生関係 3：学生の成長、教師の成長 事前学修：[15分] 配布資料に目を通して疑問や意見をまとめておく 事後学修：[15分] 配布資料に目を通して疑問や意見をまとめておく	講義・討論	遠藤
7	学生の個性と個人差の理解 1：どう捉えるか 事前学修：[15分] 配布資料に目を読み、疑問や意見をまとめておく 事後学修：[15分] 配布資料に目を読み、疑問や意見をまとめておく	講義・討論	遠藤
8	学生の個性と個人差の理解 2：知能と性格 事前学修：[15分] 配布資料に目を通し疑問や意見をまとめておく 事後学修：[15分] 配布資料に目を通し疑問や意見をまとめておく	講義・討論	遠藤
9	学生の個性と個人差の理解 3：発達障害 事前学修：[60分] 配布資料を読み、意見や疑問をまとめておく 事後学修：[60分] 配布資料を読み、意見や疑問をまとめておく	講義・討論	遠藤
10	教育現場におけるカウンセリングの基本的考え方と技法 1 事前学修：[60分] 配布資料を読み、意見や疑問をまとめておく 事後学修：[60分] 配布資料を読み、意見や疑問をまとめておく	講義・討論	遠藤

No	内容	形式	教員
11	教育現場におけるカウンセリングの基本的考え方と技法 2 事前学修：[60分] 配布資料を読み、意見や疑問をまとめておく 事後学修：[60分] 配布資料を読み、意見や疑問をまとめておく	講義・討論	遠藤
12	教育現場におけるカウンセリングの基本的考え方と技法 3 事前学修：[60分] 配布資料を読み、意見や疑問をまとめておく 事後学修：[60分] 配布資料を読み、意見や疑問をまとめておく	講義・討論	遠藤
13	発表とディスカッション 1 事前学修：[60分] 発表者以外の人論文を読んで意見や疑問をまとめておく(各自自分の分の準備を進める) 事後学修：[60分] 発表者以外の人論文を読んで意見や疑問をまとめておく(各自自分の分の準備を進める)	発表・討論	全員
14	発表とディスカッション 2 事前学修：[60分] 発表者以外の人論文を読んで意見や疑問をまとめておく(各自自分の分の準備を進める) 事後学修：[60分] 発表者以外の人論文を読んで意見や疑問をまとめておく(各自自分の分の準備を進める)	発表・討論	全員
15	発表とディスカッション 3 事前学修：[60分] 発表者以外の人論文を読んで意見や疑問をまとめておく(各自自分の分の準備を進める) 事後学修：[10分] 全授業を通して疑問点を整理しておく	発表・討論	全員

■教科書

特にないが、授業中に資料を配布する。

■参考書、参考資料等

①青年期の本質 コールマン&ヘンドリー著 白井監訳 ミネルヴァ書房 2003年 ②他適宜資料配布

■他の授業科目との関連

学習心理学と関連する授業でもある。

■成績評価の仕方

①授業参加度 40% ②課題発表 60%

■オフィスアワー・研究室等

木曜日 12:30-13:00 遠藤(404 研究室) k-endo@redcross.ac.jp

■その他

HMCS153

医療と法

単位：2 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：前期

○和泉澤 千恵

■ 授業の目的

医療に関連する法令は多岐にわたり、日進月歩する医療を取り巻く状況や社会的背景などに応じて、法令が新たに制定されたり、既存の法令が改正されている。また、医療の提供体制が複雑化するにつれて、種々の医療スタッフの業務内容を把握・理解する必要性も高まっている。さらに、法的な検討を要する事柄も多くなってきている。このような現状の整理・理解、問題点の把握や、医療スタッフ等の業務内容を規定する法制度に関する議論状況を検討することなどを通じて、自己の業務内容に対する理解を深めることを目的とする。

■ 到達目標

- ・医療提供の理念などの医療法に定められている内容を理解できる
- ・看護師の資格法たる保健師助産師看護師法の内容を理解できる
- ・法令・裁判例の読み方がわかるようになる

■ 学習の進め方

受講者が授業内容に関する予習を事前に行ってくることを前提として、テーマに対する理解を深めるための検討及び討論を行うことによって授業をすすめる。具体的には、各授業回毎の報告者を決定の上、当該報告者にテーマ内容について発表してもらう。報告者の発表に基づき、各受講者が予習において感じた疑問等について全員で討論を行う。発表と討論を行うことによって、テーマ内容に関する理解を深めることとする。

【事前学習】報告担当者は担当内容の発表ができるように準備をすること。また、報告担当者以外の受講生も扱う内容について、一通り目を通して、自分なりの意見をもった上で、授業に臨むこと。

【事後学習】講義時に扱った法令の該当条文について、各自が必ず一度は目を通すこと。

最終授業時に、本授業全体に関するレポートを提出してもらう。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	保健師助産師看護師法第1条から第14条まで、制定当時と現行法の異同等／医療スタッフの資格(免許)法律における各医療スタッフと看護師の業務に関する規定内容	自宅学習課題	和泉澤
2	保健師助産師看護師法第1条から第14条まで、制定当時と現行法の異同等／医療スタッフの資格(免許)法律における各医療スタッフと看護師の業務に関する規定内容	自宅学習課題	和泉澤
3	保健師助産師看護師法第1条から第14条まで、制定当時と現行法の異同等／医療スタッフの資格(免許)法律における各医療スタッフと看護師の業務に関する規定内容	自宅学習課題	和泉澤
4	法というものの考え方・法令の読み方	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤
5	保健師助産師看護師法；改正経緯	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤
6	保健師助産師看護師法； 総則―法の目的―、医療スタッフに関する各法律の目的規定	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤
7	保健師助産師看護師法；総則―定義―	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤
8	保健師助産師看護師法；業務を行える者の資格―免許―	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤
9	保健師助産師看護師法；業務を行える者の資格―試験―	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤
10	保健師助産師看護師法；業務内容―保健師の業務―	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤
11	保健師助産師看護師法；業務内容―看護師の業務―	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤
12	保健師助産師看護師法；業務内容―特定行為等―	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤
13	保健師助産師看護師法；業務内容―診療の補助と医療スタッフの業務―	Zoomによる 同時双方向授業	和泉澤

No	内容	形式	教員
14	保健師助産師看護師法；業務内容－助産師の業務－	Zoom による 同時双方向授業	和泉澤
15	保健師助産師看護師法；業務上の義務	Zoom による 同時双方向授業	和泉澤

■ 教科書

特に指定しない

■ 参考書、参考資料等

授業時に、必要に応じて適宜指示する予定である。

※『医療六法（令和 2 年度版）』（中央法規出版、2020 年）等の医療法、保健師助産師看護師法などが掲載された六法を所持していることが望ましい。

■ フィードバックの仕方

報告レジュメに関する質疑等については、授業前後に適宜受け付けるほか、課題レポート等の評価につき、必要に応じてメールにて回答を行う予定である。

■ 他の授業科目との関連

看護政策論／看護管理学特講Ⅱでの内容理解を深めることができる。

■ 成績評価の仕方

授業における準備の程度、発言内容、テーマに関する発表・レポート等を総合して評価を行う。

①レポート・発表：70 %、②授業への参加度：30 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業前後に質問等を受け付ける他、Glexa 上のメール等を利用して適宜行う。

■ 受講上の注意事項

主体的・積極的な参加と活発な議論をお願いします。

■ その他

HMCS105

看護教育論 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○西田 朋子

■ 授業の目的

専門看護師等の役割を通して看護職者への教育を担う看護職者が、教育的機能を果たすために必要な知識や技術を学ぶ。特に看護継続教育の現状と課題、看護実践におけるキャリア開発と現任教育における教育・支援の展開に関する知識や技術に関しての学習を深める。

■ 到達目標

- ・看護学教育における継続教育の現状と課題を説明することができる。
- ・キャリアおよび継続教育の展開に関する基礎理論を説明することができる。
- ・看護継続教育で学ぶ看護職者にあわせた教育や支援を展開できる基礎知識と技術を理解し、具体的な方略を考案することができる。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：講義および学生のプレゼンテーション、討議により学びを深める。
 2. 参考資料の提示：授業内容に沿った文献を提示する。
 3. 模擬研修の展開：授業内容をより実践につなげるために演習に取り組む。
 4. 履修にあたっての事前・事後学習
- 事前学習：提示されたワークシートに取り組み、提示された場合は関連文献を精読して参加する。プレゼンテーション担当者は課題内容(初回授業で提示)を A3 用紙 2 枚以内にまとめてプレゼンテーションを行う。
- 事後学習：ワークシートの事後学習部分を記載し、次回提出をする。
- ※原則、課題提出や遠隔授業方式(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)で進める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション：本科目のねらい、意義、学習方法の確認	自宅学習	西田
2	看護学教育と看護継続教育①－看護学教育における看護継続教育の位置づけ：継続教育の基準	自宅学習	西田
3	看護学教育と看護継続教育②－看護学教育における看護継続教育の位置づけ：看護職にとっての継続教育	自宅学習	西田
4	看護学教育と看護継続教育③－看護学教育における看護継続教育の位置づけ：生涯学習と専門職の視点からみた看護継続教育①	オンデマンド型	西田
5	看護学教育と看護継続教育③－看護学教育における看護継続教育の位置づけ：生涯学習と専門職の視点からみた看護継続教育②	オンデマンド型	西田
6	看護学教育と看護継続教育－看護継続教育の展開に必要な考え方である成人学習理論とリフレクション	オンデマンド型	西田
7	看護学教育と看護継続教育－看護継続教育の必要性	オンデマンド型 と同時双方型の ミックス	西田
8	継続教育の現状と課題 －新人看護職員の教育・支援	オンデマンド型 と同時双方型の ミックス	西田
9	継続教育の現状と課題 －中堅看護師の教育・支援	オンデマンド型 と同時双方型の ミックス	西田
10	継続教育の現状と課題 －中高年看護師の教育・支援	オンデマンド型 と同時双方型の ミックス	西田
11	キャリア開発に関する理論 －キャリア開発に関する基礎理論の概観 －現任教育におけるキャリア開発の具体的方法の実際と課題	オンデマンド型 と同時双方型の ミックス	西田
12	現任教育における教育の展開① －基本的なプロセスと担当者の役割の理解	オンデマンド型 と同時双方型の ミックス	西田
13	現任教育における教育の展開②	演習	西田

No	内容	形式	教員
14	現任教育における教育の展開③	演習	西田
15	現任教育における教育の展開④/看護継続教育における課題と展望	オンデマンド型 と同時双方型の ミックス	西田

■ 教科書

特定の教科書は使用しないが、文献は適宜、提示する。

■ 参考書、参考資料等

授業の最初に提示する。

■ フィードバックの仕方

事前事後課題およびレポートへのコメント

■ 他の授業科目との関連

この科目は、専門看護師教育課程の共通科目であるため、希望者は履修してください。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50 %、2. プレゼンテーション 10 %、3. 課題レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

適宜、Glexa でのメールや西田(t-nishida@redcross.ac.jp)まで連絡してください。

■ 受講上の注意事項

毎回の授業では、討議を取り入れます。積極的に参加していただくために、これまでみなさんが体験してきた現任教育全般について振り返ったうえでのぞんでください。

■ その他

HMSA100

看護管理論 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○古川 祐子

■ 授業の目的

課題を解決するために、既存のシステムのみならず新たなシステムを構築し、マネジメントできる方策について考察する。

■ 到達目標

- ・看護管理の基本となる諸理論及び看護管理過程について説明することができる。
- ・看護管理の本質と機能を探求し、看護管理者に求められる役割と責務について自分の意見を述べることができる。
- ・看護管理の視点からみた CNS 活用モデルについて自分の意見を述べるができる。

■ 学習の進め方

事前課題：授業前に提示された文献を読み、各回のテーマについての発表・討議の準備をする。

テーマは看護管理に関する概念・理論の中からテーマを選択する。詳細は第1回の授業で説明する。

授業中：看護管理をめぐる課題を創造的に探究する視点で討議を行う。

事後課題：授業中に提示された各回の課題を行い、授業内容に関する理解を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	看護管理概論	オンデマンド型	古川
2	看護管理者教育	オンデマンド・ 同時双方向型ミックス 講義・演習	古川
3	看護組織論	オンデマンド・ 同時双方向型ミックス 講義・討議	古川
4	看護サービスマネジメント論	オンデマンド・ 同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
5	看護安全・リスクマネジメント	オンデマンド・ 同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
6	看護における人的資源活用論①ー看護専門職のキャリア開発、人材育成、活用	オンデマンド・ 同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
7	看護における人的資源活用論②ー看護管理と労働法令、人事システムと賃金体系	オンデマンド・ 同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
8	看護情報管理論	オンデマンド・ 同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
9	看護経営・経済論	オンデマンド・ 同時双方向型ミックス 発表・討議	古川

No	内容	形式	教員
10	医療福祉の経営①	オンデマンド・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
11	医療福祉の経営②	オンデマンド・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
12	看護制度・政策論	オンデマンド・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
13	アウトカムマネジメント	オンデマンド・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
14	CNS 活用モデル	オンデマンド・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川
15	看護コンサルテーション	オンデマンド・同時双方向型ミックス 発表・討議	古川

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第1巻 ヘルスケアシステム論. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第2巻 看護サービスの質管理. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第3巻 人材管理論. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第4巻 組織管理論. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 第5巻 経営資源管理論. 日本看護協会出版会.
井部俊子(監). 看護管理学習テキスト第3版(2019). 別巻 看護管理基本資料集. 日本看護協会出版会.
Eleanor J.Sullivan, Phillip J.Decker, (2017),Effective Leadership & Management in Nursing
AnneW.Wojner (2001)/井部俊子(2003). アウトカム・マネジメント. 日本看護協会出版会

■ フィードバックの仕方

採点后、コメントを付したレポートの返却を Glaxa 上で行う。

■ 他の授業科目との関連

看護管理学実習Ⅰの基盤となる。

■ 成績評価の仕方

1. 発表内容 10 %、2. 課題への取り組み 60 %、3. 最終レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

電子メールまたは Glaxa のメール機能で質問を受ける。

■ 受講上の注意事項

発表者は討議を深められるよう工夫する。発表者以外の履修者も文献や資料を事前に読み活発な討議に参加する。

■ その他

HMSA101

看護理論 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○川原 由佳里

■ 授業の目的

卓越した看護実践の基盤となる看護における諸理論について理解を深めるために必要な知識を教授する。

■ 到達目標

- 1) 看護理論の定義・構成要素・役割と機能を理解する。
- 2) 看護理論と研究・実践・教育・管理との関係について理解する。
- 3) 看護理論の歴史的変遷と各時代の代表的な理論家を知る。
- 4) 看護理論を理論構築の目的と評価基準に基づいて評価することができる。
- 5) 看護の知のパターン(経験知・倫理知・審美知・個人知・解放知)を理解する。
- 6) 以上の学習を通じて自らの実践を振り返ることができる。

■ 学習の進め方

講義では看護実践・理論・研究に影響を及ぼしてきた理論と思想の変遷を理解し、その存在論的、認識論的、方法論的前提を分析する。またそれらの実践事例への適用を試み、その批判的検討を通じて、臨床看護の実践、理論、研究の基礎となる看護の理論的基盤を模索する。

事前学習：関連文献を検索し、読解した内容と討論したい内容についてのプレゼンテーション資料を用意する。

事後学習：授業でのディスカッションの内容と学びを振り返る。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	川原
2	看護理論の構造と機能 前提(仮定)、概念、命題、仮説、理論、メタ理論、概念枠組み、理論枠組み、概念モデル、パラダイム、ドメイン、看護学、看護科学、学問、帰納、演繹、研究と理論の関係など	発表・討論	川原
3	看護理論の歴史的発展過程 米国の職業規制・職能団体・教育団体の発展、看護の高等教育化、高度実践看護師、医療・看護の質保証、マンパワー施策、准看問題など、看護学発展にかかわるテーマについて米国の場合を探求し、日本の場合と比較する。	発表・討論	川原
4	看護理論の記述・分析・評価 理論評価の方法(記述 description、分析 analysis、評価 critique)と評価基準(criteria: 明晰性 Clarity, 論理一貫性 Consistency, 単純/複雑性 Simplicity/Complexity, 同語反復/目的論 Tautology/Teleology, 適切性 Adequacy, 有用性 Usefulness, 有意味性 Significance, 識別可能性 Discrimination, 理論の範囲 Scope of Theory など)	発表・討論	川原
5	看護理論の抄読：人間関係をテーマとした看護理論 Peplau, Wiedenbach, Travelbee	発表・討論	川原
6	看護理論の評価：人間関係をテーマとした看護理論 Peplau, Wiedenbach, Travelbee	発表・討論	川原
7	看護理論の抄読：現象学的観点をもつ看護理論 Paterson & Zderad, Benner	発表・討論	川原
8	看護理論の評価：現象学的観点をもつ看護理論 Paterson & Zderad, Benner	発表・討論	川原
9	看護理論の抄読：癒しの思想に基づく看護理論 Watson, Dossey	発表・討論	川原
10	看護理論の評価：癒しの思想に基づく看護理論 Watson, Dossey	発表・討論	川原
11	看護における知のパターン：総論・個人知・審美知 Chinn & Kramer, 川原由佳里監訳、看護学の総合的な知の構築に向けて、エルゼビアジャパン, 2007	発表・討論	川原
12	看護における知のパターン：倫理知・解放知 Chinn & Kramer, 川原由佳里監訳、看護学の総合的な知の構築に向けて、エルゼビアジャパン, 2007	発表・討論	川原
13	知のパターンに基づく看護実践事例の検討	GW	川原
14	知のパターンに基づく看護実践事例の検討	GW	川原
15	発表・まとめ	発表・討論	川原

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

Chinn & Kramer, 川原由佳里監訳、看護学の総合的な知の構築に向けて、エルゼビアジャパン, 2007
筒井真優美編、看護理論家の業績と理論評価、医学書院, 2015
A.Meleis, Theoretical Nursing, 5th ed. Wolters Kluwer, Lippincott Williams & Wilkins, 2012
Stevens, 中西訳、看護理論の理解のために、第 1、3、5 章
Walker & Avant 中木・川崎他、看護における理論構築の方法、医学書院、2008 年 第 1,2 章
中西睦子：看護領域の用語に関する研究、日本看護科学会誌 1987 年 8(1)2-17
バーンズ&グローブ 看護研究入門 第 2 章

■ フィードバックの仕方

レポートにコメントを付して返却します。

■ 他の授業科目との関連

CNS 共通科目に該当します。国際保健助産学専攻の方も受講できます。

■ 成績評価の仕方

課題レポート 70%、プレゼンテーション 30%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原研究室(447)

■ その他

HMSA150 / HNCS150

看護研究 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○佐々木 幾美、本庄 恵子、江本 リナ

■ 授業の目的

基本的な研究方法とその研究プロセスを学習し、同時に研究者の責任(マナー)や倫理的配慮について理解する。また国内外の研究論文を研究方法の妥当性・信頼性から評価する能力を養う。研究方法概論を論じた後、基本的研究方法を質的研究方法と量的研究方法に分け、それぞれにその特徴とプロセスを学習する。学習した基本的研究方法の妥当性・信頼性の見地から、各自が収集した文献をクリティークすることを試みる。

■ 到達目標

1. 基本的な研究方法と研究プロセスが説明できる。
2. 研究者の責任や倫理的配慮について説明できる。
3. 文献のクリティークの方法について説明できる。

■ 学習の進め方

AL

発表および討論を中心に行う。演習を取り入れることもある。

2020 年度は COVID-19 による影響のため同時双方向型の Teams を用いて授業を行う。

事前学習：事前に提示する文献を精読し、授業に参加してください。

事後学習：指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについて、確認する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	授業概要(質的・量的研究)授業課題(研究倫理、質的・量的研究論文クリティーク)	講義・討論	佐々木、本庄、江本
2	研究方法概論：帰納的・演繹的研究、概念・モデル・理論・法則、研究方法の種類と研究計画	講義・討論	佐々木、本庄、江本
3	研究倫理	講義・討論	佐々木、本庄、江本
4	量的研究方法：研究デザイン(関連検証、因果関係検証、実態調査・因子探索、測定用具の開発)	講義・討論	本庄、佐々木、江本
5	量的研究方法：実験研究法、実験以外の因果関係検証方法、実験のプロセス)	講義・討論	本庄、佐々木、江本
6	量的研究方法：調査研究法、調査のプロセス	講義・討論	本庄、佐々木、江本
7	量的研究方法：量的研究における文献クリティークの方法	講義・演習	本庄、佐々木、江本
8	量的研究方法：量的研究文献クリティーク	演習・発表	本庄、佐々木、江本
9	修士論文の書き方、論文構成	講義・討論	佐々木、本庄、江本
10	質的研究方法：エスノグラフィー、民族看護学	講義・討論	江本、佐々木、本庄
11	質的研究方法：象徴的相互作用論およびグラウンデッド・セオリー・アプローチ	講義・討論	江本、佐々木、本庄
12	質的研究方法：存在論、現象学的アプローチ、解釈学的方法論	講義・討論	江本、佐々木、本庄
13	質的研究方法：アクション・リサーチ、質的研究のクリティーク方法と実際	講義・演習	江本、佐々木、本庄
14	質的研究方法：質的研究のクリティーク	演習・発表	江本、佐々木、本庄
15	まとめ	討論	佐々木、本庄、江本

■教科書

指定しない

■参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

■フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■他の授業科目との関連

特別研究の基盤となる科目です。

■成績評価の仕方

1. プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加度 50% 2. レポート 50%

■オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問、相談を受け付ける。それ以外には、メールにて随時、質問、相談を受け付ける。

メールアドレス：i-sasaki@redcross.ac.jp（佐々木） honjo@redcross.ac.jp（本庄） emoto@redcross.ac.jp（江本）

■受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

国際保健助産学専攻の学生も同時に受講する。

■その他

HMSA102 / HNCS101

コンサルテーション論 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○古城門 靖子、鷹野 朋美、赤沢 雪路、腰原 麻衣子、曾根原 純子、谷口 美穂

■ 授業の目的

看護および保健・医療・福祉の場で、ケアを提供する専門職者が直面するさまざまな問題を解決するための具体的援助方法としてのコンサルテーションの理論と方法を学ぶ。

■ 到達目標

1. コンサルテーションの基本的な方法と原則について説明することができる。
2. コンサルタント-コンサルティークライアントの関係の中で起こるさまざまな現象について理論的に説明することができる。
3. コンサルテーションを通じて、コンサルティの力を伸ばす援助ができる。
4. 看護・医療・保健・福祉の場における困難事例について、そのダイナミクスを精神力動理論およびシステム論の視点から分析することができる。

■ 学習の進め方

毎回、コンサルテーションの対象・課題・方法について文献や事例を提示するので、その場でそれに関連した自らの体験事例を提供し多面的に検討することを通して、具体的理解を深めていく。

【事前学習】 提示された内容に関して、自らの体験事例を想起し、書き留めておく。

【事後学習】 書き留めていた自らの事例を授業で紹介された理論や方法、実際の検討を通じて振り返り、事例の理解を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コンサルテーションの歴史と概念	講義	古城門
2	コンサルテーションの方法と類型	講義	古城門
3	コンサルティ-コンサルタント関係の展開過程	講義	古城門
4	コンサルテーションの課題：患者の問題	講義	赤沢
5	コンサルテーションの課題：スタッフの問題	講義	曾根原
6	コンサルテーションの課題：組織の問題	講義	鷹野
7	コンサルテーションの評価	講義	赤沢
8	コンサルテーションの倫理	講義	古城門
9	コンサルタントとしての専門看護師の活動	講義	曾根原
10	コンサルテーションの実際(1)個別事例：	講義	腰原
11	コンサルテーションの実際(2)家族事例	講義	谷口
12	コンサルテーションの実際(3)グループ事例	講義	鷹野
13	面接	演習	鷹野・古城門
14	事例検討	演習	鷹野・古城門
15	事例検討	演習	鷹野・古城門

■ 教科書

適宜、資料を示す。

■ 参考書、参考資料等

武井麻子(2001), 感情と看護一人とのかかわりを職業とすることの意味, 医学書院.

A.Obholzer & V.Z.Roberts 編/武井麻子監訳(2006 / 2014), 組織のストレスとコンサルテーション：職場の無意識とコンサルテーション, 金剛出版.

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

専門看護師科目の共通科目 A である。

この科目を履修する上で、精神保健看護学特講 I を履修していることが望ましい。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み…20 %
2. 具体事例を分析し、考察したレポート…80 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 12：30～13：00、古城門研究室(412)、鷹野研究室(428)にて質問や相談に応じる。

■ その他

HMSA151 / HNCS152

看護倫理 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○吉田 みつ子

■ 授業の目的

看護実践の中で看護職が日常的に直面している倫理的な問題・葛藤について明確化し、それらについて関係者間での倫理的調整を行うための土台となる知識を教授する。生命倫理学、医療倫理学および看護倫理学の歴史的発展、基本概念、倫理的意思決定における方法論について理解する。またそれらを踏まえて、臨床看護の実践の中で遭遇する倫理的問題を含む事象について分析し、調整していくための基礎的能力を養う。

■ 到達目標

1. 倫理的問題を分析するための、基本的な原則、概念について理解できる。
2. 臨床での諸問題について、倫理的な推論に基づき、分析解釈し、態度表明、倫理的行為の実現について明確化できる。
3. 事例検討や模擬倫理委員会、コンサルテーション等の方法を用いて、看護実践場面における倫理的諸問題について、専門看護師としてかかわる上で重要となる倫理調整について考察できる。
4. 研究における倫理的配慮について理解し、研究計画書を検討することができる。

■ 学習の進め方

1. 授業の展開：受講者がプレゼンテーション、事例検討、ロールプレイを行う。
2. 意見交換・共有：プレゼンテーション等の内容について、全体討議を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	医療倫理・看護倫理の変遷、倫理原則および看護実践上重要な倫理的概念、倫理的問題を検討するための方法論 事前学修：[60 分] 授業で取り上げるテーマに即して関連文献を読み、疑問点についてまとめておく。 事後学修：[60 分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・討議	吉田
2	現代医療における倫理的課題：患者の自律、アドボカシー、インフォームド・コンセント、機密保持 事前学修：[60 分] 授業で取り上げるテーマに即して、文献、ガイドラインを読み、疑問点をまとめておく。 事後学修：[60 分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・討議	吉田
3	現代医療における倫理的課題：出生前診断、遺伝子治療、妊娠中絶 男女産み分け・代理出産 事前学修：[60 分] 授業で取り上げるテーマに即して、文献、ガイドラインを読み、疑問点をまとめておく。 事後学修：[60 分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・討議	吉田
4	現代医療における倫理的課題：末期患者のケア、脳死、遷延性意識障害、アドバンスド・ディレクティブ 事前学修：[60 分] 授業で取り上げるテーマに即して、文献、ガイドラインを読み、疑問点をまとめておく。 事後学修：[60 分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・討議	吉田
5	現代医療における倫理的課題：医療資源の配分、看護師の責務と内部告発 事前学修：[60 分] 授業で取り上げるテーマに即して、文献、ガイドラインを読み、疑問点をまとめておく。 事後学修：[60 分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・討議	吉田
6	事例検討 1 事前学修：[60 分] 各自が経験した倫理的問題を含む事例を A4 用紙 1 枚程度にまとめる。 事後学修：[60 分] グループで検討した事例をさらに深め、倫理的課題とその対応について明確化する。	発表・討議	吉田
7	事例検討 2 事前学修：[60 分] グループで検討した事例について発表資料を作成、討議の視点を挙げる。 事後学修：[60 分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・討議	吉田

No	内容	形式	教員
8	事例検討 3 事前学修：[60分] グループで検討した事例について発表資料を作成、討議の視点を挙げる。 事後学修：[60分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・討議	吉田
9	倫理コンサルテーション 1 (終末期の積極的治療など) 事前学修：[60分] 倫理コンサルテーションに関する資料を読み、課題を挙げてくる。 事後学修：[60分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・ロールプレイ・討議	吉田
10	倫理コンサルテーション 2 (透析中止の申し出など) 事前学修：[60分] 授業で取り上げる事例について分析し、ロールプレイの役割に応じて準備をしてくる。 事後学修：[60分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・ロールプレイ・討議	吉田
11	倫理コンサルテーション 3 (家族からのクレームなど) 事前学修：[60分] 授業で取り上げる事例について分析し、ロールプレイの役割に応じて準備をしてくる。 事後学修：[60分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・ロールプレイ・討議	吉田
12	模擬臨床倫理委員会 1 (人工呼吸器の停止など) 事前学修：[60分] 授業で取り上げる事例について分析し、ロールプレイの役割に応じて準備をしてくる。 事後学修：[60分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・ロールプレイ・討議	吉田
13	模擬臨床倫理委員会 2 (セデーション、プラセボなど) 事前学修：[60分] 授業で取り上げる事例について分析し、ロールプレイの役割に応じて準備をしてくる。 事後学修：[60分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	発表・ロールプレイ・討議	吉田
14	研究における倫理 事前学修：[60分] 研究の倫理に関するガイドラインを読み、疑問点をまとめておく。 事後学修：[60分] 授業での討議を振り返り、自己の研究の場合にどのような配慮を要するか明確化する。	講義・討議	吉田
15	まとめ 事前学修：[60分] 授業で取り上げたテーマについて、疑問点をまとめておく。 事後学修：[60分] 授業での討議を振り返り、自己の課題を明確化する。	討議	吉田

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

Dolores Dooley (著), Joan McCarthy (著), 坂川雅子(訳)看護倫理 第1巻. 第2巻. みすず書房. 2006

Tom L. Beauchamp (原著), James F. Childress (著), 足立智孝((訳), 立木教夫(訳)生命医学倫理 第5版. 麗澤大学出版会. 2009

Gregory E. Pence (著), 宮坂道夫(訳), 長岡成夫(訳) 医療倫理 1・2 みすず書房. 2000

■ フィードバックの仕方

レポートは3月上旬までにコメントを付けて、各自にフィードバックする。レポート返却期間、日時は、ポータルにて連絡する。

■ 他の授業科目との関連

コンサルテーション論等で取り扱う知識も必要とする。

■ 成績評価の仕方

課題への取り組み 50% 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業期間中の 12:10~13:00 : 吉田(448 室)

■ その他

HMSA152

看護政策論 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○安部 陽子

■ 授業の目的

保健医療福祉を取り巻く環境の急激な変化，すなわち疾病構造の変化，少子高齢化，経済環境の変化，意識の多様化，国際化等の中にある看護政策について分析・提言を行い，看護師として政策過程に参画する方法とその実際について学ぶ。

■ 到達目標

- ・自己の体験と，現在看護を取り巻く政策・政治の状況を関連付けることができる
- ・日本における政策の変遷と政策決定過程および政治過程を説明することができる
- ・看護職が，政策過程へ参画することの意義を認めることができる

■ 学習の進め方

事前学習：履修者には「教科書」の欄にあるとおり，第 1 回目の授業で各授業の前に読んでくる資料のリストを提示する。履修者はその資料を読んで看護政策立案のための仕組みと過程を学習し，基本的な看護政策に関する知識を得る。また，授業中に提示された課題を行う。

授業中：テーマ別に発表を行い，それをもとにクラスで討議をする。具体的な手順については第 1 回の授業で説明する。

事後学習：授業中に提示された課題を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	看護をとりまく政策・政治の状況	講義・演習	安部
2	政策過程と政治過程	発表・討議	安部
3	看護職者と政策	発表・討議	安部
4	看護現場に影響を及ぼす法令・政策とその課題①保健師助産師看護師法	発表・討議	安部
5	看護現場に影響を及ぼす法令・政策とその課題②看護師等の人材確保に関する法律	発表・討議	安部
6	看護現場に影響を及ぼす法令・政策とその課題③診療報酬	発表・討議	安部
7	看護現場に影響を及ぼす法令・政策とその課題④看護職確保予算	発表・討議	安部
8	政策過程への参画の実際	発表・討議	安部
9	政策過程への参画の実際①看護技術教育の在り方	発表・討議	安部
10	政策過程への参画の実際②看護の経済的指標	発表・討議	安部
11	政策過程への参画計画立案	発表・討議	安部
12	参画事例の発表と討議①	発表・討議	安部
13	参画事例の発表と討議②	発表・討議	安部
14	参画事例の発表と討議③	発表・討議	安部
15	参画事例の発表と討議④	発表・討議	安部

■ 教科書

第 1 回目の授業で各授業の前に読んでくる資料のリストを提示する。

■ 参考書、参考資料等

なし

■ フィードバックの仕方

課題のフィードバックを授業中に行う。

■ 他の授業科目との関連

とくになし

■ 成績評価の仕方

1. 課題への取り組み 80 % 2. 討議の参加度 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が掲載された資料を配布する。

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HMSA153 / HNCS151

フィジカルアセスメント ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○田中 孝美、三浦 英恵、千葉 京子、内木 美恵、山内 朋子、織方 愛、堀井 湖浪

■ 授業の目的

複雑な健康問題をもった対象の身体状況を診査し、臨床看護判断を行うために必要な知識と技術について学ぶ。

■ 到達目標

1. 対象者の症状、所見から、病態に基づいた臨床判断を行うために必要なヘルスアセスメントの知識と技術に関連づけて説明することができる。また、診査技法を手順に沿って正確に実施でき、所見を適切に記述することができる。
2. 小児、成人、老年の各ライフステージを連続体として捉え、各段階における身体的、精神的な健康問題の特徴を記述することができ、多様な解釈の可能性を議論することによって、根拠に基づいた見解を述べることができる。
3. 急性期、慢性期、エンド・オブ・ライフの時期、災害時における健康問題を有する症例について、病態の特徴を踏まえたヘルスアセスメントを、関連する知識と技術を統合して実践することができる。

■ 学習の進め方

1. 系統的ヘルスアセスメントの知識・技術について、参加型の講義やデモンストレーション、受講生によるプレゼンテーション、演習をとおして、健康状態を診査するうえでのクリティカルシンキングと診査技法の基礎的能力を培う。
2. 事例のヘルスアセスメントについて、関連する病態生理の理解を深めながら、生涯発達の特徴を踏まえた健康状態の診査を行い、多様な対象者に対応しうるフィジカルアセスメントの実践能力を養う。
3. 急性期、慢性期、エンド・オブ・ライフの時期、災害時における事例のヘルスアセスメントをシミュレーションし、対象者の健康状態把握と病態予測を可能にするフィジカルイグザミネーションについて理解を深め、高度なヘルスアセスメントの実践能力を育む。

【事前学習】初回授業にはシラバスの内容を読んで臨む。2 回目以降は、各回において提示される事前学習内容に取り組んで臨む。

【事後学習】各回で提示される事後学習課題に取り組む。

授業は、COVID-19 の感染予防と修学に不利益が生じないよう、Teams を用いた同時双方向型のオンライン授業と、Learning Management System の Glexa を用いた学習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	授業オリエンテーション、プレイズメントテスト(身体診察の概要)、解説	講義	田中
2	全身の観察とバイタルサイン、面接と病歴の聴取、臨床推論、アセスメント、ケア計画	講義	田中
3	呼吸器・循環器系のアセスメント①	講義・演習	三浦
4	呼吸器・循環器系のアセスメント②	講義・演習	三浦
5	災害時のアセスメント①	講義・演習	内木、織方
6	災害時のアセスメント②	講義・演習	内木、織方
7	小児のアセスメント①：健康な子どもの成長発達に関わるアセスメント	講義・演習	山内
8	小児のアセスメント②：子どもの身体症状や被虐待児に関わるアセスメント	講義・演習	山内
9	高齢者のアセスメント(認知症、せん妄含む)	講義・演習	千葉
10	脳神経系・精神機能のアセスメント①	講義・演習	堀井
11	脳神経系・精神機能のアセスメント②	講義・演習	堀井
12	筋・骨格系のアセスメント	講義・演習	田中
13	消化器系のアセスメント、腎・泌尿器系のアセスメント	講義・演習	田中
14	総合演習①グループワーク(事例展開)	演習	田中
15	総合演習②発表、ディスカッション、まとめ	演習	全員

■ 教科書

Bickey,L.S. (2013)／福井次矢、井部俊子監訳(2015)．ペイツ診察法第 2 版．メディカルサイエンスインターナショナル．

■ 参考書、参考資料等

授業中に適宜紹介します。

■ フィードバックの仕方

総合演習プレゼンテーションのフィードバックは授業内で行う。レポートのフィードバックは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は「病態生理学」の知識を活用して、より実践的に展開します。

■ 成績評価の仕方

授業への取組み 10 %、演習記録の提出 20 %、プレゼンテーション 20 %、レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～12:50。【研究室】 田中 449、三浦 444、千葉 429、堀井 427、内木 406、山内 443、織方 554

■ その他

HMSB100

病態生理学 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○井上 明宏、石橋 由孝、伊地 俊介、伊藤 英也、伊藤 由紀子、猪俣 稔、鈴木 憲史、日吉 徹、福田 倫明、宮内 彰人、三浦 英恵、坂口 千鶴、田中 孝美、山内 朋子

■ 授業の目的

エビデンスに基づき、対象の全身性の病態生理学的変化を解釈し、臨床看護判断を行うために、専門看護師として必要な知識と技術について学ぶ。

■ 到達目標

- ・小児・成人・高齢者等の各ライフ・ステージの病態生理学的特徴を理解することができる。
- ・対象者の症状や所見等のエビデンスに基づき、病態を解釈・判断した上で臨床看護判断を行うことができる。

■ 学習の進め方

- ・ Learning Management System の Glexa および Microsoft Teams を利用した遠隔授業にて、講義および演習形式で行う。
- ・病態の機序に関する講義を行った後、グループに分かれて模擬患者事例のデータをもとに、病態を解釈・判断し、必要な検査・治療をもとに看護計画について検討し、全体で討議する。
- ・模擬患者や設定状況を通して、生じている病態生理学的変化を解釈・判断し、鑑別診断に必要な検査や治療法を展開する思考プロセスを学ぶ。模擬患者や状況設定に生涯発達のな特徴を盛り込み、幅広く多様な状況に対応できる臨床看護判断能力を養う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

講義の回については、テーマとなっている分野の基本事項について、これまでの知識をノートに整理して臨む。グループワーク演習の発表担当となったグループは、教員から提示された疾病の病態生理を考察し、患者の看護について検討して発表のスライドやレジュメを作成する。発表担当以外の受講生も、自らの考えをノートにまとめておく。

【事前学習】講義だけの回については、テーマとなっている分野の基本事項について、これまでの知識をノートに整理して臨む。グループワーク演習の発表担当となったグループは、教員から提示された疾病の病態生理を考察し、患者の看護について検討して発表のスライドやレジュメを作成する。発表担当以外の受講生も、自らの考えをノートにまとめておく。

【事後学習】講義の回については、授業で取り扱われた疾病の病態生理および患者の看護について振り返る。演習の回については、担当グループの発表内容や討論の内容を振り返って、整理しておく。

No	内容	形式	教員
1	授業オリエンテーション・循環器系機能障害 (1)	講義 オンデマンド型	井上・三浦
2	消化器系機能障害 (1)	講義 録画配信	伊藤・坂口
3	循環器系機能障害 (2) - 事例検討	GW・演習 同時双方向型	三浦
4	代謝・調節機能障害	講義 同時双方向型	日吉・井上
5	精神・認知機能障害	講義 同時双方向型	福田
6	消化器系機能障害 (2) - 事例検討	GW・演習 同時双方向型	伊藤・坂口
7	運動器系機能障害	講義 同時双方向型	伊藤
8	腎・泌尿器系機能障害	講義 同時双方向型	石橋・井上
9	脳・神経系機能障害 (1)	講義 同時双方向型	伊地・井上
10	免疫系機能障害 (1)	講義 同時双方向型	鈴木・山内
11	呼吸器系機能障害 (1)	講義 同時双方向型	猪俣・田中
12	免疫系機能障害 (2) - 事例検討	GW・演習 同時双方向型	鈴木・山内

No	内容	形式	教員
13	脳・神経系機能障害 (2) - 事例検討	GW・演習 同時双方向型	伊地・井上
14	呼吸器系機能障害 (2) - 事例検討	GW・演習 同時双方向型	猪俣・田中
15	生殖器系機能障害	講義 同時双方向型	宮内

■ 教科書

特に教科書は指定せず、担当教員または学生の発表者ハンドアウト資料を配布する。

■ 参考書、参考資料等

なし(必要に応じて教員が紹介、または学生が自ら探す)

■ フィードバックの仕方

発表にフィードバックは授業時に行い、レポートのフィードバックは、後期授業開始時期に、学内担当教員がコメントを付したレポートの返却を行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目を基盤として「臨床薬理学」(後期)が展開される。

■ 成績評価の仕方

- ・ 講義時における質問や応答の態度(10%)
- ・ 演習：各症例および事例に関する看護計画のプレゼンテーション(30%)
- ・ 課題レポート：演習時に提示された事例の中から一つを選び、病態を解釈・判断し、鑑別診断に必要な検査や治療を踏まえて看護計画を作成する(A4 用紙 5 枚程度)(60%)

■ オフィスアワー・研究室等

非常勤講師：授業終了後 30 分。

学内講師：授業開講日の 12:30～13:00、および、授業終了後 30 分。

研究室 井上(409)・坂口(414)・三浦(444)・千葉(429)・田中(449)・山内(443)

■ 受講上の注意事項

演習のグループ分けや演習の進行は学生主導で行う。

■ その他

HMSB101

臨床薬理学 ※ CNS 科目

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○石田 耕太、植松 和子、坂口 千鶴、山内 朋子、古城門 靖子

■ 授業の目的

複雑な健康問題を抱えた対象の特性や症状をもとに、薬剤使用の判断、投与後のモニタリング、日常生活行動の調整、回復力の促進、服薬管理能力の向上を図るために、専門看護師としての知識と看護技術について学ぶ。

■ 到達目標

1. 対象者の病態に基づいた薬剤使用の判断に関するエビデンスを説明できる。
2. 小児、成人、高齢者等の各ライフステージの特徴も踏まえた薬物療法の特徴を学ぶ。
3. 対象者が安全で効果的な薬物療法を継続するための支援方法について学ぶ。

■ 学習の進め方

1. 講義スケジュールの3分の2では臨床薬理学に関する知識を講義形式で実施する。
2. その以外の講義では、精神疾患、小児、高齢者の薬物療法に関する特徴的な事例を用いながら、具体的な薬物療法時の管理、援助方法について検討していく。
3. 授業内容に沿った事柄をより深く学習できるよう、授業概要または配付資料に参考資料を記す。
【事前学習】 授業概要または配付資料に記した文献リストから関連資料に目を通した上で授業に臨む。
【事後学習】 薬物療法とその管理に結びつけて、その日学んだことを復習する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	授業のオリエンテーション：坂口 医薬品の基本的知識について	講義	石田
2	薬理学総論・医薬品の臨床開発	講義	石田
3	末梢神経系・呼吸器系に作用する医薬品	講義	石田
4	中枢神経系に作用する医薬品	講義	植松
5	消化器系・血液系に作用する医薬品	講義	石田
6	免疫系・感染症に作用する医薬品	講義	石田
7	循環器系に作用する医薬品	講義	植松
8	内分泌系に作用する医薬品	講義	植松
9	腎・泌尿器系に作用する医薬品	講義	石田
10	抗がん剤と化学療法について	講義	石田
11	女性のライフスタイルと薬	講義	植松
12	周産期医療と薬	講義	植松
13	精神疾患患者への薬物療法とその管理	講義・討議	古城門
14	小児患者への薬物療法とその管理	講義・討議	山内
15	高齢患者への薬物療法とその管理	講義・討議	坂口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

渡邊 康裕(2015)カラーイラストで学ぶ 集中講義 薬理学 改訂2版 メジカルビュー社。
田中千賀子、加藤隆一編(2017)改訂第7版 南江堂。

■ 他の授業科目との関連

この科目は「病態生理学」の知識を活用して、より実践的に展開します。

■ 成績評価の仕方

1. 課題レポート 30 % (課題 20 % + 取り組み 10 %) 2. 試験 70 %

■ オフィスアワー・研究室等

非常勤講師：授業終了後に教室で質問を受け付ける。

学内講師：授業開講日の12:30~13:00、および、授業終了後30分。

坂口(414 研究室) 山内(443 研究室) 古城門(412 研究室)

■ その他
HMSB150

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション概論

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○井村 真澄

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における生涯を通じた女性・子ども・パートナー・家族の健康支援に向けて、リプロダクティブヘルス・ライツやウィメンズヘルスに関する歴史背景、国際的動向、基盤となる理論・概念への理解を深め、対象の健康課題について学び、エビデンスに基づく助産ケア EBM とナラティブに基づく助産ケア NBM の方策について探求する。

■ 到達目標

1. リプロダクティブヘルス・ライツ、ウィメンズヘルスの歴史的背景と概念について理解し、説明、記述できる。
2. Evidence Based Midwifery、Narrative Based Midwifery の概念と方法について理解し、説明、記述できる。
3. ウィメンズヘルスに関する諸概念、理論について理解し、説明、記述できる。
4. 女性/男性の各ライフステージにおける健康課題について理解し、説明、記述できる。
5. 諸概念や理論を活用して事例/事象への理解と考察を深め、同時に前者の理解を深め、より良い助産ケアについて考察、説明、記述できる。

■ 学習の進め方

1. Teams を用いて双方向性の講義で行う。
2. テーマごとに学生担当を決め、担当テーマについて資料準備とプレゼンテーションを行う。
3. 各回ごとに提示されたディスカッションテーマについて、小グループおよび全体討議を行い学びを深める。
4. 教員の講義および提示した資料、事例についてディスカッションを行い学びを深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、リプロダクティブヘルス・ライツ RHR、ウィメンズ・ヘルス・プロモーション WHP、プレコンセプションケア PCC の歴史的背景と概念 事前学修：[30 分] 母性看護学概論・各論の既習学習内容を想起しておく 事後学修：[30 分] RHR・WHP・PCC の概念の要点を整理する	講義・討議	井村
2	ウィメンズヘルスの研究と実践：EBM・EBCP 事前学修：[30 分] EBM について既習の知識を想起する 事後学修：[30 分] EBM の概念と要点を整理する	講義・討議	井村
3	ウィメンズヘルスの研究と実践：NBM・NBCP 事前学修：[30 分] NBM について既習の知識を想起する 事後学修：[30 分] NBM の概念と要点を整理する	講義・討議	井村
4	ウィメンズヘルスと助産学に関連する学問分野、諸概念・理論 事前学修：[30 分] 看護に関連する既習の学問分野・理論を想起する 事後学修：[30 分] 概念・理論・中範囲理論について要点を整理する	講義・討議	井村
5	ウィメンズヘルスと諸概念・理論 -母性論：マターナル・アイデンティティ、母親役割理論 事前学修：[30 分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30 分] 理論とディスカッションについて整理する	発表・討議	井村
6	-母子相互作用理論：きずな理論、バーナードモデル 事前学修：[30 分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30 分] 理論とディスカッションについて整理する	発表・討議	井村
7	-危機理論、悲嘆と喪失 事前学修：[30 分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30 分] 理論とディスカッションについて整理する	発表・討議	井村
8	-セルフエフィカシー、エンパワーメント 事前学修：[30 分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30 分] 理論とディスカッションについて整理する	発表・討議	井村
9	-意思決定モデル(含むオタワ意思決定ガイド)、ヘルスリテラシー 事前学修：[30 分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30 分] 概念・モデルとディスカッションについて整理する	発表・討議	井村

No	内容	形式	教員
10	-ファミリーセンタードケア、ウィメンズセンタードケア 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 概念・モデルとディスカッションについて整理する	発表・討議	井村
11	-ケアリング理論、コンフォート理論 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 理論とディスカッションについて整理する	発表・討議	井村
12	実践への応用 ①思春期女性(男性) ②成熟期女性(男性) ③更年期女性(男性) 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 各期の健康課題とディスカッションについて整理する	発表・討議	井村
13	実践への応用 ①思春期女性(男性) ②成熟期女性(男性) ③更年期女性(男性) 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 各期の健康課題とディスカッションについて整理する	発表・討議	井村
14	実践への応用 ①思春期女性(男性) ②成熟期女性(男性) ③更年期女性(男性) 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 各期の健康課題とディスカッションについて整理する	発表・討議	井村
15	まとめ 事前学修：[30分] これまでの資料を通読する 事後学修：[30分] これまでのディスカッションについて整理する	発表・討議	井村

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

各テーマに関する参考書、参考資料・サイトは、授業で提示する。

■ フィードバックの仕方

授業プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。授業後に個別の振り返りを行い、課題を明確にする。

■ 他の授業科目との関連

本科目はウィメンズ・ヘルス・プロモーション研究論、ウィメンズ・ヘルス・プロモーション活動論に先立つ基礎的科目である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業・ゼミへの参加度 20% 2. ゼミ資料・発表内容 30% 3. 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

テーマ担当日前週の 12:30 - 12:50

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

積極的な参加を期待します。

発表資料等は、授業開講日の前日までに Teams 内にアップロードすること。

各自資料に目を通し、当日の討議に臨むこと。

■ その他

HNWH100

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション研究論

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における生涯を通じた女性・子ども・パートナー・家族の健康支援に向けて、研究の基礎・研究プロセスについて学び、リサーチクエストに適合する研究方法を探求する。

■ 到達目標

1. 研究の基礎：現象、概念、理論、パラダイムの関連について説明することができる。
2. 研究のステップについて説明できる。
3. 量的研究の特徴と種類について説明できる。
4. 質的研究の特徴と種類について説明できる。
5. 混合法の特徴と種類について説明できる。
6. 研究論文のクリティークのポイントについて説明できる。
7. 研究論文のサブストラクションについて説明できる。
8. 量的・質的研究及び混合法の研究論文を評価基準に基づいて適切にクリティークできる。
9. 自己のリサーチクエストに適合する研究方法の範囲を選択することができる。

■ 学習の進め方

「AL」

Denise & Cheryl(2016). Nursing Research 10th Edition を参考に、関連領域の英語論文をクリティークし全体討議を通じて、理解を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コースオリエンテーション 事前学修：[60分] 研究テーマに関連した英語論文を検索する。 事後学修：[60分] 論文のクリティークについて関連文献を読んでまとめておく。	討議	井村・齋藤・新田
2	クリティークポイントの確認 事前学修：[60分] Nursing Research 10th のクリティークの章を和訳しまとめる。 事後学修：[60分] 和訳とクリティークポイントを見直し修正する。	発表・討議	井村・齋藤・新田
3	英論文のクリティーク①量的研究(1. 論文の理解) 事前学修：[60分] 英語論文①の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	GW	齋藤・新田・井村
4	英論文のクリティーク①量的研究(2. 論文の理解) 事前学修：[60分] 英語論文①の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	発表・討議	齋藤・新田・井村
5	英論文のクリティーク①量的研究(3. クリティーク) 事前学修：[60分] 英語論文①の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	GW	齋藤・新田・井村
6	英論文のクリティーク①量的研究(4. クリティーク) 事前学修：[120分] 英語論文①の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	発表・討議	齋藤・新田・井村
7	英論文のクリティーク②質的研究(1. 論文の理解) 事前学修：[60分] 英語論文②の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	GW	新田・井村・齋藤
8	英論文のクリティーク②質的研究(2. 論文の理解) 事前学修：[120分] 英語論文②の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	発表・討議	新田・井村・齋藤
9	英論文のクリティーク②質的研究(3. クリティーク) 事前学修：[60分]。英語論文②の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	GW	新田・井村・齋藤

No	内容	形式	教員
10	英論文のクリティーク②質的研究(4. クリティーク) 事前学修：[120分] 英語論文②の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	発表・討議	新田・井村・齋藤
11	英論文のクリティーク③混合研究(1. 論文の理解) 事前学修：[60分] 英語論文③の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	GW	井村・齋藤・新田
12	英論文のクリティーク③混合研究(2. 論文の理解) 事前学修：[120分] 英語論文③の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	発表・討議	井村・齋藤・新田
13	英論文のクリティーク③混合研究(3. クリティーク) 事前学修：[60分] 英語論文③の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	GW	井村・齋藤・新田
14	英論文のクリティーク③混合研究(4. クリティーク) 事前学修：[120分] 英語論文③の和文要約とクリティークをまとめる。 事後学修：[60分] 授業内容を復習する。	発表・討議	井村・齋藤・新田
15	まとめ 事前学修：[180分] 各自の研究テーマに関連した文献検討を行う。 事後学修：[60分] 授業内容を参考に自己の文献検討を修正する。	発表・討議	井村・齋藤・新田

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

Denise & Chery (2016) Nursing Research 10th Edition.

抱井尚子 (2015). 混合研究法入門 質と量による統合のアート. 医学書院.

自身の関心領域の英原著論文を検索し持参する。他、各開講時にお勧めの書籍を提示します。

■ フィードバックの仕方

授業内の発表に対して課題の理解が深まるよう、教員も討議へ参加し、互いに意見を交換する。

■ 他の授業科目との関連

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション概論、共通科目看護研究特論の履修を前提とする。

これらの学修をもとに、研究について詳細かつ発展的な内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 授業・ゼミへの参加度 40 %、2. ゼミ資料・発表内容 40 %、3. 最終課題レポート 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講曜日の 12:30 - 12:50。

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp、新田(451 研究室) m.nitta@redcross.ac.jp、

齋藤(417 研究室) e-saito@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

この授業は英語の研究関連資料や原著論文を読み進めていきます。発表・発表資料は日本語で行います。主体的・積極的参加を期待します。討議が深まるよう、発表資料は前日の夕方までに参加者へ配布してください。発表当日は、課題となった論文読解のために使用した研究方法論等に関する参考資料も、各自ご持参ください。

■ その他

HNWH150

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション活動論

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○井村 真澄

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における生涯を通じた女性・子ども・パートナー・家族の健康支援に向けて、Evidence-Based Midwifery (EBM) の理念、基本的知識、方法を修得し、女性と家族の今日的な健康問題/課題を解決/達成するための実効的な支援活動およびマネジメントのありかたを探索する。

■ 到達目標

1. Evidence-Based Midwifery (EBM)、Narrative-Based Midwifery (NBM) について理解し、説明、記述できる。
2. EBM の基本ステップについて理解し、問題の定式化、文献検索、ランダム化比較試験 (RCT) 論文の批判的吟味を行うことができる。
3. システマティック・レビュー、メタアナリシスの概要を理解し、論文の批判的吟味を行うことができる。
4. ガイドラインの作成過程の概要が理解でき、実際の支援に活用する際の留意点が理解できる。
5. 実践現場における EBM の展開について考察し、討議・説明・記述することができる。

■ 学習の進め方

「AL」

1. 事前に授業で取り上げる資料・論文を読み、必要時英文邦訳し、疑問点を明らかにして授業に参加する。
2. プレゼンテーション、ディスカッション、グループワーク (GW)、課題個人ワークなどを通して主体的に学びを深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コースオリエンテーション、Evidence-Based Midwifery (EBM)、Narrative-Based Midwifery (NBM) 事前学修：[30 分] 既習学習内容を想起しておく 事後学修：[30 分] EBM・PICO、EBN の要点を整理する	講義・討議	井村
2	EBM の基本ステップ、問題の定式化：PICO の展開 臨床状況における課題の発見 事前学修：[60 分] 臨床状況に基づく PICO の設定・文献検索・結果を記述する 事後学修：[30 分] EBM・PICO の要点を整理する	講義 発表・討議・GW	井村
3	論文クリティーク①：CONSORT、THE SPELL 事前学修：[60 分] EBM シナリオに記述する 事後学修：[30 分] EBM・PICO の要点を整理する	講義 発表・討議・GW	井村
4	論文クリティーク②：CONSORT、THE SPELL 事前学修：[60 分] 日本語 RCT 文献をクリティークして記述する 事後学修：[30 分] CONSORT 形式のポイントを整理する	講義 発表・討議・GW	井村
5	論文クリティーク③：CONSORT、THE SPELL エビデンスの臨床への適用と評価 事前学修：[60 分] 英文 RCT 文献をクリティークして記述する 事後学修：[30 分] エビデンスの臨床への適用と評価について整理する	講義 発表・討議・GW	井村
6	コクランシステマティック・レビュー、メタアナリシス① 事前学修：[60 分] 英文コクラン文献抄録を訳出して記述する 事後学修：[30 分] 抄録のポイントを整理する	講義 発表・討議・GW	井村
7	コクランシステマティック・レビュー、メタアナリシス② 事前学修：[60 分] コクラン英語文献を読んで要点を記述する 事後学修：[30 分] システマティックレビューの要点を整理する	講義 発表・討議・GW	井村
8	コクランシステマティック・レビュー、メタアナリシス③ 事前学修：[30 分] コクラン英語文献を読んで要点を記述する 事後学修：[30 分] システマティックレビューの要点を整理する	講義 発表・討議・GW	井村
9	コクランシステマティック・レビュー、メタアナリシス④ 事前学修：[30 分] コクラン英語文献を読んで要点を記述する 事後学修：[30 分] システマティックレビューの要点を整理する	講義 発表・討議・GW	井村

No	内容	形式	教員
10	コクランシステマティック・レビュー、メタアナリシス⑤ エビデンスの臨床への適用と評価 事前学修：[30分] コクラン英語文献を読んで要点を記述する 事後学修：[30分] システマティックレビューの要点を整理する	講義 発表・討議・GW	井村
11	ケア/診療ガイドライン 事前学修：[30分] エビデンスに基づくガイドライン—妊娠期・分娩期 2016 を読む 事後学修：[30分] ガイドラインの要点について整理する	講義 発表・討議	井村
12	ケア/診療ガイドライン エビデンスの臨床への適用と評価 事前学修：[30分] エビデンスに基づくガイドライン—妊娠期・分娩期 2016 を読む 事後学修：[30分] エビデンスの臨床への適用と評価について考察する	講義 発表・討議・GW	井村
13	コクラン、ケア/診療ガイドライン GRADE 事前学修：[30分] コクランレビュー本文内容を再読する 事後学修：[60分] GRADE の要点を整理して結果の要約(SoF)表を作成する	講義 発表・討議・演習	井村
14	コクラン、ケア/診療ガイドライン GRADE エビデンスの臨床への適用と評価 事前学修：[30分] リスクオブバイアスとメタアナリシスについて既習の知識を想起する 事後学修：[60分] PICO とエビデンスを照合して整理する	講義 発表・討議・演習	井村
15	まとめ 事前学修：[30分] 臨床場面と既習の知識を想起する 事後学修：[30分] エビデンスの臨床への適用と評価について考察する	講義 発表・討議・GW	井村

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

豊島義博、南郷里奈、蓮池聡(編). (2015). 学びなおし EBM GRADE アプローチ時代の臨床論文の読みかた. クインテッセンス出版株式会社.

相原守夫 (2015). 診療ガイドラインのための GRADE システム 第 2 版. 凸版メディア株式会社.

開講時に提示する。また、授業で資料を配布する。

■ フィードバックの仕方

授業プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。授業後に個別の振り返りを行い、課題を明確にする。

■ 他の授業科目との関連

WHP 概論、看護研究特講、WHP 研究論での学修をもとに、本科目では研究エビデンスと臨床実践との循環性に着目し発展させた内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 授業・ゼミへの参加度 20% 2. ゼミ資料・発表内容 30% 3. 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講曜日の 12:30 - 12:50

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

主体的・積極的参加を期待します。

発表資料等は、授業開講日の前日までに全員に配布すること。

各自資料に目を通し、当日の討議に臨むこと。

■ その他

HNWH151

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習 I

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における生涯を通じた女性・子ども・パートナー・家族への健康支援に向けて、実践課題や研究テーマを明確化し、当該領域に関連する論文のクリティークを行い、自己の研究目的を精練する。さらに、研究目的を探究するのに適した研究方法を明確化し、倫理的配慮のある研究計画書を作成する。

■ 到達目標

1. 国際保健助産学に関連する健康課題のうち、自己が取り組むべき研究課題を明確に説明・記述できる。
2. 文献検討を通し、自己の研究課題に関する学術的、実践的背景を明確に説明・記述できる。
3. 自己の研究目的を明確に説明・記述できる。
4. 自己の研究目的に即した研究方法を立案できる。
5. 論理的かつ倫理的配慮のある研究計画書を作成することができる。

■ 学習の進め方

「AL」

1. 主にゼミ形式で進める。学生各自の関心あるテーマについてプレゼンテーションし、その内容について討論する。
2. 事前学修：論文クリティークを行い、資料は前週に配布し読んでおく。
自己の学修課題に関する文献等に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。
3. 事後学修：ゼミにおいて明確になった課題を整理・検討し、次週までの作業課題に取り組む。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	前期オリエンテーション	講義・討議	全員
2	文献検察と文献検討	発表・討議	全員
3	修士論文作成と発表スケジュール	発表・討議	全員
4	研究テーマの絞り込み(研究上の関心、研究課題、研究問題、研究目的について)	発表・討議	全員
5	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション①	発表・討議	全員
6	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション②	発表・討議	全員
7	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション③	発表・討議	全員
8	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション④	発表・討議	全員
9	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション⑤	発表・討議	全員
10	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション⑥	発表・討議	全員
11	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション⑦	発表・討議	全員
12	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション⑧	発表・討議	全員
13	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション⑨	発表・討議	全員
14	研究の関心テーマと文献検討プレゼンテーション⑩	発表・討議	全員
15	文献検討最終報告会	発表・討議	全員
16	後期オリエンテーション	発表・討議	全員
17	研究方法の明確化①	発表・討議	全員
18	研究方法の明確化②	発表・討議	全員
19	研究方法の明確化③	発表・討議	全員
20	研究方法の明確化④	発表・討議	全員
21	研究方法の明確化⑤	発表・討議	全員
22	研究方法の明確化⑥	発表・討議	全員
23	研究方法の明確化⑦	発表・討議	全員
24	研究方法の明確化⑧	発表・討議	全員
25	研究方法の明確化⑨	発表・討議	全員
26	研究方法の明確化⑩	発表・討議	全員

No	内容	形式	教員
27	研究方法の明確化①	発表・討議	全員
28	研究方法の明確化②	発表・討議	全員
29	研究計画書の作成①	発表・討議	全員
30	研究計画書の作成②	発表・討議	全員

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

授業プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。

■ 他の授業科目との関連

WHP 概論、共通科目看護研究特講、ウィメンズ・ヘルス・プロモーション研究論、ウィメンズ・ヘルス・プロモーション活動論の学修と並行して、本科目ではより自己の課題に基づいた学修を発展させる。

■ 成績評価の仕方

1. ゼミへの参加度 30 % 2. ゼミ資料・発表内容 70 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講曜日の 12:30 - 12:50

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp、新田(451 研究室) m.nitta@redcross.ac.jp、齋藤(417 研究室) e-saito@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

主体的・積極的参加を期待します。

■ その他

HNWH180

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における生涯を通じた女性・子ども・パートナー・家族への健康支援に向けて、自己の研究テーマに基づいた研究計画を推進し、データ収集、分析、結果に関する考察を深めて修士論文を作成する。そのプロセスを通して、専門家としてより高度な知識、技術、倫理的態度を習得し、当該領域の発展に寄与する。

■ 到達目標

1. 倫理的配慮のある研究計画書を作成し、倫理審査委員会の承認を得て研究を実施できる。
2. データ収集にて得られたデータの分析を行うことができる。
3. データ分析の結果を多角的に深く考察して説明、記述できる。
4. 規定に則った修士論文を期日までに完成させることができる。
5. 研究プロセスを通して得られた成果、今後の課題と活動展開について説明、記述できる。

■ 学習の進め方

「AL」

1. 主にゼミ形式で進める。自己の学修課題に関する資料を準備し、プレゼンテーションを行なう。
2. ゼミにおけるディスカッションを通して考察を深め、新たな課題を発見して研究プロセスを進行させ学修を深める。
3. 事前学修：論文クリティーク資料は前週に配布し読んでおく。
自己の学修課題に関する文献等に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。
3. 事後学修：ゼミにおいて明確になった課題を整理・検討し、次週までの作業課題に取り組む。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	前期オリエンテーション	講義・討議	全員
2	研究計画書の作成/文献検索と文献検討①	発表・討議	全員
3	研究計画書の作成/文献検索と文献検討②	発表・討議	全員
4	倫理審査書類作成・研究計画書の修正①	発表・討議	全員
5	倫理審査書類作成・研究計画書の修正②	発表・討議	全員
6	計画実施上の課題の明確化と対応①	発表・討議	全員
7	計画実施上の課題の明確化と対応②	発表・討議	全員
8	計画実施上の課題の明確化と対応③	発表・討議	全員
9	計画実施上の課題の明確化と対応④	発表・討議	全員
10	計画実施上の課題の明確化と対応⑤	発表・討議	全員
11	計画実施上の課題の明確化と対応⑥	発表・討議	全員
12	計画実施上の課題の明確化と対応⑦	発表・討議	全員
13	計画実施上の課題の明確化と対応⑧	発表・討議	全員
14	前期のまとめ①	発表・討議	全員
15	前期のまとめ②	発表・討議	全員
16	データの分析と検討①	発表・討議	全員
17	データの分析と検討②	発表・討議	全員
18	データの分析と検討③	発表・討議	全員
19	データの分析と検討④	発表・討議	全員
20	データの分析と検討⑤	発表・討議	全員
21	結果の考察と検討①	発表・討議	全員
22	結果の考察と検討②	発表・討議	全員
23	結果の考察と検討③	発表・討議	全員
24	結果の考察と検討④	発表・討議	全員
25	論文作成①	発表・討議	全員
26	論文作成②	発表・討議	全員

No	内容	形式	教員
27	論文作成③	発表・討議	全員
28	論文作成④	発表・討議	全員
29	後期のまとめ①	発表・討議	全員
30	後期のまとめ②	発表・討議	全員

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

参考文献は授業中に適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

授業プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。

■ 他の授業科目との関連

1年時ウィメンズ・ヘルス・プロモーション概論・研究論・活動論、ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習Ⅰ・実習Ⅰ、共通科目の学修を、本科目においてさらに発展させる。

■ 成績評価の仕方

1. ゼミへの参加度 30 % 2. ゼミ資料・発表内容 70 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30 - 12:50

井村(418 室研究室) imurasue@redcross.ac.jp、新田(451 研究室) m.nitta@redcross.ac.jp、齋藤(417 研究室) e-saito@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習Ⅰ、実習Ⅰを単位修得していること。
主体的、積極的参加を期待します。

■ その他

HNWH280

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション実習 I

単位：3 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○井村 真澄

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における生涯を通じた女性・子ども・パートナー・家族への健康支援を通して、ケアの在り方を探求するとともに、課題を探求し、自己の研究テーマを明確にする。

■ 到達目標

1. 国際保健助産学領域における自己の関心領域と実習目的を明確に説明できる。
2. 実習計画書を作成することができる。
3. 実習計画書に基づき、実習施設に依頼・調整できる。
4. 実習計画に基づき、安全で倫理的に実習できる。
5. 実習成果を明確に説明できる。
6. 自己の課題を明確に説明できる。

■ 学習の進め方

「AL」

学生自身が計画した目的・方法・内容に基づいて、発表・討議・実習・フィールドワーク(FW)・グループワーク(GW)を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習計画に即して展開する。

1. 自己の目的・関心領域の実習計画書作成 [発表・討議]
2. 実習施設への実習依頼書作成 [発表・討議]
3. 実習施設の実習に関する倫理審査準備 [発表・討議]
4. 倫理審査に準拠し実習方法の選択 [発表・討議]
5. 実習(2 - 4 週間程度) [実習・FW・GW]
6. 実習成果と自己課題との討議① [発表・討議]
7. 実習成果と自己課題との討議② [発表・討議]
8. 国際保健助産学領域におけるケアの現状と課題 [発表・討議]
9. 国際保健助産学領域におけるケアの質向上の討議 [発表・討議]
10. まとめ [発表・討議]

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

実習の進行状況に即して適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

実習報告および資料へのフィードバックは、授業内に行う。

■ 他の授業科目との関連

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習 I を踏まえて、自己の課題を深化・発展させる。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への参加度 30%
2. 実習報告の内容 70%

■ オフィスアワー・研究室等

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習 I 授業開講曜日の 12:30 - 12:50

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

主体的、積極的な取り組みを期待します。

■ その他

HNWH181

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション実習Ⅱ

単位：3単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○井村 真澄

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における生涯を通じた女性・子ども・パートナー・家族の健康支援に向けて、自らの目的・目標に基づいてフィールドを開拓し、さまざまなライフステージや健康状態にある女性のヘルスアセスメントを行い、具体的な援助を展開する。この実践を通して、専門職として対象の健康問題への支援、業務管理、他職種や組織との連携、リーダー的役割や援助能力等を追究する。

■ 到達目標

1. 自己の目的・関心領域の実習計画書、実習依頼書、倫理審査書類等の必要書類を期日までに作成できる。
2. 実習計画書に基づき、実習施設に依頼・調整できる。
3. 実習計画書に基づき、安全で倫理的に実習できる。
4. 実習成果を明確にし、得られた結果への考察を深めて説明、記述できる。
5. 自己の課題を明確に説明、記述できる。

■ 学習の進め方

「AL」

学生自身が計画した目的・方法・内容に基づいて実践を通して実習・フィールドワーク(FW)・グループワーク(GW)を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習計画に則して展開する。

1. 自己の目的・関心領域の実習計画書作成 [発表・討議]
2. 実習施設への実習依頼書作成 [発表・討議]
3. 実習施設の実習に関する倫理審査準備 [発表・討議]
4. 倫理審査に準拠し実習方法の選択 [発表・討議]
5. 実習(期間は研究計画に準ずる) [実習・FW・GW]
6. 実習成果と自己課題との討議① [発表・討議]
7. 実習成果と自己課題との討議② [発表・討議]
8. 国際保健助産学領域でのケアの現状と課題 [発表・討議]
9. 国際保健助産学領域のケアの質向上の討議 [発表・討議]
10. まとめ [発表・討議]

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

実習の進行状況に即して適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

実習報告および資料へのフィードバックは、授業内に行う。

■ 他の授業科目との関連

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習Ⅰ、実習Ⅰ、および1年次の学修内容を想起し、統合して活用すること。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への参加度 30%
2. 実習報告の内容 70%

■ オフィスアワー・研究室等

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習Ⅱ開講曜日の 12:30 - 12:50

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習Ⅰ、実習Ⅰを単位取得していること。

主体的・積極的取り組みを期待します。

■ その他

HNWH281

国際保健助産論 I

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○新田 真弓

■ 授業の目的

母親・子ども・父親、女性と家族、コミュニティの健康水準の維持向上を目指し、国際的視野を持って助産師として活動するために必要な国際保健医療、母子保健、国際機関に関する基礎的知識を学び、当該領域の問題や課題について理解を深める。さらに、国際的母子保健助産領域の問題と運動戦略、実践展開について学び、現在の問題点や今後の課題について考察する。

■ 到達目標

1. 国際保健助産の主要概念と関連概念について説明できる。
2. 国際保健助産の対象と対象把握の枠組みについて説明できる。
3. 国際保健助産に関わる領域(環境と栄養、人口と家族計画、教育とジェンダー、リプロダクティブヘルス、文化・宗教、医療経済学・開発経済学、在日外国人の保健医療、難民問題等)について説明できる。
4. 国際保健助産活動に関連のある国際法や国際機構について説明できる。

■ 学習の進め方

国際保健助産の主要概念と関連概念、国際保健助産の対象と対象把握の枠組み、国際法と国際機構については講義形式および演習で行う。国際保健助産活動の実際については専門家による講演、国際保健助産に関わる領域についてはゼミ形式(グループワークに基づき発表と討議)で行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自宅学習課題 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	新田
2	自宅学習課題 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	新田
3	自宅学習課題 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	新田
4	国際保健助産の概念・関連概念 事前学修：[30分] シラバスの授業目的を読み、国際保健助産の概念を整理する。 事後学修：[20分] 授業内で担当するテーマを決め、資料を準備する。	講義・演習	新田
5	国際保健助産の対象と対象把握の枠組み 事前学修：[30分] 国際保健助産の対象と対象把握について、紹介された関連図書を読み内容を把握する。 事後学修：[20分] 配布資料を読み返し、内容を復習する。	講義・演習	新田
6	国際保健助産に関わる領域：A リプロダクティブ・ヘルス/ライツ 事前学修：[30分] 授業内で提示されたテーマに関連した図書を読み、討議の準備をする。 事後学修：[20分] 配布資料を読み返し、内容を復習する。	演習・討議	新田
7	国際保健助産に関わる領域：B 環境、C 栄養 事前学修：[30分] 授業内で提示されたテーマに関連した図書を読み、討議の準備をする。 事後学修：[20分] 配布資料を読み返し、内容を復習する。	演習・討議	新田
8	国際保健助産に関わる領域：D 人口の動向、E 家族計画 事前学修：[30分] 授業内で提示されたテーマに関連した図書を読み、討議の準備をする。 事後学修：[20分] 配布資料を読み返し、内容を復習する。	演習・討議	新田
9	国際保健助産に関わる領域：F 文化、G 宗教 事前学修：[30分] 授業内で提示されたテーマに関連した図書を読み、討議の準備をする。 事後学修：[20分] 配布資料を読み返し、内容を復習する。	演習・討議	新田
10	国際保健助産に関わる領域：H 教育、I ジェンダー 事前学修：[30分] 授業内で提示されたテーマに関連した図書を読み、討議の準備をする。 事後学修：[20分] 配布資料を読み返し、内容を復習する。	演習・討議	新田

No	内容	形式	教員
11	国際保健助産に関わる領域：J 在日外国人の保健医療、K 難民問題 事前学修：[30分] 授業内で提示されたテーマに関連した図書を読み、討議の準備をする。 事後学修：[20分] 配布資料を読み返し、内容を復習する。	演習・討議	新田
12	国際保健助産に関わる領域：L 医療経済学、M 開発経済学 事前学修：[30分] 授業内で提示されたテーマに関連した図書を読み、討議の準備をする。 事後学修：[20分] 配布資料を読み返し、内容を復習する。	演習・討議	新田
13	国際保健助産に関わる領域：N 国際法、O 国際機構 事前学修：[30分] 授業内で提示されたテーマに関連した図書を読み、討議の準備をする。 事後学修：[20分] 配布資料を読み返し、内容を復習する。	講義	新田
14	国際保健助産活動に関する課題学習 事前学修：[20分] 課題テーマに沿って情報収集を行う。 事後学修：[30分] 課題学習の成果をレポートとしてまとめる。	課題学習	新田
15	国際保健助産活動の実際：活動報告 事前学修：[20分] 課題テーマに沿って情報収集を行う。 事後学修：[30分] 課題学習の成果をレポートとしてまとめる。	課題学習	新田

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

教科書は特に指定しない。各回の授業で適宜文献を紹介する。

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーションのフィードバックは授業時または、授業終了後に行う。
課題レポートのフィードバックは、後期授業開始後にレポートの返却とともにを行う。

■ 他の授業科目との関連

国際保健助産論Ⅱ、Ⅲにつながる概論として位置づけられる科目。看護学専攻の学生も履修可能である

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 10%、2. 課題学習資料・発表内容 40%、3. 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

開講期間内、指定された課題提出までの期間中に新田までメール(m.nitta@redcross.ac.jp)で行う。

■ その他

HNIH100

国際保健助産論Ⅱ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○齋藤 英子

■ 授業の目的

リプロダクティブ・ヘルスの実現を目指し、世界の Women's health や母子保健の現状を学び、様々な環境(地域、気候、社会経済、民族、言語、宗教、文化、習慣、教育、伝統医療など)にある女性とその家族が抱える健康問題を明らかにし、国際社会における助産師の役割について考察することができる。

■ 到達目標

1. ジェンダーやリプロダクティブ・ヘルスとライツの概念を理解できる。
2. ジェンダーの歴史的背景やリプロダクティブ・ヘルスとライツの生成と発展を理解できる。
3. リプロダクティブ・ヘルスに基づく様々なヘルスクエアと課題について学際的視野で学び、助産師の役割について考えることができる。
4. 世界の Women's health や母子保健の現状を学び、国際社会における助産師の役割を考えることができる。

■ 学習の進め方

「AL」

プレゼンテーション・グループワーク、ディスカッション、講義で授業を進める。

復習テストと講義 15分、プレゼンテーション 10～20分、ディスカッション/グループワーク 40～50分、本日の学びのまとめ 15分
プレゼンターは、テーマに関する国内外の状況や効果的な支援方策を調べてまとめる。A4-2枚もしくはPPT8枚で資料を作成・印刷をして、前日に配布をする。参加者も同様にテーマについて各自調べて意見をまとめておく。

配布された資料を事前に読んでわからない言葉は調べ、担当者が伝えるトピックに関する事前課題を調べて自己の意見を述べる準備をする。

授業の最後に復習テストを数問提示する。次回授業までにそれぞれ回答や意見を考えて記しておく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コースオリエンテーション 1. セクシャリティ、セクシャルヘルス、リプロダクティブヘルス・ライツ、ジェンダー定義と国内外の変遷 事前学修：[30分] 言葉の定義と国内外の動向の変遷を調べておく 事後学修：[30分] 担当を決める。復習テストに沿って自己の学びを記す	GW、発表、討議	齋藤
2	2. Sexual and Reproductive Health, Sexual Health Education * 事前学修：[30分] 包括的性教育と伝統的性教育について調べておく 事後学修：[30分] *配布されたガイドラインを読む。復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討議	齋藤
3	3. 出産・育児と文化 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] 復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討議	齋藤
4	4. 貧困と健康問題 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] 復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討論	齋藤
5	5. 女性・少女・子どもへの暴力 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] 復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討議	齋藤
6	6. FGM・有害なプラクティス* 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] *配布されたガイドラインを読む。復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討論	齋藤
7	7. LGBTの家族と子どもへの出産・子育て支援 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[60分] 復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討論	齋藤
8	8. プレコンセプションケア* 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] *配布されたガイドラインを読む。復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討論	齋藤

No	内容	形式	教員
9	9. 意図しない妊娠と安全な人工妊娠中絶* 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] *配布されたガイドラインを読む。復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討論	齋藤
10	10. 女性特有のがん(乳がん)の予防と早期発見 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] 復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討論	齋藤
11	11. 女性特有のがん(子宮頸がん)の予防と早期発見 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] 復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討論	齋藤
12	12. 性感染症(HIV/先天梅毒) 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] 復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討論	齋藤
13	13. 思春期のセクシャルヘルス* 事前学修：[30分] トピックに関する事前課題を調べて意見を述べられる準備をする 事後学修：[10分] *配布されたガイドラインを読む。復習テストに沿って自己の学びを記す	発表・討論	齋藤
14	14. 思春期教育 ミニ思春期教育の計画立案 事前学修：[30分] 思春期にある国内外の若者のニーズを調べる 事後学修：[60分] 発表・実演に向けて自分たちのアイデアを整理する	GW	齋藤
15	15. 思春期教育 ミニ思春期教育の実施と評価 事前学修：[90分] 10-15分間の思春期教育の準備をする。対象設定・テーマは自由。 事後学修：[120分] 最終テストの問題に沿って自己の学びを記す。テーマを設定したレポートを作成する。	GW・発表・討議	齋藤

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書、参考資料等

* 授業内で公的機関 (WHO/UN) が発刊しているガイドライン、報告書等を紹介します。

<https://www.who.int/reproductivehealth/publications>

■ フィードバックの仕方

復習テストの答え合わせは次の授業のはじめに行う。

最終テストと最終レポートについては、提出後 1 か月以内にコメントを記して各自へ返却する。

■ 他の授業科目との関連

国際保健助産論 I での内容を発展させ、より臨床的で実践的な学びにつなげていきます。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み(参加態度、意見交換) 30% 2. プレゼンテーション・実演 30% 3. 最終テスト 20%、4. 最終レポート(目標 3 か 4 から選ぶ。テーマは自由) 20%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日 12:30 - 13:00 齋藤(417 研究室)

■ 受講上の注意事項

英語の資料を一緒に抄読することがあります。翻訳や辞書のアプリを自由に活用してください。

■ その他

HNIH150

国際保健助産論Ⅲ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○井村 真澄

■ 授業の目的

母子や女性・家族の健康の保持増進を目指し、乳幼児の予防接種や栄養に関する世界戦略、女性の育児と労働環境、家族のワークライフバランスについて学び、母子や女性・家族をエンパワーする助産活動についての理解を深め、望ましい支援のあり方について考察する。

■ 到達目標

1. 母親と乳幼児に関する健康指標の達成度、健康課題と改善方策について説明、記述できる。
2. 児童の権利に関する条約の理念を理解し、その概要と健康に関する条項について説明、記述できる。
3. 幼児の健康と死亡率引き下げへの戦略について邦訳し、説明、記述できる。
4. 乳幼児栄養の世界戦略について説明、記述できる。
5. 平時・災害時の母乳育児を保護・支援・推進するための具体的方策について説明、記述できる。
6. WHO コードについて理解し、市中にてモニターして説明、記述、発表できる。
7. 国内外の女性・男性、ワーク・ライフ・バランスについて理解し考察を深め、自己の考えを説明、記述できる。

■ 学習の進め方

「AL」

1. テーマごとに学生担当を決め、担当テーマについて資料準備とプレゼンテーションを行う。
2. 資料作成、当日の時間配分、ディスカッションテーマについては、事前に教員と相談する。
3. 各回ごとのディスカッションテーマについて、小グループ討議/ディベートおよび全体討議を行う。
4. WHO コードに関しては、市中およびさまざまな情報媒体にアクセスして現状を把握して体験的に学習を進める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コースオリエンテーション、児童の権利に関する条約(子どもの権利条約) 事前学修：[30分] 既習学修内容を想起しておく 事後学修：[30分] 子どもの権利条約の要点を整理する	講義・討議	井村
2	乳幼児と母親を取り巻く環境：母子健康指標の目標達成度と改善方策 事前学修：[30分] 母子健康指標の目標達成度を確認する 事後学修：[30分] 改善方策を整理する	発表・討議	井村
3	乳幼児の健康と死亡率引き下げへの戦略 -新生児小児疾患統合管理 IMNCI・日本の子どもの病気への初期対応教育 事前学修：[120分] 新生児小児疾患統合管理英文翻訳 事後学修：[30分] 新生児・小児疾患への初期対応について整理し、今後の支援を考案する	発表・討論・討議	井村
4	-拡大予防接種計画 EPI・日本の予防接種計画 事前学修：[30分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] 予防接種の要点を整理し、今後の支援を考案する	発表・討論・討議	井村
5	-乳幼児栄養と育児法：母乳育児・カンガルーマザーケア KMC 事前学修：[30分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] 母乳育児・KMCの要点を整理し、安全なKMC支援を考案する	発表・討論・討議	井村
6	-母乳育児と人工乳育児の変遷 事前学修：[30分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] 母乳育児と人工乳育児の変遷の要点を整理し、今後の対応方を考案する	発表・討論・討議	井村
7	-WHOコード WHOコードバイオレーション 事前学修：[30分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] WHOコード WHOコードバイオレーションの要点を整理する	発表・討論・討議	井村
8	-WHOコード WHOコードバイオレーション 事前学修：[120分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] WHOコードバイオレーションを識別し、今後の対応方を考案する	地区探査 発表・討議	井村
9	-赤ちゃんにやさしい病院運動 BFHI 事前学修：[30分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] BFHIの要点を整理し、今後の展開方を考案する	発表・討論・討議	井村

No	内容	形式	教員
10	-乳幼児の栄養に関する世界的な運動戦略 事前学修：[30分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] 運動戦略の要点を整理し、今後の展開方策を考案する	発表・討論・討議	井村
11	-災害時の母乳育児・乳幼児栄養 事前学修：[30分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] 災害時の母乳と乳幼児栄養の要点を整理し、今後の対応方策を考案する	発表・討論・討議	井村
12	女性の労働と母乳育児 事前学修：[30分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] 女性の労働と母乳育児の要点を整理し、今後の対応方策を考案する	発表・討論・討議	井村
13	女性と男性の育児、ワークライフ・バランス(WLB) 事前学修：[30分] ディベート内容を読む 事後学修：[30分] 男女の育児と WLB の要点を整理し、今後の対応方策を考案する	発表・討論・討議	井村
14	グループワーク① 事前学修：[30分] 既習のテーマを整理する 事後学修：[30分] 特定テーマについて考察したことを記述する	発表・討議	井村
15	グループワーク② まとめ 事前学修：[30分] 既習のテーマを整理する 事後学修：[30分] 特定テーマについて考察したことを記述する	発表・討議	井村

■ 教科書

日本国際保健医療学会編 (2013). 国際保健医療学. 第 3 版. 杏林出版.

■ 参考書、参考資料等

各テーマに関する参考書、参考資料・サイトは授業で提示する。

■ フィードバックの仕方

授業プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。授業後に個別の振り返りを行い、課題を明確にする。

■ 他の授業科目との関連

国際保健助産論Ⅰを基礎に、さらに各論的発展的内容を扱う。

■ 成績評価の仕方

1. 授業・ゼミへの参加度 20 % 2. ゼミ資料・発表内容 30 % 3. 課題レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

担当テーマ前週までの 12:30 - 12:50

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

国際認定ラクテーション・コンサルタント資格取得・継続に必要な継続教育単位証明書 CERPs (該当時間換算単位)を発行する。

■ その他

HNIH151

国際保健助産演習 I

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○井村 真澄、塚本 恵弥

■ 授業の目的

国際保健助産学分野の講義を通して得た知識を基に、国際的な助産活動についての講義と演習で知識を統合し、学びを深める。

■ 到達目標

1. 当該国の概要、保健医療制度、母子保健・看護・助産活動の実際について説明できる。
2. 日本の概要、母子保健・保健医療制度、母子保健・看護・助産活動の実際について説明し記述できる。
3. 途上国における母子保健活動の方法論について説明できる。
4. 国際的な母子保健・助産活動に関する自身の学びを整理し、国際保健助産実習にむけた自己の課題を記述できる。

■ 学習の進め方

Teams を用いた双方向型の授業展開を行う。

1. グループワークとプレゼンテーションによる授業展開：
オリエンテーションで提示する事前課題をグループで学習・分析し、プレゼンテーションを行う。
プレゼンテーション後に討議を行い、互いに理解を深め、考察する。
2. シミュレーションゲームと討議による授業展開：
途上国で妊娠・出産する女性の立場に立ち、カードゲームを行う。
起きた出来事を各自でストーリーとして描き、発表・共有する。
様々なストーリーをもとに、グループで討議し、問題提起と改善策を考える。
3. プレゼンテーション資料の作成：
日本の概要、母子保健、助産、看護教育等を紹介する英語のプレゼンテーション資料を作成する。
英語で発表練習を行い、修正する(国際保健助産実習の際にプレゼンテーションを行う)。
4. 途上国支援の専門家との交流：
途上国における助産・母子保健活動経験者から実際の体験を伺い、討議により自己の学びを深める。
5. ミニレポートにおける自己の学びと課題の整理：
オリエンテーションで配布するミニレポートを演習の前後に記述する。
6. オリエンテーション、ミニ講義、重要事項の解説と全体討議に対する講評：
必要時に教員が行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自宅学習課題 メールにて word で作成し提出する 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	井村・塚本
2	自宅学習課題 メールにて word で作成し提出する 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	井村・塚本
3	自宅学習課題 メールにて word で作成し提出する 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	井村・塚本
4	コースオリエンテーション 開発途上国における母子の安全とケア 事前学修：[30 分] ワークシート 1 を作成する。 事後学修：[30 分] 開発途上国における母子の安全とケアについて情報を整理する。	発表・討議	井村・塚本
5	開発途上国における母子保健活動の方法論① Module Session 4 事前学修：[60 分] Module Session 4 を読み、不明な点をノートにまとめる。 事後学修：[60 分] 討論内容を整理する。	GW	井村・塚本

No	内容	形式	教員
6	開発途上国における母子保健活動の方法論② Module Session 1,5 事前学修：[60分] Module Session 1,5 を読み、不明な点をノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討論内容を整理する。	講義・討議	井村・塚本
7	当該国の概要と母子保健の現状① 事前学修：[60分] 当該国の概要、母子保健の現状について情報を整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討論内容を整理する。	講義・討議	井村・塚本
8	当該国の概要と母子保健の現状② 事前学修：[60分] 当該国の概要、母子保健の現状について情報を整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討論内容を整理する。	GW	井村・塚本
9	当該国の母子保健や助産領域に関する戦略的プロジェクト① 事前学修：[60分] 当該国の母子保健や助産領域に関する戦略的プロジェクトについての情報を整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討論内容を整理する。	発表・討議	井村・塚本
10	当該国の母子保健や助産領域に関する戦略的プロジェクト② 事前学修：[60分] 当該国の母子保健や助産領域に関する戦略的プロジェクトについての情報を整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討論内容を整理する。	発表・討議	井村・塚本
11	日本の母子保健の現状① 事前学修：[60分] 日本の母子保健の現状についての情報を整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討論内容を整理する。	GW	井村・塚本
12	日本の母子保健の現状② 事前学修：[60分] 日本の母子保健の現状についての情報を整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討論内容を整理する。	発表・討議	井村・塚本
13	日本の母子保健の現状③ 事前学修：[60分] 日本の母子保健の現状についての情報を整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討論内容を整理する。	発表・討議	井村・塚本
14	日本の母子保健の現状④ 事前学修：[60分] 日本の母子保健の現状についての情報を整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討論内容を整理する。	発表・討議	井村・塚本
15	英語によるプレゼンテーション発表 まとめ 事前学修：[30分] ワークシート 2 を作成する。 事後学修：[60分] 討論内容を整理し、自己の課題を明確化する。	討議	井村・塚本

■ 教科書

WHO (2008). Education material for teachers of midwifery

Midwifery education modules - second edition

Foundation module the midwife in the community.

*上記 module は、PDF 形式でネットより入手可能です。

■ 参考書、参考資料等

厚生統計協会(2019). 国民衛生の動向 2019/2020.

日本国際保健医療学会編(2013). 国際保健医療学 第3版. 杏林書院.

The State of World's Midwifery (世界助産白書 2014). 左記はネットより入手可能です。

■ フィードバックの仕方

授業プレゼンテーションのフィードバックを授業時に行う。

■ 他の授業科目との関連

国際保健助産学実習の履修要件となっています。

また、本科目では国際保健助産論 I での内容を、より発展させ、実践的な内容を含みます。

■ 成績評価の仕方

1. ゼミへの参加度 50% 2. ゼミ資料・発表内容 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日 12:30 - 12:50 井村(418 研究室)、塚本(423 研究室)

■ 受講上の注意事項

開発途上国の母子保健を主要テーマとしているので、世界のニュースを注視し、特に健康と社会構造との関係に関心を持って下さい。

■ その他

HNIH101

国際保健助産演習Ⅱ

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○井村 真澄、塚本 恵弥

■ 授業の目的

日本とは異なる国や地域の保健医療・助産領域の課題および問題を判別し、改善に向けた戦略を考案し、国際保健助産活動のあり方を追求する。

■ 到達目標

1. 当該国の保健医療の実際および助産領域の現状を説明できる。
2. 現状把握に基づき母子保健の改善に向けた戦略を考案し説明できる。
3. 現状把握と分析・改善策立案の一連の過程を記述し、公表できる。

■ 学習の進め方

「AL」

1. グループワークによる実習報告会プレゼンテーション資料の作成：

国際保健助産実習における学びを整理し、15～20 分程度の日本語のプレゼンテーション資料を作成する。報告会練習を通してプレゼンテーション内容と方法を見直す。

2. 実習報告会の開催：

実習報告会の開催をリーフレットで学内に告知し、会場を準備し、実習報告会を開催する。

3. グループワークによる実習報告書の作成・印刷・配布：

国際保健助産演習Ⅰや国際保健助産実習における学びを実習報告会を通して再度整理し、実習報告書を作成、編集、校正、印刷、製本、配布を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コースオリエンテーション 当該国における母子保健活動・助産活動の情報整理 事前学修：[30 分] ワークシート 3 を作成する。 事後学修：[60 分] 討議内容を要約し、実習報告会で発表する内容を明確化する。	発表、討議	井村・塚本
2	実習報告会準備 事前学修：[30 分] 自身の発表箇所に関する情報を整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60 分] 討議内容に基づき、発表資料の追加・修正をする。	発表、討議	井村・塚本
3	実習報告会発表の実施、討議 事前学修：[30 分] 発表内容に関する質疑応答の準備をし、ノートにまとめる。 事後学修：[60 分] 発表や質疑応答に基づき、自己の課題を明確化する。	発表、討議	井村・塚本
4	当該国における母子保健活動・助産活動の展望と課題の整理① 事前学修：[30 分] 当該国における母子保健活動・助産活動の実際について整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60 分] 討議内容を振り返り、報告書に含める内容について吟味する。	GW、討議	井村・塚本
5	当該国における母子保健活動・助産活動の展望と課題の整理② 事前学修：[30 分] 当該国における母子保健活動・助産活動の展望と課題について整理し、ノートにまとめる。 事後学修：[60 分] 討議内容を振り返り、報告書に含める内容について吟味する。	GW、討議	井村・塚本
6	報告書編集方針の決定 事前学修：[30 分] 報告書に含める項目について整理し、まとめる。 事後学修：[60 分] 討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を整理する。	GW、討議	井村・塚本
7	実習報告書作成：当該国の地理、気候、人口、民族、言語 事前学修：[30 分] 前回の討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を追加・修正し、ノートにまとめる。 事後学修：[60 分] 討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を整理する。	GW	井村・塚本
8	実習報告書作成：当該国の宗教、歴史、政治、経済、労働 事前学修：[30 分] 前回の討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を追加・修正し、ノートにまとめる。 事後学修：[60 分] 討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を整理する。	GW	井村・塚本

No	内容	形式	教員
9	実習報告書作成：当該国の産業、教育、保健医療制度、保健医療機関、母子保健 事前学修：[30分] 前回の討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を追加・修正し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を整理する。	GW	井村・塚本
10	実習報告書作成：訪問施設 AB の概要と学び 事前学修：[30分] 前回の討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を追加・修正し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を整理する。	GW	井村・塚本
11	実習報告書作成：訪問施設 CD の概要と学び 事前学修：[30分] 前回の討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を追加・修正し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を整理する。	GW	井村・塚本
12	実習報告書作成：訪問施設 EF の概要と学び 事前学修：[30分] 前回の討議内容を振り返り、自身の担当箇所の情報を追加・修正し、ノートにまとめる。 事後学修：[60分] 最終原稿の誤字・脱字を確認する。	GW	井村・塚本
13	実習報告書作成：実習全体の考察 事前学修：[30分] 最終原稿の誤字・脱字を確認し、追加・修正箇所をノートにまとめる。 事後学修：[60分] 最終原稿を読み返す。	GW、討議	井村・塚本
14	実習報告書作成：今後の課題 事前学修：[30分] 最終原稿の誤字・脱字を確認し、追加・修正箇所をノートにまとめる。 事後学修：[60分] 完成した報告書を読み返す。	GW、討議	井村・塚本
15	まとめ 事前学修：[30分] ワークシート 4 を作成する。 事後学修：[60分] 討議内容を踏まえ、自己の課題を整理する。	討議	井村・塚本

■ 教科書

適宜資料を提示します。

■ 参考書、参考資料等

厚生統計協会(2019). 国民衛生の動向 2019/2020.

日本国際保健医療学会編(2013). 国際保健医療学 第3版. 杏林書院.

■ フィードバックの仕方

ワークシート提出毎にコメントを記載し、返却する。実習報告会のフィードバックは報告会の次の授業時に行う。

■ 他の授業科目との関連

国際保健助産実習を履修した方は、同年度の国際保健助産演習Ⅱの履修を要します。

■ 成績評価の仕方

1. 授業・ゼミへの参加 30% 2. 実習報告会の内容 50% 3. 報告書 20%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日 12:30 - 12:50 井村(418 研究室)、塚本(423 研究室)

■ その他

HNIH152

国際保健助産実習

単位：3 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：通年

○井村 真澄、塚本 恵弥

■ 授業の目的

国際保健助産分野の講義および演習を通して得た知識を基に、国際的な助産活動の実際を学ぶ。
日本とは異なる国や地域の保健医療施設、教育機関での研究や見学を通して、多様な助産活動の実際に分れる。
自己の課題を明確化し、将来の国際保健助産活動の方向性を探求する。

■ 到達目標

1. 当該国の母子保健・看護・助産活動の現状を記述できる。
2. 当該国の保健医療制度と母子保健政策の現状を記述できる。
3. 当該国の助産・看護教育の現状と看護職者の考え方を考察し述べられる。
4. 当該国の文化的背景における女性と子どもとその家族の健康の現状と取り巻く環境を考察し述べられる。
5. 実習体験から考えたことを表現し、当該国の人々と積極的に交流できる。
6. 実習経験を統合して、当該国における保健・医療・教育に関する今後の課題について考察し記述できる。

■ 学習の進め方

<カンボジアで展開する study-tour の例>

1. カンボジア赤十字社表敬訪問：
カンボジア赤十字社の概要と活動に関する説明を受け、質疑応答により、理解を深める。
2. 開発協力事業に関する study-tour（視察と研修）
当該国における開発事業の概要に関する説明を受ける。また、母子保健、助産、看護、教育や政策に関連したプロジェクトに関する説明を受ける。
実際にプロジェクトが展開された施設を視察し、現地の助産師や看護職者、看護管理者、開発協力事業関係者から現状に関する説明を受ける。
質疑応答を通して学びを深める。
3. 国立母子保健センター、州立/市立病院、ヘルスセンターの視察：
当該国におけるリファレラルシステムの現状を視察し、医療従事者、管理者、利用者、地域住民と交流を図り、現状を理解する。
4. 教育機関の視察：
当該国における保健医療の教育機関を視察する。
当該国の学生や教員と交流し、意見交換をすることで見識を深める。
機会があれば、日本で作成した資料を用いて日本の概要についてプレゼンテーションを行う。
5. Report & Feedback of study by student の企画・実施：
現地にて交流を図った方々を招いて報告会を企画する。実習の学びを各学生が発表し討議を行う。
また、日本に関するプレゼンテーションや日本文化の紹介を通して、互いに文化的交流を深める機会を得る。
6. 実習体験を総括し考察を深めたレポートの提出：
実習を振り返り、テーマを設定し、文献を用いて論理的に記述することで、実習体験に関する考察を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

- 4 月：実習ガイダンス(国際保健助産演習Ⅰの授業内)
5 月：参加希望聴取
6～8 月：旅程・訪問施設の確定
9 月：実習オリエンテーション、実習前準備
9 月中旬～2 週間の予定：渡航、実習、帰国、体調管理
10 月初旬：レポート提出

■ 教科書

国際保健助産演習Ⅰにおいて作成した資料

■ 参考書、参考資料等

現地ですぐ必要となる情報が掲載されている資料を各自で準備してください。

■ フィードバックの仕方

実習中、日々のカンファレンスの中で口頭でフィードバックを行う。日々のワークシートにコメントを記載し、返却します。

■ 他の授業科目との関連

国際保健助産実習へ参加する場合には、国際保健助産演習Ⅰ・Ⅱの履修を要します。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 70 %
2. レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習期間中①毎日、② 17：00 - 18：00、③塚本(現地の滞在部屋)

■ 受講上の注意事項

現地の日本大使館のホームページ等から最新情報を得て、当該国で発生している事象、安全に過ごすための注意事項について各自理解してから渡航してください。開発途上国等、国外での看護活動の経験者を歓迎します。
年度の調整によっては、実習計画が変更される可能性があります。

■ その他

HNIH180

リプロダクティブ・ヘルスケア演習Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○井村 真澄、新田 真弓、齋藤 英子、東 園子、加藤 千穂

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における母子や女性・家族への性と生殖に関する健康支援に向けて、自己の研究テーマや実践課題を明らかにする。国際保健助産学領域における実践を深めるために必要な研究的視点や倫理的課題を明確にし、研究計画書を作成し精錬する。

■ 到達目標

1. 研究の各ステップ、論文作成ステップについて理解し、説明、記述できる。
2. 自己の課題、研究テーマに関する文献検討を通じて、その学術的、実践的背景を説明、記述できる。
3. 自己の研究課題、テーマ、目的を明確に説明、記述できる。
4. 自己の研究目的に即した研究方法について検討し、研究計画書を立案できる。

■ 学習の進め方

「AL」

〈前期〉

1. 研究概論および研究方法論(概論)は全体講義、研究方法論(各論)は演習・講義とする。
2. 文献検討の目的・方法は全体講義に続き演習とし、提出した文献検討レポートについてグループで評価・フィードバックを受け、修正する。
3. 研究テーマのしぼり込み(文献検討を踏まえた研究の意義の確認、仮の研究目的の設定まで)はグループでの個別発表および全体発表・討議を行なう。

〈後期〉

4. 全体/小グループでの討議を通じて、研究目的・研究方法を検討し、研究計画書を作成・洗練させる。
5. 各自資料を準備して発表し、グループ討議を通して学びを深める。
6. 中間報告会・領域内報告会で研究計画を発表し討議を行い、修正・洗練させる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コースオリエンテーション・「研究上の関心」発表 事前学修：[30分] 所定の用紙を用いて「研究上の関心」についてまとめ・印刷する 事後学修：[30分] 発表時の意見交換を参考に自己の研究上の関心を再考する。	発表・討議	全員
2	研究の概念・基本的ステップ、研究テーマのしぼり込み、研究方法論：概論 事前学修：[30分] 研究の概念、基本ステップについて参考資料を読みまとめる。 事後学修：[30分] 講義内容を振り返り自己の研究課題に関連づけて考える。	講義	井村
3	研究公正・Academic Writing・引用方法 事前学修：[30分] 日本学術振興会「科学の健全な発展のために—誠実な科学者の心得—」pp.9-14, pp.49-42 を読み重要箇所へ線を引く 事後学修：[30分] 文部科学省「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」を web から探して保存・読む	演習・GW	齋藤
4	「網羅的に文献検討をして、文献管理ソフトで引用文献リストを作成してみよう」 事前学修：[60分] 図書館で開催した和・英論文検索方法、文献管理ソフトのワークショップ資料を再読し持参する。図書館の my library・レフワークスの登録を完了する。 事後学修：[30分] 興味のあるテーマ・キーワードで文献を網羅的に検索してログを残す	演習・GW	齋藤
5	論文クリティーク・文献検索・論文スタイル 事前学修：[30分] 本学の論文執筆要綱をホームページから入手して読み重要箇所へ下線を引いておく 事後学修：[60分] 読んでいる論文の1つをシートを使ってクリティークしてみる。	演習・GW	齋藤
6	研究方法論：質的研究 事前学修：[30分] 質的研究に関する参考資料を探して読みまとめる。 事後学修：[60分] 講義内容を振り返り、質的研究の特徴をまとめる。	講義・GW	新田
7	「質的研究のクリティークをしてみよう」 事前学修：[60分] 各自で事前配布された論文のクリティークを行う。 事後学修：[60分] 意見交換した内容をもとに自己のクリティークした内容を振り返り、修正する。	GW・発表・討議	新田・齋藤・東・加藤

No	内容	形式	教員
8	フィールド実習報告 事前学修：[30分] フィールドワークにおける学びと現時点での研究疑問を記述する。 事後学修：[60分] 発表時の意見交換を参考に研究疑問を再考する。	フィールドワーク・発表・討議	全員
9	研究方法論：量的研究 事前学修：[30分] SPSSの基本操作に関する本を探して読みまとめる。 事後学修：[60分] 分析方法や結果について学んだことや要点を整理しておく。	演習・GW	齋藤
10	「量的研究のクリティークをしてみよう」 事前学修：[60分] 各自で事前配布された論文のクリティークを行う。 事後学修：[60分] 意見交換した内容をもとに自己のクリティークした内容を振り返り、修正する。	GW・発表・討議	齋藤・新田・東・加藤
11	文献検討レポート グループ内発表 事前学修：[120分] Academic Writingのルールに則り、文献検討レポートを作成する。 事後学修：[60分] グループ内意見交換を参考にレポートを修正する。	発表・討議	新田・齋藤・東・加藤
12	文献レポート グループ内発表 事前学修：[60分] 文献検討・テーマの絞り込みを進め、進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 文献検討・テーマの絞り込みを進める	発表・討議	新田・齋藤・東・加藤
13	論文クリティーク 量的研究 事前学修：[90分] 担当者は前週に関心領域の該当論文を提示。研究方法を調べながら精読・クリティークを行い資料を作成する。参加者も意見できるように授業までに論文を読み解いておく。 事後学修：[60分] 文献検討・テーマの絞り込みを進める	GW・発表・討議	新田・齋藤・東・加藤
14	論文クリティーク 質的研究 事前学修：[60分] 13回と同様。 事後学修：[60分] 文献検討・テーマの絞り込みを進める	GW・発表・討議	新田・齋藤・東・加藤
15	進捗発表会・文権レポート最終版の提出 事前学修：[120分] A4用紙2枚で進捗報告書を作成する。文献レポートの最終版を提出する。 事後学修：[30分] 後期に向けた課題を記述し、文献を整理しておく	発表・討議	新田・齋藤・東・加藤
16	後期オリエンテーション、進捗報告、研究課題ゼミ希望調査 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
17	文献検討・進捗報告 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
18	文献検討・進捗報告 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
19	中間報告会に向けた研究計画書 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
20	中間報告会に向けた研究計画書 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
21	中間報告会に向けた研究計画書 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
22	中間報告会に向けた研究計画書 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
23	中間報告会に向けた研究計画書 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員

No	内容	形式	教員
24	中間報告会に向けた研究計画書 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
25	中間報告会の振り返り・今後の進め方相談 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
26	領域内報告会に向けた研究計画書 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
27	領域内報告会に向けた研究計画書 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
28	領域内報告会に向けた研究計画書 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
29	領域内研究計画報告会 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員
30	領域内研究計画報告会の振り返り、倫理審査に向けた研究計画書・今後の進め方相談 事前学修：[60分] 進捗報告資料を作成する 事後学修：[60分] 研究計画書作成を進める	発表・討議	全員

■ 教科書

操華子、松本直子著、臨床看護研究の道しるべ、第1版、日本看護協会出版会、2006

■ 参考書、参考資料等

中谷安男著、大学生のためのアカデミック英文ライティング、大修館書店、2016

アメリカ心理学会(APA)著、江藤裕之、前田樹海、田中建彦、APA論文作成マニュアル、第2版、医学書院、2011

対馬 栄輝著、SPSSで学ぶ医療系データ解析、第2版、東京図書、2016

■ フィードバックの仕方

文献レポートのフィードバックは、第11回・第16回の授業時にコメントと採点結果を付したレポートの返却を通じて行う。

■ 他の授業科目との関連

2年次以降に開講されるリプロダクティブ・ヘルス演習Ⅱとリプロダクティブ・ヘルス実習Ⅱを進めるために必要です。

■ 成績評価の仕方

1.GWや学習への取り組み 30%、2.発表内容・発表資料の適切性や論理性 70%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30 - 12:50。井村(418研究室)、新田(451研究室)、齋藤(417研究室)、東(430研究室)、加藤(433研究室)

■ 受講上の注意事項

情報処理室で行うことがあります。ガイダンス期間や4月に図書館で開催される和・英論文検索方法、文献管理ソフトのワークショップへ必ず出席すること。第4回の授業までに図書館webのマイライブラリー登録・レフワークスの登録を済ませておくこと。

■ その他

HNIH181

リプロダクティブ・ヘルスケア演習Ⅱ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、加藤 千穂

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における母子や女性・家族への性と生殖に関する健康支援に向けて、自己の研究テーマに基づいた研究計画を推進し、データ収集、分析、結果に対する考察を深めて課題研究を作成する。そのプロセスを通して、専門家として高度な知識、技術、倫理的態度を修得する。

■ 到達目標

1. 倫理的配慮のある研究計画書を作成し、倫理審査委員会の承認を得て研究を実施できる。
2. データ収集にて得られたデータの分析を行うことができる。
3. データ分析の結果を多角的に深く考察して説明、記述できる。
4. 規定に則った課題研究を期日までに完成させることができる。
5. 研究プロセスを通して得られた成果、今後の課題と活動展開について説明、記述できる。

■ 学習の進め方

「AL」

ゼミ形式を主とし、学生自身が資料準備、発表した内容に基づいて討議する。

授業前には、学生の研究実施の進度に応じて、ゼミ資料を作成する。作成する資料の内容は、研究計画書の洗練、研究倫理審査申請の関連資料の作成と申請・承認、研究実施上の課題の明確化、研究フィールドへの依頼・調整、データ収集のための準備、データ収集の実施、データのまとめ、データの分析、結果の作成、考察の検討などである。演習後は、ゼミでの検討内容を参考に研究を進め、次回ゼミで検討したい内容を整理し、資料を作成する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[120分] 計画書を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	討議・GW	全員
2	倫理審査に向けた研究計画書 事前学修：[120分] 計画書を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
3	倫理審査に向けた研究計画書 事前学修：[120分] 計画書を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
4	倫理審査に向けた研究計画書 事前学修：[120分] 計画書を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
5	計画実施上の課題の明確化 事前学修：[120分] 計画書を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
6	計画実施上の課題の明確化 事前学修：[120分] 計画書を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
7	計画実施上の課題の明確化 事前学修：[120分] 計画書を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
8	倫理審査結果の検討 事前学修：[120分] 倫理審査をもとに修正計画を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
9	倫理審査結果の検討 事前学修：[120分] 倫理審査をもとに修正計画を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員

No	内容	形式	教員
10	倫理審査結果の検討 事前学修：[120分] 倫理審査をもとに修正計画を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
11	倫理審査結果の検討 事前学修：[120分] 倫理審査をもとに修正計画を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
12	データ収集の準備 事前学修：[120分] データ収集計画について発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
13	データ収集の準備 事前学修：[120分] データ収集計画について発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
14	データ収集の準備 事前学修：[120分] データ収集計画について発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
15	前期のまとめ 事前学修：[120分] 前期の進捗をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	討議・GW	全員
16	後期オリエンテーション 事前学修：[120分] 後期の進め方をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	討議・GW	全員
17	データの分析と検討 事前学修：[120分] 分析結果をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
18	データの分析と検討 事前学修：[120分] 分析結果をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
19	データの分析と検討 事前学修：[120分] 分析結果をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
20	データの分析と検討 事前学修：[120分] 分析結果をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
21	結果の考察と検討 事前学修：[120分] 結果と考察をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
22	結果の考察と検討 事前学修：[120分] 結果と考察をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
23	結果の考察と検討 事前学修：[120分] 結果と考察をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
24	結果の考察と検討 事前学修：[120分] 結果と考察をまとめて発表資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
25	課題研究論文作成 事前学修：[120分] 全体を推敲し提出論文をまとめる 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
26	課題研究論文作成 事前学修：[120分] 全体を推敲し提出論文をまとめる 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員

No	内容	形式	教員
27	課題研究論文発表準備 事前学修：[120分] 論文発表会の発表資料をまとめる 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
28	課題研究論文発表準備 事前学修：[120分] 論文発表会の発表資料をまとめる 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
29	課題研究論文発表・審査会の振り返り・今後の進め方相談 事前学修：[120分] 論文発表会・審査会の結果をふまえて修正資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	発表・討議・GW	全員
30	後期のまとめ 事前学修：[120分] 最終論文提出にむけて資料を作成する 事後学修：[120分] 討議を振り返り、次回までの課題を整理する	討議・GW	全員

■ 教科書

特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

参考文献は授業中に適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

フィードバックは、随時ゼミで行う。

■ 他の授業科目との関連

RH 演習Ⅱは、RH 演習Ⅰと RH 実習Ⅰの学習内容の理解に基づき、より発展的な内容を扱う

■ 成績評価の仕方

1. 学習への取り組み 30 %、2. 発表資料・内容・発表 70 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30 - 12:50。井村(418 研究室)、齋藤(417 研究室)、新田(451 研究室)、東(430 研究室)

■ その他

HNIH280

リプロダクティブ・ヘルスケア実習Ⅰ

単位：3単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、加藤 千穂

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における母子や女性・家族への性と生殖に関する健康支援の実際を通して、ケアのあり方を探求するとともに、課題を探求し、自己のテーマを明確にする。

■ 到達目標

1. 自己の課題と研究テーマを明確化し、説明、記述できる。
2. 研究目的・関心領域に沿った実習計画書を作成できる。
3. 実習現場において、指導者に「報告・連絡・相談」を行うことができ、対象者はじめ周囲の人々に倫理的態度で接することができる。
4. 実習成果および自己の課題を明確に説明、記述することができる。

■ 学習の進め方

「AL」

リプロダクティブ・ヘルス実習Ⅰでは、各学生の研究テーマに基づき、討議・臨地実習を通じて、研究課題の明確化を図る。

前期では、各自関心があるフィールドを選択し、課題を持って臨地実習を行う。実習後に、実習成果の発表資料を作成し、グループ討議を行うことで、各自の研究課題の明確化を進める。

後期は、研究課題をより洗練させるため、各自発表資料を作成し討議を行う。加えて、助産師の専門外来である助産外来ので臨地実習を行い、学びを発表し討議することで助産師のケアのあり方を探求する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習時期：1年次 5月・12～1月

実習場所：各学生の研究テーマに基づき、決定する。

4月： 事前学習、事前課題提出 [発表・討議]

5月： 実習場所の決定、見学を主とした倫理規範に準拠した実習の実施 [実習]

6月： 実習成果の振り返りと自己の課題の明確化 [発表・討議]

10月： 事前学習、大学内オリエンテーション、事前課題提出 [発表・討議]

12～1月：施設内オリエンテーション、助産師外来実習の実施 [実習]

1月： 実習成果の振り返りと自己の課題の明確化 [発表・討議]

■ 教科書

関連領域の文献を検索して収集すること。

■ 参考書、参考資料等

実習の進行状況に即して適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

授業の時間内に、コメントを伝える。または、コメントを付したレポートを返却する。

■ 他の授業科目との関連

リプロダクティブ・ヘルスケア演習Ⅰを履修中であること。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取りくみ 50 %、2. 発表内容 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習前週および実習中の金曜日 12：30～12：50。井村(418 研究室)、齋藤(417 研究室)、新田(451 研究室)、東(430 研究室)、加藤(433 研究室)、新講師(〇〇研究室)

■ その他

HNIH182

リプロダクティブ・ヘルスケア実習Ⅱ

単位：3単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、加藤 千穂

■ 授業の目的

国際保健助産学領域における母子や女性・家族への性と生殖に関する健康支援に向けて、自らの目的・目標に基づいて母子や女性・家族のヘルスアセスメントを行い、具体的な援助を展開する。この実践を通して、専門職として女性各期の健康問題への支援、業務管理、他職種や組織との連携、リーダー的役割や援助能力等を追及する。

■ 到達目標

1. 自己の目的・関心領域の実習計画書、実習依頼書、倫理審査書類等の必要書類を期日までに作成できる。
2. 実習計画書に基づき、実習施設に依頼・調整できる。
3. 実習計画書に基づき、安全で倫理的に実習できる。
4. 実習成果を明確にし、得られた結果への考察を深めて説明、記述できる。
5. 自己の課題を明確に説明、記述できる。

■ 学習の進め方

「AL」

学生自身が計画した内容に基づいて実習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習計画に即して展開する。

1. 自己の目的・関心領域の実習計画書作成 [発表・討議]
2. 実習施設への実習依頼書作成 [発表・討議]
3. 実習施設の実習に関する倫理審査準備 [発表・討議]
4. 倫理審査に準拠し実習方法の選択 [発表・討議]
5. 実習(期間は研究計画に準ずる) [実習]
6. 実習成果と自己課題との討議① [発表・討議]
7. 実習成果と自己課題との討議② [発表・討議]
8. ウイメンズ・ヘルス、リプロダクティブヘルス・助産領域でのケアの現状と課題 [発表・討議]
9. ウイメンズ・ヘルス、リプロダクティブヘルス・助産領域のケアの質向上の討議 [発表・討議]
10. まとめ [発表・討議]

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書、参考資料等

実習の進行状況に即して適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

授業の時間内に、コメントを伝える。または、コメントを付したレポートを返却する。

■ 他の授業科目との関連

リプロダクティブ・ヘルス実習Ⅱは、リプロダクティブ・ヘルス演習Ⅰとリプロダクティブ・ヘルス実習Ⅰの学習内容の理解に基づき、より発展的な内容を扱う

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取組み 30 %、2. 実習報告の内容 70 %

■ オフィスアワー・研究室等

実習前週および実習中の金曜日 12:30 - 12:50。また実習中は適宜対応する。

井村(418 研究室)、齋藤(417 研究室)、新田(451 研究室)

■ その他

HNIH281

赤十字概論Ⅱ(国際人道法含)

単位：2単位 履修年次：1・2年次 開講期：前期

○角田 敦彦

■ 授業の目的

国際赤十字・赤新月運動の歴史、活動、理念の学びを通して人間として、また人道を実現する医療人に相応しい人間的資質を養う。

■ 到達目標

- ・ 国際赤十字・赤新月運動(日本赤十字社を含む)の歴史、理念、活動について理解し、説明できる。
- ・ 赤十字と国際人道法の基本原則、赤十字標章の正しい使い方等について理解し説明できる。
- ・ 人道と人権の概念の理解し、看護等の場で人間を尊重した行動を実践できる。
- ・ 学習した内容を元に他者に赤十字の概要を説明できる。

■ 学習の進め方

- ・ PPT スライド等の教材を使用したオンデマンドの講義を中心に進めます。
- ・ 資料閲覧のほか、フォーラム機能を使った意見交換を交えて展開します。積極的な発言を期待します。
- ・ 発言は受講者全員で共有し、これに対するコメントや発展的な質問など歓迎します。
- ・ 必要に応じて教員からコメントしていきます。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自宅学習課題 事前学修：(Youtube など)インターネット上に公開されている、赤十字の歴史・活動に関する動画を3本以上閲覧し、関心を持ったトピックについて初回の対面授業で発表できるよう準備す。(発表の形式は A4 用紙に閲覧した動画のタイトル、URL、内容を簡潔にまとめ、感想や今後深めたい内容について記述し提示する)	自宅学習	角田
2	自宅学習課題 事前学修：(Youtube など)インターネット上に公開されている、赤十字の歴史・活動に関する動画を3本以上閲覧し、関心を持ったトピックについて初回の対面授業で発表できるよう準備す。(発表の形式は A4 用紙に閲覧した動画のタイトル、URL、内容を簡潔にまとめ、感想や今後深めたい内容について記述し提示する)	自宅学習	角田
3	自宅学習課題 事前学修：(Youtube など)インターネット上に公開されている、赤十字の歴史・活動に関する動画を3本以上閲覧し、関心を持ったトピックについて初回の対面授業で発表できるよう準備す。(発表の形式は A4 用紙に閲覧した動画のタイトル、URL、内容を簡潔にまとめ、感想や今後深めたい内容について記述し提示する)	自宅学習	角田
4	19世紀の社会と思想・アンリ・デュナンと赤十字の創設 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
5	佐野常民と日本赤十字社の創立 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
6	ICRC、赤十字社連盟、各国赤十字社 赤十字国際会議 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
7	日本赤十字社の組織と活動 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
8	赤十字運動の原則と人道支援 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
9	赤十字運動の基本原則の適用とその実際 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田

No	内容	形式	教員
10	国際人道法の基礎知識：戦争の歴史と国際人道法 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
11	現代の武力紛争と国際人道法 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
12	赤十字標章の意味と適正使用の方法 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
13	国際人道法の履行確保 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
14	世界の人道支援機関とその行動規範 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田
15	グローバル世界と赤十字(まとめ) 事前学修：[30分] Glexa 上のスライドで学修する。 事後学修：[30分] 講義内容に関するコメント・質問を書き込む。	オンデマンド	角田

■ 教科書

講義資料は Glexa に掲載しています。ダウンロードしたり、各自が必要に応じてプリントアウトするなどして授業に取り組んでください。

■ 参考書、参考資料等

①アンリー・デュナン／(訳)木内利三郎、第5版、「ソルフェリーノの思い出」、日本出版普及会、1994年 ②その他、日本赤十字社、ICRC の刊行物、ウェブサイトなど。

■ フィードバックの仕方

レポートの返却は、採点后 7 日目以降 21 日以内に Glexa 上で行う。返却の具体的な日時等はポータルで周知する。

■ 他の授業科目との関連

災害看護学特講 IV、V の基礎的な学習の一部となります。

■ 成績評価の仕方

①授業への取組み 30% ②試験又は課題レポートの提出 70%

■ オフィスアワー・研究室等

開講期間中の①水曜日 ② 12:30~13:00 ③ 410 研究室

■ 受講上の注意事項

授業で使用する PPT は著作権上、この授業に限っての利用とします。

ダウンロードは可能ですが、二次使用等不特定な対象への配布は厳に禁止します。

■ その他

HMCS102 / HNCS100

看護研究特講

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○佐々木 幾美、本庄 恵子、江本 リナ

■ 授業の目的

基本的な研究方法とその研究プロセスを学習し、同時に研究者の責任(マナー)や倫理的配慮について理解する。また国内外の研究論文を研究方法の妥当性・信頼性から評価する能力を養う。研究方法概論を論じた後、基本的研究方法を質的研究方法と量的研究方法に分け、それぞれにその特徴とプロセスを学習する。学習した基本的研究方法の妥当性・信頼性の見地から、各自が収集した文献をクリティークすることを試みる。

■ 到達目標

1. 基本的な研究方法と研究プロセスが説明できる。
2. 研究者の責任や倫理的配慮について説明できる。
3. 文献のクリティークの方法について説明できる。

■ 学習の進め方

AL

発表および討論を中心に行う。演習を取り入れることもある。

2020年度は COVID-19 による影響のため同時双方向型の Teams を用いて授業を行う。

事前学習：事前に提示する文献を精読し、授業に参加してください。

事後学習：指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについて、確認する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	授業概要(質的・量的研究)授業課題(研究倫理、質的・量的研究論文クリティーク)	講義・討論	佐々木、本庄、江本
2	研究方法概論：帰納的・演繹的研究、概念・モデル・理論・法則、研究方法の種類と研究計画	講義・討論	佐々木、本庄、江本
3	研究倫理	講義・討論	佐々木、本庄、江本
4	量的研究方法：研究デザイン(関連検証、因果関係検証、実態調査・因子探索、測定用具の開発)	講義・討論	本庄、佐々木、江本
5	量的研究方法：実験研究法、実験以外の因果関係検証方法、実験のプロセス)	講義・討論	本庄、佐々木、江本
6	量的研究方法：調査研究法、調査のプロセス	講義・討論	本庄、佐々木、江本
7	量的研究方法：量的研究における文献クリティークの方法	講義・演習	本庄、佐々木、江本
8	量的研究方法：量的研究文献クリティーク	演習・発表	本庄、佐々木、江本
9	修士論文の書き方、論文構成	講義・討論	佐々木、本庄、江本
10	質的研究方法：エスノグラフィー、民族看護学	講義・討論	江本、佐々木、本庄
11	質的研究方法：象徴的相互作用論およびグラウンデッド・セオリー・アプローチ	講義・討論	江本、佐々木、本庄
12	質的研究方法：存在論、現象学的アプローチ、解釈学的方法論	講義・討論	江本、佐々木、本庄
13	質的研究方法：アクション・リサーチ、質的研究のクリティーク方法と実際	講義・演習	江本、佐々木、本庄
14	質的研究方法：質的研究のクリティーク	演習・発表	江本、佐々木、本庄
15	まとめ	討論	佐々木、本庄、江本

■教科書

指定しない

■参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

■フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■他の授業科目との関連

特別研究の基盤となる科目です。

■成績評価の仕方

1. プレゼンテーションおよびディスカッションへの参加度 50% 2. レポート 50%

■オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問、相談を受け付ける。それ以外には、メールにて随時、質問、相談を受け付ける。

メールアドレス：i-sasaki@redcross.ac.jp（佐々木） honjo@redcross.ac.jp（本庄） emoto@redcross.ac.jp（江本）

■受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

国際保健助産学専攻の学生も同時に受講する。

■その他

HMSA102 / HNCS101

人間総合講座

単位：2 単位 履修年次：1・2 年次 開講期：前期

○井上 明宏、遠藤 公久、川崎 修一、川崎 洋平、渋谷 真樹、角田 敦彦

■ 授業の目的

看護学は学際的な学問であり、看護専門教育の基盤としてリベラルアーツ(教養)の重要性が益々増している。本科目は、看護の対象となる人間を総合的に理解するとともに、さらに豊かな人間性を高めるために開講されるものである。今年度は「論理と感性」について様々な分野の視点から学ぶ。

■ 到達目標

論理的思考ができる。

各分野における論理と感性およびその特性について説明できる。

人間の営みを論理と感性の両面から考えることができる。

■ 学習の進め方

複数の担当教員が専門あるいは周辺の領域におけるトピックスを紹介しながら、講義するとともに、適宜演習あるいは討論を交える。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 生命科学研究における論理と感性－その1 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習 Glexa 上に課題 提出	井上明宏
2	生命科学研究における論理と感性－その2 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習 Glexa 上に課題 提出	井上明宏
3	心理学における論理と感性－その1 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習 Glexa 上で課題 レポートに取り 組み、提出する。	遠藤公久
4	心理学における論理と感性－その2 事前学修：事前課題を取り組み授業に参加する。 事後学修：配布資料について振り返り、次回の授業の準備をする。	オンデマンド型	遠藤公久
5	心理学における論理と感性－その3 事前学修：事前課題を取り組み授業に参加する。 事後学修：配布資料について振り返り課題を整理する。	オンデマンド型	遠藤公久
6	言語の論理と感性－その1 事前学修：配付プリントを読み、要点を A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：納得できた点・疑問が残る点を記述し、次回の授業で確認する。	同時双方向型	川崎修一
7	言語の論理と感性－その2 事前学修：配付プリントを読み、要点を A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：納得できた点・疑問が残る点を記述し、次回の授業で確認する。	同時双方向型	川崎修一
8	言語の論理と感性－その3 事前学修：配付プリントを読み、要点を A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：疑問が残る点を記述し、Glexa で担当教員に確認する。	同時双方向型	川崎修一
9	教育学における論理と感性－その1	オンデマンド型 Glexa 上の講義 資料を閲覧し、 指定の動画を視 聴した上で、課 題レポートに取り 組み、提出す る。	渋谷真樹

No	内容	形式	教員
10	教育学における論理と感性—その2	オンデマンド型 Glexa 上の講義資料を閲覧し、指定の動画を視聴した上で、課題レポートに取り組み、提出する。	渋谷真樹
11	教育学における論理と感性—その3	オンデマンド型 Glexa 上の講義資料を閲覧し、指定の動画を視聴した上で、課題レポートに取り組み、提出する。	渋谷真樹
12	共生社会と感性—その1	オンデマンド型 Glexa 上の講義資料を閲覧・学習し、講義内容に関する質問・コメントを提出する。	角田敦彦
13	共生社会と感性—その2	オンデマンド型 Glexa 上の講義資料を閲覧・学習し、講義内容に関する質問・コメントを提出する。	角田敦彦
14	データサイエンス(数学×統計学的思考)—その1	オンデマンド型 Glexa 上で課題レポートに取り組み、提出する。	川崎洋平
15	データサイエンス(数学×統計学的思考)—その2	オンデマンド型 Glexa 上で課題レポートに取り組み、提出する。	川崎洋平

■ 教科書

必要に応じて資料を配付する。

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

全授業回終了後に、トピックを1つ選んでレポートを執筆し、提出する。該当する担当教員の任意により、コメントを記載して返却する。

■ 他の授業科目との関連

他の授業科目との直接的な関連はない。

■ 成績評価の仕方

1. 4月在宅課題レポート 14% 2. 授業への取り組み 26% 3. 最終レポート 60%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:20~12:50 井上(409 研究室)、遠藤公久(405 研究室)、川崎修一(402 研究室)、角田(410 研究室)、渋谷(404 研究室)、川崎洋平(407 研究室)

■ 受講上の注意事項

看護学専攻と国際保健助産学専攻の学生が同時に受講する。

■ その他

HMCS101 / HNCS102

発達と家族の理論

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○江本 リナ

■ 授業の目的

子どもの成長・発達と生活環境を理解し、子どもと家族の相互作用や健康増進に不可欠な諸理論を探究する。さらに、時代の変化及び日本の文化の中でこれらの理論を応用する上での課題を探究する。

■ 到達目標

1. 子どもと家族の健康増進に関する諸理論について説明できる。
2. 諸理論と看護学との関係を説明することができる。
3. 関心領域に関連のある理論、概論、現象を分析し、課題を述べることができる。
4. 理論と既存の研究を用いて、子どもと家族への援助を考案することができる。

■ 学習の進め方

2020年度は COVID-19 による影響のため同時双方向型の Teams を用いて授業を行う。

1. 関連文献や資料に基づき、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める。資料は前日までに配布する。
2. 授業内容に沿った事柄をより深く学習できるよう、授業概要または配布資料に参考資料を記す。

【事前学習】 授業概要または配布資料に記した文献リストにある関連資料に目を通し、要旨をノートにまとめる。

【事後学習】 授業内容をもとに自身の専門領域の視点から考察し、A4用紙1枚にまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション／理論の説明	講義・討論	江本
2	発達理論(1)フロイト(自我)	発表・GW・討論	江本
3	発達理論(2)エリクソン	発表・GW・討論	江本
4	発達理論(3)ピアジェ	発表・GW・討論	江本
5	発達理論(4)ウィニコット	発表・GW・討論	江本
6	発達理論(5)ボウルビー	発表・GW・討論	江本
7	発達理論(6)総括	発表・GW・討論	江本
8	家族の理論(1)課題学習	演習	江本
9	家族の理論(2)総括	発表・GW・討論	江本
10	コーピングの理論	発表・GW・討論	江本
11	セルフケアの理論	発表・GW・討論	江本
12	ソーシャル・サポートの理論	発表・GW・討論	江本
13	子どもと家族をめぐる理論(1)課題学習	演習	江本
14	子どもと家族をめぐる理論(2)総括	発表・GW・討論	江本
15	子どもと家族をめぐる理論の応用と課題	発表・GW・討論	江本

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布し、随時授業で資料を配付する。

■ フィードバックの仕方

課題レポートはコメントを付し、後期開始後に返却する。

■ 他の授業科目との関連

この科目を基盤として、小児看護学特講Ⅱ～Ⅳ、小児看護学演習Ⅰ～Ⅲ、小児看護学実習Ⅰ～Ⅲが展開されます。

■ 成績評価の仕方

1. 自宅学習課題 25%
2. プレゼンテーション 25%
3. 課題レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～12:50 および 授業終了後 30分。

江本(419 研究室) emoto@redcross.ac.jp

■ その他
HNCS103

看護理論

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○川原 由佳里

■ 授業の目的

卓越した看護実践の基盤となる看護における諸理論について理解を深めるために必要な知識を教授する。

■ 到達目標

- 1) 看護理論の定義・構成要素・役割と機能を理解する。
- 2) 看護理論と研究・実践・教育・管理との関係について理解する。
- 3) 看護理論の歴史的変遷と各時代の代表的な理論家を知る。
- 4) 看護理論を理論構築の目的と評価基準に基づいて評価することができる。
- 5) 看護の知のパターン(経験知・倫理知・審美知・個人知・解放知)を理解する。
- 6) 以上の学習を通じて自らの実践を振り返ることができる。

■ 学習の進め方

講義では看護実践・理論・研究に影響を及ぼしてきた理論と思想の変遷を理解し、その存在論的、認識論的、方法論的前提を分析する。またそれらの実践事例への適用を試み、その批判的検討を通じて、臨床看護の実践、理論、研究の基礎となる看護の理論的基盤を模索する。

事前学習：関連文献を検索し、読解した内容と討論したい内容についてのプレゼンテーション資料を用意する。

事後学習：授業でのディスカッションの内容と学びを振り返る。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	川原
2	看護理論の構造と機能 前提(仮定)、概念、命題、仮説、理論、メタ理論、概念枠組み、理論枠組み、概念モデル、パラダイム、ドメイン、看護学、看護科学、学問、帰納、演繹、研究と理論の関係など	発表・討論	川原
3	看護理論の歴史的発展過程 米国の職業規制・職能団体・教育団体の発展、看護の高等教育化、高度実践看護師、医療・看護の質保証、マンパワー施策、准看問題など、看護学発展にかかわるテーマについて米国の場合を探求し、日本の場合と比較する。	発表・討論	川原
4	看護理論の記述・分析・評価 理論評価の方法(記述 description、分析 analysis、評価 critique)と評価基準(criteria: 明晰性 Clarity, 論理一貫性 Consistency, 単純/複雑性 Simplicity/Complexity, 同語反復/目的論 Tautology/Teleology, 適切性 Adequacy, 有用性 Usefulness, 有意味性 Significance, 識別可能性 Discrimination, 理論の範囲 Scope of Theory など)	発表・討論	川原
5	看護理論の抄読：人間関係をテーマとした看護理論 Peplau, Wiedenbach, Travelbee	発表・討論	川原
6	看護理論の評価：人間関係をテーマとした看護理論 Peplau, Wiedenbach, Travelbee	発表・討論	川原
7	看護理論の抄読：現象学的観点をもつ看護理論 Paterson & Zderad, Benner	発表・討論	川原
8	看護理論の評価：現象学的観点をもつ看護理論 Paterson & Zderad, Benner	発表・討論	川原
9	看護理論の抄読：癒しの思想に基づく看護理論 Watson, Dossey	発表・討論	川原
10	看護理論の評価：癒しの思想に基づく看護理論 Watson, Dossey	発表・討論	川原
11	看護における知のパターン：総論・個人知・審美知 Chinn & Kramer, 川原由佳里監訳、看護学の総合的な知の構築に向けて、エルゼビアジャパン, 2007	発表・討論	川原
12	看護における知のパターン：倫理知・解放知 Chinn & Kramer, 川原由佳里監訳、看護学の総合的な知の構築に向けて、エルゼビアジャパン, 2007	発表・討論	川原
13	知のパターンに基づく看護実践事例の検討	GW	川原
14	知のパターンに基づく看護実践事例の検討	GW	川原
15	発表・まとめ	発表・討論	川原

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

Chinn & Kramer, 川原由佳里監訳、看護学の総合的な知の構築に向けて、エルゼビアジャパン, 2007
筒井真優美編、看護理論家の業績と理論評価、医学書院, 2015
A.Meleis, Theoretical Nursing, 5th ed. Wolters Kluwer, Lippincott Williams & Wikins, 2012
Stevens, 中西訳、看護理論の理解のために、第 1、3、5 章
Walker & Avant 中木・川崎他、看護における理論構築の方法、医学書院、2008 年 第 1,2 章
中西睦子：看護領域の用語に関する研究、日本看護科学会誌 1987 年 8(1)2-17
バーンズ&グローブ 看護研究入門 第 2 章

■ フィードバックの仕方

レポートにコメントを付して返却します。

■ 他の授業科目との関連

CNS 共通科目に該当します。国際保健助産学専攻の方も受講できます。

■ 成績評価の仕方

課題レポート 70%、プレゼンテーション 30%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原研究室(447)

■ その他

HMSA150 / HNCS150

看護政策論

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○安部 陽子

■ 授業の目的

保健医療福祉を取り巻く環境の急激な変化，すなわち疾病構造の変化，少子高齢化，経済環境の変化，意識の多様化，国際化等の中にある看護政策について分析・提言を行い，看護師として政策過程に参画する方法とその実際について学ぶ。

■ 到達目標

- ・自己の体験と，現在看護を取り巻く政策・政治の状況を関連付けることができる
- ・日本における政策の変遷と政策決定過程および政治過程を説明することができる
- ・看護職が，政策過程へ参画することの意義を認めることができる

■ 学習の進め方

事前学習：履修者には「教科書」の欄にあるとおり，第 1 回目の授業で各授業の前に読んでくる資料のリストを提示する。履修者はその資料を読んで看護政策立案のための仕組みと過程を学習し，基本的な看護政策に関する知識を得る。また，授業中に提示された課題を行う。

授業中：テーマ別に発表を行い，それをもとにクラスで討議をする。具体的な手順については第 1 回の授業で説明する。

事後学習：授業中に提示された課題を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	看護をとりまく政策・政治の状況	講義・演習	安部
2	政策過程と政治過程	発表・討議	安部
3	看護職者と政策	発表・討議	安部
4	看護現場に影響を及ぼす法令・政策とその課題①保健師助産師看護師法	発表・討議	安部
5	看護現場に影響を及ぼす法令・政策とその課題②看護師等の人材確保に関する法律	発表・討議	安部
6	看護現場に影響を及ぼす法令・政策とその課題③診療報酬	発表・討議	安部
7	看護現場に影響を及ぼす法令・政策とその課題④看護職確保予算	発表・討議	安部
8	政策過程への参画の実際	発表・討議	安部
9	政策過程への参画の実際①看護技術教育の在り方	発表・討議	安部
10	政策過程への参画の実際②看護の経済的指標	発表・討議	安部
11	政策過程への参画計画立案	発表・討議	安部
12	参画事例の発表と討議①	発表・討議	安部
13	参画事例の発表と討議②	発表・討議	安部
14	参画事例の発表と討議③	発表・討議	安部
15	参画事例の発表と討議④	発表・討議	安部

■ 教科書

第 1 回目の授業で各授業の前に読んでくる資料のリストを提示する。

■ 参考書、参考資料等

なし

■ フィードバックの仕方

課題のフィードバックを授業中に行う。

■ 他の授業科目との関連

とくになし

■ 成績評価の仕方

1. 課題への取り組み 80 % 2. 討議の参加度 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が掲載された資料を配布する。

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HMSA153 / HNCS151

コンサルテーション論

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○古城門 靖子、小宮 敬子、鷹野 朋美、堀井 湖浪、赤沢 雪路、曾根原 純子、腰原 麻衣子、谷口 美穂

■ 授業の目的

看護および保健・医療・福祉の場で、ケアを提供する専門職者が直面するさまざまな問題を解決するための具体的援助方法としてのコンサルテーションの理論と方法を学ぶ。

■ 到達目標

1. コンサルテーションの基本的な方法と原則について説明することができる。
2. コンサルタント-コンサルティークライアントの関係の中で起こるさまざまな現象について理論的に説明することができる。
3. コンサルテーションを通じて、コンサルティの力を伸ばす援助ができる。
4. 看護・医療・保健・福祉の場における困難事例について、そのダイナミクスを精神力動理論およびシステム論の視点から分析することができる。

■ 学習の進め方

毎回、コンサルテーションの対象・課題・方法について文献や事例を提示するので、その場でそれに関連した自らの体験事例を提供し多面的に検討することを通して、具体的理解を深めていく。

【事前学習】 提示された内容に関して、自らの体験事例を想起し、書き留めておく。

【事後学習】 書き留めていた自らの事例を授業で紹介された理論や方法、実際の検討を通じて振り返り、事例の理解を深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コンサルテーションの歴史と概念	講義	古城門
2	コンサルテーションの方法と類型	講義	古城門
3	コンサルティ-コンサルタント関係の展開過程	講義	古城門
4	コンサルテーションの課題：患者の問題	講義	赤沢
5	コンサルテーションの課題：スタッフの問題	講義	曾根原
6	コンサルテーションの課題：組織の問題	講義	鷹野
7	コンサルテーションの評価	講義	赤沢
8	コンサルテーションの倫理	講義	古城門
9	コンサルタントとしての専門看護師の活動	講義	曾根原
10	コンサルテーションの実際(1)個別事例：	講義	腰原
11	コンサルテーションの実際(2)家族事例	講義	谷口
12	コンサルテーションの実際(3)グループ事例	講義	鷹野
13	面接	演習	鷹野・古城門
14	事例検討	演習	鷹野・古城門
15	事例検討	演習	鷹野・古城門

■ 教科書

適宜、資料を示す。

■ 参考書、参考資料等

武井麻子(2001), 感情と看護一人とのかかわりを職業とすることの意味, 医学書院.

A.Obholzer & V.Z.Roberts 編/武井麻子監訳(2006 / 2014), 組織のストレスとコンサルテーション：職場の無意識とコンサルテーション, 金剛出版.

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

専門看護師科目の共通科目 A である。

この科目を履修する上で、精神保健看護学特講 I を履修していることが望ましい。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み…20 %
2. 具体事例を分析し、考察したレポート…80 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 12：30～13：00、古城門研究室(412)、鷹野研究室(428)にて質問や相談に応じる。

■ その他

HMSA151 / HNCS152

基礎助産学特講Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○井村 真澄、納富 理絵

■ 授業の目的

助産学の概念、意義、母子保健と助産の変遷・動向・諸制度・関連法規と助産師業務の関連性を学習し、助産師の役割・責任・義務・活動範囲・必須能力・職業倫理への理解を深める。また、助産の対象となる女性、子ども、パートナー、家族の意思決定や生命倫理等について学び、より望ましい助産師の在り方と助産ケアについて考察し、今後の方向性を探求する。

■ 到達目標

1. 助産の概念、助産師の定義、対象、出産の変遷、医学モデルと社会モデルについて理解し、説明、記述できる。
2. 保助看法における助産師の身分、業務、責任、義務について理解し、説明、記述できる。
3. 助産師の業務範囲、必須能力、卒業時到達度、実践能力習熟度について理解し、説明できる
4. 日本の助産・母子保健・助産師教育の歴史的変遷について理解し、現状と課題に関して考察し、説明、記述できる。
5. 諸外国の助産システムと助産師活動について理解し、国内外の課題に関して考察し、説明、記述できる。
6. 助産師の職業倫理、生命倫理、意思決定について理解し、現状と課題に関して考察し、説明、記述できる。
7. 専門職としての助産師の現在の課題と今後の発展性について考察し、自己の考えを説明、記述できる。

■ 学習の進め方

1. Teams を用いての双方向性の講義で行う。
2. テーマごとに学生担当を決め、担当テーマについて資料準備とプレゼンテーションを行う。
3. 各回ごとに提示されたディスカッションテーマについて、グループワーク(GW)、ディスカッションおよび全体討議を行い学びを深める。
4. 教員が提示した資料、事例についてグループワーク(GW)、ディスカッションを行い学びを深める。
5. 事前学修：看護教育において学修した看護概論、看護倫理、保助看法における看護師及び保健師業務について復習し想起しておく。
6. 事後学修：配布資料を読み返して学修内容を整理して考えをまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 助産の概念、対象、出産の変遷、医学モデルと社会モデル 事前学修：[30分] 既習学修内容を通読する 事後学修：[30分] 助産、医学モデル・社会モデルについて要点を整理する	講義・討議・GW	井村
2	望ましい助産ケアとその根拠： WHO recommendations: intrapartum care for a positive childbirth experience 2018 事前学修：[30分] ICM 助産師の定義を訳し記述する 医学モデル・社会モデルについて考察し記述する 事後学修：[30分] 望ましい助産について要点を整理する	講義・討議・GW	井村
3	保助看法からみた助産師の身分・業務・責任・義務と関連法規 事前学修：[30分] 助産師の身分と業務等に関する保助看法の規定を読む 事後学修：[30分] 助産師の身分と業務等に関して整理する	発表・討議・GW	井村
4	助産師の業務範囲と必須能力① 助産師の声明、コア・コンピテンシー(日本助産師会)他 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] コア・コンピテンシー(日本助産師会)について要点を整理する	発表・討議・GW	井村
5	助産師の業務範囲と必須能力② エssenシャル・コンピテンシー(国際助産師連盟 ICM) 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] エssenシャル・コンピテンシー(ICM)について要点を整理する	発表・討議・GW	井村
6	助産師の業務範囲と助産実践能力習熟度段階:クリニカルラダー(日本看護協会) 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] クリニカル・ラダー(日看協)について要点を整理する	発表・討議・GW	井村
7	日本の助産・母子保健・助産師教育の歴史的変遷と現状の課題 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 助産・母子保健・助産師教育の変遷について要点を整理する	発表・討議・GW	井村
8	諸外国の助産師教育システムと助産師活動 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 諸外国の助産師教育・活動について要点を整理する	発表・討議・GW	井村

No	内容	形式	教員
9	助産師の職業倫理 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 助産師の職業倫理について要点を整理する	発表・討議・GW	井村
10	代替療法・助産師の職業倫理 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 代替療法・職業倫理について要点を整理して考えをまとめる	発表・討議・GW	井村
11	助産師の生命倫理 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 生命倫理について要点を整理する	発表・討議・GW	井村
12	不妊治療・生命倫理 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 不妊治療・生命倫理について要点を整理して考えをまとめる	発表・討議・GW	井村
13	出生前診断、助産師の意思決定 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 出生前診断、助産師の意思決定について要点を整理する	発表・討議・GW	井村・納富
14	出生前診断、助産師の意思決定 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 出生前診断、助産師の意思決定について要点を整理して考えをまとめる	発表・討議・GW	井村
15	助産師の専門性、課題、これからの展望 事前学修：[30分] 当日資料を準備/通読する 事後学修：[30分] 助産師の専門性、課題、これからの展望について要点を整理して考えをまとめる	発表・討議・GW	井村

■ 教科書

我部山キヨ子・武谷雄二編(2018)．助産学講座 1 - 基礎助産学 [1] 助産学概論．第 5 版．東京．医学書院

■ 参考書、参考資料等

福井トシ子編(2018)．新版助産師業務要覧基礎編．第 3 版．2018 年版．東京．日本看護協会出版会． ICM の助産師関連資料他。

■ フィードバックの仕方

授業プレゼンテーションのフィードバックは授業時に行う。授業後に個別の振り返りを行い、課題を明確にする。

■ 他の授業科目との関連

この科目は助産師国家試験受験必修科目群(助産学分野科目)の基礎と位置づけられます。

上記科目および WHP 概論と関連させて学修してください。

■ 成績評価の仕方

1. 授業・ゼミへの参加度 20 % 2. 発表資料・発表内容 30 % 3. 試験成績 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

テーマ担当日前週の 12 : 30 - 12 : 50

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

■ 受講上の注意事項

意欲的、積極的参加を期待しています。

発表資料等は、授業開講日の前日までに Teams 内にアップロードすること。

各自資料に目を通し、当日の討議に臨むこと。

■ その他

HNMI100

基礎助産学特講Ⅱ-1

単位：1単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○宮内 彰人

■ 授業の目的

不妊治療の基礎と実際を理解し、女性のライフサイクルを通じた性と生殖の問題に関する見識を深める。特に不妊女性の高年齢化に焦点を当て、わが国における妊産婦の高年齢化の問題点を検討する。

■ 到達目標

1. 女性の性周期や妊娠のメカニズムについて説明できる。
2. 不妊の原因と治療について説明できる。
3. 生殖補助医療の方法を理解し、生殖補助医療後に妊娠した女性の看護支援に役立てる。
4. 不妊を予防するための生活支援を考案することができる。

■ 学習の進め方

ZOOM を使用し、双方向性の講義を行う。

講義を中心に、ディスカッションを交えながら展開する。

授業後、レスポンスペーパー(フォームズ)へ本日の学びと質問を入力・送付する。

次の講義の際に、レスポンスペーパーで投稿された質問へ回答する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自己学習	自宅学習	宮内
2	オリエンテーション：わが国の不妊治療の現状と問題点 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読みまとめる 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討論	宮内
3	生殖生理学総論：女性内分泌学、男性内分泌学、妊娠の成立(排卵・受精・着床) 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読みまとめる 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討論	宮内
4	不妊の診断と治療Ⅰ 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読みまとめる 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討論	宮内
5	不妊の診断と治療Ⅱ 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読みまとめる 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討論	宮内
6	生殖補助医療技術(A R T)の実際 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読みまとめる 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討論	宮内
7	生殖補助医療の影響：周産期医療への影響、社会的・倫理的問題 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読みまとめる 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討論	宮内
8	不妊の予防：生活習慣の改善、婦人科感染症、婦人科腫瘍 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読みまとめる 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討論	宮内

■ 教科書

各回の授業で onedrive にアップロードする。

■ 参考書、参考資料等

授業時に提示する。

■ フィードバックの仕方

試験問題の中で正答率が低い項目については、紙面で解説します。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、助産師国家試験資格取得のために履修が必須の科目である。
前期の実践助産学演習Ⅱ・Ⅲ、後期の実践助産学演習Ⅳにおいて必要な知識である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20% 2. 筆記試験 80%

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後にレスポンスペーパー(フォームズ入力)で質問を受け付ける。

■ その他

HNMI101

基礎助産学特講Ⅱ-2

単位：1単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○小林 丈人

■ 授業の目的

1. 医薬品の薬効・薬理を理解し、取り扱う上での基礎知識を習得する。
2. 妊婦、授乳婦に医薬品を使用する上での基本的な知識、新生児、女性の疾患全般に対する薬物療法について学ぶ。

■ 到達目標

1. 医薬品を取り扱う上での基礎を身につける。
2. 周産期の現場での薬物療法について理解する。

■ 学習の進め方

講義形式

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	医薬品総論・医薬品情報 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す	講義	小林
2	薬理学総論・分娩期・産褥期に使用する医薬品 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す	講義	小林
3	薬効分類・妊娠期に使用する医薬品 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す	講義	小林
4	妊娠と薬 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す	講義	小林
5	妊娠期合併症の薬物療法 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す	講義	小林
6	その他妊娠期疾患の薬物療法 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す	講義	小林
7	授乳と薬、新生児・小児と薬 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す	講義	小林
8	女性と薬 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す	講義	小林

■ 教科書

授業時に資料配付

■ 参考書、参考資料等

- ・杉本充弘編集 ナースの産科学 中外医学社(2013年)
- ・林昌洋／佐藤孝道他編集 妊娠と薬 (株)じほう(2010年)
- ・伊藤真也／村島温子編集 薬物治療コンサルテーション妊娠と授乳改訂2版 南山堂(2014年)
- ・日本産科婦人科学会／日本産婦人科医会編集、産婦人科診療ガイドライン産科診療ガイドライン産科編、日本婦人科学会(2017年)

■ フィードバックの仕方

試験問題の重要な項目について、試験後に資料を配付します。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、助産師国家試験受験資格取得のために履修が必須の科目である。

前期の実践助産学演習Ⅱ・Ⅲ、後期の実践助産学演習Ⅳにおいて必要な知識である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20 % 2. 筆記試験 80 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問を受け付ける。

■ 受講上の注意事項

積極的に参加してください。

■ その他

HNMI150

基礎助産学特講Ⅲ-1

単位：1単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○笠井 靖代

■ 授業の目的

妊娠、出産、産褥の過程において母児の健康状態の査定による個々の妊婦のリスクを評価する診断の知識を深める。

■ 到達目標

1. 周産期の診断に用いられる検査について、その目的・方法・結果について説明できる。
2. ハイリスク状態の妊婦について病態生理・診断基準・治療について説明できる。
3. 胎児の異常について、病態生理・診断基準・治療について説明できる。

■ 学習の進め方

ZOOM を使用し、双方向性の講義を行う。

プレゼンテーションを中心に、ディスカッションと講義を交えながら展開する。

プレゼンターは、作成した資料を授業前々日までに指定する One Drive のフォルダへ保存する。

授業後、レスポンスペーパー(フォームズ)へ本日の学びと質問を入力・送付する。

次の講義の際に、レスポンスペーパーで投稿された質問へ回答する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、担当を決める	ZOOM・講義・ 討論	笠井
2	妊娠の管理と胎児障がい・形態異常に関する相談 ①妊婦健康診査の総論 ②超音波検査 ③出生前診断・遺伝カウンセリング ④妊娠中の予防接種 ⑤妊娠中の放射線被曝 ⑥妊娠悪阻 ⑦妊娠中の静脈血栓症 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM・講義・ 討論	笠井
3	妊娠初期の異常 ①切迫流産、稽留流産 ②子宮内容除去術 ③人工妊娠中絶 ④母子感染症(TORCH 症候群、ウイルス感染症、GBS 感染症) ⑤ハイリスク妊娠 ⑥妊娠高血圧症候群 ⑦HELLP 症候群 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM・講義・ 討論	笠井
4	妊娠中期・後期の異常 ①常位胎盤早期剥離 ②前置胎盤 ③常位胎盤早期剥離 ④羊水過多・過少 ⑤多胎妊娠 ⑥妊娠糖尿病 ⑦血液型不適合妊娠 ⑧早産、切迫早産 ⑨過期妊娠 ⑩胎児発育不全(FGR) 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM・講義・ 討論	笠井
5	合併症妊娠 ①婦人科疾患(子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮頸癌) ②呼吸器疾患 ③心疾患合併妊娠 ④血液疾患 ⑤消化器疾患 ⑥代謝・内分泌疾患 ⑦膠原病 ⑧腎・泌尿器疾患 ⑨精神・神経疾患(うつ病、パニック障害、統合失調症、てんかん)⑩乳癌 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM・講義・ 討論	笠井
6	分娩管理と分娩時の異常(1) ①分娩の三要素 ②陣痛の異常(微弱陣痛)③産道の異常 ④胎勢・回旋・進入の異常 ④胎位の異常 ⑤羊水・臍帯の異常 ⑥胎児機能不全 ⑦産道損傷 ⑧子宮破裂 ⑨子宮内反症 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM・講義・ 討論	笠井

No	内容	形式	教員
7	分娩管理と分娩時の異常(2) ⑩弛緩出血 ⑪癒着胎盤 ⑫産科ショックとDIC ⑬羊水塞栓 産科処置 ①誘発分娩 ②会陰切開と縫合 ③吸引・鉗子分娩 ④帝王切開術 ⑤輸血 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す。レスポンス ペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM・講義・ 討論	笠井
8	周産期メンタルヘルスと今後の周産期医療の課題 ①マタニティブルー ②産後うつ ③産褥精神病 ④不妊治療の推進と母体の高年齢化がも たらすもの 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返す。レスポンス ペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM・講義・ 討論	笠井

■ 教科書

杉本充弘 (2013). ナースの産科学. 中外医学社.

■ 参考書、参考資料等

馬場一憲 (編). (2013). 目でみる妊娠と出産 (Visual series). 文光堂.
 各回の授業で onedrive にアップロードする。

■ フィードバックの仕方

試験問題の重要な項目や正答率の低い項目については紙面で解説します。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、助産師国家試験資格取得のために履修が必須の科目である。
 前期の実践助産学演習Ⅱ・Ⅲ、後期の実践助産学演習Ⅳにおいて必要な知識である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 10 % 2. 筆記試験 90 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後にレスポンスペーパー(フォームズ入力)で質問を受け付ける。

■ その他

HNMI102

基礎助産学特講Ⅲ-2

単位：1単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○中尾 厚

■ 授業の目的

「新生児の生理とケア」および「新生児疾患の病態・診断・対応」の理解

■ 到達目標

1. 我が国における新生児医療の現況を理解・説明できる
2. 新生児の生理とそれに合わせたケアを理解・説明できる
3. 母乳育児を支援するため、新生児側からの観点で特性ならびに注意点を理解・説明できる
4. 新生児のケアを行う上で必要な新生児疾患の病態を理解できる

■ 学習の進め方

ZOOM を使用し、双方向性の講義を行う。

講義を中心に、ディスカッションを交えながら展開する。

授業後、レスポンスペーパー(フォームズ)へ本日の学びと質問を入力・送付する。

次の講義の際に、レスポンスペーパーで投稿された質問へ回答する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自己学習	自宅学習	中尾
2	自己学習	自宅学習	中尾
3	自己学習	自宅学習	中尾
4	母乳と母児関係・早産・低出生体重児・新生児医療の現状 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討議	中尾
5	呼吸器・循環器疾患 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討議	中尾
6	感染症・遺伝疾患・分娩外傷 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討議	中尾
7	黄疸・血液疾患・消化器 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討議	中尾
8	神経・代謝 事前学修：[20分] 内容に該当する箇所の教科書やガイドラインと発表資料を読む 事後学修：[20分] 授業資料、該当箇所の教科書とガイドラインを読み返しまとめる。レスポンスペーパー(本日の学びと質問)を送付する。	ZOOM 講義・討議	中尾

■ 教科書

教科書は使用せず、教員が準備した資料を用いて授業を行う。各回の授業で onedrive にアップロードする。

■ 参考書、参考資料等

- ・新生児学入門 仁志田博司著 第4版 医学書院(2012年)
- ・月刊誌「周産期医学」医学書院
- ・月刊誌「ネオネイタル・ケア」メディカ出版

■ フィードバックの仕方

試験問題の中で正答率が低い項目については紙面で解説します。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、助産師国家試験受験資格取得のために履修が必須の科目である。

前期の実践助産学演習Ⅱ・Ⅲ、後期の実践助産学演習Ⅳにおいて必要な知識である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 30 % 2. 課題発表 40% 3. 筆記試験 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後にレスポンスペーパー(フォームズ入力)で質問を受け付ける。

■ その他

HNMI103

実践助産学演習 I

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○東 園子、加藤 千穂、塚本 恵弥

■ 授業の目的

女性・子ども・パートナー・家族に対して、性と生殖に関する生涯の健康と生活へのよりよい支援を提供するために、助産実践に必要な個人および集団へのさまざまな相談・教育・支援に関する理論・原理・技法、具体的展開方法を学び、対象特性に応じた諸技法への理解を深め、それらを習得し実践する。

■ 到達目標

1. 教育の定義、教育モデル、学習理論、教育方法の種類と特徴について説明できる。
2. 健康教育の定義、発展過程、目的、構造について説明できる。
3. 対象者の特性、ニーズ、健康課題の特徴について説明できる。
4. 対象集団・個人に適した目的、目標、教育内容、教育方法、評価の視点を考え説明できる。
5. 事例検討を通して、健康な母子への退院指導案を立案できる。
6. 基本的な関わりの技法、個人や集団を対象とする教育・支援方法の種類と特徴を説明できる。
7. 参加型クラスにおいて必要となる関わりの技法を体験的に学び、自己の課題を振り返り考察できる。
8. 出産や育児を迎える妊婦とパートナーに対して出産前教室の企画・立案・準備・実施・評価をすることができる。

■ 学習の進め方

1. 演習の展開

前期は、健康教育や指導案作成に関する講義およびグループワーク、対人技法演習とリフレクション、個人で妊娠初期の妊婦への個別指導案立案とロールプレイ、参加型マタニティクラス(以下 MC とする)の指導案立案、リーフレットの作成を行う。

後期は、指導案と媒体案の修正、MC 実施にむけた準備をグループで行い、指導案検討、リハーサルを通してグループ間討議を重ね、評価・修正を繰り返し行う。

2020 年 11 月に日本赤十字社医療センターにて出産前教育：〔出産クラス〕と〔産後クラス〕を実施・評価をする。

* 助産学実習 I において、実際に日本赤十字社医療センターで開催されている MC を見学する機会が得られます。

* MC 当日は全員参加です。実施主体ではないメンバーは最終リハーサル参加、準備と運営の補助を担います。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、相談・教育・援助の基本 事前学修：[30 分] 自身が実施した・受講したことのある健康教育について想起し意見できるように準備する。 事後学修：[30 分] WHO の健康の定義・健康教育について web や書籍等を用いて調べる。	GW・討議・講義	全員
2	健康教育の定義と発展 事前学修：[30 分] 健康教育に関連する既存の理論について書籍等で調べる。 事後学修：[30 分] 関心のある理論と健康行動との関連について調べ整理する。	GW・討議・講義	全員
3	健康教育の構造 事前学修：[30 分] これまで立案した指導案作成時のことを想起し、可能であれば持参する。 事後学修：[30 分] 指導案の構造・展開に関する理解を各自整理する。	GW・討議・講義	全員
4	指導案の作成 事前学修：[60 分] これから出産を迎える妊婦とその家族が分娩や育児に対して抱くニーズ、どのような健康教育が必要とされているかをまとめる。 事後学修：[30 分] グループでどんな MC にしていきたいか、展望を意見交換をして整理する。	GW・討議・講義	全員
5	個人に対する関わりの技法 事前学修：[30 分] 自身のコミュニケーションにおける特性や課題について振り返る。 事後学修：[30 分] 演習を通して感じたこと・考えたことをワークシートへまとめて提出する。	GW・討議・講義	全員
6	妊婦・褥婦への個別指導の発表と評価 事前学修：[120 分] 各自で事例の妊婦・褥婦に対して個別指導案を作成し資料を印刷する。 * テーマの振り分けは 4 月中に行う。 事後学修：[60 分] 自己や他の学生の指導案を参照し、指導案としての構造やニーズ・目的・目標・方法との論理性や一貫性について各自で振り返り、自己の課題を整理する。	発表・演習・討議	全員

No	内容	形式	教員
7	MC 指導案の検討 ニーズ 事前学修：[90分] グループで指導案を作成する。 事後学修：[60分] 討議内容を吟味し、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
8	MC 指導案の検討 目的と目標 事前学修：[90分] グループで指導案を作成する。 事後学修：[60分] 討議内容を吟味し、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
9	MC 指導案の検討 目的と目標 事前学修：[90分] グループで指導案を作成する。 事後学修：[60分] 討議内容を吟味し、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
10	MC 指導案の検討 展開 事前学修：[90分] グループで指導案を作成する。 事後学修：[60分] 討議内容を吟味し、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
11	集団に対する関わりの技法 事前学修：[30分] 自身のコミュニケーションにおける特性や課題について振り返りまとめる。 事後学修：[30分] 演習を通して感じたこと・考えたことをワークシートへまとめ提出する。	演習・討議・講義	全員
12	MC 指導案・リーフレット案の検討 事前学修：[90分] グループで指導案とリーフレット案を作成する。 事後学修：[60分] 討議内容を吟味し、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
13	コミュニケーション、カウンセリング、ファシリテーション 事前学修：[30分] 敬語(尊敬語・謙譲語・丁寧語)について、書籍をもとに自習する。 事後学修：[30分] 演習を通して感じたこと・考えたことをワークシートへまとめて提出する。	GW・演習・討議・講義	全員
14	MC 指導案とリーフレット案の検討 事前学修：[90分] グループで指導案とリーフレット案を作成する。 事後学修：[60分] ゼミの討議内容を吟味し、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
15	MC 指導案(ニーズ、目的・目標、展開、リーフレット)の検討・最終発表と提出 事前学修：[60分] ニーズ、目的・目標、展開を記した指導案とリーフレットの作成・最終提出する。 事後学修：[60分] MC 見学に向けた確認事項をグループで整理する。	発表・討議	全員
16	見学した健康教育(MC)の分析と指導案の検討 事前学修：[60分] 見学した健康教育の分析をまとめ、グループで指導案を作成する。 事後学修：[60分] ゼミの討議内容を吟味し、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
17	指導案・展開(逐語・媒体案も含む)の検討 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語・媒体案も含む)を作成する。 事後学修：[120分] ゼミの討議内容を吟味し、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
18	出産クラス リハーサル① 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語も含む)・媒体を作成する。 事後学修：[60分] リハーサルを振り返り、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
19	出産クラス リハーサル① 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語も含む)・媒体を作成する。 事後学修：[60分] リハーサルを振り返り、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
20	産後クラス リハーサル① 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語も含む)・媒体を作成する。 事後学修：[60分] リハーサルを振り返り、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
21	産後クラス リハーサル① 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語も含む)・媒体を作成する。 事後学修：[60分] リハーサルを振り返り、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
22	出産クラス リハーサル② 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語・全体の運営も含む)・媒体を作成する。 事後学修：[60分] リハーサルを振り返り、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員

No	内容	形式	教員
23	出産クラス リハーサル② 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語・全体の運営も含む)・媒体を作成する。 事後学修：[60分] リハーサルを振り返り、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
24	産後クラス リハーサル② 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語・全体の運営も含む)・媒体を作成する。 事後学修：[60分] リハーサルを振り返り、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
25	産後クラス リハーサル② 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語・全体の運営も含む)・媒体を作成する。 事後学修：[60分] リハーサルを振り返り、次回までの課題を明確化する。	発表・討議	全員
26	出産クラス 最終リハーサル・準備・実施 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語・全体の運営も含む)・媒体を完成させる。 事後学修：[60分] 実施状況と指導案・展開案(目的・目標・展開等)について、振り返り評価をまとめておく。	発表・討議	全員
27	出産クラス 最終リハーサル・準備・実施 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語・全体の運営も含む)・媒体を完成させる。 事後学修：[60分] 実施状況と指導案・展開案(目的・目標・展開等)について、振り返り評価をまとめる。	発表・討議	全員
28	産後クラス 最終リハーサル・準備・実施 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語・全体の運営も含む)・媒体を完成させる。 事後学修：[60分] 実施状況と指導案・展開案(目的・目標・展開等)について、振り返り評価をまとめる。	発表・討議	全員
29	産後クラス 最終リハーサル・準備・実施 事前学修：[120分] グループで指導案・展開案(逐語・全体の運営も含む)・媒体を完成させる。 事後学修：[60分] 実施状況と指導案・展開案(目的・目標・展開等)について、振り返り評価をまとめる。	発表・討議	全員
30	MC 実施後の最終評価 事前学修：[90分] 最終評価をまとめて資料を作成する 事後学修：[30分] 媒体等を整理する	発表・討議	全員

■ 教科書

教科書は使用しません。

■ 参考書、参考資料等

Karen Glanz 編 / 曾根智史他訳(2006)健康行動と健康教育 理論 研究 実践. 医学書院.

■ フィードバックの仕方

実践状況の評価となるため、発表・振り返り・討議等の後に担当教員よりその場でコメントを行いフィードバックします。内容について疑問がある場合は、その場でもしくは事後にオフィスアワーをご活用ください。

■ 他の授業科目との関連

助産学実習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲでの個人及び集団への健康教育を実施するための基礎的な知識と技術を習得する内容となります。

■ 成績評価の仕方

グループワークへの取り組み 30% 個別指導案 20% 健康教育活動の企画と実践 50%

■ オフィスアワー・研究室等

東(430 研究室)、新講師(〇〇研究室)、塚本(423 研究室)。

研究室前期のオフィスアワーは授業開講日の 12:30-12:50。後期は初回配布資料を参照のこと。

■ その他

HNMI180

実践助産学演習Ⅱ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○井村 真澄、齋藤 英子、東 園子、千葉 真希、塚本 恵弥

■ 授業の目的

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における健康問題・課題に対する助産過程を展開するために必要な理論や知識を統合し、専門家としての倫理性と態度を獲得しつつ、それらを活用して助産過程を展開し、具体的助産ケア実践に必要な諸技法を習得する。

■ 到達目標

1. 正常経過にある母体の妊娠による変化と胎児の成長・発育について説明できる。
2. 妊娠の診断および妊娠中に用いられる検査について説明できる。
3. 正常経過にある妊婦への援助について説明できる。
4. 妊娠の経過が正常から逸脱していないかアセスメントすることができる。
5. 分娩の概念、分娩の要素、分娩機序と分娩が母体・胎児に及ぼす影響を説明できる。
6. 分娩経過の診断・胎児の健康診断に用いられる検査について説明できる。
7. 分娩経過を診断し、正常から逸脱していないかアセスメントすることができる。
8. 正常経過にある産婦および家族への援助について説明できる。
9. 産褥の経過が正常から逸脱していないかをアセスメントし、逸脱への予防的支援を説明できる。
10. 母子・父子相互作用についてアセスメントし、家族形成を促す支援について説明できる。
11. 母乳育児についてアセスメントし、母乳育児の早期開始と確立を促す支援を説明できる。
12. 新生児の身体的変化についてアセスメントし、母胎外の適応・成長発達を促す支援を説明できる。
13. 分娩期の助産過程展開のステップを説明できる。
14. 事例課題について助産過程の視点に沿って情報収集・情報分類を行い、情報を解釈・分析してアセスメントできる。
15. 情報/アセスメントを判別・整理し、分娩経過の予測、胎児の健康・発達状態の予測を記述できる。
16. 産婦・胎児・家族の全体像を記述できる。
17. アセスメント・診断をもとに産婦および家族に応じた助産計画が立案できる。

■ 学習の進め方

「AL」

本科目は、TBL (Team Based Learning チーム基盤型学習)にて行う。チーム得点を算出し、妊娠・分娩・産褥新生児の各期毎にチャンピオンチームを決定します。TEAMSで行います。全体の Class Room と各 Team Room の Key を送ります。実際の進め方は、TBL オリエンテーションで模擬体験をすることができます。

1. 事前学習-各 TBL セッション前に配布される予習資料で各自が自己学習をする。
2. IRAT (個人テスト)/応用課題-TBL 開始前に、Glexa において多肢選択式問題と事例問題に個人で取り組む。チーム得点へ加算される。
3. TRAT (チームテスト)-IRAT と同じ問題にチームで取り組む。チームメンバーで正答とその根拠について論じ、合意できるまで討議を行いスクラッチシートへ入力する。正解ができるまで続ける。シートでチームテストの得点を算出して報告する。チーム得点へ加算される。
4. アピール-正答とその根拠について疑義がある場合に意見する。疑義が出された問題の解釈について各グループで討議する。学びを深めた発言が認められた場合は、グループ得点に加算される。
5. フィードバック-正答率が低かった問題や、理解が困難だったと思われる問題についてグループ間討議をする。教員がコメントを行いフィードバックする。
6. 応用演習課題-チームで同じ問題に取り組む、合意に達するまでディスカッションする。根拠を十分に吟味し、1つの選択肢を選ぶ。チーム得点へ加算する。
7. フィードバック-各チームが選択肢を選んだ根拠を説明し、ディスカッションする。その後、教員が応用課題を解説する。
8. 各期(妊娠期、分娩期、産褥・新生児期)終了後に、各期テストを行う

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	看護過程：産褥期・新生児期 事後学修：メールで Word 形式で提出	自宅学習	全員
2	看護過程：産褥期・新生児期 事後学修：メールで Word 形式で提出	自宅学習	全員
3	分娩各期に必要な基本的な観察とケア 事後学修：所定の OneDrive のフォルダへ Word 形式で提出	自宅学習	全員
4	分娩各期に必要な基本的な観察とケア 事後学修：所定の OneDrive のフォルダへ Word 形式で提出	自宅学習	全員

No	内容	形式	教員
5	妊娠期 TBL1 回目事前課題	自宅学習	全員
6	妊娠期 TBL1 回目事前課題	自宅学習	全員
7	TBL 妊娠期① 妊娠の成立・妊娠確定の諸検査、栄養・生活指導 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
8	TBL 妊娠期① 妊娠の成立・妊娠確定の諸検査、栄養・生活指導 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
9	TBL 妊娠期① 妊娠の成立・妊娠確定の諸検査、栄養・生活指導 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
10	TBL 妊娠期② 母体の変化、心理的・社会的変化、栄養・生活指導 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
11	TBL 妊娠期② 母体の変化、心理的・社会的変化、栄養・生活指導 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
12	TBL 妊娠期② 母体の変化、心理的・社会的変化、栄養・生活指導 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
13	家族計画 事前学修：[120分] 家族計画に関する資料を読んでおく 事後学修：[30分] 授業資料を読み返す	TEAMS GW・討議	東
14	家族計画 事前学修：[120分] 家族計画に関する資料を読んでおく 事後学修：[30分] 授業資料を読み返す	TEAMS GW・討議	東
15	TBL 妊娠期③ 胎児の成長と発達、胎児付属物の機能 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
16	TBL 妊娠期③ 胎児の成長と発達、胎児付属物の機能 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
17	TBL 妊娠期③ 胎児の成長と発達、胎児付属物の機能 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
18	TBL 分娩期① 分娩開始、入院、潜伏期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
19	TBL 分娩期① 分娩開始、入院、潜伏期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
20	TBL 分娩期② 活動期、極期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
21	TBL 分娩期② 活動期、極期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
22	TBL 分娩期③ 分娩第Ⅱ期、第Ⅲ期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員

No	内容	形式	教員
23	TBL 分娩期③ 分娩第Ⅱ期、第Ⅲ期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
24	TBL 分娩期④ 分娩第Ⅳ期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
25	TBL 分娩期④ 分娩第Ⅳ期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
26	TBL 産褥・新生児期① 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
27	TBL 産褥・新生児期① 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
28	TBL 産褥・新生児期② 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
29	TBL 産褥・新生児期② 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] IRAT や応用演習課題、討議における自己の理解や課題を振り返る	TEAMS GW・討議	全員
30	母乳育児 事前学修：[120分] 別紙に掲載している母乳育児や支援に関する書籍を読んでおく 事後学修：[30分] 授業資料や書籍を読み返す	TEAMS 講義	井村

■ 教科書

助産業務ガイドライン(2019)、院内助産・助産外来ガイドライン(2018)、産科診療ガイドライン(2020)、婦人科診療ガイドライン(2020)、周産期メンタルヘルスコンセンサスガイド(2017)

* ガイドラインは、最新版を活用すること(web 公開後は書籍ではなく電子データ・PDF でも良い)。

* 医学書院から出版されている助産診断・技術学のテキストもしくは日本看護協会出版会から出版されている助産師基礎教育テキストの妊娠期、分娩期、産褥期、新生児期に関する巻の最新号

杉本 充弘、ナースの産科学、中外医学社、2013年

仁志田博司、新生児学入門第5版、医学書院、2018年

WHO/UNICEF 著、赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援ガイド ベーシック・コース「母乳育児成功のための10カ条」の実践、医学書院、2009年

* 該当範囲は、授業1週間前に提示します。

■ 参考書、参考資料等

武谷雄二編、プリンシプル産婦人科学2産科編第3版、MEDICAL VIEW社、2014年

馬場一憲、目でみる妊娠と出産、文光社、2013年

中井章人、CTGテキスト、MEDICAL VIEW、2016年

国際ラクテーションコンサルタント協会、母乳育児支援スタンダード第2版、医学書院、2015年

* 各学術団体が提示している根拠を明示して安全基準を記した資料等も参考にして良い。

■ フィードバックの仕方

IRAT や各期テストの推移を自身で管理する。6割以下が連続すると単位認定が危ぶまれるので、学習方法に関して個別面談を行い相談に乗ります。事前課題や問題に対する意見は、授業内のアピールタイムで伺います。討議に関するコメントは授業時間内に口頭で行います。

■ 他の授業科目との関連

この科目は助産師国家試験受験資格取得のために履修が必須の科目であり、助産学実習Ⅰの履修要件科目である。

基礎助産学特講Ⅰ・Ⅱ、応用助産学特講Ⅰ、実践助産学演習Ⅰ・Ⅲとの関連が強い科目である。特に実践助産学演習Ⅲは、この科目で学習した内容を応用して展開されるので復習をしておくこと。

■ 成績評価の仕方

1. 授業・演習への取り組み(参加状況・チーム得点・ピア評価) 20% 2. 筆記試験(IRAT・応用事例・各期テスト) 80%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:00~12:50

齋藤(417 研究室)、東(430 研究室)、メール

■ 受講上の注意事項

Team Based Learning は、チームで課題に取り組みながら学んでいく学習方法です。学習した知識を活用して課題を解決する楽しみを感じながら進めていきましょう。

■ その他

HNMI104

実践助産学演習Ⅲ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○井村 真澄、齋藤 英子、東 園子、千葉 真希、塚本 恵弥、中根 直子

■ 授業の目的

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における健康問題・課題に対する助産過程を展開するために必要な理論や知識を統合し、専門家としての倫理性と態度を獲得しつつ、それらを活用して助産過程を展開し、具体的助産ケア実践に必要な所技法を習得する。

■ 到達目標

1. 妊娠期・授乳期・乳児期の栄養について理解し、具体的な調理方法が説明できる。
2. 妊婦健康診査に必要な助産技術を実施し、得られた情報をアセスメントできる。
3. 分娩期の助産ケアの意義と原理を学び、母子および家族が安全で安心した出産に臨めるよう支援を行う助産師の役割を説明できる。
4. 分娩経過に沿って実施される助産技術を理解し、基本的技術を実施できる。
5. 分娩経過、産婦・胎児の健康状態にあわせた助産技術を説明できる。
6. 産婦・胎児・家族および新生児の心理・社会的状態にあわせた助産技術を説明できる。
7. 褥婦健康診査に必要な助産技術を実施し、得られた情報をアセスメントできる。
8. 新生児健康診査に必要な助産技術を実施し、得られた情報をアセスメントできる。
9. 母乳育児に関する情報を収集・アセスメントし、母乳育児の早期開始と確立を促す支援を実施できる。
10. 母子・父子相互作用についてアセスメントし、家族形成を促す支援を説明できる。

■ 学習の進め方

「AL」

1. 事前準備：各技術演習前に指定したテキストや配布資料を熟読し、関連する DVD の映像を見てイメージをしてから演習に臨む。
2. 技術演習：5～6月半ばは TEAMS で行う。6月半ばから対面形式で学内演習を指定した時間に実習室で実施する。妊産褥婦および助産師役割を実施し、それぞれの立場の経験を互いに振り返る。演習後、安全で快適な技術について意見交換をすることで学習を深める。実施後はセッション毎に機材の消毒と部屋の換気を行う。
3. 自己学習&練習：自らの習得状況を把握し、自己学習によって主体的に補う。必要となる基本技術を確実に習得できるよう繰り返し DVD 視聴によりイメージし、学内で指定した時間に順番に練習をする。最終技術試験はシミュレーション形式で行う。練習の段階から互いに役割を演じつつ練習をしておくことが望ましい。
4. 助産計画発表-TBLと並行して、事例の助産過程展開を行い、妊娠期・分娩期・産褥新生児期の助産計画を個人で作成し、チーム内で発表、ディスカッションする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	新生児健康診査・褥婦健康診査 事前学修：指定 DVD を視聴し、チェックリストと手順をまとめてメールで Word 形式で提出	自宅学習	全員
2	新生児健康診査・褥婦健康診査 事前学修：指定 DVD を視聴し、チェックリストと手順をまとめてメールで Word 形式で提出	自宅学習	全員
3	分娩期：基礎看護技術とフィジカルアセスメント 事前学修：指定した動画を視聴し、ポイントをまとめ、所定の OneDrive のフォルダへ Word 形式で提出	自宅学習	全員
4	分娩期：基礎看護技術とフィジカルアセスメント 事前学修：指定した動画を視聴し、ポイントをまとめ、所定の OneDrive のフォルダへ Word 形式で提出	自宅学習	全員
5	妊婦健康診査 事前学修：指定 DVD を視聴し、チェックリストと手順をまとめてメールで Word 形式で提出	自宅学習	全員
6	妊婦健康診査 事前学修：指定 DVD を視聴し、チェックリストと手順をまとめてメールで Word 形式で提出	自宅学習	全員
7	妊娠期の技術：新生児の健康診査 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員

No	内容	形式	教員
8	妊娠期の技術：新生児の健康診査 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
9	分娩期の基礎看護技術：手洗い 清潔操作 ガウン・手袋・マスク装着 事前学修：[120分] 指定した動画を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
10	分娩期の基礎看護技術：手洗い 清潔操作 ガウン・手袋・マスク装着 事前学修：[120分] 指定した動画を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
11	助産過程：妊娠期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] 他の学生の助産計画、討議内容から自分の立案した助産計画を修正しておく	TEAMS GW・討議	全員
12	産褥期・新生児期の技術：新生児の健康診査 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
13	産褥期・新生児期の技術：新生児の健康診査 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
14	分娩期の技術：分娩第Ⅰ期の看護 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞する 事後学修：[120分] 自己の課題を記す	TEAMS 実技演習	全員
15	分娩期の技術：分娩第Ⅰ期の看護 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞する 事後学修：[120分] 自己の課題を記す	TEAMS 実技演習	全員
16	分娩期の技術：分娩助産 仰臥位分娩 事前学修：[360分] 色々な事例を設定しながらアセスメントと実践を鍛錬する 事後学修：[120分] Glexa の Board へ本日の学びを記す。他の学生の学びを見た後、リフレクションシートへ自己の課題を記し、Teams 内に提出する。	TEAMS 実技演習	全員
17	分娩期の技術：分娩助産 仰臥位分娩 事前学修：[360分] 色々な事例を設定しながらアセスメントと実践を鍛錬する 事後学修：[120分] Glexa の Board へ本日の学びを記す。他の学生の学びを見た後、リフレクションシートへ自己の課題を記し、Teams 内に提出する。	TEAMS 実技演習	全員
18	ご安産一座 分娩助産技術 分娩開始の診断・問診・疼痛緩和ケア 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞する 事後学修：[120分] 自己の学びを記す	TEAMS 実技演習	中根
19	分娩期の技術：分娩助産 側臥位・四つ這い分娩 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
20	分娩期の技術：分娩助産 側臥位・四つ這い分娩 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
21	分娩期の技術：母子早期接触、新生児の観察と計測、胎盤の精査 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
22	産褥期・新生児期の技術：褥婦と新生児の健康診査 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
23	産褥期・新生児期の技術：褥婦と新生児の健康診査 事前学修：[120分] 指定した書籍の該当箇所を読み DVD を鑑賞し、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員

No	内容	形式	教員
24	助産過程：分娩期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] 他の学生の助産計画、討議内容から自分の立案した助産計画を修正しておく	対面 GW・討議	全員
25	産褥期・新生児期の技術テスト：褥婦と新生児の健康診査 事前学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する 事後学修：[60分] リフレクションシートへ自己の課題を記し、Teams内に提出する。	対面 実技試験 (事例)	全員
26	産褥期・新生児期の技術：タッチケア(バックケア・ベビーマッサージ) 事前学修：[120分] 指定した書籍や事前配布資料を読み、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
27	産褥期・新生児期の技術：乳房の診察とアセスメント 事前学修：[120分] 指定した書籍や事前配布資料を読み、手順を覚えてくる 事後学修：[120分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する	TEAMS 実技演習	全員
28	妊娠期技術テスト：妊婦の健康診査 事前学修：[240分] 事例を設定しながら基本技術を鍛錬する 事後学修：[60分] リフレクションシートへ自己の課題を記し、Teams内に提出する。	対面 実技試験 (事例)	全員
29	分娩期の技術テスト：分娩介助 事前学修：[360分] 色々な事例を設定しながらアセスメントと実践を鍛錬する 事後学修：[120分] GlexaのBoardへ本日の学びを記す。他の学生の学びを見た後、リフレクションシートへ自己の課題を記し、Teams内に提出する。	対面 実技試験 (事例)	全員
30	助産過程：分娩期 事前学修：[180分] 事前課題の範囲を学習しておく 事後学修：[60分] 他の学生の助産計画、討議内容から自分の立案した助産計画を修正しておく	対面 GW・討議	全員

■ 教科書

平澤美恵子・村上睦子(2016)写真でわかる助産技術. インターメディカ.
部山キヨ子・大石時子(2018)助産師のためのフィジカルイグザミネーション第2版. 医学書院.
平澤美恵子・村上睦子(2017). 写真でわかる母性看護技術. インターメディカ.

■ 参考書、参考資料等

各回の授業で紹介する。

■ フィードバックの仕方

各演習の際にリフレクションを行いながら進める。実技試験の後は、評定者とリフレクション後に、評定者のコメントを直接伝える。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、助産師国家試験受験資格を得るために必要であり、助産学実習Ⅰの履修要件科目である。
各期の実技試験および分娩介助技術試験の結果が6割を満たすことが助産学実習Ⅰの履修要件である。

■ 成績評価の仕方

1. 取り組み・課題レポート・助産過程 30%、2. 技術試験 70%
各期技術テストに関する場面設定、評価事項等は、技術テスト前に事前告知します。技術テストは、模擬妊婦・産婦・褥婦へ対応する形式で行いますので、実際の場面をイメージしながら練習を重ねてください。

■ オフィスアワー・研究室等

オフィスアワー：授業開講前日の12:30～12:50 齋藤(417研究室)、東(430研究室)、担当教員へのメール

■ 受講上の注意事項

学内演習時は、パンツスタイルの白衣・ナースシューズを着用する。
基礎看護技術(清潔操作・手洗い・手袋装着・ガウン着用・導尿・車椅子移乗・臥床中/点滴をしている人への保清・点眼・身体測定)を4月にWeb動画で学習した上で演習へ臨んでください。自信のない基礎看護技術は各自で鍛錬しておくことをお勧めします。練習の際の部屋の利用や物品借用について、不明な点は教員へ相談してください。

■ その他

HNMI105

実践助産学演習Ⅳ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○齋藤 英子、東 園子、加藤 千穂、塚本 恵弥、神谷 桂、林 雅代、廣瀬 孝子、皆川 沙織

■ 授業の目的

妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期における母子とその家族の健康逸脱・異常予測、合併症や心理的問題を持つ母子への支援、異常分娩の介助や緊急時の対応に関する理解を深め、健康を逸脱した母子や家族への支援に必要な諸技法を習得する。

■ 到達目標

1. 妊娠期のハイリスク状態についてアセスメントし、予防的支援および異常発生時の対応を説明できる。
2. 分娩期のハイリスク状態についてアセスメントし、予防的支援及び異常発生時の対応について説明できる。
3. 産褥期において重大な病的状態と母体死亡に至る可能性のある心身の合併症の予防的支援と対応を説明できる。
4. 産褥期のハイリスク事例についてアセスメントし、予防的支援及び異常発生時の対応について説明できる。
5. 新生児期のハイリスク状態についてアセスメントし、予防的支援及び異常発生時の対応について説明できる。
6. 心理・社会的問題をもつ事例についてアセスメントし、予防的支援および異常発生時の対応を説明できる。
7. 肩甲難産、急速遂娩、骨盤位牽出術、会陰縫合、双手圧迫法の原理を学び、説明できる。
8. エビデンスに基づいた新生児蘇生法を習得する。＜NCPR (A)認定＞
9. 新生児期に intensive な治療と看護を要する子どもとその家族への最善な支援方策を説明できる。
10. 産婦の安全性を改善するためのマタニティケアチームのあり方について説明できる。

■ 学習の進め方

「AL」

1. 課題事例学習：課題事例担当の学生は、妊娠期、分娩期、産褥/新生児期のハイリスク事例について事例場面を理解し、予測される病態と必要とされる対応を検討し、事例場面当事者(助産師)の立場からの支援を資料にまとめ発表する。学生全体で討議を行い、学びを深める。
2. 技術演習：参考書で扱う基本技術を事前に自習しておく。教員によるミニレクチャーで基本技術の留意点を確認後、ロールプレイを通して全員で実演する。
3. 看護計画：授業参加前に個別に模擬事例に対する計画を立案し資料として印刷をして事前に配布しておく。当日は、計画についてグループや全体で発表・討議を行う。
4. ポストテスト：課題事例学習終了後、各事例に関連した内容のポストテストに6回取り組む。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コースオリエンテーション、事例の分担 事前学修：[30分] 助産学実習Ⅰでの経験を想起する。 事後学修：[60分] 担当箇所に関するプレゼンテーションの計画をたてる。	講義・討議	齋藤・東・加藤・塚本
2	妊娠期の事例；妊娠期の出血 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料・プレテストを復習し、ポストテストに備える。	発表・討論	東・加藤
3	分娩期の助産技術；超音波画像診断 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み返し、演習内容と実習体験を統合させる。	演習・討論	東・加藤・林・神谷
4	分娩期の事例；妊娠糖尿病、糖尿病合併妊娠 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料・プレテストを復習し、ポストテストに備える。	発表・討論	東・加藤
5	分娩期の助産技術；分娩誘発と分娩促進、肩甲難産 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み返し、演習内容と実習体験を統合させる。	演習・討論	東・加藤
6	分娩期の事例；妊娠高血圧症候群 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料・プレテストを復習し、ポストテストに備える。	発表・討論	東・加藤
7	分娩期の助産技術；会陰縫合術 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み返し、演習内容と実習体験を統合させる。	演習・討論	東・加藤

No	内容	形式	教員
8	分娩期の事例；硬膜外麻酔、回旋異常 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料・プレテストを復習し、ポストテストに備える。	発表・討論	東・加藤
9	分娩期の助産技術；吸引分娩、鉗子分娩、骨盤位娩出術 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み返し、演習内容と実習体験を統合させる。	演習・討論	東・加藤
10	分娩期の事例；分娩期の出血 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料・プレテストを復習し、ポストテストに備える。	発表・討論	東・加藤
11	分娩期の助産技術；産科出血 事前学修：[30分] 前期授業の学習内容、助産学実習Ⅰの経験を振り返る。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み返し、演習内容と実習体験を統合させる。	演習・討論	東・加藤
12	分娩期の事例；産科ショック 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料・プレテストを復習し、ポストテストに備える。	発表・討論	東・加藤
13	分娩期の助産技術；産科救急 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み返し、演習内容と実習体験を統合させる。	演習・討論	東・加藤
14	分娩期の事例；まとめの事例 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料・プレテストを復習し、ポストテストに備える。	発表・討論	東・加藤
15	分娩期の助産技術；総合演習 事前学修：[30分] 配布資料に示された授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み返し、演習内容と実習体験を統合させる。	演習・討論	東・加藤
16	新生児期の助産技術；NCPR（新生児蘇生専門 A コース） * 3 コマ通し 事前学修：[120分] 教科書内のミニテストを複数回行い、重要事項を説明できる。	講義	廣瀬・皆川・齋藤
17	新生児期の助産技術；NCPR（新生児蘇生専門 A コース）	演習	廣瀬・皆川・齋藤
18	新生児期の助産技術；NCPR（新生児蘇生専門 A コース） 事後学修：[30分] プレポストテストで間違えたテキストの箇所を再読みし理解する。	演習・試験	廣瀬・皆川・齋藤
19	事例：メンタルヘルスに支援を要する褥婦/特定妊婦とその家族への養育支援 事前学修：[30分] 基礎助産学特講Ⅲ-1 や事前配布資料を読み意見を考える。 事後学修：[30分] コンセンサスガイドの該当箇所を読み理解を深める。	発表・討論	齋藤・塚本
20	基本技術演習：妊産褥への心理社会的側面を考慮した関わり・問診 事前学修：[30分] 妊産婦メンタルヘルスマニュアル p.24 までを読む。 事後学修：[30分] 授業に関連する年次報告、コンセンサスガイドを再読する。	演習・GW	齋藤・塚本
21	事例：暴力を受けた女性/周産期に子どもを亡くした親への支援 事前学修：[30分] 事前配布資料にある授業テーマの基礎知識を予習する。 事後学修：[30分] 授業に関連する年次報告や資料を読み返す。	発表・討論	齋藤・塚本
22	基本技術演習：DV スクリーニング、DV/性暴力被害者への初期対応 事前学修：[45分] 事前に示す DVD を閲覧して基礎知識を得ておく。 事後学修：[30分] 関連する支援団体のホームページを閲覧する。	演習・GW	齋藤・塚本
23	事例：ハイリスク新生児とその家族への看護過程 * 2 コマ通し 事前学修：[180分] 個々で関連図を作成し看護計画を立案し前日に印刷・配布する。	発表・討論	齋藤・塚本
24	事例：ハイリスク新生児とその家族への看護過程 事後学修：[30分] 各 G や各学生の資料を再読し、不足していた視点を加筆しておく。	発表・討論	齋藤・塚本
25	ハイリスク児とその家族への看護：ビブリオバトル 事前学修：[120分] テーマに合った書籍を読み、自分の考えを 3 分にまとめておく。 事後学修：[60分] 他の学生が紹介してくれた良本を借りて読む。	発表・討議	齋藤・塚本

No	内容	形式	教員
26	事例：胎児診断により子どもに胎児奇形・染色体異常が疑われた親への支援 事前学修：[30分] 事前配布資料を読み、自分の意見をまとめて討議に備える 事後学修：[30分] 親の会のホームページを閲覧して学ぶ	発表・討議	齋藤・塚本
27	新生児への基本技術演習：新生児の行動と親子関係構築支援 事前学修：[60分] 事前配布資料を読んでくる。 事後学修：[30分] 子どもの行動(合図)をミニノートへまとめておく。	演習・講義	齋藤・塚本
28	ハイリスク新生児への基本技術演習：環境調整・整備、VS 測定 * 2 コマ通し 事前学修：[60分] 事前に指示する参考書の該当箇所を読んでくる。	演習	齋藤・塚本
29	ハイリスク新生児への基本技術演習：哺乳、排泄の支援 事後学修：[30分] 必要な看護技術をミニノートへまとめておく	演習	齋藤・塚本
30	出生直後の新生児とその親への基本技術演習：母子早期接触と NCPR 事前学修：[60分] 早期母子接触・NCPR を実施できるよう復習する。 事後学修：[60分] 判断とケアを振り返り、所定の紙へ課題を書き記す。	演習	齋藤・塚本

■ 教科書

細野茂春(2015)日本版救急蘇生ガイドライン 2015 に基づく新生児蘇生法テキスト改訂第3版. メジカルビュー社.

* 2020 年度に新刊が発刊される可能性があるため、入学後に確認して購入してください

日本デベロップメンタルケア(DC)研究会編、標準 デベロップメンタルケア、メディカ出版、2018 年

日本産婦人科医会、妊産婦メンタルヘルスマニュアル、2017 年

日本産婦人科学会、日本産婦人科医会、産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編 2017、2017 年

http://www.jsog.or.jp/activity/pdf/gl_fujinka_2017.pdf

■ 参考書、参考資料等

他、参考文献、資料は、授業中に適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレテスト、ポストテスト、ミニテストを行った際には、次の回にはフィードバックを行う。演習については随時その場でリフレクションを行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、助産師国家試験取得のために必要な科目であり、助産学実習Ⅱの履修要件科目である。ミニテストおよび最終試験の結果の6割以上を満たすことが、助産学実習Ⅱの履修要件である。

なお、助産学実習Ⅰの単位取得後に履修可能な科目である。

■ 成績評価の仕方

1. 演習への取り組み 40 % 2. 筆記試験 60 % (筆記試験には、演習内で実施するミニテストと、全演習終了後の最終テスト、NCPR の結果を含む)。

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:00~12:50 齋藤(417 研究室)、東(430 研究室)、加藤(433 研究室)、塚本(423 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待します。

■ その他

HNMI151

応用助産学特講Ⅰ

単位：1単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○齋藤 英子

■ 授業の目的

地域社会で生活する母親・子ども・父親や家族への健康支援に必要な理論と技術を学び子どもの成長・発達に応じた、母子や家族への支援について理解を深める。地域社会で活動する他職種や組織との連携・協働について学び、理解を深める。

■ 到達目標

1. 地域母子保健の概念・基本的知識を説明できる。
2. 日本の母子保健に関する統計資料を分析し、日本の母子保健の現状と動向を考察できる。
3. 日本の母子保健行政の仕組みや母子保健施策、地域で生活する母子及び家族のサポートシステムを説明できる。
4. 日本の任意の地区の分析を通して、地域の特徴をふまえた母子保健活動の実際を考察できる。
5. 地域で生活する母子及び家族を支援する助産師の役割、地域で活動する他職種や組織との連携・協働を説明できる。
6. 地域で生活する母子の健康状態を査定し説明できる。
7. 子ども・母親・父親や家族の健康維持・増進のために必要な知識・技術を理解して模倣できる。

■ 学習の進め方

「AL」

授業の展開：事前学習課題の自習、プレゼンテーション、グループディスカッションを通して互いに理解を深める。

授業の進め方：発表・討議の際にはタイムキーパーと司会をたてる。

プレゼンテーション：課題を学習・分析し発表する。プレゼンテーション資料は前日までに TEAMS へ投稿し、発表者のプレゼン資料 PDF を事前に読み、意見交換ができるよう自己学習し準備して臨む。全体討議により互いに理解を深める。

地区診断：各自で設定した地域に関する情報収集・地域踏査・分析を行いレポートを作成する。発表と討議を通して比較・考察する。

家庭訪問計画のグループワーク：生後2週、1か月、3～4か月、6～7か月、9～10か月、1歳の計画を立案し、討議・発表する。

家庭訪問・乳幼児健診演習：ペアワークにて家庭訪問場面と乳幼児健診の計測場面のロールプレイを通して基本技術を体験する。

演習(状況設定問題)：個人とグループで取り組み、グループディスカッションを通して互いに理解を深め考察する。

ミニテスト：指定した範囲の国家試験問題に準ずる範囲から復習テストを行う。ミニテスト・最終テストともに Glexa で行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	母子保健の動向 事後学修：所定の OneDrive のフォルダへ Word 形式で提出	自宅学習	齋藤
2	地区診断 事後学修：所定の OneDrive のフォルダへ Word 形式で提出	自宅学習	齋藤
3	オリエンテーション 地域母子保健の基本と意義 母子保健の現状と動向 事前学修：[30分] 地域とはどんな特性があるのか考え意見をまとめてくる 事後学修：[30分] 課題を分担して、計画をたてる	TEAMS 討議・講義	齋藤
4	子育て世代包括支援・地域で生活する母子および家族へのサポート・母子保健行政 事前学修：[60分] プレゼンテーション資料を読みわからないことを調べる 事後学修：[60分] 子育て世代包括支援のガイドラインを読む	TEAMS 討議・講義	齋藤
5	地区把握と地域母子保健活動の実際 事前学修：[60分] プレゼンテーション資料を読みわからないことを調べる 事後学修：[60分] 子育て世代包括支援のガイドラインを読む	TEAMS 討議・講義	齋藤
6	子どもの成長・発達に応じた母子や家族への支援・子どもと家族の食事 事前学修：[60分] プレゼンテーション資料と教科書の該当月年齢の箇所を読み疑問点を確認する。 事後学修：[60分] 本日学んだことを記述する。	TEAMS 討議・講義	齋藤
7	家庭訪問の看護計画立案 事前学修：[120分] 個別に看護計画を立案し、印刷・前日配布して目を通す。 事後学修：[60分] 自身の計画を修正する。家庭訪問の際の手順・観察シート作成する。	対面 GW・発表・討議	齋藤
8	家庭訪問演習、最終試験 事前学修：[60分] 事前配布資料を読む。家庭訪問に適した服装で参加する。 事後学修：[60分] ロールプレイの際の実施状況と評価を加筆して助産展開を提出する	対面 GW・演習	齋藤

■教科書

水野克己著、お母さんがもっと元気になる乳児健診 第2版、メディカ出版、2015年
我部山キヨ子編、助産学講座9 地域母子保健・国際母子保健 第5版 第1-5章、医学書院、最新刊

■参考書、参考資料等

横尾京子編、助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア、日本看護協会出版会 第5章、最新刊

■フィードバックの仕方

ミニテスト受験数日後に、採点結果を Glexa で公開する。

最終試験の結果、提出した成果物は、解答・解答率・コメント等を TEAMS もしくはメールで伝える。

■他の授業科目との関連

助産学実習Ⅰの履修要件である。

■成績評価の仕方

1. 授業への取り組み(準備性、参加態度) 20% 2. プレゼンテーション 30% 3. 4月課題レポート 10% 4. テスト 40%(最終試験20%、ミニテスト20%)

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-12:50 齋藤(417 研究室・メール)

■その他

HNMI106

応用助産学特講Ⅱ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○東 園子、安部 陽子

■ 授業の目的

周産期医療システムと助産業務およびリスクマネジメントを含む助産管理の特性と方法について学ぶ。また、助産所における業務管理、リーダーシップ、マネジメント、コーディネーションなどの原理と方法について学ぶ。さらに母子や家族への安全、安心、快適なより望ましい助産ケアの提供システムについて追及する。

■ 到達目標

1. 助産管理の概念を言語化することができる。
2. 助産師の定義およびその業務範囲について、保健師助産師看護師法による法的な解釈、および ICM 等の定義をもとに海外の助産師の定義およびその業務範囲について比較することができる。
3. 日本における助産師及び助産業務に関連する法規と責任について説明することができる。
4. 日本の周産期医療システムについて説明することができる。
5. 日本の院内助産等の周産期部門のしくみについて説明することができる。
6. 日本の医療保険制度・診療報酬について理解し、周産期のケア・治療にかかる費用負担のしくみについて説明することができる。
7. 病院における助産管理について説明することができる。
8. 助産所における業務管理について説明することができる。
9. 助産業務と医療安全・災害対策/活動について説明することができる。

■ 学習の進め方

「AL」

前半は事前学習課題を自己学習し、授業に参加する。学習者がテーマごとにプレゼンテーションを行い、資料や実習体験に基づいてグループディスカッションを行う。後半は教員の提示する資料をもとにグループワークおよびディスカッションを行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	コースオリエンテーション、助産業務の概念・助産管理の概念 事前学修：[30分] 助産学実習Ⅰで経験した助産管理について考える。 事後学修：[60分] 担当する授業テーマを決め発表資料を作成する。	講義・発表	東
2	女性・子どもの支援に関わる法 事前学修：[30分] 前期授業内容の女性・子どもの支援についての学習を振り返り、発表資料を作成する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み返し、女性・子どもにの支援に関連した法について整理する。	発表・討論	東
3	助産師の業務に関わる法と責任 事前学修：[30分] 助産師の業務に関わる法と責任に関して調べ、発表資料を作成する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み、助産師業務の法的特徴について整理する。	発表・討論	東
4	日本の周産期医療体制 事前学修：[30分] 日本の周産期医療体制について調べ、発表資料を作成する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み、日本の周産期医療体制の課題について整理する。	発表・討論	東
5	周産期における医療安全 事前学修：[30分] 周産期における医療安全に関して調べ、発表資料を作成する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み、周産期における医療安全の特徴について整理する。	発表・討論	東
6	病院における業務管理① 事前学修：[30分] これまでの実習・臨床経験で行われていた業務管理を振り返る。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み、病院における業務管理の特徴について整理する。	発表・討論	安部、東
7	病院における業務管理② 事前学修：[30分] これまでの実習・臨床経験で行われていた業務管理を振り返る。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み、病院における業務管理の特徴について整理する。	発表・討論	安部、東
8	助産所の管理・運営 事前学修：[30分] 助産所の管理・運営に関して調べ、発表資料を作成する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み、助産所の管理・運営の特徴について整理する。	発表・討論	東

No	内容	形式	教員
9	助産所における助産管理①理念・活動 講師：みやした助産院院長：宮下美代子 事前学修：[30分] 開業助産師・助産師の業務の授業資料を読み、助産所における具体的な助産師の活動について考える。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み、助産所における助産師の活動の特徴について整理する。	講義・討論	東
10	助産所における助産管理②運営・管理 講師：みやした助産院院長：宮下美代子 事前学修：[30分] 開業助産師・助産師の業務の授業資料を読み、助産所における管理について考える。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み、管理的視点で助産所の運営について整理する。	講義・討論	東
11	助産領域における災害対策 事前学修：[30分] 助産領域における災害対策に関する事前配布資料を読み、発表資料を作成する。 事後学修：[30分] 授業の配布資料を読み、助産領域における災害対策の特徴について整理する。	発表・演習	東
12	助産領域における災害対策；HUG（避難所運営ゲーム） 事前学修：[30分] 授業の配布資料を読み、助産領域の視点を踏まえた避難所運営を考える。 事後学修：[30分] 演習を振り返り災害対策における助産師の役割について整理する。	演習・討論	東
13	女性に選ばれる病院経営 事前学修：[30分] 授業の配布資料を読み、女性に選ばれる病院について発表資料を作成する。 事後学修：[30分] 妊娠・出産をする女性が選ぶ病院の要素について整理する。	GW	東
14	女性に選ばれる病院経営の発表 事前学修：[60分] 発表準備をする。 事後学修：[30分] 演習を通して助産管理のあり方について整理する。	発表・討論	東
15	まとめ・科目テスト 事前学修：[30分] これまでの授業内容の復習をする。 事後学修：[30分] テストの自己採点を行い、復習をする。	振り返り・テスト	東

■ 教科書

資料を配布する。

■ 参考書、参考資料等

日本助産師会(2019). 助産業務ガイドライン 2019. <http://www.midwife.or.jp/pdf/guideline/guideline010529.pdf>

成田伸(2018). 助産師基礎教育テキスト 2018年版 第3巻 周産期における医療の質と安全. 東京. 日本看護協会出版会.

我部山キヨ子・毛利多恵子編(2016). 助産学講座 10 - 助産管理 第5版. 医学書院.

福井トシ子編(2019). 新版助産師業務要覧 1 基礎編< 2019年版>. 日本看護協会出版会.

我妻堯(2013). 新訂鑑定からみた産科医療訴訟. 日本評論社.

勝村久司(2004). ぼくの「星の王子さま」へ. 幻冬舎文庫.

日本助産師会災害対策委員会(2017). 助産師が行う災害時支援マニュアル 2017年改訂版. 日本助産師会出版. 他

■ フィードバックの仕方

ポストテストは1週間後(次の講義)にフィードバックを行う。

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時に行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、助産師国家試験資格取得のために必要な科目であり、助産学実習Ⅱの履修要件科目である。

最終試験の結果の6割以上を満たすことが、助産学実習Ⅱの履修要件である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 10% 2. 課題資料・発表内容 30% 3. 筆記試験 60%(筆記試験には授業内で実施するポストテスト6回と科目テスト1回が含まれる)

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の12:30~12:50 東(430 研究室)

■ その他

HNMI152

助産学実習Ⅰ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、千葉 真希、加藤 千穂、塚本 弥恵

■ 授業の目的

周産期にある母子や家族を対象に、助産過程を通して助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な基本的理論・知識、技術、態度を習得する。

■ 到達目標

1. 助産の対象である妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性、子ども、パートナー、家族を身体的・心理的・社会的に統合された全体的な存在として説明できる。
2. 対象となる妊産婦を受け持ち、分娩期、産褥期、新生児、母子訪問時のケアを安全性・快適性に配慮して実践できる。
3. 対象となる妊産婦および胎児・新生児の健康状態を査定し、ケアの計画・実施・評価ができる。
4. 助産過程の展開により、分娩経過の診断と予測を行うことができる。
5. 分娩助産技術、産痛軽減のための技法を安全性・快適性に配慮して実践できる。
6. 産科手術の介補、新生児気道確保、異常発生時の判断と臨時応急の手当てなどの専門技術の必要性を説明できる。
7. 母子や家族に対する援助的人間関係を形成できる。
8. 助産実践時に専門職として必要な倫理に配慮して行動できる。
9. 助産師・医師その他の関連職種との連携と協働を通して、医療チームの一員として行動できる。

■ 学習の進め方

1. 妊娠期・育児期 外来実習：妊婦健診・産褥健診・母乳相談で産科外来を受診する妊婦と新生児健診・乳幼児健診・予防接種で小児保健部を受診する子どもと親への支援を学ぶ。医師外来・助産師外来・母乳相談室の場で、妊娠各期の妊婦健康診査・保健指導などを見学・実施する。母子の1か月健診・乳幼児健診・予防接種・新生児フォローアップ外来における計測・健康診査・育児相談・栄養相談・予防接種などを見学・実施する。
2. 産褥期/継続ケース実習：産褥期もしくは分娩期に関わった母子を受け持ち、産褥期・新生児期の経過をアセスメントし、助産計画を立案・実施する。退院後も継続して受け持ち、リモート家庭訪問実習、産科外来での産褥健診・母乳外来あるいは小児保健部での1ヶ月健診を見学・実施する。
3. 分娩期実習：分娩目的で入院された産婦および家族を受け持ち、分娩進行をアセスメントし、助産計画を立案・実施する。指導者の助言を受けながら、安全で安楽な分娩に向けて産婦を支援する技法を学ぶ。
4. ショートカンファレンス：毎日の実習を振り返り、各々の学生が経験したこと、疑問などを共有し、各期にある女性と子どもと家族への支援、助産師の役割について、学びを共有し深めていく。
5. 実習報告会：事例報告および事例研究を行うための基礎的能力を養い、自らの受け持ち産婦・新生児および家族への助産実践を振り返り、今後の課題を明確にする。また、学生各々の実習経験を共有し、病院における助産ケア、助産師の役割についての学びを深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習時期：1年次 7月下旬～9月上旬

実習期間：6週間

実習場所：日本赤十字社医療センター

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書、参考資料等

実習の進行状況に則して適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

日々の実践後のリフレクションを指導者と教員とで行う。カンファレンスで意見交換をし、コメントを伝える。提出された記録の内容を確認し、コメントを付した記録の返却を通して行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、助産師国家試験受験資格取得のために必須科目である。1年次前期に配置された助産師国家試験科目を履修していることが履修要件である。

■ 成績評価の仕方

1. 周産期各期における行動目標への到達度(態度・実践・実習記録) 50%
2. 実習成果(実習報告会・課題レポート) 30%
3. 課題への取り組み(ポートフォリオ自己評価・指導者評価) 20%

■ オフィスアワー・研究室等

実習前3週間の昼休み、および実習中は適宜対応する。

井村(418研究室)、齋藤(417研究室)、新田(451研究室)、東(430研究室)、加藤(434研究室)

千葉(433 研究室)、塚本(423 研究室)

■ その他

HNMI107

助産学実習Ⅱ

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、千葉 真希、加藤 千穂、塚本 弥恵

■ 授業の目的

周産期にある母子や家族を対象に、助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な理論・知識、技術、態度を習得する。また、地域で生活する母子や家族を対象に、継続した援助を実践し、女性と家族のライフサイクル、リプロダクティブヘルスの視点から助産師としての支援のあり方を考察する。さらに、専門職としてのアイデンティティ形成を目指す。

■ 到達目標

1. 助産の対象である妊娠・分娩・産褥・育児期にある女性、子ども、パートナー、家族を身体的・心理的・社会的に統合された全体的な存在として説明できる。
2. 対象となる産婦を受け持ち、分娩期のケアを安全性・快適性に配慮して実践できる。
3. リプロダクティブ・ヘルス/ライツの視点から対象の健康状態を査定し、ケアの計画・実施・評価ができる。
4. 助産過程の展開により、分娩経過の診断と予測を的確に行うことができる。また、妊娠期から継続した視点で、分娩経過・産褥経過の予測を行うことができる。
5. 分娩介助術、苦痛軽減のための技法を安全性・快適性に配慮して実践できる。
6. 産科手術の介補、新生児気道確保、異常発生時の判断と臨時応急の手当てなどの専門技術の必要性を説明できる。
7. 母子や家族に対する援助的人間関係を形成できる。
8. 助産実践時に専門職として必要な倫理に配慮した行動をとることができる。
9. 助産師・医師その他の関連職種との連携と協働を通して、医療チームの一員として総合的な助産援助を行うことができる。
10. 助産ケアの意義、助産専門職としてのあり方を説明できる。

■ 学習の進め方

1. 事前学習：助産学実習Ⅰを振り返り、各自の課題を明確にして実習準備を整える。
2. オフィスアワー：助産過程の展開、分娩介助など助産技術の個別指導やグループ指導を受けることができるので、自己の学習状況に合わせて主体的に活用し学習をすすめる。
3. 分娩室実習：分娩目的で入院された産婦および家族を受け持ち、産婦の個別性を尊重した助産過程を展開しケアを実践する。分娩室の医療チームの一員として、主体的に実施する。
4. 実習報告会：事例報告および事例研究を行うための基礎的能力を養い、自らの受け持ち産婦・新生児および家族への助産実践を振り返り、今後の課題を明確にする。また、学生各々の実習経験を共有し、病院における助産ケア、助産師の役割についての学びを深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1. 実習期間：1年次 1月中旬～3月上旬
2. 実習期間：6週間
3. 実習場所：日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院、横浜みなと赤十字病院(詳細は実習要項を参照のこと)

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書、参考資料等

これまでの授業や演習等で利用した教科書、資料、ガイドライン等を活用する。実習の進行状況に則して適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

日々の実践後のリフレクションを指導者と教員とで行う。カンファレンスで意見交換をし、コメントを伝える。提出された記録の内容を確認し、コメントを付した記録の返却を通して行う。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、助産師国家試験受験資格取得のために履修が必修の科目である。前期に配置された助産師国家試験受験資格科目の単位取得および後期に配置された助産師国家試験受験資格科目の履修が履修要件である。

■ 成績評価の仕方

以下の観点から総合的・多面的に判断する。1. 実習目標への到達度(態度・実践・記録) 50%、2. 実習成果(実習報告会、レポート) 30%、3. 課題への取り組み(ポートフォリオ自己評価、指導者評価) 20%

■ オフィスアワー・研究室等

実習前3週間の昼休みおよび実習中は適宜対応する。

井村(418研究室)、齋藤(417研究室)、新田(451研究室)、東(430研究室)、講師A(研究室)、加藤(433研究室)、千葉(研究室)、塚本(423研究室)

■ その他

HNMI153

助産学実習Ⅲ

単位：3 単位 履修年次：2 年次 開講期：前期

○井村 真澄、新田 真弓、齋藤 英子、東 園子、加藤 千穂、千葉 真希、塚本 弥恵

■ 授業の目的

地域社会で生活する母子や家族を対象に、助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な理論、知識、技術、態度を学習する。また、助産所における助産管理運営に参画し、望ましいケアや助産管理のあり方を実践の中で学び追求する。さらに、女性と子ども、父親/パートナーとその家族を支援する専門職として、チームワークやリーダーシップ能力を培い、地域社会の保健・医療・福祉関連機関や他職種と連携・協働し、母子保健サービスを推進するための役割を理解する。

■ 到達目標

1. 助産所における女性と子ども、父親/パートナーとその家族へのケア、自然な経過の維持・促進、正常逸脱の予防のためのケアを学び、その根拠を説明できる。
2. 女性と子ども、父親/パートナーとその家族のセルフケア能力を強化してエンパワーするためのケアの特徴を説明できる。
3. 地域における女性と子ども、父親/パートナーとその家族のニーズや多様性を知り、プライバシーを尊重し、安全・快適に社会生活を営めるような生活の援助が実践できる。
4. 開業助産師の助産所および地域での活動の実際を把握し、よりよい助産ケア・サービスを提供するための助産所の管理・運営について説明できる。
5. 地域における開業助産師および助産所の業務範囲や特徴、関連する保健・医療・福祉施設、他職種との連携について理解し、その必要性を説明できる。
6. 開業助産師の職能における活動を理解し、今後の助産実践の拡大等について考察し、論述することができる。

■ 学習の進め方

1. 事前学習：助産学実習Ⅰ、Ⅱを振り返り、自己の課題を明確にして実習準備を整える。
2. オリエンテーション：助産学実習Ⅲ全体、施設別(学内・当該助産所内)オリエンテーション、学内教員からの事前ケース情報をもとに、学生が主体的に助産所指導者と相談し、口頭/記録物によって日々の実習スケジュールを調整、決定する。
3. 臨地学習：指導者と緊密に「報告・連絡・相談」を行い、主体的に妊娠期、分娩期、産褥期、育児期にある母親と生後6か月までの子ども、父親/パートナーとその家族への個別的ケア、集団への支援等を実施する。同時にチームの一員として協調、協働することへの学びを深める。
4. カンファレンス：助産所カンファレンス、担当教員参加カンファレンスでは、グループダイナミクスを活かして学びを共有し深める。
5. 実習報告会・レポート：報告会において複数の助産所における複数学生の体験と学びを学生間で共有し、個人レポートにおいて実習体験をさらに深く考察して自己の学びを深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習期間：1 年次 3 月～2 年次 12 月

実習場所：ウパウパハウス岡本助産院、すこやか助産院、はとがや助産院、ファン助産院、松が丘助産院、みやした助産院、森田助産院、矢島助産院 * 実習施設、実習期間は施設や分娩予定者の状況により変更されることもある。

■ 教科書

特に使用しない。

■ 参考書、参考資料等

実習施設、実習の進行状況に則して適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

実習期間終了後、実習記録全体に教員のコメントを記載しフィードバックする。ケース記録は提出を経て、随時担当者からフィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

助産学実習Ⅱの単位取得が助産学実習Ⅲの履修要件となる。

■ 成績評価の仕方

1. 実習への取り組み 50 %
2. 実習記録 50 %

助産学実習Ⅲは助産院での臨地実習に加え、助産学実習Ⅰ時に受け持ちを開始した継続ケース①の生後9か月・1歳時家庭訪問の実習記録と実習への取り組み、助産学実習Ⅲで開始した継続ケース②の妊娠期から生後6か月時家庭訪問の実習記録と実習への取り組みも含む。

■ オフィスアワー・研究室等

実習前週の昼休み、および実習中は適宜対応する。井村(418 研究室)、齋藤(417 研究室)、新田(451 研究室)、東(430 研究室)、加藤(433 研究室)、塚本(423 研究室)、藤田(421 研究室)、各実習施設担当教員(実習要項参照)

助産学実習Ⅳ

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：前期

○井村 真澄、新田 真弓、齋藤 英子、東 園子、千葉 真希、加藤 千穂、塚本 弥恵

■ 授業の目的

健康な母子や健康を逸脱した母子とその家族を対象に、助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な理論・知識、技術、態度を学習する。また、女性や母子・家族を支援する専門職として、リーダーシップ能力を培い、地域社会や医療機関において、助産実践と保健・医療・福祉との連携のあり方や協働に向けた調整と管理を行うための方法と実際を理解する。

■ 到達目標

1. 実習病院および診療所が所在する地域の特性と地域における実習病院および診療所の役割と機能を理解し、説明することができる。
2. 実習病院および診療所における助産師の実践や業務管理の特徴を捉え、説明することができる。
3. 周産期母子のケアを行う上で必要となる施設内の医療専門職や地域関連機関との連携のあり方を考察し、説明することができる。
4. 対象の安全性と快適性を確保するという視点から、病院および診療所の助産師が果たす役割・意義と今後の課題について考察し、説明することができる。
5. 地域社会に根差した助産師の活動のあり方と助産師の専門性について考察し、説明することができる。
6. 施設内外における様々なレベルの事業企画、運営、評価までの一連の看護提供システムについて理解し、説明することができる。

■ 学習の進め方

1. 事前学習：助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを振り返り、各自の課題を明確にして実習準備を整える。各自で管理および地域連携・助産ケアに主眼をおいた実習計画を立案し、実習施設の指導者へ提示する。
2. オリエンテーション：実習Ⅳ全体、施設別(学内・当該施設内)オリエンテーションをもとに、学生が主体的に指導者と計画内容の実現可能性について検討し、調整する。
3. 臨地実習：実習開始後は自己の実習計画を基本に、適宜調整しながら実践する。
4. カンファレンス：第2週の木曜日または金曜日に、地域中核病院において実習全体の成果を発表し、学びを共有し深める。
5. 実習報告会・レポート：報告会では複数の地域中核病院における学生の体験と学びや診療所での学びを統合して、地域の周産期医療連携について考察する。レポートでは地域中核病院および診療所での実習体験を深く考察し各自の学びを深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習時期：2年次 6～12月

実習期間：2週間

実習場所：＜地域中核病院＞日本赤十字社医療センター、武蔵野赤十字病院、大森赤十字病院、さいたま赤十字病院、横浜市立みなと赤十字病院、葛飾赤十字産院

＜診療所＞大久保クリニック、五の橋産婦人科、土屋産婦人科、育良クリニック

■ 教科書

我部山キヨ子・毛利多恵子編(2016). 助産学講座 10-助産管理. 第5版. 医学書院.

■ 参考書、参考資料等

実習施設、実習の進行状況に則して適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

実習期間終了後、実習記録全体に教員のコメントを記載しフィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

この科目は助産師国家試験受験資格取得のために履修が必須の科目である。

応用助産学特講Ⅰ・Ⅱ、助産学実習Ⅰ・Ⅱの単位を取得していることが助産学実習Ⅳの履修要件となる。

■ 成績評価の仕方

1. 実習記録、報告およびレポート 50%
2. 実習への取り組みや実習カンファレンスへの参加度 50%

■ オフィスアワー・研究室等

実習前週および実習中の木曜日 12:30～12:50、実習中は適宜対応する。

井村(418 研究室)、齋藤(417 研究室)、新田(451 研究室)、東(430 研究室)、加藤(434 研究室)、塚本(423 研究室)、千葉(433 研究室)

実習全般に関する相談は東(430 研究室) s-azuma@redcross.ac.jp,

各実習施設担当教員(実習要項参照)

■ その他

HNMI201

助産学実習V

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：前期

○井村 真澄、齋藤 英子、塚本 弥恵

■ 授業の目的

ハイリスク新生児とその家族を対象に、助産や日常生活の援助を実践し、助産実践に必要な理論・知識、技術、態度を学習する。また、ハイリスク新生児とその家族を支援する専門職として、リーダーシップ能力を培い、地域社会や医療機関において、助産実践と保健・医療・福祉との連携の在り方や協働に向けた調整と管理を行うための方法と実際を理解することができる。

■ 到達目標

1. ハイリスク児の身体的・心理社会的な成長・発達の特徴や病態を理解し説明することができる。
2. ハイリスク児の胎児期から現在までの生活状況および身体的・心理社会的特性を病態をふまえて、全体的に捉え説明することができる。
3. ハイリスク児の特性や個別性を考慮したケアを立案し、安全に実施し、その結果を評価することができる。
4. ハイリスク児をもつ親や家族を生活者の視点から捉えて、心理・社会的側面から理解し、必要な援助について考え実践することができる。
5. 新生児医療に特徴的な治療やケアの実際を、受け持ちケースや治療中の児の見学を通して把握し説明することができる。
6. ハイリスク児とその親・家族を支援するために、保健・医療・福祉の専門職との協働の重要性を認識し、その中の看護の役割・機能について考察し説明することができる。
7. 高度医療を駆使している新生児医療に潜在する諸問題を、医療を受ける顧客と医療提供者の両側面について、実践における学習を通して倫理的な側面から考察し説明することができる。

■ 学習の進め方

1. 事前学習：助産学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを振り返り、各自の課題を明確にして実習準備を整える。
2. オリエンテーション：助産学実習V全体、施設別(学内・当該施設内)オリエンテーションをもとに実習準備を行う。
3. 臨地実習：軽症の保育器またはコットに収容されている児とその家族を受け持ち、必要なケア計画を立案・実施する。受け持ちケースへの面談やコンサルテーションなどには適宜、実習指導者と一緒に参加し、ケアを多角的に学ぶ。
4. カンファレンス：毎日、実習終了前に30分程度ショートカンファレンスを行う。実習最終日に受け持ち児へのケアを通しての学びを発表し、考察を深める。
5. 実習報告会・レポート：報告会において2施設における学生の体験と学びを共有し、レポートにおいて実習体験を深く考察し各自の学びを深める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

実習時期：2年次 6～8月

実習期間：1～2週間

実習場所：日本赤十字社医療センター、葛飾赤十字産院

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

実習施設、実習の進行状況に則して適宜提示する。

■ フィードバックの仕方

日々の記録、週の記録に教員のコメントを記載し返却する。受け持ち児のケア計画について中間、最終カンファレンス後に指導者、教員より口頭にて行う。実習期間終了後、実習記録全体に教員のコメントを記載し返却する。

■ 他の授業科目との関連

この科目は助産師国家試験受験資格取得のために履修が必須の科目である。

実践助産学演習Ⅳ、助産学実習Ⅰ・Ⅱの単位を取得していることが助産学実習Vの履修要件となる。

■ 成績評価の仕方

1. 各実習目標への到達度(態度・実践・実習記録) 50%、2. 実習成果(実習報告会・レポート) 30%、3. 課題への取り組み(事前課題、ポートフォリオ) 20%

■ オフィスアワー・研究室等

実習前週および実習中は適宜対応する。塚本(423 研究室)、齋藤(417 研究室)、井村(418 研究室)

■ その他

HNMI202

基礎看護学特論(A)

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○川原 由佳里

■ 授業の目的

研究テーマに関わる概念の分析を通じて、研究テーマへのアプローチの基盤となる哲学及び思想的パースペクティブを明確化する。

■ 到達目標

1. 研究テーマに関わる主要な概念を明確化する
- 2.1. に関する文献の抄読を通じて概念のさまざまな用法を明らかにする
3. 概念のさまざまな用法を比較検討することで、概念の用法に影響を及ぼす理論的文脈を明確化する
4. 概念の帰結を明らかにする
5. 関連する他の概念との比較を通じて、概念の境界を明確化する
6. 概念へのアプローチのもととなる認識論的・存在論的前提を明確化する

■ 学習の進め方

毎回、各自の研究テーマに関連した概念についてプレゼンテーションし、それについて討論しあう。したがって、各自の研究の進捗状況に応じて授業を展開していく。

※原則、課題提出や遠隔授業の方式(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)で進める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	同時双方向型 (以下全て同じ) 演習	川原
2	主要な概念の明確化	演習	川原
3	主要な概念の検討：用法の明確化	演習	川原
4	主要な概念の検討：用法の明確化	演習	川原
5	主要な概念の検討：さまざまな用法の比較	演習	川原
6	主要な概念の検討：さまざまな用法の比較	演習	川原
7	関連する概念の検討	演習	川原
8	関連する概念の検討	演習	川原
9	概念の用法に影響する文脈の明確化	演習	川原
10	概念の用法に影響する文脈の明確化	演習	川原
11	概念の帰結の明確化	演習	川原
12	概念の帰結の明確化	演習	川原
13	概念へのアプローチのもととなる認識論的・存在論的前提の明確化	演習	川原
14	概念へのアプローチのもととなる認識論的・存在論的前提の明確化	演習	川原
15	まとめ	演習	川原

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

ウォーカー他、中木高夫他(訳)、看護における理論構築の方法、医学書院、2008年

■ フィードバックの仕方

レポートにコメントをし、提出より1か月までに、院生室に返却いたします。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究Ⅱ・Ⅲを通じて研究を進めます。

■ 成績評価の仕方

演習への参加度 30%、課題の発表内容と方法 30%、レポート 40%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原研究室(447)

■ その他
HDNU100

基礎看護学特論(B)

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○守田 美奈子、吉田 みつ子

■ 授業の目的

自己の研究疑問を明確にするために、関連する理論や文献の抄読を通して、関心のある看護現象への理解を深める。同時に研究方法に関する理解も深める。

■ 到達目標

- 1) 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択する。
- 2) 文献検討を行い、現象理解を深めることができる。
- 3) 現象の理解に基づき、研究疑問を明確にすることができる。

■ 学習の進め方

学生の問題意識にそって文献検討を行う。理論や文献の検討を通して、研究課題を明確にし、看護の諸現象についての考察を深めることができるよう、自己学習を十分に行う。さらに、自己の考えを十分表現し、整理できるように主体的に討論等を進める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究課題の検討 1 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田
2	研究課題の検討 2 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田
3	研究課題の検討 3 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田
4	研究課題の検討 4 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
5	文献検討 1 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
6	文献検討 2 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
7	文献検討 3 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
8	文献検討 4 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
9	文献検討 5 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田

No	内容	形式	教員
10	文献検討 6 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
11	研究課題と研究方法論 1 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
12	研究課題と研究方法論 2 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
13	研究課題と研究方法論 3 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
14	研究課題と研究方法論 4 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
15	研究課題と研究方法論 5 事前学修：[60分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田

■ 教科書

特に指定しない。

■ 参考書、参考資料等

第1回目の授業時間に提示する。

■ フィードバックの仕方

レポート課題はコメントを付して、授業終了後に返却する。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学研究を進める上で土台となる。

■ 成績評価の仕方

授業への参加度 30%、プレゼンテーション内容と方法 30%、レポート課題 40%で評価する。

■ オフィスアワー・研究室等

随時、メールにて受け付けます

■ その他

HDNU100

基礎看護学特別研究-1 (A)

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○川原 由佳里、高田 早苗

■ 授業の目的

院生の関心領域を中心に、研究文献を購読したり批判的に検討したりしながら各人の研究の焦点を明確にする。これらの議論を通して研究方法や自己の探究する看護現象への理解を深め、研究可能なテーマを絞っていき、研究の進行をはかる。

■ 到達目標

1. 臨床場面での経験を振り返る。
2. 文献の抄読を通じてテーマに関する幅広い知識を身につける。
3. 研究論文のクリティークを通じて研究疑問に関する既存の知識、アプローチの実際を知る。
4. テーマに即した適切な研究アプローチについて検討する。
5. 研究課題を明確にする。

■ 学習の進め方

毎回、各自の関心領域について文献や自らの経験の振り返りをもとに、研究テーマに関する進行状況をプレゼンテーションし、それについて討論しあう。したがって、各自の研究の進捗状況に応じて授業を展開していく。学生の関心に従い文献を選択し購読、議論を毎回行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	演習	川原・高田
2	研究疑問の明確化	演習	川原・高田
3	研究疑問の明確化	演習	川原・高田
4	研究疑問の明確化	演習	川原・高田
5	文献検討：データベースの使用と検索ワード	演習	川原・高田
6	文献検討：国内の研究論文の検索	演習	川原・高田
7	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
8	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
9	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
10	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
11	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
12	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
13	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
14	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
15	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
16	文献検討：国内の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
17	文献検討：国内の研究論文のまとめ	演習	川原・高田
18	文献検討：海外の研究論文の検索	演習	川原・高田
19	文献検討：海外の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
20	文献検討：海外の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
21	文献検討：海外の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
22	文献検討：海外の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
23	文献検討：海外の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
24	文献検討：海外の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
25	文献検討：海外の研究論文のクリティーク	演習	川原・高田
26	専門家へのヒヤリング	演習	川原・高田
27	専門家へのヒヤリング	演習	川原・高田
28	副指導教員とのゼミ	演習	川原・高田
29	副指導教員とのゼミ	演習	川原・高田

No	内容	形式	教員
30	まとめ	演習	川原・高田

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

バーンズ&グローブ看護研究入門原著第7版、Suzan K.Grove 他、エルゼビアジャパン

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究-2・-3 を通じて研究を進めます。

■ 成績評価の仕方

演習への参加度 30 %、課題の発表内容と方法 30 %、レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原研究室(447)

■ その他

HDNU180

基礎看護学特別研究-1(B)

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○守田 美奈子、吉田 みつ子

■ 授業の目的

個々の研究課題を明確にし、それを探求するための研究方法を検討する。

■ 到達目標

- 1) 自己の研究課題が明確になるよう関連の理論や文献についてクリティークを行うことができる。
- 2) 研究課題を明確にすることができる。
- 3) 研究課題に即して研究方法を検討する。
- 4) 研究計画書を立案することができる。

■ 学習の進め方

学生の学習課題を考慮して進める。学習課題の遂行に向けて、自ら学習内容や検討課題を提示し、それに関する意見交換を行う。原則としては、1年次には、学生各人の研究テーマを中心に文献購読を行う。文献検討を行う中で、いくつかのテーマを選択し、研究の意義や研究方法を検討する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究テーマの検討 1 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田
2	研究テーマの検討 2 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田
3	研究テーマの検討 3 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅学習	守田・吉田
4	研究テーマの検討 4 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向	守田・吉田
5	研究テーマの検討 5 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
6	研究テーマの検討 6 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
7	研究テーマの検討 7 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
8	研究テーマの検討 8 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
9	関連文献の検討 1 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田

No	内容	形式	教員
10	関連文献の検討 2 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
11	関連文献の検討 3 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
12	関連文献の検討 4 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
13	関連文献の検討 5 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
14	関連文献の検討 6 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
15	関連文献の検討 7 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論に関する文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
16	関連文献の検討 8 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
17	関連文献の検討 9 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
18	関連文献の検討 10 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した理論や文献を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
19	研究方法論の検討 1 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題や理論、文献について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
20	研究方法論の検討 2 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
21	研究方法論の検討 3 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田

No	内容	形式	教員
22	研究方法論の検討 4 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
23	研究方法論の検討 5 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
24	研究方法論の検討 6 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
25	研究方法論の検討 7 事前学修：[120分] 関心のある看護現象に即した研究方法論を選択、発表資料を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、研究課題、研究方法論について自分の考えをまとめ、記述する。	同時双方向型	守田・吉田
26	予備調査計画書の作成 事前学修：[120分] 予備調査計画書を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、予備調査計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
27	予備調査計画書の作成 事前学修：[120分] 予備調査計画書を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、予備調査計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
28	予備調査計画書の作成 事前学修：[120分] 予備調査計画書を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、予備調査計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
29	予備調査計画書の作成 事前学修：[120分] 予備調査計画書を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、予備調査計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
30	予備調査計画書の作成 事前学修：[120分] 予備調査計画書を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、予備調査計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田

■ 教科書

随時資料提示

■ 参考書、参考資料等

第1回目の授業時間に提示する。

■ フィードバックの仕方

レポート課題は、提出後1週間以内にコメントを付して返却する。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特論の土台の上に、研究を進めていく

■ 成績評価の仕方

授業への参加 30%、課題の発表内容と方法 30%、レポート 40%で評価する。

■ オフィスアワー・研究室等

随時、メールにて受け付けます

■ その他

HDNU180

基礎看護学特別研究-2(A)

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○川原 由佳里、高田 早苗

■ 授業の目的

個々の研究を進めるなかで生じる疑問や課題について、文献やフィールドノートなどをもとにディスカッションを行い、自己の探求する看護現象への研究的アプローチと倫理的配慮について検討する。研究デザインに応じて、データ収集とデータ分析を実施する。

■ 到達目標

1. 研究実施に際して必要な倫理的配慮を検討する。
2. 関心のある看護現象を探求するためのフィールドを確保する。
3. 研究参加者となる可能性のある候補者への説明と同意のプロセスを経て、研究参加者を得る。
4. 研究デザインに応じて観察、面接、質問紙等の方法を用いてデータを収集する。
5. 研究デザインに応じてデータ分析を行なう。
6. スーパーバイズを受け妥当性・信頼性を確保しながら上記のデータ収集と分析を行なう。

■ 学習の進め方

学生の関心に従い文献やフィールドノートの検討を毎回行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	川原・高田
2	研究課題の明確化 研究の背景に関する検討	演習	川原・高田
3	研究課題の明確化 研究の背景に関する検討	演習	川原・高田
4	研究課題の明確化 文献レビューのまとめ	演習	川原・高田
5	研究課題の明確化 研究目的と課題の明確化	演習	川原・高田
6	研究課題の明確化 研究の意義と必要性	演習	川原・高田
7	研究倫理審査の実際 自由意志に基づく同意/研究参加者の脆弱性に対する倫理的配慮	演習	川原・高田
8	研究倫理審査の実際 研究に参加することによる不利益に対する配慮/個人情報の保護/研究結果の還元	演習	川原・高田
9	研究施設と研究参加者へのアプローチ	演習・フィールドワーク	川原・高田
10	研究フィールドへの入り方：研究者の立場	演習・フィールドワーク	川原・高田
11	データ収集 研究フィールドの特徴の理解	演習・フィールドワーク	川原・高田
12	データ収集 研究フィールドの特徴の理解	演習・フィールドワーク	川原・高田
13	データ収集・データ分析の実際(研究デザインに応じて)	演習	川原・高田
14	データ収集・データ分析の実際	フィールドワーク	川原・高田
15	データ収集・データ分析の実際	演習	川原・高田
16	データ収集・データ分析の実際	フィールドワーク	川原・高田
17	データ収集・データ分析の実際	演習	川原・高田
18	データ収集・データ分析の実際	フィールドワーク	川原・高田
19	データ収集・データ分析の実際	演習	川原・高田
20	データ収集・データ分析の実際	フィールドワーク	川原・高田
21	データ収集・データ分析の実際	演習	川原・高田
22	データ収集・データ分析の実際	フィールドワーク	川原・高田

No	内容	形式	教員
23	データ収集・データ分析の実際	演習	川原・高田
24	データ収集・データ分析の実際	フィールドワーク	川原・高田
25	データ収集・データ分析の実際	演習	川原・高田
26	データ収集・データ分析の実際	フィールドワーク	川原・高田
27	データ収集・データ分析の実際	演習	川原・高田
28	データ収集・データ分析の実際	フィールドワーク	川原・高田
29	データ収集・データ分析の実際	演習	川原・高田
30	データ収集・データ分析の実際	フィールドワーク	川原・高田

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

バーンズ&グローブ看護研究入門原著第7版、Suzan K.Grove 他、エルゼビアジャパン

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究-1を履修していること。

■ 成績評価の仕方

演習への参加と自己の課題への取り組み 40%、レポート 60%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原研究室(447)

■ その他

HDNU280

基礎看護学特別研究-2(B)

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○守田 美奈子、吉田 みつ子

■ 授業の目的

自己の研究課題を明確にするとともに、研究計画書を作成し、それに基づき予備的な研究を実施し研究の遂行可能性を検討する。

■ 到達目標

- 1) 研究テーマに沿った研究計画書を作成できる。
- 2) 研究計画書の倫理審査を受け、研究を進めるための準備を整えることができる。
- 3) 研究課題に即して研究活動を進めることができる。

■ 学習の進め方

学生の研究課題に即して、看護現象を探求するための理論と方法を検討する。研究計画に沿って研究を実践し、そこで得られたデータの分析方法や記述内容について、ゼミを通して意見交換を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究計画書の検討 1 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅課題	守田・吉田
2	研究計画書の検討 2 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅課題	守田・吉田
3	研究計画書の検討 3 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅課題	守田・吉田
4	研究計画書の検討 4 事前学修：[120分] 研究計画書を作成する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
5	予備調査データの分析 1 事前学修：[120分] 予備調査データを分析、解釈する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
6	予備調査データの分析 2 事前学修：[120分] 予備調査データを分析、解釈する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
7	予備調査データの分析 3 事前学修：[120分] 予備調査データを分析、解釈する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
8	予備調査データの分析 4 事前学修：[120分] 予備調査データを分析、解釈する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
9	予備調査データの分析 5 事前学修：[120分] 予備調査データを分析、解釈する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
10	予備調査データの分析 6 事前学修：[120分] 予備調査データを分析、解釈する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
11	予備調査データの分析 7 事前学修：[120分] 予備調査データを分析、解釈する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
12	予備調査データの分析 8 事前学修：[120分] 予備調査データを分析、解釈する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田

No	内容	形式	教員
13	予備調査データの分析 9 事前学修：[120分] 予備調査データを分析、解釈する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を吟味する。	同時双方向型	守田・吉田
14	研究計画書の修正 1 事前学修：[120分] 予備調査結果を踏まえ、研究課題、研究方法を吟味する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を修正する。	同時双方向型	守田・吉田
15	研究計画書の修正 2 事前学修：[120分] 予備調査結果を踏まえ、研究課題、研究方法を再検討、研究の実現可能性を検討する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を修正する。	同時双方向型	守田・吉田
16	研究計画書の修正 3 事前学修：[120分] 予備調査結果を踏まえ、研究課題、研究方法を再検討、研究の実現可能性を検討する。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、課題を明確化し、研究計画書を修正する。	同時双方向型	守田・吉田
17	本調査のデータ収集と分析 1 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
18	本調査のデータ収集と分析 2 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
19	本調査のデータ収集と分析 3 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
20	本調査のデータ収集と分析 4 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
21	本調査のデータ収集と分析 5 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
22	本調査のデータ収集と分析 6 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
23	本調査のデータ収集と分析 7 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
24	本調査のデータ収集と分析 8 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
25	本調査のデータ収集と分析 9 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
26	本調査のデータ収集と分析 10 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
27	本調査のデータ収集と分析 11 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
28	本調査のデータ収集と分析 12 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
29	本調査のデータ収集と分析 13 事前学修：[120分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田

No	内容	形式	教員
30	本調査のデータ収集と分析 14 事前学修：[120 分] 本調査のデータ収集・分析してくる。 事後学修：[120 分] 討議を踏まえ、さらに分析を進める。	FW・同時双方向 型	守田・吉田

■ 教科書

随時、資料の提示、確認をする

■ 参考書、参考資料等

学生の関心領域に合わせて文献を選択する。

■ フィードバックの仕方

課題レポートはコメントを付して、提出後 1 週間以内に返却する。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究 1 の次のステップとして研究を進める。

■ 成績評価の仕方

自己課題への取り組み 30 %、プレゼンテーション 30 %、課題レポート 40 %で評価する。

■ オフィスアワー・研究室等

随時メールにて受け付けます。

■ その他

HDNU280

基礎看護学特別研究-3 (A)

単位：2 単位 履修年次：3 年次 開講期：通年

○川原 由佳里、高田 早苗

■ 授業の目的

自己の研究課題に対し、それに適した研究活動を行い、研究論文を完成させることを通して研究遂行能力を高める。

■ 到達目標

1. 研究計画書にそってデータ収集、分析を行う。
2. 得られた結果に基づき考察を行い、それらを記述する。
3. 研究論文として完成させる。
4. 論文審査のプロセスを通して、自己の研究能力における課題を明確にすることができる。
5. 看護専門家あるいは看護研究、教育者として、今後どのようなキャリア形成を行うのか、自己の課題を明確にできる。

■ 学習の進め方

院生の学習課題を考慮して進める。特別研究Ⅲでは、ゼミでの意見交換あるいは自己の取り組みを通して、研究の最終段階として論文作成に至るプロセスを学ぶ。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	川原・高田
2	データの収集・分析	演習	川原・高田
3	データの収集・分析	フィールドワーク	川原・高田
4	データの収集・分析	演習	川原・高田
5	データの収集・分析	フィールドワーク	川原・高田
6	データの収集・分析	演習	川原・高田
7	データの収集・分析	フィールドワーク	川原・高田
8	データの収集・分析	演習	川原・高田
9	データの収集・分析	フィールドワーク	川原・高田
10	データの分析	演習	川原・高田
11	データの分析	演習	川原・高田
12	データの分析	演習	川原・高田
13	データの分析	演習	川原・高田
14	データの分析：結果の構成についての検討	演習	川原・高田
15	データの分析：結果の構成についての検討	演習	川原・高田
16	データの分析：結果の構成についての検討	演習	川原・高田
17	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・高田
18	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・高田
19	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・高田
20	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・高田
21	研究論文の作成：結果の記述	演習	川原・高田
22	研究論文の作成：考察	演習	川原・高田
23	研究論文の作成：考察	演習	川原・高田
24	研究論文の作成：考察	演習	川原・高田
25	研究論文の作成：考察	演習	川原・高田
26	研究論文の作成：全体構成の確認	演習	川原・高田
27	研究論文の作成：抄録の作成	演習	川原・高田

No	内容	形式	教員
28	研究論文の審査	演習	川原・高田
29	研究論文の修正と発表に向けての準備	発表・演習	川原・高田
30	研究論文の発表、今後の研究課題の明確化	発表	川原・高田

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

バーンズ&グローブ看護研究入門原著第7版、Suzan K.Grove 他、エルゼビアジャパン

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究-1、-2を履修していること

■ 成績評価の仕方

自己課題に対する取り組み 30 %、資料作成および発表内容 40 %、課題レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原研究室(447)

■ その他

HDNU380

基礎看護学特別研究-3(B)

単位：2単位 履修年次：3年次 開講期：通年

○守田 美奈子、吉田 みつ子

■ 授業の目的

自己の研究課題に対し、それに適した研究活動を行い、研究論文を完成させることを通して研究遂行能力を高める。

■ 到達目標

- 1) 研究計画書にそってデータ収集、分析を行う。
- 2) 得られた結果に基づき考察を行い、それらを記述する。
- 3) 研究論文として完成させる。
- 4) 博士論文審査のプロセスを通して、自己の研究能力における課題を明確にすることができる。
- 5) 看護専門家あるいは看護研究、教育者として、今後どのようなキャリア形成を行うのか、自己の課題を明確にできる。

■ 学習の進め方

学生の学習課題を考慮して進める。特別研究3では、ゼミや発表会での意見交換あるいは自己の取り組みを通して、研究の最終段階として論文作成に至るプロセスを学ぶ。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	データ収集と分析 1 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅課題	守田・吉田
2	データ収集と分析 2 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅課題	守田・吉田
3	データ収集と分析 3 事前学修：なし 事後学修：なし	自宅課題	守田・吉田
4	データ収集と分析 4 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
5	データ収集と分析 5 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
6	データ収集と分析 6 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
7	データ収集と分析 7 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
8	データ収集と分析 8 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
9	データ収集と分析 9 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
10	データ収集と分析 10 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
11	データ収集と分析 11 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田

No	内容	形式	教員
12	データ収集と分析 12 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
13	データ収集と分析 13 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
14	データ収集と分析 14 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
15	データ収集と分析 15 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
16	データ収集と分析 16 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
17	データ収集と分析 17 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
18	データ収集と分析 18 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
19	データ収集と分析 19 事前学修：[120分] データを分析・解釈、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、さらにデータ分析を進める。	FW・同時双方向型	守田・吉田
20	考察、論文構成、内容の検討 1 事前学修：[120分] 考察の構成を検討し、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の構成を再検討する。	同時双方向型	守田・吉田
21	考察、論文構成、内容の検討 2 事前学修：[120分] 考察の構成、内容を検討し、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	同時双方向型	守田・吉田
22	考察、論文構成、内容の検討 3 事前学修：[120分] 考察を書いてくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	同時双方向型	守田・吉田
23	考察、論文構成、内容の検討 4 事前学修：[120分] 考察を書いてくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	同時双方向型	守田・吉田
24	考察、論文構成、内容の検討 5 事前学修：[120分] 考察を書いてくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	同時双方向型	守田・吉田
25	考察、論文構成、内容の検討 6 事前学修：[120分] 考察を書いてくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	同時双方向型	守田・吉田
26	考察、論文構成、内容の検討 7 事前学修：[120分] 考察を書いてくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、考察の記述を進める。	同時双方向型	守田・吉田
27	考察、論文構成、内容の検討 8 事前学修：[120分] 論文全体の構成を整え、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、論文全体を見直し、検討する。	同時双方向型	守田・吉田
28	考察、論文構成、内容の検討 9 事前学修：[120分] 論文全体の構成を整え、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、論文全体を見直し、検討する。	同時双方向型	守田・吉田

No	内容	形式	教員
29	考察、論文構成、内容の検討 10 事前学修：[120分] 論文全体の構成を整え、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、論文全体を見直し、検討する。	同時双方向型	守田・吉田
30	考察、論文構成、内容の検討 11 事前学修：[120分] 論文全体の構成を整え、記述してくる。 事後学修：[120分] 討議を踏まえ、論文全体を見直し、検討する。	同時双方向型	守田・吉田

■ 教科書

随時、資料の確認をする

■ 参考書、参考資料等

第1回目の授業時間に提示する。

■ フィードバックの仕方

各授業終了時に発表資料、内容についてコメントしフィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

基礎看護学特別研究1、2につづく研究活動、論文作成の最終段階となる。

■ 成績評価の仕方

自己課題に対する取り組み 50%、資料作成および発表内容 50%

■ オフィスアワー・研究室等

随時、メールにて受け付けます

■ その他

HDNU380

母性看護学特論

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓

■ 授業の目的

母性看護学・助産学領域におけるケア対象のより良好な健康をめざし、対象の健康課題を多角的に分析する。本領域に関連する概念・理論・モデルについて分析し、それらの動向と課題および実践に活用できるオリジナリティのあるケアの構築について探求する。

■ 到達目標

1. 対象の健康課題および健康支援に関する概念・理論・モデルについて詳細に説明できる。
2. 母性看護学・助産学領域の研究の動向について説明できる。
3. 母性看護学・助産学領域の国内外の研究論文をクリティークできる。
4. 対象の健康支援に向けた課題と研究方法について説明できる。

■ 学習の進め方

主にゼミ形式で進める。学生各自の関心あるテーマ、課題について資料作成・発表し、討議する。

【事前学習】論文クリティーク資料は前週に配布し読んでおく。

自己の学修課題に関する文献等に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。

【事後学習】ゼミにおいて明確になった課題を整理・検討し、次回までの作業課題に取り組む。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義・討議	全員
2	対象の健康課題に関する文献レビュー①	発表・討議	全員
3	対象の健康課題に関する文献レビュー②	発表・討議	全員
4	母性看護学・助産学領域における概念・理論・モデルの動向①	発表・討議	全員
5	母性看護学・助産学領域における概念・理論・モデルの動向②	発表・討議	全員
6	母性看護学・助産学領域の研究論文のクリティーク①	発表・討議	全員
7	母性看護学・助産学領域の研究論文のクリティーク②	発表・討議	全員
8	母性看護学・助産学領域の研究論文のクリティーク③	発表・討議	全員
9	母性看護学・助産学領域の研究論文のクリティーク④	発表・討議	全員
10	母性看護学・助産学領域の研究論文のクリティーク⑤	発表・討議	全員
11	母性看護学・助産学領域の研究の動向と課題①	発表・討議	全員
12	母性看護学・助産学領域の研究の動向と課題②	発表・討議	全員
13	対象の健康支援に向けての課題と研究方法①	発表・討議	全員
14	対象の健康支援に向けての課題と研究方法②	発表・討議	全員
15	まとめ	発表・討議	全員

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

授業中に適宜紹介する。

■ 他の授業科目との関連

共通前期科目と関連させて、本科目に取り組むこと。

■ 成績評価の仕方

1. 自己の課題への取り組み 20 %
2. プレゼンテーション 30 %
3. 課題レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30 - 13:00

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

齋藤(417 研究室)、新田(451 研究室)

■ その他

HDAN100

母性看護学特別研究-1

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓

■ 授業の目的

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母性看護学・助産学領域におけるオリジナリティのある自己の研究課題に即した研究方法を追求する。

■ 到達目標

1. 自己の研究疑問を明確に説明し記述できる。
2. 自己の研究課題について文献検索とクリティークを行い、説明し記述できる。
3. 自己の研究問題を明確化し、研究目的を明確に説明し記述できる。
4. 自己の研究目的に即した研究方法を説明し記述できる。

■ 学習の進め方

1. 主にゼミ形式で進める。学生各自の関心あるテーマ、課題について資料作成・発表し、討議する。
2. 事前学修：論文クリティーク資料は前週に配布し読んでおく。
自己の学修課題に関する文献等に基づき、プレゼンテーション資料を作成する。
3. 事後学修：ゼミにおいて明確になった課題を整理・検討し、次回までの作業課題に取り組む。
4. 1 年次には、先行研究を検討しながら、研究課題と研究方法を検討する。具体的には、文献クリティーク、系統的文献レビューを行い、研究課題の明確化、研究計画書の作成など、具体的な研究への取り組みについて討議する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義・討議	井村 齋藤、新田
2	研究課題に関連する文献検討①	発表・討議	井村 齋藤、新田
3	研究課題に関連する文献検討①	発表・討議	井村 齋藤、新田
4	研究課題に関連する文献検討②	発表・討議	井村 齋藤、新田
5	研究課題に関連する文献検討②	発表・討議	井村 齋藤、新田
6	研究課題に関連する文献検討③	発表・討議	井村 齋藤、新田
7	研究課題に関連する文献検討③	発表・討議	井村 齋藤、新田
8	研究課題に関連する文献検討④	発表・討議	井村 齋藤、新田
9	研究課題に関連する文献検討④	発表・討議	井村 齋藤、新田
10	研究課題の検討①	発表・討議	井村 齋藤、新田
11	研究課題の検討①	発表・討議	井村 齋藤、新田
12	研究課題の検討②	発表・討議	井村 齋藤、新田
13	研究課題の検討②	発表・討議	井村 齋藤、新田
14	研究課題の検討③	発表・討議	井村 齋藤、新田
15	研究課題の検討③	発表・討議	井村 齋藤、新田

No	内容	形式	教員
16	研究課題に向けての予備調査とデータ分析①	発表・討議	井村 齋藤、新田
17	研究課題に向けての予備調査とデータ分析①	発表・討議	井村 齋藤、新田
18	予備調査とデータ分析②	発表・討議	井村 齋藤、新田
19	予備調査とデータ分析②	発表・討議	井村 齋藤、新田
20	予備調査データと関連理論の討議①	発表・討議	井村 齋藤、新田
21	予備調査データと関連理論の討議①	発表・討議	井村 齋藤、新田
22	予備調査データと関連理論の討議②	発表・討議	井村 齋藤、新田
23	予備調査データと関連理論の討議②	発表・討議	井村 齋藤、新田
24	計画書作成に向けての討議①	発表・討議	井村 齋藤、新田
25	計画書作成に向けての討議①	発表・討議	井村 齋藤、新田
26	計画書作成に向けての討議②	発表・討議	井村 齋藤、新田
27	計画書作成に向けての討議②	発表・討議	井村 齋藤、新田
28	現状のまとめ	発表・討議	井村 齋藤、新田
29	現状のまとめ	発表・討議	井村 齋藤、新田
30	現状のまとめ	発表・討議	井村 齋藤、新田

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

授業中に適宜紹介する。

■ 他の授業科目との関連

母性看護学特論・共通科目と関連させて本科目に取り組むこと。

■ 成績評価の仕方

1. 研究への取り組み 50 % 2. プレゼンテーション資料 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30 - 12:50

井村(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

齋藤(417 研究室) e-saito@redcross.ac.jp

新田(451 研究室) m.nitta@redcross.ac.jp

■ その他

HDAN180

母性看護学特別研究-2

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓

■ 授業の目的

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母性看護学・助産学領域におけるオリジナリティのある自己の研究課題に基づきフィールドワークを行い、研究方法を追求する。

■ 到達目標

1. 研究計画書を作成することができる。
2. 研究計画書に基づき、研究の一連の過程(データ収集、分析、考察)を論理的、倫理的に遂行することができる。

■ 学習の進め方

文献検討、研究目的の明確化、研究計画書の作成、データ収集など具体的な研究への取り組みについてゼミ形式で討議する。

2年次は、研究計画書を作成し研究計画審査と研究倫理審査を受けて、研究を実施出来るよう準備を整える。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義・討議	井村 齋藤、新田
2	研究課題とデータ収集場所の検討(フィールドでの研究倫理審査)①	発表・討議	井村 齋藤、新田
3	研究課題とデータ収集場所の検討(フィールドでの研究倫理審査)①	発表・討議	井村 齋藤、新田
4	研究課題とデータ収集場所の検討(フィールドでの研究倫理審査)②	発表・討議	井村 齋藤、新田
5	研究課題とデータ収集場所の検討(フィールドでの研究倫理審査)②	発表・討議	井村 齋藤、新田
6	研究計画書の作成①	発表・討議	井村 齋藤、新田
7	研究計画書の作成①	発表・討議	井村 齋藤、新田
8	研究計画書の作成②	発表・討議	井村 齋藤、新田
9	研究計画書の作成②	発表・討議	井村 齋藤、新田
10	研究計画作成・研究計画審査①	発表・討議	井村 齋藤、新田
11	研究計画作成・研究計画審査①	発表・討議	井村 齋藤、新田
12	研究計画作成・研究計画審査②	発表・討議	井村 齋藤、新田
13	研究計画作成・研究計画審査②	発表・討議	井村 齋藤、新田
14	研究倫理審査書類作成	発表・討議	井村 齋藤、新田
15	研究倫理審査書類作成	発表・討議	井村 齋藤、新田
16	収集データの分析①	発表・討議	井村 齋藤、新田
17	収集データの分析①	発表・討議	井村 齋藤、新田
18	収集データの分析と討議②	発表・討議	井村 齋藤、新田

No	内容	形式	教員
19	収集データの分析と討議②	発表・討議	井村 齋藤、新田
20	収集データの分析③	発表・討議	井村 齋藤、新田
21	収集データの分析③	発表・討議	井村 齋藤、新田
22	収集データの分析④	発表・討議	井村 齋藤、新田
23	収集データの分析④	発表・討議	井村 齋藤、新田
24	収集データの分析⑤	発表・討議	井村 齋藤、新田
25	収集データの分析⑤	発表・討議	井村 齋藤、新田
26	収集データの分析⑥	発表・討議	井村 齋藤、新田
27	収集データの分析⑥	発表・討議	井村 齋藤、新田
28	収集データの分析⑦	発表・討議	井村 齋藤、新田
29	収集データの分析⑦	発表・討議	井村 齋藤、新田
30	収集データの分析⑦	発表・討議	井村 齋藤、新田

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

授業中に適宜、紹介する。

■ 他の授業科目との関連

母性看護学特別研究-1・共通科目と関連させて本科目に取り組むこと。

■ 成績評価の仕方

研究への取り組み 50% プレゼンテーション資料 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30 - 13:00

井村研究室(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

齋藤研究室(417 研究室) e-saito@redcross.ac.jp

新田研究室(451 研究室) m.nitta@redcross.ac.jp

■ その他

HDAN280

母性看護学特別研究-3

単位：2単位 履修年次：3年次 開講期：通年

○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓

■ 授業の目的

リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、母性看護学、助産学領域におけるオリジナリティのある自己の研究課題を設定し、研究計画書に基づきデータ収集・分析・考察を行い、論文を執筆する。

■ 到達目標

1. 研究計画書に基づき、研究の一連の過程(データ収集、分析、考察)を論理的、倫理的に遂行することができる。
2. 研究論文を規定に則り作成することができる。

■ 学習の進め方

データの収集と分析、考察など、具体的な研究への取り組みについてゼミ形式で討議する。

3年次は研究計画書に基づき研究を遂行し、研究論文を作成する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義・討議	井村 齋藤、新田
2	収集データの分析①	発表・討議	井村 齋藤、新田
3	収集データの分析①	発表・討議	井村 齋藤、新田
4	収集データの分析②	発表・討議	井村 齋藤、新田
5	収集データの分析②	発表・討議	井村 齋藤、新田
6	収集データの分析③	発表・討議	井村 齋藤、新田
7	収集データの分析③	発表・討議	井村 齋藤、新田
8	収集データの分析④	発表・討議	井村 齋藤、新田
9	収集データの分析④	発表・討議	井村 齋藤、新田
10	収集データの分析⑤	発表・討議	井村 齋藤、新田
11	収集データの分析⑤	発表・討議	井村 齋藤、新田
12	分析データの解釈①	発表・討議	井村 齋藤、新田
13	分析データの解釈①	発表・討議	井村 齋藤、新田
14	分析データの解釈②	発表・討議	井村 齋藤、新田
15	分析データの解釈②	発表・討議	井村 齋藤、新田
16	データに基づく考察①	発表・討議	井村 齋藤、新田
17	データに基づく考察①	発表・討議	井村 齋藤、新田
18	データに基づく考察②	発表・討議	井村 齋藤、新田

No	内容	形式	教員
19	データに基づく考察②	発表・討議	井村 齋藤、新田
20	研究論文の全体構成の検討	発表・討議	井村 齋藤、新田
21	研究論文の全体構成の検討	発表・討議	井村 齋藤、新田
22	研究論文の作成①	発表・討議	井村 齋藤、新田
23	研究論文の作成①	発表・討議	井村 齋藤、新田
24	研究論文の作成②	発表・討議	井村 齋藤、新田
25	研究論文の作成②	発表・討議	井村 齋藤、新田
26	研究論文の作成③	発表・討議	井村 齋藤、新田
27	研究論文の作成③	発表・討議	井村 齋藤、新田
28	研究論文の作成④	発表・討議	井村 齋藤、新田
29	研究論文の作成④	発表・討議	井村 齋藤、新田
30	まとめ	発表・討議	井村 齋藤、新田

■ 教科書

特に指定していない。

■ 参考書、参考資料等

授業中に適宜紹介する。

■ 他の授業科目との関連

母性看護学特別研究-2・共通科目と関連させて本科目に取り組むこと。

■ 成績評価の仕方

研究への取り組み 50% プレゼンテーション資料 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30 - 13:00

井村研究室(418 研究室) imurasue@redcross.ac.jp

齋藤研究室(417 研究室) e-saito@redcross.ac.jp

新田研究室(451 研究室) m.nitta@redcross.ac.jp

■ その他

HDAN380

小児看護学特論

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○江本 リナ

■ 授業の目的

自らの研究課題を明確にするために、子どもとその家族の健康に関する諸理論や国内外の文献を用い、関心のある看護現象の理解を深める。

■ 到達目標

1. 諸理論や概念の分析を通して、関心のある看護現象との関係を論じることができる。
2. 文献レビューを行い、関心のある看護現象に関連した研究の動向と課題を論じることができる。
3. 自己の研究課題を明確にすることができる。

■ 学習の進め方

- (1) 各テーマについて資料を作成し、授業開始前までに Teams のフォルダーにアップする。
- (2) 資料をもとにディスカッションを行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自宅学習課題	自宅学習	江本
2	自宅学習課題	自宅学習	江本
3	自宅学習課題	自宅学習	江本
4	オリエンテーション	同時双方向型	江本
5	関心のある看護現象の検討：課題学習	演習	江本
6	小児看護領域に関連する研究クリティーク①：英文献(量的研究)	同時双方向型	江本
7	小児看護領域に関連する研究クリティーク②：英文献(質的研究)	同時双方向型	江本
8	小児看護領域に関連する研究の動向と課題①：課題の分析／まとめ	同時双方向型	江本
9	関心のある看護現象に関連する主要な理論・概念①：課題学習	同時双方向型	江本
10	関心のある看護現象に関連する主要な理論・概念②：理論	同時双方向型	江本
11	関心のある看護現象に関連する主要な理論・概念③：概念	同時双方向型	江本
12	関心のある看護現象に関連する主要な理論・概念④：まとめ	同時双方向型	江本
13	研究課題の検討①②	同時双方向型	江本
14	研究方法論の探究①②	同時双方向型	江本
15	まとめ	同時双方向型	江本

■ 教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■ 参考書、参考資料等

- (1) Glexa 上に掲載する「日本赤十字看護大学院 小児看護学 Bibliography(修士課程)」を活用する。
- (2) 各回で参考にした文献は、プレゼンテーション資料に記載する。

■ フィードバックの仕方

レポートはコメントを付し、後期開始後に返却する。

■ 他の授業科目との関連

この科目は、小児看護学特別研究-1、小児看護学特別研究-2、小児看護学特別研究-3 の基盤となります。

■ 成績評価の仕方

1. 授業の取り組み 50% (プレゼンテーション 25%/ディスカッション 25%)
2. 課題レポート(プレゼンテーション資料) 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 および 授業終了後 30 分(メールでも可)
江本(419 研究室)

■ その他

HDAN101

小児看護学特別研究-1

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○江本 リナ

■ 授業の目的

小児看護学における探求すべき課題を焦点化するための研究方法を探究する。

■ 到達目標

1. 小児看護学における自らの研究課題を明確にできる。
2. 関連理論や文献のクリティークができる。
3. 研究計画を検討できる。
4. 学際的な観点から討議し、小児看護学の展望について自分の意見を述べることができる。

■ 学習の進め方

課題について資料を作成し、ゼミ形成にて討議する。

【事前学習】 発表資料を準備する。

【事後学習】 ゼミでの検討内容を吟味し、自己の課題を明確化する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	演習	江本
2	研究課題の検討①	演習	江本
3	研究課題の検討②	演習	江本
4	研究課題の検討③	演習	江本
5	研究課題の検討④	演習	江本
6	研究課題に関連する国内外の文献検討①	演習	江本
7	研究課題に関連する国内外の文献検討②	演習	江本
8	研究課題に関連する国内外の文献検討③	演習	江本
9	研究課題に関連する国内外の文献検討④	演習	江本
10	研究課題に関連する国内外の文献検討⑤	演習	江本
11	研究課題に関連する国内外の文献検討⑥	演習	江本
12	研究課題に関連する国内外の文献検討⑦	演習	江本
13	研究課題に関連する国内外の文献検討⑧	演習	江本
14	研究課題に関連する国内外の文献検討⑨	演習	江本
15	研究課題に関連する国内外の文献検討⑩	演習	江本
16	研究方法論の検討①	演習	江本
17	研究方法論の検討②	演習	江本
18	研究方法論の検討③	演習	江本
19	研究方法論の検討④	演習	江本
20	研究方法論の検討⑤	演習	江本
21	研究方法論の検討⑥	演習	江本
22	予備的フィールドワークと分析①	FW	江本
23	予備的フィールドワークと分析②	FW	江本
24	予備的フィールドワークと分析③	FW	江本
25	予備的フィールドワークと分析④	FW	江本
26	研究計画書の検討①	演習	江本
27	研究計画書の検討②	演習	江本
28	研究計画書の検討③	演習	江本
29	研究計画書の検討④	演習	江本
30	研究計画書の検討⑤	演習	江本

■教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布する。

■他の授業科目との関連

小児看護学特別研究-2、小児看護学特別研究-3 は、この科目を基盤として、さらに発展した内容を扱います。

■成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50%(発表 25%/討議 25%) 2. 課題レポート 50%

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-12:50、および、授業終了後 30 分。

江本(419 研究室)

■その他

HDAN181

小児看護学特別研究-2

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○江本 リナ

■ 授業の目的

自己の研究課題に即して、フィールドワークから研究方法論的課題を明確にし、研究方法を探究する。

■ 到達目標

1. 自らの研究課題に即した方法論を明確にできる。
2. 研究計画を立案し、研究計画書を作成できる。
3. 自らの研究課題に即したデータ収集および分析ができる。
4. 学際的な観点から討議し、小児看護学の展望について自分の意見を述べることができる。

■ 学習の進め方

課題について資料を作成し、ゼミ形式にて討議する。

【事前学習】発表資料を準備し、関心のある看護現象を検討する。

【事後学習】ゼミでの検討内容を吟味し、自己の課題を明確化する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	予備的フィールドワークの分析①	FW・討論	江本
2	予備的フィールドワークの分析②	FW・討論	江本
3	予備的フィールドワークの分析③	FW・討論	江本
4	予備的フィールドワークの分析④	FW・討論	江本
5	予備的フィールドワークの分析⑤	FW・討論	江本
6	予備的フィールドワークの分析⑥	FW・討論	江本
7	予備的フィールドワークの分析⑦	FW・討論	江本
8	予備的フィールドワークの分析⑧	FW・討論	江本
9	研究計画書の修正①	演習	江本
10	研究計画書の修正②	演習	江本
11	研究計画書の修正③	演習	江本
12	研究計画書の修正④	演習	江本
13	研究計画書の修正⑤	演習	江本
14	研究計画書の修正⑥	演習	江本
15	研究計画書の修正⑦	演習	江本
16	研究計画書の修正⑧	演習	江本
17	データ収集および分析①	FW・討論	江本
18	データ収集および分析②	FW・討論	江本
19	データ収集および分析③	FW・討論	江本
20	データ収集および分析④	FW・討論	江本
21	データ収集および分析⑤	FW・討論	江本
22	データ収集および分析⑥	FW・討論	江本
23	データ収集および分析⑦	FW・討論	江本
24	データ収集および分析⑧	FW・討論	江本
25	データ収集および分析⑨	FW・討論	江本
26	データ収集および分析⑩	FW・討論	江本
27	データ収集および分析⑪	FW・討論	江本
28	データ収集および分析⑫	FW・討論	江本
29	データ収集および分析⑬	FW・討論	江本
30	データ収集および分析⑭	FW・討論	江本

■教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布する。

■他の授業科目との関連

この科目は、小児看護学特別研究-1 を基盤に展開されます。また、小児看護学特別研究-3 は、この科目を基盤として、さらに発展した内容を扱います。

■成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50%(発表 25%/討議 25%) 2. 課題レポート 50%

■オフィスアワー・研究室等

授業開始日の 12:30-12:50、および、授業終了後 30 分
江本(419 研究室)

■その他

HDAN281

小児看護学特別研究-3

単位：2単位 履修年次：3年次 開講期：通年

○江本 リナ

■ 授業の目的

自己の研究課題に即した研究活動を行い、研究遂行能力を高める。

■ 到達目標

1. 自らの研究課題に即したデータ収集および分析ができる。
2. 自らの研究課題に即した論文の考察を深めることができる。
3. データ収集・分析・考察といった一連の研究活動を踏み、論文を作成することができる。
4. 学際的な観点から討議し、小児看護学の展望について自分の意見を述べるができる。

■ 学習の進め方

課題について資料を作成し、ゼミ形式にて討議する。

【事前学習】 発表資料を準備し、関心のある看護現象を検討する。

【事後学習】 ゼミでの検討内容を吟味し、自己の課題を明確化する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	データ収集および分析①	FW・討論	江本
2	データ収集および分析②	FW・討論	江本
3	データ収集および分析③	FW・討論	江本
4	データ収集および分析④	FW・討論	江本
5	データ収集および分析⑤	FW・討論	江本
6	データ分析と結果の記述①	演習	江本
7	データ分析と結果の記述②	演習	江本
8	データ分析と結果の記述③	演習	江本
9	データ分析と結果の記述④	演習	江本
10	データ分析と結果の記述⑤	演習	江本
11	データ分析と結果の記述⑥	演習	江本
12	データ分析と結果の記述⑦	演習	江本
13	データ分析と結果の記述⑧	演習	江本
14	考察の検討①	演習	江本
15	考察の検討②	演習	江本
16	考察の検討③	演習	江本
17	考察の検討④	演習	江本
18	考察の検討⑤	演習	江本
19	考察の検討⑥	演習	江本
20	論文構成と内容の検討①	演習	江本
21	論文構成と内容の検討②	演習	江本
22	論文構成と内容の検討③	演習	江本
23	論文構成と内容の検討④	演習	江本
24	論文構成と内容の検討⑤	演習	江本
25	論文構成と内容の検討⑥	演習	江本
26	論文構成と内容の検討⑦	演習	江本
27	論文全体の推敲①	演習	江本
28	論文全体の推敲②	演習	江本
29	論文全体の推敲③	演習	江本
30	論文全体の推敲④	演習	江本

■教科書

各自必要な文献を用いること。そのため、特に教科書は指定しない。

■参考書、参考資料等

開講時、参考文献リストを配布する。

■他の授業科目との関連

この科目は、小児看護学特別研究-1、小児看護学特別研究-2 を基盤として展開されます。

■成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50%(発表 25%/討議 25%) 2. 課題レポート 50%

■オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-12:50、および、授業終了後 30 分

江本(419 研究室)

■その他

HDAN381

成人看護学特論

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美

■ 授業の目的

成人看護領域で重要と考えられる理論や概念、モデルの分析を行なう。関連領域の研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探求する。

現場で起きている現象や看護実践を記述、分析し、新しい概念や理論の構築を試みることにより、理論化の能力を養う。また、理論化されたものを検証する研究方法論を検討する。

■ 到達目標

成人看護領域で重要と考えられる理論や概念、モデルを詳細に説明できる。

研究の動向と課題を説明できる。

■ 学習の進め方

AL

各テーマについての発表とディスカッションを中心に行なう。関心領域にそったテーマを選び、プレゼンテーション・討論を行う。

【事前学修】 学びを深めるために事前に提示する参考文献を読んで、授業に参加する。

【事後学修】 討論した内容を深める形で、レポートをまとめる。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義・演習	本庄・三浦・田中
2	疾患をもつ人々への看護に関する理論・概念・モデル(その1)	演習	本庄・三浦・田中
3	疾患をもつ人々への看護に関する理論・概念・モデル(その2)	演習	本庄・三浦・田中
4	疾患をもつ人々への看護に関する理論・概念・モデル(その3): 関心のある概念・理論を2つ選びプレゼンテーション	演習	本庄・三浦・田中
5	成人看護関連領域の研究論文をクリティーク(その1): 日本における研究論文を選択しプレゼンテーション	発表・討論	本庄・三浦・田中
6	成人看護関連領域の研究論文をクリティーク(その2): 日本における研究論文を選択しプレゼンテーション	演習	本庄・三浦・田中
7	成人看護関連領域の研究論文をクリティーク(その3): 海外における研究論文を選択しプレゼンテーション	演習	本庄・三浦・田中
8	成人看護関連領域の研究論文をクリティーク(その4): 海外における研究論文を選択しプレゼンテーション	発表・討論	本庄・三浦・田中
9	成人看護研究の動向と課題(その1)	演習	本庄・三浦・田中
10	成人看護研究の動向と課題(その2): 関心領域の研究の動向をまとめプレゼンテーション	発表・討論	本庄・三浦・田中
11	疾患をもつ人の質の高い生活に向けての理論の構築(その1)	演習	本庄・三浦・田中
12	疾患をもつ人の質の高い生活に向けての理論の構築(その2):いくつかの文献から概念統合 (文献的統合)を行い、新たな概念を見出し、興味分野の現象に関する新しい洞察を得る	発表・討論	本庄・三浦・田中
13	疾患をもつ人々の状態を探求する研究方法(その1)	演習	本庄・三浦・田中
14	疾患をもつ人々の状態を探求する研究方法(その2): 関心領域を明らかにする研究方法をいくつか検討しプレゼンテーション	発表・討論	本庄・三浦・田中
15	まとめ	討論	本庄・三浦・田中

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

- 1) Meleis A. (2012). Theoretical Nursing Development and Progress 5th ed. Wolters Kluwer Health / Lippincott Williams & Wilkins.
- 2) Meleis, A. (ed)(2010). Transitions Theory: Middle-range and situation-specific theories in nursing research and practice. NY: Springer Publishing Company.
- 3) Walker L.O.& Avant K.C.(2005) / 中木高夫・川崎修一訳(2008). 看護における理論構築の方法. 医学書院
- 4) 松繁卓哉 (2010). 「患者中心の医療」という言説－患者の「知」の社会学. 立教大学出版会
- 5) 浮ヶ谷幸代 (2004). 病気だけど病気ではない. 誠心書房.

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

成人看護学特別研究の基盤となる授業です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 %
2. プレゼンテーション 40 %
3. レポート 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12 : 20～12 : 50。本庄(442 研究室) 三浦(444 研究室)田中(449 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HDAN102

成人看護学特別研究-1

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：通年

○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美

■ 授業の目的

専門看護領域における課題について、文献検討や概念分析を行い、研究課題に相応しい研究方法を選択し、予備的研究計画書作成する能力を養う。

■ 到達目標

- ・専門看護領域における課題について、文献検討や概念分析を行うことができる。
- ・フィールドワーク等を通して、予備的研究計画書作成までのプロセスを踏むことができる。

■ 学習の進め方

AL

【事前学修】事前にプレゼンテーションの準備をし、ゼミの中で討論を行う。

【事後学修】討論した内容は、研究計画書の洗練に生かす

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	全員
2	関心領域に関連する文献検討：看護学領域(その1)	討論	全員
3	関心領域に関連する文献検討：看護学領域(その2)	討論	全員
4	関心領域に関連する文献検討：周辺領域(その1)	討論	全員
5	関心領域に関連する文献検討：周辺領域(その2)	討論	全員
6	関心領域に関連する概念分析(その1)	討論	全員
7	関心領域に関連する概念分析(その2)	討議	全員
8	関心領域に関連する文献検討：方法論(その1)	討論	全員
9	関心領域に関連する文献検討：方法論(その2)	討議	全員
10	関心領域に関する予備研究計画書作成と討議：研究テーマと目的(その1)	討議	全員
11	関心領域に関する予備研究計画書作成と討議：研究テーマと目的(その2)	討論	全員
12	関心領域に関する予備研究計画書作成と討議：方法論(その1)	討議	全員
13	関心領域に関する予備研究計画書作成と討議：方法論(その2)	討論	全員
14	関心領域に関する予備研究計画書作成と討議：サブストラクション	討論	全員
15	関心領域に関する予備研究計画書作成と研究倫理(その1)	討論・演習	全員
16	関心領域に関する予備研究計画書作成と研究倫理(その2)	討論・演習	全員
17	関心領域に関する予備的研究：収集したデータの分析と討議(その1)	討論・演習	全員
18	関心領域に関する予備的研究：収集したデータの分析と討議(その2)	討論・演習	全員
19	関心領域に関する予備的研究：収集したデータの分析と討議(その3)	討論・演習	全員
20	関心領域に関する予備的研究：収集したデータの分析と討議(その4)	討論・演習	全員
21	関心領域に関する予備的研究：収集したデータの分析と討議(その5)	討論・演習	全員
22	関心領域に関する予備的研究：収集したデータの分析と討議(その6)	討論・演習	全員
23	関心領域に関する予備的研究：収集したデータの分析と討議(その7)	討論・演習	全員
24	関心領域に関する予備的研究：結果のまとめ(その1)	討論・演習	全員
25	関心領域に関する予備的研究：結果のまとめ(その2)	討論・演習	全員
26	関心領域に関する予備的研究：実現可能性の検討(その1)	討論・演習	全員
27	関心領域に関する予備的研究：実現可能性の検討(その2)	討論・演習	全員
28	関心領域に関する予備的研究：課題と考察(その1)	討論・演習	全員
29	関心領域に関する予備的研究：課題と考察(その2)	討論・演習	全員
30	まとめ	討論	全員

■教科書

指定なし

■参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

■フィードバックの仕方

毎回の授業時に関心領域の課題に関する資料、プレゼンテーション等について、フィードバックする。

■他の授業科目との関連

成人看護学特論での学びをいかすこと。

この授業は、成人看護学特別研究 - 2、3 の基盤となります。

■成績評価の仕方

1. 授業への参加度 50 % 2. プレゼンテーション 50 %

■オフィスアワー・研究室等

月曜日の 12 : 20 ~ 12 : 50。本庄(442 研究室) 三浦(444 研究室) 田中(449 研究室)

■受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■その他

HDAN182

成人看護学特別研究-2

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美

■ 授業の目的

専門看護領域における課題について、予備的研究結果をふまえ、研究課題に相応しい研究方法を選択し、研究計画書作成から研究実施までの研究実践能力を養う。

■ 到達目標

- ・ 専門看護領域における課題について、予備的研究結果をふまえて、研究計画書を作成と洗練を行う。
- ・ 研究計画に基づき、データ収集とデータ分析を行うことができる。

■ 学習の進め方

AL

【事前学修】事前にプレゼンテーションの準備をし、ゼミの中で討論を行う。

【事後学修】討論した内容は、研究計画書の洗練、および、研究成果のまとめに生かす。

授業は、COVID-19の感染リスクなどをふまえて、Teamsを用いた同時双方向型のオンライン授業を活用する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	全員
2	関心領域の予備的研究結果の実現可能性と検討課題(その1)	討論	全員
3	関心領域の予備的研究結果の実現可能性と検討課題(その2)	討論	全員
4	研究課題に関する文献検討(その1)	討論	全員
5	研究課題に関する文献検討(その2)	討論	全員
6	研究課題に関する文献検討(その3)	討論	全員
7	研究課題に関する文献検討(その4)	討論	全員
8	研究課題に関する文献検討(その5)	討論	全員
9	研究計画書の洗練：テーマと目的	討論	全員
10	研究計画書の洗練：動機と背景	討論	全員
11	研究計画書の洗練：方法論(その1)	討論	全員
12	研究計画書の洗練：方法論(その2)	討論	全員
13	研究計画書の洗練：方法論(その3)	討論	全員
14	研究計画書の洗練：サブストラクション	討論	全員
15	研究計画書と倫理的配慮	演習・討論	全員
16	収集したデータの分析と討議(その1)	演習・討論	全員
17	収集したデータの分析と討議(その2)	演習・討論	全員
18	収集したデータの分析と討議(その3)	演習・討論	全員
19	収集したデータの分析と討議(その4)	演習・討論	全員
20	収集したデータの分析と討議(その5)	演習・討論	全員
21	収集したデータの分析と討議(その6)	演習・討論	全員
22	研究結果の論述(その1)	演習・討論	全員
23	研究結果の論述(その2)	演習・討論	全員
24	研究結果の論述(その3)	演習・討論	全員
25	研究結果の論述(その4)	演習・討論	全員
26	研究結果と先行研究の比較検討(その1)	演習・討論	全員
27	研究結果と先行研究の比較検討(その2)	演習・討論	全員
28	研究結果と先行研究の比較検討(その3)	演習・討論	全員
29	本研究とサブストラクション	演習・討論	全員
30	まとめ	討論	全員

■教科書

指定なし

■参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

■フィードバックの仕方

毎回の授業時に関心領域の課題に関する資料、プレゼンテーション等について、フィードバックする。

■他の授業科目との関連

成人看護学特別研究-1での学びをいかすこと。ここでの学びは、成人看護学特別研究-3の基盤になります。

■成績評価の仕方

1. 授業への参加度 50 % 2. プレゼンテーション 50 %

■オフィスアワー・研究室等

月曜日 12：20～12：50。本庄(442 研究室) 三浦(444 研究室) 田中(449 研究室)

■受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■その他

HDAN282

成人看護学特別研究-3

単位：2 単位 履修年次：3 年次 開講期：通年

○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美

■ 授業の目的

専門看護領域における課題について、研究計画書作成にもとづき研究を実施し、研究論文を作成するまでの一連のプロセスを踏み研究実践能力を養う。

■ 到達目標

専門看護領域における課題について、研究を実施し、研究論文作成までのプロセスを踏むことができる。

■ 学習の進め方

AL

【事前学修】事前にプレゼンテーションの準備をし、ゼミの中で討論を行う。

【事後学修】討論した内容は、研究論文のまとめに生かす。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	全員
2	データ分析と結果のまとめ：論理的一貫性の検討(その1)	演習・討論	全員
3	データ分析と結果のまとめ：論理的一貫性の検討(その2)	演習・討論	全員
4	データ分析と結果のまとめ：論理的一貫性の検討(その3)	演習・討論	全員
5	研究のオリジナリティに関する討議(その1)	演習・討論	全員
6	研究のオリジナリティに関する討議(その2)	演習・討論	全員
7	研究のオリジナリティに関する討議(その3)	演習・討論	全員
8	研究成果の考察：文献検討の追加(その1)	演習・討論	全員
9	研究成果の考察：文献検討の追加(その2)	演習・討論	全員
10	研究成果の考察：文献検討の追加(その3)	演習・討論	全員
11	研究の考察に関する検討(その1)	演習・討論	全員
12	研究の考察に関する検討(その2)	演習・討論	全員
13	研究の考察に関する検討(その3)	演習・討論	全員
14	研究論文の作成：序論・目的・意義(その1)	演習・討論	全員
15	研究論文の作成：序論・目的・意義(その2)	演習・討論	全員
16	研究論文の作成：方法論(その1)	演習・討論	全員
17	研究論文の作成：方法論(その2)	演習・討論	全員
18	研究論文の作成：結果(その1)	演習・討論	全員
19	研究論文の作成：結果(その2)	演習・討論	全員
20	研究論文の作成：結果(その3)	演習・討論	全員
21	研究論文の作成：結果(その4)	演習・討論	全員
22	研究論文の作成：結果(その5)	演習・討論	全員
23	研究論文の作成：考察(その1)	演習・討論	全員
24	研究論文の作成：考察(その2)	演習・討論	全員
25	研究論文の作成：考察(その3)	演習・討論	全員
26	研究論文の作成：考察(その4)	演習・討論	全員
27	研究論文の作成：結論	演習・討論	全員
28	研究論文の作成：抄録	演習・討論	全員
29	研究論文の論理的一貫性	演習・討論	全員
30	まとめ	討論	全員

■ 教科書

指定なし

■ 参考書、参考資料等

参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

毎回の授業時に関心領域の課題に関する資料、プレゼンテーション等について、フィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

成人看護学研究-1,2 での学びをいかすこと。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 50 % 2. プレゼンテーション 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

月曜日 12 : 20 ~ 12 : 50。本庄(442 研究室) 三浦(444 研究室) 田中(449 研究室)

■ 受講上の注意事項

主体的な参加を期待する。

■ その他

HDAN382

老年看護学特論

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○坂口 千鶴

■ 授業の目的

国内外の老年看護学の動向とその課題を探究していく中で、自らの研究課題を明確にし、その主要概念やその概念に関連する理論等の分析を行う能力を養う。

■ 到達目標

1. 自ら関心のあるテーマに沿って国内外の老年看護学の動向とその課題について説明できる。
2. 老年看護学の動向と課題をもとに、自らの看護実践における体験も踏まえて、研究課題を明確できる。
3. 自らの研究課題に関連する主要な概念を説明でき、概念分析を行うことができる。
4. 主要な概念に関連する理論について説明でき、理論分析を行うことができる。

■ 学習の進め方

- AL 1. 自ら関心のあるテーマを選び、国内外の老年看護学の動向とその課題について探究する。
2. 老年看護学の中で関心のある概念を選び、その定義と歴史的変遷を探索すると同時に、その概念に関するあらゆる文献を用いながら概念の分析を行う。
3. その概念に関する歴史的変遷を踏まえて、関連する理論を分析する。
- ・事前学習では、提示された文献リストをもとに、各授業に関連した文献を熟読して授業に臨む。
 - ・事後学習では、講義の内容をもとに、概念分析と理論分析の発表資料の作成、レポートの作成を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	授業内容のオリエンテーション / 研究課題の選択	講義・討論	坂口
2	老年看護学における主要概念とは	講義・討論	坂口
3	老年看護学における主要概念の歴史的変遷	講義・討論	坂口
4	老年看護学における主要概念の分析方法	講義・討論	坂口
5	老年看護学における主要概念の分析①	発表・討論	坂口
6	老年看護学における主要概念の分析②	発表・討論	坂口
7	老年看護学における主要概念の分析③	発表・討論	坂口
8	選択した概念の分析内容の発表	発表・討論	坂口
9	老年看護学における主要概念に関連する理論	講義・討論	坂口
10	老年看護学における主要概念に関連する理論の歴史的変遷	講義・討論	坂口
11	老年看護学の主要概念に関連する理論の分析①	発表・討論	坂口
12	老年看護学の主要概念に関連する理論の分析②	発表・討論	坂口
13	老年看護学の主要概念に関連する理論の分析③	発表・討論	坂口
14	老年看護学の主要概念に関連する理論の分析内容の発表	発表・討論	坂口
15	まとめ	討論	坂口

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションで文献リストを提示する。

■ 他の授業科目との関連

老年看護学研究研究-1 と関連づけながら進行し、老年看護学特別研究 2 でさらに深めていく。

■ 成績評価の仕方

授業への取り組み 10% プレゼンテーション 40% レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日当日 18:00～18:30 坂口(414 研究室)

■ その他

HDAN103

老年看護学特別研究-1

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○坂口 千鶴、太田 喜久子、千葉 京子

■ 授業の目的

老年看護学領域で関心のあるテーマに沿って文献レビューを行い、研究計画書作成を念頭にフィールドワークを行い、データ収集方法やデータ分析方法について学ぶ。

■ 到達目標

1. 老年看護学領域の中で関心のあるテーマに関する研究文献をデータベースを用いて検索することができる。
2. 検索した研究論文のクリティークを行うことができる。
3. 関心のあるテーマに関する文献レビューをまとめることができる。
4. 文献検討をもとに、研究目的、研究方法について検討し、予備調査の研究計画書を作成できる。
5. 予備調査の研究計画書をもとにフィールドワークを行い、予備的なデータを収集できる。
6. 収集したデータを分析することで研究の実施可能性を検討することができる。

■ 学習の進め方

AL・授業スケジュールの前半は、老年看護学に関する文献検索、文献クリティーク、文献レビューの方法についての説明をもとに、実際学生が実施しながら進めていく。

- ・授業スケジュールの中盤では、予備調査のための研究計画の作成について検討していく。
- ・授業スケジュールの後半では、予備調査の研究計画書をもとに、実際に老年看護学領域におけるフィールドワークを実施し、データ収集と分析を行う中で研究目的や研究方法について検討していく。
- ・事前学習では、各学習内容について事前に配布した文献あるいは資料の内容を確認し、自らの研究について資料を作成して授業に臨む。
- ・事後学習では、指摘された内容を修正し、必要な文献を確認しておく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション / 研究の動機について	講義・討論	坂口・千葉
2	研究の動機について	発表・討論	坂口・千葉
3	文献検討による研究テーマと目的の明確化	発表・討論	坂口・太田・千葉
4	文献検討による研究テーマと目的の明確化	発表・討論	坂口・千葉
5	研究テーマに関する質的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
6	研究テーマに関する質的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
7	研究テーマに関する量的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・太田・千葉
8	研究テーマに関する量的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
9	研究テーマに関する量的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
10	研究テーマに関する量的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
11	データ収集方法の検討	発表・討論	坂口・太田・千葉
12	データ収集方法の検討	発表・討論	坂口
13	データ分析方法の検討	発表・討論	坂口
14	データ分析方法の検討	発表・討論	坂口・千葉
15	予備的研究の計画書作成	発表・討論	坂口・太田・千葉
16	文献検討の記述	発表・討論	坂口
17	文献検討の記述	発表・討論	坂口・千場
18	文献検討の記述	発表・討論	坂口
19	文献検討の記述	発表・討論	坂口
20	予備調査によるデータ分析	発表・討論	坂口・太田・千葉
21	予備調査によるデータ分析	発表・討論	坂口

No	内容	形式	教員
22	予備調査によるデータ分析	発表・討論	坂口
23	予備調査によるデータ分析	発表・討論	坂口・千葉
24	本調査に向けた研究テーマと目的の検討	発表・討論	坂口・太田・千葉
25	本研究に向けた研究テーマと目的の検討	発表・討論	坂口
26	本研究で用いる研究方法の検討	発表・討論	坂口
27	本研究で用いる研究方法の検討	発表・討論	坂口・太田・千葉
28	本研究の計画書作成	発表・討論	坂口・千葉
29	本研究の計画書の修正	発表・討論	坂口・千葉
30	本調査の計画書完成	発表・討論	坂口・太田・千葉

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションの際に提示する。

■ 他の授業科目との関連

老年看護学特論、研究方法論等の内容をもとに予備調査の研究計画書を作成する。特別研究 2 では、1 の内容に基づいてさらに本研究の研究計画書を作成する。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 % 2. プレゼンテーション 20 % 3. 予備的研究の計画書作成 60 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の当日 18:00～18:30 坂口(414 研究室)千葉(429 研究室)

■ その他

HDAN183

老年看護学特別研究-2

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○坂口 千鶴、太田 喜久子、千葉 京子

■ 授業の目的

老年看護学領域で関心のあるテーマに沿って文献レビューを行い、研究計画書作成を念頭にフィールドワークを行い、データ収集方法やデータ分析方法について学ぶ。

■ 到達目標

1. 老年看護学領域の中で関心のあるテーマに関する研究文献をデータベースを用いて検索することができる。
2. 検索した研究論文のクリティークを行うことができる。
3. 関心のあるテーマに関する文献レビューをまとめることができる。
4. 文献検討をもとに、研究目的、研究方法について検討し、予備調査の研究計画書を作成できる。
5. 予備調査の研究計画書をもとにフィールドワークを行い、予備的なデータを収集できる。
6. 収集したデータを分析することで研究の実施可能性を検討することができる。

■ 学習の進め方

AL・授業スケジュールの前半は、老年看護学に関する文献検索、文献クリティーク、文献レビューの方法についての説明をもとに、実際学生が実施しながら進めていく。

- ・授業スケジュールの中盤では、予備調査のための研究計画の作成について検討していく。
- ・授業スケジュールの後半では、予備調査の研究計画書をもとに、実際に老年看護学領域におけるフィールドワークを実施し、データ収集と分析を行う中で研究目的や研究方法について検討していく。
- ・事前学習では、各学習内容について事前に配布した文献あるいは資料の内容を確認し、自らの研究について資料を作成して授業に臨む。
- ・事後学習では、指摘された内容を修正し、必要な文献を確認しておく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション / 研究の動機について	講義・討論	坂口・千葉
2	研究の動機について	発表・討論	坂口・千葉
3	文献検討による研究テーマと目的の明確化	発表・討論	坂口・太田・千葉
4	文献検討による研究テーマと目的の明確化	発表・討論	坂口・千葉
5	研究テーマに関する質的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
6	研究テーマに関する質的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
7	研究テーマに関する室的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・太田・千葉
8	研究テーマに関する量的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
9	研究テーマに関する量的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
10	研究テーマに関する量的研究文献のクリティーク	発表・討論	坂口・千葉
11	データ収集方法の検討	発表・討論	坂口・太田・千葉
12	データ収集方法の検討	発表・討論	坂口
13	データ分析方法の検討	発表・討論	坂口
14	データ分析方法の検討	発表・討論	坂口・千葉
15	予備的研究の計画書作成	発表・討論	坂口・太田・千葉
16	文献検討の記述	発表・討論	坂口
17	文献検討の記述	発表・討論	坂口・千場
18	文献検討の記述	発表・討論	坂口
19	文献検討の記述	発表・討論	坂口
20	予備調査によるデータ分析	発表・討論	坂口・太田・千鶴
21	予備調査によるデータ分析	発表・討論	坂口

No	内容	形式	教員
22	予備調査によるデータ分析	発表・討論	坂口
23	予備調査によるデータ分析	発表・討論	坂口・千葉
24	本調査に向けた研究テーマと目的の検討	発表・討論	坂口・太田・千葉
25	本研究に向けた研究テーマと目的の検討	発表・討論	坂口
26	本研究で用いる研究方法の検討	発表・討論	坂口
27	本研究で用いる研究方法の検討	発表・討論	坂口・太田・千葉
28	本研究の計画書作成	発表・討論	坂口・千葉
29	本研究の計画書の修正	発表・討論	坂口・千葉
30	本調査の計画書完成	発表・討論	坂口・太田・千葉

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

オリエンテーションの際に提示する。

■ 他の授業科目との関連

老年看護学特論、研究方法論等の内容をもとに予備調査の研究計画書を作成する。特別研究 2 では、1 の内容に基づいてさらに本研究の研究計画書を作成する。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 20 % 2. プレゼンテーション 20 % 3. 予備的研究の計画書作成 60 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の当日 18:00～18:30 坂口(414 研究室)千葉(429 研究室)

■ その他

HDAN283

老年看護学特別研究-3

単位：2単位 履修年次：3年次 開講期：通年

○坂口 千鶴、太田 喜久子、千葉 京子

■ 授業の目的

研究計画に即してデータ収集と分析を行いながら自己の研究課題を探究し、博士論文を完成させる。

■ 到達目標

1. 研究計画にそってデータを収集できる。
2. 研究計画にそって得られたデータを分析できる。
3. 研究目的にそって分析した結果を論文として記述できる。
4. 分析した結果について文献検討をもとに深く考察でき、その内容を論文として記述できる。
5. 最終的に博士論文として完成できる。

■ 学習の進め方

AL・各自の研究計画に即してデータ収集と分析を主体的に行いながら結果をまとめていき、結果に基づき関連する文献を用いて考察を行い、論文を完成させていく。

・事前学習では、データの分析結果を文章として記述しながら、主体的に進めていく。また、考察に活かすために自らの研究テーマに関する研究文献等を熟読する。

・事後学習では、指摘された内容について、関連する文献等で確認しながら、主体的に修正していく。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション / データ分析結果の再検討	発表・討論	坂口・千葉
2	データ分析結果の再検討	発表・討論	坂口・千葉
3	分析結果をもとに「結果」の記述	発表・討論	坂口・太田・千葉
4	分析結果をもとに「結果」の記述	発表・討論	坂口・千葉
5	分析結果をもとに「結果」の記述	発表・討論	坂口・千葉
6	分析結果をもとに「結果」の記述	発表・討論	坂口・千葉
7	分析結果をもとに「結果」の記述	発表・討論	坂口・太田・千葉
8	分析結果をもとに「結果」の記述	発表・討論	坂口・千葉
9	「結果」をもとに「考察」の記述	発表・討論	坂口・千葉
10	「結果」をもとに「考察」の記述	発表・討論	坂口・千葉
11	「結果」をもとに「考察」の記述	発表・討論	坂口・太田・千葉
12	「結果」をもとに「考察」の記述	発表・討論	坂口
13	「結果」をもとに「考察」の記述	発表・討論	坂口
14	「結果」をもとに「考察」の記述	発表・討論	坂口・千葉
15	「結果」から「考察」までの論文完成	発表・討論	坂口・太田・千葉
16	「序論」から「文献検討」までの記述内容の検討	発表・討論	坂口
17	「序論」から「文献検討」までの記述内容の検討	発表・討論	坂口・千葉
18	「目的」から「研究方法」までの検討	発表・討論	坂口
19	博士論文提出の準備	発表・討論	坂口
20	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口・太田・千葉
21	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口
22	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口
23	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口・千葉

No	内容	形式	教員
24	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口・太田・千葉
25	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口
26	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口
27	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口・太田・千葉
28	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口・千葉
29	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口・千葉
30	論文内容の検討と修正	発表・討論	坂口・太田・千葉

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

なし

■ 他の授業科目との関連

研究方法論、特別研究-1、特別研究-1 の内容をもとに発展的に研究を実施し、博士論文作成を目指す科目である。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への参加度 10 % 2. プレゼンテーションの内容 30 % 3. 博士論文作成の過程 60%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講当日 18:00～18:30 坂口(414 研究室) 千葉(429 研究室)

■ その他

HDAN383

精神保健看護学特論

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○小宮 敬子

■ 授業の目的

精神保健看護学領域の諸問題を論じた文献をレビューするとともに、みずからの研究疑問に関する文献のクリティークを行う。

■ 到達目標

精神保健看護学研究の動向および主要課題について論じた文献を収集し、その内容について論じることができる。精神保健看護学研究の方法について批判的に論じることができる。

■ 学習の進め方

自らの研究疑問に沿ったテーマの論文を探索し、指導教員とともにディスカッションをしながら批判的検討を行う。

※原則、課題提出や遠隔授業方式(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)で進める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
2	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
3	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
4	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
5	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
6	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
7	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
8	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
9	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
10	和文文献についてレポートを作成し、プレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
11	英文文献について同様にプレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
12	英文文献について同様にプレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
13	英文文献について同様にプレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
14	英文文献について同様にプレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子
15	英文文献について同様にプレゼンテーションを行う	演習	小宮敬子

■ 教科書

とくになし。

■ 参考書、参考資料等

とくになし。

■ 他の授業科目との関連

特になし。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション…25 %

ディスカッション…25 %

レポート…50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業後、研究室にて質問と相談を受ける。

■ その他

HDAN104

精神保健看護学特別研究-1

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○小宮 敬子、鷹野 朋実

■ 授業の目的

研究テーマを絞り、予備調査のデータ収集を進めながら、研究計画書を作成し、さらに問題を明確化していくための検討を行う。

■ 到達目標

1. 研究計画書を作成し、倫理審査にも合格することができる。
2. 計画書に沿ってデータ収集と分析を行いながら、必要な修正を行っていくことができる。

■ 学習の進め方

研究の進捗状況をそのつど報告し、データ収集および分析を進める。

精神保健看護学に関する最新研究動向をあらかじめ調べておくこと。ゼミで指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについては、調べておくこと。

事前学習：精神保健看護学に関する最新研究動向をあらかじめ調べておくこと。

事後学習：ゼミで指摘されたことや質問されたこと、疑問に思ったことについては、調べておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究計画書の審査および研究倫理審査の結果を受けて、本研究の実施に向けての具体的準備を進める	討論	小宮・鷹野
2	研究計画書の審査および研究倫理審査の結果を受けて、本研究の実施に向けての具体的準備を進める	討論	小宮・鷹野
3	研究計画書の審査および研究倫理審査の結果を受けて、本研究の実施に向けての具体的準備を進める	討論	小宮・鷹野
4	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
5	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
6	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
7	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
8	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
9	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
10	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
11	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
12	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
13	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
14	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
15	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う	討論	小宮・鷹野
16	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
17	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
18	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
19	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
20	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
21	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
22	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
23	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
24	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
25	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
26	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
27	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
28	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野

No	内容	形式	教員
29	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
30	研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野

■ 教科書

とくになし。

■ 参考書、参考資料等

とくになし。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学関連の、特講、演習、実習を同時に受講していること。

■ 成績評価の仕方

1. 研究計画書の作成 50 % 2. フィールドノート 30 % 3. 討論への貢献 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 12 : 30～13 : 00、18 : 00～18 : 30。

小宮研究室

■ その他

HDAN184

精神保健看護学特別研究-2

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○小宮 敬子、鷹野 朋実

■ 授業の目的

研究テーマを絞り、予備調査のデータ収集を進めながら、研究計画書を作成し、さらに問題を明確化していくための検討を行う。

■ 到達目標

1. 研究計画書を作成し、倫理審査にも合格することができる。
2. 計画書に沿ってデータ収集と分析を行いながら、必要な修正を行っていくことができる。

■ 学習の進め方

研究の進捗状況をそのつど報告し、理論的検証なども行いながら、データ収集および分析を進める。

事前学習：精神保健看護学に関する最新研究動向をあらかじめ調べておくこと。

事後学習：ゼミで指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについては、調べておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
2	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
3	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
4	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
5	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
6	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
7	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
8	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
9	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
10	研究計画書の作成	討論	小宮・鷹野
11	研究計画書の審査および研究倫理審査の結果を受けて、本研究の実施に向けての具体的準備を進める	討論	小宮・鷹野
12	研究計画書の審査および研究倫理審査の結果を受けて、本研究の実施に向けての具体的準備を進める	討論	小宮・鷹野
13	研究計画書の審査および研究倫理審査の結果を受けて、本研究の実施に向けての具体的準備を進める	討論	小宮・鷹野
14	研究計画書の審査および研究倫理審査の結果を受けて、本研究の実施に向けての具体的準備を進める	討論	小宮・鷹野
15	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
16	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
17	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
18	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
19	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
20	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
21	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
22	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野

No	内容	形式	教員
23	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
24	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
25	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
26	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
27	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
28	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野
29	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う。	討論	小宮・鷹野
30	計画した方法にしたがって、データ収集を進め、得られたデータの解釈・分析を行う。研究テーマに即した文献検討を改めて行う	討論	小宮・鷹野

■ 教科書

とくになし。

■ 参考書、参考資料等

とくになし。

■ 他の授業科目との関連

精神保健看護学関連の、特講、演習、実習を同時に受講していること。

■ 成績評価の仕方

1. 研究計画書の作成 50 % 2. フィールドノート 30 % 3. 討論への貢献 20 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業日の 12 : 30～13 : 00、18 : 00～18 : 30。

小宮研究室

■ その他

HDAN284

精神保健看護学特別研究-3

単位：2単位 履修年次：3年次 開講期：通年

○小宮 敬子、鷹野 朋実

■ 授業の目的

学位論文執筆に向けて、研究テーマの洗練とデータの分析および考察を進める。

■ 到達目標

1. これまでに得られたデータの分析結果を論述することができる。
2. 結果の解釈を深め、考察の視点を明らかにすることができる。
3. 文献を用いて考察を深めることができる。

■ 学習の進め方

毎回、ゼミで研究作業の成果を報告し、研究指導教員とともに話し合いながら検討する。

事前学習：自分の研究テーマに関連した文献検討を済ませておくこと。

事後学習：ゼミで指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについては、調べておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	得られたデータを結果としてまとめる	討論	小宮・鷹野
2	得られたデータを結果としてまとめる	討論	小宮・鷹野
3	得られたデータを結果としてまとめる	討論	小宮・鷹野
4	得られたデータを結果としてまとめる	討論	小宮・鷹野
5	得られたデータを結果としてまとめる	討論	小宮・鷹野
6	得られたデータを結果としてまとめる	討論	小宮・鷹野
7	得られたデータを結果としてまとめる	討論	小宮・鷹野
8	得られたデータを結果としてまとめる	討論	小宮・鷹野
9	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する	討論	小宮・鷹野
10	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する	討論	小宮・鷹野
11	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する	討論	小宮・鷹野
12	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する	討論	小宮・鷹野
13	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する	討論	小宮・鷹野
14	結果から考察の柱立てを考え、必要な文献を整理する	討論	小宮・鷹野
15	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める	討論	小宮・鷹野
16	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める	討論	小宮・鷹野
17	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める	討論	小宮・鷹野
18	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める	討論	小宮・鷹野
19	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める	討論	小宮・鷹野
20	あらためて研究テーマを確認し、方法論、結果および考察の論理性を整合性を高める	討論	小宮・鷹野
21	文献検討を再検討し、洗練させる	討論	小宮・鷹野
22	文献検討を再検討し、洗練させる	討論	小宮・鷹野
23	文献検討を再検討し、洗練させる	討論	小宮・鷹野
24	文献検討を再検討し、洗練させる	討論	小宮・鷹野
25	文献検討を再検討し、洗練させる	討論	小宮・鷹野
26	文献検討を再検討し、洗練させる	討論	小宮・鷹野
27	論文全体の推敲	討論	小宮・鷹野
28	論文全体の推敲	討論	小宮・鷹野
29	論文全体の推敲	討論	小宮・鷹野
30	論文全体の推敲	討論	小宮・鷹野

■教科書

とくになし。

■参考書、参考資料等

とくになし。

■他の授業科目との関連

特になし。

■成績評価の仕方

1. 研究の進行に関するレポート 50 % 2. 討論への貢献 50 %

■オフィスアワー・研究室等

授業日の 12 : 30 ~ 13 : 00、18 : 00 ~ 18 : 30。

小宮研究室

■その他

HDAN384

地域看護学特論

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

地域看護学・在宅看護学領域に関連する理論や概念、モデルを検討する。また、関連領域の国内外の研究論文をクリティークし、研究の動向と課題を探求する。

■ 到達目標

地域看護学・在宅看護学領域に関連する理論や概念、モデルを説明できる。

関連領域の国内外の研究の動向と課題を説明できる。

研究テーマに関わる概念を分析し発表する。

■ 学習の進め方

各テーマに関する発表と討論を行う。

※原則、遠隔授業方式で進める(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、概念分析の手法 事前学修：[120分] 概念分析の手法について調べ、A4用紙2枚にまとめる。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し自己の課題を明確化する。	講義、発表	石田、吉川、月野木、井口
2	地域包括ケアシステム、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションなどの基本理念① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	演習	石田、吉川、月野木、井口
3	地域包括ケアシステム、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションなどの基本理念② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	演習	石田、吉川、月野木、井口
4	地域包括ケアシステム、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションなどの基本理念③ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	発表	石田、吉川、月野木、井口
5	個人、集団、地域のアセスメント方法論① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	演習	石田、吉川、月野木、井口
6	個人、集団、地域のアセスメント方法論② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	演習	石田、吉川、月野木、井口
7	個人、集団、地域のアセスメント方法論③ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	発表	石田、吉川、月野木、井口
8	地域・在宅看護関連領域の研究論文のクリティーク① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	演習	石田、吉川、月野木、井口
9	地域・在宅看護関連領域の研究論文のクリティーク② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	演習	石田、吉川、月野木、井口
10	地域・在宅看護関連領域の研究論文のクリティーク③ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	演習	石田、吉川、月野木、井口
11	地域・在宅看護関連領域の研究論文のクリティーク④ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	発表	石田、吉川、月野木、井口
12	地域・在宅看護関連領域の研究の動向と課題① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	演習	石田、吉川、月野木、井口

No	内容	形式	教員
13	地域・在宅看護関連領域の研究の動向と課題② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	演習	石田、吉川、月野木、井口
14	地域・在宅看護関連領域の研究の動向と課題③ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	発表	石田、吉川、月野木、井口
15	まとめ、概念分析の発表 事前学修：[120分] 文献検討に基づき、発表資料を作成する。 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する。	発表	石田、吉川、月野木、井口

■ 教科書

なし。

■ 参考書、参考資料等

適宜紹介します。

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行います。

■ 他の授業科目との関連

いい気・在宅看護学特別研究Ⅰの基礎的学習となります。

■ 成績評価の仕方

プレゼンテーション 50%、レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

講義日の 12:30~13:00. 石田(432)吉川(425)月野木(424)井口(452)

■ その他

HDAN105

地域看護学特別研究-1

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

地域・在宅看護学における各自の研究課題について探求し、研究能力を育成する。

■ 到達目標

研究課題の設定、研究方法の選択、予備研究計画の立案、予備調査のための倫理審査委員会からの承諾、データ収集・分析を通して、本研究の計画書作成をめざす。

■ 学習の進め方

演習、発表、討議

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[30分] 修士論文の要約または、興味関心のある研究テーマの資料を準備する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	講義	石田、吉川、月野木、井口
2	地域・在宅看護学領域の文献検討① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
3	地域・在宅看護学領域の文献検討② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
4	地域・在宅看護学領域の文献検討③ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
5	地域・在宅看護学領域の文献検討④ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
6	地域・在宅看護学領域の文献検討⑤ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
7	地域・在宅看護学領域の文献検討⑥ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
8	地域・在宅看護学領域の文献検討⑦ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
9	地域・在宅看護学領域の文献検討⑧ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
10	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
11	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
12	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討③ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
13	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討④ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口

No	内容	形式	教員
14	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討⑤ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
15	地域・在宅看護学領域における研究課題の検討⑥ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
16	研究方法の検討と討議① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
17	研究方法の検討と討議② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
18	研究方法の検討と討議③ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
19	研究方法の検討と討議④ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
20	研究方法の検討と討議⑤ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
21	研究方法の検討と討議⑥ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
22	研究課題に向けての予備調査の計画・倫理審査① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
23	研究課題に向けての予備調査の計画・倫理審査② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
24	研究課題に向けての予備調査の計画・倫理審査③ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
25	研究課題に向けての予備調査の計画・倫理審査④ 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
26	予備調査・データ分析① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	演習、発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
27	予備調査・データ分析② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
28	予備調査・データ分析と研究計画書の作成① 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
29	予備調査・データ分析と研究計画書の作成② 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
30	研究計画書の作成 事前学修：[120分] 文献検討に基づき発表資料を作成する 事後学修：[60分] ゼミでの討論内容を要約し、自己の課題を明確化する	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口

■教科書

特になし

■参考書、参考資料等

随時、紹介する

■他の授業科目との関連

地域看護学特別研究-2.3の基礎的な学習となる

■成績評価の仕方

1. 授業への参加度、プレゼンテーション 50 % 2. 研究の取り組み、洗練度 50 %

■オフィスアワー・研究室等

各授業のある日の12時半～13時。石田(432)吉川(425)月野木(424)井口(○)

■受講上の注意事項

1. 国内外の文献を常にレビューして下さい。
2. 1回/月、修士1年生が参加しますので、質問等に答えながら学習を深めてください。

■その他

HDAN185

地域看護学特別研究-2

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

地域・在宅看護学における各自の研究課題について探求し、研究能力を育成する。

■ 到達目標

研究計画書に沿ってデータ収集を行い、分析を進める。

■ 学習の進め方

演習、発表、討議

【事前学習】明らかにしたい課題を明確化して臨む

【事後学習】討議の結果を研究に活かす

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究計画書の作成①	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
2	研究計画書の作成②	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
3	研究計画書の作成③	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
4	研究計画書の作成④	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
5	研究計画書の作成⑤	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
6	研究計画書の作成⑥	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
7	研究計画書の作成⑦	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
8	研究倫理審査書の作成①	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
9	研究倫理審査書の作成②	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
10	研究倫理審査書の作成③	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
11	データ収集・分析と討議①	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
12	データ収集・分析と討議②	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
13	データ収集・分析と討議③	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
14	データ収集・分析と討議④	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
15	データ収集・分析と討議⑤	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
16	データ収集・分析と討議⑥	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
17	データ収集・分析と討議⑦	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
18	データ収集・分析と討議⑧	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口

No	内容	形式	教員
19	データ収集・分析と討議⑨	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
20	データ収集・分析と討議⑩	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
21	データ収集・分析と討議⑪	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
22	データ収集・分析と討議⑫	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
23	データ収集・分析と討議⑬	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
24	データ収集・分析と討議⑭	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
25	データ収集・分析と討議⑮	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
26	データ収集・分析と討議⑯	演習、発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
27	データ収集・分析と討議⑰	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
28	データ収集・分析と討議⑱	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
29	データ収集・分析と討議⑲	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口
30	まとめ、発表	発表、討論	石田、吉川、月野木、井口

■教科書

特になし

■参考書、参考資料等

随時、紹介する。

■フィードバックの仕方

ゼミ資料については、ゼミ内外で直接フィードバックする。

■他の授業科目との関連

地域看護学特別研究-1 を履修していることを要件とする。

■成績評価の仕方

1. 授業への参加度、プレゼンテーション 50 % 2. 研究の洗練度 50 %

■オフィスアワー・研究室等

各授業のある 1 2 時半～1 3 時。石田研究室(432) 吉川研究室(425) 月野木研究室(424)井口研究室(○)

■受講上の注意事項

1. 国内外の文献を常にレビューして下さい。
2. 博士 1 年生と 3 年生との合同で開催します。互いに切磋琢磨して学習しあってください。
3. 1 回/月は、修士院生が参加する合同ゼミとします。質問に答える等教えることで知識を確かなものにしてください。

■その他

HDAN285

地域看護学特別研究-3

単位：2 単位 履修年次：3 年次 開講期：通年

○石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ

■ 授業の目的

地域・在宅看護学における各自の研究課題について探求し、研究能力を育成する。

■ 到達目標

データ収集・分析を進めながら、結果及び考察を記述し、全体を見直して一貫性のある論文に仕上げる。

■ 学習の進め方

発表、討議

【事前学習】明らかにしたい課題を明確化して臨む

【事後学習】討論の結果を研究に活かす

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究方法と分析の見直し	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
2	データ収集・分析と討議①	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
3	データ収集・分析と討議②	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
4	データ収集・分析と討議③	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
5	データ収集・分析と討議④	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
6	データ収集・分析と討議⑤	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
7	データ収集・分析と討議⑥	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
8	データ整理と解釈①	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
9	データ整理と解釈②	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
10	データ整理と解釈③	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
11	データ整理と解釈④	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
12	データ整理と解釈⑤	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
13	データ整理と解釈⑥	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
14	結果と考察の記述①	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
15	結果と考察の記述②	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
16	結果と考察の記述③	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
17	結果と考察の記述④	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
18	論文と全体構成の討議①	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口

No	内容	形式	教員
19	論文と全体構成の討議②	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
20	データと倫理の整合性の討議①	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
21	データと倫理の整合性の討議②	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
22	論文作成①	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
23	論文作成②	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
24	論文作成③	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
25	論文作成④	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
26	論文作成⑤	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
27	論文作成⑥	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
28	論文作成⑦	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
29	論文発表①	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口
30	論文発表②	発表、討議	石田、吉川、月野木、井口

■ 教科書

特になし

■ 参考書、参考資料等

随時、紹介する

■ フィードバックの仕方

ゼミで提出された資料は、ゼミの内外の時間で直接フィードバックする。

■ 他の授業科目との関連

地域看護学特別研究-1 と 2 の履修を要件とする。

■ 成績評価の仕方

1. ゼミへの参加度・プレゼンテーション 50 % 2. 提出資料 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

各授業のあと。石田研究室(432) 吉川研究室(425) 月野木研究室(424) 井口研究室(○)

■ 受講上の注意事項

1. 国内外の文献を常にレビューして下さい。
2. 1回/月、修士が参加します。質問等に答え、教えることで更なる学習の機会としてください。

■ その他

HDAN385

国際・災害看護学特論

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○野口 眞貴子、内木 美恵

■ 授業の目的

国内外の国際看護学、災害看護学に関わる理論、事象、実践を記述、分析するなかで、論理的思考過程を養い、健康課題の解決に貢献できる研究課題を見極める。

■ 到達目標

1. 国際看護学及び災害看護学領域で重要な理論や概念、モデルについて説明できる。
2. 国際看護及び災害看護領域の研究の動向と課題について説明できる。

■ 学習の進め方

ゼミ形式を主とし、院生自身がプレゼンテーションした内容に基づいてディスカッションを中心に行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション 事前学修：[20分] 関心のあるテーマを箇条書きにする 事後学修：[20分] 関心のあるテーマを加筆、修正、洗練化する	講義	野口・内木
2	国際看護学、災害看護学に関する理論・概念① 事前学修：[60分] 関連する理論を一つ要約する 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
3	国際看護学、災害看護学に関する理論・概念② 事前学修：[60分] 関連する理論を一つ要約する 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
4	国際看護学、災害看護学に関する理論・概念③ 事前学修：[60分] 関連する理論を一つ要約する 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
5	国際看護学、災害看護学に関する理論・概念④ 事前学修：[60分] 関連する理論を一つ要約する 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
6	国際看護学、災害看護学領域の研究論文のクリティーク① 事前学修：[60分] 関心のあるテーマの論文をひとつクリティークする 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
7	国際看護学、災害看護学領域の研究論文のクリティーク② 事前学修：[60分] 関心のあるテーマの論文をひとつクリティークする 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
8	国際看護学、災害看護学領域の研究論文のクリティーク③ 事前学修：[60分] 関心のあるテーマの論文をひとつクリティークする 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
9	国際看護学、災害看護学領域の研究論文のクリティーク④ 事前学修：[60分] 関心のあるテーマの論文をひとつクリティークする 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
10	国際看護学、災害看護学領域の研究論文のクリティーク⑤ 事前学修：[60分] 関心のあるテーマの論文をひとつクリティークする 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
11	国際看護学、災害看護学領域の今日的課題、動向 事前学修：[60分] 関心のあるテーマの近々の課題を要約する 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
12	国際看護学、災害看護学領域の研究動向 事前学修：[60分] 関心のあるテーマから研究論文をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

No	内容	形式	教員
13	国際看護学、災害看護学の課題を探究する研究方法① 事前学修：[60分] 関心のあるテーマから研究論文をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
14	国際看護学、災害看護学の課題を探究する研究方法② 事前学修：[30分] 関心のあるテーマから研究論文をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
15	まとめ 事前学修：[30分] 関心のある研究テーマを要約する 事後学修：[20分] 討論内容から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

■ 教科書

特に指定せず。

■ 参考書、参考資料等

1. Bulletin of the World Health Organization World Health Organization (2020)
2. 東日本大震災に学ぶ日本の防災 監修・地震予知総合研究振興会 学研 (2012)
3. Tener Goodwin Veenema Editor: Disaster Nursing and Emergency Preparedness 3rd Edition Springer Publishing Company (2013)
 - ・ Linda Young Landesmann: Public Health Managements of Disasters 3rd Edition: American Public Health Association, 2012.
 - ・ シリーズ 災害と社会第1巻～第8巻, 弘文堂, 2007.
 - ・ 勝見敦・小原真理子編集: 災害救護—災害サイクルから考える看護実践、ヌーベル廣川, 2012.

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーション、提出物は、講義時間内の討論で評価、対応する。

■ 他の授業科目との関連

国際・災害看護学特別研究-1・2・3、看護研究特論 I～VI

■ 成績評価の仕方

1. 授業時の討議とプレゼンテーション内容 60 %、2. レポート課題 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12:10～13:00

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)

■ 受講上の注意事項

国際的、最新の健康課題、災害看護活動の実際について関心を深め、日常的な情報収集を心がける。

■ その他

HDAN106

国際・災害看護学特別研究-1

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○野口 眞貴子、内木 美恵

■ 授業の目的

国際・災害看護学特別研究 1 - 3 全体の目的は、国際看護学、災害看護学での課題について、文献検討やフィールドワークから自己の研究課題及び研究デザインの明確化を図る。研究計画書作成からの研究活動、研究論文作成までの一連のプロセスを論理的思考のもとにすすめ、研究実践能力を養う。

■ 到達目標

1. 自己の研究疑問を論理的に明確にする。
2. 自己の研究課題に関する系統的文献検討ができる。
3. 先行研究を系統的に抽出し、クリティークできる。
4. 文献検討を通し、先行研究の動向を明確化できる。
5. フィールドワークから、研究課題の意義、方向性を論理的に構築できる。
6. 4,5 から研究テーマ及び研究方法を科学的思考過程に基づき確立する。

■ 学習の進め方

1年次は先行研究のレビュー、予備的研究としてフィールドワークを計画、実施し、本研究にむけての研究課題を設定し、研究デザインを確立する。

履修のために必要な事前学習「プレゼンテーション資料を作成する。」

履修のために必要な事後学習「ディスカッションされた内容をもとに再考し、資料等を加筆修正する。」

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション、研究の構想 事前学修：[20分] 自己の研究課題を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
2	研究の問題意識 事前学修：[20分] 自己の研究課題を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
3	文献検討、クリティーク 事前学修：[60分] 自己の研究課題の先行研究をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
4	文献検索・クリティーク 事前学修：[60分] 自己の研究課題の先行研究をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
5	文献検討、クリティーク 事前学修：[60分] 自己の研究課題の先行研究をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
6	文献検討、クリティーク 事前学修：[60分] 自己の研究課題の先行研究をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
7	文献検討、クリティーク 事前学修：[60分] 自己の研究課題の先行研究をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
8	文献検討、クリティーク 事前学修：[60分] 自己の研究課題の先行研究をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
9	文献検索・クリティーク 事前学修：[60分] 自己の研究課題の先行研究をひとつ要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
10	文献検索・クリティーク 事前学修：[60分] 自己の研究課題の先行研究を系統的に論述する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

No	内容	形式	教員
11	基礎研究の研究デザイン検討 事前学修：[60分] 基礎研究の必要性を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
12	基礎研究の研究デザイン検討 事前学修：[60分] 基礎研究テーマを要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
13	基礎研究の研究計画策定 事前学修：[60分] 基礎研究計画を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
14	基礎研究の研究計画策定 事前学修：[60分] 基礎研究計画を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
15	基礎研究の研究計画策定 事前学修：[60分] 基礎研究計画を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
16	基礎研究、フィールドワークの実施 事前学修：[60分] 基礎研究計画、進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
17	基礎研究、フィールドワークの実施 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
18	予備的研究、フィールドワークの実施 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
19	基礎研究、フィールドワークの実施 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
20	基礎研究、フィールドワークの実施 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
21	基礎研究、フィールドワークの分析 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
22	予備的研究、フィールドワークの分析 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
23	基礎研究、フィールドワークの結果の解釈、考察 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
24	基礎研究、フィールドワークの結果の解釈、考察 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
25	基礎研究、フィールドワークの結果の解釈、考察 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
26	基礎研究、フィールドワークの総括 事前学修：[60分] 基礎研究進捗を要約する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
27	予備的研究、フィールドワークの総括 事前学修：[60分] 基礎研究結果を総括する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

No	内容	形式	教員
28	基礎研究から研究課題の再検討 事前学修：[60分] 基礎研究結果を総括する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
29	基礎研究から研究課題の再検討 事前学修：[60分] 基礎研究結果を総括する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
30	本研究の意義、研究デザインの検討 事前学修：[60分] 基礎研究結果から本研究への発展を論述する 事後学修：[20分] 討論結果から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

■ 教科書

特に指定せず。

■ 参考書、参考資料等

1. Tener Goodwin Veenema Editor: Disaster Nursing and Emergency Preparedness 3rd Edition, Springer Publishing Company, 2013.
 2. Linda Young Landesmann: Public Health Managements of Disasters 2nd Edition: American Public Health Association, 2005.
- その他、授業中に適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーション、レポート課題は、講義時間内で評価、対応する。

■ 他の授業科目との関連

看護研究特論 I～VI、研究計画書セミナー、国際・災害看護学特論、国際・災害看護学特別研究-2・3

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 20%
2. プレゼンテーションの内容と方法 40%
3. レポート課題 40%

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12:10～13:00

野口 (403 研究室)、内木 (406 研究室)

■ 受講上の注意事項

文献検討とともに、国内外の機関報告書、イニシアティブ、パブリックリリース等からも最新の情報を認識し、動向を理解したうえで思考を深める。学生間のブレインストーミングや交流を通じて情報交換を行う。

■ その他

HDAN186

国際・災害看護学特別研究-2

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○野口 眞貴子、内木 美恵

■ 授業の目的

国際・災害看護学特別研究1－3全体の目的は、国際看護学、災害看護学での課題について、文献検討やフィールドワークから自己の研究課題及び研究デザインの明確化を図る。研究計画書作成からの研究活動、研究論文作成までの一連のプロセスを論理的思考のもとにすすめ、研究実践能力を養う。

■ 到達目標

1. 1年次の予備的研究をふまえ、自己の研究課題や研究デザインを明確にする。
2. 研究目的を達成するに妥当な系統的研究方法を決定する。
3. 論理的思考のもとに研究計画書を作成する。
4. 研究計画に基づいた研究活動を行う。

■ 学習の進め方

2年次は1年次で得た予備的研究結果をふまえ、さらに文献検討などの論理的思考過程を重ね、研究方法を決定し研究計画書を作成、研究計画審査と研究倫理審査を経て、本研究を実施する。

履修のために必要な事前学習「プレゼンテーション資料を作成する。」

履修のために必要な事後学習「ディスカッション内容をもとに再考し、資料等を修正する。」

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	基礎研究結果の検討、考察および研究課題の再検討 事前学修：[60分] 基礎研究の結果、考察を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
2	基礎研究結果の検討、考察および研究課題の再検討 事前学修：[30分] 本研究のテーマを要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
3	基礎研究結果の検討、考察および研究課題の再検討 事前学修：[30分] 本研究のテーマを要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
4	本研究の研究デザインの検討、計画立案 事前学修：[60分] 本研究の研究デザインを要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
5	本研究の研究デザインの検討、計画立案 事前学修：[60分] 本研究の研究デザインを要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
6	本研究の研究デザインの検討、計画立案 事前学修：[60分] 本研究の研究デザインを要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
7	本研究の研究デザインの検討、計画立案 事前学修：[60分] 本研究の研究計画を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
8	本研究の研究デザインの検討、計画立案 事前学修：[60分] 本研究の研究計画を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
9	本研究の研究デザインの検討、計画立案 事前学修：[60分] 本研究の研究計画を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
10	本研究の研究デザインの検討、計画立案 事前学修：[60分] 本研究の研究計画を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

No	内容	形式	教員
11	本研究の研究デザインの検討、計画立案 事前学修：[60分] 本研究の研究計画を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
12	研究デザインの論理性、倫理性、妥当性の再検討 事前学修：[60分] 本研究の研究計画を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
13	本研究の計画立案の決定、審査会、倫理審査の準備、実施 事前学修：[60分] 本研究の研究計画を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
14	本研究の計画立案の決定、審査会、倫理審査の準備、実施 事前学修：[60分] 本研究の研究計画を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
15	本研究の計画立案の決定、審査会、倫理審査の準備、実施 事前学修：[60分] 本研究の研究計画を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
16	本研究計画の決定、実施にむけての準備、調整 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
17	本研究計画の決定、実施にむけての準備、調整 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
18	本研究の実施 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
19	本研究の実施：データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
20	本研究の実施：データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
21	本研究の実施：データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
22	本研究の実施：データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
23	本研究の実施：データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
24	本研究活動、データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
25	本研究活動、データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
26	本研究活動、データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
27	本研究活動、データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木

No	内容	形式	教員
28	本研究活動、データ収集 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] Fieldwork をふまえて自己の課題を明確化する	Fieldwork	野口・内木
29	本研究活動、データの間総括、検討 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
30	本研究活動、データの間総括、検討 事前学修：[60分] 本研究の研究計画の進捗を要約する 事後学修：[20分] 発表、討議の内容をふまえて自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

■ 教科書

特に指定せず

■ 参考書、参考資料等

授業時等で、随時提示する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーション、レポート課題については、講義内で評価、対応する。

■ 他の授業科目との関連

国際・災害看護学特別研究-1・3、国際・災害看護学特論、看護研究特論 I～VI、研究計画書セミナー

■ 成績評価の仕方

1. 授業での討議とプレゼンテーション内容 60 % 2. レポート課題 40 %

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12:10～13:10 野口(403 研究室)、内木(406 研究室)

■ 受講上の注意事項

1 年次の特別研究 1 で得られた知見を、2 年次の特別研究 2 に繋げて下さい。

■ その他

HDAN286

国際・災害看護学特別研究-3

単位：2単位 履修年次：3年次 開講期：通年

○野口 眞貴子、内木 美恵

■ 授業の目的

国際・災害看護学特別研究1－3全体の目的は、国際看護学、災害看護学での課題について、文献検討やフィールドワークから自己の研究課題及び研究デザインの明確化を図る。研究計画書作成からの研究活動、研究論文作成までの一連のプロセスを論理的思考のもとにすすめ、研究実践能力を養う。

■ 到達目標

1. 本研究のデータ収集、分析及び考察を行う。
2. 学位論文として本研究内容を総括する。
3. 他の研究者、教員からの教育的指導、助言のもと研究内容を深化し、研究課題を達成する。

■ 学習の進め方

研究計画審査、倫理審査後、データを取集し、分析結果を論理的に考察し、学位論文を作成する。博士論文審査を受ける。

履修のために必要な事前学習「プレゼンテーション資料を作成してくる」

履修のために必要な事後学習「ディスカッション内容をもとに資料を修正しておく」

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

1～10. データ収集、分析、考察

11～20. 学位論文の作成

21. 博士審査会での審査

22～28. 審査結果に基づいた学位論文の修正

29～30. 学位論文の提出、原著論文の作成、投稿準備、投稿

No	内容	形式	教員
1	中間総括結果を反映した本研究のデータ収集、分析、考察 事前学修：[60分] 中間総括を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
2	本研究のデータ収集、分析、考察 事前学修：[60分] 研究分析結果を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
3	本研究のデータ収集、分析、考察 事前学修：[60分] 研究分析結果を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
4	本研究のデータ収集、分析、考察 事前学修：[60分] 研究分析結果を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
5	本研究のデータ収集、分析、考察 事前学修：[60分] 研究分析結果を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
6	本研究のデータ収集、分析、考察 事前学修：[60分] 研究分析結果を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
7	本研究の分析、考察 事前学修：[40分] 考察の視点を箇条書きにする 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
8	本研究の分析、考察 事前学修：[40分] 考察の視点を箇条書きにする 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
9	本研究の分析、考察 事前学修：[40分] 考察の視点を箇条書きにする 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

No	内容	形式	教員
10	本研究の分析、考察 事前学修：[40分] 考察の視点を箇条書きにする 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
11	本研究結果の最終総括、学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究結果、考察の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
12	学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究結果、考察の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
13	学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究結果、考察の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
14	学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究結果、考察の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
15	学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究結果、考察の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
16	学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究背景と結語の論理性を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
17	学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究背景から結語までの論理性を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
18	学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
19	学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
20	学位論文の作成 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
21	博士審査会での審査 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
22	審査結果に基づいた学位論文の再検討、修正 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
23	審査結果に基づいた学位論文の再検討、修正 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
24	審査結果に基づいた学位論文の再検討、修正 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
25	審査結果に基づいた学位論文の再検討、修正 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
26	審査結果に基づいた学位論文の再検討、修正 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

No	内容	形式	教員
27	審査結果に基づいた学位論文の再検討、修正 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
28	審査結果に基づいた学位論文の再検討、修正 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
29	学位論文の提出、原著論文の投稿準備、作成 事前学修：[60分] 研究全体の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木
30	原著論文の作成、投稿 事前学修：[60分] 原著論文の論理構成を要約する 事後学修：[20分] 発表内容、討論から自己の課題を明確化する	発表・討論	野口・内木

■ 教科書

特に指定せず。

■ 参考書、参考資料等

- ・フィールドワークの技法と実際、ミネルヴァ書房、2013.
- ・事例研究の革新的方法、九州大学出版会、2006.
- ・アクションリサーチ入門、ライフサポート社、2011.

■ フィードバックの仕方

発表内容、レポート課題については、講義内で評価、対応する。

■ 他の授業科目との関連

国際・災害看護学特別研究-1・2、看護研究特論 I～VI、研究計画書セミナー、国際・災害看護学特論

■ 成績評価の仕方

1. 授業中の討議とプレゼンテーション内容 60%
2. レポート課題 40%

■ オフィスアワー・研究室等

水曜日 12:10～13:00

野口(403 研究室)、内木(406 研究室)

■ 受講上の注意事項

1. データを解釈分析する過程で、文献検討を再度行う。
2. 分析結果を基に考察を進める中で、文献検討を再度行う。
3. 学内だけでなく学外の学際的な研究者、実践者の意見を聴く。

■ その他

HDAN386

看護教育学特論

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○佐々木 幾美

■ 授業の目的

国内外の看護教育学に関する諸理論を概観し、主要な理論の分析を行う。また、看護教育学領域における研究の動向や課題を検討し、その方向性を探究する。

■ 到達目標

1. 国内外の看護教育学に関する諸理論を概観し、主要な理論を分析することができる。
2. 看護教育学領域における研究の動向や課題を考察することができる。

■ 学習の進め方

【授業の進め方】

1. 授業の展開方法

金曜日の 4 限に Teams を活用して、大学院生のプレゼンテーションとディスカッションによる同時双方向型の授業を行う。

- 1) 自分に関心のあるテーマに沿った文献を決める。
- 2) 文献は事前に提示し、参加者全員が精読する。
- 3) 担当者は文献を要約したり、関連文献を用いて調べ、プレゼンテーション資料を作成する。
- 4) 作成した資料を、授業前日の 17 時までに、Teams にアップロードすること。アップロードがうまくいかない場合には、担当教員まで連絡をすること。発表者以外の受講者はアップロードされた資料を読んでおくことが望ましい。
- 5) 授業では、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める。

【自宅学習課題】

1. 課題内容

米国看護系大学協議会 (American Association of Colleges of Nursing (AACN)) の HP で以下のページを要約してまとめる (枚数は問わない)。

学士課程について：<https://www.aacnnursing.org/Nursing-Education-Programs/Baccalaureate-Education>

修士課程について：<https://www.aacnnursing.org/Nursing-Education-Programs/Masters-Education>

博士 (DNP) 課程について：<https://www.aacnnursing.org/Nursing-Education-Programs/DNP-Education>

博士 (PhD) 課程について：<https://www.aacnnursing.org/Nursing-Education-Programs/PhD-Education>

2. 課題提出方法

Glexa を用いて、自宅学習課題を提出してください。

- (1) ディレクトリ「1~4 回目」をクリック
- (2) ファイルをアップロードして提出してください
- (3) 提出期限：5/22 (金) 17:00 まで

Glexa にアクセスできない、不具合が生じた、提出方法がわからないなどがありましたら、担当教員へお知らせください。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自宅学習課題	自宅学習	佐々木
2	自宅学習課題	自宅学習	佐々木
3	自宅学習課題	自宅学習	佐々木
4	自宅学習課題	自宅学習	佐々木
5	オリエンテーション	講義	佐々木
6	看護教育学の諸理論の概観①	発表・討論	佐々木
7	看護教育学の諸理論の概観②	発表・討論	佐々木
8	看護教育学の諸理論の概観③	発表・討論	佐々木
9	看護教育学領域の主要理論の分析①	発表・討論	佐々木
10	看護教育学領域の主要理論の分析②	発表・討論	佐々木
11	看護教育学領域における研究の動向①	発表・討論	佐々木
12	看護教育学領域における研究の動向②	発表・討論	佐々木
13	看護教育学領域の研究課題①	発表・討論	佐々木
14	看護教育学領域の研究課題②	発表・討論	佐々木
15	まとめ	発表・討論	佐々木

■教科書

教科書は使用しない。

■参考書、参考資料等

参考文献は、随時提示する。

■フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。

■他の授業科目との関連

看護教育学特別研究の基盤となる科目です。

■成績評価の仕方

1. 授業参加度 20% 2. プレゼンテーション内容 40% 3. レポート 40%

■オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問、相談を受け付ける。それ以外には、メールにて随時、質問、相談を受け付ける。

メールは i-sasaki@redcross.ac.jp まで。必要時には Teams を設定する。

■その他

HDME100

看護教育学特別研究-1

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

看護教育学における研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書作成から研究を実施し、学位論文を作成するために演習を行う。

■ 到達目標

看護教育学における研究課題について、文献検討、フィールドワーク等から研究計画書を作成することができる。

■ 学習の進め方

学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学習を深める。

授業内容及びスケジュールについては、学生の学習状況、研究の進捗状況に応じて、漸次修正する。

事前学習：研究課題に至る背景、問題意識を整理し、研究方法を選択し、計画書を作成する。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたことについて修正を加える。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	佐々木・西田
2	看護教育学領域の文献検討	演習	佐々木・西田
3	看護教育学領域の文献検討	演習	佐々木・西田
4	看護教育学領域の文献検討	演習	佐々木・西田
5	看護教育学領域の文献検討	演習	佐々木・西田
6	看護教育学領域の文献検討	演習	佐々木・西田
7	看護教育学領域の文献検討	演習	佐々木・西田
8	看護教育学領域の文献検討	演習	佐々木・西田
9	看護教育学領域における研究課題の検討	演習	佐々木・西田
10	看護教育学領域における研究課題の検討	演習	佐々木・西田
11	看護教育学領域における研究課題の検討	演習	佐々木・西田
12	看護教育学領域における研究課題の検討	演習	佐々木・西田
13	看護教育学領域における研究課題の検討	演習	佐々木・西田
14	看護教育学領域における研究課題の検討	演習	佐々木・西田
15	研究課題に向けての計画書作成	演習	佐々木・西田
16	研究課題に向けての計画書作成	演習	佐々木・西田
17	研究課題に向けての計画書作成	演習	佐々木・西田
18	研究課題に向けての計画書作成	演習	佐々木・西田
19	研究課題に向けての計画書作成	演習	佐々木・西田
20	研究課題に向けての予備調査とデータ分析	演習	佐々木・西田
21	研究課題に向けての予備調査とデータ分析	演習	佐々木・西田
22	研究課題に向けての予備調査とデータ分析	演習	佐々木・西田
23	研究課題に向けての予備調査とデータ分析	演習	佐々木・西田
24	研究課題に向けての予備調査とデータ分析	演習	佐々木・西田
25	研究課題に向けての予備調査とデータ分析	演習	佐々木・西田
26	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
27	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
28	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
29	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
30	まとめ	演習	佐々木・西田

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

参考文献は、随時提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特別研究-2、看護教育学特別研究-3 の基盤となる科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20% 2. プレゼンテーション内容 40% 3. 特別研究報告書 40%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12：30～13：00。佐々木(436 研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp まで。

■ その他

HDME180

看護教育学特別研究-2

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

看護教育学における研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書作成から研究を実施し、学位論文を作成するために演習を行う。

■ 到達目標

研究計画書を作成し、それに基づいてデータ収集と分析を行っていくことができる。

■ 学習の進め方

学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学習を深める。

授業内容及びスケジュールについては、学生の学習状況、研究の進捗状況に応じて、漸次修正する。

事前学習：研究計画書を作成する。それに基づいて収集したデータを資料として整理する。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたことについて修正を加える。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	佐々木・西田
2	研究計画書作成に向けての検討	演習	佐々木・西田
3	研究計画書作成に向けての検討	演習	佐々木
4	研究計画書作成に向けての検討	演習	佐々木・西田
5	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
6	研究計画書作成	演習	佐々木
7	研究計画書作成	演習	佐々木
8	研究計画書作成	演習	佐々木・西田
9	研究計画書審査会	演習	佐々木
10	研究計画書審査会	演習	佐々木
11	研究倫理審査申請書類作成	演習	佐々木
12	研究倫理審査申請書類作成	演習	佐々木
13	研究倫理審査申請書類作成	演習	佐々木・西田
14	データ収集・分析	演習	佐々木・西田
15	データ収集・分析	演習	佐々木
16	データ収集・分析	演習	佐々木・西田
17	データ収集・分析	演習	佐々木
18	データ収集・分析	演習	佐々木・西田
19	データ収集・分析	演習	佐々木
20	データ収集・分析	演習	佐々木・西田
21	データ収集・分析	演習	佐々木
22	データ収集・分析	演習	佐々木・西田
23	データ収集・分析	演習	佐々木
24	データ収集・分析	演習	佐々木・西田
25	データ収集・分析	演習	佐々木
26	データ収集・分析	演習	佐々木・西田
27	データ収集・分析	演習	佐々木
28	データ収集・分析	演習	佐々木・西田
29	データ収集・分析	演習	佐々木
30	まとめ	演習	佐々木・西田

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

参考文献は、随時提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特別研究-1 の学習に基づいて展開する科目です。看護教育学特別研究-3 の基盤となる科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20% 2. プレゼンテーション内容 30% 3. 特別研究報告書(研究計画書を含む) 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30～13:00。佐々木(436 研究室)。

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp まで。

■ その他

HDME280

看護教育学特別研究-3

単位：2 単位 履修年次：3 年次 開講期：通年

○佐々木 幾美、西田 朋子

■ 授業の目的

看護教育学における研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書作成から研究を実施し、学位論文を作成するために演習を行う。

■ 到達目標

研究計画書に基づいてデータ収集と分析を行い、学位論文を作成する。

■ 学習の進め方

学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学習を深める。

授業内容及びスケジュールについては、学生の学習状況、研究の進捗状況に応じて、漸次修正する。

事前学習：収集したデータを分析し、論文として作成する。

事後学習：授業の中で指摘されたことや質問されたことについて修正を加える。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	佐々木・西田
2	データ収集・分析と討議	演習	佐々木・西田
3	データ収集・分析と討議	演習	佐々木
4	データ収集・分析と討議	演習	佐々木・西田
5	データ収集・分析と討議	演習	佐々木
6	データ整理と解釈	演習	佐々木・西田
7	データ整理と解釈	演習	佐々木
8	データ整理と解釈	演習	佐々木
9	データ整理と解釈	演習	佐々木・西田
10	データ整理と解釈	演習	佐々木
11	データ整理と解釈	演習	佐々木
12	データ整理と解釈	演習	佐々木・西田
13	データ整理と解釈	演習	佐々木
14	データ整理と解釈	演習	佐々木
15	データ整理と解釈	演習	佐々木・西田
16	論文の全体構成の検討	演習	佐々木・西田
17	論文の全体構成の検討	演習	佐々木
18	論文の全体構成の検討	演習	佐々木・西田
19	論文の全体構成の検討	演習	佐々木
20	データと論理の整合性の検討	演習	佐々木・西田
21	データと論理の整合性の検討	演習	佐々木
22	データと論理の整合性の検討	演習	佐々木・西田
23	データと論理の整合性の検討	演習	佐々木
24	論文作成	演習	佐々木・西田
25	論文作成	演習	佐々木
26	論文作成	演習	佐々木・西田
27	論文作成	演習	佐々木
28	論文作成	演習	佐々木・西田
29	論文作成	演習	佐々木
30	論文作成	演習	佐々木・西田

■ 教科書

教科書は使用しない。

■ 参考書、参考資料等

参考文献は、随時提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護教育学特別研究-1 および看護教育学特別研究-2 の学習に基づいて展開する科目です。

■ 成績評価の仕方

1. 授業参加度 20% 2. プレゼンテーション内容 30% 3. 特別研究報告書(論文作成を含む) 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30~13:00。佐々木(436 研究室)

メールは随時、i-sasaki@redcross.ac.jp まで。

■ その他

HDME380

看護管理学特論

単位：2 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○安部 陽子

■ 授業の目的

国内外の看護管理学領域の諸概念をレビューするとともに、看護管理学領域における研究の動向や課題を探求し、研究方法論を探求する。

■ 到達目標

看護管理学研究の動向および方法について熟知するとともに、自らの研究疑問を深めることができる。

■ 学習の進め方

文献のテーマは学生と相談のうえ決定する。

【事前学習】初回に配布する資料に従って事前学習を行う。

【事後学習】初回に配布する資料に従って事後学習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	討議	安部
2	看護管理に関する理論・概念(1)	討議	安部
3	看護管理に関する理論・概念(2)	討議	安部
4	看護管理学領域の研究の動向(1)	討議	安部
5	看護管理学領域の研究の動向(2)	討議	安部
6	看護管理学領域の論文のクリティーク(1)	討議	安部
7	看護管理学領域の論文のクリティーク(2)	討議	安部
8	看護管理学領域の論文のクリティーク(3)	討議	安部
9	看護管理学領域の論文のクリティーク(4)	討議	安部
10	看護管理学領域の論文のクリティーク(5)	討議	安部
11	看護管理学領域の研究課題(1)	討議	安部
12	看護管理学領域の研究課題(2)	討議	安部
13	看護管理学領域の研究手法(1)	討議	安部
14	看護管理学領域の研究手法(2)	討議	安部
15	まとめ	討議	安部

■ 教科書

指定していない。

■ 参考書、参考資料等

指定していない。

■ フィードバックの仕方

採点后、コメント付のレポートを返却する。

■ 他の授業科目との関連

看護管理学特別研究の基礎となる。

■ 成績評価の仕方

1. 授業の取り組み 50 % 2. レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が掲載された資料を配布する。

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HDME101

看護管理学特別研究-1

単位：2単位 履修年次：1年次 開講期：通年

○安部 陽子

■ 授業の目的

看護管理学における研究課題に応じて研究方法を選択し、研究計画書を作成し、学位論文を作成するために演習を行う。

■ 到達目標

看護学の発展や課題の解決に焦点を当てた研究の背景・意義を記述することができる。

具体的かつ実現可能な研究目的、研究疑問、仮説を計画することができる。

研究目的、研究疑問、仮説に合致した研究方法を計画することができる。

研究対象者の尊厳と権利を擁護するための配慮について計画することができる。

■ 学習の進め方

研究計画立案に関する演習により進める。

【事前学習】初回に配布する資料に従って事前学習を行う。

【事後学習】初回に配布する資料に従って事後学習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究の背景・意義・目的	討議	安部
2	研究の背景・意義・目的	討議	安部
3	研究の背景・意義・目的	討議	安部
4	研究デザイン	討議	安部
5	研究デザイン	討議	安部
6	研究デザイン	討議	安部
7	研究デザイン	討議	安部
8	研究デザイン	討議	安部
9	研究デザイン	討議	安部
10	研究デザイン	討議	安部
11	研究デザイン	討議	安部
12	研究デザイン	討議	安部
13	研究の対象者	討議	安部
14	研究の対象者	討議	安部
15	研究の対象者	討議	安部
16	データ収集方法	討議	安部
17	データ収集方法	討議	安部
18	データ収集方法	討議	安部
19	データ収集方法	討議	安部
20	データ収集方法	討議	安部
21	データの分析方法	討議	安部
22	データの分析方法	討議	安部
23	データの分析方法	討議	安部
24	データの分析方法	討議	安部
25	データの分析方法	討議	安部
26	研究計画書の作成	討議	安部
27	研究計画書の作成	討議	安部
28	研究計画書の作成	討議	安部
29	研究計画書の作成	討議	安部
30	研究計画書の作成	討議	安部

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

選択した研究デザインによる

■ フィードバックの仕方

採点后、コメント付のレポートを返却する。

■ 他の授業科目との関連

看護管理学特別研究-2・-3 と関連している。

■ 成績評価の仕方

授業の参加度 30 %、発表内容 40 %、レポート 30 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が掲載された資料を配布する。

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HDME181

看護管理学特別研究-2

単位：2単位 履修年次：2年次 開講期：通年

○安部 陽子

■ 授業の目的

看護管理学における研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書作成して研究を実施し、学位論文を作成するために演習を行う。

■ 到達目標

研究計画書を作成し、それに基づいてデータを収集し分析を行っていくことができる。

■ 学習の進め方

ゼミナール形式(学生自身がプレゼンテーションし、その内容に基づいて討論し、学習を進める)で行う。

授業の初回に配布された資料にしたがって事前・事後学習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	予備調査	演習・同時双方 向型	安部
2	予備調査	演習・同時双方 向型	安部
3	予備調査	演習・同時双方 向型	安部
4	予備調査	演習・同時双方 向型	安部
5	予備調査	演習・同時双方 向型	安部
6	研究計画書の修正	演習・同時双方 向型	安部
7	研究計画書の修正	演習・同時双方 向型	安部
8	研究計画書の修正	演習・同時双方 向型	安部
9	研究計画書の修正	演習・同時双方 向型	安部
10	研究計画書の修正	演習・同時双方 向型	安部
11	研究倫理審査書類の作成	演習・同時双方 向型	安部
12	研究倫理審査書類の作成	演習・同時双方 向型	安部
13	研究倫理審査書類の作成	演習・同時双方 向型	安部
14	研究倫理審査書類の作成	演習・同時双方 向型	安部
15	研究倫理審査書類の作成	演習・同時双方 向型	安部
16	本研究のデータ収集	演習	安部
17	本研究のデータ収集	演習	安部
18	本研究のデータ収集	演習	安部
19	本研究のデータ収集	演習	安部
20	本研究のデータ収集	演習	安部
21	本研究のデータ収集	演習	安部
22	本研究のデータ収集	演習	安部

No	内容	形式	教員
23	本研究のデータ収集	演習	安部
24	本研究のデータ収集	演習	安部
25	本研究のデータ収集	演習	安部
26	本研究の分析	演習	安部
27	本研究の分析	演習	安部
28	本研究の分析	演習	安部
29	本研究の分析	演習	安部
30	本研究の分析	演習	安部

■ 教科書

指定していない。

■ 参考書、参考資料等

指定していない。

■ フィードバックの仕方

発表資料、研究計画書にフィードバックを返す。

■ 他の授業科目との関連

看護管理学特別研究-1・-3 と関連している。

■ 成績評価の仕方

1. 授業の参加度 20 % 2. 発表内容 30 %、研究計画書 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が掲載された資料を配布する。

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HDME281

看護管理学特別研究-3

単位：2 単位 履修年次：3 年次 開講期：通年

○安部 陽子

■ 授業の目的

看護管理学における研究課題に応じて、研究方法を選択し、研究計画書に基づいて研究を実施し、学位論文を作成する。

■ 到達目標

研究計画書に基づいてデータ収集を行い、学位論文を作成する。

■ 学習の進め方

ゼミナール形式(学生が自身がプレゼンテーションした内容に基づいて討論し、学習を深める)で行う。

【事前学習】初回に配布する資料に従って事前学習を行う。

【事後学習】初回に配布する資料に従って事後学習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	本研究の分析	演習・同時双方向型	安部
2	本研究の分析	演習・同時双方向型	安部
3	本研究の分析	演習・同時双方向型	安部
4	本研究の分析	演習・同時双方向型	安部
5	本研究の分析	演習・同時双方向型	安部
6	結果の記述	演習・同時双方向型	安部
7	結果の記述	演習・同時双方向型	安部
8	結果の記述	演習・同時双方向型	安部
9	結果の記述	演習・同時双方向型	安部
10	結果の記述	演習・同時双方向型	安部
11	結果の記述	演習・同時双方向型	安部
12	結果の記述	演習・同時双方向型	安部
13	結果の記述	演習・同時双方向型	安部
14	考察の記述	演習・同時双方向型	安部
15	考察の記述	演習・同時双方向型	安部
16	考察の記述	演習	安部
17	考察の記述	演習	安部
18	考察の記述	演習	安部
19	考察の記述	演習	安部
20	考察の記述	演習	安部
21	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部

No	内容	形式	教員
22	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部
23	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部
24	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部
25	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部
26	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部
27	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部
28	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部
29	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部
30	論文全体の内容の検討・修正	演習	安部

■ 教科書

指定していない。

■ 参考書、参考資料等

指定していない。

■ フィードバックの仕方

授業のプレゼンテーション、提出物のフィードバックは授業時あるいは授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

看護管理学特別研究-1・-2 と関連している。

■ 成績評価の仕方

1. 授業の参加度 20 % 2. 発表の内容 30% 3. 学位論文(草稿を含む) 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が掲載された資料を配布する。

■ 受講上の注意事項

なし

■ その他

HDME381

看護科学特論Ⅰ

単位：1単位 履修年次：1年次 開講期：後期

○筒井 真優美

■ 授業の目的

科学論、看護論等の変遷を概観し、変化する社会への看護科学の役割及び今後の方向性を探求する。看護科学の発展における自分の博士論文の役割を認識する。また、世界の動きに注目し、国際社会における看護科学の役割を世界の看護者等との交流を通して追及する。

■ 到達目標

1. 看護論と科学論の概観について説明できる。
2. 看護科学と看護学・看護理論等の関係性について説明できる。
3. 看護科学の展望について自分の意見を述べるができる。
4. 看護科学の発展における博士論文の役割を述べるができる。

■ 学習の進め方

課題について、資料を作成し討議する。

【事前学習】発表資料を準備する。

【事後学習】授業での討議内容を踏まえ、自己の課題を明確化する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	看護科学とは何か(オリエンテーションを含む)	講義	筒井
2	科学とは何か、科学論の概観と看護科学	講義・発表・討 論	筒井
3	看護理論の概観と看護科学	講義・発表・討 論	筒井
4	看護実践、看護科学、看護理論、看護研究	講義・発表・討 論	筒井
5	看護科学と倫理	講義・発表・討 論	筒井
6	看護科学の位置づけ	講義・発表・討 論	筒井
7	看護科学の発展における各自の博士論文の位置づけ (1)	講義・発表・討 論	筒井
8	看護科学の発展における各自の博士論文の位置づけ (2)	講義・発表・討 論	筒井

■ 教科書

特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

筒井真優美編(2015). 看護理論家の業績と理論評価. 医学書院.
授業時間に参考文献一覧を提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護(科)学の基礎となる科目で、博士論文の看護科学における役割を考えます。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50 %
2. 課題のプレゼンテーション 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に教室で質問を受け付ける

メールアドレス：tsutsui@redcross.ac.jp

■ その他

HDCS150

看護科学特論Ⅱ

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○川原 由佳里

■ 授業の目的

科学的知識の一形式としての理論について学ぶ。看護学において理論が果たす役割と意義を理解し、理論構築に向けた基礎的能力を養う。哲学や思想の影響を受けて発展してきた看護理論の歴史を概観し、実践の科学としての看護科学の方向性を探求する。

■ 到達目標

理論開発の目的と意義について理解する。

理論の構造及び機能を見分けることができる。

理論評価の様々な基準を比較し、考察する。

看護理論の歴史の変遷を学び、発展過程の特徴を考察する。

理論構築のさまざまな方法について理解する。

概念分析・理論構築が看護学の知識開発にどのように貢献するかを考察することができる。

■ 学習の進め方

課題について、資料を作成し討議する。

※原則、課題提出や遠隔授業の方式(Glexa でのオンデマンド型、Teams や Zoom を使用した同時双方向型またはその併用)で進める。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	同時双方向型 (以下すべて同じ) 講義	川原
2	理論開発の目的と意義、看護理論の概観及び歴史の変遷	発表・ディスカッション	川原
3	理論の構造と機能、理論評価の基準	発表・ディスカッション	川原
4	理論構築法、概念分析	発表・ディスカッション	川原
5	理論評価の実際	発表・ディスカッション	川原
6	概念分析のクリティーク	発表・ディスカッション	川原
7	看護学の知のパターン：経験知・倫理知・審美知	発表・ディスカッション	川原
8	同上：個人知・解放知	発表・ディスカッション	川原

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

Chinn & Kramer, Knowledge Development in Nursing, 9ed Elsevier

Chinn & Kramer, 川原由佳里監訳、看護学の総合的な知の構築に向けて、エルゼビアジャパン

B.Stevens, 中西睦子他訳：看護理論の理解のために、メディカルサイエンスインターナショナル

Waker & Avant 中木高夫他訳：看護における理論構築の方法、医学書院

筒井真優美編、看護理論家の業績と理論評価、医学書院

A.Meleis, Theoretical Nursing, 5th, Wolters Kluwer, Lippincott Williams & Wilkins

■ 他の授業科目との関連

看護現象の科学的探究の基礎となる概念的論理的思考能力を高める科目です。

■ 成績評価の仕方

課題のプレゼンテーション 50 % レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業開講日の 12:30-13:00 川原研究室(447)

■ その他

HDCS100

看護科学特論Ⅲ

単位：1単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○安部 陽子

■ 授業の目的

実践、管理、教育、研究の場における看護の課題を検討する。検討した課題に対して、博士の学位を有する看護職がもつ責任と機会について考察し、解決策の提言を行う。

■ 到達目標

- ・博士号を有する看護職の責任と機会について自分の意見を述べるができる。
- ・看護提供組織における課題と博士号を有する看護職のリーダーシップのあり方について討論することができる。
- ・看護界における課題と、それに対して博士号を有する看護職が示すリーダーシップのあり方、影響力について自分の意見を述べるができる。
- ・看護職の労働環境と確保定着の課題を解決するための、博士号を有する看護職の役割について討論することができる。
- ・看護教育の現状とあり方、大学院教育について討論することができる。
- ・博士号を有する看護職の学術的リーダーシップのあり方について、自分の意見を述べるができる。

■ 学習の進め方

履修者は必読文献を読み看護の課題についての基本的な理解を得る。グループ毎に担当する週のテーマについて、追加の情報収集を行い、課題を整理して資料にまとめ、発表を行う。その後、発表をもとにクラスで課題の解決策について討議をする。課題に対する解決策を提言としてまとめ、発表する。

【事前学習】初回に配布する資料に従って事前学習を行う。

【事後学習】初回に配布する資料に従って事後学習を行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	リーダーシップ論：博士の責任と機会	オンデマンド型	安部
2	看護提供組織におけるリーダーシップ：多職種との協働	学生の発表・討議・同時双方向型	安部
3	看護職の中でのリーダーシップと影響力	学生の発表・討議・同時双方向型	安部
4	看護職の労働環境と確保定着	学生の発表・討議・同時双方向型	安部
5	看護教育の現状とあり方、大学院教育	学生の発表・討議・同時双方向型	安部
6	学術的リーダーシップ	学生の発表・討議・同時双方向型	安部
7	未来への提言①	学生の発表・討議・同時双方向型	安部

■ 教科書

第1回目の授業で各回の必読文献リストを提示する。

■ 参考書、参考資料等

なし

■ フィードバックの仕方

採点后、コメント付の課題を返却する。

■ 他の授業科目との関連

本科目は博士の学位を有する看護職がもつ責任と機会について考察し、博士課程修了後の自分のあり方について探求するものであり、他の科目との直接的な関連性はない。

■ 成績評価の仕方

1. 課題への取り組み 80% 2. 討議の参加度 20%

■ オフィスアワー・研究室等

授業初日に各授業回のオフィスアワーの日時・場所が掲載された資料を配布する。

■ その他

HDCS101

看護研究特論Ⅰ

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○佐々木 幾美、本庄 恵子、江本 リナ、太田 喜久子

■ 授業の目的

修士課程で行なった研究方法・研究プロセスを相互に分析・評価し合い、研究方法に関する理解を深める。未知な看護現象を明確化する研究方法や看護独自の研究方法の開発などに向け、それらに必要な課題について論じる。

■ 到達目標

1. 自己の行った修士論文の研究方法について説明し、課題を明確にできる。
2. 量的研究および質的研究の方法論についての概略を説明することができる。
3. それぞれの研究方法論の特徴と課題について、論じることができる。

■ 学習の進め方

AL

【授業の進め方】

1. 授業の展開方法

火曜日の5限に Teams を活用して、大学院生のプレゼンテーションとディスカッションによる同時双方向型の授業を行う。講義については Glexa にて資料を配信する予定である。

- 1) 授業概要と授業スケジュールをよく読んで、授業内容を把握して学習を進める。
- 2) 各テーマの担当を決める。
- 3) 担当のテーマについて関連文献を用いて調べ、プレゼンテーション資料を作成する。
- 4) 作成した資料を、授業前日の17時までに、Teams にアップロードすること。アップロードがうまくいかない場合には、担当教員まで連絡をすること。発表者以外の受講者はアップロードされた資料を読んでおくことが望ましい。
- 5) 授業では、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める。

【課題レポート】

研究の方法論の一つを選び、それを概説すること。

(形式) A4 版とする。5000 字程度でまとめること。

(評価のポイント) 論文の形式 10 点/テーマと論旨の一貫性 10 点/方法論の理解 15 点/論理的な論述 15 点

(提出期日) 8 月 31 日(月)まで：Glexa に提出

(提出期間) 8 月 3 日(月)～8 月 31 日(月)

【自宅学習課題】

1. 課題内容

次の①②のいずれかを選択してください。

① APRIN の e-learning プログラム (<https://edu.aprin.or.jp/>) を受講すること。

受講の方法については、研究倫理審査委員会からポータルで配信があります。

② 「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」

(<https://www.lifescience.mext.go.jp/files/pdf/n1443-01.pdf>) を読んでまとめること(枚数は問わない)。

2. 課題提出方法

Glexa を用いて、自宅学習課題①または②のいずれかを提出してください。

- (1) ディレクトリ「1回目」をクリック
- (2) 教材一覧にある自宅学習課題①または②の「受講」をクリック
- (3) ファイルをアップロードして提出してください

①の場合は、「研究倫理審査委員会カリキュラム修了証」の PDF を提出してください

②の場合は、提出ファイルに「学籍番号 氏名」を記載してください

(4) 提出期限：初回授業 5/12(火)～5/15(金) 17:00 まで

Glexa にアクセスできない、不具合が生じた、提出方法がわからないなどがありましたら、担当教員へお知らせください

事前学習：授業のテーマに沿った文献を精読し、発表を行う。

事後学習：発表の中で指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについては、調べておくこと

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	自宅学習課題	自宅学修	全員
2	自宅学習課題	自宅学修	全員
3	授業概要 オリエンテーション／問いの立て方から研究テーマへ	同時双方向型	全員
4	プレゼンテーションの準備	演習	全員

No	内容	形式	教員
5	量的研究の概要 (量的研究のプロセス、研究デザインの妥当性(サブストラクション／サンプリングを含む) ／量的研究クリティークの視点等)	同時双方向型	全員
6	量的研究の方法 (量的記述的研究、相関研究、準実験研究、実験研究、RCT)	同時双方向型	全員
7	質的研究の概要 (哲学的前提と方法論／質的研究クリティークの視点等)	同時双方向型	全員
8	質的研究の方法 (質的記述的研究、エスノグラフィー、グランデッドセオリーアプローチ、ナラティブアプ プローチ、アクションリサーチなど)	同時双方向型	全員

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

参考文献：参考文献は、授業中に、適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

研究特論Ⅱ～Ⅵの基盤となる科目である。

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーション 40% 2. 討議への参加度 10% 3. レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問、相談を受け付ける。それ以外には、メールにて随時、質問、相談を受け付ける。

メールアドレス:i-sasaki@redcross.ac.jp (佐々木)、honjo@redcross.ac.jp (本庄)、emoto@redcross.ac.jp (江本)、k-ota@redcross.ac.jp (太田)

■ その他

HDCS102

看護研究特論Ⅱ

単位：1単位 履修年次：1年次 開講期：前期

○佐々木 幾美、本庄 恵子、江本 リナ、太田 喜久子

■ 授業の目的

看護における研究方法の探求のために国内外の原著論文を精読し、研究全般に関して分析・批評する。

■ 到達目標

1. 研究方法論について、国内外の原著論文を精読し、その特徴と課題について説明できる。
2. 自己の研究テーマとの関連で、どのような研究方法が適切なのか、考えを深めることができる。
3. 研究テーマから研究方法へとつなげるプロセスについて説明できる。

■ 学習の進め方

AL

【授業の進め方】

1. 授業の展開方法

火曜日の5限に Teams を活用して、大学院生のプレゼンテーションとディスカッションによる同時双方向型の授業を行う。講義については Glexa にて資料を配信する予定である。

- 1) 6月23日のプレゼンテーション：自らの修士論文をクリティークして発表する。
 - ・資料は A4 用紙 1 枚程度とし、論文の概要とクリティークした内容をまとめる。
 - ・授業前日の 17 時までに、Teams にアップロードする。
- 2) 6月30日以降のプレゼンテーション：
 - ・各テーマの担当を決め、担当者はそれに相応しい英文文献を選択してクリティークを行い、発表すること。
 - ・選択した英文文献は、教員および受講者に、6月11日までに Teams にアップロードすること。受講者は配布された文献に目を通して、授業に参加すること。
 - ・作成した資料を、授業前日の 17 時までに、Teams にアップロードすること。アップロードがうまくいかない場合には、担当教員まで連絡をすること。発表者以外の受講者はアップロードされた資料を読んでおくことが望ましい。
 - ・授業では、プレゼンテーション、ディスカッションなどを通して主体的に学びを深める。
 - ・司会・タイムキープは大学院生で分担して行う。

【課題レポート】

プレゼンテーションした文献クリティーク内容を洗練して、提出すること。

(形式) A4 版とする。5000 字程度でまとめること。

(評価のポイント) 論文の形式 10 点/文献クリティークの理解 20 点/論理的な論述 20 点

(提出期日) 8月31日(月) 17 時まで：Glexa に提出

(提出期間) 8月3日(月)～8月31日(月)

【自宅学習課題】

1. 課題内容

自分の修士論文に対して研究のクリティークを行い、レポートにまとめる(枚数は問わない)。

2. 課題提出方法

Glexa を用いて、自宅学習課題を提出してください

- 1) 研究特論Ⅱのディレクトリ「1回目」をクリック。
- 2) 4月自宅学習課題の「確認」をクリック。
- 3) ファイルをアップロードして提出してください
- 4) 提出期限：初回授業 6/23(火)～6/26(金)17:00 まで

事前学習：自分の研究に関連するような文献を収集し、クリティークを行い、報告の準備をする。

事後学習：発表の中で指摘されたことや質問されたこと、討論の中で疑問に思ったことについては、調べておくこと。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	修士論文のクリティーク	課題学習	全員
2	授業概要 オリエンテーション 修士論文のクリティーク	同時双方向型	全員
3	量的研究のクリティーク	演習	全員
4	量的研究のクリティーク ①②	同時双方向型	全員
5	質的研究のクリティーク	演習	全員
6	質的研究のクリティーク ①②	同時双方向型	全員

No	内容	形式	教員
7	博士論文の書き方	同時双方向型	全員
8	まとめの討論	同時双方向型	全員

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

参考文献：授業中に、適宜、紹介する。

■ フィードバックの仕方

プレゼンテーションのフィードバックは、授業時に行う。課題レポートのフィードバックは、授業終了後に行う。

■ 他の授業科目との関連

看護研究特論Ⅰを受講していること。

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーション 40% 2. 討議への参加度 10% 3. レポート 50%

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に質問、相談を受け付ける。それ以外には、メールにて随時、質問、相談を受け付ける。

メールアドレス:i-sasaki@redcross.ac.jp (佐々木)、honjo@redcross.ac.jp (本庄)、emoto@redcross.ac.jp (江本)、k-ota@redcross.ac.jp (太田)

■ その他

HDCS103

看護研究特論Ⅲ

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：前期

○月野木 ルミ

■ 授業の目的

量的研究を計画・実施する上で必要な知識・技術を習得する。

■ 到達目標

1. 量的研究の計画・実施に必要な知識と基本的な統計手法を理解できる
2. 既習の統計的知識・技術を用いて、研究データの統計解析を行い研究結果をまとめる研究実践力をつける

■ 学習の進め方

講義、演習およびアクティブラーニングで学習を展開する。

1. オンデマンド型講義:Glaxa の講義と各種資料を参照し、演習課題やレポートに取り組む
2. 対面演習：SPSS の基本的操作、データ管理について学ぶ
3. 同時双方型：演習課題・レポートに基づき、討議・演習振り返りを行う。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション ・演習の進め方や予習・復習すべき点について理解する。 ・論文における結果のまとめ方について学ぶ Glaxa ページの資料を読み、オンデマンド講義を視聴した上で、レポートを作成し提出してください。 事前学修：[90 分] 量的研究に必要な統計手法等を確認しまとめる 事後学修：[90 分] 統計演習に関連する論文等を調べレポートを作成する	オンデマンド型	月野木
2	量的研究の計画・実施に必要な知識や考え方 Glaxa ページの資料を読み、オンデマンド講義を視聴した上で、レポートを作成し提出してください。 事前学修：[90 分] 量的研究に必要な統計手法等を確認しまとめる 事後学修：[90 分] 統計演習に関連する論文等を調べレポートを作成する	オンデマンド型	月野木
3	統計解析演習(SPSS 演習 1) ・データ管理の実際を学ぶ ・SPSS を使用する上で必要な基本的な操作方法を学ぶ 事前学修：[90 分] 統計演習に関連する論文等を調べまとめる 事後学修：[90 分] 演習内容を復習しデータ管理ができるようにまとめる	対面演習	月野木
4	統計解析演習(SPSS 演習 2) ・SPSS を用いた解析方法を学ぶ (記述統計) ・介入研究 (仮想) データを用いて評価および解析の実際を学ぶ 事前学修：[90 分] 統計演習に関連する論文等を調べまとめる 事後学修：[90 分] 演習内容を復習し SPSS の基本的操作ができるようにまとめる	対面演習	月野木
5	統計解析演習(SPSS 演習 3) ・SPSS を用いた解析結果をまとめ方の確認 ・統計手法の確認を行う。 ・大規模健診データを用いた演習のオリエンテーション Glaxa 等で配布した多変量解析のテキストに従い、課題に取り組む 事前学修：[90 分] 統計演習に関連する論文等を調べまとめる 事後学修：[90 分] 統計解析結果についてまとめる	オンデマンド型	月野木
6	統計解析演習(SPSS 演習 4) ・SPSS を用いた解析方法を学ぶ (多変量解析) ・大規模健診データ (仮想) を用いた一連の解析手順を、グループでの解析演習を通して学ぶ。 Glaxa 等で配布した多変量解析のテキストに従い、演習課題に取り組む 事前学修：[90 分] 統計演習に関連する論文等を調べまとめる 事後学修：[90 分] 統計解析結果についてまとめる	オンデマンド型	月野木

No	内容	形式	教員
7	<p>まとめ</p> <p>多変量解析演習で得られた結果を、図表を用いてレポートとして各自でまとめる。演習課題も併せて行う。</p> <p>Glexa 等で配布した多変量解析のテキストに従い、演習課題に取り組む</p> <p>事前学修：[120 分] 統計演習に関連する論文等を調べまとめる</p> <p>事後学修：[120 分] 結果を論文形式にまとめる</p>	オンデマンド型	月野木
8	<p>まとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすい魅力的な結果のまとめ方について学ぶ。 ・具体的には、多変量解析演習レポートに対して、学生と教員間でわかりやすい結果のまとめ方について議論する。 <p>事前学修：[90 分] 結果を論文形式にまとめる</p> <p>事後学修：[30 分] 分かりやすい量的研究の結果の書き方について考え、まとめる。</p>	同時双方向型	月野木

■ 教科書

なし

■ 参考書、参考資料等

なし

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、最終回のグループ討議後の教員講評を通して行う

■ 他の授業科目との関連

量的研究に必要な研究方法および統計、エクセル操作の基本的知識や技術は修士等で学習し理解していることを前提にして、本科目では発展・実践的な内容を扱います。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50 % 2. 演習・レポート 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

木曜日、昼休み、月野木(424 研究室)、随時電子メール等で質問を受け付ける

■ 受講上の注意事項

2 回目以降の演習は夏期集中(7-9 月)で実施しますので、5-7 回は受講生と教員との日程調整の上実施します。(オリエンテーション時に説明し決定)演習中心ですので主体的な学習姿勢を望みます。

■ その他

HDGS104

看護研究特論Ⅳ

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○川原 由佳里

■ 授業の目的

質的な研究アプローチの基盤となる哲学思想と方法論的展開を知ることを通じて、さまざまな研究方法論のもつ価値観や考え方を批判的に吟味し、質的なアプローチを創造的に構成する力を養う。

■ 到達目標

1. 質的な研究アプローチの基盤となった哲学思想と方法論的展開を知る。
2. 質的研究にまつわる価値や考え方を批判的に吟味できる。
3. 質的な研究アプローチの現在と方向性について考察することができる。

■ 学習の進め方

院生がテーマについてプレゼンテーションした内容に基づき、院生と教員とでディスカッションする。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション	講義	川原
2	実証主義・構造主義	発表・ディスカッション	川原
3	ポスト構造主義・社会構成主義	発表・ディスカッション	川原
4	フェミニズム、批判理論	発表・ディスカッション	川原
5	歴史主義	発表・ディスカッション	川原
6	妥当性と一般性	発表・ディスカッション	川原
7	再現性と信頼性	発表・ディスカッション	川原
8	質的研究を統合するアプローチ	発表・ディスカッション	川原

■ 教科書

使用しない

■ 参考書、参考資料等

Denzin, N.K., & Lincoln, Y. 平山満義監訳(2000/2006)質的研究ハンドブック 1巻、2巻、いずれも初版、北大路書房他、適宜紹介する。

■ フィードバックの仕方

提出されたレポートに記入し、提出より1か月以内に院生室にて返却する。

■ 他の授業科目との関連

主たる質的研究方法論(質的記述的研究、現象学的研究、グラウンデッドセオリーアプローチ、エスノグラフィー、ナラティブアプローチ)についての既習の知識を前提として授業を進める。

■ 成績評価の仕方

授業への取り組み 40%、レポート 60%

■ オフィスアワー・研究室等

開講日の 12:30～13:00 川原研究室 447

■ その他

HDCS151

看護研究特論Ⅴ

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○逸見 功

■ 授業の目的

現象を説明する統計モデルの構成法(モデリング)について学ぶ。
統計ソフトを利用したデータ解析について学ぶ。

■ 到達目標

1. モデリングの方法を説明できる。
2. 統計ソフトを利用して回帰分析ができる。
3. 統計ソフトを利用してロジスティック回帰分析ができる。

■ 学習の進め方

授業の展開：講義とともに、統計ソフトを利用するデータ解析の演習(演習用データセットを用いる)をとおして、モデリングの方法および統計手法について理解を深めていく。

モデルの修正や結果の解釈などについて議論する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	オリエンテーション, モデリング 事前学修：[30 分] 量的研究の事例でどのようなモデルが使用されているかを調べ、A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：[30 分] モデリングの観点から量的研究の事例をクリティークする。	講義	逸見
2	関連と相関に関する解析 事前学修：[30 分] 関連性および相関に関する解析法を調べて、A4 用紙 2 枚にまとめる。 事後学修：[30 分] 授業の演習を振り返り、データ解析の結果をまとめる。	講義, 演習	逸見
3	重回帰分析(1) 事前学修：[30 分] 重回帰分析について調べ、A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：[30 分] 授業の演習を振り返り、データ解析の結果をまとめる。	講義, 演習	逸見
4	重回帰分析(2) 事前学修：[60 分] 重回帰分析を使った量的研究の事例を調べ、クリティークして A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：[30 分] 授業の演習を振り返り、データ解析の結果をまとめる。	講義, 演習	逸見
5	重回帰分析(3) 事前学修：[30 分] 統計ソフトによる重回帰分析のプロセスを考える。 事後学修：[30 分] 授業の演習を振り返り、データ解析の結果をまとめる。	講義, 演習	逸見
6	ロジスティック回帰分析(1) 事前学修：[60 分] ロジスティック回帰分析について調べ、A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：[30 分] 授業の演習を振り返り、データ解析の結果をまとめる。	講義, 演習	逸見
7	ロジスティック回帰分析(2) 事前学修：[30 分] ロジスティック回帰分析を使った量的研究の事例を調べ、クリティークして A4 用紙 1 枚にまとめる。 事後学修：[30 分] 授業の演習を振り返り、データ解析の結果をまとめる。	講義, 演習	逸見
8	ロジスティック回帰分析(3) 事前学修：[30 分] 統計ソフトによるロジスティック回帰分析のプロセスを考える。 事後学修：[30 分] 授業の演習を振り返り、データ解析の結果をまとめる。	講義, 演習	逸見

■ 教科書

逸見功(2018)統計ソフト「R」超入門. 講談社

■ 参考書、参考資料等

Burns,N.,Groves,S. (2013)/黒田・中木・逸見監訳(2015). パーンズ&グローブ 看護研究入門 原著第 7 版. エルゼビア・ジャパン

■ フィードバックの仕方

レポートのフィードバックは、コメントを付したレポートの返却またはメールを通じて行う。返却可能な時間はポータルで連絡するので受け取りにくること。

■ 他の授業科目との関連

看護研究特論Ⅴでは看護研究特論Ⅲの学習内容の理解に基づき、データ解析の演習を行う。

■ 成績評価の仕方

レポート 80% 授業への取り組み 20%

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に教室で質問を受け付ける

■ その他

HDCS152

看護研究特論Ⅵ

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○遠藤 公久

■ 授業の目的

看護現象(ストレス、QOL、職務満足、アイデンティティ、不安や抑うつ等)を量的側面から明確化する 1 つの研究方法として、主に質問紙法を取り上げる。質問紙調査(尺度)の開発に必要な知識と技法を身につけ、内外の論文を精読し、批評ができる。

■ 到達目標

1. 質問紙調査(尺度)の開発に必要な知識と技法が二つについて説明できる。
2. 質問紙法(尺度開発)を用いた論文が採択されるために必要な手順(分析ロジックなど)について説明できる。
3. 実際に質問紙調査(尺度)の開発ができる。

■ 学習の進め方

1. 配布資料をもとに、ディスカッションを行う。
2. 履修者の研究テーマに適合する方法として、質問紙作成や尺度作成などの作成プロセスを理解する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	量的研究方法の基礎的知識：量的研究デザインとプロセス、質問紙法の位置づけ 事前学修：特になし 事後学修：[30 分] 配布資料を読んでおく	講義・討論	遠藤
2	質問紙調査デザインの技法 1 質問項目作成の基礎、データ収集やサンプリング他 事前学修：[15 分] 資料について自分の意見や疑問点をまとめておく 事後学修：[30 分] 配布資料を読んでおく	講義・討論	遠藤
3	質問紙調査デザインの技法 2 質問紙の構成、ワーディング、回答法、コーディング他 事前学修：[15 分] 資料について自分の意見や疑問点をまとめておく 事後学修：[30 分] 配布資料を読んでおく	講義・討論	遠藤
4	尺度開発の技法 心理尺度の開発の実際 信頼性と妥当性 事前学修：[15 分] 資料について自分の意見や疑問点をまとめておく 事後学修：[30 分] 配布資料を読んでおく	講義・討論	遠藤
5	質問紙調査を用いた(看護)論文のクリティーク 1 事前学修：[15 分] 資料について自分の意見や疑問点をまとめておく 事後学修：[30 分] 配布資料を読んでおく	講義・討論	遠藤
6	心理尺度を用いた(看護)論文のクリティーク 2 事前学修：[15 分] 資料について自分の意見や疑問点をまとめておく 事後学修：[30 分] 配布資料を読んでおく	講義・討論	遠藤
7	質問紙調査あるいは尺度開発の実際(自分の研究にどのように生かすか) 事前学修：[15 分] 資料について自分の意見や疑問点をまとめておく 事後学修：[30 分] 配布資料を読んでおく	講義・討論	遠藤
8	まとめ 事前学修：[15 分] 資料について自分の意見や疑問点をまとめておく		遠藤

■ 教科書

『看護を測る』(朝倉書店)柳井晴夫・井部俊子編著

■ 参考書、参考資料等

『質問紙デザインの技法』(ナカニシヤ出版) 鈴木淳子著

■ 他の授業科目との関連

看護研究特論Ⅴとペアでの受講が望ましい。

■ 成績評価の仕方

1. プレゼンテーション 40 %
2. 討議への参加度 60 %

■ オフィスアワー・研究室等

木曜日 12:30-13:00 遠藤(404 研究室) k-endo@redcross.ac.jp

■ その他
HDCS153

研究計画書セミナー

単位：1 単位 履修年次：1 年次 開講期：後期

○筒井 真優美

■ 授業の目的

研究計画書の審査基準を確認し、研究計画書を作成する。また、他者の研究計画書の発表を聞き討議する。

■ 到達目標

1. 研究計画書の内容を理解し、作成できる。
2. 他者の研究計画書の推敲に寄与できる。
3. 博士論文までの計画を立案できる。

■ 学習の進め方

課題について、資料を作成し討議する。

【事前学習】

1. 本学博士後期課程のディプロマポリシーに目を通してから授業に臨む。
2. 研究計画書に関する内容を各自で確認する。
3. 研究計画書の審査基準、学位論文審査基準を確認する。

【事後学習】 授業での討論内容を踏まえ、自己の課題を明確化する。

■ スケジュール：学習内容・方法・担当教員

No	内容	形式	教員
1	研究とは何か(オリエンテーションを含む)	講義	筒井
2	研究計画書とは何か、研究計画書審査基準	講義	筒井
3	研究計画書の作成、プレゼンテーション、クリティーク(1)	発表・討論	筒井
4	研究計画書の作成、プレゼンテーション、クリティーク(2)	発表・討論	筒井
5	研究計画書の作成、プレゼンテーション、クリティーク(3)	発表・討論	筒井
6	研究計画書の作成、プレゼンテーション、クリティーク(4)	発表・討論	筒井
7	研究計画書の作成、プレゼンテーション、クリティーク(5)	発表・討論	筒井
8	研究計画書から博士論文へ	講義・発表・討論	筒井

■ 教科書

特に用いない。

■ 参考書、参考資料等

授業時間に参考文献の一覧を提示する。

■ 他の授業科目との関連

看護科学特論Ⅰを基に展開される。

■ 成績評価の仕方

1. 授業への取り組み 50 %
2. 課題のプレゼンテーション 50 %

■ オフィスアワー・研究室等

授業終了後に教室で質問を受け付ける

メールアドレス：tsutsui@redcross.ac.jp

■ その他

HDCS154

科目一覧

★基礎看護学特講Ⅰ★(○川原 由佳里、細野 知子)	1
★基礎看護学特講Ⅱ★(○高田 早苗)	3
★基礎看護学特講Ⅲ★(○川原 由佳里、細野 知子)	5
★基礎看護学特講Ⅳ★(○川原 由佳里、細野 知子、石原 美和)	8
★基礎看護学特別研究Ⅰ★(○川原 由佳里、細野 知子)	9
★基礎看護学特別研究Ⅱ★(○川原 由佳里、細野 知子)	11
★基礎看護学特別研究Ⅲ★(○川原 由佳里、細野 知子)	13
★基礎看護学実習Ⅰ★(○川原 由佳里、細野 知子)	15
★基礎看護学実習Ⅱ★(○川原 由佳里、細野 知子)	16
★がん看護学特講Ⅰ※ CNS 科目★(○守田 美奈子、樋口 佳栄、高木 聡、熊坂 利夫、中根 実、古畑 善章、納富 理絵)	17
★がん看護学特講Ⅱ※ CNS 科目★(○守田 美奈子、樋口 佳栄、大西 秀樹、濱口 恵子)	19
★がん看護学特講Ⅲ※ CNS 科目★(○吉田 みつ子、守田 美奈子)	21
★がん看護学特講Ⅳ※ CNS 科目★(○吉田 みつ子、守田 美奈子、遠藤 公久)	24
★がん看護学特講Ⅴ※ CNS 科目★(○吉田 みつ子、茅根 義和、小笠原 利枝)	27
★がん看護学演習Ⅰ※ CNS 科目★(○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄、嶋中 ますみ)	29
★がん看護学演習Ⅱ※ CNS 科目★(○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄、渡邊 眞理)	33
★がん看護学特別研究Ⅰ★(○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄)	37
★がん看護学特別研究Ⅱ★(○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄)	41
★がん看護学特別研究Ⅲ★(○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄)	44
★がん看護学実習Ⅰ※ CNS 科目★(○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄)	47
★がん看護学実習Ⅱ※ CNS 科目★(○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄)	49
★がん看護学実習Ⅲ※ CNS 科目★(○吉田 みつ子、守田 美奈子、樋口 佳栄)	50
★小児看護学特講Ⅰ※ CNS 科目★(○江本 リナ)	52
★小児看護学特講Ⅱ※ CNS 科目★(○江本 リナ、山内 朋子)	54
★小児看護学特講Ⅲ※ CNS 科目★(○江本 リナ、山内 朋子、間所 利恵)	56
★小児看護学特講Ⅳ※ CNS 科目★(○江本 リナ、山内 朋子)	58
★小児看護学演習Ⅰ※ CNS 科目★(○江本 リナ、山内 朋子、今井 庸子、小沢 浩、尾高 大輔、間所 利恵)	60
★小児看護学演習Ⅱ※ CNS 科目★(○江本 リナ、山内 朋子)	62
★小児看護学演習Ⅲ※ CNS 科目★(○江本 リナ、山内 朋子)	64
★小児看護学特別研究Ⅰ★(○江本 リナ、山内 朋子)	66
★小児看護学特別研究Ⅱ★(○江本 リナ、山内 朋子)	68
★小児看護学特別研究Ⅲ★(○江本 リナ、山内 朋子)	70
★小児看護学実習Ⅰ※ CNS 科目★(○江本 リナ、山内 朋子)	72
★小児看護学実習Ⅱ※ CNS 科目★(○江本 リナ、山内 朋子)	73
★小児看護学実習Ⅲ※ CNS 科目★(○江本 リナ、山内 朋子)	74
★成人看護学特講Ⅰ★(○本庄 恵子)	75
★成人看護学特講Ⅱ★(○本庄 恵子、三浦 英恵)	77
★成人看護学演習Ⅰ★(○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美、住谷 ゆかり)	79
★成人看護学演習Ⅱ★(○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美、住谷 ゆかり)	81
★クリティカルケア看護学特講Ⅰ※ CNS 科目★(○三浦 英恵、岡田 彩子、本庄 恵子、住谷 ゆかり)	83
★クリティカルケア看護学特講Ⅱ※ CNS 科目★(○三浦 英恵、岡田 彩子、住谷 ゆかり、高橋 知彦、中島 千春、比田 井 理恵、藤野 智子)	85
★クリティカルケア看護学特講Ⅲ※ CNS 科目★(○三浦 英恵、岡田 彩子、住谷 ゆかり)	87
★クリティカルケア看護学特講Ⅳ※ CNS 科目★(○三浦 英恵、岡田 彩子、住谷 ゆかり)	89
★クリティカルケア看護学特講Ⅴ※ CNS 科目★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり、伊地 俊介、齋藤 豊、林 宗博)	91
★クリティカルケア看護学演習Ⅰ※ CNS 科目★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり、関根 光枝)	93
★クリティカルケア看護学演習Ⅱ※ CNS 科目★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり)	95
★クリティカルケア看護学演習Ⅲ※ CNS 科目★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり、辻 守栄、手島 正美)	97
★クリティカルケア看護学特別研究Ⅰ★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり)	99
★クリティカルケア看護学特別研究Ⅱ★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり)	101
★クリティカルケア看護学特別研究Ⅲ★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり)	103
★クリティカルケア看護学実習Ⅰ※ CNS 科目★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり)	105
★クリティカルケア看護学実習Ⅱ-1※ CNS 科目★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり)	106
★クリティカルケア看護学実習Ⅱ-2※ CNS 科目★(○三浦 英恵、住谷 ゆかり)	107

★クリティカルケア看護学実習Ⅲ※ CNS 科目★ (○三浦 英恵、住谷 ゆかり)	108
★慢性看護学特講Ⅰ※ CNS 科目★ (○本庄 恵子、田中 孝美)	110
★慢性看護学特講Ⅱ※ CNS 科目★ (○本庄 恵子、田中 孝美、伊地 俊介、日吉 徹、中島 千春、宗村 文江、和田 由樹)	112
★慢性看護学特講Ⅲ※ CNS 科目★ (○田中 孝美、本庄 恵子、高津 咲恵子)	114
★慢性看護学特講Ⅳ※ CNS 科目★ (○本庄 恵子、田中 孝美、関根 光枝)	116
★慢性看護学特講Ⅴ※ CNS 科目★ (○田中 孝美、本庄 恵子、下村 晃子)	118
★慢性看護学演習Ⅰ※ CNS 科目★ (○本庄 恵子、田中 孝美、福田 倫明、下村 晃子、宗村 文江、和田 由樹)	120
★慢性看護学演習Ⅱ※ CNS 科目★ (○本庄 恵子、田中 孝美、石橋 由孝、伊藤 麻紀、下村 晃子、宗村 文江)	122
★慢性看護学特別研究Ⅰ★ (○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵)	125
★慢性看護学特別研究Ⅱ★ (○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵)	127
★慢性看護学特別研究Ⅲ★ (○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵)	129
★慢性看護学実習Ⅰ※ CNS 科目★ (○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵)	131
★慢性看護学実習Ⅱ※ CNS 科目★ (○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵)	132
★慢性看護学実習Ⅲ※ CNS 科目★ (○本庄 恵子、田中 孝美、河田 照絵)	134
★老年看護学特講Ⅰ※ CNS 科目★ (○坂口 千鶴)	136
★老年看護学特講Ⅱ※ CNS 科目★ (○坂口 千鶴)	138
★老年看護学特講Ⅲ※ CNS 科目★ (○千葉 京子)	140
★老年看護学特講Ⅳ※ CNS 科目★ (○坂口 千鶴)	142
★老年看護学演習Ⅰ※ CNS 科目★ (○坂口 千鶴、千葉 京子)	144
★老年看護学演習Ⅱ※ CNS 科目★ (○坂口 千鶴、千葉 京子)	146
★老年看護学演習Ⅲ※ CNS 科目★ (○坂口 千鶴、千葉 京子、岡部 慎吾、小野 啓資、小杉 雅英、五関 善成、山元 智穂、和田 奈美子)	148
★老年看護学特別研究Ⅰ★ (○坂口 千鶴、千葉 京子)	150
★老年看護学特別研究Ⅱ★ (○坂口 千鶴、千葉 京子)	152
★老年看護学特別研究Ⅲ★ (○坂口 千鶴、千葉 京子)	154
★老年看護学実習Ⅰ※ CNS 科目★ (○坂口 千鶴、千葉 京子)	156
★老年看護学実習Ⅱ※ CNS 科目★ (○坂口 千鶴、千葉 京子)	158
★精神保健看護学特講Ⅰ※ CNS 科目★ (○小宮 敬子)	160
★精神保健看護学特講Ⅱ※ CNS 科目★ (○堀井 湖浪、岡島 美朗)	162
★精神保健看護学特講Ⅲ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実)	164
★精神保健看護学特講Ⅳ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実)	166
★精神保健看護学演習Ⅰ※ CNS 科目★ (○小宮 敬子、鷹野 朋実、堀井 湖浪、古城門 靖子)	168
★精神保健看護学演習Ⅱ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子、大内 衆衛、田中 直樹、渡辺 純一)	170
★精神保健看護学演習Ⅲ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子、下平 美智子)	172
★精神保健看護学演習Ⅳ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子)	174
★精神保健看護学特別研究Ⅰ★ (○鷹野 朋実、小宮 敬子)	176
★精神保健看護学特別研究Ⅱ★ (○小宮 敬子、鷹野 朋実)	178
★精神保健看護学特別研究Ⅲ★ (○小宮 敬子、鷹野 朋実)	180
★精神保健看護学実習Ⅰ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪)	182
★精神保健看護学実習Ⅱ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実、小宮 敬子、古城門 靖子)	183
★精神保健看護学実習Ⅲ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子)	184
★精神保健看護学実習Ⅳ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子)	186
★精神保健看護学実習Ⅴ※ CNS 科目★ (○鷹野 朋実、小宮 敬子、堀井 湖浪、古城門 靖子)	188
★地域・在宅看護学特講Ⅰ※ CNS 科目★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ、中島 朋子)	189
★地域・在宅看護学特講Ⅱ※ CNS 科目★ (○井口 理、石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ、関根 光枝)	191
★地域・在宅看護学特講Ⅲ※ CNS 科目★ (○吉川 悦子、井口 理、石田 千絵、月野木 ルミ、秋山 正子)	193
★地域・在宅看護学特講Ⅳ※ CNS 科目★ (○井口 理、石田 千絵、月野木 ルミ、吉川 悦子、中島 朋子、宮崎 和加子)	195
★地域・在宅看護学特講Ⅴ★ (○月野木 ルミ、井口 理、石田 千絵、吉川 悦子)	197
★地域・在宅看護学演習Ⅰ※ CNS 科目★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ、山口 潔)	199
★地域・在宅看護学演習Ⅱ※ CNS 科目★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ、秋山 正子)	201
★地域・在宅看護学演習Ⅲ※ CNS 科目★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ、鈴木 央)	203
★地域・在宅看護学演習Ⅳ★ (○井口 理、石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ、秋山 正子、宮崎 和加子)	205
★地域・在宅看護学特別研究Ⅰ★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ)	207
★地域・在宅看護学特別研究Ⅱ★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ)	209
★地域・在宅看護学特別研究Ⅲ★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ)	211
★地域・在宅看護学実習Ⅰ※ CNS 科目★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ)	213
★地域・在宅看護学実習Ⅱ※ CNS 科目★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ)	214

★地域：在宅看護学実習Ⅲ-1 ※ CNS 科目★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ)	215
★地域：在宅看護学実習Ⅲ-2 ※ CNS 科目★ (○石田 千絵、井口 理、吉川 悦子、月野木 ルミ)	216
★看護教育学特講Ⅰ★ (○佐々木 幾美)	217
★看護教育学特講Ⅱ★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	219
★看護教育学特講Ⅲ★ (○西田 朋子)	221
★看護教育学特講Ⅳ★ (○佐々木 幾美)	223
★看護教育学特講Ⅴ★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	225
★看護教育学特講Ⅵ★ (○佐々木 幾美)	227
★看護教育学演習★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	229
★看護教育学特別研究Ⅰ★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	231
★看護教育学特別研究Ⅱ★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	233
★看護教育学特別研究Ⅲ★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	235
★看護教育学実習Ⅰ★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	237
★看護教育学実習Ⅱ★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	238
★看護管理学特講Ⅰ★ (○安部 陽子)	239
★看護管理学特講Ⅱ★ (○安部 陽子)	241
★看護管理学特講Ⅲ★ (○古川 祐子)	243
★看護管理学特講Ⅳ★ (○古川 祐子、阪口 博政、渡邊 亮)	245
★医療経済学★ (○古川 祐子)	247
★病院管理論★ (○古川 祐子、寛 淳夫、加藤 明子、山本 康弘)	249
★看護管理学演習★ (○安部 陽子、古川 祐子)	251
★看護管理学特別研究Ⅰ★ (○安部 陽子、古川 祐子)	253
★看護管理学特別研究Ⅱ★ (○安部 陽子、古川 祐子)	255
★看護管理学特別研究Ⅲ★ (○安部 陽子、古川 祐子)	257
★看護管理学実習Ⅰ★ (○安部 陽子、古川 祐子)	259
★看護管理学実習Ⅱ★ (○安部 陽子、古川 祐子)	260
★国際看護学特講Ⅰ★ (○野口 眞貴子、内木 美恵、織方 愛)	261
★国際看護学特講Ⅱ★ (○野口 眞貴子、内木 美恵、織方 愛)	263
★国際看護学特講Ⅲ★ (○野口 眞貴子、内木 美恵、織方 愛)	265
★国際看護学特講Ⅳ★ (○野口 眞貴子、内木 美恵、織方 愛)	267
★災害看護学特講Ⅰ ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛)	269
★災害看護学特講Ⅱ ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛、河嶋 譲)	271
★災害看護学特講Ⅲ ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、菅野 太郎、舍利倉 幸香)	273
★災害看護学特講Ⅳ ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、角田 敦彦、永井 幸寿、松本 賢芳、舍利倉 幸香)	275
★災害看護学特講Ⅴ ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、角田 敦彦、織方 愛、山澤 将人、舍利倉 幸香)	277
★国際：災害看護学演習Ⅰ ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛)	279
★国際：災害看護学演習Ⅱ ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛)	282
★国際：災害看護学特別研究Ⅰ★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛)	285
★国際：災害看護学特別研究Ⅱ★ (○野口 眞貴子、内木 美恵)	288
★国際：災害看護学特別研究Ⅲ★ (○野口 眞貴子、内木 美恵)	291
★国際：災害看護学実習Ⅰ-1 ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子)	294
★国際：災害看護学実習Ⅰ-2 ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子)	295
★国際：災害看護学実習Ⅱ-1 ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛)	297
★国際：災害看護学実習Ⅱ-2 ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子)	299
★国際：災害看護学実習Ⅲ-1 ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子)	300
★国際：災害看護学実習Ⅲ-2 ※ CNS 科目★ (○内木 美恵、野口 眞貴子、織方 愛)	301
★英語講読Ⅰ★ (○川崎 修一)	302
★英語講読Ⅱ★ (○川崎 修一)	304
★人間総合講座★ (○井上 明宏、遠藤 公久、川崎 修一、川崎 洋平、渋谷 真樹、角田 敦彦)	306
★看護科学特講★ (○筒井 真優美)	309
★情報科学特講★ (○川崎 洋平)	311
★赤十字概論Ⅱ (国際人道法含)★ (○角田 敦彦)	313
★教育学概論★ (○渋谷 真樹)	315
★学習心理学★ (○遠藤 公久)	317
★学生理解★ (○遠藤 公久)	319
★医療と法★ (○和泉澤 千恵)	321
★看護教育論 ※ CNS 科目★ (○西田 朋子)	323
★看護管理論 ※ CNS 科目★ (○古川 祐子)	325

★看護理論※ CNS 科目★ (○川原 由佳里)	327
★看護研究※ CNS 科目★ (○佐々木 幾美、本庄 恵子、江本 リナ)	329
★コンサルテーション論※ CNS 科目★ (○古城門 靖子、鷹野 朋美、赤沢 雪路、腰原 麻衣子、曾根原 純子、谷口 美穂)	331
★看護倫理※ CNS 科目★ (○吉田 みつ子)	333
★看護政策論※ CNS 科目★ (○安部 陽子)	335
★フィジカルアセスメント※ CNS 科目★ (○田中 孝美、三浦 英恵、千葉 京子、内木 美恵、山内 朋子、織方 愛、堀井 湖浪)	337
★病態生理学※ CNS 科目★ (○井上 明宏、石橋 由孝、伊地 俊介、伊藤 英也、伊藤 由紀子、猪俣 稔、鈴木 憲史、日吉 徹、福田 倫明、宮内 彰人、三浦 英恵、坂口 千鶴、田中 孝美、山内 朋子)	339
★臨床薬理学※ CNS 科目★ (○石田 耕太、植松 和子、坂口 千鶴、山内 朋子、古城門 靖子)	341
★ウィメンズ・ヘルス・プロモーション概論★ (○井村 真澄)	343
★ウィメンズ・ヘルス・プロモーション研究論★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓)	345
★ウィメンズ・ヘルス・プロモーション活動論★ (○井村 真澄)	347
★ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習Ⅰ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓)	349
★ウィメンズ・ヘルス・プロモーション演習Ⅱ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓)	351
★ウィメンズ・ヘルス・プロモーション実習Ⅰ★ (○井村 真澄)	353
★ウィメンズ・ヘルス・プロモーション実習Ⅱ★ (○井村 真澄)	354
★国際保健助産論Ⅰ★ (○新田 真弓)	355
★国際保健助産論Ⅱ★ (○齋藤 英子)	357
★国際保健助産論Ⅲ★ (○井村 真澄)	359
★国際保健助産演習Ⅰ★ (○井村 真澄、塚本 恵弥)	361
★国際保健助産演習Ⅱ★ (○井村 真澄、塚本 恵弥)	364
★国際保健助産実習★ (○井村 真澄、塚本 恵弥)	366
★リプロダクティブ・ヘルスケア演習Ⅰ★ (○井村 真澄、新田 真弓、齋藤 英子、東 園子、加藤 千穂)	368
★リプロダクティブ・ヘルスケア演習Ⅱ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、加藤 千穂)	371
★リプロダクティブ・ヘルスケア実習Ⅰ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、加藤 千穂)	374
★リプロダクティブ・ヘルスケア実習Ⅱ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、加藤 千穂)	375
★赤十字概論Ⅱ(国際人道法含)★ (○角田 敦彦)	376
★看護研究特講★ (○佐々木 幾美、本庄 恵子、江本 リナ)	378
★人間総合講座★ (○井上 明宏、遠藤 公久、川崎 修一、川崎 洋平、渋谷 真樹、角田 敦彦)	380
★発達と家族の理論★ (○江本 リナ)	383
★看護理論★ (○川原 由佳里)	385
★看護政策論★ (○安部 陽子)	387
★コンサルテーション論★ (○古城門 靖子、小宮 敬子、鷹野 朋美、堀井 湖浪、赤沢 雪路、曾根原 純子、腰原 麻衣子、谷口 美穂)	389
★基礎助産学特講Ⅰ★ (○井村 真澄、納富 理絵)	391
★基礎助産学特講Ⅱ-1★ (○宮内 彰人)	393
★基礎助産学特講Ⅱ-2★ (○小林 丈人)	395
★基礎助産学特講Ⅲ-1★ (○笠井 靖代)	397
★基礎助産学特講Ⅲ-2★ (○中尾 厚)	399
★実践助産学演習Ⅰ★ (○東 園子、加藤 千穂、塚本 恵弥)	401
★実践助産学演習Ⅱ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、東 園子、千葉 真希、塚本 恵弥)	404
★実践助産学演習Ⅲ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、東 園子、千葉 真希、塚本 恵弥、中根 直子)	408
★実践助産学演習Ⅳ★ (○齋藤 英子、東 園子、加藤 千穂、塚本 恵弥、神谷 桂、林 雅代、廣瀬 孝子、皆川 沙織)	411
★応用助産学特講Ⅰ★ (○齋藤 英子)	414
★応用助産学特講Ⅱ★ (○東 園子、安部 陽子)	416
★助産学実習Ⅰ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、千葉 真希、加藤 千穂、塚本 弥恵)	418
★助産学実習Ⅱ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓、東 園子、千葉 真希、加藤 千穂、塚本 弥恵)	420
★助産学実習Ⅲ★ (○井村 真澄、新田 真弓、齋藤 英子、東 園子、加藤 千穂、千葉 真希、塚本 弥恵)	421
★助産学実習Ⅳ★ (○井村 真澄、新田 真弓、齋藤 英子、東 園子、千葉 真希、加藤 千穂、塚本 弥恵)	423
★助産学実習Ⅴ★ (○井村 真澄、齋藤 英子、塚本 弥恵)	424
★基礎看護学特論(A)★ (○川原 由佳里)	425
★基礎看護学特論(B)★ (○守田 美奈子、吉田 みつ子)	427
★基礎看護学特別研究-1(A)★ (○川原 由佳里、高田 早苗)	429
★基礎看護学特別研究-1(B)★ (○守田 美奈子、吉田 みつ子)	431
★基礎看護学特別研究-2(A)★ (○川原 由佳里、高田 早苗)	434
★基礎看護学特別研究-2(B)★ (○守田 美奈子、吉田 みつ子)	436
★基礎看護学特別研究-3(A)★ (○川原 由佳里、高田 早苗)	439

★基礎看護学特別研究-3 (B)★ (○守田 美奈子、吉田 みつ子)	441
★母性看護学特論★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓)	444
★母性看護学特別研究-1★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓)	445
★母性看護学特別研究-2★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓)	447
★母性看護学特別研究-3★ (○井村 真澄、齋藤 英子、新田 真弓)	449
★小児看護学特論★ (○江本 リナ)	451
★小児看護学特別研究-1★ (○江本 リナ)	452
★小児看護学特別研究-2★ (○江本 リナ)	454
★小児看護学特別研究-3★ (○江本 リナ)	456
★成人看護学特論★ (○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美)	458
★成人看護学特別研究-1★ (○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美)	460
★成人看護学特別研究-2★ (○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美)	462
★成人看護学特別研究-3★ (○本庄 恵子、三浦 英恵、田中 孝美)	464
★老年看護学特論★ (○坂口 千鶴)	466
★老年看護学特別研究-1★ (○坂口 千鶴、太田 喜久子、千葉 京子)	467
★老年看護学特別研究-2★ (○坂口 千鶴、太田 喜久子、千葉 京子)	469
★老年看護学特別研究-3★ (○坂口 千鶴、太田 喜久子、千葉 京子)	471
★精神保健看護学特論★ (○小宮 敬子)	473
★精神保健看護学特別研究-1★ (○小宮 敬子、鷹野 朋美)	474
★精神保健看護学特別研究-2★ (○小宮 敬子、鷹野 朋美)	476
★精神保健看護学特別研究-3★ (○小宮 敬子、鷹野 朋美)	478
★地域看護学特論★ (○石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ)	480
★地域看護学特別研究-1★ (○石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ)	482
★地域看護学特別研究-2★ (○石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ)	485
★地域看護学特別研究-3★ (○石田 千絵、吉川 悦子、月野木 ルミ)	487
★国際：災害看護学特論★ (○野口 眞貴子、内木 美恵)	489
★国際：災害看護学特別研究-1★ (○野口 眞貴子、内木 美恵)	491
★国際：災害看護学特別研究-2★ (○野口 眞貴子、内木 美恵)	494
★国際：災害看護学特別研究-3★ (○野口 眞貴子、内木 美恵)	497
★看護教育学特論★ (○佐々木 幾美)	500
★看護教育学特別研究-1★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	502
★看護教育学特別研究-2★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	504
★看護教育学特別研究-3★ (○佐々木 幾美、西田 朋子)	506
★看護管理学特論★ (○安部 陽子)	508
★看護管理学特別研究-1★ (○安部 陽子)	509
★看護管理学特別研究-2★ (○安部 陽子)	511
★看護管理学特別研究-3★ (○安部 陽子)	513
★看護科学特論Ⅰ★ (○筒井 真優美)	515
★看護科学特論Ⅱ★ (○川原 由佳里)	516
★看護科学特論Ⅲ★ (○安部 陽子)	518
★看護研究特論Ⅰ★ (○佐々木 幾美、本庄 恵子、江本 リナ、太田 喜久子)	520
★看護研究特論Ⅱ★ (○佐々木 幾美、本庄 恵子、江本 リナ、太田 喜久子)	522
★看護研究特論Ⅲ★ (○月野木 ルミ)	524
★看護研究特論Ⅳ★ (○川原 由佳里)	526
★看護研究特論Ⅴ★ (○逸見 功)	527
★看護研究特論Ⅵ★ (○遠藤 公久)	529
★研究計画書セミナー★ (○筒井 真優美)	531